独占! ミルコ・クロコップ衝撃の爆弾発言!!

紙のプロレス RADICAL

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

64
2003

超ド級
『PRIDEミドル級GP』情報満載!
灼熱の大増量176ページ!!

3度目の正直なるか?
いざ、シウバ戦へ!!
桜庭和志

"UWF" vs
"柔道金メダリスト"
決戦直前Wインタビュー
田村潔司
vs
吉田秀彦

ヴァンダレイ・シウバ
クイントン"ランペイジ"ジャクソン
ヒカルド・アローナ
アリスター・オーフレイム
チャック・リデル&ダナ・ホワイト

桜庭! 田村!
決勝ラウンドまで
上がってこいや!!

前代未聞のスキャンダル発生!!
"OH祭り"の舞台裏を徹底検証!!
&全戦完全密着!!

アングル、レスナー、
ミステリオ登場で
WWE日本大会は
またも大爆発!

真夏の胸騒ぎ特別企画!!
スマックガール、ビキニでGO!!

ミスター高橋の盟友が語る
『ワールド・プロレスリング』の真実!!

紙のプロレス WANIMAGAZINE MOOK230 RADICAL
2003 NO. 64
桜庭! 田村! 上がってこいや!!
発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体857円+税

Kazushi Sakuraba

Wanderlei Silva

Hidehiko Yoshida

Quinton"Rampage" Jackson

Ricardo Arona

Alistair Overeem

Chuck Liddell

Kiyoshi Tamura

Who is Real Man?

8.10
PRIDE
MIDDLE
WEIGHT
GRAND
PRIX

シウバに勝って本当の男の中の男になります！

「なります」っていうか「なりたいなぁ（希望）」

桜庭和志

「絶対にギブアップと言わせてやる!!」

サク、3度目の正直なるか!? 8・10いざシウバ戦へ

桜庭和志が、3度目のヴァンダレイ・シウバ戦に挑む!!　01年の3.25『PRIDE.13』、たった98秒、衝撃の“桜散る”。02年の11.3『PRIDE.17』では、無念のドクター・ストップ。そして今、ミドル級GP第1回戦というには、あまりにも重すぎる“3度目の正直”に賭け、サクが“『PRIDE』ミドル級チャンピオン”シウバへ挑戦状を叩きつけた!!　ヤケクソか、それとも大マジのリベンジなのか!?　誕生日を迎えたばかりのサクに、現在の心境を直撃した!!

聞き手／山口日昇
本文構成／八木賢太郎
撮影／森“モーリー”鷹博
designed by hisa (Two Three)

みんなヘビー級じゃ勝てないからミドルに出るんじゃないですか（笑）

Kazushi Sakuraba

――ところで、桜庭さんは、夏に試合するときは、いつも体調崩すじゃないですか。

桜庭　はい。練習しすぎで疲れちゃうんですよ。

――ということは、いま疲れてますね？

桜庭　……疲れてます（笑）。

――練習疲れですよね？

桜庭　まあ、練習疲れもありますけど、歳食って疲れが取れないんですよ（笑）。

――ガハハハ！　縁側のおじいちゃんか。

桜庭　ほ、ホントですよ、疲れが取れない。1日練習したら、次の日はボーッとしてますね。

――練習してるうちに回復したりしないんですか？

桜庭　しないです。だから、低酸素テントを使うと回復するって聞いて、買いました。

――なに？　テーサント？

桜庭　低酸素テント！（笑）。蚊帳みたいので、家のベッドにくくるんですけど。おかげで、よく眠れて、疲れが少し取れるようになって。調子はいいですね。

――普段となにがどう違うんですか？

桜庭　蚊帳の中に低酸素を送り込むんですよ。そうすると……なんだっけ？……忘れました。

――そもそも低酸素ってなに？

桜庭　……薄い酸素（笑）。

――そりゃそうです。

桜庭　とにかく、テントの中の酸素を薄くするんですよ。そうすると……なんだっけ？

――もう、いいです（笑）。

桜庭　とりあえず、血流がよくなるみたいですよ。たぶん、空気が薄いからどんどん酸素を運ぼうとして、体の中で回るんじゃないですか？

――なるほど。それは理にかなってるなぁ。

桜庭　たぶんですよ（笑）。

――じゃあ普段の生活も調子いいんですか？

桜庭　でも、勃ちが悪くなった（笑）。

――誰がそんな下ネタ言えって言ったんですか！　グランプリ前なんだから（笑）。怪我は？

桜庭　まあ、前に怪我した膝が、ちょっと心配な部分はありますけど。大丈夫だと思います。

――しかし、デカくなりましたよね。

桜庭　さっき話したじゃないですか、それ。

――いや、さっきはテープを回す前だったから（笑）。もう一回、ちゃんと話してください。

桜庭　え～っと、なんて言いましたっけ（笑）。去年の年末ぐらいから、怪我をして……。

――ウェイト（トレーニング）ばっかりしてて。

桜庭　そうそう。ウェイトばっかりしてたんだけど、ご飯はいつもの量食べてたんで、それで太って。いま90キロぐらいです。

――90キロ！　後ろから見たら、"プロレスラー"って感じですよ、なんとなく（笑）。

桜庭　モコッとした感じ？

――そう、モコモコッとした感じ。ミドル級グランプリにエントリーしてもおかしくないぐらいにはなりましたよ（笑）。

桜庭　でも、ミドル級グランプリっていっても、ボクと田村さんぐらいじゃないですか、90キロない人って。あれ、ヘビー級トーナメントに名前変えた方がいいと思いますよ（笑）。

――たしかに、クイントン（・"ランペイジ"・ジャクソン）なんか前回104キロですからね。

桜庭　みんな、ヘビー級じゃ勝てないからって、落としてくるじゃないんですか？（笑）

――ガハハハハハ！

桜庭　ボクには、そう見えてしょうがないんですよ。あ、でも、ヘビー級の人にも勝ってるのか。

――最近のクイントンの試合とか見てると、ホント、よく桜庭さんは勝ったなぁって思いますよ。

桜庭　正直言って、ここだけの話、彼は関節技をなにも知らないですからね。

――「ここだけの話」じゃなくて、みんな知ってますよ、それ（笑）。それを補って余りあるパワーがあるから。

桜庭　ボクがやったときなんて、思いっきりフェイントにひっかかってたし（笑）。こないだミーシャとやったときも、腕を取られたりすると、結構顔が焦ってたじゃないですか。だから、寝たらやられちゃうでしょうね、たぶん。

――寝かしたら勝ち？

桜庭　はい（ニコニコ）。

――おお、低酸素のお陰で力強い！　大阪に行ってたみたいですけど、どんな練習をしてたんですか？

桜庭　え～っと、大阪に時計を買いに行ってました。

――は？

桜庭　シウバに勝ったつもりで、自分へのご褒美として大阪で時計買っちゃいました（笑）。

――で、どんなトレーニングなんですか？

桜庭　ジムでサーキットトレーニングみたいのやったり、あとは山に行ってマウンテンバイクで登ったり、ダッシュしたりとか。

――じゃあホントに山篭り特訓だったんですね。

桜庭　山篭りではないですけど……。

――山篭りにしときましょうよ、ここは（笑）。

桜庭　だって、ホテルに泊まってたし。

――ガハハハ、ホテル篭り（笑）。

桜庭　ちゃんと普通のホテルに泊まってま

6月25日に『PRIDEミドル級GP』出場選手発表会見に出席したサクは、「1回戦はXとやりたい」と笑わせたが、結果はシウバに。「X＝田村」との対決もゼヒ見たいが……。

した。

——マウンテンバイクのトレーニングって、なにをやるんですか？

桜庭　山登るんですよ、平坦なところがない道を、ずうーっと30～40分登ってるんですよ。

——それは、なんの練習なんですか？

桜庭　……………。

——ガハハハハ、わかんないでやってんのか！

桜庭　下半身の……。

——ホント？

桜庭　だって、足、張りましたもん。

——まったく説得力がない気がする（笑）。そもそも、なんで大阪に行ったんですか？

桜庭　とりあえず、高田さんに「気分転換とかそういうのもあるから、行ってこい。練習に集中してこい」って言われて。

——1ヶ月ぐらい行ってたんですよね？

桜庭　3週間。で、向こうの先生にも「今回の目的は？」みたいな感じで聞かれたので、「いや～、高田さんに行けって言われて……」って（笑）。

——ガハハハハハ！　小学生じゃないんだから。ボクは、体重増やしてもスピードが落ちないような練習をしてるのかと思ってたんですけど。

桜庭　はぁ～ん。

——はぁ～ん、って（笑）。練習してきたのは、あなたです。

桜庭　まあ、スタミナはつきましたね。

——自分で「体重が増えても、スピードが落ちた感じはしない」って言ってましたよね。

桜庭　はい。そんなに変わらないですね。

——じゃあ、今回は万全じゃないですか。

桜庭　…………。

——そう言われるのは嫌？（笑）

桜庭　だって、パンチの問題とかもあるし。

——そこを今日は聞きたいんです。3月のニーノ戦後、ウチは初めてのインタビューなんですけど、あの後、焦りや不安みたいなものはありました？

桜庭　ありましたよ、それは。「あ、やっちゃった～。負けちゃった～」って。ボク、あのとき、リングの上で意識のない中、「もういいよ～、これで辞める」とか言ってたらしいんですよ。

——えっ？　辞める？

桜庭　ボクはパンチもらってやられたと思ったんですね。だから、試合自体は調子よくいってたのに、なんかパンチとかもらってやられちゃったってことは、もう俺は歳でダメなんだな、と思ったらしくて。「もういいや。俺、ダメだ。『PRIDE』やめた」とか、ブツブツ言いながら控室に帰ってったらしいんですよ（笑）。

——それは覚えてない？

桜庭　はい。そういう気持ちにはなったけど。

——問題のシーンは、控室に戻って見たんですか？

桜庭　まわりから聞いたんですよ。「頭突きが入ったみたいですよ」って。「え～っ!?、なんだよ～！」って言いながら、三服してました（笑）。

——ガハハハハハ！　三服！

桜庭　三服したら、もう冷めましたね。

——ああ、「しょうがないや」と。

桜庭　うん。もういいやと。もう、「再戦やれ」とか言われても、やる気も起きないし。

——あの試合は、負けたことも確かにショックなんですけど、一番残念なのは、押してたじゃないですか。あのままいったら、きっとあの後に桜庭劇場が存分に見れたのに、それが見れなかったのがショックで

した。「残念!」って感じ。
桜庭　……調子こきすぎなんですよね。
―あ、やっぱその感覚はあるんだ、調子こきすぎたっていう。
桜庭　なんであそこでモンゴリアンチョップ出したのかなぁって(笑)。
―ガハハハハ!　モンゴリアンは鬼門だな(笑)。
桜庭　モンゴリアンチョップ出して近づきすぎたから。あいつ、モンゴリアンチョップですごいビビッてたんですよ(笑)。こ～んなちっちゃくなっちゃって。それで上がってきた頭がドーンと当たってましたね、ビデオ見たら。ちっちゃくなってたとこまでは、覚えてるんですよ。
―その後は覚えてない?
桜庭　全然覚えてないです(笑)。頭突きがスコーンと当たって、一瞬わかんなくなったとこに、膝蹴りドーンともらって意識が飛んじゃって。
―あの試合は、それまでの流れや、当然、自分が置かれてる状況とかも考えてるだろうから、練習方法や意識が大きく変わらないにしても、桜庭さんの中で微妙に変わってるだろうし、その変わった桜庭さんが見れるなと思ってたんですよ。いま流行の言葉で言うと、REBORNした桜庭和志を見られなかったショックがデカかったですよ。
桜庭　ボクもショックですよ(笑)。
―三服して「もういいや」と思いつつも、後で思い出して腹立ったりしなかったんですか?
桜庭　え～っと、あの喜び様はムカつきました。
―ニーノの?
桜庭　はい(ニコニコ)。
―ガハハハハ!　あれは嬉しそうだったもんなぁ。

調子こきすぎなんですよね。なぜあそこでモンゴリアン出すかなぁって(笑)

Kazushi Sakuraba

桜庭　でも、前のホイラーみたいな感じで、なんかカタカタ震えてるんですよ、試合中に。だから、「なんかこの人、可哀想だなぁ」とか思いながらやってたんですけど(笑)。
―で、その問題のニーノ戦から明けて、いきなりグランプリ1回戦でシウバと当たります!
桜庭　はい。
―今回のシウバ戦は、桜庭さんが望んだっていうことでいいんですか?
桜庭　そうですね。そんなに強く言ったわけじゃないですけど。最初は、優勝するつもりで3回勝ち上がっていく間に、1回シウバに当たればいいやと思ってたんです。でも、よくよく考えたら、シウバが1回戦で負けたら、やらないで終わりじゃんと思って。
―でも、いきなりシウバっていうのは、みんなビックリしてましたよ。マスコミもファンも。
桜庭　ボクもビックリしました(笑)。
―ガハハハハ!　なんでやねん。
桜庭　ホントに決まっちゃったなぁと思って(笑)。
―でも、今度は三度目っていうことで、マスコミ的には「背水の陣」だとか「負けたら引退」だとか、そんなような空気も感じるじゃないですか。
桜庭　いや～、でも、別に負けても辞める気はないので、まだ。
―この前の会見で、「高田さんと同じ歳までやりたい」って言ってましたよね。
桜庭　まあ、できれば40歳ぐらいまで。たぶん無理ですけど(笑)。やっぱり、高田さんとは体力が違うじゃないですか。
―あっ、そういえば、昨日、誕生日でし

ACKSAKU vs SILVA

2001.3.25 PRIDE.13
○ヴァンダレイ・シウバ(1R1分38秒/TKO)桜庭和志●

ゴング前執拗に睨み付けるシウバのゴリラーマンが顔にムカついたサクは、シウバ相手になんと打撃勝負に!　そして一度はパンチでシウバをグラつかせる場面をも作り出した。

しかし、首相撲からのヒザ蹴りで形成逆転。ここからサクは足首へタックルへ行くが、この日からスタートした3点ポイントからのヒザ蹴りの格好の餌食となってしまう……。

それでも執念で足を取りに行くサクへ、シウバはさらにヒザ。そして仰向けになった顔面へ容赦なくサッカーボールキック!　ここでレフェリーがストップ。桜庭、遂に散る!

たね。おめでとうございます（笑）。

桜庭 34歳です（ニコニコ）。

――ミル・マスカラスと1日違いですね。

桜庭 そうなんですか？ マスカラスは何歳？

――61歳（笑）。今朝、テレビ見てたらやってました。「今日のバースデー」みたいなコーナーで「ミル・マスカラス（プロレス・61才）」って出てた（笑）。

桜庭 すごいなぁ。

――じゃあ、桜庭さんもミル・マスカラスの年まで頑張るっていうことで（笑）。

桜庭 それは無理です（ニコニコ）。

――そんなに年齢って感じるもんですか？

桜庭 感じますよ。やっぱり20代の頃と比べたら、無茶もできないし。

――それは怪我とは関係なく？

桜庭 怪我もありますけど。逆に怪我したときに、回復力がすごい落ちてるのを感じるし。

――それに対する気持ちの切り替えみたいなものは、できるようになったんですか？

桜庭 まあ、ちょっとは。気持ちの切り替えっていうか、練習の仕方とかを変えて。体をあったためてからやったりとか。

――前は準備体操もウォームアップもしないでスパーリングやってましたもんね。

桜庭 あれは、スパーリング1本目が準備体操なんで（笑）。

――見たいなぁ、準備体操する桜庭和志（笑）。

桜庭 ちょこっと走ってるだけですよ。

――アップすると全然違います？

桜庭 っていうか、「あったためた方がいい」って言われるから（笑）。

――ガハハハハ！ じゃあ、そんなに実感はしてないんじゃないですか、「歳だなぁ」といいつつも。

3・16『PRIDE・25』でニーノ・シェンブリと対戦したサクは、序盤から打撃で一方的に攻め立て、KO寸前まで追い込むが、偶然のバッティングが入り、そこからまさかの逆転負けを喫してしまった。

桜庭 いや、歳だなっていうのはありますよ。だって、5～6分のスパーリングも5本目ぐらいにはヒーヒー言ってますもん。「ちょっとタイム、タイム」って、膝に手をついて息して。

――いま『PRIDE』のリングも若くて勢いある選手がガンガン出てきてるから、それに対する対抗策とかも考えたりしてるでしょ？「若さとスピードに勝つには、こうだよな」とか。

桜庭 やっぱり、ズルさですね。

――それは前から（笑）。

桜庭 でも、もっとズルくならないと（笑）。

――もっとズルくなる！

桜庭 はい（ニコニコ）。

――たとえば？

桜庭 フェイントかけるにしても、1回だけじゃなくて、10回ぐらいかけるとか（笑）。

――ガハハハハ！ それじゃフェイントになりません。

桜庭 歳は、もうしょうがないですからね。地球が回ってる以上はね（笑）。

――地動説まで持ち出しますか（笑）。34歳っていう年齢については、なんか感じますか？ 〝40歳までやるとするなら、あと6年しかない〟とか。

桜庭 そこまで深くは考えてないですね。あっ、夢では見ました。「あと10回しか試合できません」って通告を受けて、「あと10回か……誰にしようかな？」って思ってる夢（笑）。

――ガハハハハ！ 試合することに飽きたりしたことはなかったですか？

桜庭 ありましたよ。ホイスとやった後。あのとき、もうこれからは全部の試合を1時間半ぐらいやらないといけないんじゃないか、っていう感覚になって（笑）。試合がすごい嫌でしたね。

PLAY BACK SA

2001.11.3 PRIDE17

○ヴァンダレイ・シウバ（1R終了/レフェリーストップ）桜庭和志●

サクはすぐさまガードポジションを取って対応し、そこから三角絞めなどを狙うが、実はマットに叩きつけられた時点で左肩を脱臼していた。そして1R終了後、無念のドクターストップ……。

サクペースで試合が進む中、シウバの隙をついてフロント・ネックロックで締め上げる。しかし、シウバはその体勢のままサクを持ち上げると、そのままノーザンライト・ボムのような形で叩きつけた！

シウバ対策をバッチリ練ってきたサクは、前回と同じ轍は踏まぬと、見事なタックルでテイクダウンに成功。さらにモンゴリアン、“木魚”とサク殺法全開で追い込んでいく。

——全部1時間半やると思ったら、それは嫌ですよ（笑）。負けが続いたりしてるときに、試合に飽きたとかはなかった？
桜庭　それはないです。負けた理由もわかってるし。試合中に遊んじゃったせいですから（笑）。
——高田さんに「今度はあまり試合中に遊びすぎるな」って言われたみたいですね。
桜庭　あんまりっていうか、「もう遊ぶな」って言われました（笑）。
——遊ぶな！（笑）。
桜庭　「絶対勝ちにいけ」って。
——そういう言葉はプレッシャーになります？
桜庭　プレッシャーにはならないですね。当然、ボクも勝つつもりでいくので。ただ、この前、テレビの人がボクのデータを集めたみたいなんですけど、「モンゴリアンチョップを出した数分後には絶対負けてる」っていうデータが出たみたいな話を聞いて（笑）。
——ガハハハハ！　まあ、最近はね。
桜庭　そう、最近なんですけど。でも、そう言われると、やっぱりモンゴリアンチョップはダメなのかなぁって思っちゃって（笑）。
——トラウマ（笑）。でも、こういう話題をすると、わざとやりそうだから怖いよなぁ（笑）。ただ、桜庭さんの場合、勝ちにいくっていうのと、リング上でいい意味で遊ぶっていうのは、地続きじゃないですか。そこを切り離しては考えられないですよね？
桜庭　……コーナーにやろうかなぁ。
——は？
桜庭　コーナーポストに。
——モンゴリアンチョップを？
桜庭　カーン！　って鳴ってラウンド終わったら、コーナーポストにモンゴリアンチョップ（笑）。
——ガハハハハハ！　なぜだ！
桜庭　コーナーポストじゃなくてもいいや、誰かセコンドにやる（笑）。
——ストレス発散のためにやってました、いままで（笑）。やっぱり会場がシーンとしちゃったりすると嫌なんですか？
桜庭　ダメですね。「あ、みんなトイレ行っちゃったよ」とか思っちゃいますね。だから、「なんかやって引きつけとかないと」って。
——じゃあ高田さんの言ってることは、いい方に解釈すると、今回は観客は意識しなくていいから、勝負に集中しろっていうことですね。
桜庭　そうですね。

Kazushi Sakuraba

——それができるかどうかが試されてるっていうことですね、ある意味では（笑）。
桜庭　高田さんは、「そういうのは入場とかだけでいいから。試合は面白くなくてもいいから、勝て！」って。「勝て」と言われてもねぇ……。
——ガハハハハハ！
桜庭　負け癖もついてるし（笑）。
——その負け癖ってことについては、どうなんですか？　1回そういうツボに入っちゃうと、なかなか抜けれないって感じもあるんですか？
桜庭　まあ、自分でいま「負け癖」って言いましたけど、別にそういうのは考えてないですね。
——運気とかは気にしないって言ってますよね。
桜庭　気にしないですね。たまたま負けてるだけで。負けてるっていっても、何敗してますか？
——ニーノとミルコと、シウバ2戦。
桜庭　あ〜、シウバね。
——なんか、そんなに負けてねえぞ、みたいな顔してましたけど（笑）。
桜庭　いや、そんなにポンポン負けたっけかな？　と思って。シウバって、全然昔の話ですよ。
——一昨年ですね。で、去年はミルコがあって。
桜庭　だって、あのミルコの試合なんか無理なんですから、もう（笑）。
——体重差がありましたしね。
桜庭　負けて当たり前ですよ、あんなの。
——ニーノ戦の後で、高田さんが、個人的な感想として「サクが時代に押し込められてる気がする」って言い方をしてたんですよ。
桜庭　押し込められてますねぇ。
——押し込められてる？
桜庭　……なんか、期待とかあるじゃないですか。その期待が、もう重いです。だからもう、期待しないでください（笑）。
——去年のミルコ戦の前には、「貴乃花の心境がわかる」って言ってましたもんね。
桜庭　あのときはもう……すごい……（かなり小声で）嫌でした。
——え？　なんですか？
桜庭　（やや小声で）すごい嫌でした（笑）。
——ガハハハハ！　そんな小声で言われても、聞こえないですよ（笑）。
桜庭　だって、期待されても無理なもんは無理ですよ、っていう感じで。
——そういう意味で今回は、メインだからとか、あんまり気にしなくていいと思いますけどね。
桜庭　（またもや小声で）じゃあ、メインにしないでくれよって感じです（笑）。
——ガハハハハ！　試合の順番的には、ニーノ戦のときのほうが気が楽だった？
桜庭　もう全然楽でしたね。
——へぇ〜、そんなに違うんだ。じゃあ今回も、第2試合とかになったら、だいぶ違います？
桜庭　だいぶ違いますよ。休憩明けとか、最高ですね（笑）。昔は「第1試合がいい」って言ってたんですけど、よくよく考えたら、たぶんしょっぱなも緊張しちゃうんで。

『REBORN』でマスクを被ったのは、浜中よりも緊張してたから（笑）

―じゃあ順番的にはニーノ戦がベストだった、と。

桜庭　そうです。

―でも負けちゃったじゃないですか（笑）。気が楽になりすぎたんですかね。よく桜庭さんが言う「緊張感と開放感」じゃないけど。

桜庭　そうかもしれないですね。開放感があまりにもありすぎて、全部開放しちゃった（笑）。

―ちなみに、6月の『REBORN』のときに被って出てきたマスク、あれはなにがモチーフだったんですか？

桜庭　いや、あれはただ恥ずかしいから被ってただけで、なんにも意味はないです。

―そうなんだ。『REBORN』とかけてるのかと思って、考えこんじゃいましたよ。

桜庭　だって、あのときなんて、浜中より緊張してましたから（笑）。

―ダハハハハハ！　マジですか？

桜庭　ああいうのが一番嫌ですよ。

―あれ、休憩明けじゃないですか（笑）。

桜庭　そうか。休憩明けはダメだなぁ（笑）。

―やっぱりメインがいいですね。メインの緊張感を持ってリングに上がった方が絶対いいと思いますよ、桜庭さんは。

桜庭　でも、メインの緊張感を持ってやると、「ラスト1分」とか聞こえてるのにシーンとしてると、なんかやっちゃうんですよ。で、なんかやって、アゴにドカーンとキックが入る（笑）。

―マスコミによっては「シウバとは相性が悪い」とか言うところもありますけど、実際には、相性いいですよね？

桜庭　そうですね。結果はそうなってますけど、相性っていうか、試合自体は絶対面白くなってると思うんですよ。やってて面白いですもん。

——特に2回目なんて、2ラウンド目があったら絶対イケてたなっていうのがありましたよね。

桜庭 いつ出てくるかっていう緊張感みたいなのがあるじゃないですか、彼の場合。「うわ～、来るぞ、来るぞ、来る来る！」っていう（笑）。

——スピードのあるバイオ・ハザードのゾンビのような（笑）。

桜庭 前に出ようとしてるのが、あれが結構面白いですね（笑）。それをスカしたりするのが。

——待ってる相手よりも、来てくれた方がいい。

桜庭 全然面白いですね。

——結果も、桜庭さんは運を信用しないって言うけど、たまたまそういうエアポケットに入っちゃっただけで、試合自体は噛み合いますよね。そういう意味で今度は大丈夫じゃないですか？

桜庭 でも、またなんかやっちゃいそうで（笑）。

——ガハハハハハ！ 負け癖っていうより、コケ癖じゃないですか、それ（笑）。

桜庭 あ、ニーノ戦のときは、試合前にコケましたからね。

——え？ いつ？

桜庭 裏で。リフトで上がるのに3～4段ぐらいの階段なんですけど、そこで2回もコケましたから（笑）。スコーンってコケて、手に仕込んでた蜘蛛の糸がドバーッて出ちゃって、「あ～、やっちゃった！ もう1個なかったっけ？ もう1個なかったっけ？」って。

——ガハハハハ！ 1回出しちゃったんだ。

桜庭 で、急いではめて、出て行って。

——そう考えると、やっぱ運ってあるような気もするなぁ（笑）。

桜庭 あるかもしれないですね。

——で、これが今日一番聞きたかったことなんですけど、桜庭さんが孤独感を感じるのって、どういうときなんですか？ たとえば桜庭さんの焦りとかそういうものって、桜庭さんしかわかんないじゃないですか。

桜庭 やっぱ、試合で負けちゃったときですね。

——寝る前に考えちゃったり？

桜庭 まあ、いまは低酸素テントがあるから、カクッて寝ちゃいますけど（笑）。でも、寝れないときは考えますよ。ホント、趣味でやってるなら、勝った負けたで騒いでヘロヘロヘロ～って飲んだりできるんですけど、好きでやってて、強くなりたくて、勝ちたくてやってるのに、なんか結果は負けちゃって。

グランプリ優勝候補の呼び声も高いランペイジにサクは、唯一一本勝ちしている選手。やはりサクも優勝候補に一角であることは間違いない。高田本部長に再びサクベルトを巻いてもらえる日は来るか。頑張れ、サク！

——そういうときに、誰かに相談したりするんですか？ 自分の中で消化しちゃうんですか？

桜庭 あんまり人には言わないです。人に言うことでもないし。自分でやってることだから。

——そこらへんが、桜庭さんのダンディズムって気がするなぁ。

桜庭 ダンディズムですか？ 高倉健になりたいなぁ（笑）。

——でも今回のシウバ戦に勝ったら、その孤独感からも少しは解放されるんじゃないですか？

桜庭 最高じゃないですか。勝ったら、トーナメントなんかやめますよ（笑）。トーナメントやる気ないですもん、シウバと決まったから。

——じゃあ今回は、トーナメントのことよりも、まずは対シウバに目標を定めて、その次は、勝った後に見えてくるだろうっていう感じ？

桜庭 いや、たぶん見えないです。半年ぐらいどっか遊びに行こうと思って。

——『REBORN』のとき、「グランプリいただきます」って言ったばっかでしょ（笑）。

桜庭 ボクの中のグランプリっていうのは、ヴァンダレイ・シウバのことですから！

——お～、なるほど。

桜庭 シウバ銀行に預けてた貯金をちょっと下ろして、半年ぐらい遊びに行こうかなって。トーナメントというのも、シウバと3回目やるための口実ですから。いま、そのままシウバとやらしてくれって言ったって、簡単にやらせてもらえないじゃないですか。

——まあ、3回目ですしね。

桜庭 そうそう。向こうだって「2回も勝ったのに、やる必要ないじゃん！」って感じじゃないですか。でも、トーナメントっていう理由があれば、3回目できるでしょ。だからトーナメントは口実で、賞金がいくらとか関係ないですよ。

——でも、シウバに勝つっていうことは、その後トーナメントが待ってるってことですよ。

桜庭 ……故意に怪我をします（笑）。

——ガハハハハ！ ちなみにどこ怪我します？

桜庭 自爆事故でも起こそうかな。

——確実に8月以降は車とバイクの運転は禁止だな（笑）。

桜庭 痛そうで痛くないヤツがいいな（笑）。

——トーナメントの他の試合で気になる試合はないですか？

桜庭 ボクの中ではトーナメントはまったく別ものなんで、あんまり気になんないですね。アリスターとチャック・リデルの試合は面白そうだなとか、そういうのはありますけど。

——へぇ～。ちなみにどこに興味を？

桜庭 アリスターは、ミドル級の中で一番身長がデカいのに、一番顔ちっちゃいですからね。すげえぁ！ と思って（笑）。

——ガハハハハ！ モデル顔。

桜庭 なんだよ、あの顔の小ささは！ って。150何センチぐらいの人の顔ですよ、あれ（笑）。

——吉田選手がヘビーからミドルに下りてくるっていうことに関しては、なにか感じ

僕にとってグランプリっていうのは
ヴァンダレイ・シウバのことだから。

Kazushi Sakuraba

シウバの弱点はわかってますから。2回もやってりゃわかりますよ。

Kazushi Sakuraba

ました?

桜庭　……いや、全然。

――それだけ?（笑）。

桜庭　いや、そっちの方が面白くなっていいんじゃないですか、トーナメント自体は。

――吉田選手は「二階級制覇狙う」って言ってましたけど、桜庭さんも、このまま体重増やして二階級制覇を狙ってみるとか?

桜庭　…………（声にならない声で）いいです。もう余計なことは言いません。余計なこと言うと、ホントに試合組まれたりするから（笑）。

――その吉田選手と田村選手の試合は「UWF対金メダリスト」っていう報道のされ方してますけど、Uインター出身の田村さんが出てくることに関しては気にならないですか?

桜庭　もう全然、気になんないです。

――ならない?　つまり、今は、それだけ対シウバへのモチベーション高いってことですか?

桜庭　あ、まあ……そうですね（笑）。

――いま、何か言いかけませんでしたか?

桜庭　いや、山口さんが「これはハズすな」って顔してたんで、ハズすのやめました（笑）。

――ガハハハハハ!　じゃあ、ホントにトーナメントっていうのは意識しない?

桜庭　もう全然。よし、今年の試合は8月でお終いだ!　っていう感じで（笑）。

――もう終わり（笑）。

桜庭　あとは年末に1回ぐらい、やる場があれば。体が持てばね（笑）。

――「年末はボブ・サップ」とか言うと、ホントに「やってくれ」って言ってきますからね（笑）。

桜庭　無理ですよ～、そんなの（笑）。

――話は変わりますけど、今度、WJが『X―1』というバーリトゥードの大会を9月にやるんですよ。

桜庭　あ～、まったく興味ありません!　興味がないというか、頭にないです。

――新日本の「アルティメットクラッシュ」は?

桜庭　それも頭にないです。ボクはもう、『PRIDE』以外は全然頭にないです。

――でも、UFC側は桜庭さんに出てほしいって言ってましたし、桜庭さんも「場合によっては出てもいい」って言ったんですよね?

桜庭　場合によっては、ですよ。ただ、その前に言っておきたいのは、ボクは、さいたまスーパーアリーナより遠いところには、あまり行きたくない!（キッパリ）

――ガハハハハハ!　あそこが限界（笑）。

桜庭　はい。

――それを言うなら大阪も遠いと思うんですけど（笑）。

桜庭　一応、国内だから。移動も少ないし。だって、アメリカで松井（大二郎）と

かが出た『キング・オブ・ザ・ケージ』なんて、何時間移動するんだよ！ってぐらい、車で延々と行きましたから（笑）。

――でも『PRIDE』にとっては、他の団体との選手の行き来が活性化してくれるのは、いいことなんじゃないですか？

桜庭 まあ、そういう意味ではいいですけどね。

――そっちのリングに上がるっていうことに関しては、今は頭にないと？

桜庭 トーナメント以上に、頭にありません。

――それだけシウバ戦に気持ちが入ってると。ちなみにシウバは「サクラバは強いし危険だし。でもまったく問題ない」って言ってましたね。

桜庭 ボクは問題ありますよ！（笑）

――ガハハハハ！ そりゃそうだ。シウバに勝つとしたら、関節で一本取りたいですよね。

桜庭 そうですね。絶対にギブアップと言わせる！ 絶対に！（笑）。ヤツの弱点はわかってるから。

――わかってる？

桜庭 2回やってますもん。わかりますよ！

――なるほど。じゃあ今度は打撃勝負はしない？

桜庭 しますよ、それは。

――あ、するんだ（笑）。

桜庭 打撃も、自分が関節取って勝つために使わないといけない技なんで。打撃もやります。

――関節で一本取ったら気持ちいいだろうなぁ。シウバに関しては、最近調子に乗りすぎだとか、そういうのはないですか？

桜庭 それは、ないですね。

――ムカついてたのは治まったんですか？

桜庭 治まってます。でも、わかんねえなぁ。またニラまれたら、いっちゃうのかなぁ、キレんのかなぁ？ とかは考えちゃいますよ（笑）。

――じゃあ、今度は〝モクギョ〟は見られないんですね。

桜庭 いや、やりますよ！

――やるんだ（笑）。

桜庭 ただ、モンゴリアンチョップはねぇ。

――モンゴリアンチョップは出さない？

桜庭 わかんないですよ。出すかもしれないですけど、出すと数分後に負けてるという、そのデータが気になるんですよ（笑）。

――そのデータっていつから採ったヤツだろうなぁ。そんなに出してないですよね。

桜庭 ジャクソンに勝ったときは、出せなかったんですよ、出すつもりだったのに。でも、そのときは勝ってるんです。で、ミルコとやったときは出したんですよ（笑）。

――ああ、そうか。出してましたねえ。

桜庭 ニーノとやったときも出してるんですよ。シウバの2回目のときも出してたし。

“男の中の男”に なってくれ、サク！

――出しましたっけ？

桜庭 やりました、思いっきりガードされました、ガチッって。「おい、お前、受けろよ！ お約束だろ！」って感じでしたけど（笑）。

――ガハハハハ！ プロレスじゃないんだから。

桜庭 「お前、プロじゃないなぁ」と思いました（笑）。プロだったら相手の技を受けて勝つ！

――それが、シウバに送る言葉ですね（笑）。「プロだったら受けろ！」と。ホイスに勝った後みたいな取材ラッシュは、今回はないんですか？

桜庭 あ、もうないです。あの頃の経験があるから、もうダメです。ペース乱されるから。

――じゃあ今回もペースさえ乱されなければイケますね？ イケるって断言してください！（笑）。

桜庭 イケます！

――サク、やっぱりおまえは男の中の男だ！（笑）。

桜庭 本当の男の中の男になります！（キッパリ）あ、「なります」よりも「なりたいなぁ」の方がいいですかね？

――どちらでも！

桜庭 「なりたいなぁ（希望）」で（笑）。あ？ なれるや、時計買ったから（笑）。

【7月15日／東京・武蔵小山／高田道場にて収録】

孤高の男が覚悟の決断
田村、やっぱりお前は男だ!!

聞き手／堀江ガンツ
撮影／松本崇
designed by matsu (Two three)

吉田秀彦戦を引き受けるのは嫌われ者の俺しかいない

潔　司

“UWF VS 柔道金メダリスト
格闘技世界一決定戦”遂に実現!!

田 村

——さぁ、田村さん。今回は話題も話題ですので、真面目にシリアスにお願いしますよ！

田村　いやぁ、もうガンツとは今さらシリアスにできないでしょ（笑）。

——なんでですか。やってくださいよ！

田村　だって今日はＵ・ＳＴＹＬＥの話でしょ？

——へ？

田村　そのリアクションいいね〜（笑）。

——だ・か・ら！　今日はそういったスカしはナシでお願いします！

田村　はい（笑）。

——でも確かにこの間のＵ・ＳＴＹＬＥ（６・29大阪）は面白かったんで、やっぱりその話から行きますか。

田村　ちょっと待って。この間「の」ってなに、この間「も」じゃないの？

——ボク的には、この間「の」ですねぇ。

田村　あぁそう（不服そうに）。

——というのも、この間の大阪では、ついに真の意味で「Ｕ」と呼べるものが、田村さんの試合以外でも見られたなっていう感じがしたんですよ。

田村　それはビデオで見たの？

——いや、会場に行ってましたよ。しかもリングサイドで写真も撮ってましたから。

田村　あ、そういえばいたなあ。いたいた。

——その超至近距離から見た、坂田vs伊藤のシバキ合いなんて意地や情念が見えすぎて素晴らしかったですね。

田村　伊藤（博之）はいいよねぇ。

——メインの田村さんと冨宅（飛駈）選手の試合も、まさか3分で5ノックダウンを奪って決まるとはビックリしましたね。それから、この人こんなに凄いミドルキックが打てるんだっていう驚き（笑）。

田村　ハハハハハ。

Kiyoshi Tamura

——特に最初にダウンを奪った、掌底からのコンビネーションで放った左ミドルの速いこと速いこと！

田村　う〜ん、それはよく言われるけどね（笑）。

——あの日の動きを見る限り、凄く調子がいいんじゃないかと感じたんですけど、いま調子のほうはどうですか？

田村　いや、調子は良くないね。悪くはないけど、8月10日に向けて自分のペースとコンディションで体重を増やしながら、なおかつ格闘技仕様の体にしなきゃいけないんで、その調整が難しいかな、と。

——ああ、Ｕ・ＳＴＹＬＥの試合が終わってまたすぐ、身体を作り直さないといけないわけですね。あの日、田村さんは試合中、試合後ともピリピリしていたように見えたんですけど、やはり『ＰＲＩＤＥ』参戦問題なんかもあって、かなりイライラが募ってた部分はあったんですか？

田村　そういうのもあるのかな。いろいろイラついてはいたよね。

——だから、田村さんの場合、イライラがあったりとか、プレッシャーがあったりしたほうが面白い試合が見れるのかなぁ、と（笑）。

田村　そうね、性格悪いからね。

——ガハハハ、自分で言いますか（笑）。やっぱり田村さんって、「心・技・体」の「心」の部分が凄く試合に反映されるタイプだと思うんですよね。気持ちが入った時はもの凄い力を発揮する反面、イマイチ気分がノらない時はなんとなく、それがお客さんにも伝わってしまうような試合になる。だから僕は『ＰＲＩＤＥ』での田村さんの試合は好きなんですよ。

田村　そう？

——気持ち的にもの凄く入り込んでるじゃないですか。

田村　いや、入り込んでないよ。

——入り込んでないんですか？

田村　っていうか、入り込んでないことにしてんの。入り込まなくする！

——それはこれまでの『ＰＲＩＤＥ』の試合で、入り込み過ぎて失敗したっていう部分が少なからずあるってことですか？

田村　うん、確かにそれもあるね。入れ込み過ぎて裏目に出ちゃうパターンもあるんで。

——例えば、シウバ戦なんかはそんな感じでしたか？

田村　シウバ戦もそうねえ、あの時は徹底的に自分を追い込んで、3ヶ月近く全然遊んでなかったからなあ。

——でも、仕上がりとしては良かったんですよね？

田村　全然バッチリ問題なし。

——それが入り込み過ぎて体が思うように動かなかった、と。

田村　復帰戦で久しぶりの試合ってことで、ちょっと体が堅くなってたというのもあると思うけどね。もう一つは追い込み過ぎというか、背負い過ぎたっていうの？　だから、もうちょい息を抜いてもいいんじゃないかなって思った。

——『ＰＲＩＤＥ』に上がる前の田村さんって、追い込んで追い込んで背負っていくのがいい方向に行ってたじゃないですか。『ＰＲＩＤＥ』はそれともちょっと違ったわけですか？

田村　いや、あんまり変わんないけど、『ＰＲＩＤＥ』はルール自体が、危険で殺伐としてるでしょ。そういう極端に言えば命に関わるような緊張感で、構えなきゃいけない面があったよね。

——ああ、勝負に関するプレッシャープラ

ゴングと同時に冨宅はいきなり掌底でラッシュ。しかし、田村はこれをダッキングでかわすと、逆に掌底連打から目の覚めるような猛スピードの左ミドルでダウンを奪う。さらに田村は攻撃の手を緩めず、その凄まじい左ミドルで続けざまにダウンを奪っていった。

新人時代、同じ新生UWFの合宿所で苦楽を共にした田村と冨宅が、15年の時を経てリング上で再会。入場時、田村がいつものように四方に礼をした後、冨宅と視線を合わせると館内は大歓声に包まれた。こうした動きひとつで観客の心を動かすところは実にプロだ。

4.6　U-STYLE　梅田ステラホール

田村、冨宅にわずか3分で5ノックダウン勝ち！

田村潔司
［3分8秒　TKO勝ち］
冨宅飛駈

※6.29　U-STYLE　その他の試合はP60へ

『PRIDE』に出るということは、負けるということに対する恐怖と生死に関わることに関わる恐怖を同時に克服することだから。

ス、生死に関わる部分でも、精神的なプレッシャーがあるわけですね。『PRIDE』に出るのは今回で4回目ですけど、やっぱり『PRIDE』に出るというのは、特別なものがありますか？

田村　いや、別に特別じゃないけど、特別になっちゃうのかな。特別じゃないけど……やっぱり母体が大きいだけにそういう部分はあるんだろうね。

——でも田村さんぐらい『PRIDE』にレギュラー参戦しながら『PRIDE』に染まらないで、いつまで経っても〝特別参加〟みたいな人もいないですよね（笑）。

田村　ああ、いないよね。俺はあんまり出たくないから。

——それはどういう点で出たくないんですか？

田村　あんまり深い意味はないけど、もっと自分でやることがあるから。やることがあったり、やりたいことがあったりするんだけど、『PRIDE』に出ることで、いま自分のやりたいことはストップしてるわけだからね。やっぱり自分のやりたいことをやったほうがいいじゃん。

——じゃあ、多くのプロ格闘家にとって『PRIDE』で結果を残すことが一番の目標だったりしますけど、田村さん的にはあくまでもそれは付属って感じですか？

田村　付属でもないけど、それが『PRIDE』だからっていうことでもないし、何万人規模だろうと300人規模だろうとやってる内容は変わんないし、同じようにキツイ練習はするだろうから。

——でも、プロとして、ああいう華やかな舞台で多くの人に自分の力を見せつけたいとか、そういうのはないですか？

田村　ない。基本的にあんまり有名になりたいとかないから。目立ちたがり屋でもないし、結構シャイな一面も持ってるから（笑）。

——（無視して）じゃあ、そもそもシウバ戦を決意して、初めて『PRIDE』に参戦を決意した時はどんな目的があったんですか？

田村　目的は（PRIDEミドル級の）ベルトが欲しかったから。DEEPでミドル級というか、ライトヘビー級のベルトを佐伯さんに作ってくれって言ったけど、作ってくれなかったからね（笑）。

——じゃあ、『PRIDE』じゃなくて、DEEPライトヘビー級でもいいわけですか（笑）。

田村　全然いいよ。

田村の〝伝家の宝刀〟左ミドルをまともに喰らった冨宅は、脇腹を押さえて悶絶。参戦発表会見では「田村さんをロープに振りたい」と発言し物議を醸していた冨宅だったが、いざ試合になると遮二無二打撃で田村を倒そうと向かっていっていた。

向かってくる冨宅をちぎっては投げといった感じで、左ミドルによって5連続ダウンを奪い、TKO勝ちした田村の闘いぶりは、まさにUWF版横綱相撲。冨宅はゴングが鳴った後もしばらくは悶絶したまま動けず。試合後はまた1から打倒・田村を目指すと宣言した。

初の大阪大会は観客動員、試合内容共に大成功。自身も完勝でメインを締めた田村だったが、試合後の会見ではピリピリムード。「伊藤と藤井以外は点数もあげられない」と若手の試合をバッサリと斬り、次回10月大会は俺抜きでやってみろ」とつき放した。

——そうなると、今回の『PRIDEミドル級GP』は、早い段階から"最後の一人は田村潔司だ"という噂が流れていたわけですけど、なかなか「イエス」という返事が出なかった田村さんが、出場に関して一番こだわった部分っていうのは何だったんですか？

田村　いや、あのね。そういう情報が結構間違った情報だったり、ああいう大きい団体だから情報が交錯して、噂が先行したりするんで……（突然）ストーカーはやめてくれ！

——はい？（笑）。

田村　俺をストーカーするのはやめてくれ。

——それは『PRIDE』の関係者に対しての言葉ですか？（笑）。

田村　（帽子を叩きつけて）ドリステ（DSE）を訴えてやる！

——ガハハハ！　でもDSEがストーキングでもしなければ、なかなか田村さんが捕まらないというか、「参戦OK」という返事が出なかったと思うんですよ。

田村　でもさ、なんでそこまでして俺を出そうとするの？　そんだけ連絡がつかなかったらもういいじゃん。「アイツはいいや」で。

——いやいや、田村潔司というのは、そこまでしてでも出したい選手なんですよ。田村さん自身は、もともとグランプリには出たくなかったんですか？

田村　いまはもう「出る」と決めたからには、決断して良かったのかなとは思うけど、最初は出たくなかったね、全然。このトーナメントに出るということは、再起不能になる可能性もあるわけだから。

——それだけの危険なメンバーですもんね。

田村　それに、出たくなかったっていうか、俺にそんな考える余裕がなかったのよ。自分を評価してもらえて、バイオリズムがいい時にオファーが来たら気持ちはノるんだろうけど、何を軸にするかっていう部分で試行錯誤してるときだったから。U-STYLEを軸にするのか、U-FILE CAMPっていうジムを軸にするのか、何をメインに持ってきたらいいのかわからなくなってたから、『PRIDE』というものも含めて、そのへんの葛藤はいろいろあったね。

Kiyoshi Tamura

田村と吉田の接点は、この11・24『PRIDE・23』でほんの数秒間挨拶を交わしただけという。まさに決して交じわうはずがなかった者同士のありえない一戦。だからこそ興味は尽きない！

——でも、外野の意見を言わせてもらえれば、ジムとかリング外のことも田村さんにとっては、もちろん大事だと思うんですけど、「プレイヤー田村潔司」に一番重きを置いて欲しいというのは、ファンのためらわざる気持ちだと思いますよ。

田村　それはわかるよ。ただ、自分のペースでやりたいよね。やっぱりU-STYLEにしても何にしても、それなりの立場っていうか、メインを任されてやるわけだから、試合内容を問われるわけだし。そうすると歳に比例して体力にしても精神的な面にしても消耗するから、結論を言うと俺はよくやってんのかなって（笑）。

——いや、それはホントよくやってますよ（笑）。

田村　他の選手と比べるのはあれだけど、選手だけだったら練習に専念したりとかもできるけど、俺はそうじゃないからね。これはグチでもなんでもなく、そういう環境があるから。

——リング上だけでも、最初にシウバとやって以降、ボブ・サップとやって、美濃輪選手とDEEPでやって、髙田さんの引退の相手も務めて、大勝負続きですからね。それでU-STYLEを旗揚げして、3回興行を成功させてるんですから、これはホントよくやってるなと思いますよ。

田村　でしょ？『紙プロ』で「田村潔司の歩み」みたいの作ってよ。俺はこんだけやったんだぞって感じで（笑）。

——作りましょうか。こんだけ試合してるのに、相変わらず一部のファンからは「田村はなかなか出て来ない」って言われたりしてますからねぇ（笑）。

田村　ホント、もうね（笑）。でも、いい意味でも悪い意味でも名前が出るっていうのは期待されてるってことだから。そう思うようにした。

——じゃあ、今回はそんな余裕がない中でも、最終的には「出場する」という決意をしたわけですけど、試合へのモチベーションは高まってますか？

田村　モチベーションは……その辺なんだよね。その辺がこれから練習と共に持って行かないといけない作業なんで、いまはなんか決断して開き直った部分があって、練習のほうに専念しようかなっていう気持ちなんで。今から徐々に気持ちを切り替えて、追いこみ過ぎず、いい意味での気分転換をしながらモチベーションを上げていこうかなって思ってるんだけどね。今は喰ってやろうとか、多少の気持ちはあるけど、飢えた貪欲さは全然ないから、それを試合当日までに「心・技・体」の最高の位置まで持っていくのが凄い難しい作業だよね。

——グランプリでは1回戦で吉田秀彦選手と当たることになったわけですけど、吉田選手と闘うということに、実はまだ現実味が湧かないってことはないですか？

田村　うん、現実味は湧かないよね。自分の対戦相手としての吉田選手っていうイメージが抱けないし、まさかやるとは思わなかったから。まあ、これもマッチメークした側に一本取られたというか、「えっ！」て思うカード組んで、それを交渉したドリステも凄いと思うけどね。それぐらいありえないカードだと思うから。

——田村さんの今までの大勝負って、例えばパトリック・スミスにしても、ヘンゾにしても、シウバにしても、そして髙田さんにしても、やっぱり田村さん的に避けては通れない人たちだったと思うんですよ。そ

まだ対戦相手としての吉田選手というイメージが抱けない。
ゴングが鳴る瞬間まで想像がつかないかもしれない。

れは山本（宜久＝当時）さんにしてもフランク・シャムロックにしてもそうだと思うんですけど、吉田選手というのはもの凄い大勝負ではあるんですけど田村潔司の道の中では出てくるはずがなかった人ですよね。

田村　確かにそうだね。だから単純に見る側が見たいカードなんだろうし、魅力的なカードなんだろうね。本人同士が嫌だとしても。

――ただ一つ心配してるのは、そういう今、僕が言ったような相手に対しては田村さんはもうムキになって勝利にこだわっていたと思うんですけど、吉田選手に対して、そこまで「絶対に負けられない」という気持ちが湧いてくるのかという心配があるんですよね。

田村　う〜ん……それは自分でもわかんないね。試合当日、ゴングが鳴った瞬間じゃないと、想像がつかないかもしれない。内に秘めた部分はあるけど、極端に言えば吉田選手を思い切り殴れるのかって言ったら、やっぱり外人選手に比べたら多少引いちゃうし、日本人とやるのは俺も敵は多いけど、正直言うと抵抗があるよね。

――ただでさえ、田村さんが闘うとバーリ・トゥードの顔面パンチっていうのがテーマになりますからね。

田村　でも、誰かが吉田選手を迎え撃たなきゃならないわけだし、今回のグランプリは日本人対決をやらなきゃならないわけだから、そうなると「俺がやんないと誰がやんの？」って感じだよね。

――おぉ〜、なるほど！　俺がやらなきゃならない、そして俺しかできない試合だと。

田村　うん。俺しかできないだろうねぇ。これで吉田選手が選手として他で出稽古して認める選手は認めるで、吉田選手とどっかで交流できてたら多分、受けなかったと思うし、まずできないと思うから、そういう面では俺しかいないんじゃないかな。嫌われ者の頑固者だから。

ご覧のように、柔道着の裾、袖などあらゆるところで絞めを見せる吉田。田村vs吉田戦のポイントも、もちろんここになるだろうが、髙田本部長は「道衣を必要以上に意識しなければ、田村も十分いける」と発言。

道衣で首を絞めるのは……（小声で）ズルい。でも、なんとかなるかなとは思う。

――ガハハハ！　でも、今回は田村vs吉田という図式以上に、UWFvs柔道、プロレスvs柔道といった大きな括りにどうしても見られるだけあって、田村さんを応援する声ってたくさん上がってきてますよ。

田村　そうなの？

――ええ。田村さんとはあまり仲のよろしくない金原（弘光）選手まで、「今回ばかりは田村さんに勝ってほしい」と言ってるくらいですから（笑）。

田村　いいよ、金原に聞かなくても！　仲悪いってわかってるんだったら（笑）。

――いえいえ、話の流れで（笑）。

田村　金原はいまどうしてるの？

――膝の手術していまリハビリしてますね。

田村　試合は？

――4月の終わりに手術したんで、そっから1年は無理みたいですね。シウバ戦の前から右ヒザの前十字靭帯は完全に断裂してたみたいなんで。

田村　大変だねえ。1年っていうと来年の5月でしょ？

――それぐらいですね。「リングスの頃手術してたら治療費出たのに！」ってボヤいてましたけどね（笑）。

田村　ボヤキングだからね（笑）。でもかわいそうだよね。だって、俺が抜けてからのリングス引っ張って、体酷使して頑張ったのに、それで団体無くなって体ボロボロで治療費は出ない、ってちょっとかわいそうだよ。俺もリングス辞めた原因の一つだから、彼の気持ちは分かる！　彼も学んだんじゃない、メインでやる大変さを分かっただろうし、看板選手になると怪我して、試合休みます、すいませんじゃ、許されないからね。

――ホントそうですよね。

田村　そこはちょっと同情するなあ。そういや、さっき佐伯さん（DEEP代表）からメールが来て、伊藤（博之）もU-STYLE大阪大会で目を負傷して、手術するみたいなんだよね。

――あ、そうなんですか。ちなみに、それは治療費出るんですか？

田村　それは出るでしょう。……いや、佐伯さんもいまギャラの問題でピリピリしてるからなぁ。

――DEEPのギャラですか？

田村　そうじゃなくて、いま『OH祭り』にドスカラスJr.貸してるでしょ？　そのギャラが貰えるかどうか心配でピリピリしてんの（笑）。

――ガハハハ！　そっちですか（笑）。

田村　「ギャラ貰えなかったらキレますからね！」って息巻いてるから、「誰にキレるの？」って聞いたら「小川直也にですよぉぉぉ！」って（笑）。

――おお、凄い！（笑）。

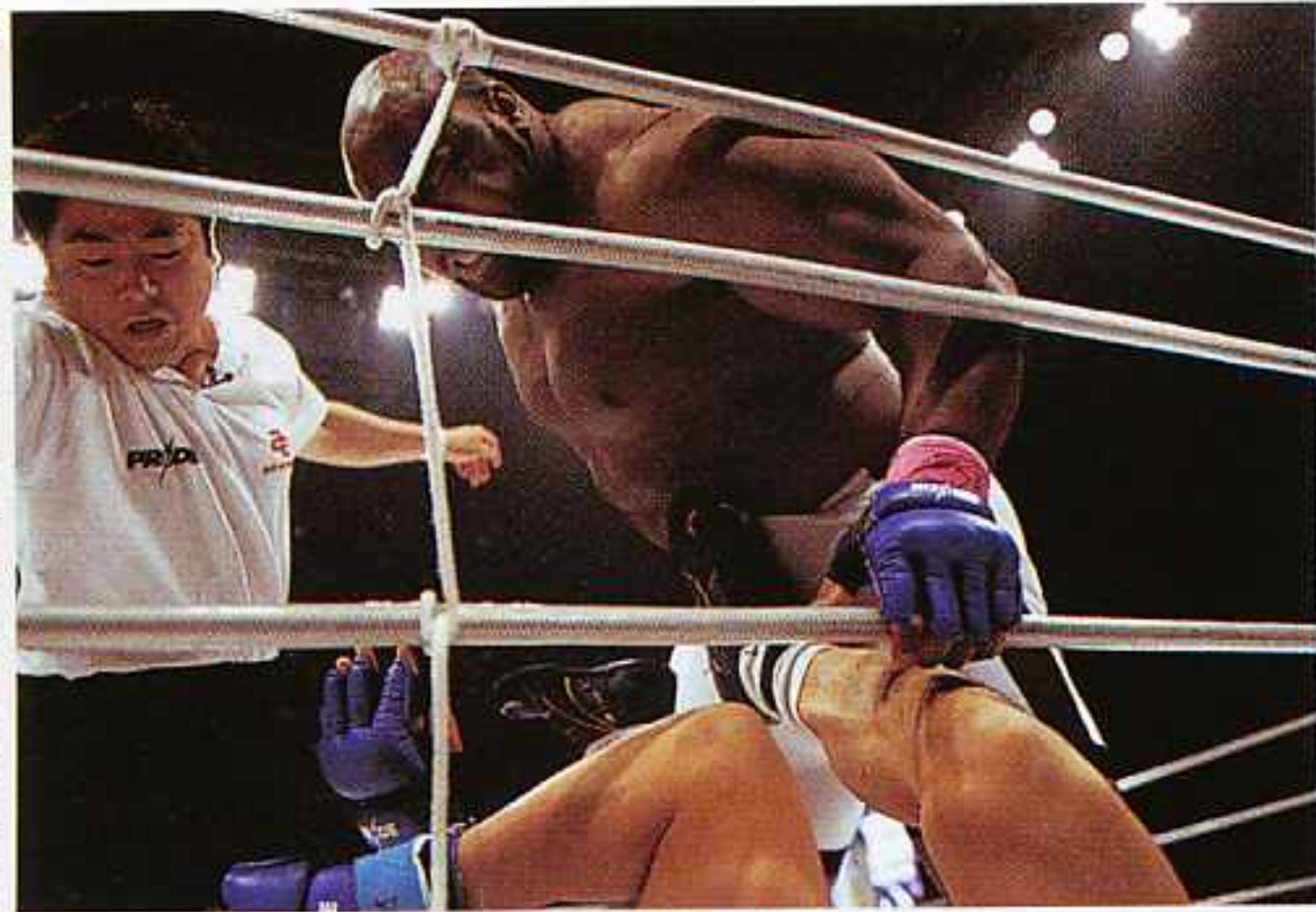
田村　それで「乗り込んで行きますから、田村さんも一緒に来て下さい！」だって。俺は関係ないよ！（笑）。

――ガハハハ！　ドスJr.のギャラを巡って実現する田村潔司vs小川直也っていうのもゼヒ見たいですね（笑）。

すべてが強烈なインパクト！

PRIDE参戦以降
田村潔司の歩み

02・2・24『PRIDE・19』■誰もが驚いた突然の『PRIDE』初参戦。いきなりPRIDEミドル級王座に挑戦するが、シウバのグラウンド顔面パンチ地獄に持ち味を殺され、KOで敗れる。

02・6・23『PRIDE・21』■『PRIDE』第2戦の相手は大ブレイク前夜のボブ・サップ。しかし、体重差86kg（！）はあまりにも大きく、わずか11秒でレフェリーストップ負けを喫してしまった。

02・9・7『DEEP6th IMPACT』■リングス、アブダビも含めて5連敗と後がない田村だったが、この美濃輪との夢の対決に完勝し、見事復活！試合内容も素晴らしいものだった。

02・11・24『PRIDE・23』■かつての師匠・髙田延彦の引退試合を努めた運命の一戦。坊主頭で挑んだ田村は髙田の顔面にただ一度だけ放った右フックで劇的なKO勝ち。立派に〝介錯人〟を全うした。

02・2・15『U-STYLE』旗揚げ■髙田の介錯を終えた田村は、長年の宿願であった〝U〟を復活。〝リングス解散記念日〟に旗揚げ戦を行い、現在まで3大会連続超満員を記録している。

田村　いいねえ、嫌われ者対決！（笑）。

——また自分で言いますか（笑）。でも、冗談抜きで「吉田戦を前に小川直也と合同練習」とかやってほしいですけどね。そしたら凄い盛り上がるでしょう。

田村　吉田選手と小川選手は仲良くないの？

——非常に微妙な関係のようです（笑）。

田村　へえ〜！

——ま、小川さんの話はいいとして、吉田選手に対しては、もともとどんなイメージを持ってますか？

田村　いや、わかんない。全然情報がないから。

——柔道時代はテレビで見て印象残ってたりしませんか？

田村　柔道も金メダル取ったところしか印象にないなあ。内股でとったやつ。

——あのガッツポーズですね。田村さんって柔道はやったことあります？

田村　柔道は高校の授業でちょっとだけ。

Kiyoshi Tamura

——授業だけですか。こと柔道だけに関してはボクと変わらないですね（笑）。じゃあ、道衣の練習っていうのはプロになってやったことあるんですか？

田村　サンボぐらいかなあ。（かつて田村は木口道場でサンボの練習を積んでいた）

——その時に道衣の難しさみたいなものって感じましたか？

田村　うん、メチャクチャ難しかった！途中で挫折したから、「こんなん無理だ」と思って。柔道なんか一つの技を何百回、何千回と打ち込みして、それで試合をやって自分のものになるわけでしょ？　俺が道衣で練習始めたの28（歳）ぐらいだったらね。気が遠くなるよ（笑）。だから道衣を着ての練習はスパーリングばっかりやってたから。

——今回も道衣に関する恐怖というか警戒心ってもちろんありますよね？

田村　もちろん。まあ、向こうに勝ちパターンがいくつかあったとして、裸だったらどんなことをやってくるか大体わかるでしょ？　でも道衣を着て、ましてや世界チャンピオンはどんなもんなのかっていう、そういう未知数な部分はある。

——でも本来、総合格闘技って自分の体ひとつでやるものなのに、柔道着を使うってズルいと思いません？（笑）。

田村　それは……（小声で）ズルい！

——やっぱりズルい（笑）。

田村　あれがよくルールでOKだよね？

——まぁ、ホイス・グレイシーや吉田選手を『PRIDE』のリングに上げるために作った特例が続いちゃったっていう部分もあるんでしょうね。

田村　マスクは被っていいの？

——とりあえずダメだと思いますけど。

田村　マスクは禁じて柔道着はOKなの⁉　マスクはOKにして欲しいな。

——なんでマスクOKを要求する（笑）。被りたいんですか？　タイガーマスクかなんか（笑）。

田村　い、いやいや、そういうわけじゃないけど（笑）。道衣なら首を絞めてもOKなわけでしょ？

——袖とか裾で首を絞めるのはOKですね。

田村　あ〜、そりゃダメだ。（道衣着ると）滑んないでしょ、また。

——そうでしょうね。田村さんは、これから道衣での練習をしたりする予定はないんですか？

田村　それはない。

——逆に今からやって嫌なイメージをつけたくないっていうのはありますか？

田村　そんなことはないよ。まあ、なんとかなるかなって。

——おぉ、それはちょっと頼もしいですね。ホント、今回の試合っていうのは、闘い方ひとつとっても究極の他流試合っていうか、スタイルから価値観からまったく違う者同士の闘いですよね？

田村　お互い価値観は１８０度違うでし

ょ。全く違う闘いになるだろうし。

——田村さんはもとからプロとして育てられた選手で、吉田選手は究極のアマチュアとして育てられたという違いもありますよね。

田村　そうねえ。

——このプロとアマの闘いに対する一番の違いって何でしょう？

田村　勝ち方、結果の出し方だろうね。アマチュアは一番最短距離でいくから。だけどお互い、集中力とかコントロールはある程度できるだろうし、モチベーションもずっとは頂点には保てないから、多少落ちてるから同じ条件だろうけど、宮戸（優光）さんがＨＰに書いてくれてた「プロレスラーには絶対に勝たなければいけない試合がある」って言う気持ちもわかるし、俺自身もそういうふうに持っていかないといけないと思ってるから。

——田村さんもプロで10何年間やってきたっていうプライドはもちろんありますよね？

田村　それはあるよね。

——じゃあ、オリンピックで柔道の頂点に立ったとはいえ、そういう人がポンと『ＰＲＩＤＥ』に上がってきて、あっという間に成功しちゃうっていうことに抵抗はないですか？

田村　いや、それについては全然抵抗ないよ。これはもう自分の力で勝ち取ってるし、北尾みたいな上がり方じゃないから。

——北尾ってまた、古い例を出しますね（笑）。

田村　吉田選手は実力もあるから文句はないよ、実力世界だから逆にあったらダメでしょう。

——だけど、「俺はこれで食ってきたんだ。負けられない」っていう気概はあるんじゃないですか？

田村　いや、ハングリー精神っていうのはアマチュアのほうが強いでしょ。あの競技人口の中で生き残ってトップに立つなんて気がおかしいよ。

——金メダル取るような人は、田村さんからすると精神的におかしいと（笑）。

田村　おかしいおかしい。そんなに練習なんてできるわけないもん。だって世界一なんだからね。狂ってなきゃできないよ！

——でも、田村さんもプロレスというアマチュアとは対極の道場で育って、トップに立った選手じゃないですか。やっぱりプロの意地が見たいですよ。

田村　うわ～、もうだめだ！　これ以上俺にプレッシャーをかけないでくれ！

——すいません、もうちょっとお願いします（笑）。この試合に限らず、こういった大きな試合に出る場合、「負けた時の恐怖」っていうのがあると思うんですけど、それは今回強いですか？

田村　負けることは今、考えたらいけないんだろうけど、要は負けても自分に負けなければいいと思うから、全然大丈夫かな。

Kiyoshi Tamura

大丈夫って言うか、負けは確かに怖いけど、それはちょっと考えちゃいけないと思うから。

――負けたくない気持ちより勝ちたい気持ちのほうが強いですか？

田村　う～ん、今日の時点では勝ちたいっていうか凄い楽しんで試合をしたいかな。あとは試合当日にいかに自分のモチベーションが上がってるかだから。

――田村さんには、実際に闘う田村さんと同じように、この闘いに懸けてるファンがたくさんいると思うんですけど。

田村　ハハハハハ！　そうね。でも、そういうこと言わないでよ！（笑）。

――田村さんはよく「明日への活力になるような試合をしたい」って言ってますけど、これに勝つことこそが、一番大きな活力になるんじゃないかと。

田村　はい、わかりました！（笑）。

――田村さんのファンっていうのはキャリアが長いファンが多いですよね？

田村　そうね。

――それはやっぱり、いま30歳ぐらいの昔からプロレスを見てきた人たちが夢を託せる人っていうのが、いま田村さんぐらいしかいなくなってるんですよね。だから今や田村さんは、30男のアイドルですよ！（笑）。

田村　ふ～（ため息）。試合を決めたのはいいけど、そうやって周りからいじめられるんだよな、俺は。もちろん、そういう風に思ってくれてるのはわかるし、その期待に応えたいと思ってるから。いまはちょっと集中させて。

――わかりました（笑）。では田村さんが考える、勝負のポイントっていうのを聞きたいんですけど。

田村　ポイントは、まあ最初かな。ファーストコンタクトでどういう展開になるか、

「負けてはならない闘いがある」のはわかるし、そういう気持ちにもっていかなきゃならないと思う。

どう凌ぐかだと思うから。だから重要なポイントは、最初と……中盤と後半かな。

――ガハハハ、全部じゃないですか！（笑）。

田村　わかんないもん！　俺自身も測定不能だから。

――じゃあ、2回戦以降なんか、もちろん考えられませんか？

田村　出たー、この質問！　そんなね、考えてるわけないでしょ？　いじめないでよ、もう。吉田選手でいっぱいいっぱいだよ！

――そんなことを考える余裕はない、と。

田村　ない！　2回戦のこと考える余裕があったら吉田選手に失礼だよ。

――それでもファンの一番の望みとしては、1回戦を勝ち抜いて桜庭選手との試合を実現させてほしいというのが絶対あると思うんですけど、そんなことを考える余裕はない？

田村　ない！『PRIDEミドル級GP』に）出るからには初戦突破。いまはそれしか考えてないから。

――じゃあ、最後に意気込みでも聞きましょうか。

田村　意気込みは……3、2、1、ゼロ、ワン！（笑）。

――はい？　何ですかそれは？（笑）。

田村　いや、もうインタビュー締めようと思ってね（笑）。締めのセリフ。

――なんで勝手に締めてるんですか（笑）。でも、"小川直也式"に締めたところに、吉田秀彦戦への意気込みを強引に感じさせていただきましょう！

田村　わけわからん（笑）。

――では、とにかく8・10『PRIDEミドル級GP』頑張ってください！

田村　まあまあ、頑張ります。3、2、1、ゼロ、ワン！

【03年7月18日、登戸『U-FILE CAMP』にて収録】

金メダリスト

“柔道vs UWF”頂上決戦を前にその胸中を激白!!

究極の“勝利至上主義者”が“Uの象徴”田村潔司を飲み込むのか!?

「魅せる試合とかは考えてません! でもモンゴリアンチョップはやろうかな?(笑)」

吉田秀彦

強豪がズラリ勢揃いとなった8・10『PRIDEミドル級GP』。発表された1回戦の組み合わせの中でも吉田秀彦vs田村潔司の超ド級のマッチメイクには、ファンのみならず、選手、関係者の間でもド肝を抜かれたと言う人は多い。“柔道金メダリスト”vs“UWF”、いったい、どっちが強いんだ？　大物日本人同士のバーリトゥード戦を前に、田村との意外な接点から、小川直也のことまで『紙プロ』初登場の吉田に、たっぷりと語ってもらった。

聞き手/中村カタブツ君　構成/松澤チョロ　撮影/吉場正和

designed by hisa (Two Three)

〃選ばれし者の恍惚と不安、そして自信、二つ我にあり〃

遅ればせながら『紙プロ』初登場!

吉田

［吉田道場］

吉田秀彦

——ウチの雑誌は『紙のプロレス』と言いましてプロレス雑誌なんですけど。

吉田　（表紙を見て）あ、小川先輩の出てる雑誌だ！（笑）。

——そうなんですよ（笑）。今日は、その小川さんの話などプロレスの話も含めていろいろお聞きしたいんですが。

吉田　よろしくお願いします。

——お願いします。まずは最近の吉田さんと言えば、やっぱり『笑っていいとも』のテレホンショッキングで公表された飲み会話が面白かったですね（笑）。

吉田　あぁ（苦笑）。

——あややのコスプレしてカラオケしてたんですよね（笑）。

吉田　いやいや、あれはねぇ、コスプレって言うか、そこにあった衣装を着ただけで……。

——それがコスプレって言うんですけど（笑）。

吉田　いや、コスプレじゃなくて……。って言うか、みんなやってたからですよ、日本代表のラグビーの奴とか。それでつい（笑）。

——アイドル好きなんですか？

吉田　いや、別に好きとか嫌いとかなくて……。それにはもう触れないでください（苦笑）。

——でも、体育会系の飲み会としては最高ですよ（笑）。

吉田　そうですね。体育会系のノリで。

——そのノリってやっぱり面白いんですよね。で、この『吉田秀彦物語』（P27参照）って漫画もその辺のことが描かれてて良いんですよ。

吉田　ありがとうございます。それに描いてあることは、ほとんど実話ですから。

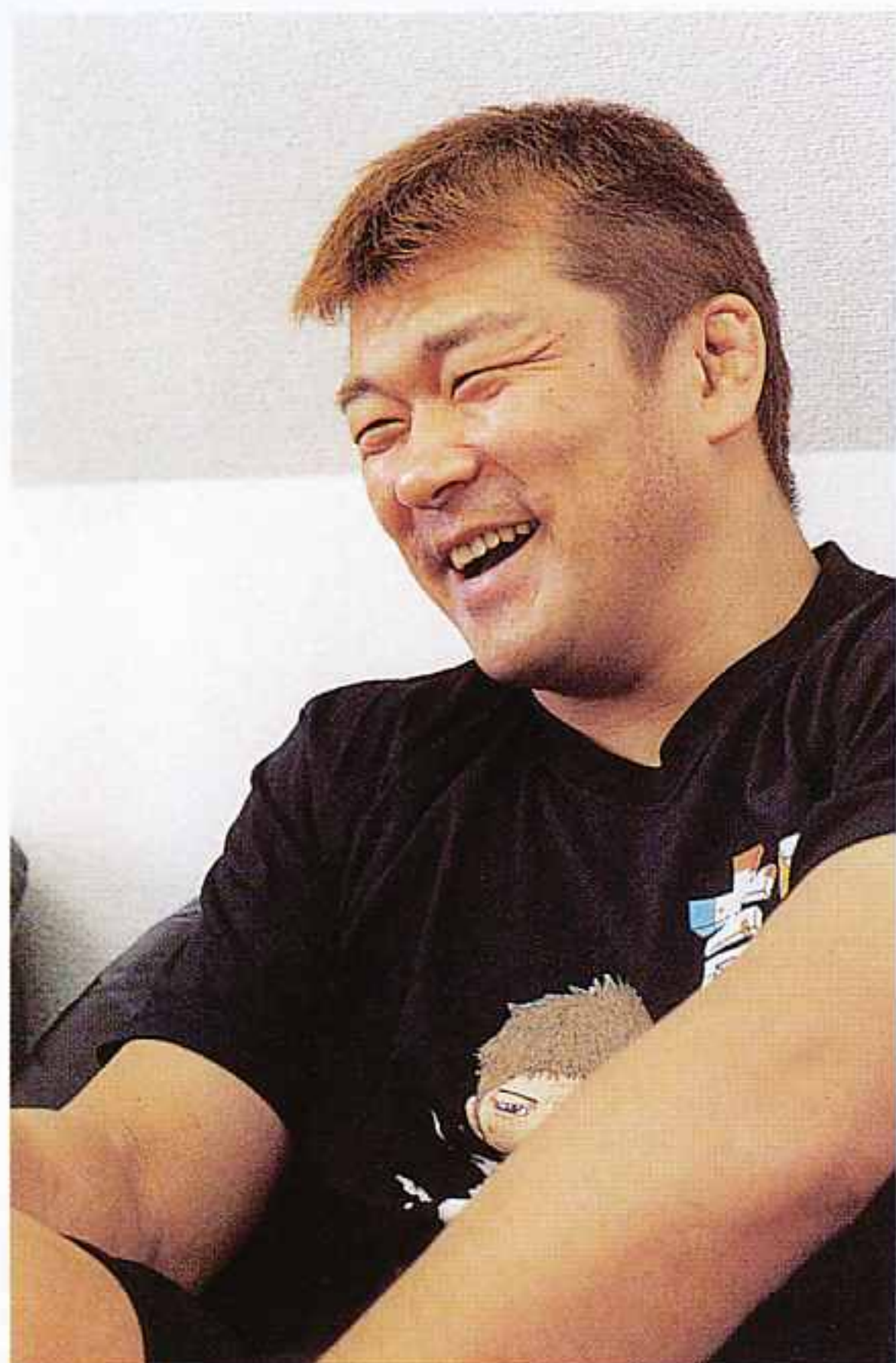
——講道学舎（全寮制の柔道の名門私塾）時代の恩師の吉村先生って漫画に描いてるように本当にバカバカ殴ってたんですか？

吉田　いや、殴られましたよ。一発殴り出したら止まらないんですよ。試合に勝っても負けても殴る（笑）。

——ひっどいですねぇ（笑）。

吉田　勝てばホントは嬉しいんでしょうけど、勝ち方まで問われるんですよね。

——前に出る、攻めの姿勢がないとダメなんですよね。

いや、コスプレじゃなくて それはもう触れないでください……。（苦笑）

吉田　吉村先生の中での最終目標がオリンピックとか世界選手権で優勝するとか、そういうのがあったんじゃないですかね。だから、中学、高校時代にただ勝つだけのそんな試合してても先がないっていうのがあったんでしょうね。

——その理屈を当時は理解してました？

吉田　理解出来ない！（笑）。

——ですよね。理不尽ですもん（笑）。

吉田　講道学舎の理事長もそうだったですし、そこで教えてた吉村先生もそうだったんですけど、やっぱり常にね、嫌われ役を買って出て、人を育ててたっていうのがあったんですよね。

——理事長なんかは試合前に焼き肉をたらふく食わせておいて、負けると「吐け、いままで食わせたものを吐け！」って言うんでしょ（笑）。

吉田　俺一年間言われましたからね（笑）。「お前はどこでメシ食ってたんじゃ」って。「どこでメシ食ってるって食堂でメシ食ってるよ」って言いたかったですね（笑）。

——食わしておいて吐けって言うのもヒドい話ですよね（笑）。

吉田　いや、でもね、精神的に結構鍛えられましたね。僕らの時は何でも我慢してるんですよ。何があっても我慢。先輩達の理不尽な集合とか、ヤキとかあったんですけど、それが当たり前だったんで。

——それが全く当たり前の生活だと……。

吉田　思っちゃって（笑）。

——そんな身体に自然となって（笑）。でも、そういう時期は必要だと思いますよ。

吉田　だけど、それが今どんどん変わって来て、何かあるとすぐ親が出て来るじゃないですか。僕らの頃は親も変わってたんですかね？　親に言っても逆に叱られて終わりだから（笑）。

PLAY BACK YOSHIDA's BOUT

vs ホイス・グレイシー

グレイシー陣営は「タップもしてないし落ちてもいない！」と猛抗議、ホイスもレフェリーに食ってかかるなどリング上は騒然となったが、吉田は「納得するまでやりたい」と余裕のコメントを残した

終始試合を優位に進めた吉田は袖車絞めを極めると「落ちた！　落ちた！」とアピール。ホイスが失神したと判断したレフェリーが試合をストップ。吉田は柔術界の強豪を相手にデビュー戦で圧勝！

02年8月28日、国立競技場で行われた『Dynamite!』でプロデビューした吉田は大舞台にも全く動じる様子はなし。開始早々、五輪金メダリストの投げを警戒してか、ホイスはすぐに引き込みにかかった

——じゃあ、練習するしかないですね。

吉田　あの頃は時間はそんなにやらなかったですけど、とにかく内容が濃かった。

——ほとんど殴り合いの喧嘩に近いぐらいの内容だったみたいですね。

吉田　そういう感じでした。まぁ、殴り合いの喧嘩って言ったら大袈裟になりますけど、見えない所で殴られたり、チョーパン入れられたり。チョーパンはしょっちゅうありましたよねぇ……（しみじみと）。

——チョーパンですか（笑）。

吉田　やっぱりね、どうしても先輩は先輩の意地があったから、投げられないぶん、殴ってきたり。そうされると後輩達はムカついてやり返したり。

——もう柔道を超えてますよね。

吉田　僕らは絶対に屈しなかったんで。

——それ吉田さんだけだったんじゃないんですか？（笑）。

吉田　いやいや、みんなそうでしたよ。でも、あの頃そんなことやってたのはあそこだけだったんじゃないかな？（笑）。

——入った頃は古賀（稔彦）さんの投げられ役だったんですよね。

吉田　1年間は投げられましたねぇ。

——1年間投げられ続けるって、ヘコみませんか？

吉田　いや、2年間だったかなぁ？　高1の終わりくらいまで、ひたすら投げられてましたよ（笑）。

——だけど、世田谷学園の1年の時に、いきなり5人抜きを達成したんですよね？

吉田　でも、その前の大会では先生に殴られましたからね。自分でも分かるんですよ、こういう試合したら殴られるっていうのが。だから、「あ、ヤバイなぁ」って（笑）。

——試合終わった後に殴られるなって分かるっていうのはどんな心境なんですか？

吉田　しょうがないですよね。しょうがないと思うしかないですよねぇ……。

——そしてまた苦しい練習が待っていると（笑）。具体的にはどんな内容だったんですか？

吉田　集中的ですね。よく練習時間が3時間とか4時間とか言うじゃないですか？　でも、それって常に集中してやってるかって言ったらそうじゃないと思うんですよ。講道学舎の練習は1時間半くらいなんですけど、その間ずっと集中してるんですよ。だから、もう終わったらクタクタですよ。

——基礎体力みたいな練習はしてました？

吉田　それはなかったです。理事長が「柔道は柔道で力をつける」っていう方針だったんで。

——じゃあ、1時間半ずっと乱取りばっかりやってるんですか？

吉田　やってますよ。入れ替わり立ち替わり。

こちらがインタビュー中に出てくるコミックス『感動王列伝　実録・吉田秀彦物語』（取材構成・根岸康雄　作画・竹本章／小学館）。吉田が古賀稔彦の投げられ役だった話や、当時の講道学舎の吉村和郎コーチや、理事長の横地治男氏との想像を絶する数々のエピソードは読み応え十分。古本屋で見つけたら即買いだ。YAWARAちゃんも登場してます。

——で、その中には古賀稔彦さんみたいな人たちがいるわけですよね。凄いよなぁ。畳が汗でびっしょりになったりしなかったんですか？

吉田　窓がなかったんですよ、一面しか。だから、メチャクチャ暑かったですね。夏なんて閉め切ってやるんでサウナ状態で。窓に水滴が付いてましたね。

——はぁ～、ホント凄い話ですね。

吉田　今思えばね。でも、僕らはそれが当たり前だなって思ってましたから。今、逆に教える立場になって、同じことやらせたら誰も付いて来ないでしょう。

——かもしれませんね。でもどうですか？　今振り返ってみると。

吉田　やっぱね、感謝してますよ。ああいう時代があったから、今があるみたいなね。でも、当時は早く出たかったですね（笑）。

——そうだと思いますよ。で、今回対戦が決まった田村選手もUWFという道場で理不尽な目に合いながら強くなってきた人なんですよ。

吉田　あ、そうなんですか？　たしか僕と同い年なんですよね。

——はい。しかも田村選手も326さんのことが好きなんですよ。会ったこともあるって言ってましたね。

吉田　へぇ～。326君、どっち応援するかな？　今度聞いてみよう（笑）。

——たしか、あややも好きですし、色々共通点あるんですよ、考えてみれば（笑）。

吉田　……。

——で、もうちょっと分かりやすく言うと、田村さんっていうのは強いんですけど、若干考え方にクセがあるというか、柔道界で言うと小川直也さんかなぁっていう（笑）。

吉田　ワッハハハハ！

——だから、そういう人と闘うんだという

vs佐竹雅昭

試合後、なかなか立ち上がれない佐竹を気遣う紳士的な吉田。しかし、相手の持ち味を封じ込めた、その非情な闘いぶりには賛否両論。果たして田村戦では、どういった闘いを見せてくれるのだろう？

佐竹のタックルを潰した吉田は、そのままフロントネックロックで絞り上げタップを奪った。試合開始から、わずか50秒という全く危なげない秒殺劇に、佐竹は「やっぱモノが違う」と思わず苦笑い

02年12月31日『猪木祭り』で総合引退試合となる佐竹の相手を務めた吉田。開始直後、佐竹がバックスピンキックで奇襲攻撃を仕掛けると「ちょっとキレた」という吉田は、すかさずハイキック一閃！

吉田秀彦

ことを分かって頂ければ嬉しいなと。
吉田　……（苦笑）。リングスで高阪と一緒にやってましたよね。高阪は気まずいだろうなぁ。
──高阪さんは田村選手のセコンドにも付いたことがありますからね。今回は吉田さんのセコンドに付くんですか？
吉田　いや、だからねぇ。アイツから「今回は勘弁してくれ」と言ってくるかもしれない。そういうのは分かるんで。なかなか付きづらいでしょう。
──高阪さんから田村選手についての話は何か聞いてますか？
吉田　いや、高阪は今ロスにセミナー行ってていないんですよ。今日帰ってきたのかな？　田村戦が決まってから、まだ会ってないんですよ。
──ただ、対田村選手ということでオファーしたとDSEは言ってたんで、どんな選手なのかぐらいは聞いてるのかなって思ったんですけど。
吉田　いや、その前に出るかどうかが問題だったんで。最初は「減量あるんで、僕無理です」って言ったんですよ。でも、「今年はこれが一番のメインだから」って言われて「7キロくらいだったら落ちるかな？」って思って。
──で、いざやってみたら？
吉田　しんどいですね（苦笑）。でも、田村選手はサウスポーなんですよね？　やりにくいなぁ。
──そういうものなんですか。
吉田　やっぱりオーソドックスの方が入りやすいですよ。左ミドルが得意だって聞きましたし、この前も高田さんを一発で倒してますよね。
──そうですね、一発KOしましたね。だけど、吉田さんも協栄ジムでボクシングやってらっしゃるじゃないですか。
吉田　……（苦笑）。
──何でそこで黙るんですか？
吉田　いやぁ……（苦笑）。
吉田　いや、やってますよね？（笑）。
吉田　やってますよ。でもどうもねぇ、やっぱりダメなんですよ。
──でも、吉田道場の中村カズ（和裕）さんがK─1に出た時は凄く良かったじゃないですか。だから、吉田さんも当然出来るんだろうなって思ってますよ。
吉田　いや、だからオープンフィンガーグローブとボクシングのグローブって違うじゃないですか？
──違いますよね。
吉田　ボクシングでは顔の前にグローブ持ってきてガードすればいいけど、オープンフィンガーはそれでも入ってくるんですよ、もう！（笑）。
──手と手の間からバンバン入って来ますもんね（笑）。
吉田　だから、ガードできないですもん。
──そうなんですか。でも普通にボクシングのグローブでやる分にはガンガン打ち合えるような状態にはなってます？
吉田　いや、ボディしか打ってないです。ワハハハ！
──顔、やらなくていいんですか？
吉田　顔はやったことないです、ずっとボディ打ってますから。
──それでいいんですか（笑）。試合までそんなに時間ないですよね。
吉田　まあどうにかなるでしょ、突っ込んで行けば（笑）。
──今の所、どんな試合になるかっていうのは全く想像付いてないって感じですか？
吉田　まあ、考えてないですね。
──田村さんの試合は見たことありますか？
吉田　総合でやったのは、シウバ戦と高田さんとやったのしか見てないですね。
──一応ナマでは見てますよね。どうでした？　見た感じは。
吉田　いやぁ、どうもこうも、やってみないと総合って分かんないですからね。
──印象としては打撃系の選手？
吉田　打撃ですね。でも、あんまり対策とか考えないですね、やってきたことが違うんで。お互いにやってきたことのいい所が出せればいいって部分だと思うんですよね。
──そこですよね、やってきたことが違うんですよね。田村さんにはUWFの道場幻想が凄くあるんですよ。関節技を取り合って、理不尽な目に合いながら強くなって来た人。で、吉田さんは金メダリストですから当然凄い練習をしている。さっき聞いたように中学から理不尽なことも経験してると。それでいて同じ年とか共通点もいっぱいあって。だから、二人の歩んできた人生の違いがどう出るのかが結果以上に楽しみなんですよ。
吉田　だから、そういうのを経験してるっていうのは、精神的にタフだろうし、そこでくじけてやめてないのは、やっぱり負けず嫌いって言うか、我慢強いと思うし。気

身振り手振りを交え、なんだか楽しそうにボクシング特訓の様子を語る吉田。現在はマーク・ハントのコーチと秘密特訓中だという。「殴られたら殴り返す」と言う吉田だが、田村との打撃戦は見られるのか？

PLAY BACK YOSHIDA's BOUT
vsドン・フライ

02年11月24日、『PRIDE.23』。初のVTでフライを指名する辺り強心臓ぶりが窺える吉田。フライの打撃には付き合わず、大内刈りでテイクダウンした吉田は柔道衣を利用した技を次々と仕掛けていく

下になる場面も見られたが吉田は冷静に対処、フィニッシュとなった腕十字を堪えたフライは左ヒジを脱臼骨折！　百戦錬磨のフライ相手に危なげない試合運びを見せた吉田の強さに誰もが舌を巻いた。

試合後、マイクを掴んだ吉田はリングサイドで観戦中のネプチューンの名倉に向かい「名倉さん勝ちました！　イェイ！」と、ひょうきんな一面も見せた。田村戦でも見られるのか？

あんまり対策とかは考えてないです。
やってきたことが違うんで

持ちと気持ちのぶつかり合いになった時にどうなるかなっていうのはありますね。

—そこを見てみたいですね。プロレスっていうか、UWFを経験して来た人と闘うっていうのを改めて考えてみるとどうですか？

吉田　分かんないなぁ、プロレスってどのくらい強いのか未知数なんで。知ってるのは小川先輩くらいなんで。

—小川さんは強いですよね。

吉田　強いです。

—でも、吉田さんはその小川さんに勝ったことありますよね。

吉田　いや、あれは負けの試合ですよ。

—なんで、そこで否定するんですか（笑）。一応勝ったじゃないですか。

吉田　いやいや、負けたなって思ったんですよ（笑）。観客と審判の心理状態ってあるんで判定なんて分かんないですから。

—プロになってから小川さんとは話したりしました？

吉田　してないですよ。だって、出ないでしょ、総合は。

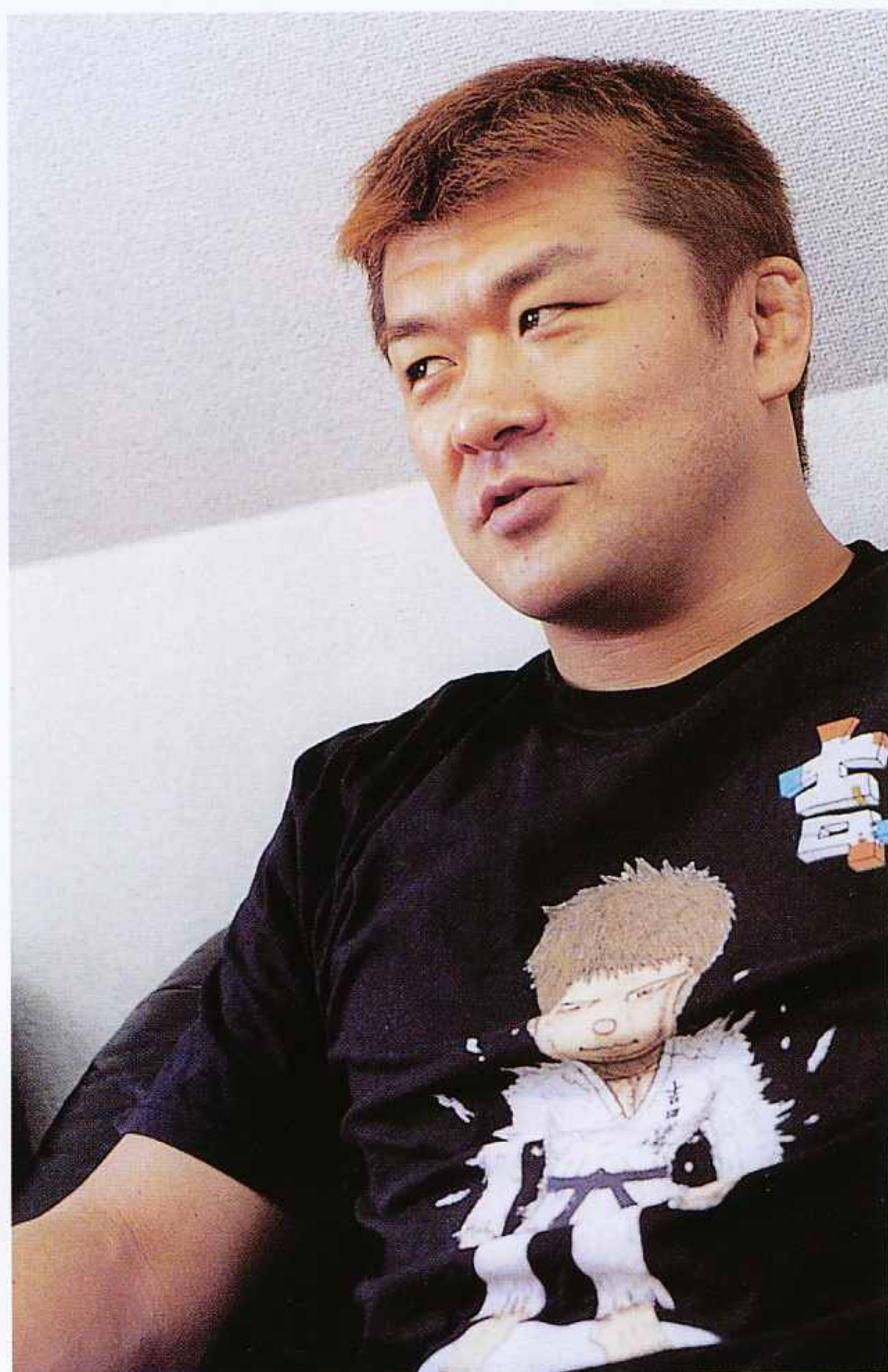
—出てほしいという声は凄く多いんですけどね。

吉田　小川先輩にはZERO—ONEで頑張ってもらいたいです。

—そうですか。じゃあ、プロレスではFMWで黒田さんを投げたというのがあるぐらいですかね。

吉田　あぁ、あれは面白かったですよ。聞いてなかったんですけど、行ったらストーリーがもう出来てたみたいで（笑）。僕は社長から頼まれて。

—今は亡き荒井社長ですね。

吉田　あ、そうですね。終わってから、僕は全柔連に電話しました。「リングで投げちゃいました」って（笑）。

やるからには一生懸命頑張ります。応援するのはあなた次第です

—でも行ったらやりますよね、やっぱり。

吉田　まあねぇ、その時はアマチュアだったんで、色んな制限もありましたけど。

—プロレスとの接点はそのくらいですかね。

吉田　そうですね。僕が見てたのは小学校の時ですね。アントニオ猪木とか坂口先輩は「いいなぁ」って。タイガー・ジェット・シンは、「こいつムカつくなぁ」ってぐらいですね。

—ただ、吉田さんは柔道の試合で一回ドロップキックを出したことありますよね。

吉田　ああ、反則負けになった（笑）。

—しかも全日本大会で（笑）。あの試合は伝説的な試合で金野さんが反則スレスレの立ち関節やったり、痛めた所を狙ってきたりというハードな試合でしたよね。

吉田　まあねぇ、怒っちゃいけないと思いますけど。あのねぇ、普通に抑え込んでる時は良かったんですよ。でも、一回抑え込みをほどいて、わざわざ痛めてる方の腕を狙って来たんですよ。

—勝負師ですね（笑）。

吉田　「そんなことしなくても抑え込まれてあげるから」って思ってたのに（笑）。

—それでドロップキック（笑）。でも、なぜドロップキックだったんですか？

吉田　いや、反射的。

—面白いですね、全然プロレス知らないのに。

吉田　いや、知ってますよ。小学校の時はゴールデンでやってたじゃないですか。

—そうですね。では、いま一緒に練習している高阪さんや横井さんを見て、こういうことをやってきたのかみたいな感想はありますか？

吉田　横井の場合はプロレス大好きですからね。あと前田さん好きなんですよね。

—そうですね。吉田さんは前田さんはご存知ですか？

吉田　知らないです。

—会ったこともないわけですね。でも横井さんにしても高阪さんにしても、田村さんと一緒で、前田さんというか、UWFの流れを汲む選手ですからね。

吉田　高阪の場合はね、グラウンドのスペシャリストなんで僕も教わることが多いですよね。裸の相手に対して。だから、田村選手も同じことをやってたんじゃないのかなって気はするんですけど。

—高阪さんのやってた関節技を見て、「凄いな、この世界は」っていうのはありましたか？

吉田　関節もやっぱそうですけど、アイツの逃げ方が凄い。だから、僕もTKシザースをマスターして。

—使ってみたいですか？

吉田　でも、道衣着ますからね。

—そうかぁ。では、最後にファンへのメッセージをお願いします。

吉田　今回、同じ日本人対決ということで非常にやりづらいですけど、やるからには一生懸命頑張ってやります。で、応援するのはあなた次第です。

—もっと積極的に「応援して下さい！」って言い切りましょうよ（笑）

吉田　いやぁ（苦笑）。あ、あと326tシャツの青色の偽Tシャツが出回ってるんで気をつけてください！

—あ、そうなんですか？　まあ、それは

吉田秀彦

気をつけてもらうとして（笑）、吉田さんは、いわゆる魅せる試合っていうのは考えてないですよね。

吉田　だって、魅せてると負けちゃうから。……じゃあ、今度はモンゴリアンチョップやります。

——いや、そういうのはいらないです（笑）。逆に思い切り強さを見せつけて勝つことに徹してください。

吉田　僕の場合は真剣にやることが魅せる試合だと思うんで。その中でモンゴリアンチョップを（笑）。

——あえてやりますか（笑）。

吉田　ちょっとキャラ変えていこうかなって（笑）。

——ホント掴み所のない人ですね（笑）。あと、他のミドル級の選手で闘いたい選手っていますか？

吉田　いやぁ、みんな闘いたくないですよ。好き好んで出たわけじゃないんで（苦笑）。

——シウバとやってみたいとか。

吉田　でもシウバはサクちゃんとやるんでしょ。サクちゃんがどうなるのか分かんないですけど、とりあえず僕は一回戦勝つことしか頭にないんで。で、次上がった時、誰と当たるとかは一回戦勝たなきゃ意味ないんで、本当に次のことは考えてないですね。いつもそうなんですよ。柔道やってた時も一回戦のことしか考えてない。

——では、ヘビー級で誰かとやりたいっていうのはないですか。ノゲイラとかミルコとかっていう。

吉田　いや別にね、誰かとやりたいっていうのはないんですよ。ただ、ある程度目標を持たないといけないですよね、年齢的にも先があんまりないんで。

——吉田さんは「ノゲイラとやったら膠着するかも」って、なんかで言ってましたけど、ノゲイラは「やれば面白い試合になる」って言ってるみたいですよ。

吉田　狙ってるな、俺を（笑）。もっと若い人たちを狙えばいいのに。

——ゴールドメダリストで強い人だから狙われますよ。

吉田　僕より強いヤツは一杯いますから。これ、本当ですよ。今から発掘します。

——吉田道場から強い人が出てくるのは楽しみです。もちろん吉田さんも当然頑張っていただいて。

吉田　仕事として捉えた場合、闘わなければ僕らも生活出来ないんで、ただ、そうなった時に、僕のいい所をいかに売っていくかって所が勝負なんで。だから僕は真剣勝負で格好つけないんですよ。

——ホントそれは正しいですよね。あ、じゃあ佐竹さんとやった時のハイキックは格好つけたわけじゃないんですね。

吉田　いや、蹴られたから蹴り返しとこうかなって。

——さっきのドロップキックといい、ムカつくとキックが出るんですか？（笑）。

吉田　いや、俺結構ね、やられたら同じことをやり返すタイプなんですよ。中学の時もカニ挟みやられて、普段カニ挟みって練習の時かけないでしょ。それをかけられたらかけ返す（笑）。

——じゃあ、今回も向こうが打撃で来たらやり返す、と。

吉田　でもそういうのは分かんないな。一発殴られたら、どっか殴り返してやろうとは思うんだけど。

——何か総合に入ってから思いっ切りパンッて入ったパンチってないですよね。

吉田　僕一回も殴ったことないですもん。

——そういう試合見たいですね。殴るのも見たいし、殴られるのも見たい（笑）。

吉田　みんなそれが楽しいんでしょうね。

——申し訳ないですけどそうですね（笑）。あのぉ、ところでポチっていうアダ名はどうして付いたんですか。

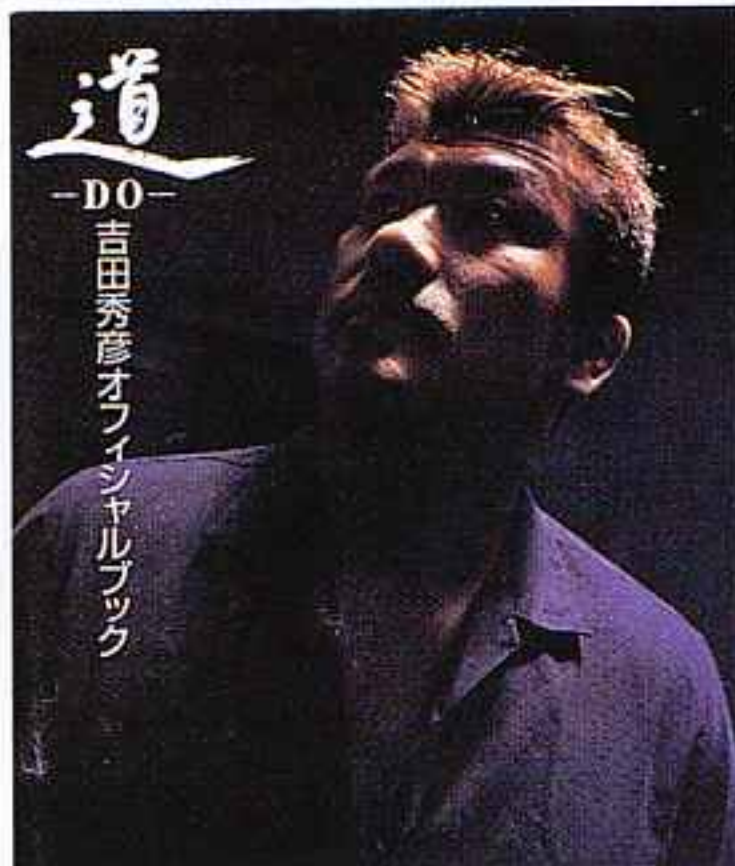
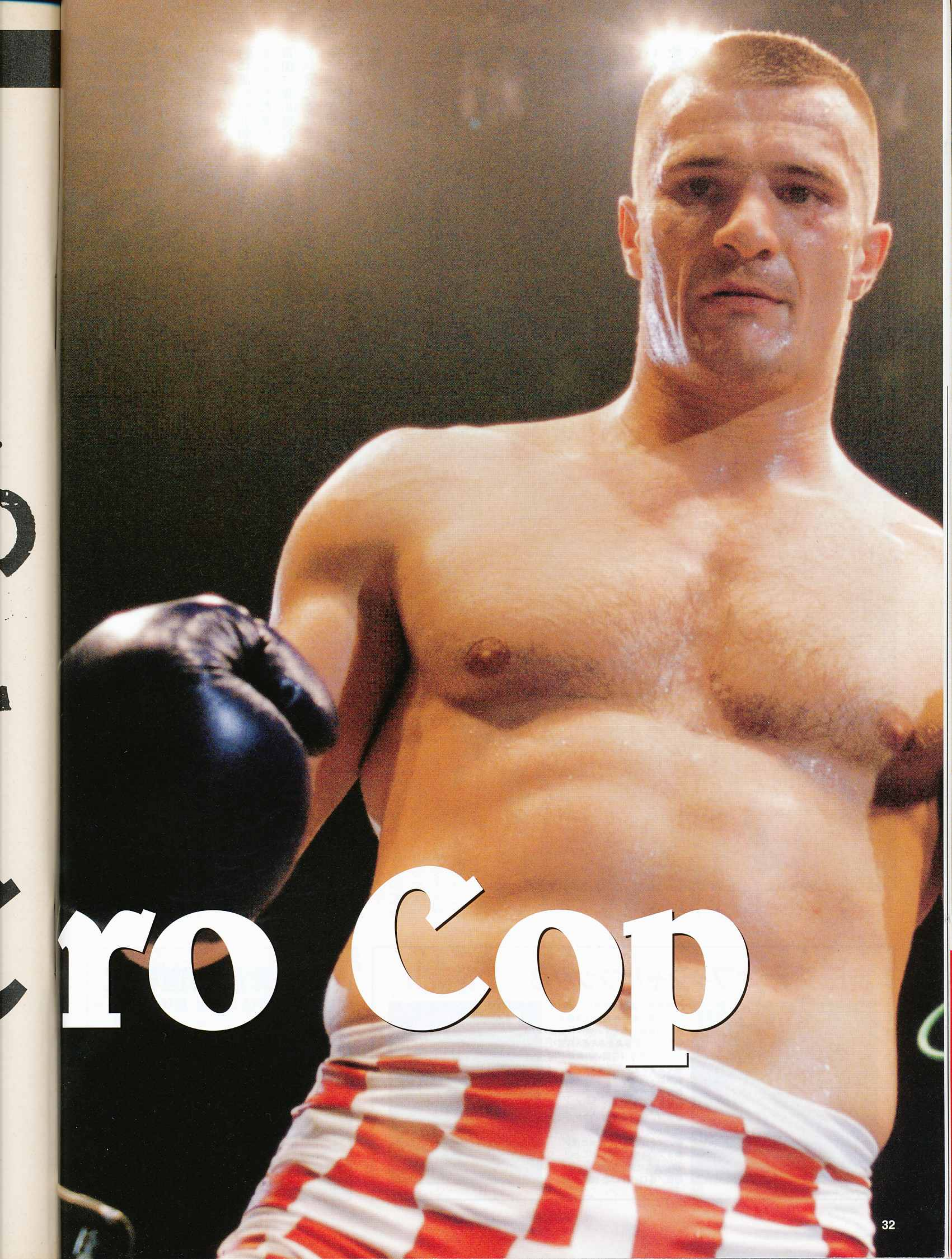
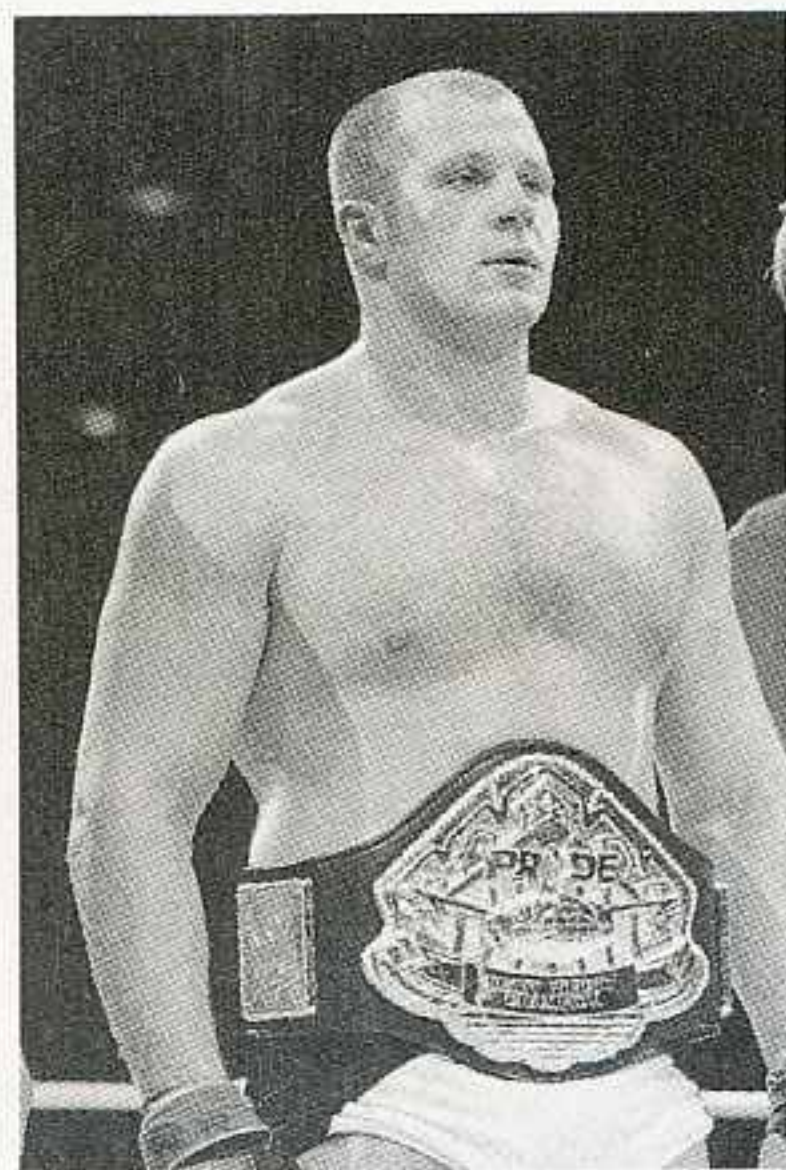
吉田　いつも動き回ってたから先輩に付けられたんですよ。ただ、いまはもう言われませんよ、大人ですから。

——でも、吉田Tシャツとか犬のキャラクターですよね（笑）。

吉田　いや、あれは犬好きだからですよ。ペットショップでもやろうかなぁ（笑）。

——グランプリの優勝賞金でぜひ実現させてください（笑）。

【7月11日／都内・J・ROCKにて収録】

よしだ・ひでひこ■1969年9月3日、愛知県大府市出身。柔道段位6段●学歴・弦巻中→世田谷学園→明治大学。得意技・内股、大外刈り●1992年バルセロナオリンピック78kg以下級金メダル●1998年講道館杯優勝●1999年世界柔道選手権大会 優勝●2002年ゴールデンハート賞受賞総合格闘技に進出以来、ホイス・グレイシー、佐竹雅昭、ドン・フライ相手に無傷の3連勝。8・10『PRIDEミドル級GP』一回戦で田村潔司と激突！

ro Cop

哀しい事だがK-1の権威は堕ちてしまった……
もう命を削ってまで出て行く気になれない。
だから、今年のWORLD GPに出るつもりはない!

俺はヒョードルの首を狩りたい!!

Mirko C

ミルコ・クロコップ

待望の『PRIDE』本格参戦をスタートし、今や格闘技界の最重要人物となったミルコ・クロコップ。8・10『PRIDE』参戦も決定し、その注目度は増すばかりだ。そんなミルコに本誌は関係者を通じて独占電話取材に成功! すると、ミルコの口からは次から次へと衝撃的な言葉が発せられた!

なお、このインタビューはボブチャンチン戦が正式決定する前に行っております。

構成／編集部
試合写真／乾晋也
designed by matsu(Two three)

「K―1と『PRIDE』の両方を制覇したい！」

ミルコ・クロコップが前人未到の大計画を掲げて参戦した『PRIDE・26 REBORN』（6月8日、横浜アリーナ）。その際、ミルコは『PRIDE』ヘビー級トップ3の一角であるヒース・ヒーリングに完勝し、その圧倒的なる強さを満天下に轟かせた。

そのミルコが、今度は国際電話でのインタビューで通訳を通じて、超ド級の爆弾発言を連発したのである！

ミルコの口から次々と発せられる驚くべき"衝撃"の数々。まるで映画『ターミネーター3』の公開に合わせたかのように、クロアチアのターミネーターは静かにゆっくりと話しはじめた……。

K―1に対して

「哀しいことだが今のK―1は、自分が命を削るような鍛錬、トレーニングをしてまで出て行く権威がなくなってしまった。まず6月のK―1JAPANを見たかい？ K―1はサーカスじゃないんだ！」

確かにあの日のK―1はすべてが狂っていた。まず、ジャパン軍vsサップ軍の第1試合に登場した、武蔵の相手であるモンターニャ・シウバが、それまでのクリーンなファイトとは一転して2ラウンドに入ると、突如として反則暴走。大会終了後、谷川イベントプロデューサーは「何も知らなかった」と言っていたが、「その体質自体が問題」という関係者も多く、業界全体に波紋を呼んだ。

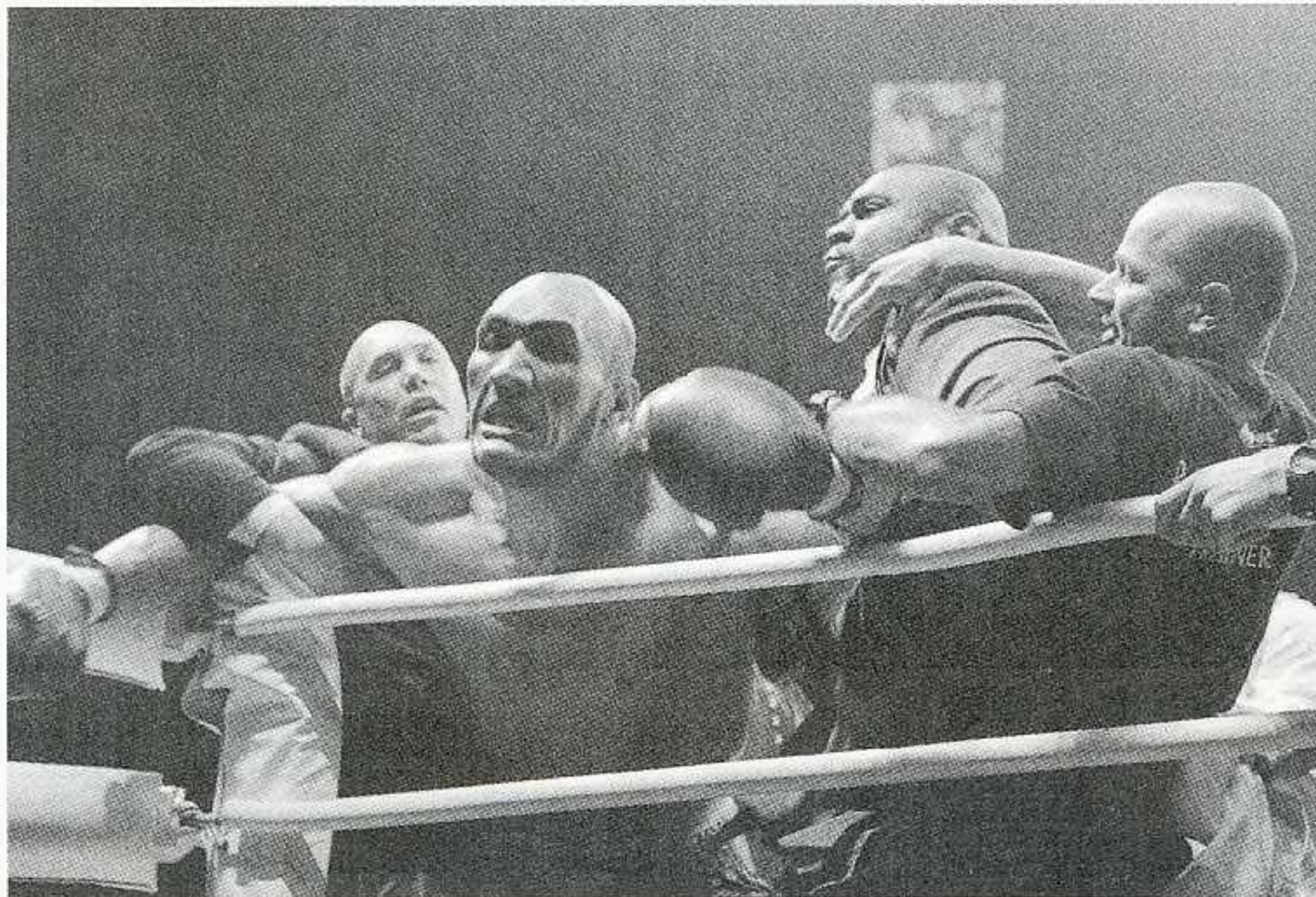
「とにかく武蔵の相手は飛んだ茶番劇をやりやがった！ あんなのK―1のクオリティを見せられるマッチメイクがなくなって、苦しまぎれに"無理矢理"ボブ・サップの2匹目のドジョウを狙ったんだろ？」

さらにミルコの鉾先は、あの日、最も注目された、TOA vs中西学戦にも及んだ。

「なんだい、あれは？ 素人にあんなことをさせて、もし死んでしまったら、K―1という舞台そのものを汚すことになるじゃないか。そこをまず考えるべきなんだ」

こうなるとミルコの激白は止まらない。

「今のK―1が自分が出ていた頃のK―1でないことは明らかだよ。K―1が昔のように、立ち技最強を目指す者がしのぎを削る場に戻らない限り、自分が無理をしてまで出て行く気持ちにはなれない。だから、当然今年のK―1WORLDGPに出る予定はないよ」

キッパリとそう言い切ったミルコ。

Mirko Cro Cop

K-1が"ビックリ人間大集合"と化して各方面で物議を醸した6・29K-1 BEAST。特にモンターニャの反則暴走や、TOAの消化器などは、K-1による"組織ぐるみの犯行"との声もある。

6月のK―1JAPANを見たかい？ とんだ茶番をやりやがって K―1はサーカスじゃないんだ！

しかし、話を聞いていくと、ミルコがK―1に上がりたくない理由は、今年に入ってからのK―1の暴走だけが理由ではないようだ。

ミルコは言う。

「そもそもWORLD GPのような、トーナメントシステム自体にそろそろ限界が来ているんだ。やはりトップファイターになればなるほど、1日3試合を闘う形式というのは成り立たないんだ」

この言葉は、ある視点から見ると、「ミルコの超人追求への放棄」とも取れる。だが、ミルコの言い分はそれとも違うらしい。

ミルコの言葉を続けよう。

「まず、今のジェロム・レ・バンナを見てほしい。彼は右腕を骨折し、まだそれが完治しないまま、あのリングに上がっているだろう？ しかも、あのケガは一昨年の末、東京ドームの2試合目マーク・ハント戦で負ったときのもの。それなのに決勝でもう1試合アーネスト・ホーストと闘い悪化させてしまった。選手のことを考えれば、あれは主催者が止めるべきもののはず。でも、実際はその逆さ。決勝戦がなくなってはイベントとして成り立たなくなるから、出ざるを得なかったんだ。

自分にしてもそうだよ。確かに俺は99年のWORLD GPでは決勝まで進んだ。でも、あの時点ではすでにろっ骨を骨折していたし、翌2000年10月に福岡で行われたWORLD・GP出場権を賭けたトーナメントでは、1回戦のグラウベ・フェイトーザ戦ですでに足首が壊れていたんだ。しかし、そんな状態でもイベントのために棄権は許されず、決勝でマイク・ベルナルドにTKO負けを喫してしまった。満足に闘えない状態のファイターたちが闘うことに、いったいなんの意味があるのかな？」

ここまで聞くと、ミルコの言い分は間違ってはいないことがわかる。確かにその日の体調によっては、完全に五体満足な状態でリングに上がれるかどうかはわからな

「『PRIDE』の中心選手」であることを誇示するかのように、あのイズマイウ以上の好ポジションで写真に収まるミルコ。ヒョードルとの“究極の頂上対決”実現はいつか?

いが、骨折や靭帯が損傷したまま、リングに上がり続けた上で『世界最強』が決まったとしても、「果たしてそれが『世界最強』なのか?」という疑問は残るからだ。

しかもミルコは、K—1WORLDGPの掲げる、その『世界最強』にも一言あると言う。

「あのトーナメントを『世界最強』と言うけど、その割に〝運〟やマッチメイカーの政治的な背景が強すぎないかな? 特に一昨年の末、ジェロムが初めてVTの試合をしただろ? (安田忠夫戦) あの頃からその思惑が強くなって行ったんだよ」

では、本当にミルコはこのままK—1のリングに戻ることはないのだろうか?

1日3試合はナンセンス! ワールドGPには〝運〟や政治的な背景が強すぎる!

「だって今年もWORLD GPの優勝はアーネスト・ホーストだろう? (笑)。確かにホーストにだけはリベンジしてないから、強いてあげればそれは心残りだね。ただ、毎年K—1では春先にワンマッチの大会を組むじゃないか。実際、自分は去年の春先にはその前の年にWORLD GPで優勝したマーク・ハントと闘ったし、今年の春先にはボブ・サップと闘った。だから、もし自分がK—1に出るとしたら、今年のWORLD GPで優勝したホーストとなら、試合をしてもいいなと思うね。そこでどっちが強いか決めればいいじゃないか。1日に3試合やるなんてナンセンスだよ。さっきも言ったけど、自分の『運』を実力以外の部分に委ねることはしたくないし、そんなものはまったく信じてないね」

そしてミルコはK—1に対する、今の率直な気持ちをこう話した。

「とにかく武道精神を忘れないでほしい。それを熱烈に言いたいよ。ミドル級のトーナメント(K—1WORLD MAX)は良かったそうじゃないか。その部分ではまだ可能性はあるんだからね。ただ、自分がK—1に出るとしたら、K—1が原点に戻ってからだよ。というか、今のK—1は主催者側と観客の求めるものの間にズレがあると思うな。だから自分としては、今からホーストとの春先の大一番に向けて、K—1の原点回帰に期待してるよ」

『PRIDE』に対して

今まで主戦場としていたK—1を離れるということは、やはりミルコの主戦場は必然的に『PRIDE』になっていくのだろうか?

「もちろんそうなるだろうね。今は『PRIDE』のイベントのクオリティの高さ、熱を肌で感じて、そっちの方に興味があるから」

『PRIDE』を主戦場にしていく、ということはつまり……?

「チャンピオンである、エメリヤーエンコ・ヒョードルの首を取りたい! ただし、決して彼の実力を侮っているわけじゃないよ。ヒョードルはまだ我々に見せていない技をかなり持っているだろうし、おそらく最もキツい相手になることはわかっているから」

ヒョードルvsミルコのスーパーカードは、11月9日の『PRIDE』東京ドームでの実現が噂されているが?

「自分としてはセットアップされれば、そこで闘いたいという気持ちが強いね。それを考えたら、やっぱり（秋から年末にかけて行われる）今年の『K—1 WORLDGP』には実質的に出られないじゃないか」

これはあくまで仮の話だが、当日行われる『PRIDE』のミドル級決勝戦に、ヒョードルvsミルコの一戦が加わったとすると、これはドームが炎上することは間違いがない。そう考えると、俄然『PRIDE』が楽しみになってきたが、そもそもミルコの意識の中で、『PRIDE』に対してのモチベーション（動機）が高まったのはいつからなのだろう？

これに関しては、ミルコのクロアチアのパーソナル・マネージャーであるルチッチ氏に話を聞こう。

「01年6月、ミルコはマイケル・マクドナルドに不覚を取って、K—1の本戦からハズれてションボリしてたんですよ。僕らは『気にするなよ。また次のチャンスはあるから』と言ってたんですけど、それがたまたま訪れることになったんです」

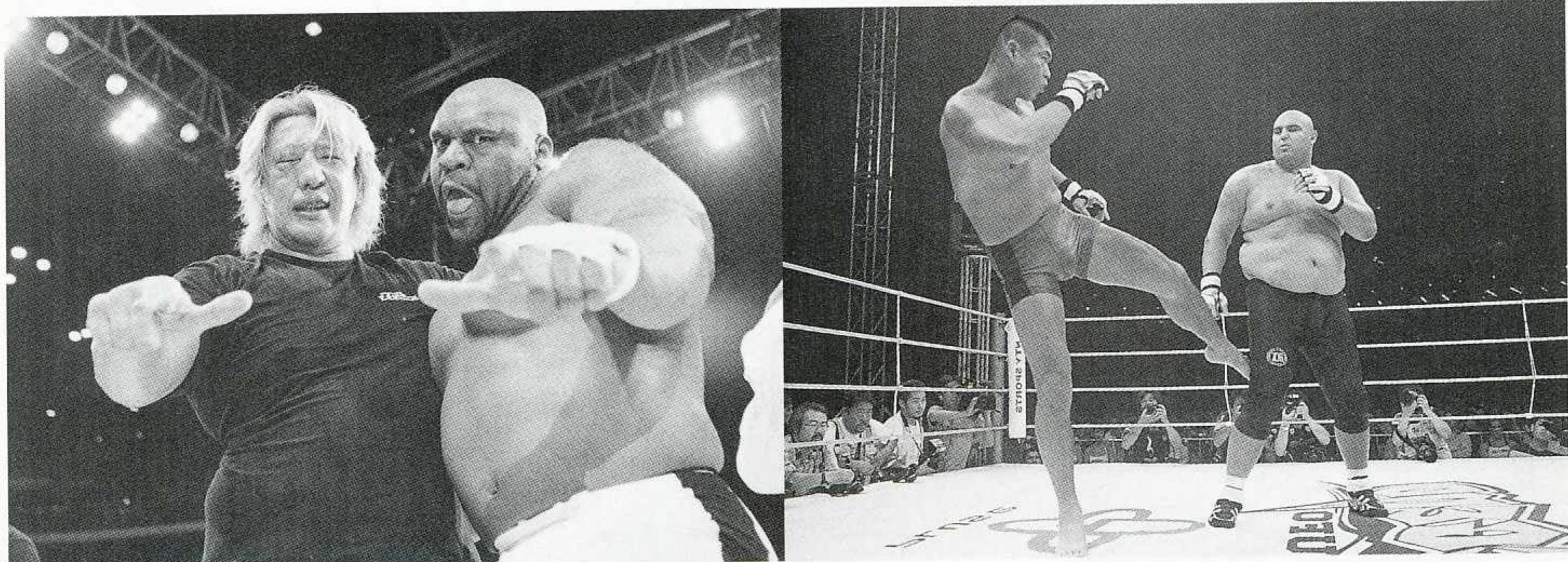
それがその年の8月に行われ、K—1 vs 猪木軍の開戦となった、K—1 JAPANでの藤田和之戦だった。

あの時、ミルコのヒザ蹴りで、藤田は左のコメカミ辺りから大出血。ドクターストップでミルコはVT初勝利を手に入れ、その〝衝撃〟にマット界は大揺れした。あの日から確かに現在まで続く「ミルコ神話」はスタートしたのだ！

ルチッチ氏は言う。

「ミルコは元々、身体能力の高いファイターでしたからね。しかも、あの時点のミルコの価値はK—1の中ではそれほど高くはなかった。確かに1度、WORLD GPで準優勝はしてますけど、例え藤田選手に負けても、それほどK—1のイメージは下がらない。逆に藤田選手はその時点でプロレスの現役の王者だったわけですよね？　それでもあの場に出てきた。藤田選手はたいしたものだと思いますよね。両足タックルを取りに行く早さは、今でも藤田選手がナンバーワンでしょうしね。実際、ミルコも『フジタはリスペクトしている』と言ってましたよ。ミルコはああ見えて、柔道やレスリングなど、他の格闘競技のトップファイターにも人一倍リスペクトの気持ちを持ってますからね」

ミルコvs藤田に関しては、もうひとつ面白いエピソードをルチッチ氏は教えてくれた。

俺にまだ〝プロレスハンター〟としての役割があるのなら、タカヤマ、オガワとの闘いを避けるつもりはない！

“プロレスラーハンター”ミルコの視界には、高山善廣、そして小川直也まで入っていた！　もし今年の大晦日にでも、このカードが実現したら大爆発間違いなしだろう。

『PRIDE・26』にミルコの師匠という形で、マイク・ベンチッチがアリスター・オーフレイムと対戦（※1ラウンド3分44秒、KO負け）しましたけど、結果的にあまりいいところがなく終わっちゃいましたよね（苦笑）。ただ、ベンチッチは稽古場王者みたいなところがあってね。練習ではホント強いんですよ。その点でいうと、ホント残念でした。でも間違いなく、去年の大晦日に2度目の藤田戦がありましたけど、あの時に藤田選手を完封できたのは、ベンチッチのおかげなんですよ」

何しろこのルチッチ氏はミルコのために世界中を飛び回った人物。ミルコに関しては他の誰よりその発言に説得力を感じる。

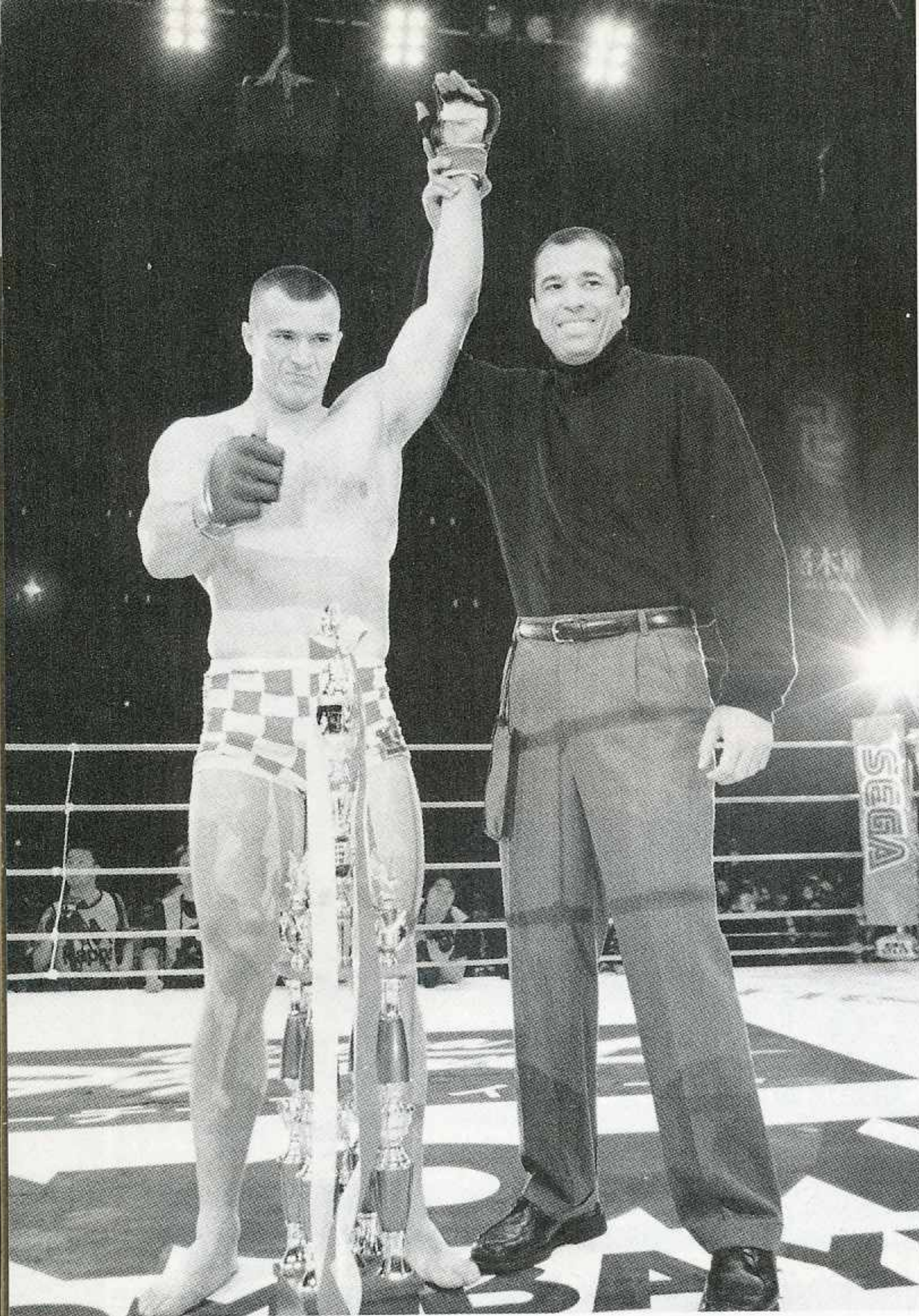
「最初の藤田戦の時、ミルコはロスにいるマルコ・ジャラのところでVT用の特訓をしたんですよ。今考えると急ごしらえでしたけど、あの時に今のミルコのマタドールの型。いわゆるタックルの切り方を覚えたんですね。それから、正直ミルコは『PRIDE・26』でヒースと闘うまで、10分という時間のルールを避けてきた。それは、時間が長引くと上に乗られる確率が高くなるからですよ。だから判定での決着というのも徹底して断ってきた。それが、去年の大晦日に2度目の藤田戦を退けたことで、自信がついたんでしょう。その自信が、vsヒースという試合につながるんでしょうね」

確かに、前回の『PRIDE・26』でミルコvsヒースが発表された時は驚かされた。

しかも、聞けばミルコは自分からヒース戦を志願したというのだ。

「確かにインターネット上だと、ヒースがミルコに勝つだろうという声は多かったと思うんです。実際、リスクはミルコの方が断然高かったと思います。ただ、ミルコと何度も話して行くと、『絶対に負けるはずがない』という結論に達したんです。負ける要素はひとつもないと。というより、ミルコの頭には3月に行った、サップ戦の後、すでにvsヒョードル、vsノゲイラがあったんですよ。だから、その二人と実際に闘ったことのあるヒースと闘って、その感触を確かめる必要があったんです」

ルチッチ氏によれば、「絶対の自信があった」と言うものの、それはルチッチ氏がミルコの練習に何度となく立ち合っているからに他ならない。

「僕はミルコのクロアチアでのトレーニングを何度も見ましたけど、ホント『凄絶』の

究極の目標は、『PRIDE』、K—1、UFC、そしてプロボクシングの世界ヘビー級王者になることだ!

一言ですよ。10分ラウンドを想定したスパーリングで、自分だけ何ラウンドも続けて、常に相手は変わっていくんですから。スタミナは抜群につきますよね」

さらにルチッチ氏はミルコに関して、驚くべき事実を紹介してくれた。

今年唯一のK—1での試合になる、3月のサップ戦での話である。

「去年のWORLD GPで、ホーストvsサップを2度やったでしょう。あの時にホーストは何度もサップの頭部へパンチを入れたけど、サップはビクともしませんでしたよね。だけど、ミルコはサップの目を狙って、パンチを適格にヒットさせましたよね。とっさに目をド突くっていう。あの辺の機転の利かせ方は、おそらくミルコのクロアチアでの経験から来てると思いますよ。御存知の通り、ミルコはクロアチアのテロ鎮圧特殊部隊の格闘技教官の肩書きも持ってますけど、昨年まで年に2回、3週間ずつ計6週間、ボスニアヘルツェゴビナ国境まで警備に当たっていたんです。そういった極限状態になると、確実に相手の急所を突いて仕留める必要がある。その技術がサップ戦で役に立ったのでしょう」

なるほど。いわゆる格闘技を超えた場所での鍛練、「常在戦場」の精神の賜物ということか。ミルコの全身から醸し出される独特の緊張感を生み出す一因につながっているのを裏づける話である。

Mirko Cro Cop

一昨年の大晦日。永田裕志を秒殺した後、ホイスに祝福され“髙田ポーズ”を決めるミルコ。遂に『PRIDE』のど真ん中に踏み出した、お前もやっぱり男だ!

vsプロレスラーについて

ところで、最初の藤田戦が顕著なように、今のミルコを形成してきたのは、vsプロレスラーに対して絶対の強さを見せつけてきた、という部分はだれも否定しないだろう。実際、藤田に次いで、髙田延彦、永田裕志、柳澤龍志、桜庭和志、さらに2度目の藤田と、ミルコは未だ、vsプロレスラーは無敗なのだ。

そして、いつしかミルコは完全なる「プロレスハンター」と成り上がってしまった。

これに関してもルチッチ氏が話してくれた。

「さっき言った、10分のルールを避けてきた話や、対戦相手の選び方にしても、自分をプロテクトしているチームが、ミルコの名前を上げるために、どうすればいいのかを考えてくれた、ということはもの凄く認識してますよね。やっぱりミルコ自身も、自分の価値を上げるには、とにかく負けないでいることの大事さはわかってるんです。かと言って、それは『勝ちにいかない』ということじゃないですよ。ヒース戦を見ても、キチンと勝ちに行ってますからね。ただ、逆にそういう部分が、K—1で勝ったり負けたりすることへの不信感だったり、WORLD GPというトーナメント方式への不信感につながるんですけどね」

ここで再度ミルコに登場してもらおう。ミルコは自分が「プロレスハンター」と呼ばれることをどう思っているのだろう?

「特別意識はしてないよ。自分はとにかく強い相手と闘いたいんだ。ただ、ファンが望むなら、そしてまだ自分に『プロレスハンター』としての役割があるのなら、自分はどんなプロレスラーとでも闘うよ。聞くところによると、日本にはまだVTもやるプロレスラーに、タカヤマ（高山善廣）とオガワ（小川直也）というファイターがいるそうじゃないか。それは“プロレスハンター”としては、避けられる相手とは思ってないからね」

まだ現段階でめったなことは言えないが、もしも諸事情がクリアされ、高山vsミルコ、もしくは小川vsミルコが実現したら、マジで大変なことになる!

ということで、最後にミルコ自身に、今後の計画を聞いて、この項を終わりにしよう。と言っても、いつの間にかここまであっと言う間にのし上がったミルコである。当然、壮大な計画を思い描いているだろうと思ったが、やはりそうだった!

「ヒョードルに勝ったら、UFCのヘビー級王者、ティム・シルビアとも闘いたい。それにも勝ったら、今度はプロボクシングのヘビー級チャンピオンにもなりたいんだ。春先にはホーストにも勝つ予定だしね（笑）。『PRIDE』のヘビー級トーナメント? ヒョードルに勝った場合、ベルトを持ってるのに1回戦から出なきゃいけないのかい? まあその辺は今の段階で言ってもしょうがないだろう。とにかく自分はコンプリート（完全なる）ファイターを目指しているのさ!」

常に目標を高いところに設定するミルコ。

「とにかく自分が立つリングに妥協はしたくないんだよ」

こうなると、ミルコの“衝撃”はまだまだ終わりそうにない。

果たして、ミルコの前人未到は本当にまだ、単なる序章に過ぎないのか……?

PRIDE・男塾生の加入も歓迎します！
死ぬ気がなくても大丈夫！

お前も入るか、「紙プロHand」!!

携帯サイト「紙のプロレスHand」好評配信中!!

お仕事・つきあい・妹の結婚式・法事・貧乏・寝坊・逃亡中等の理由で
当日観戦不可の方に耳より情報!!

『紙プロHand』では、8・10『PRIDE・ミドル級GP』をリアルタイム速報します!!

黒師無双登場!! の8・10ZERO-ONE愛知県大会も、結果速報しちゃいま～す。
要チェック!!

大好評!!
中川雅博画伯の
イラスト待画も
毎月更新!!

SAKATA WATARU
TAMURA KIYOSHI
U-FILECAMP.COM

©中川画伯

Menu

1. ★メルマガ配信
毎日の更新状況、ニュースをお知らせ！

2. ★メインニュース
毎日の事件、ニュース、大会詳報をどの携帯サイトよりも詳しく面白く親切に、かつ迅速にアップ（いや、これホント）!!

3. ★試合結果速報
マット界要注目のビッグマッチ、注目団体の大会結果をここからチェック!!

4. ★団体別トピックス
『紙プロ』認定要注目団体の細かな情報を随時アップ!! 気になる団体のみチェックOKなので、パケット代も節約できる！
「PRIDE」「総合格闘技系」「K-1他立ち技系」「全日＆WRESTLE-１」「新日・NOAH」「ZERO-ONE」「闘龍門」「ＷＪ」「女子格闘技&プロレス」「アナザー」

5. ★おすすめ団体ミニサイト
「ZERO-ONE」「闘龍門」「スマックガール」の特設ミニサイト!! 選手紹介、待画etcのお土産の他、スケジュール、情報もいち早く更新!!

6. ★仰天ふろく
その名の通り仰天の待画＆着メロコーナー!!　毎月１日が更新デー!!
◆今月更新の３曲は　ミルコ・クロコップのテーマ『ＷＩＬＤ　ＢＯＹＳ』、横井宏考のテーマ『Ｅｘｏｄｕｓ』、全日本プロレス中継のテーマを予定!!

7. ★紙プロ最新号情報
毎月、『紙プロ』発売日前に予告を掲載。『紙プロHand』会員じゃなくても、次号の表紙画像・内容をチェックできる！

Column

ボリュームたっぷり!!
読み応えバツグンの毎日更新コラム!!

日 ★『紙プロ』特選・今週の見所ガイド
毎週行われる大会の注目ポイントを、わかりやすく紹介!!

月 ★ｉ編集長(井上義啓)の喫茶店トークｉモード
喫茶店トークは携帯サイトでも絶賛営業中!!　携帯で井上節を感じろ!!

火 ★今週のステキな１枚
会見・試合写真、本誌のプチ予告、毎週写真つきニュースを公開!!

水 ★『紙プロ』いいとも！
『レスラー間で繋がる友達の輪、１カ月交代のレスラーコラム！ 第５回ゲストは空手狂・小笠原和彦!!　次の登場は誰だ!?

木 ★吉田豪の「入院させてよ！」
おなじみ『紙プロ』スーパーバイザー、吉田豪がマット界の１週間をブッた斬る!!

金 ★高瀬大樹のヒーローへの道
『PRIDE.25』で見事勝利を収めた虎キチ格闘家・高瀬大樹の魅力全開!!

土 ★どすこい『紙プロ』部屋
紙プロ電気部のささきぃ＆スモーノブ・紙プロ編集部の松澤チョロ・堀江ガンツ・ジャン斉藤が週代わりで送るコラム。取材・インタビュー裏話満載!!

? ★不定期更新　山口日昇の鬼畜日記
いまのところ更新は３回！ ただいま最終更新から４カ月経過中!!　次回更新はいつになるのか!?

ez-web料金変更のお知らせ

ＥＺ－ｗｅｂ版『紙のプロレスHand』は、７月１日から大きくリニューアルして生まれ変わり、現在の200円から315円に料金変更させていただくことになりました。いままでez-webユーザーの皆様にはごらんいただけなかった、ｉ編集長こと井上義啓氏・吉田豪・山口日昇（？）らの豪華コラムが読めるようになっている他、１枚あたり35円の課金がされていた待画は料金内で取り放題、着メロは月２曲までダウンロード可能になります！

★7月1日から
リニューアルメニュー（コラムあり）＆サービス＆お試し期間！　月額200円

★8月1日から
リニューアルメニュー（コラムあり）＆月額300円

7月中はサービス&お試し期間として、現状の200円でお楽しみいただくことが出来ます。8月1日からは、315円(税込み)の課金になりますので、残念ながらご退会されるという方は忘れずに7月中に退会のお手続きをお済ませください。

肝心かなめのアクセス方法

★iモード
iMenu ★ メニューリスト ★ スポーツ ★ 格闘技／大相撲 ★ 紙のプロレスHand

★ez-web
トップメニュー ★ 遊ぶ・楽しむ or インターネット ★ スポーツ ★ 格闘技 ★ 紙プロHand

★J-PHONE
メニュー ★ Jスカイメイン ★ スポーツ・レジャー ★ その他スポーツ ★ 紙プロHand

紙のプロレス
KING of MAGAZINE
KAMINO PRO-WRESTLING
Hand

CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

2003 NO.64

Main-Event

"男の中の男"なら決勝ラウンドに上がってこいや!!

U is DEAD!?

ペンタくんはUWFの光も消してしまうのか？

8・10『PRIDE』ミドル級GP

超異次元格闘技戦

構成／ジャン齋藤

designed by matsu (Two three)

吉田秀彦 vs 田村潔司

［柔道］ ［UWF］

選手&関係者が

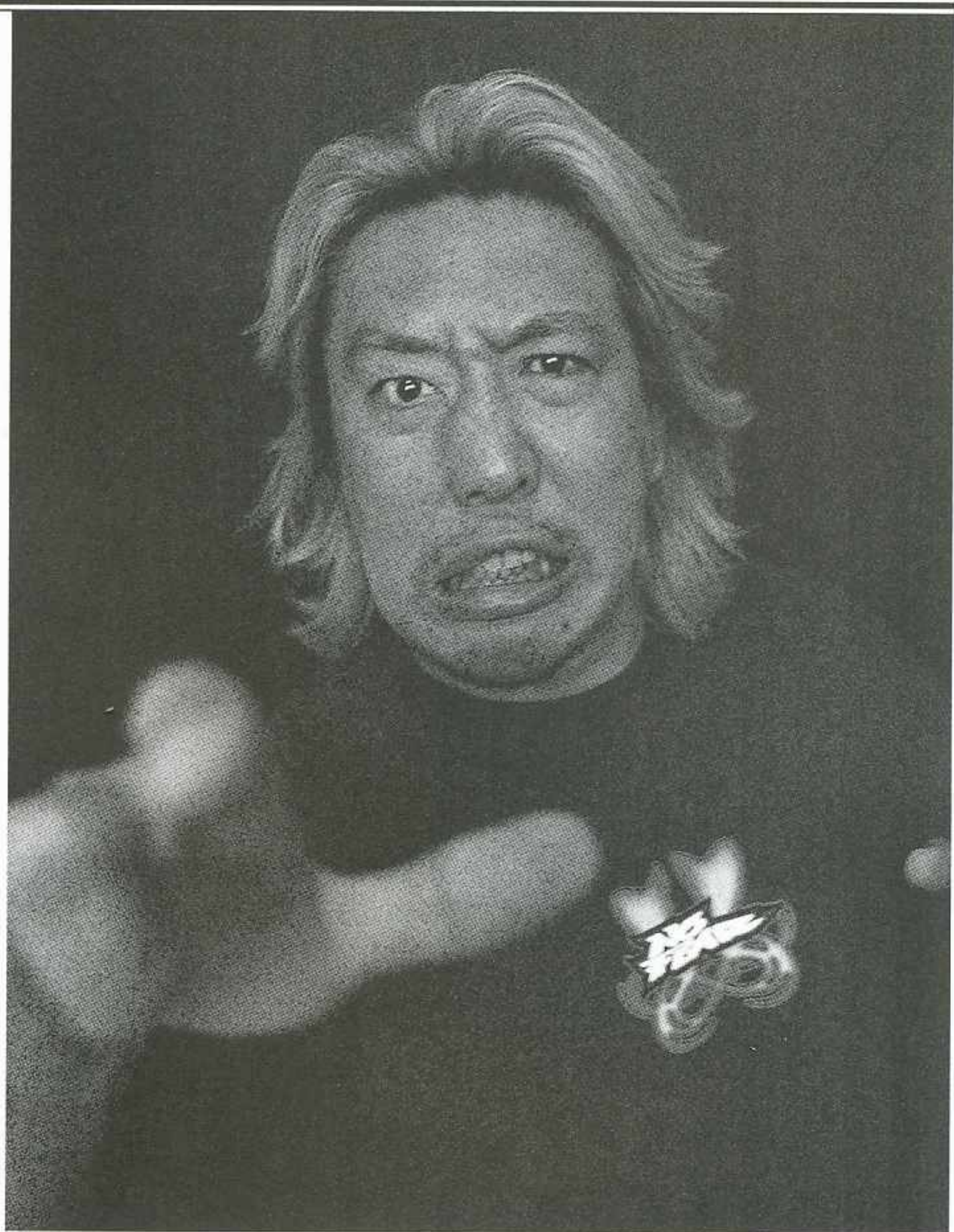
大予想!!

＋ひと足早い優勝者予想付き

UWFと柔道王がまさかの邂逅！ 前代未聞の超異次元格闘技戦となる田村潔司vs吉田秀彦は、豪華カードがズラリと並んだ『PRIDEミドル級GP』の中でも、一際異彩を放っている。そんな心臓バクバクモノの一戦を選手&関係者が大予想ッ！ 赤いパンツか？ 白い道着か？ 紅白格闘大合戦がいま始まる！

IWGP&NWF2冠王

高山善廣

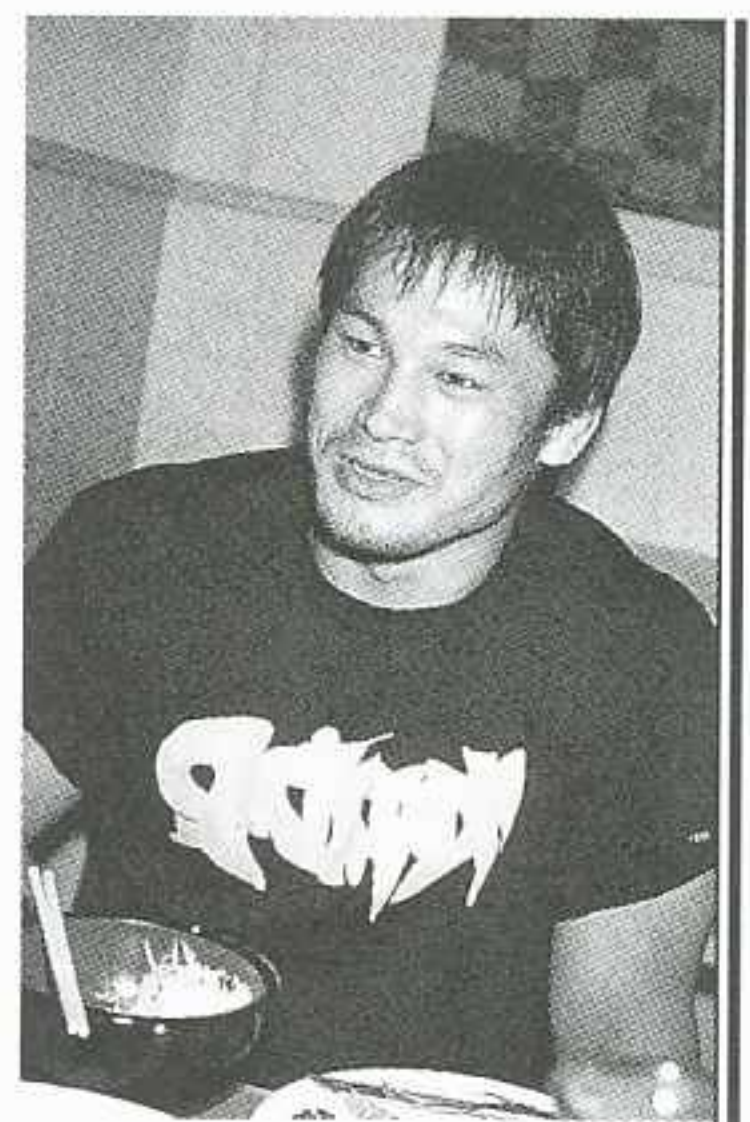
IWGP王者的好奇心
「G1をサボって見に行きたいぐらいの興味がある」

田村さんと吉田さんの対戦は、まったく頭になかったですけど、かなり面白い組み合わせですよね。もうなんと言っていいやらわからないですけど（笑）。

田村さんというと、唯一いまだに「UWF」というかんじですよね。サクはUWFというより『PRIDE』の顔だし、ボクなんか毒されてますから（笑）。

その田村さんが、柔道金メダリストと『PRIDE』という異種格闘技戦をやるんですから面白くないわけないですよ。まあ実際やったら、凄くつまらない内容になるかもしれないけど（笑）、期待感は凄いものがありますよね。

勝敗は難しいですよね……。吉田さんかなあとは思うんだけど、わからない（笑）。ただ、田村さんも勝負強さはあるんだけど、吉田さんの勝負強さとは比べものにならないです。吉田さんは勝利至上主義というか、さすが五輪で金メダルを取ったことだけはありますよ。その点、田村さんは魅了しながら勝つというのが身体に染みついてそうでね。高田さんの引退試合だって、あんな決着やろうと思ってできないじゃないですか。だから、田村さんが勝つんだったら、凄い勝ち方になるでしょうね。逆に吉田さんが勝つならアッサリいくんじゃないかって思います。

優勝もわからないですね。最近の勢いからすると、ランペイジが優勝しちゃいそうですけど。『PRIDE．GP』のマーク・コールマンみたいに、他が共倒れしてる間に勝ち上がるんじゃないかな。決勝戦も元気いっぱいで勝っちゃうかもしれないですね（笑）。

8月10日は、ボクはG1神戸大会に出なきゃならないから見に行けないんですよ。でも、去年、安田さんがG1サボって『LEGEND』に出ましたけど、今年は俺がG1サボって見に行きたいぐらいの興味がありますよ（笑）（談）

ブラジル遠征決定

美濃輪育久

無謀美的願望
「同じプロレスラーの田村さんに勝ってほしい！」

『PRIDEミドル級GP』は凄い楽しみですよ。凄い選手ばっかり揃いましたよね。でもボクは、その頃にはブラジルに行ってるんで見れないんですよ（笑）。

田村vs吉田戦ですか？　ボクは、どっちが勝つかっていったらわかんないですけど、個人的には田村さんとは前に闘ってるっていうのもありますし、やっぱり自分自身の意識の中では、田村さんのようにUWF、Uスタイルの血を引き継いだプロレスラーだと思ってるんで、そういう意味では同じプロレスラーとして田村さんに勝ってほしいです。優勝予想ですか？　ボク、出場選手全員ちゃんとわかってないんですけど（苦笑）、でも誰が優勝してもおかしくないんじゃないですか？　ボクも武者修行から帰ってきたら、こういったトーナメントの中に入って活躍できるようにブラジルで頑張ってきます！　ただ、ボクはミドル級とかヘビー級とか階級っていうのをブチ壊して、観客も自分も楽しめるような試合が出来るリアル・プロレスラーになりたいと思ってるんで。あくまでも自分は無差別で闘っていこうと思ってます！（談）

『PRIDE』統括本部長

髙田延彦

お前は男だ！　的大予想
「全員優勝ッ!!」（フジテレビ『SRS』より）

ズバ抜けた柔道のエリートである吉田選手、プロの格闘技界で叩き上げの田村。打撃では田村が若干有利かな。（吉田選手の道衣着用は）まったく、ズルくないです。逆に吉田選手ほどのレベルだからこそ、武器にできるんですからね。

（7月21日『PRIDE』トークショーより）

『PRIDE』ルールディレクター

島田裕二

混迷業界的宣言

「ボクは榊原代表に付いて行きますよぉ!」

田村vs吉田戦？　素晴らしいマッチメークだね！　タムちゃんがXとして最後の最後に出てきたっていうビッグ・サプライズと、吉田さんがミドル級GPに出てくるっていうダブルのビッグ・サプライズがトーナメントの1回戦から激突するっていうのは、正直もったいないよね。もったいないけど、そういうカードを惜しげもなく実現させるっていうのが、いまの『PRIDE』の勢いだろうね。

試合展開を考えると、サップvs田村戦みたいに、1Rから吉田さんがガーって攻めてきたらタムちゃんは詰められて投げられちゃうパターンも考えられるんで、タムちゃんはコーナーに詰められないようにレイ・ミステリオJr.のように華麗に舞って619を決めたり……あ、619はロープ掴むから反則かぁ。

まあでも、タムちゃんは、ローキックで足を崩していって得意の左ミドルへつなげるっていう作戦が一番いいだろうね。佐竹さんの二の舞にならないためには、タムちゃんは、いかに吉田さんの間合いに入らないで闘うかがポイントだね。

ただ、吉田さんもスタミナは不安だと思うよ。ただでさえ夏で暑いのに道衣着てるから余計に汗かくじゃん。しかも今回減量してるんで、きっと1ラウンドから勝負にくると思うんだよ。

予想するとすれば、短期決戦だったら吉田さんが有利だろうね。逆にタムちゃんは、2ラウンド以降、ローキックで足を崩していくってパターンが決まりだしたらいけると思うし。それにタムちゃんはヘンゾにも勝ってるし、リングス時代もタリエルとかデカいヤツと散々やってるし、金メダリストの吉田さんが相手とはいえ予想は難しいよね。ましてやバーリ・トゥードだし。まあ、どっちが勝つかわかんないカードだから面白いんだと思うよ。

優勝者かぁ？　やっぱり心情的にはサクちゃんに勝って欲しいよ。サクちゃんが引っ張ってきたから『PRIDE』がここまできたわけだし、ミドル級っていうブランドも、みんなが「桜庭と闘いたい」って、サクちゃんのクビ狙ってきて確立されたわけじゃん。そういう意味ではサクちゃんがドームのメインに立つっていうのが日本人が望むハッピーエンドだからね。

ただ、吉田さんとかランペイジ、ヴァンダレイとかは100キロぐらいから落としてのミドルでしょ。唯一、タムちゃんとサクちゃんだけが93キロないんで体格差って部分では厳しいところもあるだろうし、そういったものも含めて考えると、ランペイジかヴァンダレイの可能性は高いと思うよ。ヴァンダレイはミドル級王者としてのプライドもあるし試合も安定感があるからね。で、そのヴァンダレイでも侮れないのがランペイジ。パワーだけじゃなくて、ああ見えてスタミナもあるから。ケビン・ランデルマンがタックル取れないいま、誰がランペイジをテイクダウンするのっていうのが一番気になるね。

でもホント、8人誰が優勝してもおかしくないよ！　ただ、こんなこと言ったら立場的にいけないのかもしれないけど、やっぱりUFCから来たチャック・リデルには優勝してほしくないね。もしリデルが優勝したら、『PRIDE』勢で大同団結して、ラスベガスにリデルのタマ取りに行きますよ！　でもこれだけのメンバーが揃っただけでも凄いよ。ビバ、榊原社長ですよ！　ボクは社長に付いて行きますよぉ!!（談）

『お笑い男の星座2 私情最強編』絶賛発売中

浅草キッド

『お笑い男の星座』的宣言

「冷静に考えれば田村の勝機は薄いが、冷静さを欠いてまで熱狂的に田村潔司の勝利を信じる!」

冷静に考えれば多分に田村の勝機は薄いのだ。これは誰もが思うだろう。

吉田はとてつもなく強い。オリンピックで既にそんなこと証明済みだ。

プロに転向しても、吉田はホイスを破りグレイシー柔術、佐竹を破り空手、そして田村を破りUWFという三つのジャンルまでも葬り去ろうとしている。最強の柔道家は俺たちの最強幻想を打ち砕く夢狩人（田舎のスナック風）なのだ。

グレイシーも空手も吉田の前では単なる生贄だった。「UWFまで生贄にされてたまるものか!」で田村選手にはその気概を持って闘いに望んで欲しい。だから俺たちは冷静さを欠いてまで熱狂的に田村潔司の勝利を信じる。

勝った時の喜び、負けた時の落胆。俺たちの感情のどう転んでも田村の試合はその晩の酒の味を、美味いものにするか苦いものになる。この「赤いパンツの頑固者vs白い道着の頑固者」は平成版リアルU—COSMOSだ!

●田村vs吉田の試合展開

回転体の田村の攻撃も、吉田の柔道着のテクニックによって封じ込まれるだろう。

ってことは応援している田村は勝てないじゃん！　だって展開すら見えない。

だけど、吉田が勝って「名倉さん勝ちましたよ!」なんて、唐突にトンチンカンに言われるより、田村が勝ってリング上で「髙田さん勝ちましたよ!」と由緒ある台詞を言って欲しいのが、連続と続くこの大河ドラマのリングを長く見つめるファンの当然の祈りであろう。

●ミドル級GP優勝者

桜庭、シウバ、吉田、ジャクソン、リデル、どれも優勝できる選手だ。

でも、やはり優勝して一番嬉しいのは桜庭和志選手。

だけど、ここのところのシウバ、サップ、髙田とチョッと見損な役回りをしてきた田村潔司の大外から豪快にまくって優勝!（して欲しいが一番難しいだろう）

『市屋苑』主人

鈴木 健

元Uインター取締役的大予想

「柔道LOVE！」

今回のミドル級GPは、榊原さんと髙田さんが中心になって頑張っている『PRIDE』の新体制が、私達格闘技ファンに提供してくれた現時点での総合格闘技の超極上イベントであると言っても過言では無いと思う。

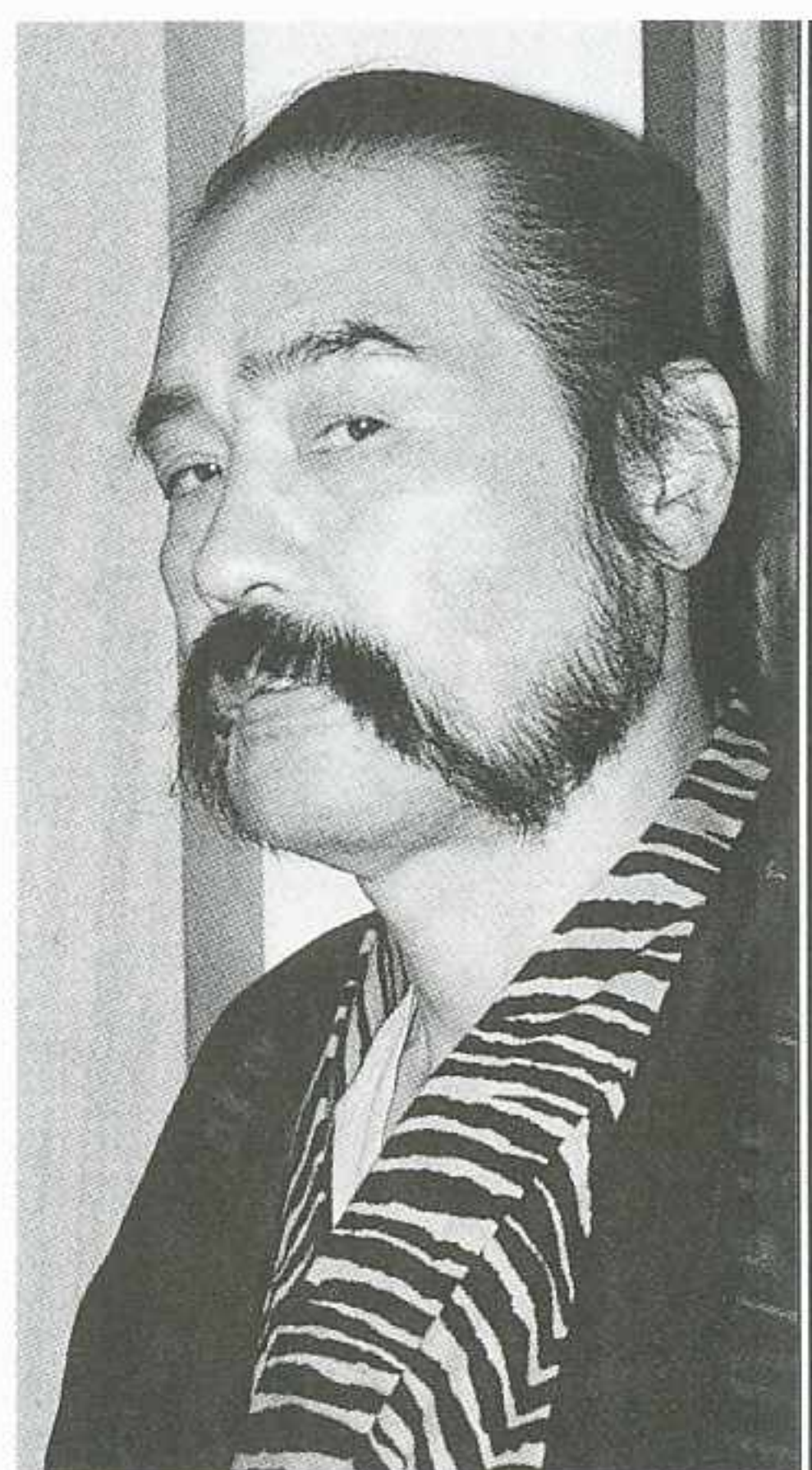
格闘技界がさらに人気をあげるためにも、やはり日本人選手に頑張って欲しい。だから1回戦でいきなり日本人選手のどちらかが消えてしまうのは惜しい気持ちもある。ただ、そう思いつつもかつて髙田さんとヒクソンの初対決が決定した頃の期待感がこのカードには有る。まさに夢の対決の名に相応しい顔合わせであり、しかも日本人同士の対戦というのが、逆に観る者の興味の度合いをさらに高めていると思う。

もちろんUインター出身で有り、現在、U－FILE CAMPのトップとして活躍している田村選手に頑張って欲しいことは当然のことだが、勝負として考えると、どうしても吉田選手に分があるように思う。たしかにプロとしてのキャリアは田村選手の方が長いし、そのキャリアの中で多くの実力者を打ち負かしてきたが、『PRIDE』ルールでの実戦経験は吉田選手とほぼ変わらない。

一方、柔道人口、そして柔道の歴史の長さ・厚さを考えると、そのトップ中のトップに立つ吉田選手の実力はハンパでは無い。また吉田選手はプロ転向後も、アマチュア時代の実績に負けない結果を残している。時間が長引けば田村選手にチャンスは訪れる。しかし、吉田選手は田村選手に何もさせない先手必勝の策に出るだろうし、予想としては、吉田選手の封殺と読む。

キングダム時代、髙田さんが引退する前に、次世代選手として欲しかった人物が、吉田秀彦とハンマー投げの室伏広治だった。2人の優れた身体能力は特筆物だと思っていたし、その上マスクも良くカリスマ性も併せ持つ逸材だと思った。ましてオリンピックの金メダリストの超身体能力は、あらゆる新しい技などの吸収も通常の人間の何倍も早い。総合格闘技の世界でも十分にやっていけると思ったので、真剣に2人のラインを探したが、両者に接触する前に、自団体の資金繰りが大変になり、団体崩壊と成ってしまった。特に柔道は、私自身、若い頃に数年間行い、今の自力と腕力、足腰の強さを頂いたし、それ相当の思い入れもある。柔道をやってる世界人口はプロレス、相撲、柔術などをはるかに超える大きな山である。そして、その大きな山の頂上にいた人物が吉田だ。日本の警察がなぜ柔道を取り入れているか？ 昔、それを決定するために柔道対柔術の5対5マッチを行い、柔道が勝ち越して、警察は柔道を採用した。

その後、加納治五郎氏が柔道を世界に広めるために格闘技色抜群の柔道をルール変更し安全なスポーツへと変え、オリンピックで採用されることになったが、柔道は本来、スポーツではなく格闘技だったのだ。だからこそ、吉田はプロ転向後、柔道本来の技術を生かして圧倒的な勝利を掴んでいる。元々は相撲を学んでプロの世界に入った田村は、数多くの強豪選手と闘ってきたが、柔道の、そしてオリンピックの金メダリストで道衣を着た者と闘うことは初めて。それも吉田有利のポイントとなっている。道衣が闘う上でいかに重要か、吉田はこの田村戦でも、その秘密の一端を垣間見せてくれるはずだ。

優勝者に関しては1回戦を見ていない段階では予想が難しい。田村選手、そして同じUWFインター出身で髙田道場所属の桜庭選手達には絶対的に優勝してもらいたいことは当然の話だが、桜庭選手は今回が復帰戦ということもあり、仮に1回戦を突破しても、相手がシウバだけに無傷で乗り切ることは難しいと思う。2回戦の組み合わせにもよるが、1回戦の田村選手を倒せば、そのまま一気に吉田選手が準決勝、決勝と駒を進めて優勝を手にするのではないか。

哲人的大予想

「吉田の寝技の前には、田村はまったく動けない」

日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

田村選手が吉田選手との対戦を決意したのは、「柔道の金メダリストを闘ったらどうなるか？」っていう興味があったんだと思うんですよ。吉田選手も田村選手と闘うことによって、プロレスファンに知られる効果あると思ったんじゃないですか。

試合展開は、寝技のテクニックが勝負を決めるんじゃないかと思います。ただし、田村選手が勝てるポイントは、寝技に移行するときです。打撃戦から寝技に移るまでの流れの中で、田村選手がパンチでダメージを与えるとか、良いポジションを取るとかの優位な状況があれば展開が良くなると思います。そこが田村選手の戦闘エリアになりますね。そこで上手くいかないと、吉田選手が有利になりますよ。吉田選手の寝技は強いですから、田村選手の敗北が濃くなっちゃう。寝技になったら田村選手はまず動けない。吉田選手の寝技は、抑え込みで動けないようにしてから極めに入りますから、派手な攻防にならないで勝負が付くんじゃないですか。

吉田選手の道着も大きなポイントになってきます。道着を着てる場合、相手に道着を握られると動きづらくなるんですけど、抑え込みするときは滑りにくくなる利点があるんですよね。そこをどう活かすかによって勝負が左右しますけど、裸体でやってきた田村選手と、金メダリストの吉田選手とでは大きな差がありますからね。吉田選手が有利ですよ。

決勝に上がってくるのは、吉田選手とリデル、あるいは吉田選手とランペイジ。吉田選手は願望込みですけどね。やっぱり、吉田選手が、リデルの打撃やランペイジの並はずれたパワーをどうさサバくか興味がありますよ　（談）

元『週刊ファイト』編集長

井上義啓

I編集長的大予言

「吉田vs田村は“裏技勝負”になるでしょうな」

田村vs吉田一番の問題は、吉田の減量がどう影響するかでしょうね。みんな「減量」「減量」と簡単に言うけど、プロレスとバード（VT＝井上用語）では訳が違いますよ！（ドン）。こないだK－1で富平とやったレイ・セフォーなんか見てみぃ！　セフォーが10キロも減量したから、あそこまでスタミナが落ちたんだからね、アレ！

まあ、そこら辺のことを差し引いても、吉田の勝利は動かんでしょうね。6：4で吉田ですよ。というのは、どう考えてもみても、吉田の方が“裏技”を知ってると俺は睨んでるんだよ。それに吉田は田村を研究してると思うけども、田村の方は「新しい吉田」をわかってないと思うんだよな。そこがこの試合のミソですよ。「新しい吉田」とは何かというと、つまりパンチキックですよ！　それが決め手になると俺は見てるけど、さあどうなるか？　俺もアーダコーダ言うとるけども、一発やってみんことには試合経過なんかわかりませんよ、そんなもん！　髙田んときみたいに、田村がボガ～ンと入れるかもしれんしな。

優勝者に関しても先の話だから何とも言えんけど、桜庭はシウバに勝ち目ないと思うけどな。やっぱりね、勢いというのがあるからね。桜庭は最近は負けが込んでるでしょ。一旦落ち目になったら、もうどうにも止まらない。どうしようもないですよ、バードファイターは。これがプロレスだったらね、ハルク・ホーガンがミスター・アメリカに変身したりして「YOU！」「YOU！」言えますけど、そうはいかんからね！　唯一、桜庭が勝つとすれば、どんな秘密兵器を編み出しているかに尽きるでしょうな。みんなが「アッ!?」と言うような秘密兵器が飛び出せば、なんとか判定で勝つこともありますよ。

最後に俺が一番言いたいのは、1日に2試合やるのはわかりませんよと。たとえば、桜庭がそうだったじゃないか！『PRIDE.GP』でホイスに勝った後に、普通だったらボブチャンチンとは闘えないですよ。プロレスでワーワーやってるなら、俺も黙って見てますけど、バードは黙ってられませんよ！（ドン）。3大会で優勝者を決めるのが、一番理想的だと俺は思いますけどね（談）

ヒクソンのマブダチ

桜井章一

伝説の雀鬼的予想

「吉田の根っこに田村は勝てない」

田村と吉田、勝つのは吉田選手だろうな。田村選手も技術を持ってるんだろうけど、吉田選手の基本にあるモノというか、やっぱり根っこにある柔道は強いですよ。とはいっても、吉田選手も総合の世界では、よくわからねえところはあるよな。ホイス、ドン・フライや佐竹選手の試合を見る限りではね。それでも吉田選手が勝つと思う。俺は田村選手に本質的な芯の部分での弱さを感じることもあるからさ。まあハイアンよりは全然、いいよ（笑）。田村選手の方が出場する力量は持ってますよ。

今回のGPは、心情的には桜庭選手に優勝してもらいたいな。やっぱり、いまの『PRIDE』があるのは彼の功績が大きいからね。だけど、桜庭選手は、かつての勢いや運がなくなってるから、ちょっと難しいかもな。勢いってのは勝負事でかなり大切になってくるからな。そう考えると、来るのはジャクソンじゃねえか。コイツは肉体的だけじゃなくて、内面的な強さを感じるし、上り調子で勢いがある。あとシウバも来そうだけど、ヘビー級のヒョードルやミルコ、ノゲイラみたいに飛び抜けた実力を持ってるわけじゃないよ。日本人の3選手はちょっと落ちるけど、紙一重の世界。当日のコンディション、精神状態が大きく左右してくる闘いだな。リング上で向かい合ったとき、勝ち負けが見えてくると思いますよ。勝負の世界とはそういうものです（談）

天下一Jr.王者

坂田亘

天下一的大予想

「アニキが吉田にプロの洗礼を浴びせてくれると思うよ」

アニキ（田村）はずっとこの世界で生きてきたプロの人間だからね。吉田選手にプロの洗礼を浴びせてほしいよな。大体、吉田選手って、基本的に考え方がアマチュアだろ？　プロとして魅せることはできないじゃない。まあ別に求めてないんだけどさ、アニキとやることによって、吉田選手はいい勉強になると思うよ。プロの世界はそんなに甘くないってことがわかる。もちろんアマチュアの世界も甘くなかったとは思うけど、軽い気持でやったら、この世界にいられなくなるよ。勝敗に関して言えば、2人の体重差はやっぱり大きいよな。アニキは普段84キロぐらいでしょ。吉田選手は100キロから落としてくるわけだからね。でも、勝つのはアニキ。願望というか、希望も込めてね（笑）。とにかく吉田選手にプロの洗礼を浴びせてほしいな。いい結果出したら誉めてあげる（笑）。優勝？　一回戦終わってみないとわからんけど、ランペイジとかの可能性が高いんじゃない？　肉体的な強さが凄いから。でも組み合わせによっては、どう転んでもおかしくないメンツだよな。ところで、山口さん、また失踪したんだって？　そっちの行方も凄く気になるよ。ガッハッハッ！（談）

Uインターの頭脳

宮戸優光

宮戸味徳的大激励

「勝負は時として負けることもある。しかし、田村潔司は絶対勝たねばならない」

田村潔司選手の『PRIDEミドル級GP』への参戦が決定した。

しかも一回戦の相手は、あの元オリンピックの柔道金メダリスト、吉田秀彦選手だと言う。

ファンの皆様にとっては、興味津々の、たまらないカードだと思うが、私にとっても、他人事ではない、大変なカードが決まってしまった、というのも正直な感想だ。

この試合への私の思いを語らせてもらうと、まずタムちゃんは私にとってU.W.F.、そしてUインター時代からの仲間であり友人である。

いつもの試合と同じく友として勝ってもらいたいと言うのが私の気持ちである。

しかし、今回の試合は「勝ってもらいたい」という普段の友としての感情以上に「田村潔司は絶対勝たねばならない」という、プロレス界の人間としてタムちゃんに敢えてプレッシャーを与えたい。

何か偉そうだと思われそうだが、この試合は田村潔司vs吉田秀彦という枠を超えて誰もが絶対、プロレス対柔道、あるいはU.W.F.対柔道と見ているはずである。

勝負は時として負けることもある、それは仕方がない。

しかし、絶対負けてはいけない闘いもまたあるのだ。

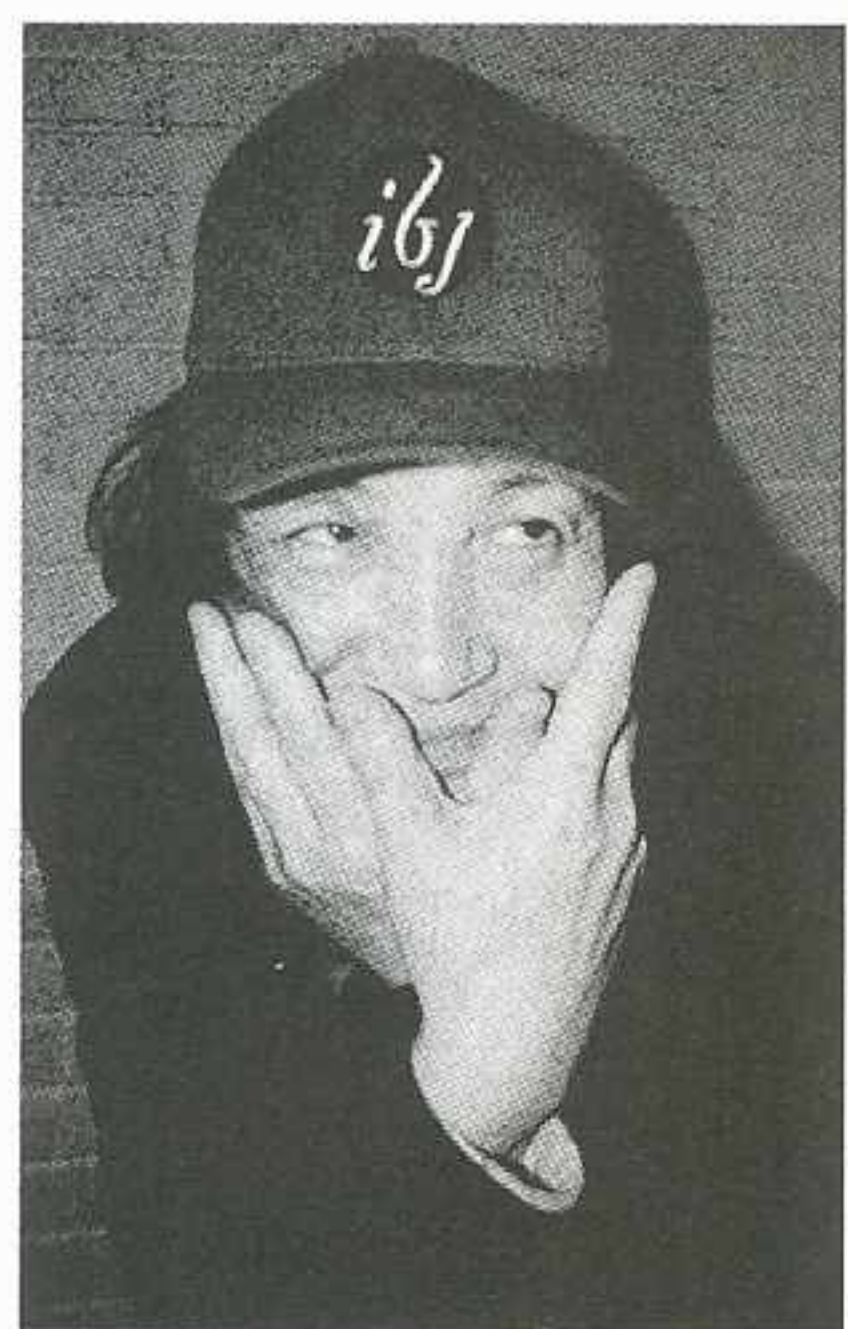
タムちゃんにとって、そしてプロレスにとって正にこの試合がそうだろう。

タムちゃんには「必勝！」の思いでいってもらいたい。

かつてのパトリック・スミス戦、ヘンゾ・グレーシー戦、あの時の様な気持ちでいけばタムちゃんは絶対に負けない。

「タムちゃん頑張れ!! プロレスラーの強さを見せてくれ!!」

（U.W.F.スネークピットジャパンHP『ちゃんこ番長！ 宮戸味徳のマル秘グルメ情報』より転載）

【URL】http://www.uwf-snakepit.com/

一揆塾塾長

ターザン山本

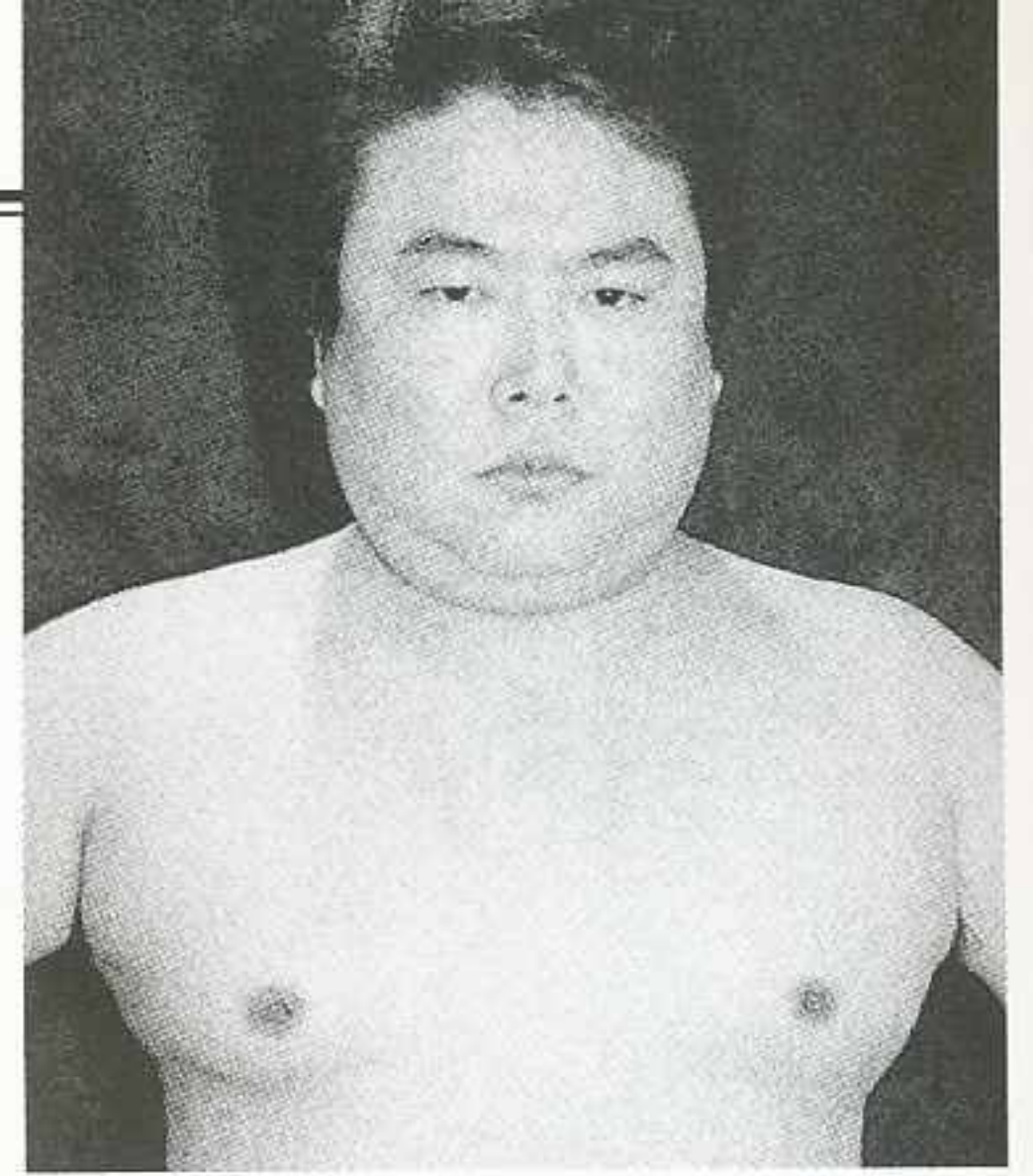
快楽的大炎上

「過剰にヒネくれた田村がたまらないんですよオオオ!!」

田村vs吉田の見どころぉ？ そんな見どころなんかあるか、そんなの！ だって、これは試合にならないよ。そして、試合にしないのが田村の戦略なんですよォ！ これを通常の試合にしてしまったら、田村はすべてを失う。それは田村もわかっている。要するにぃ、吉田戦はボブ・サップ戦と同じ結果になりますよ。サップ戦は試合になってないでしょ？ 田村はパッと負けたでしょ？ 試合後「おかしいなあ」って頭を掻いたでしょ？ あの戦法ですよォ！ 今回の吉田戦も、ボブ・サップ戦的にすぐ負けてしまうわけだよ。俺だったらそうする。なぜなら、そうした方が目立つからですよォオオ！

だってね、相手は世界チャンピオンだよ。地球規模的人口の競技の頂点に立った男だよ。かたや田村はさ、ものすご～くミクロでマイナーところで美しい神話をつくった男。どうやって勝てるんだよ、そんなもん！ もう田村からすれば吉田秀彦なんてまぶしいかぎりの存在。まばゆい光を放ってるわけ。次元が違うわけですよ。その次元の違う者とやりましたよという田村のヒネくれた表現が、ボブ・サップ戦的負け方。これだけ話題を集めてさ、試合をパッと終わらせて傷つかずにスッと消える。美味しいとこ取りというか、試合以外のところで田村的な過剰さを表現してるんだよな。で、美濃輪戦とかになると、とことん嫌らしいというかさぁ、底意地の悪い勝ち方するんだよなあ。執念がいい味を出すんだよねえ。

そんな二刀流を使い分ける田村というのは、稀にみるプロレスラーですよ。いまのマット界でプロレスラーと呼べるのは、滅茶苦茶プロレスに屈折している田村か、滅茶苦茶プロレスにストレートな佐々木健介だけ！ 俺から言わせれば、この2人がプロレスラーの両横綱ですよォオオ！ 田村なんてさぁ、女が色目を使うような思わせぶりなことしといてさ、こっちが寄っていったら「そんなんじゃないわよ」ってどっかにいっちゃうみたいなもんだろ？ それがぁ～、たまらないわけよ！ キャバクラにたとえるとぉ、そんな女に振り回されながも好きになってぇ、また店にいっちゃうんだよな。クゥ～ッ！ それに比べて、一点の曇りもない健介！ あ～れは長州が好きなわけだよ！ 愛してる理由がよ～くわかる。健介は過剰に素直なんだよ。そしてぇ、過剰にヒネくれた田村！ プロレスラーとして、圧倒的な過剰性を持っているからこそ、記憶に残る。確実に生き延びてニーズがあるんですよ！ 戦績は大したことないんだけど、田村神話は細々と輝いているわけですよ。いまだってさ、俺が「まともな試合にならない」と予想してるけど、裏切って違うパターンにする男なんだよ、田村は。そ～れもたまらないんだよ！ クゥ～ッ！

え？ 優勝？ それはランデルマンですよ！ ん…？ ランデルマンは出ないんか？ ああ、「ラン」は「ラン」でも、ランペイジの間違いですよォオオ！ アイツが優勝したら面白くなるからな。俺は8月10日はランペイジの応援、そして、田村潔司に裏切られるために『PRIDEミドル級GP』に行きますよォオオ！ クゥ～ッ！（談）

『DEEP』嘆きの仕掛け人

佐伯繁

『DEEP』的大羨望

「田村vs吉田！こんなカードが組めるなんて羨ましいわ！」

田村vs吉田！　いやぁ～、同じのプロモーターの立場から言わせてもらえば、このカードは魅力的。羨ましいなあ。田村vs吉田！　これがあるとないとじゃ興行はだいぶ違いますよお。田村vs吉田！　凄い組み合わせです！　田村選手だってねえ、ボクの考えるに相手が吉田選手だから出てきたこともあると思うんですよねえ。やっぱり、吉田選手はかなり強い選手ですから。でも、ボクは田村選手が勝つと思うなあ。最初は打撃で攻めて、最後は関節技で極める。田村選手に分はあると思いますよ。ただ、吉田選手の方が一回り大きいんで不利は不利だと思うんですよね。やっぱね、体重というのはいろいろ響いてくるんだよねえ。最近ダイエットしたばっかのボクが言うんだから間違いない！　フガー！（鼻息荒く）。

あと結構重要なのは、2人の性格ですよ。吉田選手って見たかんじ、太々しいですよね。オリンピックの実績がどうのこうのなんて関係ない。あの太々しい性格が怖いですよ。田村選手は田村選手で普通の人より悩むタイプじゃないですか。田村さんのあの慎重な性格がプラスに出るかマイナスとなるか？　2人の性格が勝負を決めるかもしれないですねえ。いやあ、ドキドキするなあ！　田村vs吉田!!

優勝？　それはアローナかなあ。やっぱ強いでしょ！　な～んかトントントーンといっちゃうような気がするな。ジャクソンも強いけど、勝てないと思いますよ。

ところで皆さん、8月は『PRIDEミドル級GP』、11月にはその決勝ラウンドが行われますけど、9月にも決して見逃せないビッグマッチがありますよねえ？　そう、9月15日は『DEEP』大田区体育館ですよ！　いろいろ隠し玉を用意してますけど、いま発表しても『PRIDE』にみんな喰われちゃうでしょ（笑）。頃合いを見計らって発表しようと思ってますんでお楽しみに！　（談）

高田馬場のシュート活字王

タダシ☆タナカ

大人なファンの北米的予想

「吉田の打撃で田村が負けるシーンもありえます！」

吉田vs田村は、吉田の体重差の優位が消えないでしょうね。ただ田村が間合いを全部潰してスタンディング勝負になれば、ローやミドルに吉田がどう対応するのか未知数ですから、田村の勝機があるとすればそこでしょう。でも、ボクシング・ジムに通う吉田は本気ですよ。体重差を利用したパンチで田村を倒してしまうかもしれないです。吉田は優勝することだって十分ありえます！　嫌な役を連続して押し付けられてる田村はちょっと可愛そうですね。

優勝の可能性が最も高いのは、クイントンかアローナしかいないですよ。1回戦で両者は対決しますが、この勝者が決勝に勝ち進むことは確実。ボクはむしろアローナだと思うのは、アブダビ王者十マーク・ケアー撃破の実績は無視できないからです。ケアー戦は過小評価されてますが、北米ではケアーがあの試合で復活を期していたという話があるんですよ。そのケアーを完封するアローナは凄い。ただしビジネス的にはアローナ優勝は最悪ですけど（笑）。

一番優勝して嬉しいのは桜庭ですけど、身体はとっくにボロボロですからね。ただし今回のシウバは両膝の手術明けの早すぎる復帰なので、実は現チャンピオンでありながら一番弱い可能性が高いこと。桜庭が記者会見で「この中で一番弱い相手とやりたいです」と爆笑を誘ってましたが、あれは実はマジなのです。ということで、決勝ラウンドに勝ち上がるのは、桜庭、アローナ、吉田、アリスターとボクは予想します。これ、北米では常識なのです　（談）

【編集部予想】

【本誌編集長・山口日昇】
失踪、蒸発、神隠し、高飛び、監禁拘束、ランナウエー、家出、ドロン、亡命……いずれかの状態にあるためコメント不可。

【本誌健介中毒者・チョロ】
初代WMG王者に輝いたのは笑顔がステキな健介。ミドル級GPも、実は笑顔が可愛いチャック・リデルが優勝する！　う～ん、ド真ん中ッ！

【本誌田村番・ガンツ】
一回戦を勝ち上がるのはシウバ、ジャクソン、リデル、そして、吉田！　でも！　予想がすべて外れることを強く望む！

【本誌電機追跡班・ジャン】
田村や桜庭に勝ってもらいたいが、帰り道の足取りが重くなる結果になりそう。ガチンコって厳しいですな。

【本誌WWE担当・ノブ】
おそらくその日はZERO－ONE「01WORLD」出張のため、名古屋にいるはず。ハシフ・カーン万歳でごわす!!

【本誌電気部・ささきぃ】
サクvsシウバの方が気になって、田村vs吉田どころじゃない！　ガンバレ、サク！

【金髪鬼・吉田豪】
生々しい感情が混じってる試合が見たいから、2回戦で田村vs桜庭が実現するなら田村。しないなら吉田でいい（まったく興味なさそうに）。

アッパレ、健想革命!!

健介のラリアット地獄に健想散る！

初代WMG王者は健介!!（しかしベルトは届かず）

『PRIDEミドル級GP』を前に、一足お先にWJが最強者決定トーナメントを開催！　見事、優勝し初代WMG（ワールド・マグマ・ザ・グレーテスト）王者に輝いたのは我らが健介！　その笑顔は見る者を幸せな気分にさせてくれるが、ヴァーッと感極まった表情もたまらないものがあった。

一回戦での長州との師弟対決、準決勝でのウイリアムスとの剛腕対決、そして決勝での健想とのWJ世代闘争マッチ、トータルで何発ラリアットを繰り出したのかは見当もつかないが、たとえ、己の右腕がブッ壊れようとも、師匠譲りの〝力しか信じない〟魂のラリアットで見事栄冠を勝ち取った健介。

しかし、ZERO-ONE天下一Jr.ベルトに続き、WJでも海外からの輸送トラブルによりベルトが届かないという異常事態がボッ発！　一部で話題の「健介が動けば何かが起きる」との伝説が、皮肉にも今回も証明された形になってしまった。

そんなハプニングがありながら、健介が控室に戻ると、長州の合図で越中、保永、若手勢から一斉にビールをかけられ祝福を受け「ヴァー！　目に染みるぅ～」と苦しみながらも満足げな表情を浮かべる健介。その後、久子夫人（北斗晶）とWJ旗揚げ戦当日に産まれた誠之介君と健之介君が姿を見せると、一段と顔をほころばせた健介は2人の子供を抱え上げて優勝報告。きっと佐々木家では、7月20日は「健介記念日」と制定されたはずだ。

鈴木みのる戦の交渉を巡っての不信感から「大好きッ！」な新日本を退団しWJに入団した健介が「俺の選択は間違ってなかった」と、ポツリと漏らした一言は嘘偽りのない本音だろう。長州ではないが「一度ぐらい、俺にも、こんな幸せな日があっ

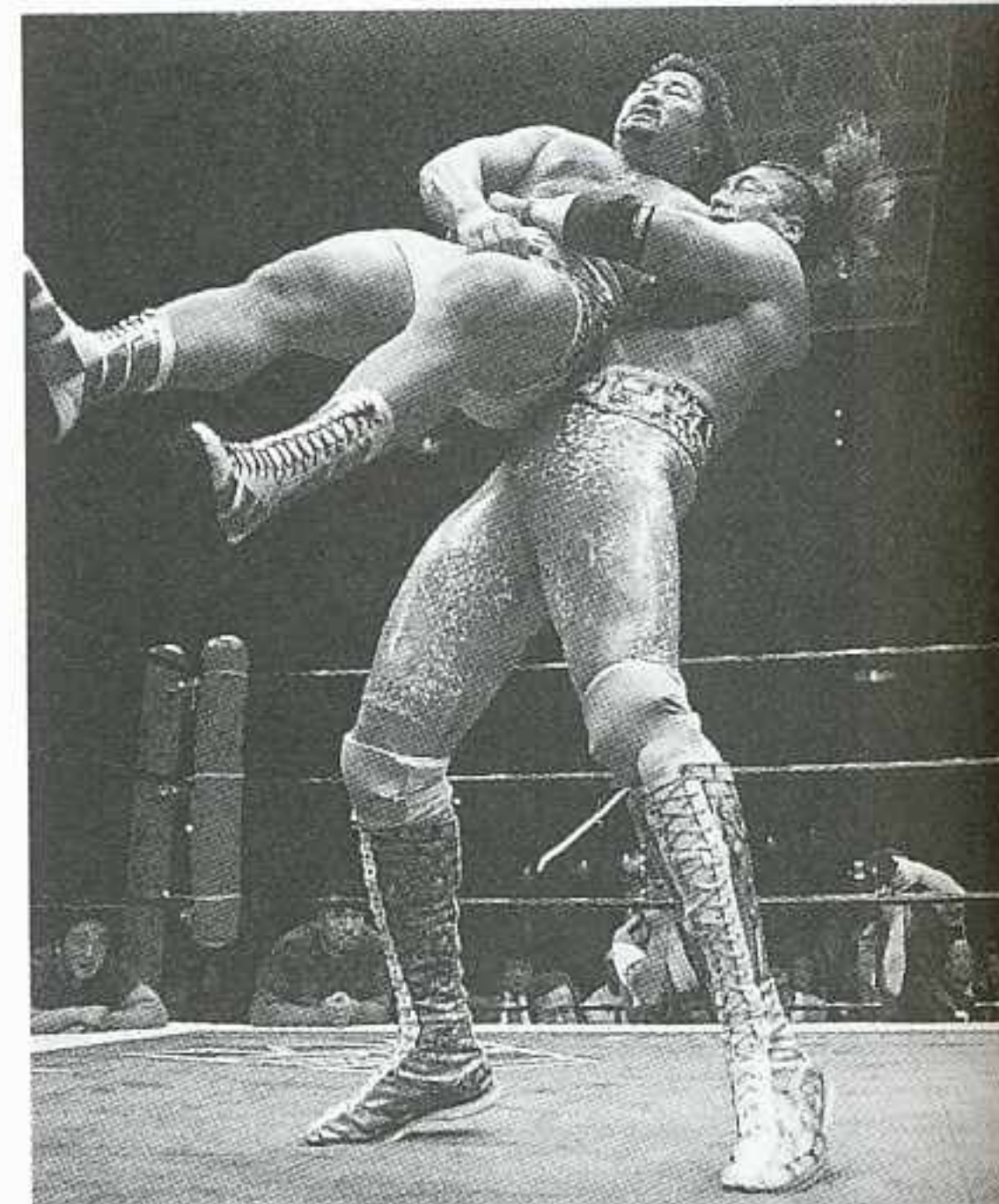
健介、健想、決勝までの道のり

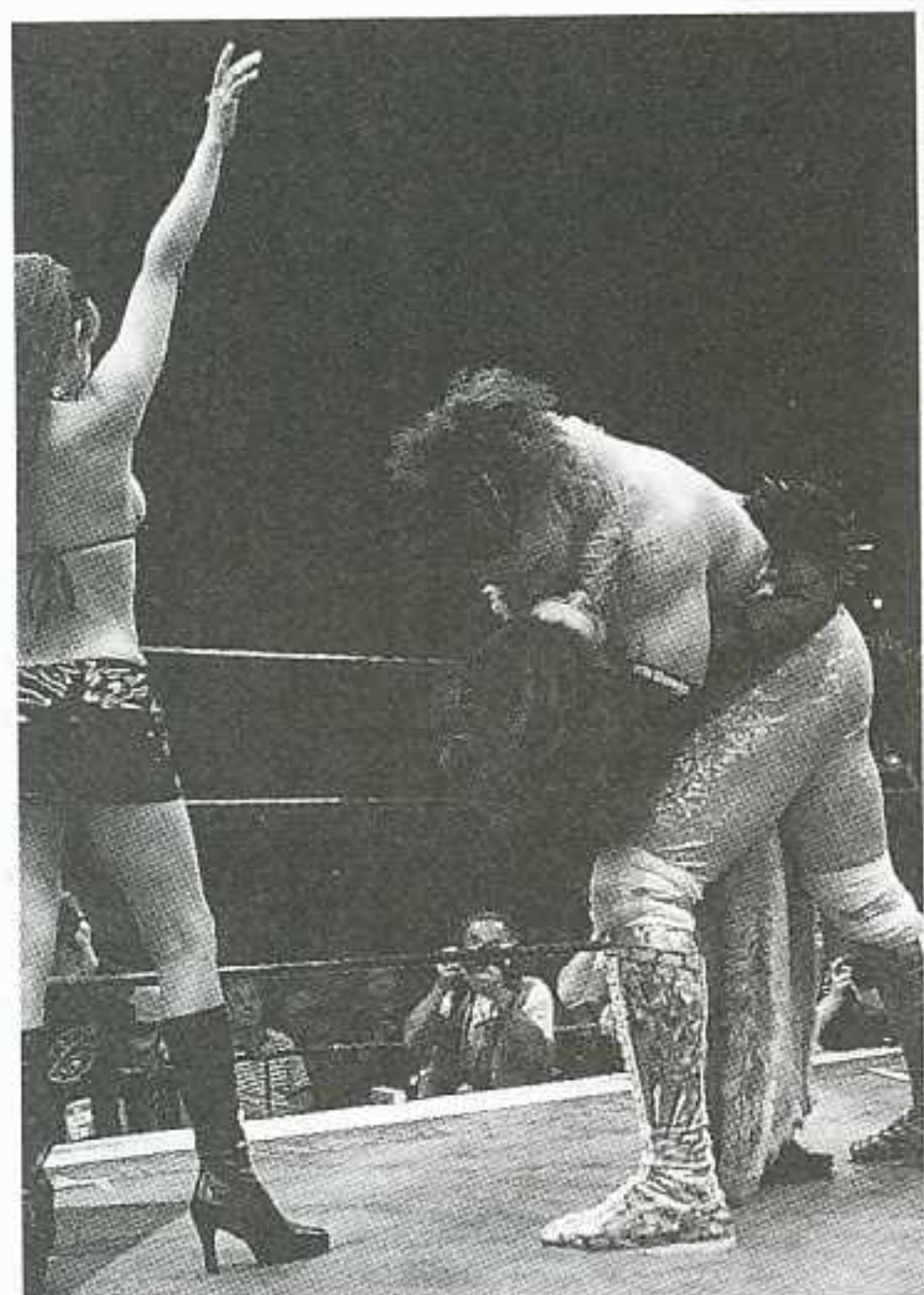
ガッチリとロックアップから始まった4度目の健介vs長州戦。予想通りラリアット合戦となったこの試合は北斗ボム2連発で健介が勝利。試合後、2人はロープを挟んで固い握手。

準決勝では久々の日本マット登場のウイリアムスと激突した健介。試合はフルネルソン監獄固めを決めた健介が決勝へ！

旗揚げ戦以来の対決となった健想vs大森の一戦は、3分過ぎ、ボビッシュ戦に続き大森を強引に丸め込んだ健想が勝利！

WJでシングル負けなしのボビッシュ。全盛期のベイダーにも負けない強烈なエルボースマッシュやラリアットの前に防戦一方の健想だったが、スピアーから強引に丸め込み準決勝進出を決めた！

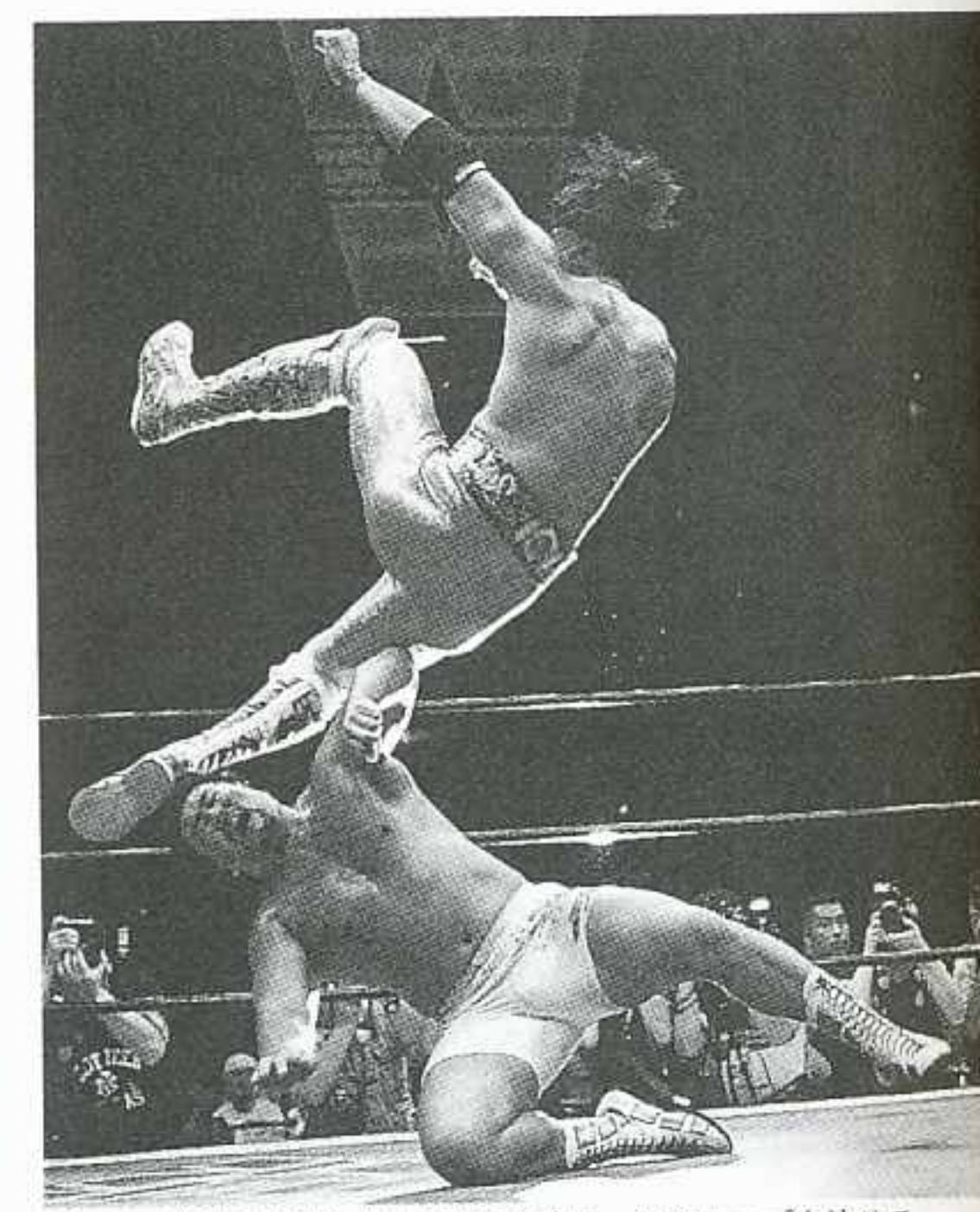
ラリアット以上に飛び出したのが強烈すぎる水平チョップ。意地になって互いに打ち合ったチョップの数は軽く50発以上！　試合後、両者の胸板は真っ赤に腫れ上がっていた。

受けの凄さだけではなく、大型の健想が繰り出す技は、どれもこれも説得力抜群！　得意技のひとつの高角度バックドロップもジャンボを彷彿とさせるキレイなフォームだ。

健想、ド真ん中でディープキス♥しかもニューハーフ!!

健想は2人の美女とリング上でキス。片割れがマイクを握ると「テメエら、健想応援しろ！」とドスの利いた声。2人はニューハーフだったのだ。

ボビッシュ戦での入場時、美女2人を両脇にはべらせ入場してきた健想。「まぐなよ！」との長州の思いも届かず、2人は健想とともにリングイン。

またやっちゃった！次期WMG挑戦者決定戦は反則判定に!!

WMG次期挑戦者決定マッチとして行われたベイダーvsフライ戦。王者決定の前に次期挑戦者が決まるというのも驚きだが、肝心の試合の方も唐突に反則裁定が下されベイダーが勝利という驚きの結果に。観客からは一斉にブーイングが飛び交った。

ド真ん中の乾杯が終わると健介は健想についてコメント。「アイツは素質や素材は俺より凄いものを持ってるし、あのキャリアでよくここまで……この半年で凄く成長したと思います」と評価。

チョップ合戦を制した健想は再びバックドロップを決めると、対角線から走り込み豪快な葉隠れをブッ放す。それでもムクリと起き上がる健介に場内からはどよめきが。

てもいいだろう」と実感した一日だったに違いない。

一方、ノーコメントで会場を後にしたのが準優勝の健想。ハッキリ言って、この日の両国大会、優勝したのは健介だが、MVPは誰かと聞かれれば、文句なしで健想と言える。

WWE上陸を目指しているだけあって、日本人離れした肉体が際立つダイナミックかつオーバーな受け身や、独特な見栄の切り方を見ても、本人も言うとおり新日時代にも増して観客の目を意識してのファイトを心がけているということが、いまの健想からはビッシビシと伝わってくる。リング内での暴れっぷりはもちろんのこと、この日の健想はリング外でもやってくれた。長州の目が光る団体に女子レスラーどころかニューハーフを上げ、しかもリングのド真ん中でディープキスをかましたのだ。正直反応を見る限り、その行為自体が観客に届いたとは言い難いが、その行動力と発想力には素直に「参りました」と言うしかない。

ボビッシュ戦で美女（というかニューハーフ）と受けの凄みを見せつけ、大森戦では唐突なフィニッシュで観客を唖然とさせ、それでいて最後の健介戦ではキッチリと試合内容で場内を沸かせることに成功した健想。決して器用なタイプのレスラーではないが、ラリアットが乱れ飛ぶWJで3試合とも毛色の違う〝プロレス〟を展開したのは特筆すべきことだろう。この調子で健想には『X-1』とは正反対のベクトルで健想流の〝逆方向のド真ん中〟を突き進んでもらいたい。

旗揚げ戦から、いい意味でも悪い意味でも「えっ!?」とツッコミを入れたくなることが多かったWJだが、この日ばかりは素直に次の言葉を贈ろうと思う。ド真ん中、最高ッ!! そして、あっぱれ、健想革命!!（チョロ）

WJが、またやっちゃった！

“逆方向のド真ん中”金網VT『X-1』発進!!

遂に禁断のバーリ・トゥード扉を開けてしまったWJ!!　金網VTとなる『X-1』は、長州が“逆方向のド真ん中”と自信を持ってプロデュースする大会となるが、一部詳細を見た限りでは、観客の「目ん玉が飛び出す」内容になる気配満々！　ん〜ッ、ド真ん中!?

構成／松澤チョロ　designed by gutty（Two Three）

オイ、またぐぞ！　バーリ・トゥード（以下VT）にクソぶっかけるゾ、コラァッ！

あの長州力＆永島専務が全面プロデュース！　9・6横浜文化体育館にて『X-1』（エックス・ワン）という総合格闘技のイベントを開催することが発表された！

この『X-1』には、〝笑顔が一番〟佐々木健介が日本マットでは初のVT出陣！　さらに、〝15歳の天才空手少年〟中嶋勝彦くんがVTでの電撃デビュー戦、メインには〝WJ最強ガイジン〟ダン・ボビッシュが出場する。

そもそも、この大会は今年1月頃から「レベルが高く、エンターテインメント性に富んだケージマッチをプロデュースしたい」というブライアン・ジョンストンとマサ斉藤の間で水面下で進められていた。新日時代からVT否定派だった長州も、2人のゴーフォーブロークな熱意に押され、「WJとして協力します」とGOサイン。自身の大会への出場の可能性を聞かれると「ないです！」と即答。しかしながら、「プロの興行という部分を考えれば、ない話だけど、例えば〝ヒクソン〟が出てくるってなったら、話題性もあるだろうし、全くないとは言わない」

なんとヒクソンが何かの間違いで出てきてら、出ねえことはねえそうですよ、お客さん！

さらに長州は「この話は、いろいろあって延びてたんですけど、最近『PRIDE』やK-1とかが勢いがあるからとか、各団体で、こういうのに走ってるところも多いんでウチもっていうのは全くない」と断言。永島専務によると、『X-1』という名称はジョンストンが命名。Xには「未知の世界」「謎」「無限の可能性」という意味があるという。たしかに出

毎日がネタの宝庫

紙のWJ

ド真ん中最強に輝き「ヴァー!! ヴァー!! やめれくれ!! ヴァー!!」と嬉しい悲鳴を上げる健介。愛息の健之介君と誠之介君を抱いてニッコリの健介。勢いあまって「ドンさん、ドンさん」とフライを呼び寄せて子供を抱っこさせる健介。やっぱ健介がド真ん中！

7/9
ミスター・プロレス、天龍が控室で消臭力をブチまけた!!

「俺はアニマル浜口じゃねえ！」長州と組んでも引き立て役に回ることを断固拒否した天龍は、控室に戻るなり消臭力（スプレータイプ）をぶちまけて「長州力、くせえよ！」と抜群のコメント。さすがMr.プロレス！

6/29
大仁田の火炎攻撃を浴びるも長州、やっぱり爆破は浴びず

3度目の電流爆破マッチ出撃となった長州力だが、今回も大仁田を叩き付けるだけで、自身は電流爆破の洗礼を受けず。毒霧と火炎攻撃は受けたものの、さほどダメージもない様子で試合後は大仁田追放を宣言した。

?/?
なぜか長州インタビューで発覚!! “WJの申し子”福田力が退団していた!?

WJ「福田」社長と親方・長州「力」の名前を併せ持つ福田力。山梨学院大学でレスリングの実績を積んだ実力者だったが、バード志向が芽生えて退団したことが長州のインタビューで発覚した。『X-1』で見たかった。

7/20
ゴキゲン長州が暗にアントンを批判!? 「世界に発信って、どこに何を発信した?」

ド真ん中最強トーナメントは愛弟子・健介が健想との激闘を制して優勝した。試合内容もよく、1回戦で敗れた長州もゴキゲンで大会を総括。その中で、見出しの発言！「ウチはやるって言ったらやりますよ、何かを」

6/29
またかよ!? ベイダーvsボビッシュは無効試合で超消化不良!!

外人ナンバー1の座をかけて激突したボビッシュとベイダーだったが、なぜか試合の真っ最中にザ・クラッシャーズとビッグ・ビトーが乱入して両者を分けたため無効試合に。どっちらけの場内は当然、大ブーイング!!

6/29
初の一騎打ちは健介が勝利!! 「あいつもプロレスバカ」（by健介）

6/29北海道・きたえ～る大会で健介と大森が激突。好勝負の末、最後は健介がラリアットで勝利。冒頭の言葉が飛び出した後、健介に「アイツの本質は大バカだよ」と見切られてしまった大森が不憫でならない。

7/23
健介、WMG初防衛戦が決定!! 果たして、ベルトは届くのか?

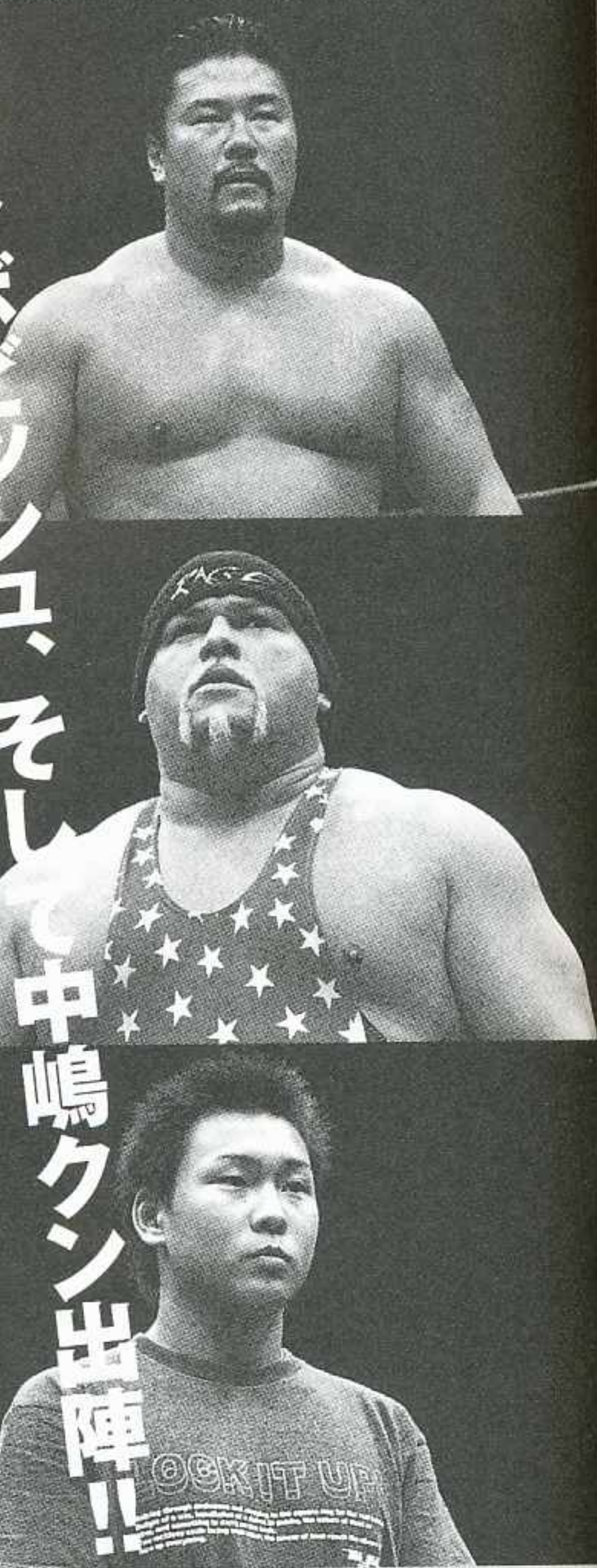
健介の初防衛戦の相手はベイダーに決まった。消化不良な試合ながら、ドン・フライに勝った実績を認められて健介が初防衛に挑む。トラブルで7・20両国に届かなかったベルトは、果たして大阪に届くのか? こちらも非常に興味深い。

6/29
アメリカ武者修行を終えて、健想が馳先生からえら初勝利

アメリカ遠征で確かな手ごたえを掴んできた健想が、馳先生とシングルマッチで激突した。ジャイアントスイングで回されたりもしたが、最後は葉隠れで勝利！ しかし、試合後は「ピントが合わせられなかった」と対観客の負けを宣言した。

6/29
大仁田がWJラストマッチ? 邪龍同盟よ、どこへ行くのか!?

「大仁田とは札幌で終わり」とかねてから宣言していたWJ側。大仁田は天龍とのタッグで「全日本プロレスで電流爆破をやる」と息巻いたが、現在の、大仁田はサスケのマスク剥ぎに執念を燃やしている様子。

健介、ボビッシュ、そして中嶋クン出陣!!

9・6『X-1』横浜文化体育館・全対戦カード

■ダン・ボビッシュ vs ベイシル・キャストー

『X-1』Fighting Champion Match
◎ボビー・サウスワース vs ブライアン・パーデュー

■佐々木健介 vs クリスチャン・ウェリッシュ
■ザ・ヘッドハンターvs未定
■中嶋勝彦 vs “リキッド”ロブ・コール
■ゲイヴ・ガルシア vs ジョン・フィッチ
■ジミー・ウェストフォール vs アダム“バーノン”グェラ
■ダニエル・ピューター vs ジェイ・マコーン
■ジェフ・フォード vs フィリップ・プリーセル
■デヴィッド・ヴァスケス vs 未定

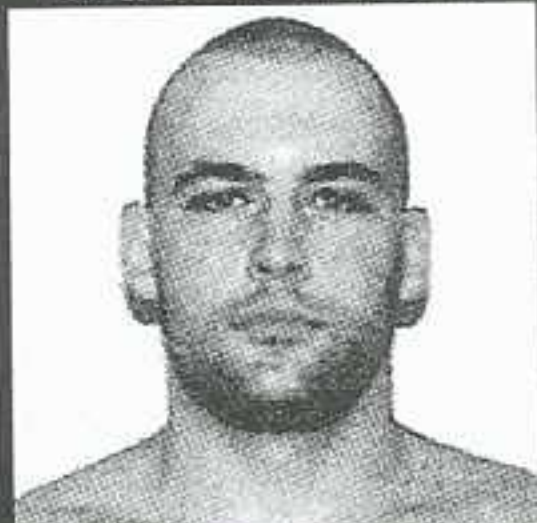
※すべて3分3R

場選手をながめると、「未知」であり「謎」であり「無限」に登場してきそうなレベルが大半。ヘッドハンターvs未定ってどんなカードだよ！

PPVを含めたTV中継については「いま話を進めている最中。理想を言えば2ヶ月に1回の割合でやりたい」。つまり、健介のVTが隔月で見られるってこと!? それは大事件だ！ ヴァー！

その健介は、『X-1』について「プロレスが一番！」と単純明快なコメントを寄せているが、この言葉を従来の〃プロレス用語〃で受け取ってはいけない！ なぜなら健介は、過去VT出陣してきたプロレスラーたちと違って、哀愁さゼロの登場になるのだから!! いつものコスチュームをまとい、気持ちいいほど笑顔で金網に入り、ヴァーと咆哮……違った意味でゾクゾクするシーンが横浜に舞い降りる！

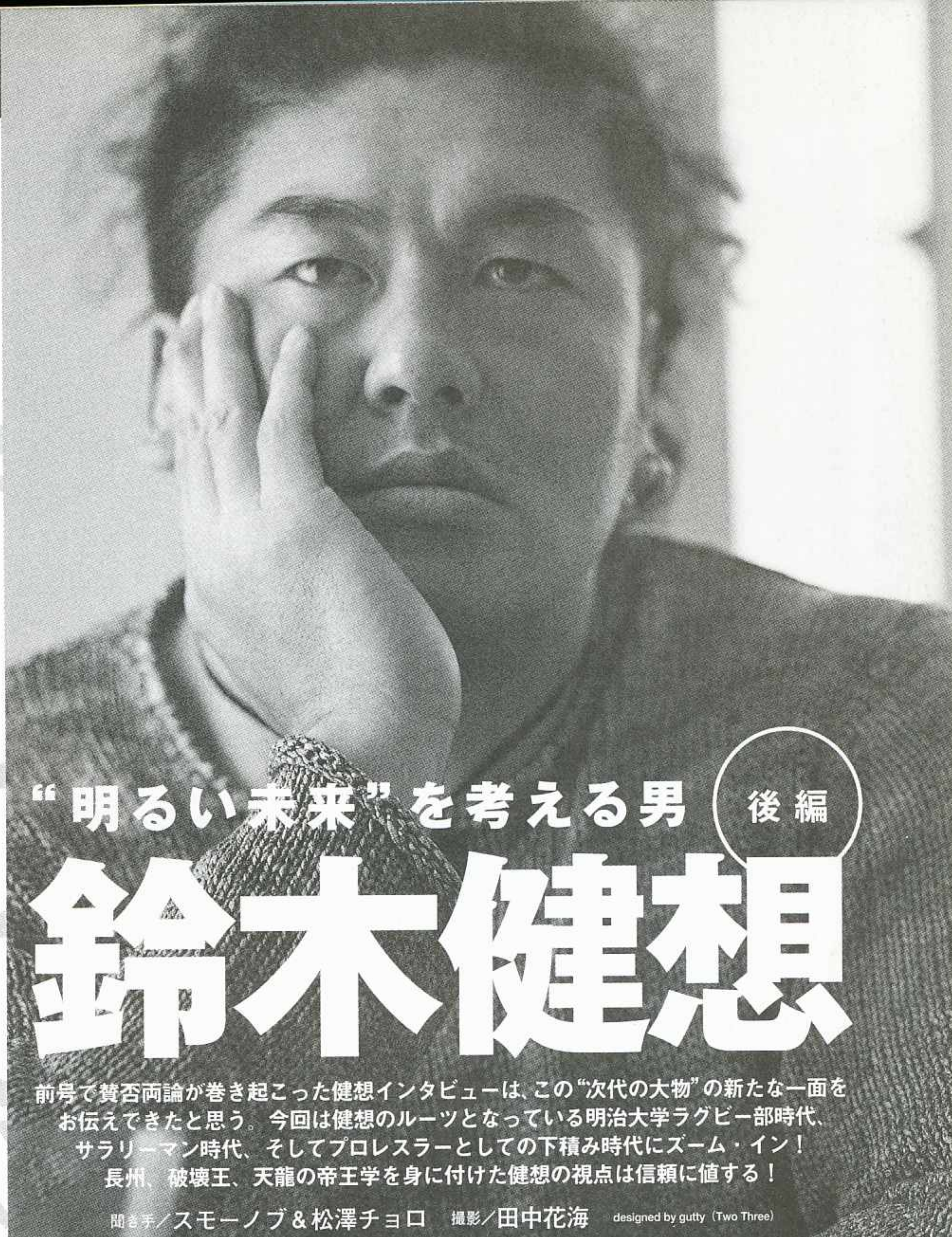
『X-1』出場注目選手

お前、誰だよ!?

健介はレスリング五輪候補だったクリスチャン・ウェリッシュと激突!! 健介のラリアット、ストラングル・ホールドが火を噴くか!! ヴァー！

相手はコイツだ!

中島くんのデビュー相手となる“リキッド”ロブ・コール。15歳の少年が禁断にも程があるVTに討って出る！ ガンバレ、中島くん!!

コイツだ!

ポール・ブエンテロ・“ザ・ヘッドハンター”。決してビクターキョネスのブッキングではない。ジョンストン最後の愛弟子であるストライカー！

“明るい未来”を考える男 後編

鈴木健想

前号で賛否両論が巻き起こった健想インタビューは、この“次代の大物”の新たな一面をお伝えできたと思う。今回は健想のルーツとなっている明治大学ラグビー部時代、サラリーマン時代、そしてプロレスラーとしての下積み時代にズーム・イン！ 長州、破壊王、天龍の帝王学を身に付けた健想の視点は信頼に値する！

聞き手／スモーノブ＆松澤チョロ　撮影／田中花海　designed by gutty（Two Three）

——ここ最近の健想さんの言動を見てると、プロ意識は激烈に変化してる印象がありますよね。ＷＪの選手の中では珍しく大仁田さんを評価する発言とか象徴的だと思うんですよ。

健想 やっぱり大仁田先生、馳先生っていうのは国会議員という重要な役職に就いていながらプロレスラーとしても胸を張れる人たちですからね。

——でも健想さんも政治志向がないわけじゃないですよね？

健想 もともと東海テレビに入ったのも政治記者になりたかったからだし、ハッキリ言って政治は好きですね。

——権力志向的なものですか？

健想 権力には興味はないけど、やっぱり、日本人の価値観には疑問を持ってて。いまの日本の社会は平均点を求めますよね？ それは恥の文化で、いい部分ではあったりすると思うんですけど、もうこんな時代になったんだったら100点か0点を求めてほしい。で、上の人間がそれを被るぐらいの度量を持たないとダメだと思ってるし。あと、これはラグビーのイベントの時にも言いましたけど、ラグビーなんて痛くてしんどくてケガもするスポーツだから競技人口も減ってるんですよ。

——そうみたいですね。

健想 でも、僕が親だったら絶対にスポーツとかやらせるし、しんどいことから避けさせようとは思わないんだけど、いまの親の価値観的にはそういうことから子供を離したがってますよね。そういう風潮には疑問を感じますね。

——学校からジャングルジムがなくなったりして、どんどん危険なものがなくなってる状況ですからねぇ。

健想 僕が親だったら子供が悪いことしたら思い切りシバこうと思ってるから。男なら男に育てたいんですよね。だから、保育園でも開きたいですよ！

——へ？ 保育園ですか（笑）。

健想 ボコボコにシバいてやろうかなって（笑）。傷だらけにして親の前で言ってやろうかと思って、「コイツは落ち着きがねえんだよ」って（笑）。

——嫌な保育園だなぁ（笑）。

健想 でも、そういうこともハッキリ言って必要だと思いますよ。

——ＷＪの若手選手にはそういったスパルタ教育をされてるんですか？

健想 全然しないッスね。プロレスに関しては、そういうこと必要ないんですよ。だって感性の商売ですもん。

——そこまでで培ってきた部分での勝負になりますからね。

健想 小さい頃の躾の部分では必要だと思いますけど、いまの彼らには必要ないですね。いま俺は合同練習には行ってないですけど、話す機会があるときは「人間の幅を広げろ」って言ってますよ。結局、リングの上で出るのは氷山の一角じゃないですか？ プロレスって人間性の勝負だと思ってるんで。

——それが「映画でも見ろ」っていう発言に繋がってくるんですね。

健想 映画でもいいし、本を読んでもいいし。もちろん、プロレスラーの必須条件として英語は絶対勉強しろとも言ってるし。コミュニケーションも取れなきゃいけないんで。ＷＪに来てラッキーだったなって思ってやってますよ。新日本にいたらここまで考えなかっただろうし。確実に腹は据わりましたね。

——それが、新日本だと出来ないっていうのは、どういうことなんですかね。

健想 僕に限って言えば新日本の中では囲われちゃってたし、守ってもらってたから。そこで自分と違うものを装ってたんでしょうね。

——もっと奔放な個性ですよね、健想さんのホントの部分って。

健想 いや、単なるチキンというか。

——そんなことないと思いますけど（笑）。大学時代の話に戻りますけど、一度帝京大学に入学して、その後イギリスに8ヶ月間ラグビー留学して、帰国後、明治大学に入学するわけですよね。

健想 そうですね。ホントはボクは大東文化に行こうと思ってたんですけど、ボクがラグビーを一生懸命やったきっかけっていうのを考えたときに、なんだったのかなぁって思ったら、ラグビーを始めたときに友達が持ってきてくれた早明戦のビデオがあったんですよ。「これを見て勉強しろよ」って言われて見たら、初めはつまんなくて寝ちゃったんですよ。それで最後の最後に大逆転から同点になった試合があって。

——こないだのイベントでも言ってましたよね。そのシーンだけは覚えてるって（笑）。

健想 そうですそうです。そのシーンだけ覚えてて、「やっぱ最終的なラグビーの夢って早明戦出たいのかなぁ、俺」って思って。でも明治ってスッゴイ上下関係厳しくて、「やだなぁ」って思いつつ、やっぱ行こうと決意しました。当時、高校日本代表のときの同期のヤツが一個上で明治にいたんですけど、そいつから「ホントに来るの？ やめた方がいいよ」って言われてて（笑）。

——アハハハハ！

健想 「俺、お前のこと殴れないよ」って。「でも行くよ。かまわず、やってくれよ」って言って。

——覚悟はしてたんですね。

健想 いや、覚悟っていうか、単純に早明戦には出たいなぁって思って。

——でも明治のラグビー部っていったら体育会系のトップだし、相当練習もハードだったんじゃないですか？

健想 もちろん練習もそうですけど、大体朝8時に起床するんですよ。で、掃除とか洗濯をして、練習が2時からあって3時半か4時頃に終わりますよね。それからメシ食って、先輩の雑用とかをやらされるんですけど、「寝ていい」って言われるまで寝ちゃいけないんですよ、一年生は（苦笑）。

——それは過酷ですね（笑）。

健想 先輩はゲームとかやって大体4時とかまで起きてるから、終わるまでズ～ッと座って待ってるんですよ（苦笑）。寝てたら怒られるんで。「お～い」とか呼ばれたら、一発で「はい！」っ

て出て行かなきゃいけないんですよ。"じぼり"になっちゃうんですよ。その「お～い」をシカトしたら、"しぼり"になっちゃうんですよ。

——しぼり!? しぼりっていうのは？

健想 当時ですね、風呂場の上にこれぐらいの部屋があったんですよ。それで3年生がしぼるんですよ。ダーッて30人近く座ってタバコ吸って、部屋はその時点で煙で真っ白なんですよ。で、1～2年生が腕立てとか「上、下、上、下」って言いながら一時間ぐらい、ひたすらやらされるんですよ。

——うわぁ！（笑）。

健想 そこの窓から見えるんですよ、世田谷の景色が。灰色ですよ（笑）。

——灰色でしたか（笑）。

健想 しぼりが終わったら、汗で人型ができてましたからね（苦笑）。

——凄いですねぇ（笑）。逆に3年になったら、しぼり返したり？

健想 かなり、やらせましたねぇ（笑）。

——やられたらやり返すと（笑）。

健想 あとから考えたら、ちっちゃい男だなぁと思って、自分で。ホント赤ちゃんでしたよ。それに明治って伝統もあるし、OBっていうか有名な会社の社長とかタニマチもたくさんいたんで。銀座にもよく行ってたんですよ。

——大学時代から銀座ですか（笑）。

健想 18～19のガキがね、そういうところにベンツとか乗せられて行くわけですよ。一回、「デパートへ買い物に行くぞ！」ってタニマチの人に言われて行ったらVIPエレベーターみたいなのに通されて、一番上まで行ったら、いろんなブランドの人とかが商品を説明しに来るんですよ。これが、こういう人たちの買い物かぁって思って（笑）。

——へぇ～。ボクらじゃ入れないフロアがあるんですね。

健想 俺まだ19歳ですよ。高校出たてで。

——それは狂いますよねぇ（笑）。

健想 狂いますよ。ホント狂ってましたねぇ（笑）。だからプロレスに入ったときに思ったのは、凄い地味な世界だなぁって。タニマチにしても。

——どうしてもアマチュアスポーツの方が地味っていうイメージがありますけど、とんでもない話ですよね。

健想 当時は、やっぱバブってたしねぇ……（しみじみと）。

——バブってましたか（笑）。

健想 勘違いしてましたよ（苦笑）。

——で、明治を卒業した後は東海テレビに入社されたんですよね。

健想 はい。実は明治を卒業して、社会人ラグビーから12社ぐらいからオファーが来たんですよ。

——12社もですか!?

健想 で、いろいろ考えたときに、社会人でプレーしてるのは想像できないし、したいとも思わなかったんですよ。で、何やりたいかなぁって考えたんですよ。で、どうもラグビーの欠点みたいなのが見えてきて、ラグビーで強豪校から来たヤツっていうのはレールが社会人まで引かれてて絶対自分の人生について考えさせないような環境ができてるんですよ。それに薄々気づきはじめて、いろんな人のリクルーターの話を聞いても上っ面しか言ってないって思って。

——胡散臭いなと？

健想 そう。胡散臭く思えて。「これはダメだ」と思って。それで、ひとつ仕事に対してイメージがあったのは、ボクはイギリスにいるときに、まあ片言の英語しかできないんですけど、テレビを見てたら向こうのマスコミが皇室に対して、「なぜ彼らは税金を払わないんだ」って、そういう運動を始めて、結局最終的に貴族たちも税金をしっかり払うシステムにマスコミが作り上げたっていう、そういう時期にボクはイギリスにいられたんですよ。そのときに「あぁ、マスコミっていう仕事って凄いなぁ」って思って。そんなことを、ふと思い出したときに「マスコミっていうのをやってみたいなぁ。やるんだったら政治記者だよな」って。それで、東海テレビを受けたら、6次か7次試験まであったのかな？ 最終的に受かって。

——相当な高倍率ですよね。

健想 でしたねぇ。で、受かったんですけど、研修が一ヶ月間、名古屋であったんですけど、そこで話を聞いてるうちに、名古屋っていうローカルでの政治の状況とか政治の可能性をあまり感じなくなっちゃって。これはダメだって思って。だったら、もう一回東京に出ようと思って。次に一番何がいいかなって考えたときに、東京で営業がやってみたいって思ったんですよ。テレビ局って、売り上げの8割近くを東京であげるんですよ。やるんだったら日本の中枢のトップでやるのは面白そうだなぁって思って、一応願を出したら通ったんですよ。

——うまくいったわけですね（笑）。

健想 それで東京で一年間やったんですよ。新入社員で東京営業に来るっていうのは、あんまりないんですけど。

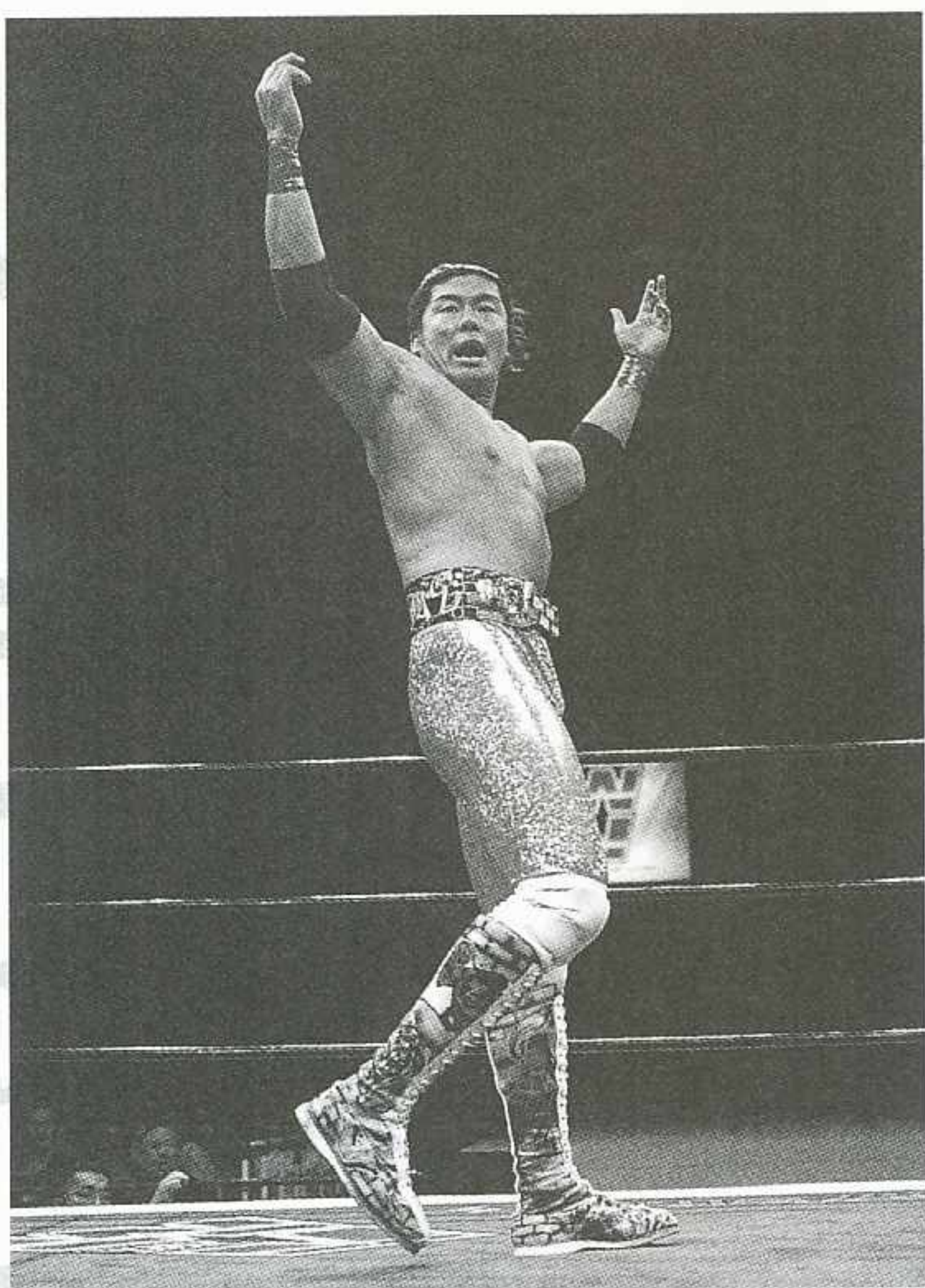
——具体的にはどういった活動を？

健想 まあ飲み歩いたというか（笑）。

——アハハハ！ 接待の連続で？

健想 そうですね。当時は売り手市場でしたからね。ただやっぱり、そのときの友達っていうのは全くプロレスにも興味ないし、いまでも付き合ってるいろんな官舎のヤツもいるし、僕の財産になってますよね。

——その後、そこまで興味がなかったプロレスをやろうと思ったきっかけって具体的に何かあったんですか？

健想 明治大学のときに、いろんな遠征の度にブレザーを作るんですよ。よく営業のときに、そのブレザーを作ってる人のところで時間潰してて、たまたまパッと見たら新日本のカレンダーが置いてあったんですよ。「あぁ、新日本のブレザーも作ってるんだ」って思って「あ、木村健悟ってまだやってんの？」とか言いながら見てたら（笑）、「お前プロレスに興味あんの？」って言われて「いやぁ～、でも強烈な人生にはしたいと思ってます」みたいなことと話したんですよね。「あっ、そっか。ちょっと会ってみる？」って言われて「会うってどういう意味ですか？」「別に食事して話を聞いてみるぐらいいいんじゃない？」って言われて「わかりました。じゃあ会ってみます」ってことで、当時の中村さんっていう坂口会長のお付きでやってた人なんですけど、その人と会ったんですよ。そしたら「会社に来い」って言われて、「会社って、話大きくなっちゃうんじゃないかなぁ」って思いながら行ってみたら、デッカイ人が座ってるんですよ（笑）。

——坂口さんですね（笑）。

健想 そうです。いきなり（坂口会長のモノマネで）「おい、ちょっと来い！」って呼ばれて「東海テレビで働いてます、明治大学出身の鈴木健三です」って挨拶したら「そうか。メシ食うか」って（笑）。で、食事をして、「まあ一回きりの人生だから、お前がやりたいと思ったらいつでも来い」って言われて、1ヶ月2ヶ月「どうしようかな？」って考えて。で、結局「お願いします！」って会社に言ったんですけど、帰るときに、たまたま新聞見たら馬場さんが亡くなったって出てて、僕は凄い楽天的なんで、これは次は俺の時代だなって思っちゃって（笑）。

——アハハハハ！ 凄い（笑）！

健想 ホントにそういうタイミングだったんですよ。マサさんの引退試合の3週間ぐらい前ですね。最終的な答えを「マサさんの試合、お前の先輩だから見に来い」って言われて、その大会を見て「4月から入ります！」って言ったんですよ。プロレスがそれだけお客さんが入って、こんな盛況にやってるのを知らなかったんですけど。

——どんな業界かも知らなかったと？

健想 全然わかんなかった。

——試合を見て、この世界でやっていけるなっていう自信を感じたんですか？

健想 自信っていうか、ラグビーをやってるときは明治でも2年でレギュラー取ったんですけど、自分にはポテンシャルとしては世界で通用するポテンシャルはないなって感じてたんですよ。そういうのを考えたときに、プロレスっていうのは、たしかにスポーツだけど、いろんな部分で自分を活かせるかなぁって。なんか確信はないけど、ちょっとした自信もあったりしましたね。

——プロレス界のことは、わからない

ながらも、なんとなくやれそうだなと？

健想　そうなんですよ。その確信のない自信っていうのは、やっぱりいろんな友達がいるし、いろんなものを見てきたし、そういった部分で多少自信はあったんですよ。プロレスファンじゃない、プロレスを全く知らないっていう部分でも、逆に自分の中で自信があったし。

——人生の厚みっていう部分でも勝負ができるんじゃないかと？

健想　う～ん、プロレスっていうのは人生を出せる商売だし、人間性の勝負だと思ってるし。だから、長州力と今のように付き合えるのも、自分がプロレスファンじゃなかったから、いろんなことを話せるんだと思うし、言えるんだろうなぁって。

——それはあるでしょうね。

健想　だって俺、デビューしたての頃に、棚橋と2人で話をしてて、「このままじゃいけない」ってことで、「よし！　いまから話そう」ってなって、長州さんを道場に呼び出したんですよ（笑）。

——アハハハ！　それは凄いですね（笑）。

健想　それで俺と棚橋で「長州さん、僕はコイツとタッグチームを組みますから。それでこれからやっていきますから」って言ったんですよ。そのときに（長州のモノマネで）「おぉ、わかった。でもお前ら、まだ張りぼてだよ」って言われたんですよ。

——「お前らは張りぼて」ですか？

健想　それで、まず棚橋が撃沈したんですよ。約1分ぐらいで（笑）。それでも僕は「だけど、いろんなことやっていきたいし、自分でプロモートしたい」とか言って、いろいろと1時間ぐらい話してくれたんですよ。まだデビューして3ヶ月4ヶ月のクソガキ相手に（笑）。だから、みんなが思ってるほど、そんなに難しい人じゃない部分もあるんですよね。

小学校の頃から体育会系にいたから長州さんみたいなタイプの人間は簡単なんです

——真っ正面からぶつかっていけば応えてくれる人だと？

健想　そう。それに僕はガチガチの体育会系だったからコミュニケーションは取りやすかったんでしょうね。ストレートに全部言っちゃうと長州さんは返してくれる人なんで。

——やっぱり、藤波社長みたいな、こんにゃくとか言われる人の方が付き合いは難しいというか（笑）。

健想　難しいよねぇ……（しみじみと）。「ハッキリ言ってください」って感じでしたね（苦笑）。

——アハハハ！　長州さんとはサイパン合宿にも、よく一緒に行ってましたよね。

健想　行ってましたね。たまたま僕が道場にいたときに、「お前、サイパン行く？」って言われて、合同練習よりサイパンの方がいいなぁって思ったんで、「あ、行きます」って。で、行くじゃないですか？．向こう行ってメシとか食いますよね。ふと「俺、なんで、お前と一緒にいるんだろうね？」って言われて（笑）「なんでですかねぇ？」って、そんな感じですよ。付き合い的には。

——自分から「行く？」って聞いておいて（笑）。

健想　「なんで一緒にいるんだろうなぁ。お前みたいにクソみたいなナマクラな野郎と」って（苦笑）。いや、僕は小学校のときからリトルリーグやってるし、ガッチガチの体育会系の中で生きてるから、ハッキリ言わせてもらうと長州さんとか、ああいうタイプの人間っていうのは簡単なんですよ、変な言い方だけど（笑）。

——簡単！

健想　やっぱり付き合いやすいですよ、正直なとこ。勝手も分かるし、体育会っていうのは矛盾の塊っていうのは理解してるし、そういう意味では凄く付き合いやすいですよね。

——初めてですね、そんなこと言えるプロレスラーに会ったのは（笑）。

健想　ただ、長州さんと2回目にサイパン行くときの2日前だったかな？　僕、パスポートなくしたんですよ。だいたいそれは棚橋が管理しておくもんなんですけど。

——そうなんですか（笑）。

健想　俺の大事なものは（笑）。それで、俺と棚橋は一緒の部屋だったんで「タナ、俺のパスポートどこにあんの？」って言ったら、「そこのベッドのとこにいつもあるじゃないですか？」って言うけど、ないんですよ。「ないよ！　俺、明日からサイパンなんだけど、どうしたらいいの？」って言ったら「あ、ブデ（ブルー・ウルフ）にバッグ貸したでしょ？」って言われて。「その中に入ってんじゃないの？」って。そのとき、ブデはモンゴルに帰ってるときで（笑）。

——帰っちゃってましたか（笑）。

健想　「どうしたらいいの？」って、で、場所中の朝青龍に電話したんですよ（笑）。

——アハハハハ！

健想　当時まだ横綱じゃなかったですけど、「関取！　俺のパスポート知らない？」って（笑）。「知らないよ！」って言われて。「知らないじゃないよ！」って言ったら「わかったよ！　いまからモンゴルに電話するから」って電話してくれたんだけど、「絶対ないよ」って言われて。そしたら、たまたま長州さんから電話があったんですよ。

——それはどんな内容だったんですか？

健想　電話に出たら「健三、俺、明日サイパン行くのやめるから」って。「あぁ、そうッスか。良かったぁ。長州さん、俺もちょうどパスポートなくしちゃって行けないなと思ってたんですよ」って言ったら「バカヤロー！　俺がふざけてるから、お前もふざけてんだろ!?」「だって、やめるって言ったじゃないですか？」「バカ！　お前みたいなのはクソだ！　クソッ!!　探せ!!」って言われて（笑）。

——そこでクソですか（笑）。

健想　それで一応探してたら、10分おきぐらいに「あったか？」電話がかかってきましたからね（笑）。

——気になってしょうがなかったんでしょうね（笑）。

健想　「だからぁ、ないんです！」って、こっちもだんだん頭にきて（笑）。

——逆ギレしちゃったと？（笑）。

健想　最終的に長州さんが「お前みたいなクソみたいな野郎とは絶対サイパン行かねえからな！　一週間前にパスポート確認しとけって言っただろ！」「はい。でも、ちょっと前まではあったんで」って言ったら「お前みたいなヤツは東京では生きていけないよ。田舎へ帰れ！」って言われました。

——そこまで言われましたか（笑）。

健想　また3ヶ月後に「サイパン行く？」って言われましたけどね（笑）。

——アハハハ！　ホント、聞けば聞くほど不思議な関係ですね（笑）。そこまで長州さんとやり取りできる人はいないんじゃないですか？

健想　先入観がないからだろうなって思いますけどね。

7月15日、映画『ハルク』のプレミア試写会に鈴木健想は、Mr.アメリカのTシャツを着て登場。シャレが効いてる。きっと、こういう人のことを「おシャレ」と呼ぶんだろう。

橋本さんは全部隠さず見せてくれましたよ、あの人はホントに面白い

―凄いよなぁ。あと、健想さんと言えば橋本さんの付き人をやられてたんですよね？

健想 はい。橋本さんも、かなりインパクトありましたね（笑）。

―新日本を辞めたとき、橋本さんからは声って掛かりました？

健想 え～っと……掛かりましたね。でも、そのときは行こうとは思わなかったですね。あの人の大らかさというか、ハッキリ言わなかったんで。

―「ウチに来い」とハッキリ言わなかったってことですか？

健想 そうですね。ハッキリ言われなかったから、まあ曖昧に終わっちゃった部分もあるんですけど。

―「お願いします」って言わせたかったのかもしれないですよね。

健想 そこまでは考えてなかったですけど。ただ、橋本さんの、いろんな大事な場面で僕はず～っと一緒にいさせてもらってましたからね。あの人の凄いとこっていうか、東京ドームでの小川選手との一番大事な試合のときから全部隠さず横に付けて僕に見せてくれたんで。それこそ、田中真紀子を連れていった田中角栄みたいな感じで全部見させてくれたんですよ。

―さすが破壊王ですねぇ。

健想 それは俺にとって凄いすり込みというか、大きな経験になってますね。

―橋本さんが一番揺れてる時期ですよね。

健想 全部隠さず見せてくれましたからね。しんどいときから全部。それからいろんな大事な人に会うとき、会話の仕方、自分のプロモートの仕方、試合、試合前も含めて。だって、あの人、試合前、普通にしてるんですけど、音楽が鳴ったら泣いちゃうんですから（笑）。それまではライガーさんとかと冗談言ってて、だけど試合音楽が鳴って、パッと顔見たら泣いてるんですよ。そんなのところも見て、この人は凄いなぁって思ったし。東京ドームで小川さんとの最後の試合のときとかも普通にしてて、試合前もいつものようにブリブリってクソしてたんですけど（笑）、音楽が鳴って出るときには「バ～ッ」って涙流してましたからね。

―いい話だなぁ。

健想 そんなの見てるし、そういう貴重なところから全て、24時間の内の寝る時間以外はほとんど毎日に一緒にいたんで、それは俺にとって良かったなぁって思いますよね。

―プライベートでも、いろいろ破壊王っぷりを見てるわけですよね（笑）。

健想 そうですね。「買い物行って来い」なんて、札束いっぱいの財布をもらって、リング屋から若手からみんな呼んで、「コンビニ行こう！」って言って、3万ぐらい使ったりしてましたね（笑）。みんなひげ剃りとかエロ本とかほしいものいっぱい買ってましたね（笑）。

―橋本さんも猪木さんのゴールドカードで豪遊してたらしいですからね（笑）。

健想 あっ、そうなんですか（笑）。面白いですよ。あの人はホントに面白い。

―同感です。でも、橋本さんと健介さんは、あまり仲がよくないみたいで（笑）。

健想 そうなんですよね（笑）。まあ対極なんで面白いですけど。ただ、すり込みは大きいですね、やっぱ橋本さんは入門して、すぐ付き人になったんで。

―どういった経緯で橋本さんの付き人になったんですか？

健想 自分は藤田さんに言われたんですよ。「お前、橋本さんの付き人やれよ」って。「そんな、橋本さんの付き人なんてできないですよ。絶対に仕事できないですよ」って。仕事できないっていうか、体育会のときから仕事マジメにやったら損するのは知ってるんで（笑）。

―アハハハハ！

健想 そしたら藤田さんに「バカ！お前みたいにいい加減なヤツだからできるんだよ」って（笑）。

―見抜かれてましたか（笑）。

健想 「あっ、わかりました。じゃあ、やります」って引き継いだんですよ。藤田さんから「あの人の付き人はいい加減なヤツしかできないんだよ」って言われたんで（笑）、「僕じゃまずいと思うんですけど」って一応言ったんですけどね。

―やっぱり藤田さんも大物ですね（笑）。あと、天龍さんとの一戦がレスラーとしての意識が変わった契機になったって言ってましたよね？

健想 そうですそうです。天龍さんとは、僕が新日本でデビューして初めての巡業の一発目の大会で試合が組まれて、そんときに、試合が終わって天龍さんに「今日はどうもありがとうございました！」って言いに行ったときに、天龍さんが「お前、プロレスなんていい加減なもんだぞ！」って一言ポロっと言ったんですよ。彼はミスター・プロレスって言われてるぐらいプロレス界の中で地位を確立してる人じゃないですか？

―そうですよね。

健想 その人に、その言葉を言われたときに、「なに言ってんだろう？」って思って（笑）。その後のシリーズかなんか、よく覚えてないんだけど、彼が武藤さんからIWGPを獲ったときがあったんですよ。そのときに「健三、打ち上げやるから来い」って言われて。僕は、そのとき、たまたま武藤さんの付き人を臨時でやってたんですけど、なぜか呼ばれたんですよ（笑）。

―それも凄い話ですね（笑）。

健想 で、ポンッと10万小遣いもらって（笑）。「飲め！」って言われて。

―さすがですね（笑）。やっぱり天龍さんにガンガン飲まされたわけですか？

健想 いや、そうでもなかったですね。そういうのもあったりで、僕にとって天龍さんはポイントポイントで結構インパクトを残してるんですよねぇ。

―WJに入ってからも、天龍さんからは何かインパクトは受けました？

健想 WJになってからっていうのは、やっぱり5月4日の試合でシングルやったのは凄いターニングポイントになってて、あのときは自分からやってみたいって言ったんですよ。いままでも試合してお客さんが沸くというか、お客さんとピントが合うっていうのは、たまたま新日本のときでもあったんですけど、あの試合に限っては自分からピントを合わせていくことが初めてできた試合かなって。それまでは合わせるっていうことすらわかんなかったし、それをあの人は教えてくれたのかなぁって。たぶん、この先、試合をしていく上で、あの試合を忘れることはないでしょうね。

―そう考えると、これまでのレスラー人生を振り返ると、ヒロさん、長州さん、橋本さん、天龍さんからの影響が大きかったわけですね？

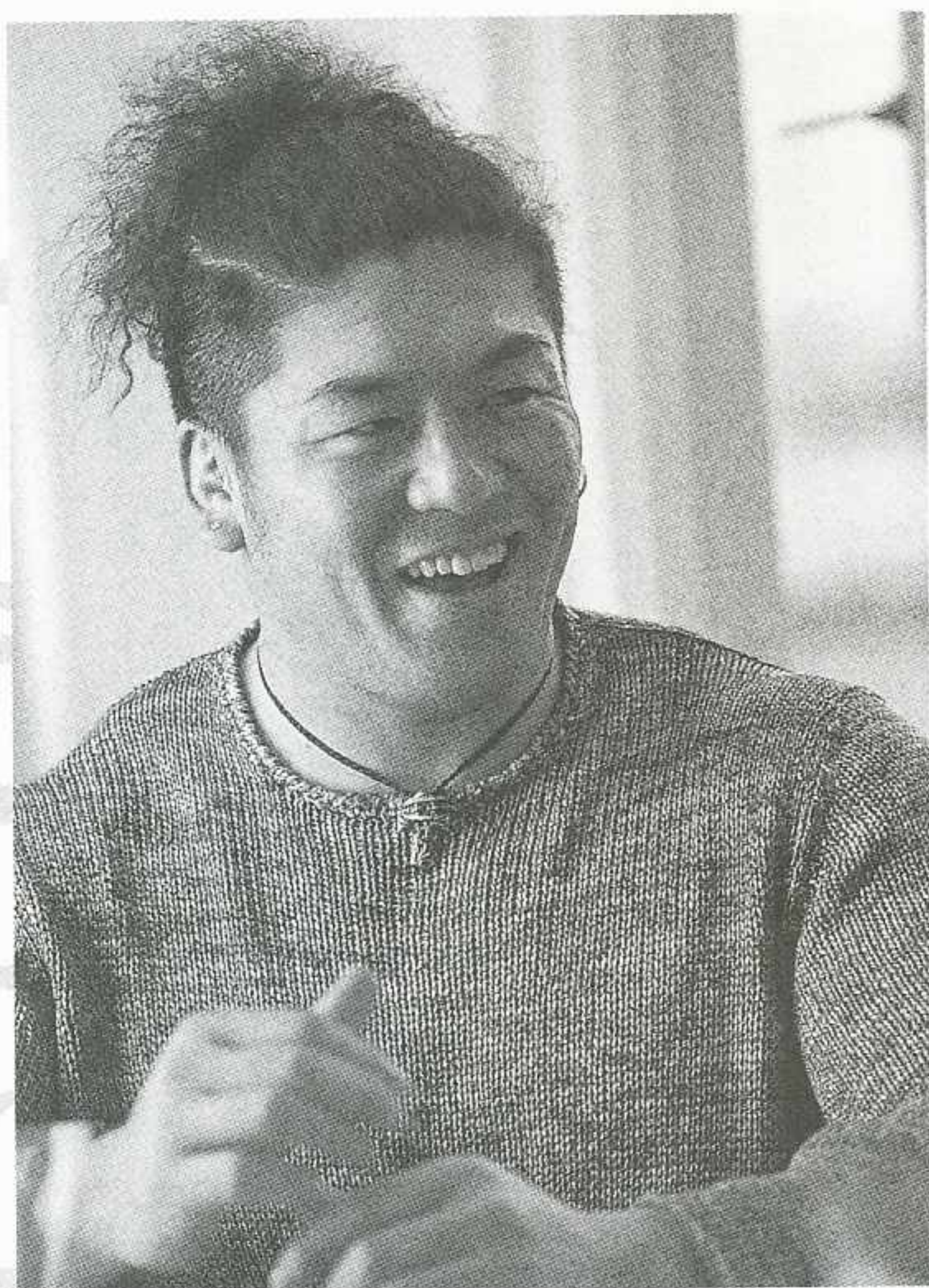
健想 あとは健介。みんながいろんなインパクトを残してくれて（笑）。

―そういった様々な選手からインパクトを受けて、最終的な野望としては以前から言ってるようにWWE進出？

健想 そうですね。それは新日本時代から長州さんにも言ってましたし、いまも、チャンスがあれば向こうに上がれる契約にしてもらってるんで。近い将来、必ず実現させますよ！

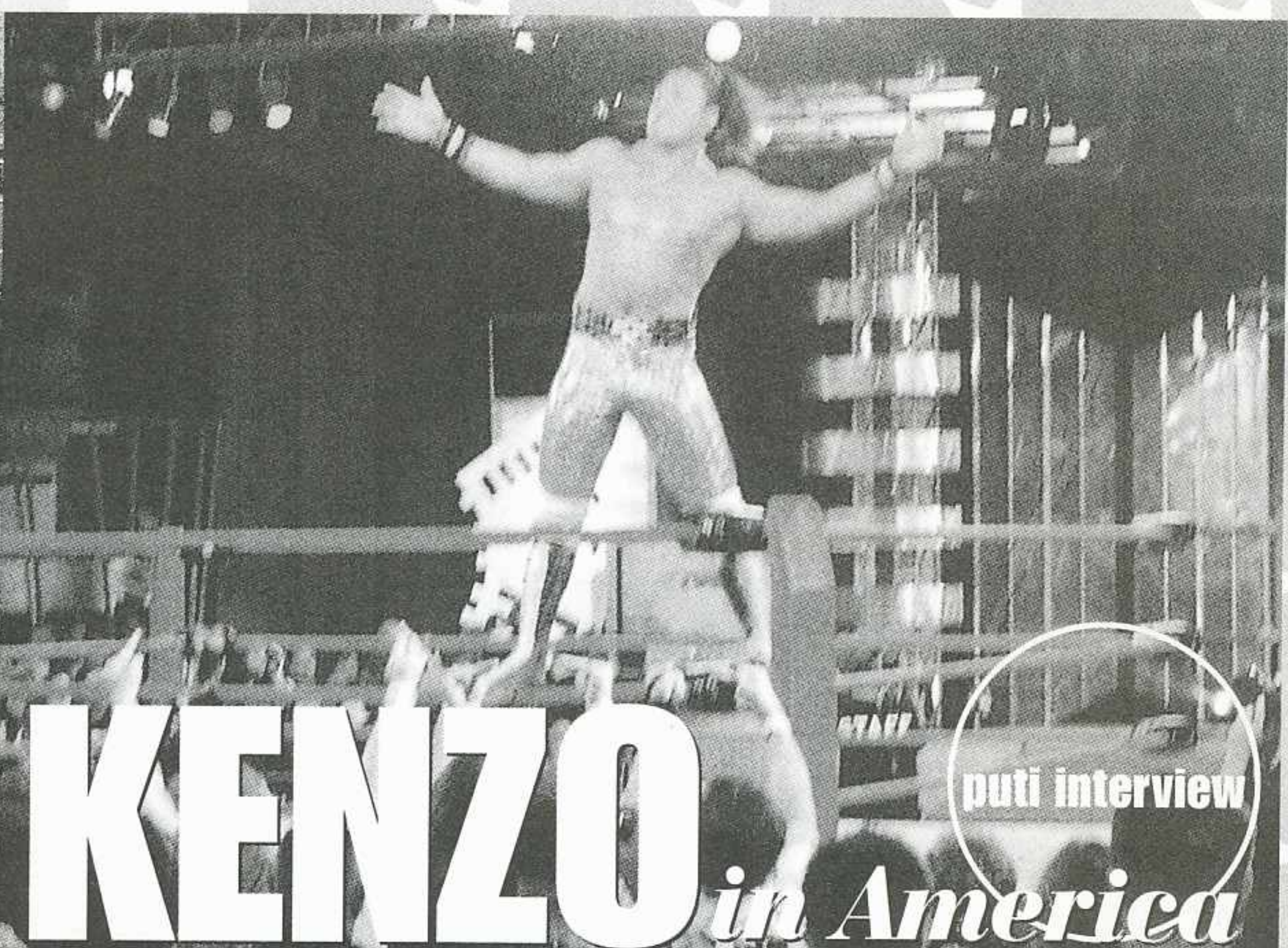
―期待してます！　今回、短期間ですけどアメリカ遠征に行かれるっていうのは、将来のWWE参戦へ向けての足掛かり的な部分もあるんでしょうね。

健想 足掛かりというか、とりあえずアメリカの観客相手に心理作戦してみて、どれだけ自分にピントを合わせられるかっていう勉強ですね。頑張ってきますよ。

【6月10日／WJ事務所にて収録】

健想はアメリカ遠征時にNYを散策。「使ってください」と写真を撮ってきた。上の写真は健介が行った際に涙を流した世界貿易センター跡地、通称「グラウンド・ゼロ」。ちなみに、健想は「泣かなかった」とのこと。下の写真はヤンキースタジアムで松井の試合を観戦した時のもの。

ハーレムにも足を伸ばし、壁にボムってあるグラフィティを激写。街に息づく黒人文化に触れて、日本に思いを馳せる健想。そんな熱いコラムが「@ぴあ」のホームページで読める。悩みながらも一歩ずつ前に進む健想に大いなる可能性を感じずにはいられない。

puti interview

KENZO in America

6月下旬、鈴木健想が念願のアメリカ遠征を敢行！　わずか3試合だけではあったが健想にとっては試合数以上の収穫があったという。帰国後の健想をキャッチ、話を聞いてみた。

――わずか3試合とはいえ、待望のアメリカ遠征はどうでしたか？

健想　いや、もう最高でしたねぇ！

――「歓声から緊張感まで何もかも日本とは違った」って『ぴあ』のHPで連載中のコラムで書かれてましたけど？

健想　やっぱり、自分が仕事をやる上で一番夢見てる場所ですからね。それと、今まで自分の頭の中でしか想像できなかったリングに、いざ上がってみて、「もしかしたら自分でもやれるな」っていう感触を掴めたっていう意味でも充実してましたよ。ヒールのはずが最後は、なぜか声援浴びましたからね（笑）。僕としてはヒールとして日本人の冷酷さというか、冷たさっていうのをヘビー級の人間として伝えたかったんですけど、それ以外の部分で、観客が感心してくれたというか、心を動かされてくれたみたいで。それで逆に最後はベビーフェイスになったという、一番いい感じの試合ができたなって。

――吉田兄弟の三味線に乗って着物姿での入場っていうのは、向こうの観客にもインパクトあったみたいですね。

健想　やっぱり神秘さを出したかったんで、いろいろ考えてたんですけど、最初は大ブーイングだったんで、「あぁ良かった」と思って（笑）。

――してやったりと？（笑）。

健想　そうですね。最終的にはアメリカで本当のビッグヒールになりたいと思ってるんで。今回の遠征でアメリカでやっていける自信も出てきたし、いままではアメリカに挑戦して、メシ食えなくてもいいぐらいの感じだったんですけど、それがちょっとした確信に変わりましたね。

――例の『ぴあ』のコラムで「ここでは言えない」ってことでしたけど、今回の遠征後に「今するべきことがハッキリ見えた」って書いてましたね。

健想　見えましたよ！　今回の遠征では試合も充実してたんですけど、控室で、いろんな人と話しましたからね。

――それはどういった人とですか？

健想　初めECWの残党みたいな人とか偉い人たちがいるところに、なぜか僕は早く行ってそこに陣取って座ってたんですけど「出てけ！」って言われてもボクは出ていかなかったんですよ。

――あ、そうなんですか（笑）。

健想　やっぱり、いろいろコミュニケーション取らなきゃって思って。「オマエみたいなピンクのパンツ履いてる野郎は出てけ！」って言われたんですけど（笑）。

――でも、そういう図太さって必要なんでしょうね。

健想　必要なのかわかんないですけど、出ていかなかったから、スティングとかとも話できたし、そういう意味では良かったですね。あそこで出ていったら、もっと気弱で帰ってきたんじゃないかなって思うし。そこは、ちょっと自分の中で誇れるとこかな。あと、これは書かないでほしいんですけど…（と言って、ある計画の話をする）

――うわ～ッ！　誌面に載せられないのが残念です。

健想　（唐突に）でも、あの12歳の少年が4歳の子供を殺した事件は酷いですねぇ。

――長崎で起きた事件ですね。

健想　大臣かなんかが「両親を引きずり回してなんだかんだ」って言ってたけど、あれはよく言ったなぁって思いましたよ、ホントに。凄い！　僕は、その大臣をずっと支持しますね。

――ほぉ～。鴻池大臣の発言は失言って言われて騒動になってますけど。

健想　失言じゃないですよ。みんな考えてることだもん。それを大臣の立場で言えるのは凄いなぁって。あれは久々に感動しましたね。自分が昔、イギリス留学してるとき、7歳の子供が1歳の子供をいたぶって殺して、たしか40年ぐらいの判決が出たことがあったんだけど、それぐらいしなきゃダメですよ。

――健想さんらしくていいですね（笑）。最後に、9月にWJが協力という形で『X-1』という総合格闘技の大会を始めるということなんですが？

健想　ノーコメントじゃダメですか？

――あまり語りたくないと？

健想　そうですね。

――これまでの言動を見ても、健想さんは出るつもりはないんですよね？

健想　僕の出場はないですね。……でも、この前のアメリカ遠征でテリー・ファンクが言ってたんですよ。「日本のプロレスはどこ行っちゃうんだ。プロレスラーはどこ行けばいいんだ」って。

――健想さん的にも、その発言にはうなずくところがあったと？

健想　う～ん、なんていうか、とにかくテリーはそういうこと言ってましたね。僕が『X-1』に対して言えるのは、そういうことだけですね。

――わかりました。

健想　僕は今、凄くプロレスに魅力を感じてるんで。それに自分はラグビーっていうシュートの世界でずっと生きてきたから格闘技は薄っぺらいものに見えるところがあって。プロレスって、それ以上に難しさを凄く感じてるし。……別にバカにしてるわけじゃないですけどね。それは長州力もわかってると思うんだけど。

――前回「プロレスラーって胸張って言えますか」って聞いたら「まだちょっと」ってことでしたけど、海外遠征を経てちょっと自信がついたんじゃないですか？

健想　もう凄い充実してたし、ちょっとだけステップアップしたような気がする。アメリカのキャリアでは。

――それは良かったです。今後の可能性も含めて、胸を張ってプロレスラーと言えるような活躍を期待してます！

昭和の哲人が見た7・19WWE『SMACK DOWN』神戸大会

『WWEという双頭の恐竜その恐怖と称賛』

井上義啓

今回は「喫茶店トーク」をお休みして
I編集長、熱筆!!

日本の連中(プロレス関係者)は、縄張りをゴソッと持って行かれることに、まだ気付いていない

7月17日。京都の街は祇園祭の山鉾巡業で華やいでいた。古い歴史と目を奪われるアートと……。それを具現しているのが各種の山車（だし）だが、そのいずれにも華があって、青い目の観光客はおろか、祭礼慣れした地元の人たちでさえ、そのエンターテインメントに心浮かれる。

今日、横浜でやっているWWEがこれなんだ

発売1時間で、チケットがソールドアウトしたというのは嘘である。当日券は必ず残しておかねばならないのが興行界の常識。それをきちんと守らないと、もうチケットはどこに行っても手に入らないんだとなって、客足はバタッと止まる。

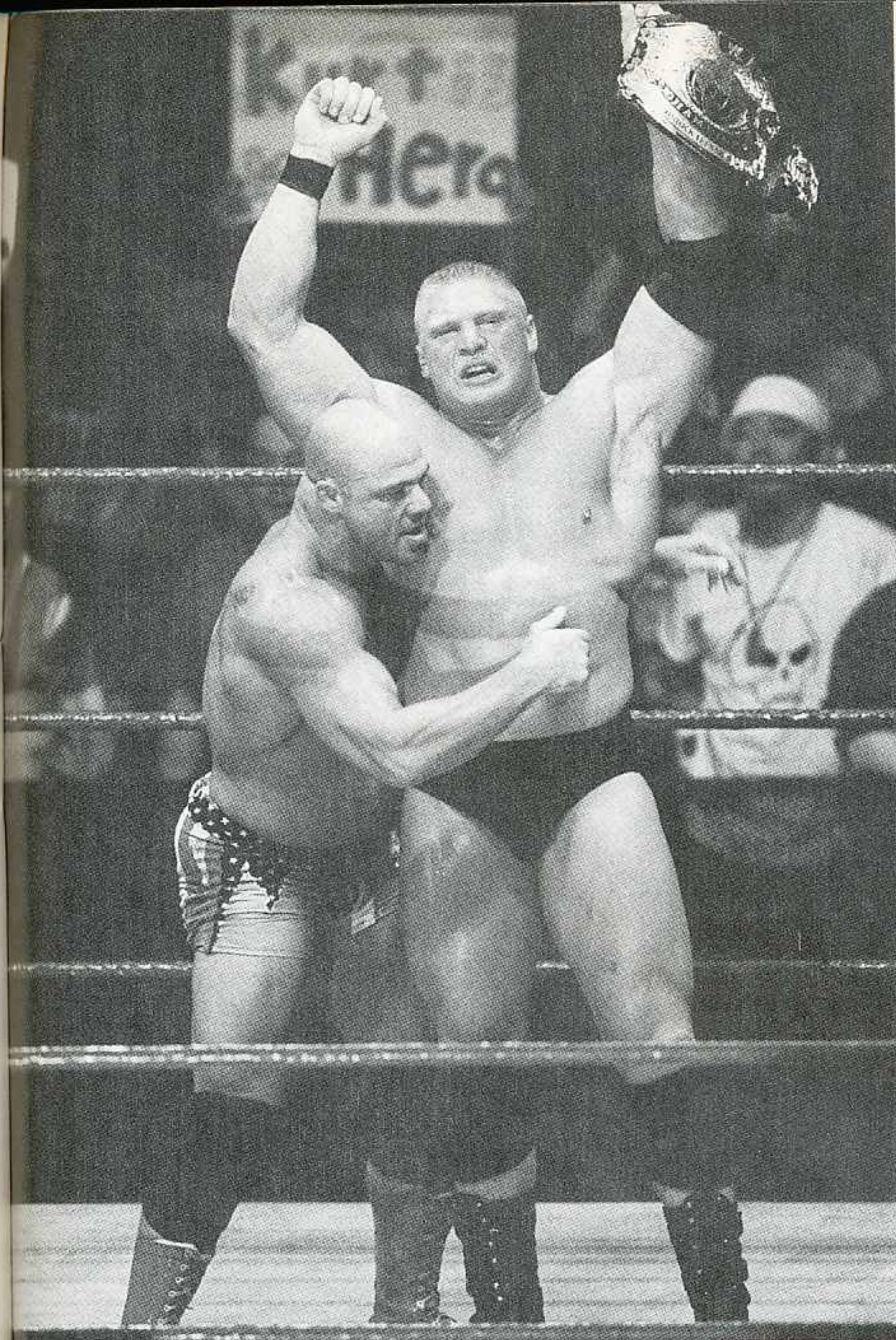
そんなことは力道山からも聞かされたサ

気が滅入るプロレス興行の不入り。東京、大阪、札幌などの不況の街で金減らし虫が情けなさそうにピーピーと鳴く。だから〝平成のデルフィンたち〟にチケットを買う金はない。

それが原因じゃないだろう

またしても愚にもつかない堂々巡り。プロレス界の不振は『I予言』のせいじゃない。大阪の馬鹿が貧乏神を引っ張ってきたんじゃない。それは『猪木は死ぬか！』というチンケなプロレス本が世に出た瞬間に、間違いのないものとして運命づけられた。

さて、独り勝ちのWWEをどう料理しますかね

2日後に迫った神戸ワールド記念ホール大会。その雑然とした会場前の風景を思い浮かべる。

レスナー、アングル、ビッグ・ショーのボディとパワーは本物だ。やろうと思えばバードだってやってのける。

ポイントは、WWEが日本マット界を浸食し乗っ取るってことだ。それ以外のテーマパークってあるのかね

石井和義・元正道会館々長の顔が浮かんだ。それにオーバーラップして猪木の顔も……。

乗っ取られると分かっているのは、あの2人だけなのかも知れない

昨年3月1日の横浜アリーナ。あの時のフィーバーが黒船の恐怖を日本人に教えた。それなのに、プロレス関係者は「何年かにいっぺんやるから入るんだよ」と、申し合わせたかのように同じ言葉を口にし、そして笑った。

愚かな。アメリカは駄目でも、日本はこれからのビジネスさ。ペリー(ビンス・マクマホンJr.)は、毎年、艦隊を率いて横浜沖にやってくるぜ

『RAW』と『SMACKDOWN』(以下『SD』)に分割されている以上、年2回興行を定着させたとしても、ファンにとっては〝いっぺんこっきり〟でしかない。しかも、主力レスラーの1人か2人は必ず欠けているというビンス商法。

1月の時もブッカーTが抜けていた

家庭の事情であろうが、ヤバイ話が絡んでいての話だろうが知ったことじゃない。要は、次の『RAW』にはブッカーTがトリプルHと一緒にやってくるという、うまい商売。

19日だって(アンダー)テイカーはいない……

アーン・アンダーソン、ブッカーT、アンダーテイカー。私が見たいと思ったレスラーは、いつもブラウン管の中にしかいない。レスナーとビッグ・ショーだけかと思ったが、さすがにカート・アングル、TAJIRIは揃えた。しかし、この青い目の3人は、WWEに似つかわしくない大根役者。どんなにうまい脚本を書いて渡しても、あの3人にはサジを投げる。

しかし、あのボディとパワーは本物だ。やろうと思えば、バードだってやってのける

あるスポーツ紙のデスクから電話があった時のお話。

「WWEの日本上陸はどうひねったら見出しが立つんでしょうか」と言う。

「プロレスだけじゃない。『PRIDE』、K—1といったバーリ・トゥードにも進出して来ますよ。日本マット界は、WWEのプロレス興行とバーリ・トゥードによる侵略という腹背に敵を受けることになります。そう持っていったらどうですかね」

その記事を読んだ記者、関係者の中には大笑いした者がいたという。

「あのバード大嫌い人間のビンスが、何で『PRIDE』やK—1をやるんだよ」

19日。例によって、会場付近でファンに取り囲まれた。

「編集長（私の呼び名）」が、長州の団体はバード（私に対する礼儀は、ちゃんとわきまえている）を必ずやると言っていたのを読んで、あのバード拒否の長州がやるわけないと思ってましたけど、言われた通りでしたね」と、私の顔を見る。

「長州が新日と同じストプロ（ストロングスタイルのプロレス）をやる訳がない。商売にならないからです。長州は必ず、その上を走るガチプロ（ガチンコに近いプロレス）をやるはずだ。健介というバード屋がいるのだから、健介を主体としたバードの方向。そう直感できたので、WJはバードをやるだろうと言った。WWEも同じでね。ビンスは大のバード嫌い。だから、そんなことはやらないなんて言うのは単細胞でしかない。今日出てくるレスナーにしてもレノックス・ルイスと異種格闘技戦をやらせようとした。実現寸前まで行ったんだけど、金の面で折り合わなくて流産した。こうした出来事は、知識としてきちんと覚えておかないといけない。だから島田レフェリーが『アングルもそうだけど、レスナーもバード向き。だから社長（榊原信行氏）に、そう進言したくて見に来ました』と口にしている。長州もビンスも自分がやっているビジネスの足を引っ張るからバードを毛嫌いしているだけの話。商売になると見たら、必ずバードにも手を出す。WWEの下部組織ね。オハイオ・バレー・レスリング（OVW）には、第2のサップ、ミルコ、ヒョードルはウジャウジャいる。だから、これはと思ったら、すぐに日本に渡りをつけるだろう。そんなことも読めないで、よくビジネスがやっていられる。私の目が確かなんじゃない。すぐ分かるはずなのに、それに気付いていないというね」

試合後、東京、新大阪、高槻（大阪府下）などからやって来たプロレス者の4人組に取っ掴まった。

「編集長と〝喫茶店トーク〟がやれたら……とみんなで言っていたので、こんな〝居酒屋トーク〟に恵まれるなんて感動ものです」と、鯛一匹を丸々使っての握りだのあら煮だのといったサービス料理を口にしながら話が弾んだ。

「やはり日本のプロレスとは違って、とてつもなくスマート。ゼニの取れる体をした連中ばかりだし、繰り返してリハーサルしているから、技の仕掛け、返しにモタモタしたところがない。レフェリーも日本と違って、ワン、ツーで手を止めたりしてヤジられたりブーイングの嵐なんて場面が一度もない。猪木が旗揚げした47年10月10日のゴッチ戦ね。猪木がフォールされてテレビのカメラが初めて回っているというのに負けた試合だけど、レフェリーのテーズがポンポン、ワン、ツー、スリーとカウントして、さっさとゴッチの手を上げた。あのシーンが思い出されたね。レスラーが引き揚げるのと同時に、次の試合のレスラーがサッと入場して来るテンポの良さね。日本

WWEはいっぺん見たら十分の明石海峡大橋じゃない。リピートのきくUSJだ。

と違ってダサイ入場シーンなど皆無だ。あの入場パフォーマンスだけを見てもハハーンと感心させられる。トーリーちゃん、セイブルなどのお色気も日本のファン気質を考えて抑えているし、乱入、乱闘、ヘタなマイクパフォーマンスはやらない。アメリカと違ってメーンなどは13分、16分きちんとやる。3分や6分といった向こう時間じゃないからね。すべての点において、日本のファンを研究しつくしていて、見事と言う他はない」

「マスコミ批判などは全部読んで会議にかけているんでしょうね」

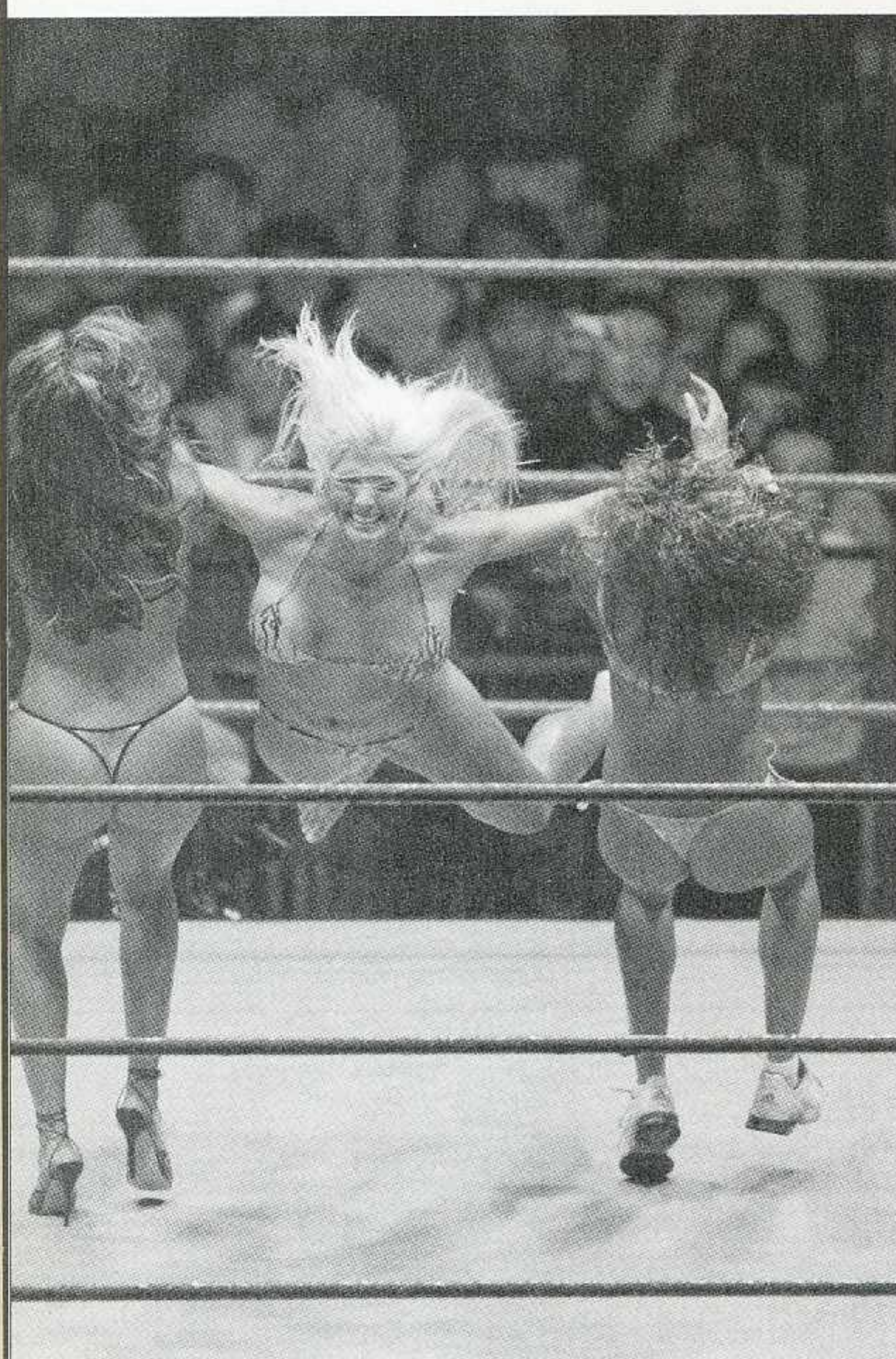
「そう。しかもWWEのレスラーはファンを神様扱いする。上から見下して邪険に扱っているのが日本だ。WWEはいつも会場のファンと合体し、視線を合わせ、ノリノリのムードを演出する。相手を投げた瞬間に、顔は会場の方へ向けている。少しでもだれると、すぐ手拍子をやったりで、白けた間（ま）を消す。ファンと一緒になって試合を作っているのがWWEの特長だ。

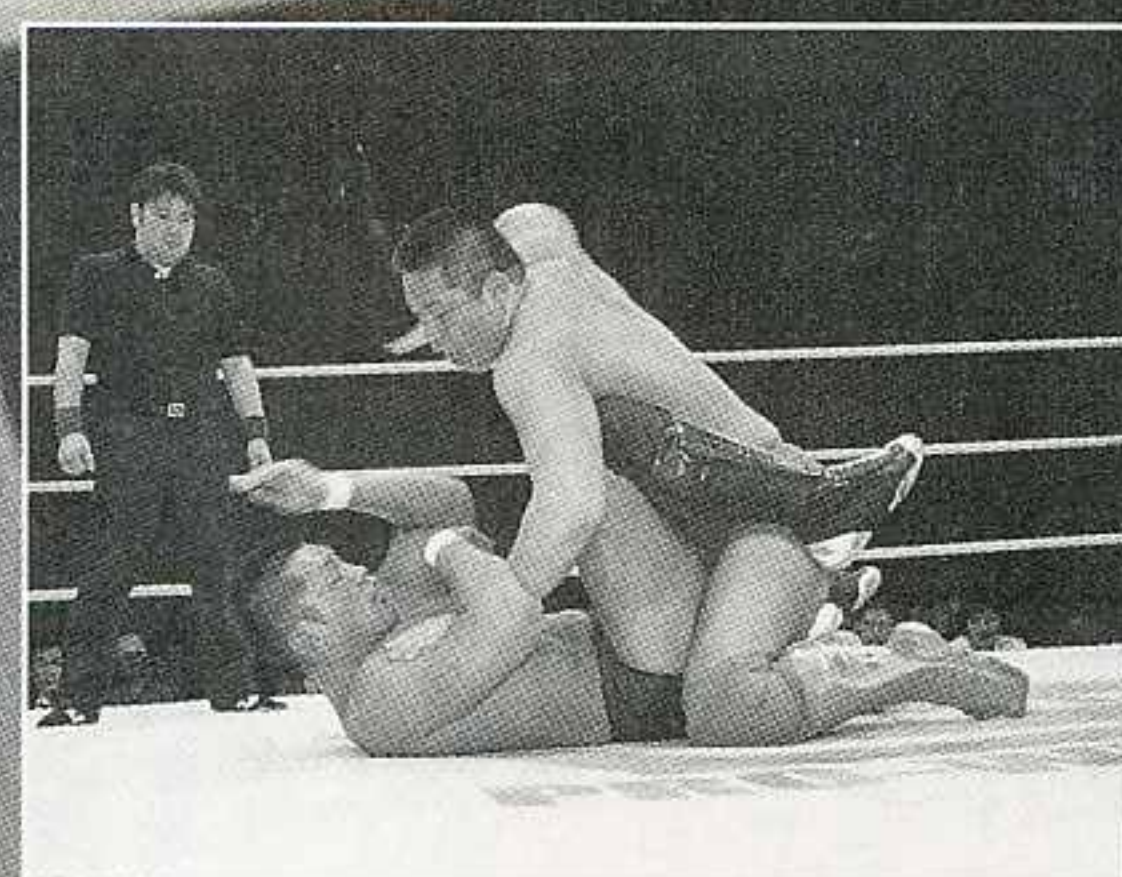
駄目なファイトをやっている日本の△△や××といった主力レスラーは1人もいない。そんなレスラーがいたら、2年契約であっても殺人医師のように8ヶ月でクビになってしまう。だから全員がブーイングを呼び込まない凄い試合をやる。ビショフは『セクシーとバイオレンスがポイントだ』と言っているが、器（うつわ）はそうであっても、中身はビシッとしたハイレベル。今日なんかもアクビをするヒマがなかった。WWEしか見ないというファンがいるわけだ。今年は12月興行はやらないと聞いたが、『RAW』『SD』の2回興行を崩さない限り、ソールドアウトは来年も続く。WWEはいっぺん見たら十分の明石海峡大橋じゃない。リピートの利くUSJだ」

「やはりハマりますね。今日なんか会社さぼって来たくらいですから……」

「ヘェー。東京からわざわざ」

「そうなんです。楽しいですよ。編集長にもお会いできた事ですしね」

〈J〉

険しい表情で坂田の入場を待つ伊藤。その目からは、この一戦に対する〝覚悟〟と〝決意〟のようなものが感じられた。

伊藤は、ゴングと同時にかつての先輩相手に喧嘩腰で向かっていく。グラウンドになっても、一心不乱に坂田の顔面を張っていった。

坂田は伊藤の"仕掛け"を受け止めた上で、より厳しい攻めで肉体、精神の両面で伊藤を追い込んでいく。

6.29 U-STYLE梅田ステラホール

ただならぬムードに包まれた 坂田亘vs伊藤博之 やはりプロレスは"闘い"だ!!

文・撮影／堀江ガンツ

designed by matsu (Two three)

今年2月に旗揚げ以来、U―STYLEは会場の規模こそ小さいながら、毎回、復活を心待ちにしていた〝信者〟たちで超満員。館内はそれこそ新生UWF後楽園大会のように、熱烈な盛り上がりを見せている。

しかし、重度の〝Uヲタ〟であるボクのような人間には、常に「これは本当に〝U復活〟と言えるのだろうか？」という疑問がつきまとっていたのも確かだ。

U―STYLEは、ルール、レガース、試合のフォーマット、どれをとっても〝U〟に違いないのだが、何かが足りない。その名の通りUの〝スタイル〟は踏襲しているが、肝心要の〝闘い〟の部分が欠けているような気がしてならなかったのだ。

だから、この日3回目を迎えるU―STYLEを見る上でのテーマは、〝闘い〟を見せてくれるか否か、それに尽きた。そして結論から言えば、遂にここ大阪でそれを目撃することができたのだ。その試合こそ、坂田亘vs伊藤博之だった。

伊藤はリングス最後の新人として、01年9月にデビュー。入門は横井宏考より1年近く早かったが、デビューは横井に1ヶ月先を越された。そしてこのU―STYLE大阪の時点で、総合格闘技での白星は未だなし。〝総合負け知らずの横井とは対照的な、〝前田道場の雑草〟だ。

相手に勝つには、まず自分に勝たねばならない。そういう意味で、リングスの先輩である坂田は自分を打ち破るのに最適の対戦相手だったのだろう。新人時代、縦社会である道場では憎らしくても決して逆らうことはできなかった相手に真正面から〝喧嘩〟を仕掛ける。この日、伊藤は坂田を相手に自分自身と闘っていたのだ。

そういった伊藤の思いは、闘い方にモロ

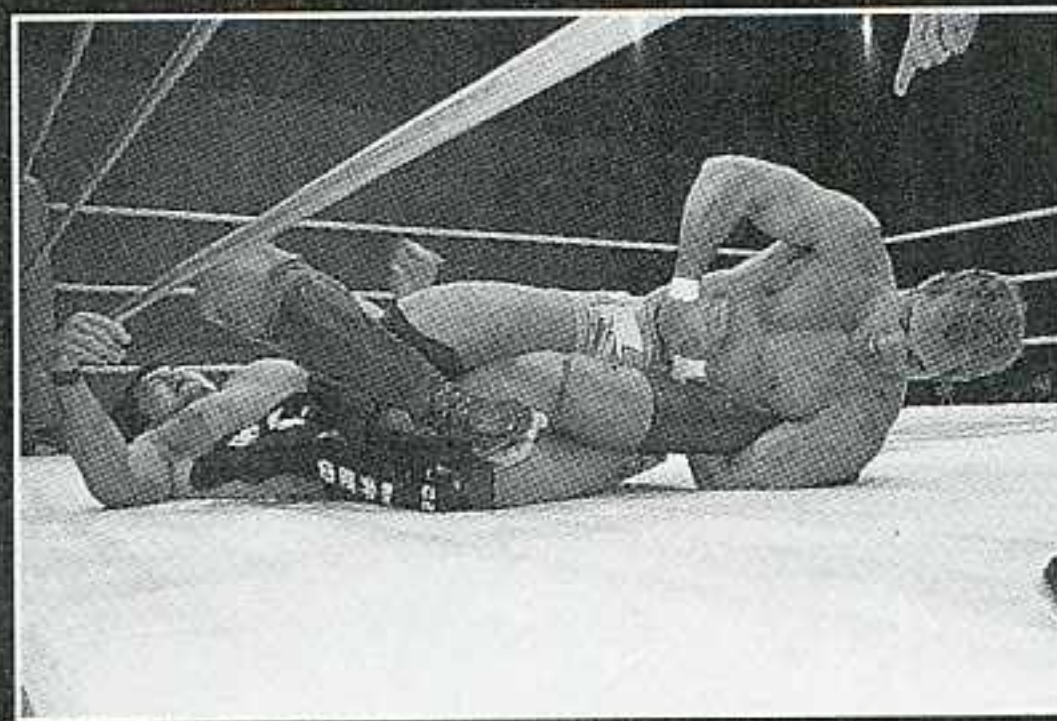
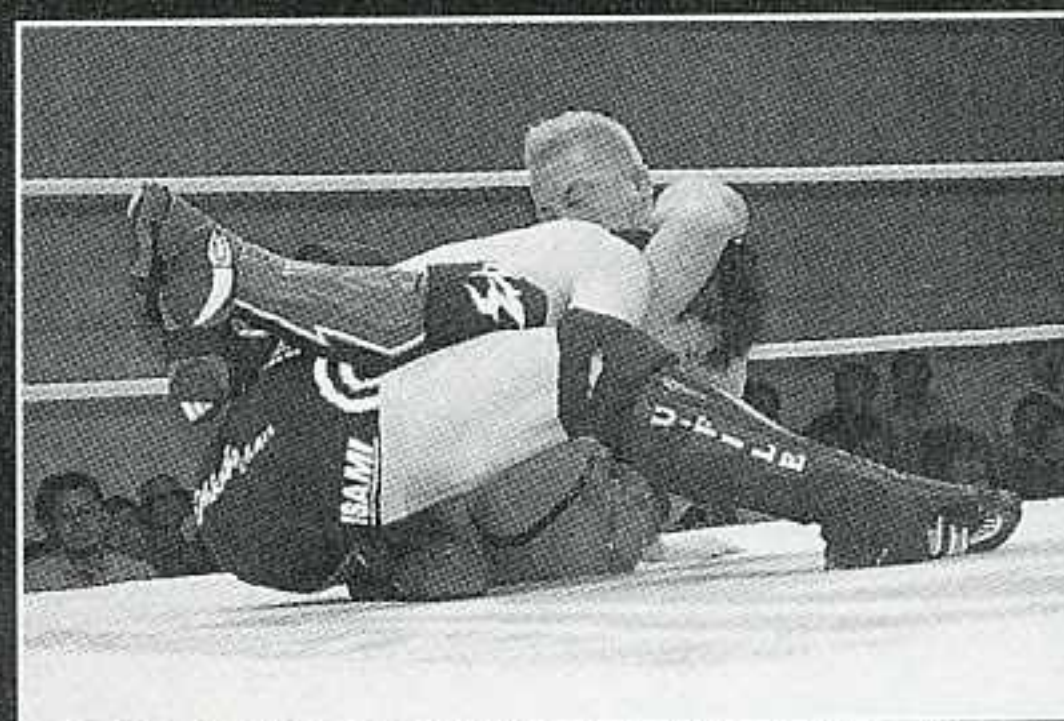
“前田道場の雑草”伊藤博之にUの原点を見た!

徹底的に厳しい攻めで伊藤の潜在的な情念を爆発させた上で、その上をいく力での勝利。この日の坂田は先輩として天晴れな闘いぶりだった。

試合後向かい合った両者。この場面が伊藤にとって前田道場の“卒業試験”みたいなものだったのだろう。両者の表情にも注目。

6.29 U-STYLEその他の試合

三島、U-STYLE初勝利! 藤井は田村戦へ最後通告!!

U-STYLE2戦目となる三島☆ド根性ノ助は、ごらんの出で立ちで登場。あまりにも小さすぎるビキニパンツが気になったが、試合ではこの上にスパッツを装着。

三島の相手はU-FILEで最もU-STYLEに対応している佐々木恭介。試合は関節技でのエスケープの奪いあいとなった。

バトラーツの原学（はらまなぶ）は大久保ちゃんに一本勝ち。実は原も若手の中では伊藤に次いで田村潔司の評価が高い選手なのだ。

U-STYLE3連続秒殺勝ち藤井克久（UFO）は、「田村と闘えないならもう出ない」と、田村戦への最後通告を行った。

に表れていた。技なんか関係ない。とにかく坂田の顔をしばく、しばく、しばく。ダメージよりも、坂田の顔面を張るという“行為”こそが伊藤にとって大事だった。

そして、こんな伊藤のある種自分本位で身勝手な闘いをしっかり受け止めた坂田も立派だった。伊藤の“仕掛け”に対して、容赦なくより厳しい攻めで返していく坂田。それに対し、また顔をくしゃくしゃにして向かっていく伊藤。その姿に観客は心を動かされ、期せずして「伊藤コール」が巻き起こった。

張り手やコブシで顔面をグリグリする行為など、この日出た技というのは、競技的な勝敗には直結しないものばかりだ。だからU—STYLEは“格闘技”ではない。しかし、そこには間違いなく“闘い”があった。そして、これこそがUの原点である昭和新日本プロレスの前座戦線から脈々と受け継がれてきた“闘い”なのだ。

試合は逆片エビ固めで坂田の完勝。そして試合後、伊藤は立ち上がるとリング中央で坂田と再び向かい合った。そこで伊藤がとった行為は、両手での握手や土下座ではなく、坂田の目しっかり見据えて放った張り手だった。坂田はそれに対しニヤリと笑って一発張り返した。

「坂田先輩は自分にとって壁というより、叩いたらすぐ割れるベニア板みたいなもの。三島でも冨宅でも、外敵はみんな俺が潰します!」

控え室で伊藤が一点を見つめながら語ったコメントは、他の誰でもない、自分自身に言い聞かせたものだろう。

そして、この試合から2週間後の7月13日。DEEPのリングで、伊藤博之は遂に総合格闘技初勝利を挙げたのだった——。

アルティメット・クラッシュ、『X-1』、そして『PRIDE』中量級etc

VT界に新興勢力、続々と登場!!

どうするDEEP!?

6・25後楽園ホールは、桜井〝マッハ〟速人と〝奇人〟朝日昇という、修斗のビッグネーム2人がメインとセミを努めたが、明暗を分ける結果となった。

まず、実に2年9ヶ月ぶりの総合格闘技復帰戦となる朝日は、セミに登場し『DEEP』のお膝元・名古屋の柔術家TAISHOと対戦。しかし、ブランクが影響したか動きがぎこちない朝日は、1RからTAISHOのパンチで鼻血を出すなど大苦戦。2Rになっても下から腕十字を取られそうになるなど、グラウンドでも朝日らしさは見られず。そして3R。ゴングと同時に踏み込んだTAISHOの跳び膝が朝日のアゴに命中! 朝日はふらつきながらなんとかグラウンドに引き込むも、上からパンチを連打され、レフェリーストップ!! 〝奇人〟朝日昇、2年9ヶ月ぶりの復帰戦は、全く朝日らしさが見えないままTKO負けという結果が下されてしまった。

一方、メインに出場したマッハは、元UFCミドル級王者デイブ・メネーと好勝負を展開。1Rから積極的に前に出て先手を取ろうとするマッハに対して、メネーも寝技でマッハの上をキープするなど元王者の片鱗を見せる。そしてメネーはそこからヒールホールドに移行するが、マッハは「待ってました」とばかりに体勢を入れ替え脱出。そして2R、マッハの膝蹴りがメネーの顔面を直撃、メネーも何とか寝技に持ち込むが、マッハはそこへさらに三角絞め。これは極めるまで至らなかったが、スタンドの膝で目尻をカットしていたメネーはここでドクターストップ。元UFC王者に流血ドクターストップとはいえ、危なげない勝利を飾り、いよいよ復活を印象づけたマッハは、この日の勢いそのままに7・13

DEEP 10th IMPACT in KORAKUEN HALL

6月25日　後楽園ホール

マッハでも三島でも辻ちゃんでもない！ すべてのカギを握るのはこの男だ!!

DEEP代表
佐伯繁(34歳)

マッハ、元UFC王者に完勝!!

『DEEP』2度目の参戦となったマッハの相手は元UFCミドル級王者のデイブ・メネー。「女の人より短い俺の足が、背の高いメネーの顔まで届くんだからね」と試合後に語ったマッハ。その言葉通り、首相撲からのヒザ蹴りが左頬を直撃！その後、三角絞めで捉えるとメネーの左頬からおびただしい出血が見られ、ドクターチェック。診断後ドクターストップが掛かり、マッハが勝利を収めた。

朝日、沈没!!

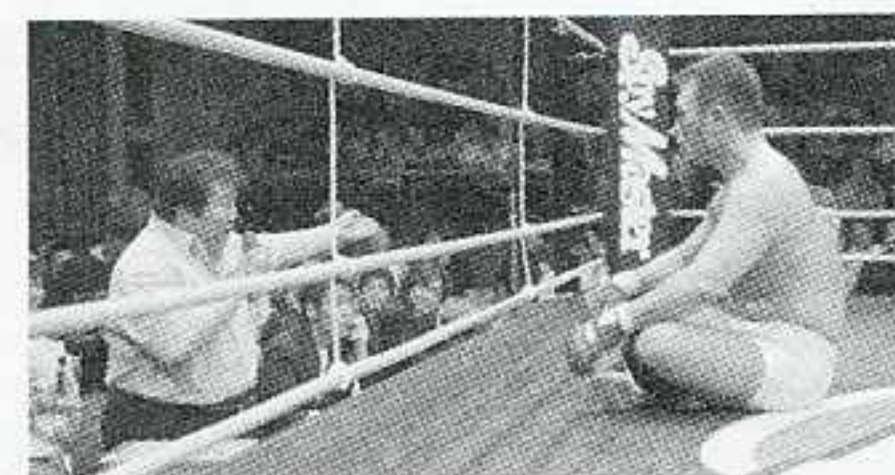
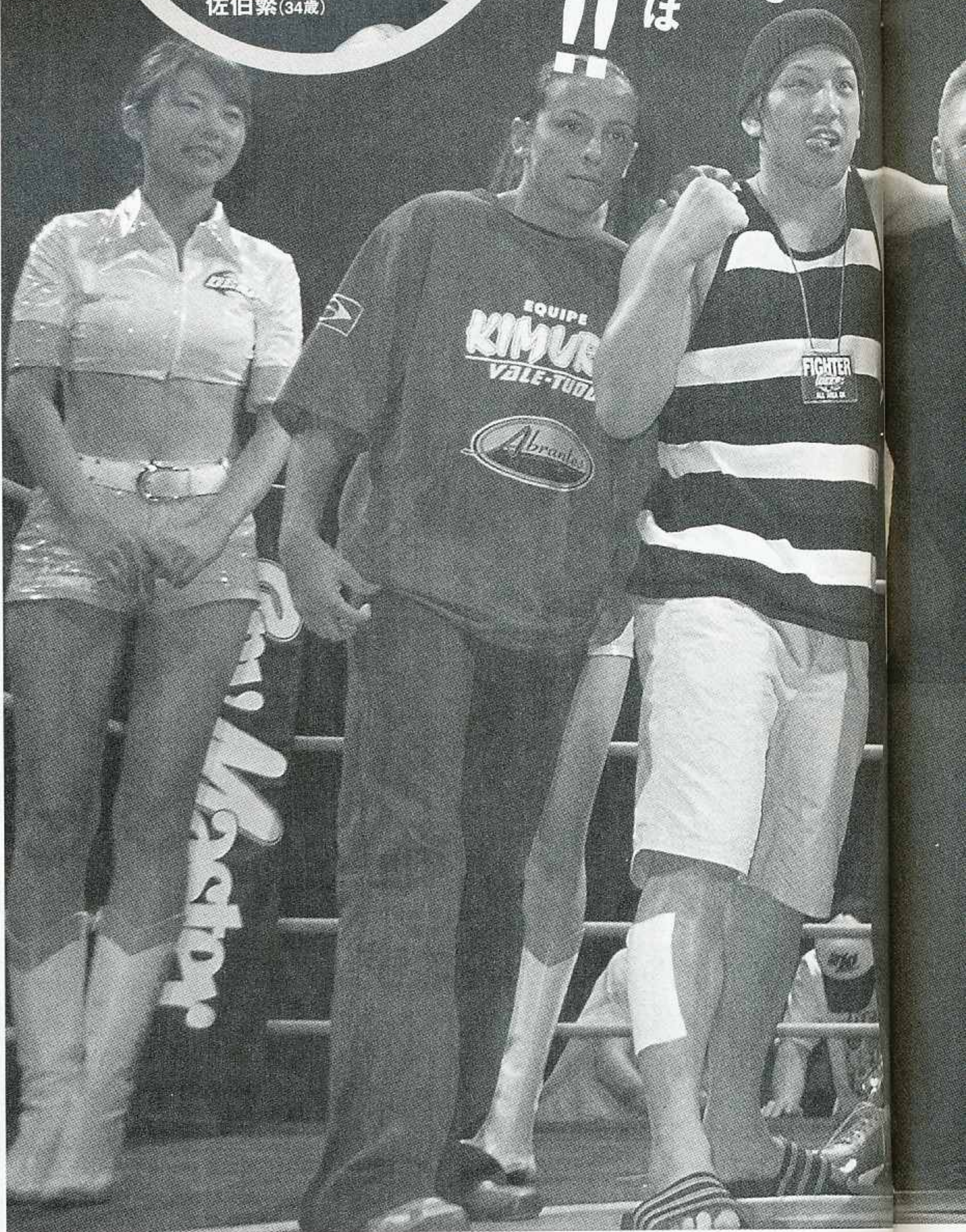
2年9ヶ月ぶりにリングに帰ってきた朝日昇だったが、2Rに下から腕十字を極められ、続く3R開始早々、TAISHOの飛びヒザ蹴りをアゴに受け、そのままコーナーでパンチの連打を食らいレフェリーストップ

須藤元気ばりに背中を向け走り回ったりと、終始おちょくったファイトを続ける鬼木貴典をMAX宮沢が打撃で追い詰めるも、判定はドロー！

「テイクダウンされたら総合はやめます」と言うレスリングエリートの小野瀬が大久保ちゃんをパンチでKO!

入江劇場 in 後楽園

金的打たれた入江、スイッチ全開!!

藤沼のローブローに「ア〜ッ」と叫びながら崩れ落ちる入江。客席から失笑と共に「腰抜け！」と野次が飛びまくると、怒った入江は「うるせぇ！」とやり返した。

判定勝ちを収めた入江は佐伯代表に向かって「最初から金的ありのルールでやらせろ!」と詰め寄るも「次があるんで帰って!」と一蹴。

『DEEP』大阪大会で、須田匡昇とタッグを組み、門馬秀貴＆Xとグラップリング限定タッグマッチに出場することが決定！　今秋には『PRIDE』新シリーズへの参戦も噂されており、復調したマッハから目が離せない!!

★

7月13日に、そのマッハも出場した『DEEP』初の大阪大会がグランキューブ大阪で行なわれた。

地元出身の三島は〝足関十段〟今成とメインイベントで激突した。絶好調・阪神タイガースにあやかり、虎マスク姿で登場した三島はグランドで今成を殴り続ける展開で1Rが終了。今成は下から足を捕りに行くが、三島は足関勝負には付き合わず。2Rは、またしても上になった三島が素早くマウントポジションへ以降して顔面へのパンチを連打!!　今成も下から三角絞めなどを試みるが、三島の顔面連打でレフエリーが試合をストップした。リング上で勝利の喜びを爆発させた三島は、『DEEP』9月大会への出撃を宣言。快進撃はまだまだ続く!!

一方、敗れた今成は試合後の控室で「今日で、ZSTも含めて打撃ありの試合はやめようと思ってた」と衝撃の告白!!　柔術方面への進出を考えていたとのことだが、「今日の負けでやめられなくなった」と総合での巻き返しを誓った。

セミのタッグマッチは現在二冠王の須田匡昇がマッハと組んで、パンクラス・ウェルター級王者の國奥＆門馬秀貴組と激突。須田と門馬がプロレスムーブを見せれば、マッハと國奥はガチガチの組み合いを展開。結局、試合は20分時間切れドローに。

そして、第6試合で行われた『DEEP』初の女子総合の試合。これまで総合

DEEP 10th IMPACT in OSAKA

7月13日　グランキューブ大阪

地元・大阪で遊びなし！ 三島、足関十段に手堅く勝利!!

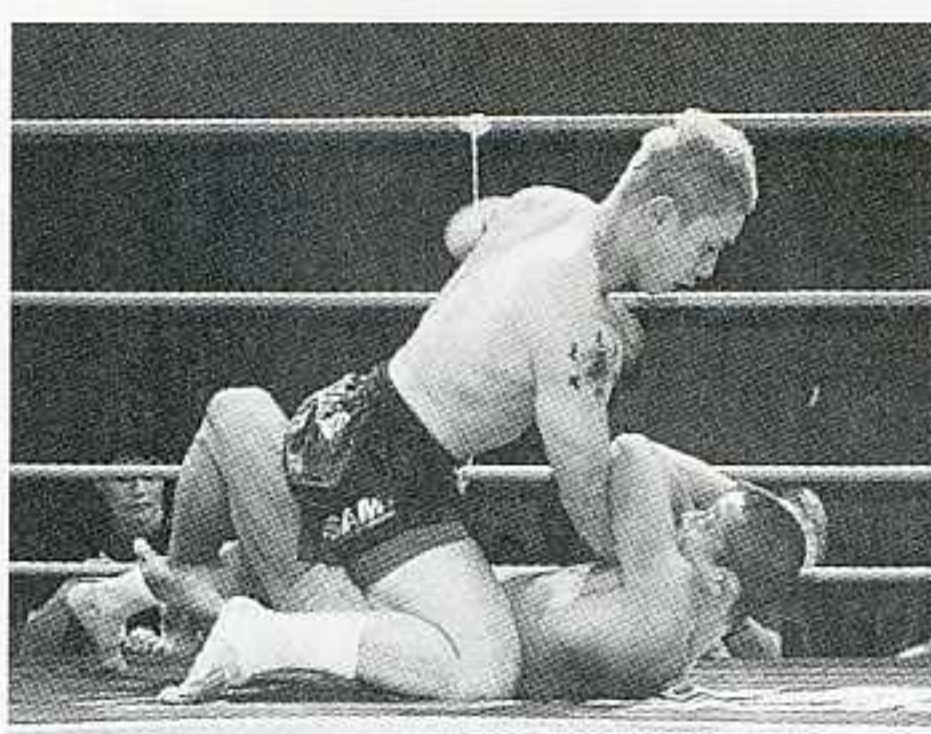
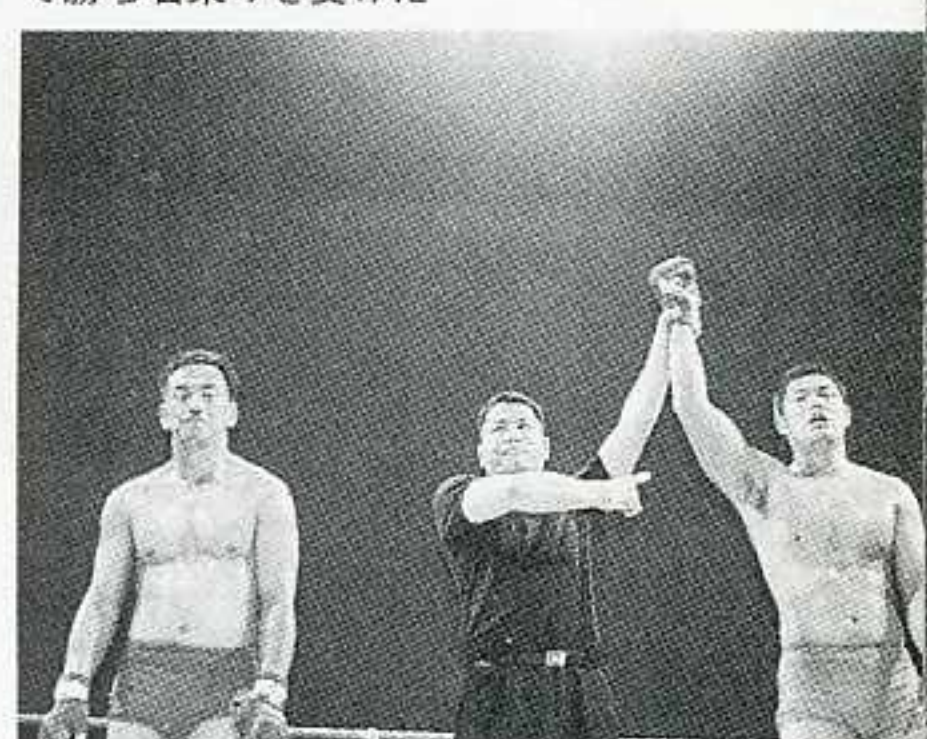
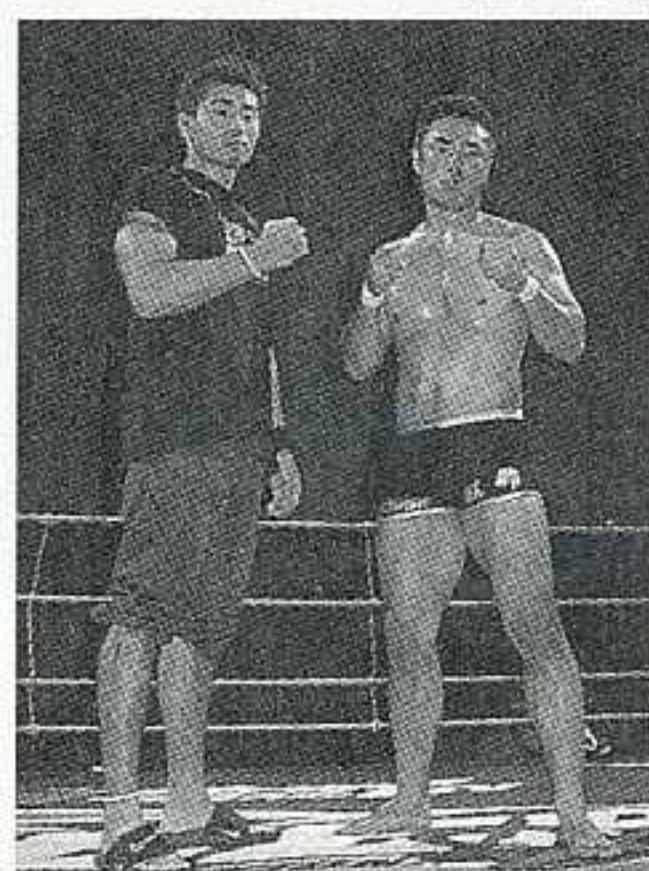
足関十段の今成相手に、どういった闘いぶりを見せるのか注目された三島だったが、試合はマウントパンチの連打でレフェリーストップ、三島の完勝に終わった。どうやら、それには理由があったようで、試合後、三島がコメントを残した。「ホントはもっとドツキたかったんですけど、今回は初めてウチの母ちゃんが会場に観に来てたんで手堅くいっちゃいましたね（笑）」。そういうことかよ！

ドリームタッグマッチはやはり決着つかず!!

セミのグラップリング・タッグマッチでは桜井“マッハ”速人＆須田匡昇vs國奥麒樹真＆門馬秀貴という豪華なメンツが集結。大のプロレスファンの須田と門馬がロープワークなどプロレスムーブを随所で披露。須田は見事な弧を描いてのジャーマンスープレックスも決めて見せた。一度、マッハの腕十字が國奥に極まりかけたが、結局試合は20分時間切れドローに終わった。

辻ちゃん、総合初黒星!!

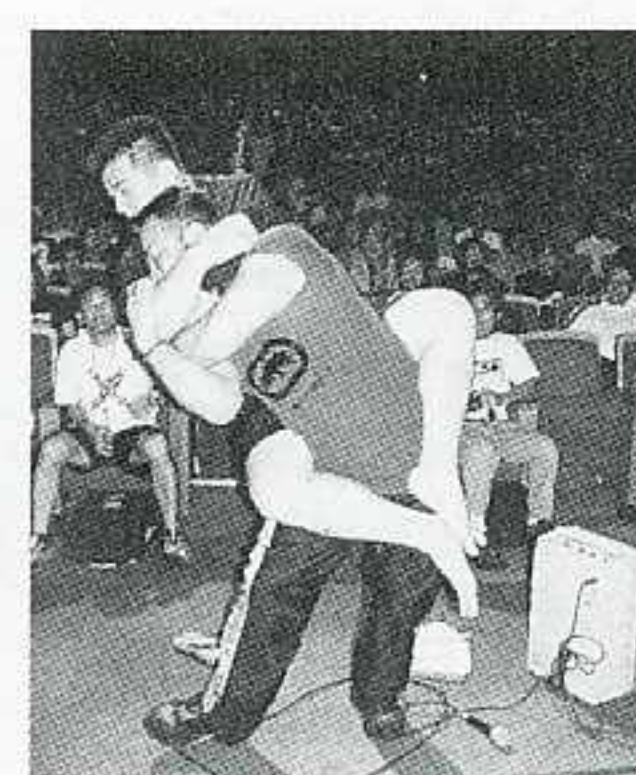
今回はウルティモ“辻”ドラゴンマスクで登場した辻ちゃん。ガウンを脱ぐと左肩にはガッチリとテーピングが。1ヶ月前に痛めた肩は万全にはほど遠い状態。柔術茶帯のアンナの三角地獄にはまった辻は長時間耐えたものの、さらにヒジも極められ、レフェリーストップとなった

セコンドに高阪を付けた元リングスの伊藤博之が地元出身の奥山相手に総合初勝利！　しかしながら、1Rはパンチで攻め込まれてしまったためか、伊藤は浮かぬ顔で勝ち名乗りを受けた

昨年12月の須田戦以来、ケガで長期欠場を続けていた長南が復帰、久松勇二と対戦。判定で久松を下した長南は、次回大会でのマッハ戦をアピール

文句なしに、この日のベストバウトとなった池本誠知vs佐々木恭介の一戦。ヘンゾキックで佐々木を大きく吹っ飛ばした池本はシャープな打撃や素早いグラウンドテクを披露し判定で勝利！

入江劇場 in 大阪

激怒した格闘家がガチ襲撃!!

さらに元キングダム・エルガイツの鬼木までリングに上がり「大体お前、そのルールでやったことないだろ！　何なら今オレがやってやる！」と臨戦体勢に!!　入江のドスJr.戦への道は険しそうだ。

予告通り、大阪大会に乱入した入江は「ドスJr.とエルガイツルールで闘わせろー！」と署名運動を展開。署名を持って佐伯代表を挑発する入江を見て激怒したコブラ会の選手が突然チョークを極めた！

全勝を誇る辻結花がノヴァ・ウニオンの柔術紫帯アンナ・ミッシェル・ダンテスに臨んだ一戦。これまで通り辻マスクで入場してきた辻の元ネタは、なんとウルティモ・ドラゴン！　ＷＷＥマットへ日本逆輸入上陸を果たすウルティモに敬意を表しての入場となった辻（元ネタの意味はもちろん知らない）、地元とあって、大応援団からの紙テープでの応援を受けた辻は初の国際戦ということもあってマスクを取るといつも以上に怖い顔。実は試合の1ヶ月以上前から右腕を負傷していた辻、ガッチリ右肩にテーピングを施しての試合となったが、ゴングが鳴ると、得意のタックルと鋭いローキックで攻め込んだものの、冷静にそれを対処したアンナがポジショニングで圧倒！　1R3分過ぎ、三角絞めを極めアンナから必死に逃れる辻だったが、逃げれば逃げるほどガッチリ極った腕ひしぎ三角固めの前にあえなくタップ！

『ＤＥＥＰ』次回大会は9月15日に大田区体育館で開催。メインは『ＤＥＥＰ』ミドル級王者の上山龍紀に、現二冠王・須田匡昇が挑戦！　これは見逃せない!!　『世界のプロレス』ファンも注目だ!?

破壊王欠場に続き、スポンサートラブル、富士急ハイランド大会中止!!

日祭の怪

『LEGEND』の再来!?

またしても夏に伝説が舞い降りた!!

山口日昇＆吉田 豪が毒舌トークで送る

月刊Y²談 VOL.07

構成／ジャン斎藤

designed by matsu(Two three)

月刊Y^2談

『OH祭り』はプロレス史始まって以来のドタバタ劇[山口]

スキャンダルを興行に結びつけろ!……といっても、今回の『OH祭り』の怪騒動は、舞台裏の大混乱の割には報道されなすぎた。詳細をリポートしたのが『夕刊フジ』一紙だけということもあり、事件すら知らなかった読者も多かったのではないだろうか?

山口　いやぁ、今月は日本のマット史に残る大騒動が起きまくったね、豪ちゃん!!　おそらく、想像以上にガラガラだった会場を見て〝ん?　何かおかしい?〟と思った人もいっぱいいるとは思うんだけど……。

吉田　ああ、チケットが完売してたはずだったのに実は想像以上に空席もあって、当日券もバリバリ売ってたから、ターザン(山本)なんかは文句言ってましたよね。

山口　うん、そう……って、何の話?

吉田　え?　WWE日本公演の話じゃないんですか?

山口　違う!　こっちの話は最初からチケット完売なんかしてないし。

吉田　じゃあ、WJ両国の最強トーナメントとか?

山口　あれはガラガラになったって誰も驚かないでしょ。むしろ想像以上に入ってたほうでしょう。俺が言いたいのはそんなのよりもっと衝撃的な……。

吉田　(遮って)失礼なこと言いますね!　それって、まるでWWEやWJにまったく衝撃が感じられないみたいじゃないですか!

山口　まったくとは言わないけど、だいたい予想の範疇じゃないの?

吉田　そんなことないです!　だって、鈴木健想がニューハーフを従えて入場してきて、リングでキスしたんだから、かなりの衝撃ですよ!　しかも、それには「絶対に女はリングに上げない」と言い張る長州力に対して、ニューハーフで対抗するっていう水面下でのガチンコ勝負もあったらしいし。

山口　へ～っ、そんなことになってるんだぁ(興味なさそうに)。しかし、どこが〝ド真ん中〟なんだろうなあ。

吉田　性別が男と女の〝ド真ん中〟なんですよ(笑)。

山口　ガハハハハ!　ウマいね、どーも(笑)。ただ、それだったらWWEの方がよっぽど衝撃的でしょ。『東スポ』の裏一面にビキニ・コンテストの写真が出てたけど、あそこでほとんどケツ丸出しの「99%裸」になってるのが、前にWWEをセクハラで訴えたセイブルだっていうんだから(笑)。ホーガンもまたビンスと揉めて離脱しちゃったみたいだけど、本気で揉めた相手ともへーキでビジネスしようとする姿勢は日本の団体も見習うべきだと思うよ。

吉田　いや、それは同感なんですけど、WWEで衝撃的だったのはそこじゃないんです。実は今回、3公演ともマスコミ用に配られた対戦カード表に、最初から勝敗が書き込まれていたらしいんですよ!

山口　う、うわ!　そこまでカミングアウトしてるの?　それなら、やろうと思えば『紙プロHand』(携帯サイト)で試合前に結果速報を送るという画期的なことができたんだ(笑)。

吉田　しかも、その中で唯一勝敗が書かれてなかったのがビキニ・コンテストだったっていう。要は、あれだけガチンコだったわけですね(笑)。

山口　奥が深すぎだなぁ、WWEは(笑)。……で、俺はいつまで豪ちゃんのボケから始まった小ネタに付き合えばいいわけ?

吉田　え～、もうちょっと付き合って下さい(笑)。ちなみにカミングアウトといえば、ノアも負けてなかったんですよね。

山口　え～っ?　だけど、一部のネット界の住人にとってはノアだけはガチなんだし、ノアはミスター高橋本を取り上げると怒るぐらいなんだから、いまさらカミングアウトはしないでしょ?

吉田　あんまりそんなことを言い続けてると、また誰かの逆鱗に触れて『SAMURAI!』チャンネル出入り禁止になりますよ(笑)。その点、ボクは会長(山口日昇のアダ名)とは違って毎週のようにノア中継を見てるぐらいのノアヲタなんですけど、この前の放送では百田(光雄)がGHCジュニアタッグ決定トーナメントに出場するって煽りをやってたんですね。そしたら、アナウンサーが「百田は久しぶりの大一番ということで、タバコをやめてトレーニングに励んでおります!」とか言ってて(笑)。

山口　ガハハハ!　とうとうノアが選手の喫煙を認めたんだ(笑)。

吉田　これから、どんどんタバコのカミングアウトが始まりますよ(笑)。『ゴング』で(鈴木)健想がタバコ吸いながら悪びれもなくインタビューしたり、プロレス界は不思議な角度からカミングアウトが始まってますよ(笑)。

山口　それでいいのか、日本マット界(笑)。

吉田　これをきっかけにして、プロレス中継のスポンサーが消費者金融からJTに移行したり、煙草のCMが入ってきたりすればいいんでしょうけどね。

山口　いまスポンサーって単語が出てきたから無理矢理本題に入るけど、やっぱり何が衝撃的だったって『OH祭り』しかない!　あれは日本プロレス史始まって以来のドタバタ劇といってもいいね!　他団体の人間がうらやましがるくらいのメンバーと中身でこうなるっていうさ。『オーちゃんのなんでこ～なるの!?』って大会名にしたいくらいだった(笑)。

吉田　『夕刊フジ』に詳報が出てましたけど、裏側は相当ゴタゴタしてたみたいですね。

山口　スポンサーと仲介人の間でトラブルは起こるわ、最終戦の富士急ハイランド大会は中止になるわ、肝心のリーグ戦自体が中止になってトーナメントになるわで、もう訳がわからない(笑)。破壊王の欠場も理由のひとつではあるだろうけど、とにかくどの会場でも客入りが不思議なほど少なかったし!　だって、あれだけのメンツが揃ってるのに開幕戦の後楽園ホールでも全然入ってないんだよ(笑)。

吉田　公式発表が観衆888人っていうのも、『火祭り』キャンセル直後のバトラーツのディファ有明大会が99人しか入らなかったことを思わせる不吉なゾロ目ですよね(笑)。

山口　ガハハハ!　毎年夏には〝伝説〟が舞い降りる!　昨年の『LEGEND』に続いて、今年は『OH祭り』が伝説を作りました(笑)。

吉田　しかし、UFO絡みの興

プロレス大会最終戦中止ウラ事情

小川、橋本をまとめてKO

ウルトラマン暗闘!?

ウルトラマン関係者にKO?!された小川(右)、橋本の「OH砲」

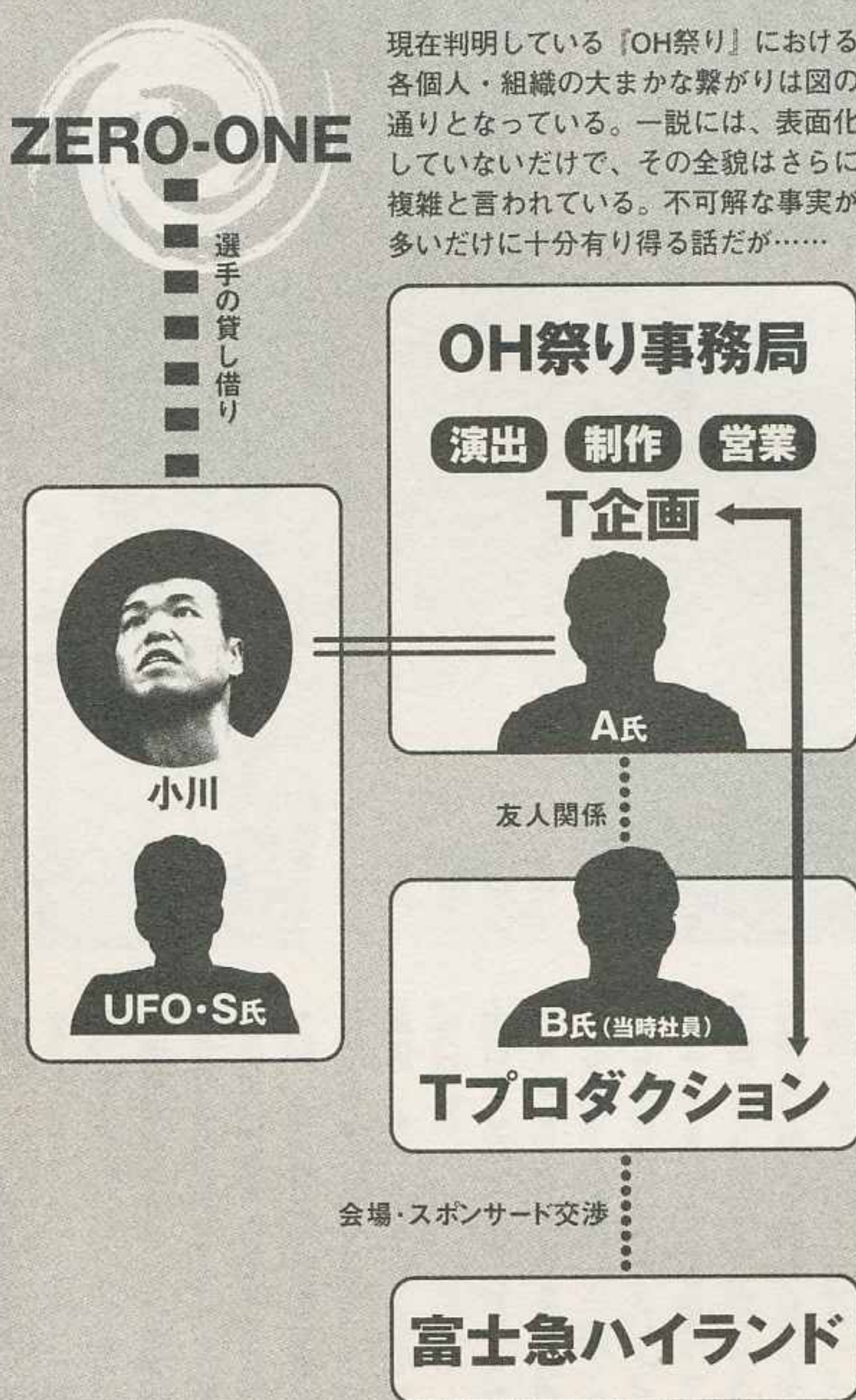
円谷プロはキーマンの社員

あるはずのない〝契約書〟で開催話が一人歩き

Y^2談出席者

山口日昇
本誌鬼畜編集長、もしくは『OH祭り』広報担当(自称)は現在失踪中!　もはやネタだと疑う方もいらっしゃると思いますが、マジです。大マジです(シュートサインをしながら)。というわけなので当然、『紙プロHand』コラムは更新されていません!

吉田豪
本誌スーパーバイザー。『紙プロHand』でコラム「入院させてよ!」を好評連載中!　特に2週に渡ってお送りした梶原一騎未亡人・篤子夫人の献身ぶりに感動した人数知れず!(ターザン山本以外)。篤子さんイズムをしっかり注入された金髪鬼。

行ってホントにUFO本戦、『LEGEND』、今回の『OH祭り』と、客が入ったためしがないですからね（笑）。
山口　でもね、今回の『OH祭り』は、みんなUFOの興行だと思ってるかもしれないけど、これはUFO主催じゃないんだよ。
吉田　あ、そうなんですか？　じゃあ、川村社長も無関係？
山口　川村社長は今回の件はノータッチ。川村さんが触っていたら、もっと面白くなってただろうなあ（笑）。
吉田　まず確実に開幕戦の入場式では「全部ガチンコ！」って宣言してたでしょうね（笑）。それで、川村社長の代わりに会長がタッチしたってわけですか？
山口　なんでだよ！
吉田　だってマスコミ間では「あれは『紙プロ』の興行」って噂されてるじゃないですか。
山口　いや、俺もそういうふうに噂されてるって聞いたけど、そんなこと言ってる人は、事と次第によっては名誉毀損で訴えるよ！　ウチでやったら、あのメンツにあの中身だもん、死んでもいっぱいにしますよ！
吉田　だけど、実際に会長は『OH祭り』のバックステージで関係者パスをぶら下げて忙しく動き回ってたわけなんだから、そういう噂が流れるのもしょうがないですよ（笑）。
山口　というかさ、なぜかイベント全体を仕切る人が不在なんだよ。司令塔がどこだかわからない。で、ウロウロしてると「休憩時間は何分とりますか？」とか俺に聞いてくるんだよね（笑）。知るかそんなこと！って。

吉田　収拾がつかなくなっちゃったから、会長がフォローするしかなくなっちゃったわけですか？
山口　フォローというと口はばったいけど、できることはやろうと思ってさ。だって、事務局のスタッフはプロレス興行なんて初めてだし、このメンツで客が入らなかったらプロレス界の恥っていう気持ちもあったからね。だから1千万円貰って手伝った……って本気にしないでね（笑）。
吉田　自虐的ですねぇ（笑）。「『紙プロ』は『OH祭り』で相当損しただろうね」とか噂されてるらしいですけど、別に興行自体にはタッチしてるわけじゃないってことですね。
山口　ウチはパンフと営業用に配るチラシの制作。あと入場式用のタスキや小道具なんかを業者に発注したりした。そういった細かいことを事前に請け負ったぐらいだよ。でも、その細かいことよりもドデカイトラブルが制作過程で出てきて、手伝えることは手伝おうってなったんだよ。あ！　でもね、そのパンフが評判いいんだよ！（子どものようにハシャいで）マンガやシールも付いてるし、オーちゃんも喜んでくれた！「このパンフが1000円だったら、『紙プロ』は300円だ」だって。
吉田　誉められてるんだかケナされてるんだかわかりませんね！　確かにあのパンフはデザインも含めて必要以上に凝ってましたけど、そんなパンフの制作費は入ってくるんですか？
山口　………実にいいこと聞くねぇ。どっから入ってくるのか、どこに請求していいのかも、いまもってわかりません（笑）。

OH祭り相関図

現在判明している『OH祭り』における各個人・組織の大まかな繋がりは図の通りとなっている。一説には、表面化していないだけで、その全貌はさらに複雑と言われている。不可解な事実が多いだけに十分有り得る話だが……

ZERO-ONE
選手の貸し借り
小川
UFO・S氏
OH祭り事務局
演出　制作　営業
T企画
A氏
友人関係
B氏（当時社員）
Tプロダクション
会場・スポンサード交渉
富士急ハイランド

吉田　前号では富士急ハイランド大会を表紙にしちゃったし、今号は21日にやるはずだった富士急の試合速報が載せられるように発売日をいつもより遅らせて設定しちゃったしで、間接的にはウチも相当ダメージ受けてますね（笑）。
山口　まあ、とにかく『OH祭り』はどこの興行なんだか、誰がやってるのかわからなかった。主宰者がわからない興行って前代未聞だよ（笑）。
吉田　とりあえず、『OH祭り』の主導権を握ってるのは小川なんですよね？
山口　ソフトの部分ではそうなんだろうけど、ハードの部分はややこしいんだよね。俺が知る限りでは、これは図に書いた方がわかりやすいと思うけど……（上図参照）。まずT企画という会社があって、そこにA氏という人物がいる、と。このA氏とオーちゃんは信頼関係にあった、と。それで、少年に夢を売ることで有名なTプロダクションってあるでしょ？
吉田　自殺したマラソン選手みたいな社名の、破壊王が大好きな特撮モノの老舗ですよね。プロレス的に言えば、高杉とかロビンとかアミーゴとかでお馴染みの。
山口　そこまで言ったらバレバレだろ（笑）。そのTプロにはA氏と友人関係にあるB氏という人物がいて、T企画のA氏とTプロのB氏、この2人がハード面のプランニングをして、富士急ハイランドに会場使用＆スポンサード他のプランを持ちかけた。それが通って、巨額のスポンサードが降りるっていうところから『OH祭り』は始まったらしいんだよね。
吉田　遊園地の夏休み用アトラクションイベントとして『OH祭り』をやろう、と。
山口　その話は、たしか今年の1月ぐらいから検討されてたんだよ。でも、UFOのオーちゃんのマネジャーでもあるS氏は、当初はこのプランに反対してたの。
吉田　スポーツ平和党時代、新間さんにトイレで蹴られたことで有名なS氏ですね（笑）。
山口　そう。「助けてくださ～い！」で有名なS氏（笑）。そのS氏は当初から「そんなうまく話が運ぶはずもないので、実際にお金が入金されてから開催を発表します」と言ってた。で、実際に入金がないから開催発表が延び延びになってたんだけど……。
吉田　つまり、スタートする前から雲行きは思いっきり怪しか

地元・大阪で遊びなし!
段に手堅く勝利!!

月刊Y²談

ったわけですか（笑）。

山口　おまけに途中経過も不透明なんだよ。実際の主宰者であるT企画、つまりA氏の会社とTプロダクションの間では契約書が存在しているらしいんだけど、Tプロ側は「B氏がハンコを勝手についてやったこと」と言ってて、当のB氏はTプロを辞めてる。で、契約書が存在するんだったら『OH祭り』サイドというかT企画はTプロを訴えることはできる。でも当然Tプロも社会的に名のある会社だから何かしらの策は講じるでしょ。そうなったら、まずTプロはB氏を訴えるはずだよね。

吉田　私文書偽造とかでですね。

山口　でも、B氏を詰めたところで『OH祭り』サイドは一銭にもならない。B氏はおそらく金なんか持ってないんだから（笑）。契約書があるなら、契約不履行で違約金をTプロから取れるんだけど、B氏がいまごろになって「責任は自分にあります」ってマスコミ行脚してるんだよ。でもさ、マスコミにしてみれば、富士急ハイランドやTプロと『OH祭り』の関係が最初から表に出ていればまだ話もわかるけど、いきなり誰だかわからない人に謝られたって困るじゃん（笑）。

吉田　「あんた誰?」って状態ですよね（笑）。

山口　だから、ほとんどのマスコミは無視した形だったけど、唯一『夕刊フジ』だけが報道した。でね、これは『夕刊フジ』にも書かれてたけど、俺が一番ビックリしたのは富士急ハイランド大会中止の件。『OH祭り』の日程が発表されたとき、すでに富士急ハイランドはTプロに対して「ウチの会場は使えません」って通達を出してたんだって（笑）。

吉田　スポンサードどころか、会場すら押さえてなかったわけですか（笑）。

山口　いや、押さえてはあったんだけど、富士急側はTプロ側との話が煮詰まらないから契約が立ち消えになったと判断したらしんだよね。開催時期も迫ってるし。

吉田　そんな状況でも、破壊王は「他の大会は中止してもいいから、富士急だけはやろう!」って息巻いてたらしいですね（笑）。

山口　その理由がまた「野外だから気持ちいいやろ!　やろう!」だって（笑）。

吉田　豪快でいいですよね（笑）。しかし、今回の件は小川が詐欺事件に巻き込まれたってことになるんでしょうけど、問題のA氏もB氏も儲かるようなシステムになってないですよね。これって、どういうことなんですか?

山口　そうなんだよ!　オーちゃんが騙されたというか巻き込まれたのは間違いないんだけど、B氏だけが悪いのか、A氏も被害者なのか、ホントのところよくわからない。

吉田　ZERO—ONEはどういうスタンスだったんですか?

山口　ZERO—ONEは選手の貸し出しも含め、興行のソフト面や運営に全面協力したたっていう形だよね。つまり選手のブッキングとかハード面以外のことはオーちゃんやUFOのS氏が作らないとならなかったから。興行のハード面は、A氏が中心となったT企画が運営してた『OH祭り』事務局が担当してたけど、そこはUFOやZERO—ONEとは全然連動してない。それも真夏の怪奇現象みたいなもんだけどね。

あの長州力も禁断の道に足を踏み入れた!　リキ・ナガシマ企画のプロデュースにより、外人ファイターが中心となったVT大会『X1』が発進することになった。『PRIDE』に代表される総合格闘技が話題・ビジネス面でマット界を独走していることもあり、「時代に負けた」感も拭えないが、ド真ん中な巻き返しを期待したい

吉田　だからZERO—ONEの興行で『OH祭り』のチケットが売ってなかったり、『OH祭り』事務局に電話しても事情を全然わかってない人が出たりとか、とんでもないことになってたわけですね。

山口　その怪奇現象がガラガラの後楽園ホールという悲劇を生みだしたんだよ。チケットにしても、後楽園ホールに戻ってきたのは30枚ぐらいしかなかったんだって。あの客入りで残りのチケットはどこにいったのって話だし、どこでどうなったのか、一部の席種が売られてない事実があったりした。プレイガイド側がそんなミスするわけがないから、それは『OH祭り』事務局側の不手際だと思うんだけど。

吉田　ホント、ズサンですねえ（笑）。

山口　しかも、すべての大会はCNプレイガイドで先行発売ってことだったんだけど、驚くべきことに徳島にはCNプレイガイドなんてないんだよ（笑）。

吉田　ダハハハ!　すべて机上の空論で動いていたわけですね（笑）。

山口　ホント、マンガでも起こらない出来事が刻一刻と起こったね、『OH祭り』には（笑）。徳島のプロレス興行には欠かせないフクタレコードの福田の大将は「徳島にCNプレイガイドなんかないで!」って絶句してたからね（笑）。CNの場合、チケットはサークルKで受け取れるんだけど、サークルKは高松まで行かないとないって（笑）。

吉田　それでも、一番客が入ったのは徳島大会なんですよね。

山口　実際に大会3週間前だもん、告知して本格的にチケット売り出したの。それだけでも前代未聞なのに、福田の大将を始め、地元の人がいろいろ動いてくれたお陰で入ったほうだったね。それでも、あのメンツだったらちゃんとやってれば超満員になってたけどね。もったいない!のひと言だよ。逆に名古屋と尼崎はな〜んにもやってなかったから。ローソンでもファミリーマートでもチケットが売ってないんだもん。

吉田　どこで買うんだって話ですよね（笑）。決勝の尼崎もそうですけど、名古屋大会の入りは特にヒドかったらしいですね。

山口　〝伝説〟は舞い降りたねぇ（笑）。名古屋の人でも行かないっていう土地で、しかも平日で6時開始。で、けっこう大きい会場で5000席以上配置したから、それは悲惨な光景だった（笑）。それなのに担当者は、「1万5千円の席が1000枚以上売れてる!」とか、大会前は言い張ってたんだって。「名古屋は売り興行だから、チケットが売れても売れなくても金は入ってくる」とかさ。それ以前の問題だろ!って。

吉田　同じマット界の詐欺事件でも、サスケ社長のバトルクリップ持ち逃げ事件どころの騒ぎじゃないわけですね。損害額もケタが違うだろうし。

山口　さっきも言ったようにA氏も被害者かどうかわかんないし、誰が誰を騙したのかわからないから詐欺事件って言っていいのかどうかわかんないけど、ガイジン勢のギャラだけでも凄い

ことになってるはずだよ。最後の頼みは興行収益だったわけだけど、あの客入りだからね（笑）。
吉田　ランデルマンなんて『W—1』レベルじゃないと使えないでしょうからね。推測でいいですけど、今回の損害はどれぐらいになるんですか？
山口　まぁ軽く云千万はいくんじゃない？
吉田　それって誰が背負うわけですか？
山口　いや、このままいくとオーちゃんが背負わされることになるんじゃ……ないかな？
吉田　そんなのプロレスのギャラじゃまず返せない額ですよね。ましてやZERO—ONEと全日

中西vsTOAをリングサイドで観戦していた新日本勢には、まさしく「マヌケ」という言葉がピッタリ当てはまる。それにしても、新日本の対抗戦史上、ここまで緊張感のなかった一戦はかつてない。中西戦の視聴率が一番低かったのも頷ける話なのだ

中西vsTOAを見に行かなかった猪木さんはさすがです。藤波社長にマヌケな姿が託されたわけですけど［吉田］

本にしか出ないとなると。個人的には、『PRIDEミドル級GP』のXに小川が登場して借金を返済するっていうのが理想だったんですけどね。小川が「吉田ア、俺が相手じゃ不満かぁ？」って言うだけで最高に燃えますよ！
山口　ガハハハ！　まぁ、そっち系に再び足を踏み込むにしろ何にしろ、オーちゃんはマイナスのエネルギーをプラスに転化させて爆発するしかないもんね。
吉田　前号の『Y2談』で「小川は恥を掻いてないのが問題」って言いましたけど、これは小川が恥を掻いて一皮剥けるチャンスではありますよね。
山口　うん。それにオーちゃんは『OH祭り』で相当頑張ってたよ！　破壊王が「小川は神に試されてるんや！」とか言ってたけど、ホントその通りだと思う。トラブルに見舞われてもオーちゃんがひしゃげずに闘い終えたことは特筆に値するよ。興行の中身は面白かったし、試合自体も「真の『W—1』を見た！」という声も飛んでるぐらいだったから。
吉田　それ、褒め言葉だとは思えませんよ（笑）。
山口　ガハハハ！　やっぱ興行のプロがいないのが最大のネックだったんだろうね。藤原組長も「興行をナメてんだよ」って言ってたし、オーちゃんもいい勉強になったんじゃない？
吉田　そんな中で、興行のプロである永島勝司&長州力のリキ・ナガシマ企画が金網バーリ・トゥード（以下VT）大会の開催に踏み切ったわけですよね。
山口　『X—1』でしょ。プロレスと離婚した人たちが集まる大会っていう意味で、あれは「バツイチ」って読むのかと思ったけど（笑）。
吉田　いや、健介は「プロレス、大好きッ！」だから離婚なんかしてませんよ！　ただ、字面も響きも『W—1』に酷似してるし、無名ガイジン同士のシングルマッチが大量に組まれてるって意味では初期UFOに近いしで、開催前から前途多難なムードが漂いまくってるわけですけど（笑）。
山口　感覚としては無名外人だらけの『U—JAPAN』って感じだね。健介や中島君は別として、知ってるのはダン・ボビッシュとボビー・ソースワースだけだもんな。
吉田　どの層をターゲットにしてるのかもまったく見えないですよね。格闘技マニアでもないし、プロレスマニアでもない。健介ファンでも呼ぼうとしてるんですか？
山口　まったくわかりません！「俺の目の黒いうちはVTをやらせない」と公言していた長州が、なんで15歳の少年にVTやらせるのかも不思議でしょうがないんだけど（笑）。
吉田　しかも会見のとき、長州は記者から「こういう形式の試合だとリスクが高いですよね？」って質問されて怒ったらしいんですよ。「おい、リスクって何だ？プロレスと格闘技ってどこが違うんだ？　俺が何度も言ってるように、プロレスと格闘技は同じなんだ。現に、新日本の頃から選手が何人もケガをして……」って、いつもの調子で喋りだして。長州にとっての「リスク」って勝敗じゃなくてケガのことなんですよ。
山口　要は身体を張って観客に見せることに変わりはないってことで言ってるんでしょ。
吉田　ただ、プロレスとシュートファイトで勝敗のリスクに違いがあることは長州もわかってるわけですよね。だからこそ「中西がK—1で負けたら消える」って言ってたんだろうし。
山口　まあ、矛盾だらけなのは事実だろうけどI編集長（井上義啓氏）の予言通りにマット界が動いていることの方が俺は怖いね（笑）。新日本がアルティメット・クラッシュをやったときに俺は「5年遅い」と言ったけど、今回は「5年半遅い」ですよ！
吉田　でも、GKによると「VTをやらせない」と公言していた長州が実は昔から誰よりも一番VTを意識していたし、新日本の道場でもVT対策を練っていたわけじゃないですか。
山口　実際、当時から一部の選手にドン・フライなんかと総合の練習をさせていたのは事実だし、いまもWJ道場の2階ではVT用の練習をしてるって噂だよね。
吉田　当時は新日本もヒクソン・グレイシーを招聘しようとしていたわけですけど、そのとき迎撃要員として候補に挙がっていたのがライガーと中西だったんですよね。いまの鈴木みのるに秒殺されたライガーと、格闘技経験のほとんどないTOAに秒殺された中西を見ると、道場で何の対策を練ってたんだって話なんですけど（笑）。
山口　とにかく、やるんだったらしっかりやってほしいよ。いまはVTの方が人気があるからと

DEEP 10th IMPACT in OSAKA
7月13日　グランキューブ大阪

地元・大阪で遊びなし！
段に手堅く勝利!!

か、プロレスじゃ客が入らないからとか、VTじゃないとスポンサーが集まらないからとか、そんな甘い考えならやらないでほしいな、俺は。それならいっそZERO—ONEみたいに、「どプロレス」の方向に走ったほうがスッキリすると思うしね。

吉田　「目ん玉が飛び出すかもしれないVT」を否定して「目ん玉が飛び出すようなストロングスタイル」をやらなきゃ、長州が長州じゃなくなりますからね。ちなみに大森の場合は「金玉が飛び出すようなストロングスタイル」なんですけどね（笑）。

山口　へ？　なんで？

吉田　いや、前にノア中継で大森がベイダーにタイツを掴まれて引き起こされるとき、ポロリがあったみたいで股間にマル禁マークを付けられてたことがあったじゃないですか（笑）。またベイダーと絡む以上、またアクシデントが起こることを期待してたんですけど。

山口　いい加減、忘れてやれよ（笑）。それより、いまの話題は『X—1』！

吉田　長州は『X—1』について「猪木さんは世界戦略を口にしながら何もやってこなかったが、俺はやる」とか言ってたんですよね。つまり、これは猪木さんへの当てつけであり、長州なりの世界戦略でもあるらしいんですよ。

山口　猪木さんだってロスで平和の祭典をやって大損したり、ロス道場を作って長州に激怒されたり、ジャングル・ファイトの開催を発表したりで、世界戦略はやってるはずなんだけどなあ（笑）。

吉田　そうやってマット界はいま迷走しまくっているわけですけど、なぜかK—1もかなり迷走し始めてますよね。

山口　やっぱりガタガタに見える？

吉田　ミルコも「K—1GPには出ない」と宣言しましたし、何よりイベント自体の評判がことごとく悪いですよ。ミドル級だけは抜群に面白かったですけど。

山口　6・29のK—1MAXは面白かったね！　魔裟斗なんて、光りの強度や色気の角度は違うけど、かつてのサクを彷彿とさせる勢いと芯の強さがあるよ。

吉田　もはや小比類巻なんかが入ってこれるレベルじゃないトーナメントで確実に相手からダウンを奪い続け、最後は昨年負けたクラウスに決勝戦でリベンジと、K—1史上に残る完璧なストーリー展開でしたからね。

山口　ズバリ言っちゃうと、K—1BEASTよりもK—1MAXのほうがよっぽどK—1らしかった。

吉田　6・29K—1BAESTと7・13K—1福岡はホント、ヒドかったですからね。お互い最後まで消極的にカウンターを待ち続けたフィリオvsベルナルドの両者レッドカード裁定なんて、悪い意味でK—1史上に残りますよ（笑）。

山口　福岡はメインまではKO決着も多かったし、いい大会になる空気感はあったんだけどね。でも、終わり悪ければすべて悪しになっちゃうよね。セミのホーストvsアビディも金的攻撃でホーストが続行不可能になっちゃって、そこまでの優劣で判定を付けたけど、これってK—1BEASTの反動だと思うんだよね。競技性を剥ぎ取ったK—1BEASTが評判悪かったから、今度は競技性を持ち出したってことでしょ。

吉田　角田さんは「初めから反則をやろうと思ってやる人はいないと思ってこうしました」って、暗にK—1BEASTのモンターニャ・シウバの暴走を批判してましたね（笑）。

異形な戦士たちの格闘ドラマというよりは、ビックスケールなIWA劇場と化しているK-1BEAST。関係者＆ファンから非難の声が殺到しているが、真打ちサップの復活で挽回はなるのか？　サップの再起戦は8・15K-1ラスベガスのキモ戦が予定されている

K-1は「ケレン味のない世界」を丸ごと忘れちゃってるかのように感じる［山口］

山口　シウバの暴走にはあの島田裕二でさえ激怒してたからなあ。「あと一発入っていたら武蔵は死んでますよ！」って。

吉田　谷川さんは谷川さんで「演出じゃないかと内部からも外部からも疑われてますけど、本当にモンターニャの暴走です！」って否定してましたけど、実際どうなんですか？

山口　石井館長が前面に立って仕切れないこともあって、K—1内部でハレーションが起こってるのは間違いないだろうね。

吉田　マスコミ的には「K—1ジャパンこそ『W—1』だ」って意見も多いじゃないですか。

山口　それは動かしてる人間が同じってだけで、『OH祭り』とは全然違う意味だからね。『OH祭り』は中身の部分がこうであったら『W—1』も成功してたっていう意味だから（笑）。

吉田　そうやって逆風が吹き始めた中で、いきなりカツラ姿が紙面に載ったり、「シウバはもう使いません」と言った矢先にK—1オーバー200（メートル）を企画して「シウバを出したい」と言い出したりする谷川さんには敬服しますけどね（笑）。

山口　んあ～！　あの男だけはやっぱり凄いね（笑）。

吉田　ちなみにターザンは、テリー伊藤との対談本で「K—1はK—1らしくとかPRIDEは『PRIDE』らしく』じゃダメだと思うんだ。そうじゃなしに、プロレスの持っていたエッセンスを盛り込んでプロレス化して生き残るんですよ。つまり、K—1がボブ・サップ軍団を作ってK—1JAPANと敵対する図式……」と言ってますけど、会長はどう思います？

山口　やっぱりI編集長が言うように、K—1はヘタにプロレスを持ち込まないほうがいいと思うよ。だって、プロレスのなんたるかを全然表現しきれてないもん、見る限り。アングル組んだり乱闘もどきのコントをやってれば、それがプロレスだと思ってるんでしょ？

吉田　アングルと乱闘はZERO—ONEのお家芸でもあるわけですけど。

山口　でも、その部分ではレベルが違いすぎる！　こないだ『OH祭り』の徳島大会が終わった後に藤原組長やランデルマンなんかと偶然メシが一緒だったんだけど、組長がいいこと言ってたんだよ。「Pro-Wrestling is Fake .But,Pro-Wrestling is No Fake.Pro-Wrestling is Two Way!!」……あと忘れちゃった

けど（笑）、つまり意訳すると「プロレスは"ケレン"である。しかし、プロレスは"ケレン味のない世界"でもある。相反する二つの道を歩ける哲学を持たないとプロレスはできない」っていうことを組長がランデルマンに教えてたんだよ。

吉田　片方だけだと勘違いするんじゃねえぞ、と。

山口　ランデルマンなんかは総合格闘技上がりだから、組長の言うことが理解できちゃうんだろうけど、なぜかランデルマンが組長を慕ってたね（笑）。

吉田　試合前に藤原教室でスパーリングするようになる日も近いわけですね（笑）。

山口　組長最後の弟子がランデルマンっていうのもいいファンタジーだよね（笑）。で、K―1は「ケレン」がないとプロ興行が成り立たないということもあって、サップやTOAやモンターニャを使って「ケレン」を入れようとしてるんだけど、「ケレン味のない世界」を丸ごと忘れちゃってるかのようにも感じるよね。

吉田　これまでK―1ってパトリック・スミスやジョー・サンみたいなキワモノを使ってはきたけど、ちゃんと正統派の選手と対戦させて試合を成立させてきたわけですからね。第2のボブ・サップを作りたいのはわかるけど、サップは別に反則暴走したおかげでブレイクしたわけじゃないし、しっかり結果を出してきた。なのにサップvsキモとかサップvsTOAとか、単なるキワモノ対決路線へ進みつつあるのはどうかと思いますよ。

山口　中西vsTOAなんて、その極みだよな。

吉田　ただ、中西には意外と「ケレン」がなかったですよね。TOAがマサイ族の舞踏で入場してきましたけど、ホントは中西がドンドコ踊りながら出てくるべきだったんですけど（笑）。

山口　ただ、ハッキリ言えるのは中西のK―1参戦は血迷ってる！　以上！

吉田　中西が負けた瞬間、リングサイドに並んでいた新日本勢が呆然としてる姿が大写しにされたのは切ない限りでしたね。

山口　晒し者って感じだもんね、あの光景は。

吉田　もともと会場に行く予定だった猪木さんが、当日になってドタキャンしたのはさすがだと思いますよ。その代わり、藤波社長とかがマヌケな姿を託しちゃったわけですけど（笑）。

山口　試合後のリング上では星野総裁や柴田がアピールしたんでしょ？

吉田　ただ、そのシーンはTVでカットされたちゃったし、柴田も「K―1のKは喧嘩のKだろ！」とか挑発したのはいいけど、完全に無視されたままサップとTOAが乱闘を始めちゃったらしいですからね（笑）。

山口　だったら、柴田も永田も蝶野も乱闘に加われって話だよ。

吉田　新間さんも猪木さんも百瀬さんも、みんな「あんなときこそみんなリングに上がって乱闘にしてグチャグチャにすべきだ」って言ってるんですけど、なんで乱闘しないのかって。いったらヘタに因縁作って巻き込まれるのはイヤだってことだと思うんですよ。蝶野や永田にしたって、K―1との絡みは不本意なわけじゃないですか。

山口　結局、今回のK―1参戦は上井さんの「新日本は絶対に逃げない！」っていう熱い思いから実現したんだろうけど、その熱い決意が組織の足の指先まで届いてないってことなんじゃない？

吉田　まあ、序列を超えて飛び級したがってる、格闘技のベースのある若手ぐらいにしか届いてないでしょうからね。パンクラスとの交流にしても、飯塚vsみのるのキャッチレスリングにしか繋がらないんだったら、やらない方がいいんじゃないかって気もするし（笑）。

山口　でも、同じパンクラスMISSON所属でいえば冨宅の試合は凄かった！　田村が目にも止まらないミドルキックで3分ちょっとで5ノックダウン奪ったんだけど、グラウンドにもいかせない。プロレスの厳しさが十分、伝わる試合だったね。

吉田　「なんでプロレスなのにそこまでやるんだ？」って話なんですけど（笑）。

山口　そこが田村の嫌らし……いや、実力差ですよ（笑）。冨宅なんかは試合後、憔悴しきってたもんなぁ。パンクラスのジムのある大阪で、地元出身の冨宅がパンクラスMISSON所属の第2号として華々しく出てきたのにねぇ。

吉田　パンクラスでも船木と一緒にクルクル回ってきた冨宅としては、UWFならではの回転体を披露するつもりだったと思うんですけど。

山口　そこであぁいう緊張感のある試合ができる田村、おまえは男だ！（親指を突き上げる）。U―STYLEは下の選手が育ってないけど、セミの坂田vs伊藤も良かったし、小さいながらも希望の光は見えるよ。

吉田　下の人間はK―1と同じで、悪い意味で「プロレスはこういうもんだ」と割り切ってる部分があるんじゃないですかね。あと、やっぱりプロレスって性格が悪い人の方が光るジャンルなんだなって思いましたよ。

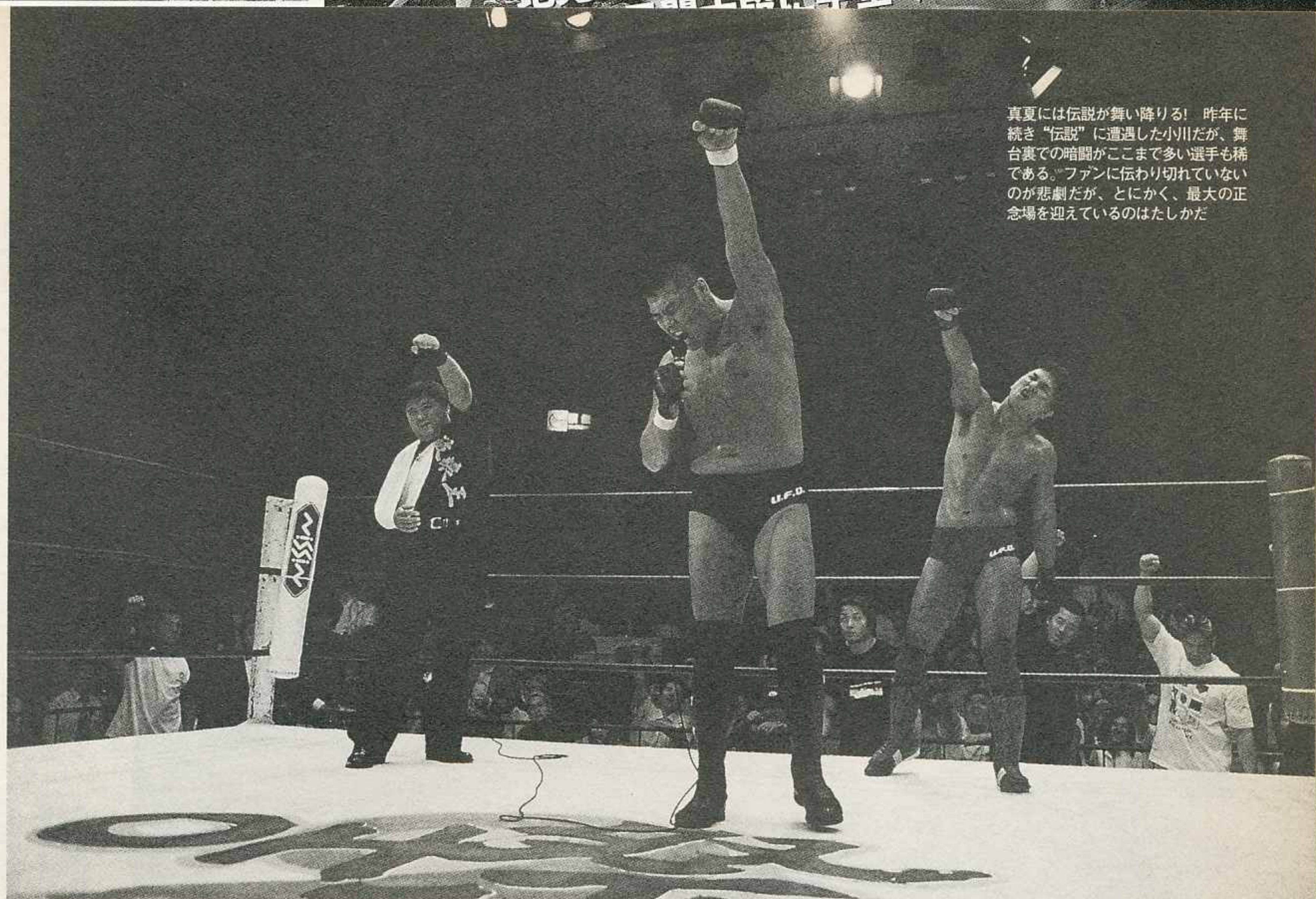
山口　田村は「ボクほどマトモな人間はいない」って、いつも真顔で言ってるけど、あの厚かましさもプロレスラーだよな（笑）。

吉田　もしかして、『PRIDEミドル級GP』出場を巡るイラ

K-1BEASTの一週間後に行われた7・15K-1MAXは素晴らしく完成度の高い興行となった。主人公・魔裟斗の活躍を抜きにして成功は有り得なかったが、他のエントリーメンバーの質の高さも絶妙なスパイスとなっていた

月刊Y²談

地元・大阪で遊びなし!

真夏には伝説が舞い降りる!　昨年に続き"伝説"に遭遇した小川だが、舞台裏での暗闘がここまで多い選手も稀である。ファンに伝わり切れていないのが悲劇だが、とにかく、最大の正念場を迎えているのはたしかだ

オーちゃんはマイナスのエネルギーをプラスに転化させて爆発するしかない【山口】

イラを冨宅にぶつけたってこともあったんですか?

山口　どうなんだろう?　でも、そこらへんまで推測させるところも含めて、骨の髄までプロレスラーだよね、田村は。だって、「田村『PRIDE．GP』出場」のニュースが発表前にネットで流れたんだけど、どこがフライングしたのかと思ったら田村がU―FILEのHPで榊原氏（DSE代表取締役）とのツーショット画像をアップしてたんだって（笑）。

吉田　ああ、『田村潔司の気まぐれフォト日記』ですね!「7月7日DSE榊原代表と食事会」って、どんな謎かけをしてるんだと思いましたよ（笑）。

山口　おまえは男だって言いたくなるでしょ（笑）。あれを見て、あの前田日明が「二度と関わりたくない」と言った気持ちが、なんとなく俺にもわかった（笑）。

吉田　ダハハハ!　そんな田村が出ることになった『PRIDE』のミドル級GPには、いいメンツが揃いましたよね。これで一回戦が田村vs桜庭だったら最高だったんですけど。

山口　それは決勝ラウンドの楽しみにしようよ!　吉田vs田村も近来希にみる求心力のあるカードだと思うよ。

吉田　2人が勝てる確証はないから、最初にやっていたほうがいいとは思うんですけどねえ……。まぁ、ワンマッチでヒョードル、ミルコ、ノゲイラのトップ3が揃い踏みするし、出し惜しみをしないだけ『PRIDE』の本気ぶりは感じますよ。

山口「『PRIDE』、お前も男だよ!」（再び親指を突き立てて）。

吉田　実際、明るい未来が見えるのは『PRIDE』だけですからね。ZERO―ONEも破壊王がケガしちゃったし。

山口　だけど、破壊王は怖いぐらい元気だよ!　あんな満身創痍で傷だらけなのに、リハビリしながら「山口さん!　西城秀樹はどうなった?」って、ヒデキの脳梗塞を心配してたからね。人のことを心配してる場合かって（笑）。

吉田　ダハハハ!　いまはどこの団体も苦しくて暗くなりがちだから、破壊王の存在は貴重ですよねえ（笑）。

山口　ある人が「金がなくなると人間はダメになる」って言ってたんだけど、それは一理あると思うんだ。金がなくてなんとかなる胆力を持ってる人はそういないんだからさ。そう考えると、まずは金を生み出せないプロレス界の構造をなんとかしたほうがいいよ。

吉田　女子プロもGAEA以外は全部危なそうだし、いまのマット界で儲けてる人間なんか聞いたことないですからね。

山口　俺らが思ってるよりもプロレスのビジネスって相当落ちてるでしょ。全日本の7・13大阪府立なんて、武藤vs川田の頂上対決がメインなのに苦戦してた。その現実を直視してほしいよな。

吉田　現実を直視してるからこそWJや新日本もガチンコをやり始めたんだと思いますけど、どうしても迷走の域を出ないんですよね。『PRIDEミドル級GP』と同時に開幕する新日本のG1にしても、いきなり迷走し始めちゃったじゃないですか。

山口　いや、G1はG1で面白そうだと思うよ、俺は。誰が出るのか知らないけど（笑）。

吉田　今回はケン・シャムロックが初出場ってことで、ケンシャムvs秋山準、ケンシャムvs西村修、ケンシャムvs天山広吉といった試合を期待してたのに、なぜかケンシャム欠場で代役が真壁になりそうなんですよね（笑）。

山口　ガハハハハ!　どうせ迷走するんだったら、猪木さんの『ジャングルファイト』みたいにスケールのデカい迷走をしてほしいよ、ホント。

吉田　もしくは、会長がやった『OH祭り』ぐらい（笑）。

山口　だから、俺じゃないって!　事と次第によっては訴えるぞ!

【03年7月某日／編集部にて収録】

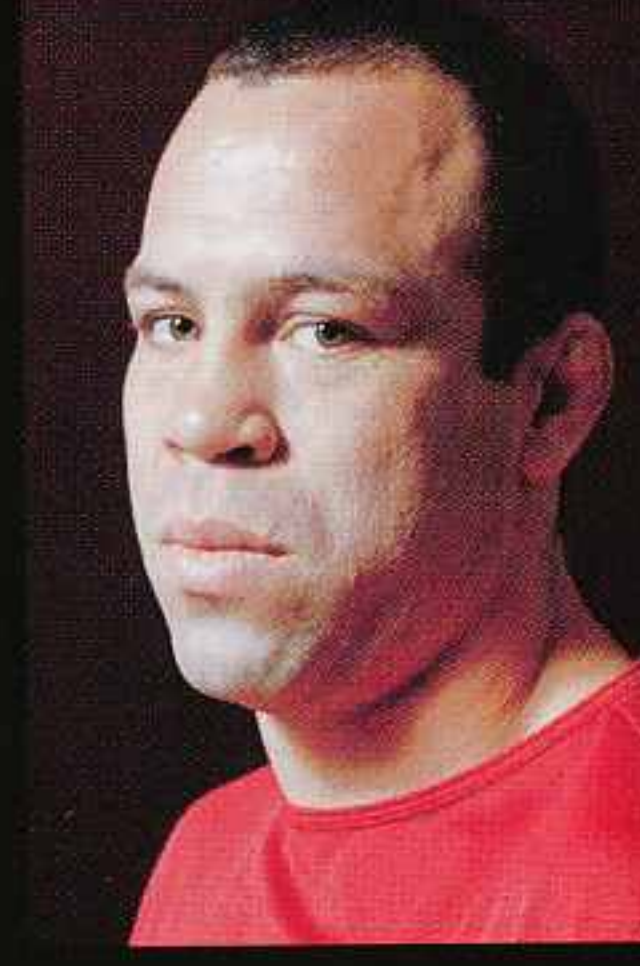
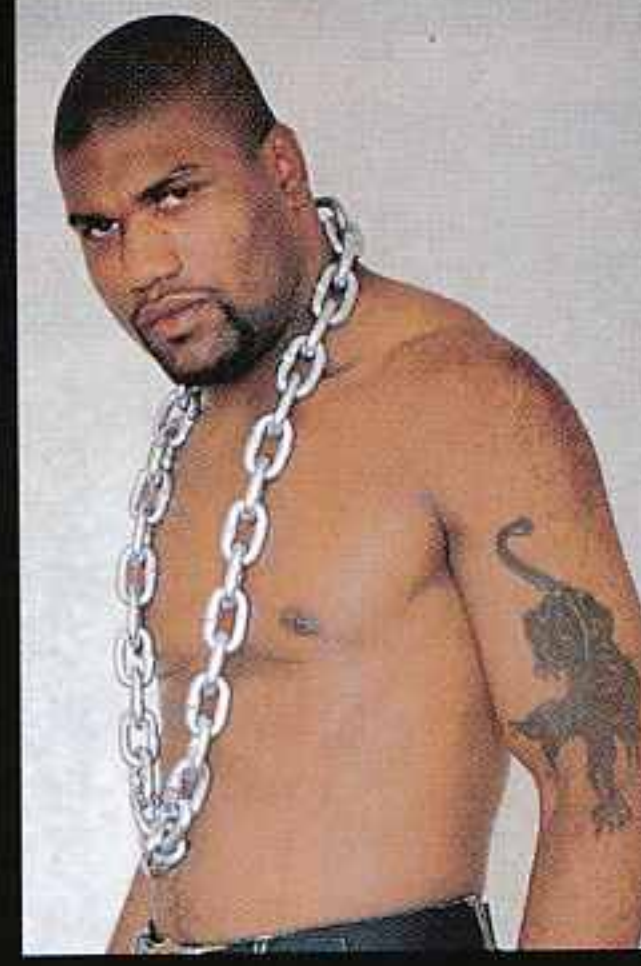
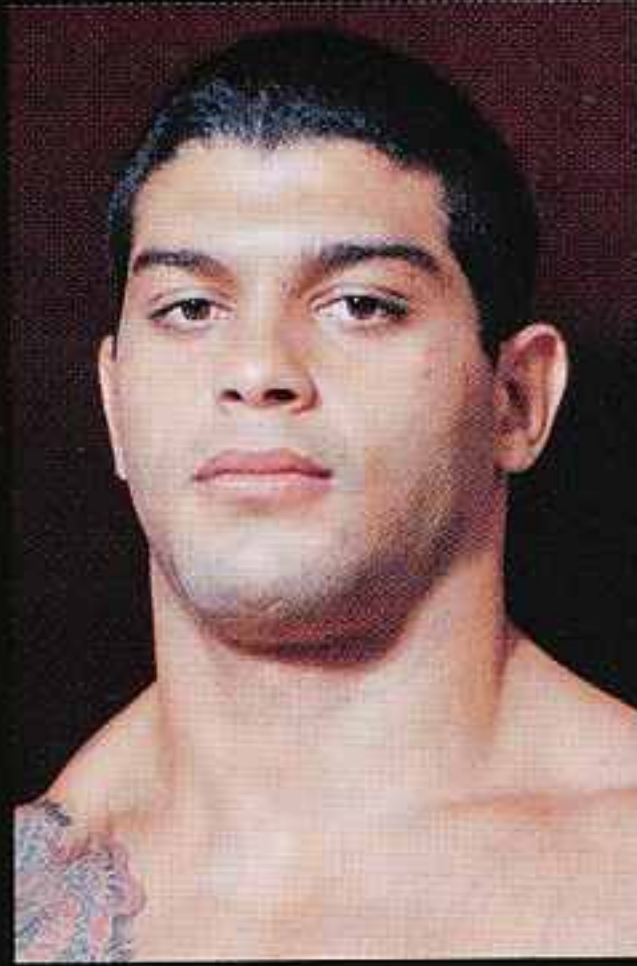
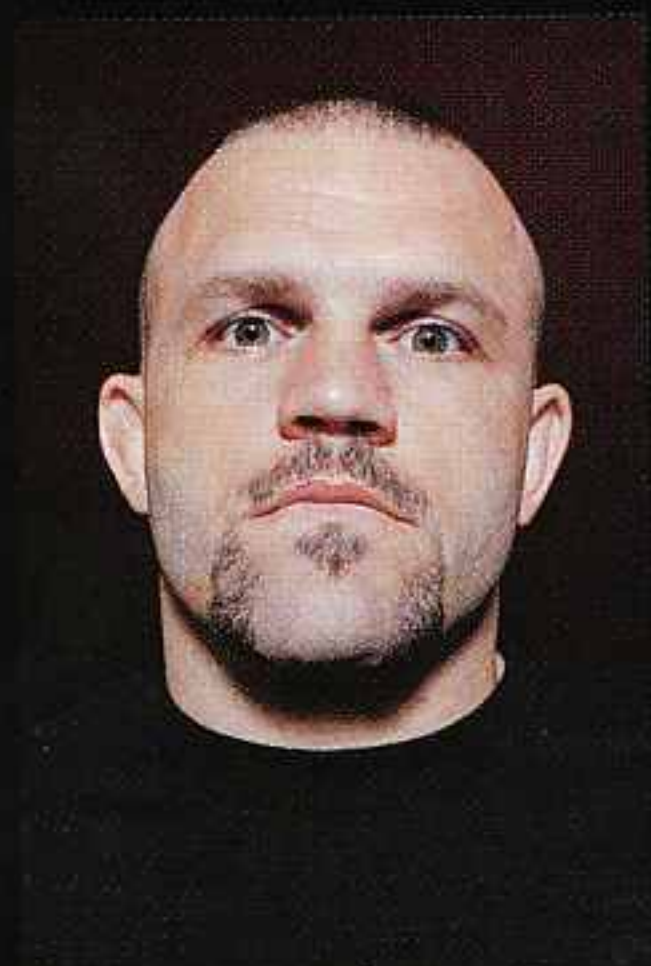
狂気の事件発生!! 須藤元気、連続通り魔に刺される!!

7月24日午後10時40分ごろ、東京・渋谷の路上で、男性5人が次々とナイフを持った男に刺される事件が起こった。その被害者の中には須藤元気選手も含まれていた。渋谷警察署では、同じ男による連続通り魔とみて、現場からミニバイクで逃走した男の行方を追っている（25日現在）。現場は、JR渋谷駅から南に300メートルほどの人通りのない入り組んだ路地の一角。須藤選手といえば、渋谷のストリートギャングを掃除する若きナショナリストを描いた映画『狂気の桜』に出演していたが、まさかこんな事件に見舞われるとは……選手&関係者に衝撃が走っている。

驚ガクの追加カード、"3強"のスペシャルマッチ決定!!

どいつもこいつもお前ら男だ!

灼熱の男祭り

8・10『PRIDEミドル級GP開幕戦』
真夏の格闘技オールスターウォーズ!!

PRIDEミドル級グランプリ
出場外国人全選手インタビュー5連発!!

8・10『PRIDEミドル級GP開幕戦』さいたまスーパーアリーナ

ヘビー級スペシャルマッチ3試合決定!

究極の3強

ヒョードル　ミルコ　ノゲイラ

遂に揃い踏み!

これは事実上の

ヘビー級最強トーナメントだ!!

史上空前とも言える超ド級メンバー&カードでマット界の話題を独占中の8・10『PRIDEミドル級GP』。田村vs吉田、桜庭vsシウバを始め、グランプリ1回戦だけでも凄まじいカード揃いながら、そこへさらにヘビー級スペシャルマッチ3試合が追加されることが、7月22日、髙田延彦統轄本部長の口から発表された。本部長、あんたも男だ!

そのカードは左ページのとおり。なんとヒョードル、ノゲイラ、そしてミルコ・クロコップの〝3強〟が遂に揃い踏みだ!

これまでも『PRIDE』では何度か〝最強対決〟といったコピーが使われてきたが、『PRIDE』で無敵の快進撃を築いてきたノゲイラと、そのノゲイラを完膚無きままに下しヘビー級王座を強奪したヒョードル。そして、他流試合を次々と制し、いまだ総合格闘技無敗のミルコ。この3人こそ〝究極の3強〟と呼ぶに相応しいメンツだろう。

それだけに、今夏の主役がミドル級であることに変わりはないが、年末以降の『PRIDE』の最大の流れは、この3人による凌ぎ合いになることは誰の目にも明らか。それだけに、今後を占う意味でも重要な一戦と言えるだろう。では、さっそく各カードの見どころを紹介していこう。

まず、ヒョードルvsグッドリッジ、ミルコvsボブチャンチン。この2試合のテーマはズバリ「世代闘争」。流れの早い『PRIDE』マットで居場所がなくなりつつある〝かつてのスター〟2人が生き残りを賭けて、最大にして最後のチャンスに挑むこととなった。

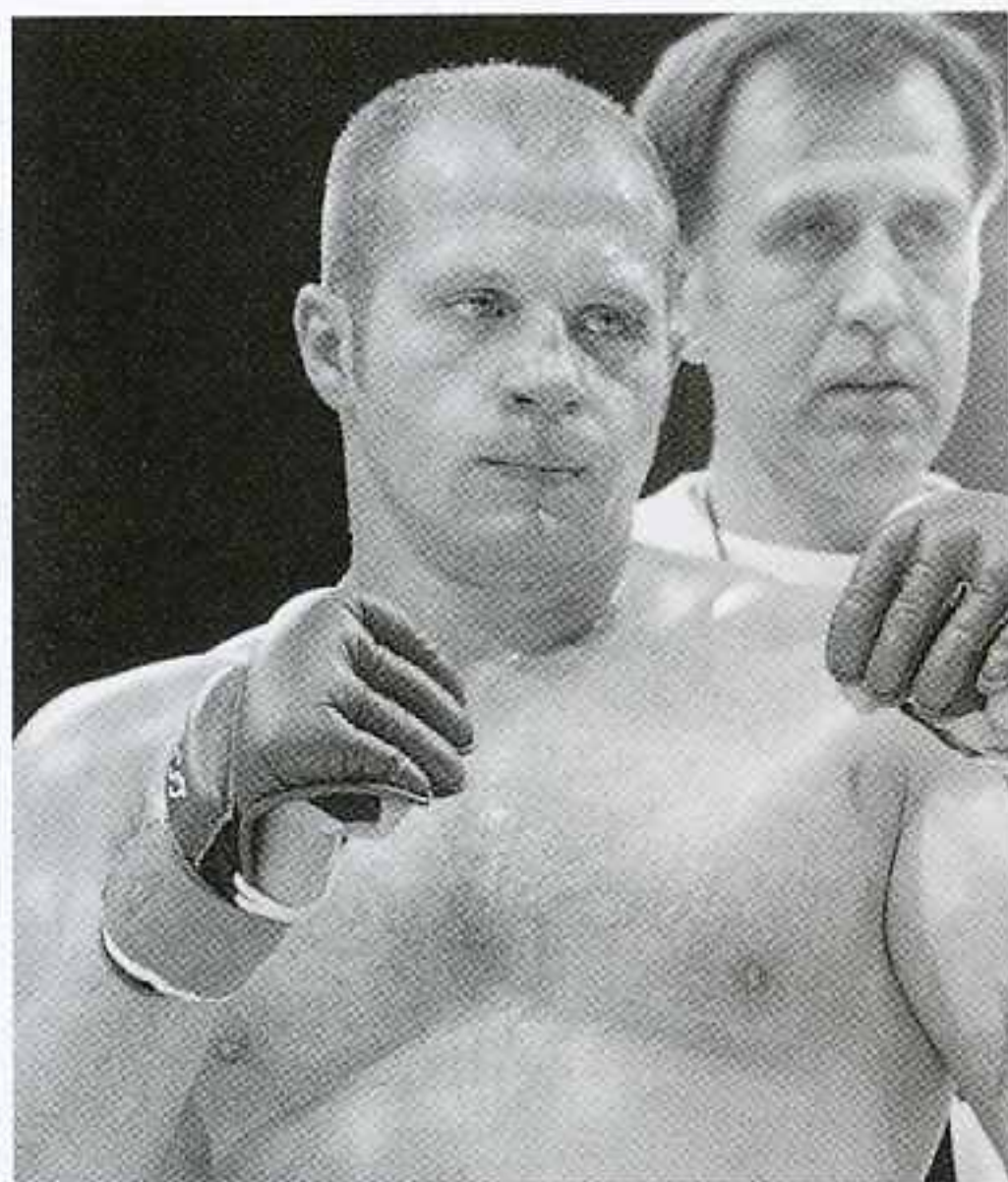
現在の勢いと実力では、もちろんヒョードル、ミルコに軍配があがるだろうが、この一戦へのモチベーションという点では、進退が懸かったボブチャンとゲーリーの方が上だろう。またヒョードルなどは、藤田のパンチでKO寸前になる姿を見せているだけに、あれがゲーリーのパンチだったら……と思わずにはいられない。ボブチャンチンにしても肉体改造に成功し復調したとの情報もあり、下馬評以上の熾烈な闘いとなる可能性は十分だ。

3月にヘビー級王座から転落して以来、復帰戦となるノゲイラは、リコ・ロドリゲスと対戦。この一戦は、『PRIDE』とUFCの前王者同士の対戦という側面だけでなく、3年前の『アブダビ・コンバット』でノゲイラがリコにヒザ十字で敗れており、ある種ノゲイラにとってのリベンジマッチという意味合いもある。当時ヒザを負傷していた事実もあるが、ノゲイラとしてはここで3年前の〝宿題〟を片づけておきたいところだ。

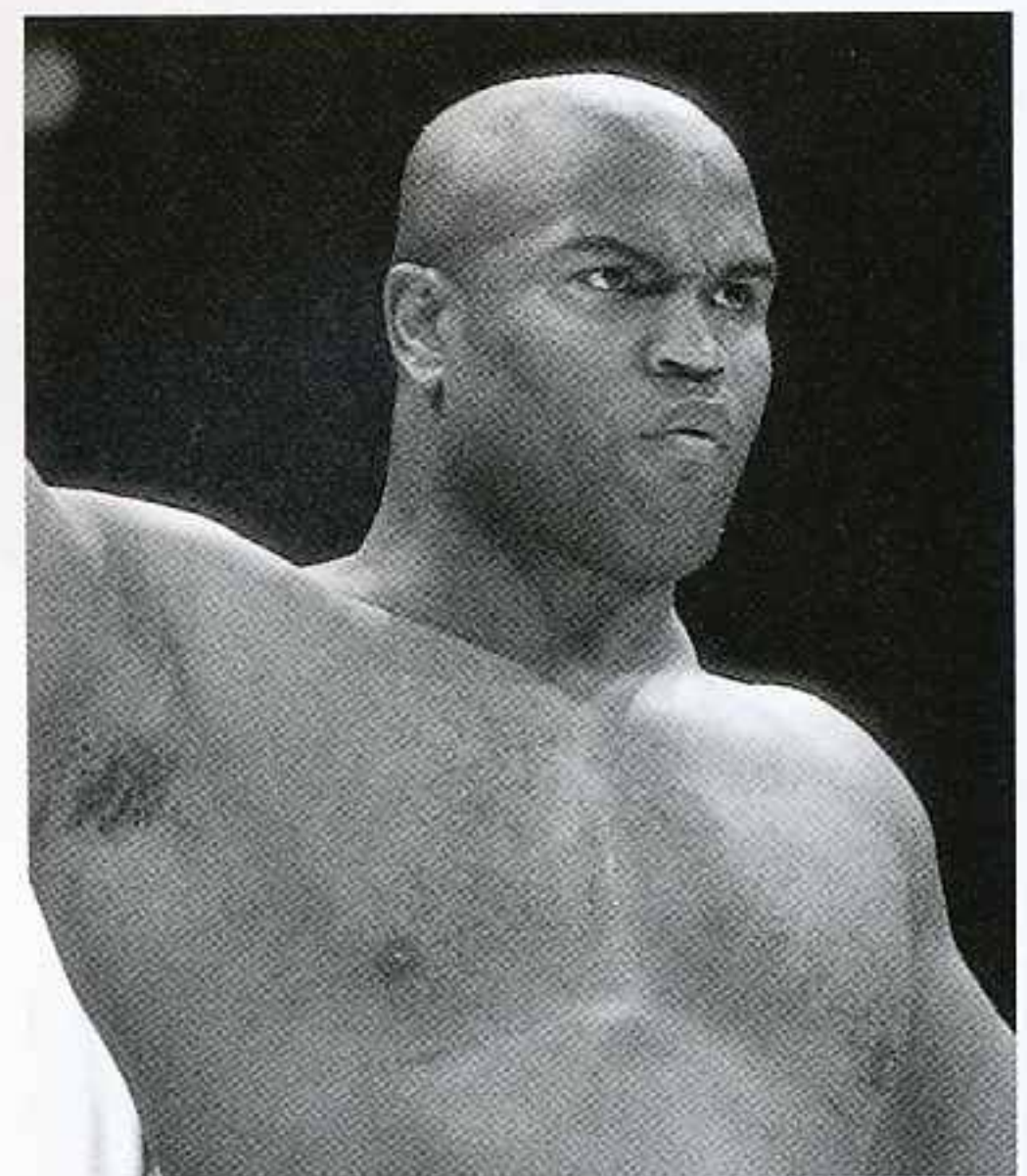
というのも、この一戦の結果次第で11・9東京ドームでは、いよいよノゲイラvsミルコ戦を組む意向があることが高田本部長の口から発せられたからだ。実現すればこの勝者がヒョードルへの持つヘビー級王座への挑戦権を得ることは確実。ノゲイラにとっては、ヒョードルへのリベンジ実現のためにひとつも落とせない試合が続くこととなる。

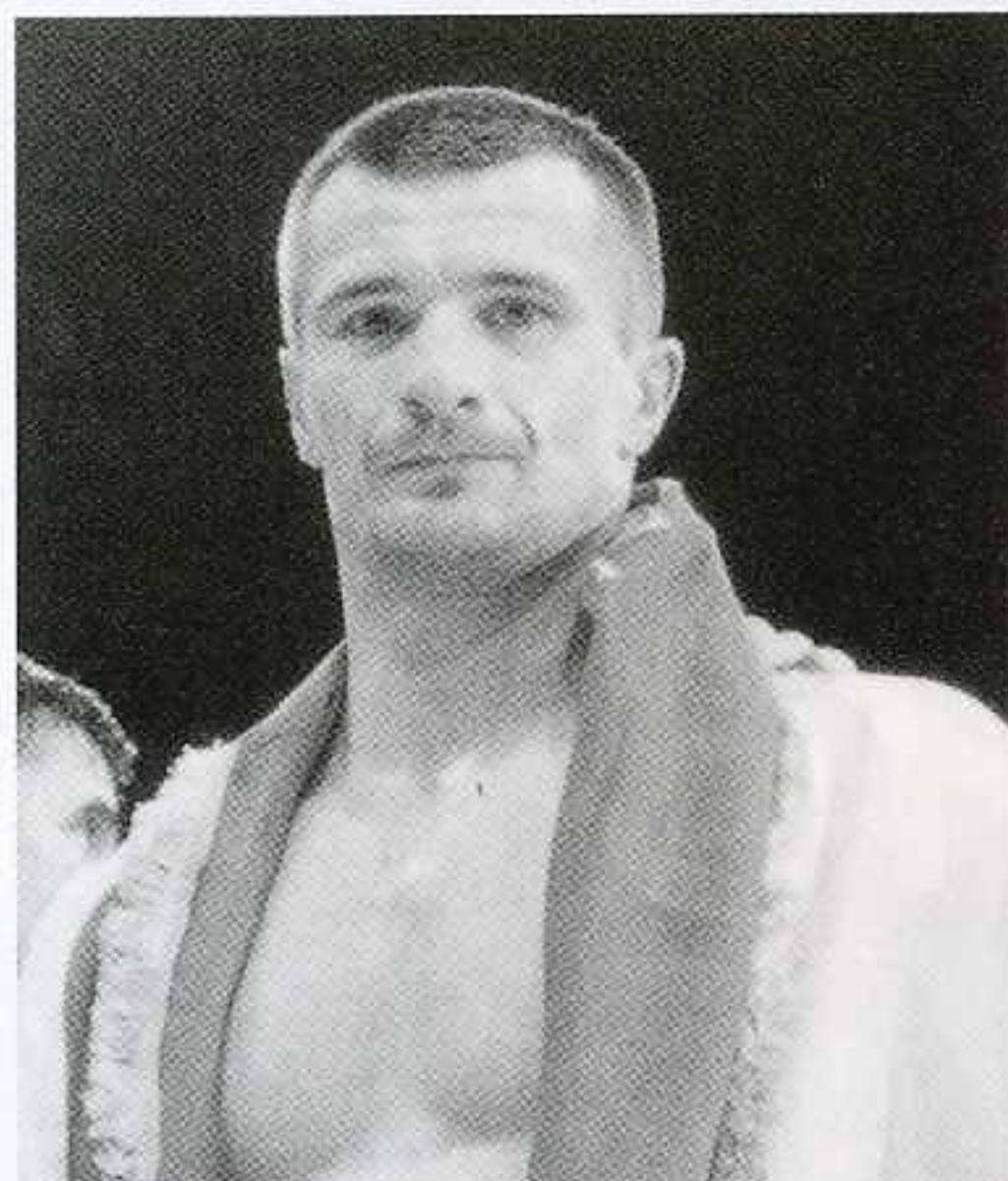
もちろん、その図式は8・10の結果次第で大きく変わってくる。そういった意味で、この3試合は事実上のヘビー級最強を決定する変則トーナメントの1回戦のようなもの。8・10『PRIDEミドル級GP開幕戦』は、同時にヘビー級大戦争の幕開けでもあるのだ。

［PRIDE世代闘争1］ 新旧剛腕対決

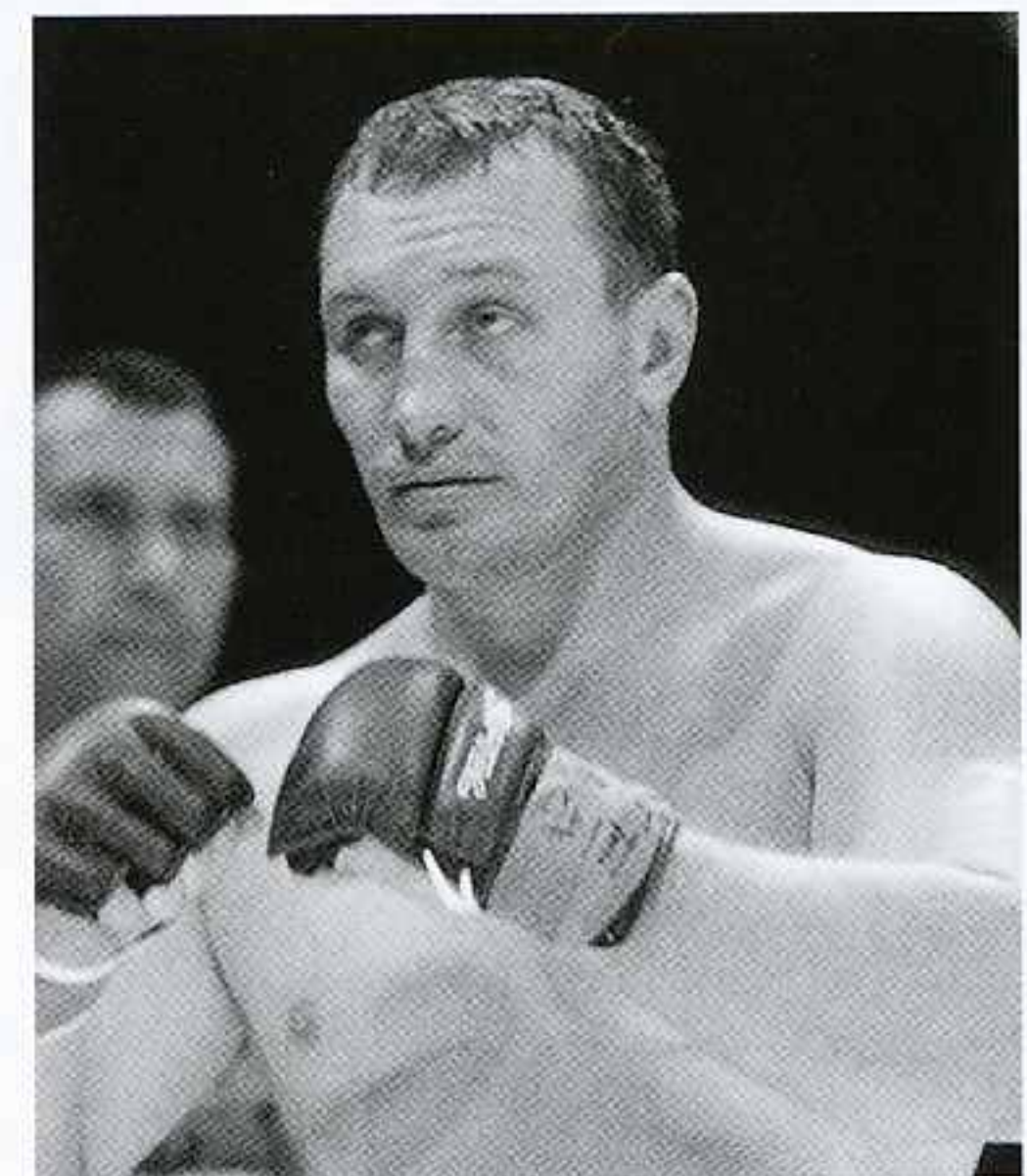
KO決着必至！ "門番"に一世一代のチャンス到来!!

エメリヤーエンコ・ヒョードル
［ロシア／ロシアン・トップチーム］

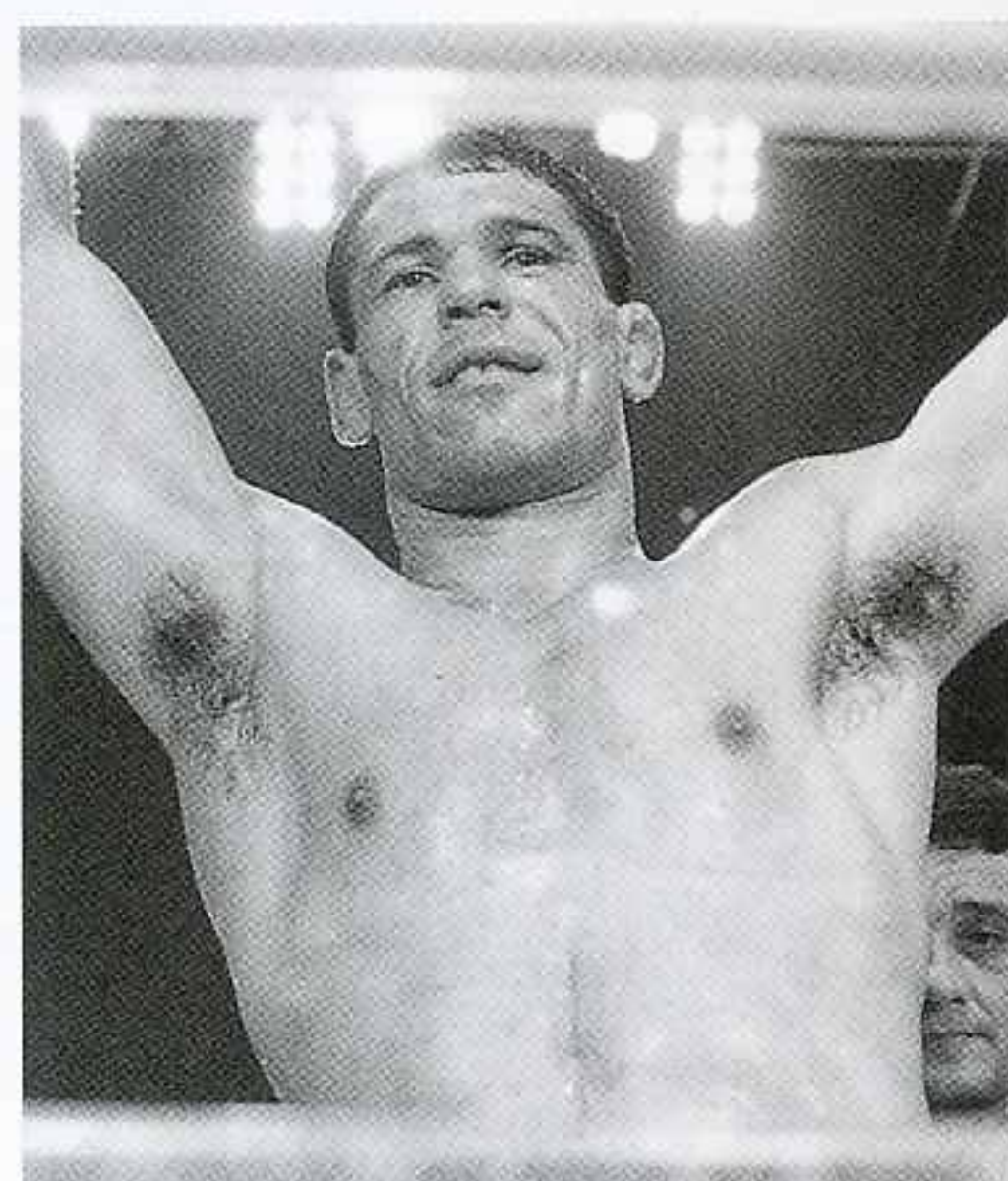
vs

ゲーリー・グッドリッジ
［トリニダードトバコ／フリー］

［PRIDE世代闘争2］ 新旧ストライカー対決

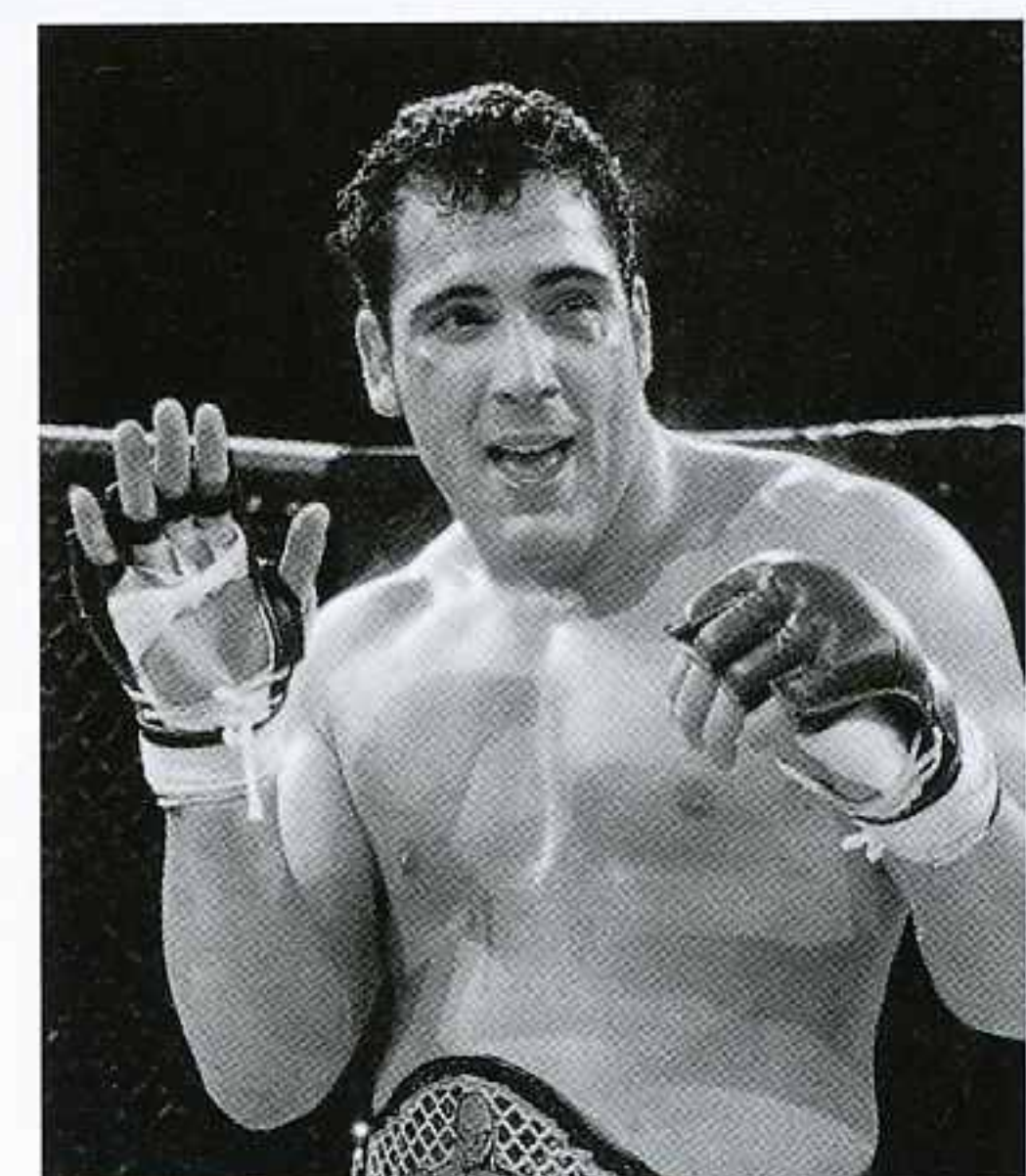
北の最終兵器に非情なる最後通告か!?

ミルコ・クロコップ
［クロアチア／クロコップ・スクワッド］

vs

イゴール・ボブチャンチン
［ウクライナ／フリー］

因縁のPRIDE vs UFC前王者対決

ノゲイラ復活に"3年前のトラウマ"が立ちはだかる！

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
［ブラジル／ブラジリアン・トップチーム］

vs

リコ・ロドリゲス
［USA／チーム・パニッシュメント］

高田統括本部長認定
「お前は男だ」
FILE 1

WS

ヴァンダレイ・シウバ

［シュート・ボクセ・アカデミー］

"PRIDEミドル級"王者が GPも獲っちゃうぞ バカヤロー宣言!!

WANDERLEI DA SILVA

サクラバに限らず誰が相手でも全然問題ないさ

聞き手／松澤チョロ　撮影／松本崇　designed by hisa (Two Three)

『PRIDE』初登場以来無敗を誇る初代PRIDEミドル級王者がミドル級グランプリ獲得に向けトーナメントに参戦！　一回戦では、これまで2戦2勝の桜庭和志と激突！　ミドル級完全制覇をもくろむ、この男こそ、優勝候補筆頭だ!!

ブッカーK　（眠そうにインタビュールームに現れたシウバに向かって）『紙プロ』は要注意だから気をつけた方がいいよ！（笑）。

——な、なんてこと言うんですか！（笑）。

シウバ　（入場時にやる見せる、両手を組んでの臨戦体勢を取りギロリとにらむ）

——（慌てて）そ、そんなことはないので、よろしくお願いします！

シウバ　ジョーク、ジョーク（笑）。（日本語で）オハヨウゴザイマス！

——おはようございます（笑）。まだ眠そうですけど、もしかして朝まで遊んでたんですか？

シウバ　いや、そんなことはないんだけど、まだ時差ボケが残ってるんだ（苦笑）。

——シウバさんは、もう日本へは何度も来てるわけですが、お気に入りのプレイスポットとかはあるんですか？

シウバ　六本木は好きだね（笑）。行きつけの寿司屋もあるし。それに焼き肉もおいしいね。あとロイヤルホストやデニーズも大好きさ（笑）。

——ミドル級チャンピオンがファミレスで満足とは安上がりですね（笑）。

シウバ　でもブラジルの物価に比べると日本はどこの店も高いよ。まあオレが払ってるわけじゃないけどね（笑）。

——そうでしたか（笑）。よく言いますけど、ブラジルは物価も安いし、女の子もカワイイ子が多いっていうし、ホント羨ましい限りです（笑）。

シウバ　たしかにそれは事実だよ（笑）。でも日本にもかわいい娘はたくさんいるし、日本のことは大好きさ（ニコッ）。

——ありがとうございます。では早速、『PRIDEミドル級GP』のことをお聞きします。シウバさんが過去2連勝している桜庭選手が「もう一度やりたい！」と意気込んでいますが、それに対してはどう思われますか？

シウバ　問題ないね。それにサクラバ戦っていうのはファンも観たい試合のひとつだと思うし、過去2試合も凄くいい試合になったからね。もし次やることになれば3回目になるけど、ファンもそれを期待してると感じてるんだ。

——でも桜庭選手は、すでに2度勝ってるわけですし、シウバさんの中で、もう決着が付いているという気持ちがあるんじゃないですか？

シウバ　いや、それは別にないよ。毎回どの試合でも常に新しい試合という気で闘っているし、誰が相手でも勝つためにハードなトレーニングをしているからね。たとえ前に勝った相手と試合をしても、その気持ちは変わらないよ。

——桜庭選手と、また対戦することになっても結果は同じだと？

シウバ　そうだね。どんな試合でも、しっかり準備することは大事なことだし、まあ、いまはサクラバに限らず誰が相手でも自分が勝つと思ってるよ。

——相変わらず自信満々ですね（笑）。

シウバ　まあサクラバと闘うことになったら観客もヒートするだろうし、一回戦でも決勝でもいいから、もう一度闘いたいね。

『PRIDE.26』での高田劇場にPRIDEミドル級のチャンピオンベルトを引っさげ登場したシウバ。高田統轄本部長の呼びかけに「ヤル！」と真っ先にトーナメント出場を宣言!!

2度あることは3度ある!?
一回戦は桜庭と激突!!

—あと、今回UFCからチャック・リデル選手が参戦するわけですけど、ダナ・ホワイト代表は、「シウバとやらせたい」と言ってますが？

シウバ　問題ないさ。

—あ、やっぱり問題ない？（笑）。

シウバ　オレはチャンピオンなんで、どんなファイターでも自分と闘いたいという気持ちは理解できるし、それは自分にとってもチャレンジだと思っているから。それにチャンピオンとしての誇りと自信も持っているので誰と闘っても全然問題ないと思っているんだ。リデルに限らず、オレと闘いたいというファイターは、これからもたくさん出てくるだろうし、名乗りを上げたファイター全員と闘っていくつもりだよ。

—「お前は男だ！」って感じですね（笑）。でも、UFCのダナ・ホワイトさんは、「もしシウバvsリデルが実現したらリデルが勝つ方に25万ドル賭ける」って言ってましたよ（笑）。

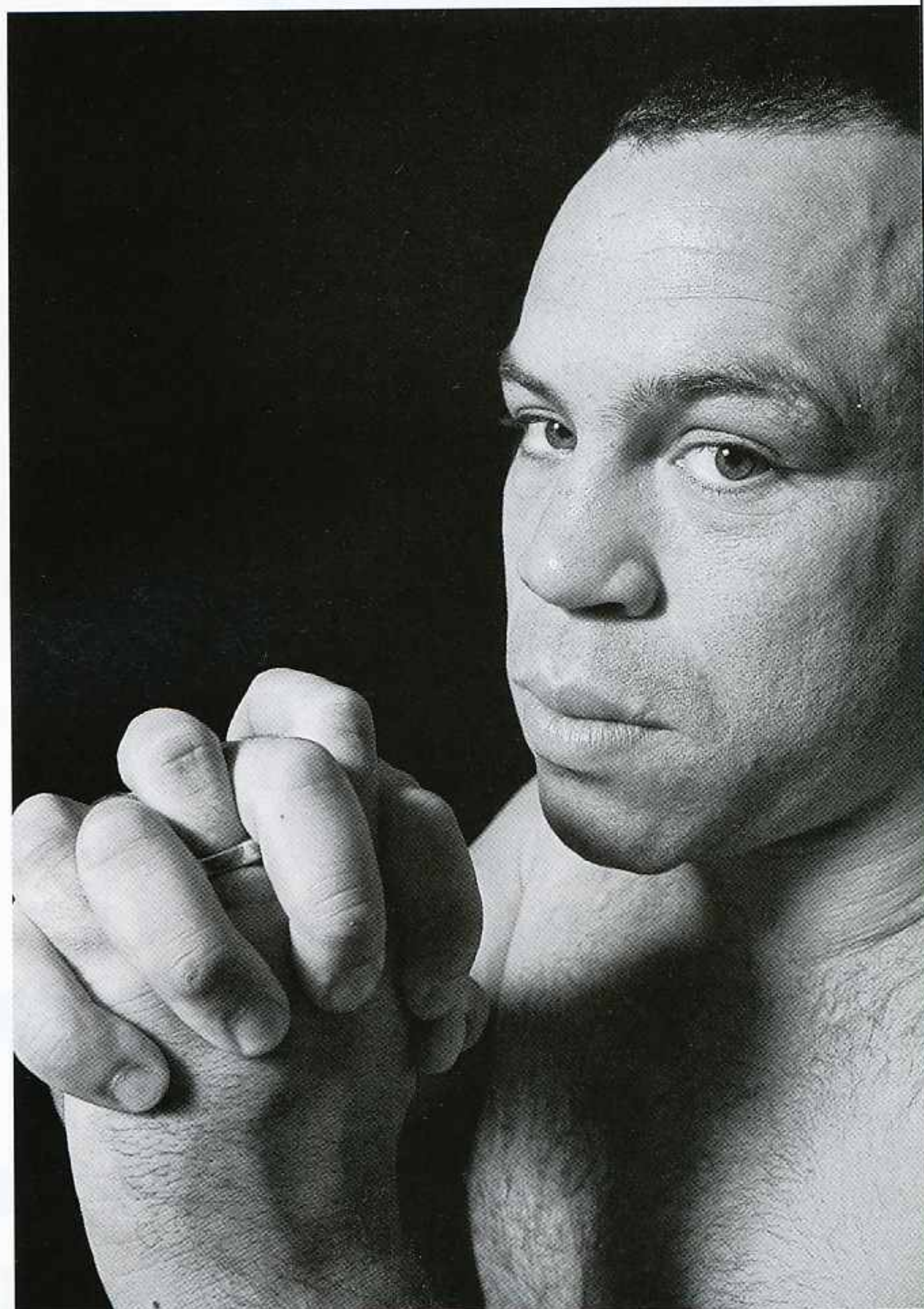
シウバ　ハッハッハッ！　まあダナもそうだと思うが、自分のところのファイターを守るという気持ちは当然あるだろうし、ウチ（シュートボクセ）のフジマール（会長）に聞いても同じことを言ってくれると思うよ（笑）。

フジマール　もちろんだ。シウバが勝つに決まってるね。サカキバラ（DSE代表取締役）に言っておいてくれ！　私は、それ以上の金を賭けるからって（笑）。

—アハハハハ！　でも、今回のリデル参戦からUFCと『PRIDE』が全面戦争という流れになってますけど、シウバさんは『PRIDE』を背負うという気持ちはあるんですか？

シウバ　どんな状況であってもオレは『PRIDE』ファイターだし、『PRIDE』のファイターが一番強いんだということを証明していこうと思ってるよ。問題ないさ。

—ただ、ファンの一部では、以前シウバさんがUFCのティト・オーティズ選手に判定負けしたことを持ち出して、「UFCのチャンピオンの方がシウバより強い」という声もいまだに出ているんですが、どう思いますか？

シウバ　ティトとの試合は昔の試合だし、あれから自分もかなり成長してる。いろんな状況も変わって、いまはオレもチャンピオンになっているし、チャンピオンとしての誇りも持っているからね。また闘う機会があればティトともう一度闘うのは問題ないし、今度やれば間違いなく勝つのはオレだろう（ニヤリ）。

—そうですか。でもミドル級のチャンピオンとしてトーナメントの一回戦から出場するということに関しては、正直不満はありませんか？

シウバ　いや、オレがミドル級のチャンピオンであることに変わりはないし、それとは別に今回は『PRIDEミドル級GP』のチャンピオンにもなりたいという気持ちだけだよ。

—あくまでも別物と？

シウバ　まあ正直に言うと、最初は悩んでいた時期もあったんだけど、でも自分のサイトに、「『PRIDE』ミドル級GPに出てくれ」というファンの声が、いろんな国から届いているのを見たんだ。その中には日本のファンからの声も多かったし、それを見て出ようと思ったんだ。『PRIDE』のファンクラブにも同じようなメッセージがたくさん届いているという報告も受けたしね。

—ファンの声に後押しされたわけですね。トーナメントには吉田秀彦選手の参戦も決まりましたが、シウバさんは以前から吉田選手と闘ってみたいと言ってましたよね。

シウバ　問題ないさ（キッパリ）。

—あ、やっぱり（笑）。

シウバ　まあヨシダに関しては、とても強いファイターだと思っているし、ファンも自分とヨシダの対戦を望んでいると感じているからね。

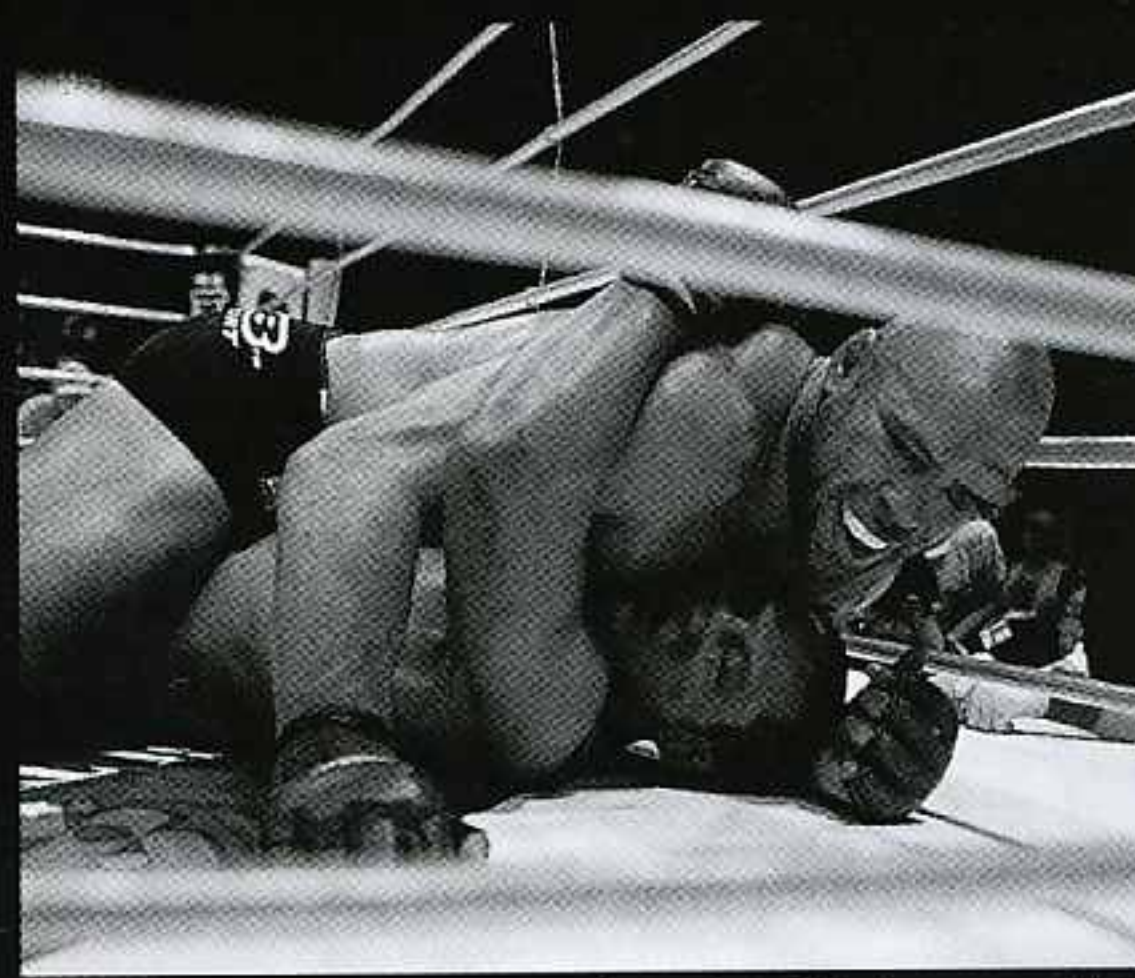
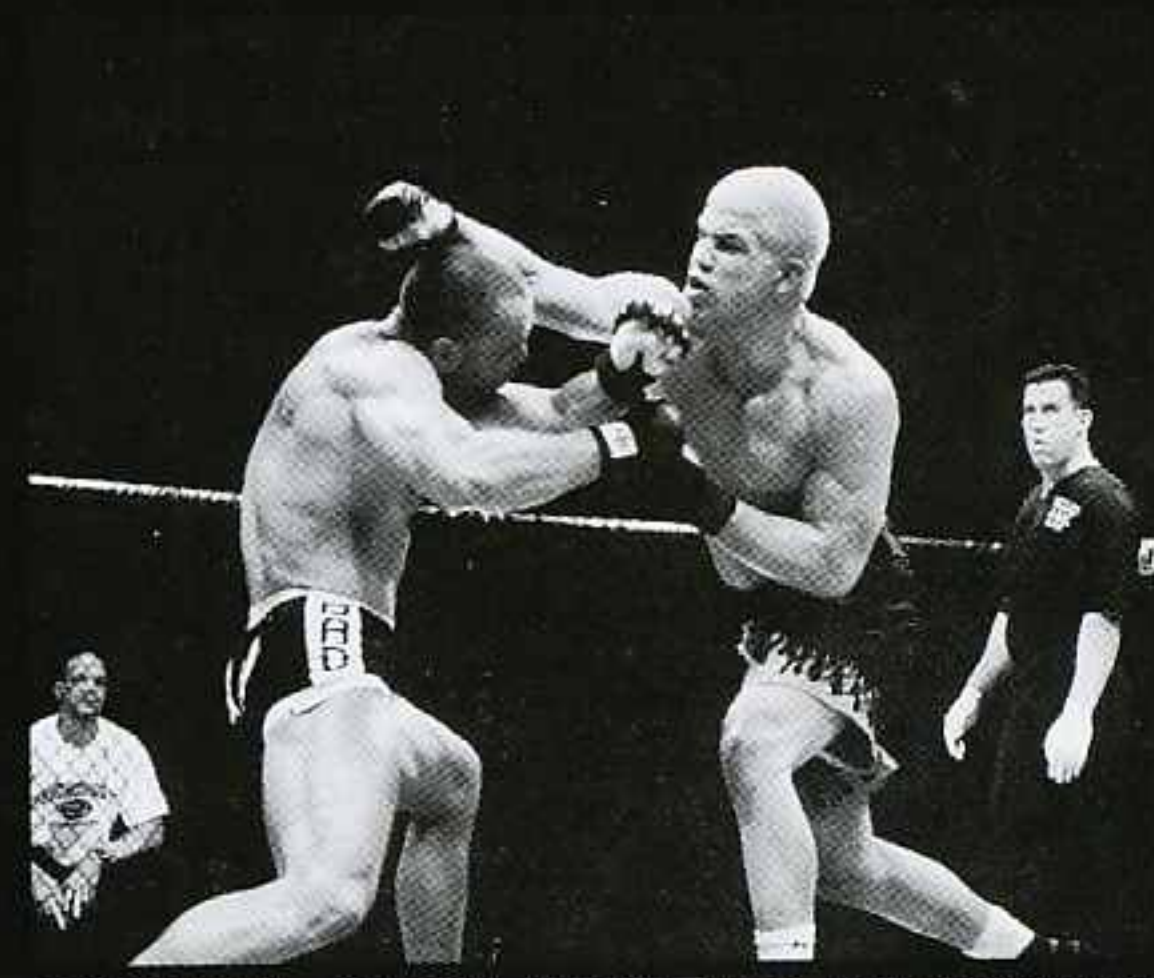
—先ほどから話を聞いてると、優勝は間違いないような口振りですけど、吉田選手も、シウバさんが以前から言っているように、ミドル級のグランプリを制して、その後はヘビー級のチャンピオンを目指したいとのことなんですが。

シウバ　やっぱり『PRIDE』で二階級制覇

ティトともう一度闘うのは問題ないよ 間違いなく勝つのはオレさ！

“PRIDE無敗”驚愕の戦歴 SILVA’s BOUT HISTORY

01年11月3日、東京ドーム■『PRIDE.17』での桜庭戦はミドル級王座決定戦として行われ、シウバは豪快なスラムで桜庭の肩を破壊、初代王者に！

01年3月25日、さいたまスーパーアリーナ■活躍が認められ『PRIDE.13』で念願の桜庭戦が実現。シウバはスタンド、4ポイントからのヒザ蹴りで桜庭を流血させ、98秒で勝利を飾った。

00年12月23日、さいたまスーパーアリーナ■『PRIDE.12』ではリングスKOK初代王者のダン・ヘンダーソンと対戦したシウバ。1R、ヘンダーソンのパンチで左目上から大量出血し視界を塞がれたシウバだったが、その後、挽回し判定で勝利!!

00年4月14日、代々木第二体育館■UFC-Jのセミで行われたUFC世界ミドル級王者決定戦、シウバvsティト・オーティズ戦。シウバはティトの手堅い戦法の前に5R判定で敗戦。今現在、シウバの日本マットでの唯一の黒星である。もう一丁！

何度も言ってるように、誰とやってもオレが勝つのは間違いないさ！

するっていうのはとても魅力的だし夢でもあるし、その自信もあるからね。オレもヨシダと同じように『PRIDE』の中で一番の選手になりたいという気持ちは凄くあるよ。

——吉田選手と闘うことになったとして、衣を着ている相手と闘うのはシウバさんにとって厄介じゃないですか？

シウバ　問題ないさ（アッサリと）。

——あ、それもノー問題！（笑）。

シウバ　何度も言うようにヨシダはとても強いファイターというのは理解しているよ。もしヨシダとの試合が決まったら、その試合に向けてしっかり準備はするし、まあ実際すでに練習もしてるんだよ。

——あ、すでに柔道衣対策はしてるんですか（笑）。

シウバ　もちろんさ。道衣を使った投げ技も練習しているし、そういった面でも問題ないと思っているよ。どちらかというと、オレの方が彼を投げ技で投げ飛ばすような結果になるだろうね（ニヤリ）。サクラバとの試合と同じぐらい、ヨシダとの試合はファンも楽しみにしてるだろうし、もし一回戦で闘う機会がなくても、11月の東京ドームではヨシダと闘ってみたいね。

——すでに11月のドーム大会のことまで考えてるんですか（笑）。

シウバ　もしヨシダが決勝まで上がって来れなかったらヘビー級として闘うのもいいだろう（笑）。

——そうですか（笑）。

シウバ　まあでもシュート・ボクセにはヘビー級にも凄く強いファイターがいるからね。そのファイターは今122キロあるんだけど、7月にブラジルでムエタイの試合にも出て、8月にはバーリ・トゥードの試合にも出ることが決まってるんだ。まあ、近いうちに『PRIDE』のリングにも戻ってくるはずだよ。

——というと、以前『PRIDE』に出たことがある選手ですか？

シウバ　そうさ！　アスエリオ・シウバのことだよ。彼も以前に増して強くなってるし、オレの一番のスパーリングパートナーなんだよ。

——120キロのシウバ選手とガンガン、スパーリングをやってるわけですね（笑）。では、ファンの声を大事にするシウバさんとしては、桜庭選手、ランペイジ選手、吉田選手、あと出場が噂されている田村選手、この4人の中から一番闘いたい選手を1人上げてくれと言われたら誰を選びますか？

シウバ　何度も言ってるように、誰が相手でも問題ないさ！（キッパリ）。

——まあ、そうなんでしょうけど（笑）。その中で特にと言われれば？

シウバ　誰とやってもオレが勝つのは間違いないさ。

——わかりました（笑）。そういえば、この間の『PRIDE26』でアンデウソン・シウバ選手を倒した高瀬選手を試合後のリング上と、その後のパーティー会場でもにらんでたみたいですけど、高瀬選手は、「シウバとやって一本勝ちしたい」って言ってましたよ（笑）。

シウバ　そんなこと言ってるのかい（笑）。まあ、あの試合はアンデウソンにとっては残念な結果になってしまったので、機会があれば彼の代わりに闘ってもいいと思ってるよ。まあタカセと闘うことになったら、彼をリングから投げ飛ばすことになると思うけどね（ニヤリ）。

——あららら、それは大変だ（笑）。

シウバ　オレが闘うのは全く問題ないが、できればアンデウソンにリベンジの機会を与えてやりたいね。次は間違いなくアンデウソンが勝つだろう。

——わかりました。最後になりますが、次の試合は復帰戦になるわけですが、大会当日までには万全な体調で試合に挑めそうですか？

シウバ　問題ないさ。そこへ向けて調整しているので、その日には、これまで以上に強くなってるだろうし、筋肉も付くと思うし、万全な形になっているのは間違いないよ。

——それは安心しました。

シウバ　最後に一言ファンにメッセージを送りたいんだけど、いいかな？

——もちろんです。どんなメッセージですか？

シウバ　シュート・ボクセ・アカデミーでは、オレだけでなく、どのファイターもモノ凄くハードな練習をしているんだ。それはファンのみんなにいい試合を見せるためだと思っているし、その結果、ファンのみんなから力をもらえるように努力を続けることを約束するよ。これからも応援を（日本語で）オネガイシマス！（とペコリと頭を下げる）。

——わ、わかりました（笑）。誰が相手でも素晴らしい試合を期待してます！

シウバ　問題ないさ！（ニコッ）。

【03年6月26日／都内・某ホテルにて収録】

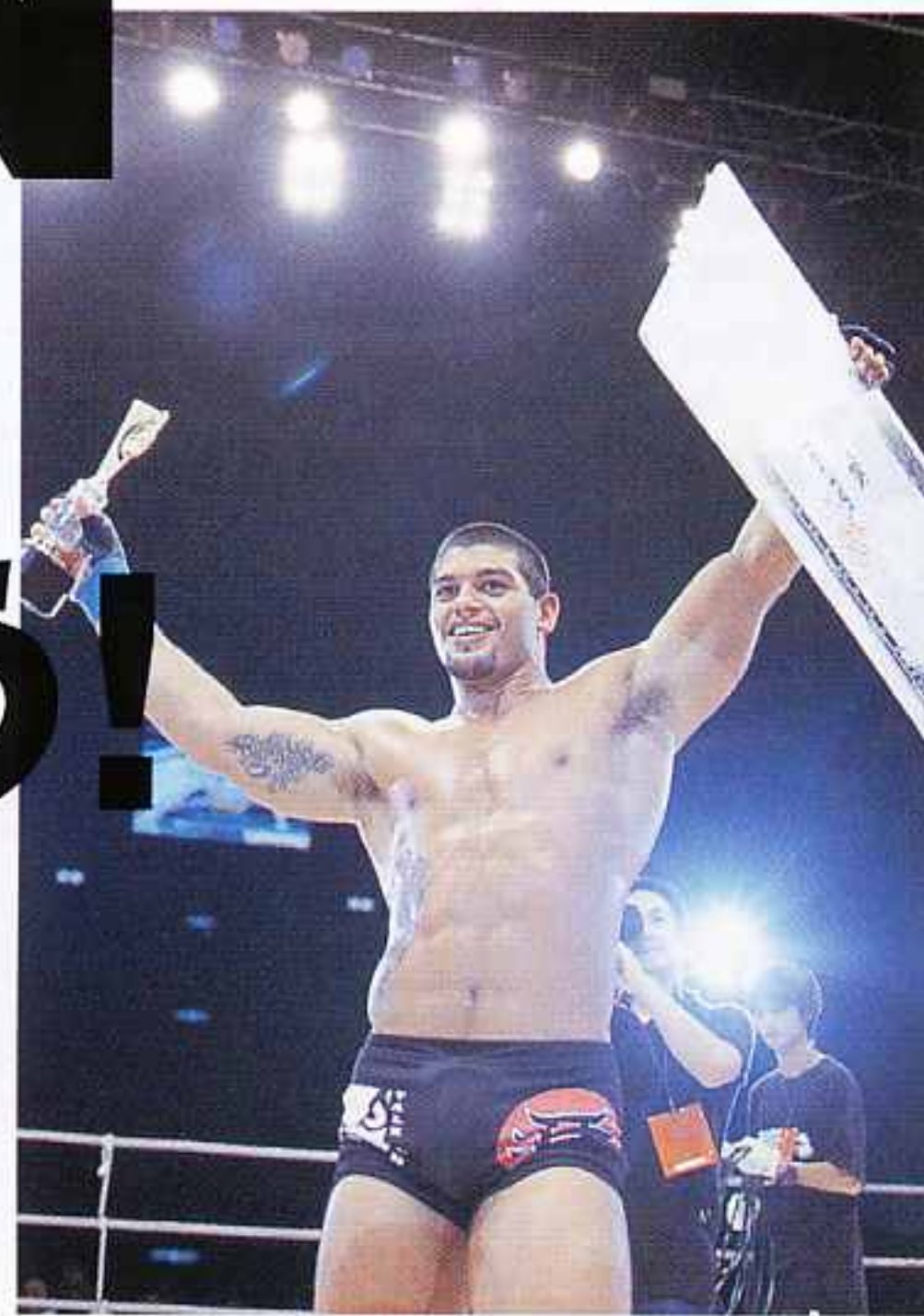
Wanderlei Da Silva■1976年7月3日、ブラジル・パラナ州出身。『PRIDE』初登場以来、快進撃を続け『PRIDE.13』では念願の桜庭相手に文句無しのTKO勝利を収める。再戦となった『PRIDE.17』では桜庭の肩を粉砕し、初代PRIDEミドル級王座に輝く。182cm、90kg。

02年11月24日、『PRIDE.23』東京ドーム■高田引退試合と同日、シウバは『PRIDE』初参戦の金原弘光とタイトルマッチで激突。激しい打ち合いを制したシウバの前に金原のセコンドがタオルを投入、シウバは2度目の王座防衛に成功!!

02年4月28日、『PRIDE.20』横浜アリーナ■3分5ラウンドの特別ルールで行われたミルコ・クロコップとの『PRIDE』vsK-1の対抗戦は両者一歩も譲らずドローに。試合後、シウバは『PRIDE』ルールでの完全決着の再戦を訴えた。

02年2月24日、『PRIDE.19』さいたまスーパーアリーナ■ミドル級チャンピオンシップとして行われた元リングス・田村潔司との一戦。シウバは『PRIDE』初参戦となる田村を壮絶な打撃戦の末、レフェリーストップで破り初防衛に成功!!

QINONTON "RAMPAGE" JACKSON

アローナの名前を聞くと眠くなっちまう！ 試合がもの凄く退屈だからな!!

1回戦の相手であるヒカルド・アローナをボロクソに批判したランペイジ。アローナも敵意剥き出しで反論するなど、決戦前に因縁が勃発した！

聞き手／ジャン斉藤　撮影／松本崇　designed by hisa (Two Three)

〝RAMPAGE〟（暴れ回る）の異名通り、驚異の破壊遂行率でミドル級トップコンテンダーに登り詰めたランペイジ・ジャクソン。もちろん、『PRIDEミドル級GP』制覇も自信満々！　決戦に向けて、吠えに吠えまくる!!　シウバ、UFCにも噛みついた!!

——ジャクソンさん！　昨日、観戦に訪れていた『DEEP』（6・25後楽園大会）では、『DEEP』のラウンドガールとやけに親しげにされてましたねえ。

ランペイジ　（ギロリと睨んで）お前、何か勘違いしてるだろ？　俺様は別にやましい気持ちがあったわけじゃねえよ。一生懸命働いた彼女たちにねぎらいの言葉をかけていただけだ！

——それは失礼しました！（笑）。

ランペイジ　いまは真剣にファイトに集中したいからな。女なんか必要ねえのさ。

——『PRIDE』ミドル級GPも近づいてますしね（笑）。今日はそのミドル級GPについて、いろいろとお伺いしたいと思ってます！　まず、五輪の柔道金メダリストである吉田選手が突然の参戦となりますけど、彼の実力はどう評価してるんですか？

ランペイジ　ヨシダサンの実力？　ドン・フライとの試合を見たことはあるけど、サンプルが少なすぎてよくわからねえよ。ホイスともやってるけど、MMA（総合格闘技）じゃねえしな。まぁ、柔道のテクニックは凄いんじゃねえか。

——何しろ柔道王ですからね（笑）。ジャクソンさんは怪力を活かしたスラムが得意ですけど、吉田選手を投げ飛ばす自信はありますか？

ランペイジ　そんなの、試合になってみないとわからねえよ。ただ、言えることは、俺様の方がMMAの経験があるってことだけだな（ニヤリ）。

——自信がありそうですねえ（笑）。昨日の会見では、すでに参戦が発表されていた桜庭選手、シウバ、ランペイジさんの他に、チャック・リデル、アリスター・オーフレイム、ヒカルド・アローナらの参戦も発表されましたけど、彼らの印象はどうでしょうか？

ランペイジ　……ん〜〜、最後の選手は……誰って言ったぁ？（大きなアクビしながら）。

——アローナですけど。

ランペイジ　……あぁ〜、誰……？　なんだってぇ？（目を閉じながら）。

——アローナ！　ヒ、カ、ル、ド、アローナです!!

ランペイジ　ああ、アローナかぁ。いやね、彼の名前は聞くと……眠く……なっちゃうんだよ。あ〜あぁ（再びアクビをしながら）。

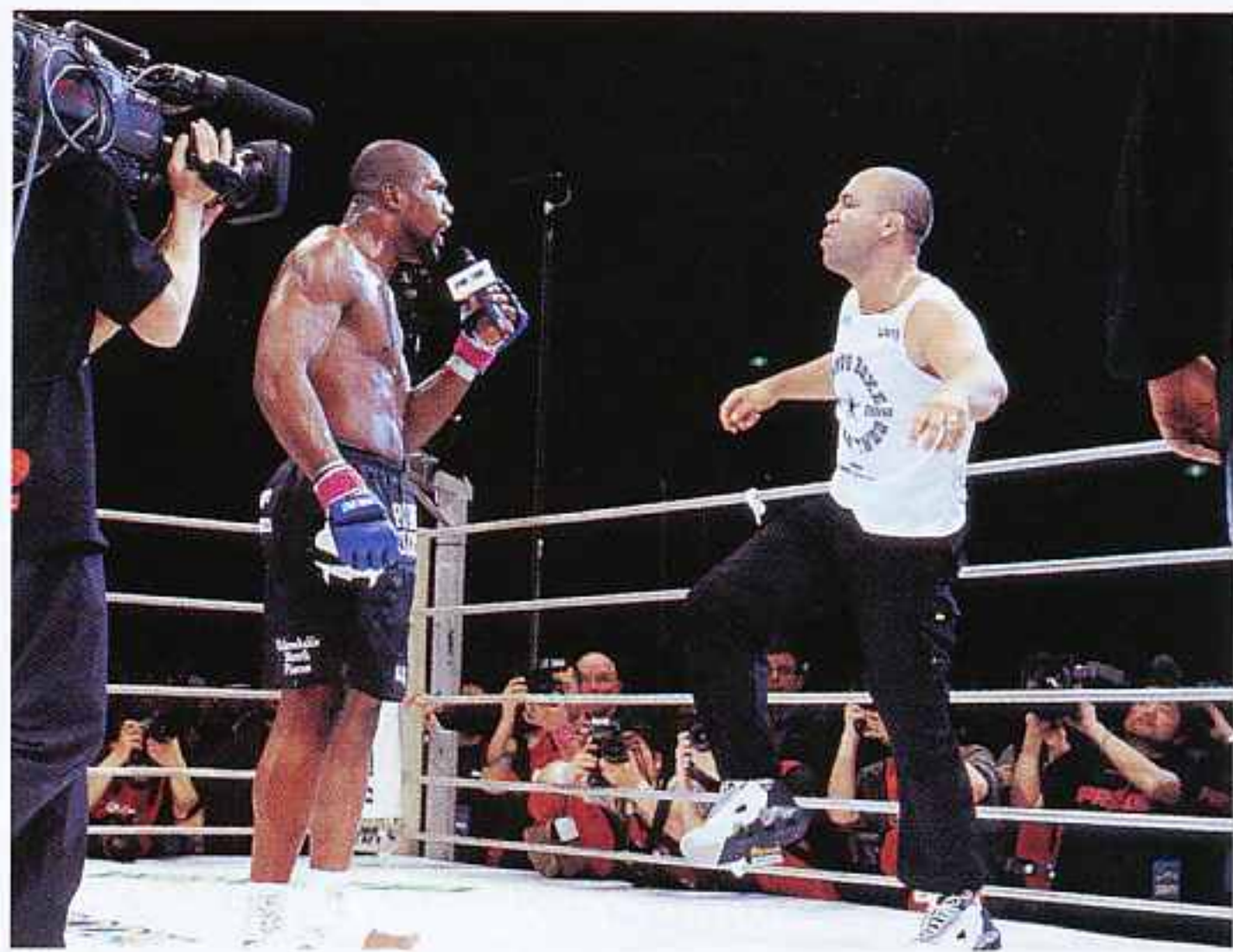
——それはどうしてですか？

ランペイジ　どうしてもクソもねえよ！　アローナの試合ってクソつまらねえだろぉ？　アイツはテイクダウンしたら、ず〜〜〜〜っと、上に乗っかてるだけだからな。試合を見てると眠くなっちまうんだよ！

——アローナの試合が退屈過ぎて眠い、と（笑）。

ランペイジ　俺がファンだったら、試合を見たくない選手の1人だ（キッパリ）。俺は勝ち負けよりも、試合が「面白いか」「面白くないか」を見るからな。

——ジャクソンさんからすれば、アローナはプロとして失格なんですか？

ランペイジ　いや、誤解してほしくないのは、俺様はアローナを嫌いなわけじゃねえよ。アローナは実績もあるし、強いファイターだから、リスペクトしているんだ。でもよ、「MMAを世の中

ランペイジはシウバとも因縁深い。『PRIDE.25』では大乱闘を繰り広げたこともあった。「あれ以来、奴は俺様と目を合わせねえ」とランペイジ。

QJ

クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン

［チーム・大山］

UFC、シウバにも噛み付く
UNCHAIN DOG

髙田統括本部長認定
「お前は男だ」
FILE 2

に広めていきたい」「活躍してマネーを稼ぎたい」と思ってるファイターってのは、やっぱりファンに楽しんでもらうことを優先するだろ？

——客が入らないことには、イベントとして成立しないですからね。

ランペイジ　初めてMMAを見る人が、運悪くアローナの試合を見てしまったら、「MMAはこんなにつまらないのか？」ってなっちまうじゃねえか。MMAを普及しようしてるファイターからすれば、悪影響な存在なんだよ、アローナは。

——そこまで言いますか（笑）。

ランペイジ　アローナのことは以上だな。これ以上喋ると、ホントに眠っちまうぜ（笑）。

——わかりました（笑）。それではUFCから参戦するチャック・リデルの評価はどうでしょうか？　ジャクソンさんは以前、彼が所属していた「チーム・パニッシュメント」に在籍していたこともありますよね。

ランペイジ　いや、チャックがチームに入ったのは、俺様が抜けたあとだからな。接点はほとんどないんだよ。

——ちなみにジャクソンさんがチームを抜けた理由はあるんですか？

ランペイジ　それはあのチームにいる意味がまったくないからだ。ティト（・オーティス）なんかがUFCに出るときは、チームの一員としてトレーニングをヘルプしたんだけど、俺様が『PRIDE』に出るときはな〜んにもしてくれねえからな。だから、辞めた。まぁ、ティトとはいまでも友人だし、悪い感情はないけどね。

——なるほど。話はリデルに戻りますけど、UFCの代表であるダナ・ホワイトは、「『PRIDE』はマイナーリーグ！」と言い放ったりして、かなり自信満々なんですよ。

ランペイジ　はぁ？　UFCこそシットなプロモーションだよ。スキルが低くてコンディション管理できないファイターが腐るほどいるからな！　3分ぐらい動いただけでグロッキーになってやがる。そんなUFCの連中が、『PRIDE』で勝てるわけねえだろう。

——ジャクソンさんからすると、選手の実力、イベントの完成度も含めて、『PRIDE』の方が上だと思ってるんですか？

試合がクソつまらないアローナはMMAでは悪影響な存在なんだよ

ランペイジ　答えるまでもねえよ、そんなこと！　UFCと違って、『PRIDE』は常にファンは満足させるグットショーをやってるじゃねえか。UFCはつまらねえの一言だよ！

——先ほどから話を聞いていると、ジャクソンさんが重要視していることってファンを楽しませることなんですね。

ランペイジ　だからといって、馬鹿みたいに負け続けるわけにはいかねえよ。観客を喜ばして、相手をぶっ飛ばす。この組み合わせができることが、プロとしてのアートになってくるんだ。

——そのアートを体現できるファイターは誰になりますか？

ランペイジ　まずアリスター・オーフレイムだな。それとヴァンダレイ・シウバ、イゴール・ボブチャンチン、ミルコ・クロコップ、ヒョードルたちがアートなファイターになるな。

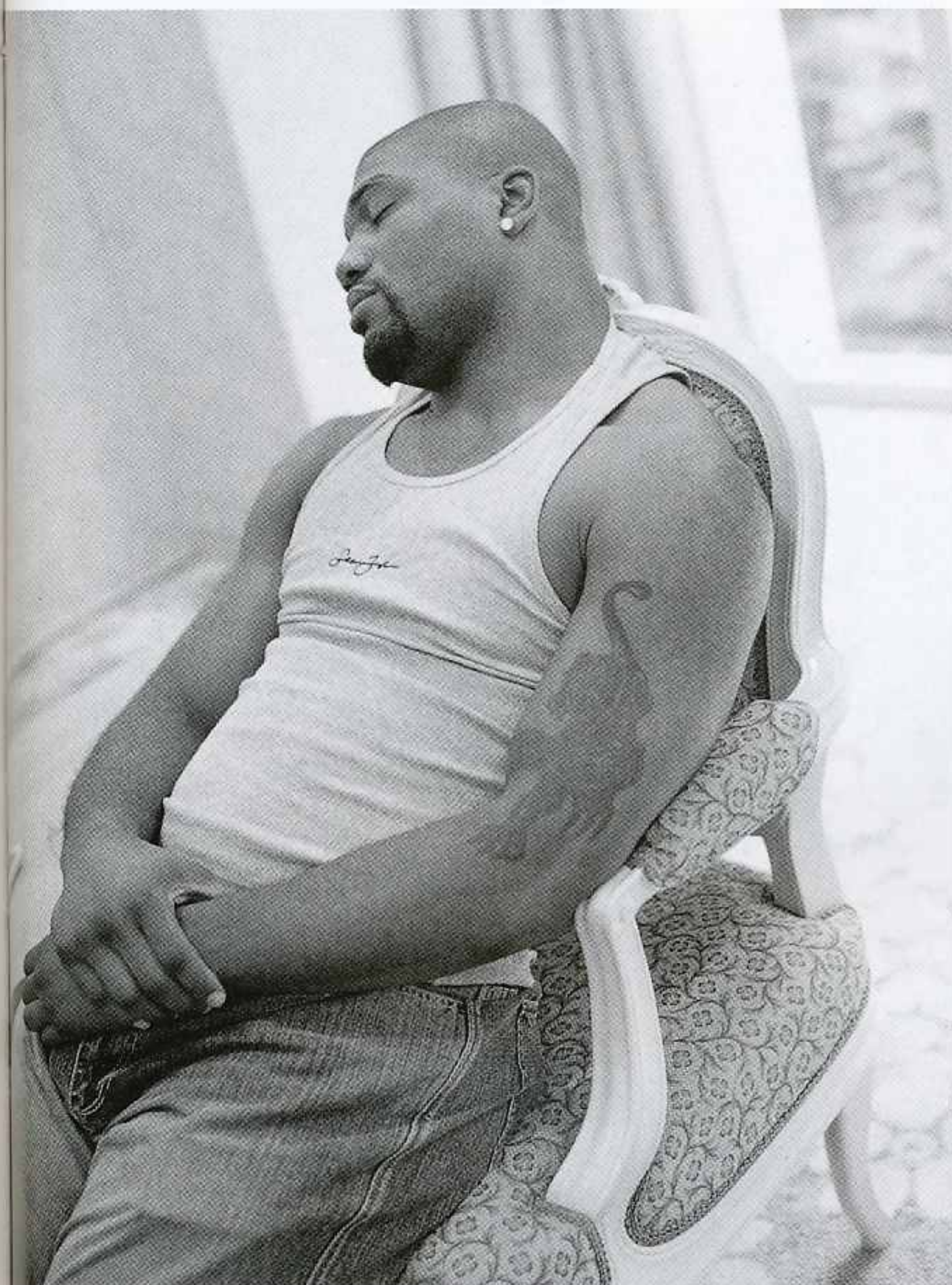
——日本人の選手は誰もいないんですか？

ランペイジ　（即座に）サクラバサン！　あとは……ムサシサンかな（下唇を武蔵ばりに膨らませて）。

——ワハハハ！　似てますねぇ（笑）。

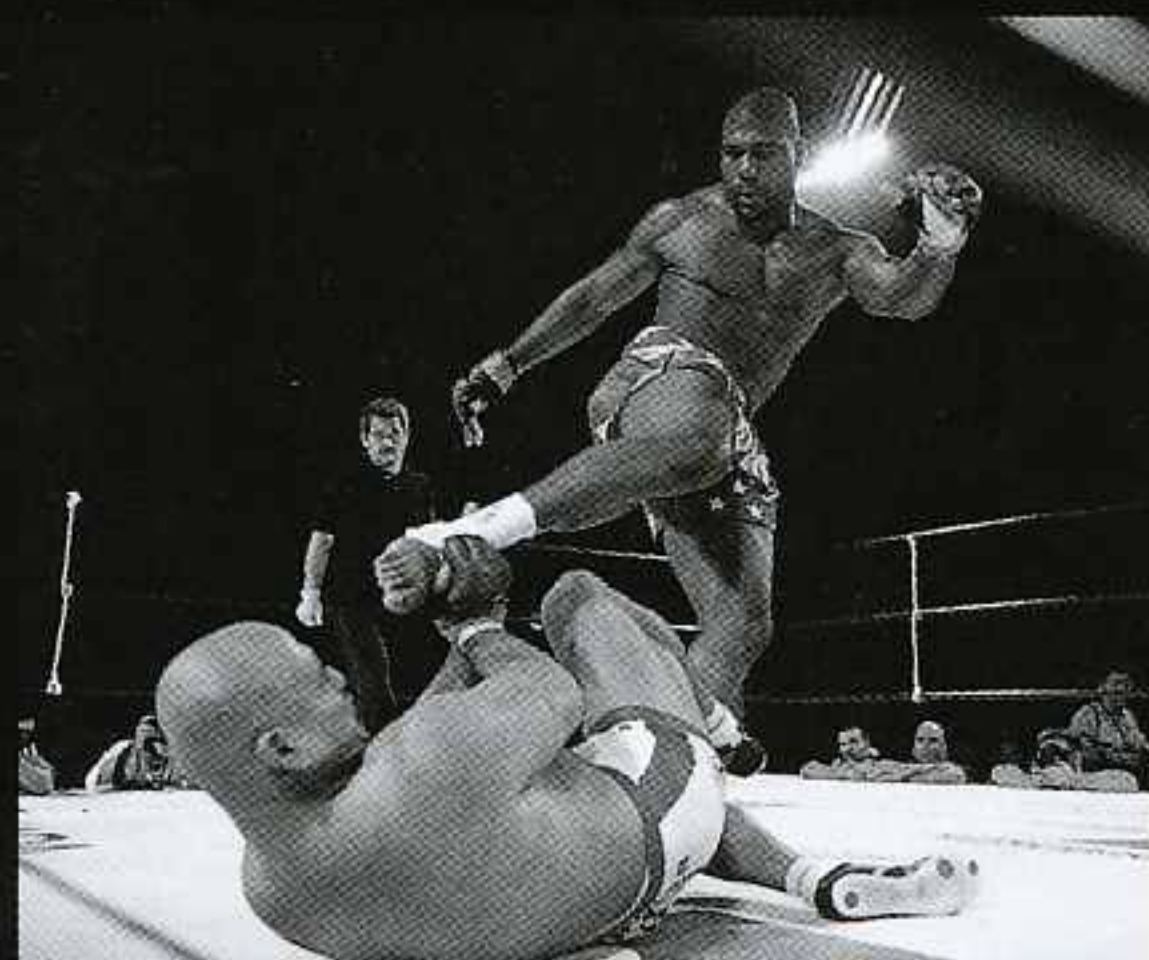
ランペイジ　ラスベガスで角田サンとやった試合は面白かったよ。まぁ、K—1はそんなに見てるわけじゃないから、そんなに詳しくはないんだけど（笑）。

——ところで、アートなファイターにシウバの名前を挙げてましたよね。彼とは仲が悪いながらも、ファイターとして認めているんですか？

ランペイジ　いや、アイツの対戦相手はイージーな奴ばかりだから、エキサイティングな試合になるのは当たり前なんだよ。俺様から逃げ回っているチキンな野郎だし、これっぽっちもリスペクトしてねえよ！

「名前を聞くと眠い!!」ご覧のポーズでアローナを挑発するランペイジ！　事実上の決勝と噂されるアローナ戦はどんな結末が待ってるのか？

全てをブチ壊す怪力UNCHAIN DOG RAMPAGE's BOUT HISTORY

02年4月28日『PRIDE.20』■佐竹を強引に持ち上げ背中から叩き落としてTKO!!　佐竹は長期入院を強いられる重傷。引退のきっかけとなった

01年12月23日『PRIDE.18』■試合開始早々、ジャクソンのヒザ蹴りが松井の股間を直撃!!　反則負けを喫したが、凶暴さが定着し始めたジャクソンにとってはある意味、勲章であった

01年10月14日バトラーツ■『PRIDE』ルールでアレクと対戦。金的攻撃でファールカップを粉砕するなど、暴走ファイトでアレクを粉砕！　同年の11・3『PRIDE.17』では、敵討ちに挑んだ石川社長も撲殺している

01年7月29日『PRIDE15』■「ホームレス」という胡散臭い肩書きで日本初登場。"噛ませ犬"ファイターかと思いきや、桜庭の関節技をことごとく振り払う怪力を披露！　敗れはしたが、桜庭をあと一歩のところまで追いつめた

俺様から逃げ回るシウバはチキン！シウバの対戦相手はいつもイージー！！

——ジャクソンさんは、『PRIDE.26』でイリューヒン・ミーシャと対戦したときも、「俺が闘う相手は本当はシウバなのに、なんでコイツと闘ってるんだ！」って怒ってましたよね。

ランペイジ　誤解してほしくないのは、ミーシャに関しては悪い感情を持ってないってことだ。ミーシャは俺様がいままで闘ったファイターの中で、一番強かったと思ってるしな。そして鼻の高さも一番だった（笑）。

——あ、鼻の高さもですか（笑）。

ランペイジ　鼻も高いし、実力もある。ミーシャは本当に強かったよ！　アームロックはそれほど危険には感じなかったが、フロントチョークはホントにヤバかった。だから、試合後に文句を言ったのは、俺様から逃げ回るヴァンダレイへの怒りさ。アイツは常に人を見下した態度を取っているし、選手の間でアイツのことを良く言うやつはいない。俺様とチキンが闘ったら、アイツが「お母ちゃん、助けて〜ぇ！」って泣き叫ぶ声がブラジルに届くほどの悲鳴を挙げさせてやるぜ！

——地球の裏側まで聞こえますか（笑）。アローナとの対戦もそうですけど、シウバ戦も楽しみですよ！

ランペイジ　まぁ、アローナだろうがシウバだろうが、相手は誰でも構わねえよ。

——桜庭選手には一度敗れてますし、もちろんリベンジしたい気持もあるんですよね。

ランペイジ　そりゃあるさ！　サクラバサンは尊敬しているファイターだし、あのときの俺様は100％の力じゃなかったからな。

——そういえば、あの当時のジャクソンさんって、ホームレスっていう触れ込み……。

ランペイジ　（遮って）ホームレスって言うんじゃねえ!!　日本のマスコミはいっつも同じ質問しやがって！

——な、なぜホームレスって言っちゃダメなんですか？

ランペイジ　この野郎！　ホームレスって言うなって言ってんだろ！

——ヒャッ!?　もう言いません！

ランペイジ　だいたいなぁ、さっきから「ジャクソン」とか呼びやがるが、「ランペイジ」か「マスター・オブ・スラム」って言いやがれ!!

——りょ、了解です、ランペイジさん！　ちなみにその「マスター・オブ・スラム」というのは、ランペイジさんが得意の怪力スラムからきてるんですよね？

ランペイジ　その通り。ハイスクールでやってたレスリングでは、スラムの練習ばかりしてたもんさ。それと、俺様の伯父さんは建設会社をやってたんだが、その工事現場の手伝いをしてたんだよ。だから、こんな怪力になったんだ。

——レスリングと工事現場が怪力スラムを生みましたか（笑）。たしかレスリングはプロレスラーになるために始めたって聞いてますけど、いまでもチャレンジしたい気持はあるんですか？

ランペイジ　いや、掛け持ちでやるとタイトなスケジュールになるから、それはねえな。たとえば、ボブ・サップ。彼はMMA、プロレス、K−1といろいろやってスターになったよな。しかもCDまで出してる。♪サップ・タイ〜ムってな（笑）。

——お上手です（笑）。

ランペイジ　でも、ボブは忙しすぎてビールをゆっくり飲む暇もないだろう。俺様はゆっくりビールを飲みたいんだよ。

——とりあえず、いまはMMAに専念する、と。

ランペイジ　そういうこと。MMAをやり始めて俺様の人生は180度グルリと変わったし、光が射し込んできている。俺様は幼いころから貧しかったから、喰っていくためにいろんなことをやってきた。いまの環境で十分なんだよ。

——「いろんなこと」ですか。

ランペイジ　ブタ箱に入ったこともあるんだよ。だから、MMAにトライしてなかったら、ギャングにでもなってたんじゃねえかな。いまみたいに太陽の光が当たる場所は歩いてねえと思うよ……。

——プロレスラーへの憧れ、レスリングやMMAとの出会いが、ランペイジさんの人生を変えたわけですね。

ランペイジ　そうなるな。ストリートなら刑務所にブチ込まれる喧嘩もリングの上なら許される。これまでは〝肌が黒い〟ということだけで差別されてきたが、いまの俺様はポリスだって触ることはできねえ。UNCHAIN（鎖で繋ぎ止められない）なのさ。ミドル級GPでも、俺様を止めることはできない。優勝するのはこのランペイジ様なんだ！　ワカル!?（日本語で）。

——十分わかりました！（笑）。8月10日はエキサイティングな試合を期待しています！

【03年6月26日／都内某ホテルにて収録】

QINONTON "RAMPAGE" JACKSON ■1978年アメリカ生まれ。『キング・オブ・ケージ』で頭角を現し、『PRIDE』でMMAトップファイターに登り詰める。K—1ルールでシリル・アビディに2度も勝利した打撃は驚異の一言。「打」「投」のコレボでGP頂点を目指す

03年6月8日『PRIDE.26』■"ロシアの重戦車"ミーシャを迎え撃ったジャクソンは、ミーシャの関節技に苦しむ局面もあったが、パウンドからの打撃で完勝!!　とにかく殴り勝つのがジャクソンの真骨頂だ

03年3月16日『PRIDE.25』■次期『PRIDE』ミドル級挑戦者決定戦と位置づけられたランデルマン戦。骨と肉がきしむド迫力野獣対決は、ジャクソンの凶暴さがランデルマンを上回った!!　この試合後、シウバと大乱闘を展開！

02年9月29日『PRIDE.22』■あのボブチャンチンをノーザンライト・ボム気味に叩き落とし、パウンドではアバラを折り戦闘不能に追い込む！　「闘いたくない相手」としての評価を決定づける一戦となった

髙田統括本部長認定
「お前は男だ」
FILE 3

ヒカルド・アローナ

［ブラジリアン・トップチーム］

“真・寝技世界一”が PRIDE完全制圧宣言!!

RICARDO ARONA

俺の試合が眠いって？ ならばお望みどおりスリーパーで眠らせてやるよ。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／松本崇　designed by hisa (Two Three)

階級別、無差別、スーパーファイトと、『アブダビ・コンバット』を完全制圧した〝真・寝技世界一〟が、『PRIDEミドル級GP』制覇に乗り出した！　賛否両論あるが、その勝利至上主義の闘いぶりはトーナメントには絶対有利。ズバリ、優勝候補はこの男だ！

——今日は『PRIDEミドル級GP』の意気込みを伺いにきたわけですけど、その前に『アブダビ』（5月17日）での勝利おめでとうございます！ スーパーファイト、vsマーク・ケアー戦

アローナ　ありがとう！（ニッコリ）

——まずはそのマーク・ケアー戦の感想を聞かせて下さい。

アローナ　マーク・ケアーは凄く経験豊富なレスラーで、これまで『アブダビ』では一度も負けたことがないチャンピオンだったし、2年前にマリオさん（スペーヒー）が負けたこともあるから（『ADCC2001』のスーパーファイトでケアーはスペーヒーを破っている）絶対勝ちたい相手だったので、勝てて凄く嬉しいよ。

——でも、今回のケアーはオーバーウエートぎみだったり、体調が万全ではなかったようですけど、それは残念じゃなかったですか？

アローナ　いや、みんな彼のことをコンディションが悪いとか言ってるけど、普段より重い体重を背負いながら、30分以上闘い続けるスタミナと精神力を持っていたんだ。そんなヤツ他にいると思うかい？　さすがマーク・ケアーだと思ったよ。俺は彼と闘えたこと、そして勝てたことを誇りに思っているし、もし彼がベストな状態だったとしても、十分準備ができていたんで、勝つ自信はあるよ。

——これによって『アブダビ』では、階級別王者、無差別級王者、そしてスーパーファイト王者と無敗で頂点まで来たわけですけど、「もうこのルールでは負けない、自分が組技の世界一だ」という自負はありますか？

アローナ　もちろん自分がナンバー1であるという自負はあるし、とりあえず2005年までは、俺がベストなグラップラーであるという地位は揺るがないだろうね。それだけの練習を積んでるし、だからこそ自信もあるよ。

——その『アブダビ』が終わったあと体調を崩したそうですけど、どんな状態だったんですか？

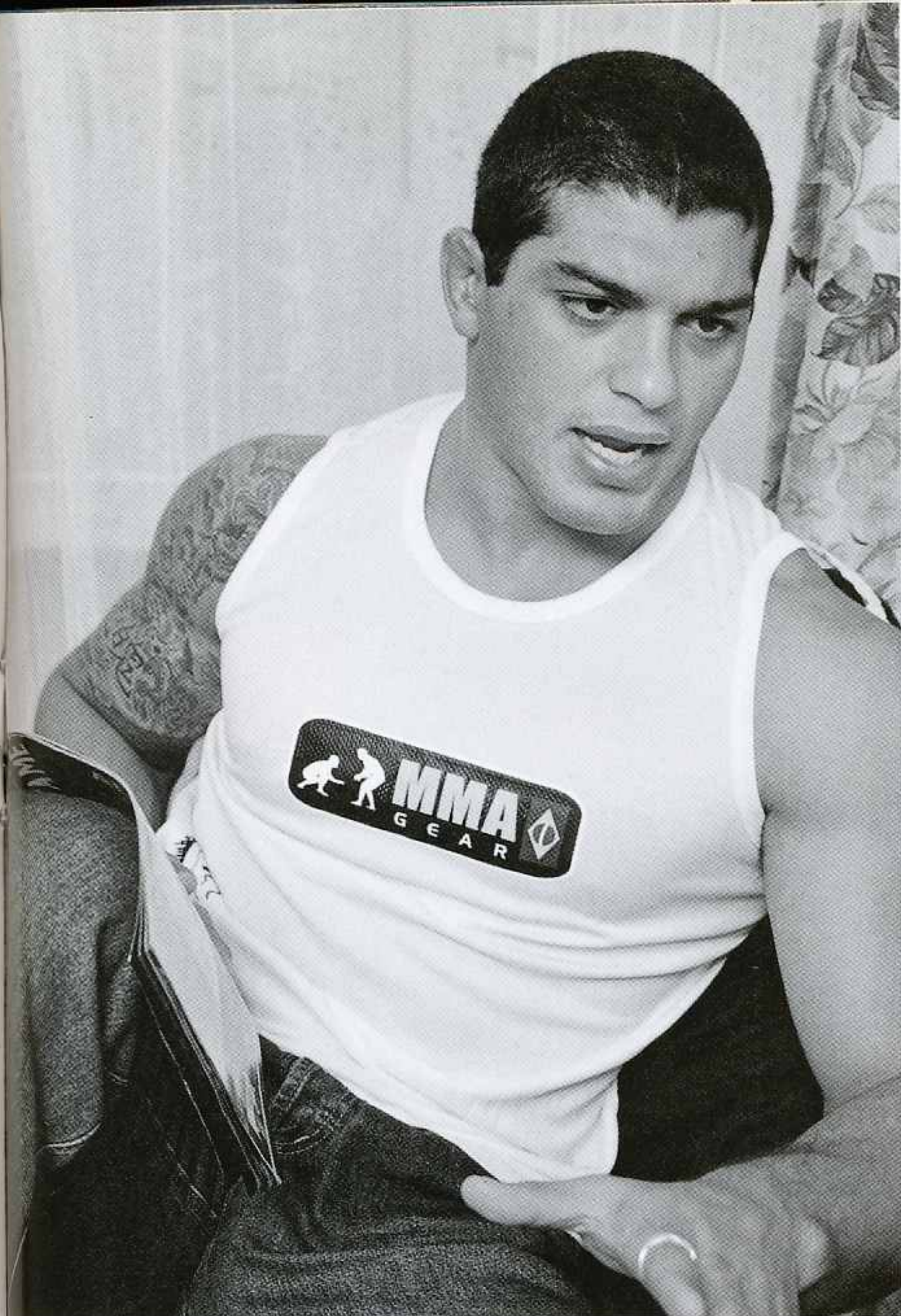
アローナ　『アブダビ』の大会中はホテルがマリオさんとツインの部屋だったんだけど、その時ちょうどマリオさんはインフルエンザにかかってて、ずっと同じ部屋にいたから結局伝染されて、『PRIDE』前に酷い体調になってしまったんだよ（苦笑）。

——あ、マリオさんのせいでしたか（笑）。でも、6月の『PRIDE』でアローナ選手と闘う予定だったアリスター・オーフレイムは、「アローナは前回は俺のことをビビって出てこなかったけど、また8月のグランプリでも、試合の1週間前になったら、『体調が悪い』なんて電話してくるんじゃないか？」と言っていたんですよ。それについて何か反論はありますか？

アローナ　まぁ、そんな風に言われることは慣れているし、そういう馬鹿なことを言うヤツもファイターの中には多いっていうのは分かってるから、どうってこともないんだけど、誰の体調が悪かったのか、そして誰が強いのかをリングでハッキリと証明したいね。口でどうこう言ってもしょうがない。

——では、アリスターも『PRIDEミドル級

PRIDEミドル級GP1回戦で舌戦の相手、ランペイジと激突!!

5月17〜18日に開催された『アブダビ・コンバット』では、「スーパーファイト戦」でマーク・ケアーを破り、文字通り、"リアル寝技世界一"に！

オクタゴンに対する不安はない 交渉次第ではUFCに出てもいい

GP』に参加しますけど、彼の実力についてはどのように評価していますか？

アローナ　彼はいいスタンディング・テクニックを持っているし、ある程度寝技もできるから、いいファイターだと思うよ。でも、彼は特別なファイターじゃない。多くのグッド・ファイターの中のひとりという感じだね。

——アリスターは、いまヨーロッパ系のファイターの中ではトップクラスに寝技が上手いと言われてますけど、アローナ選手から見るとまだまだですか？

アローナ　俺から見れば、彼は基本的な寝技しかないし、俺たちに近いレベルに追いつくのは、彼がこれから一生寝技を勉強しても無理だろうね（キッパリ）。

——一生かかっても無理ですか！

アローナ　立ち技にしたって、彼は背が高いからリーチも長くて恵まれた体つきをしているけど、彼の技自体によって驚かされることはひとつもないし、立ち技が得意な普通の選手だよ。まぁ、せいぜい頑張ってくれって感じかな。

——倍返しみたいに言いますねぇ（笑）。じゃあ、『ミドル級グランプリ』に出場する他の選手たちの印象を一人ずつ聞いていきたいんですけど、クイントン〝ランペイジ〟ジャクソンも「アローナの試合は見てると眠くなる。アイツはテイクダウンして上に乗っかるだけだ」という批判をしていますが、それについてはどうですか？

アローナ　どいつもこいつも口の減らないヤツばかりだな（笑）。まぁ、アイツに俺の試合を面白がられようが、つまらながられようが俺の知ったことではないけど、勝ち続けるためには、時にはそういう闘いもしなくてはならないということを覚えておくことだな。考えてみてくれよ？　俺が今日まで闘ってきた相手は、みんな打撃も寝技もよく知っていて、かつ守りの堅い相手ばかりだぜ。彼らに勝つにはある程度押さえ込んでから攻めなくてはならないのは当たり前だよ。

——確かに『ＰＲＩＤＥ』に来てから、ガイ・メッツァーにムリーロ・ニンジャ、そしてダン・ヘンダーソンですもんね（笑）。

アローナ　あと、ひとつジャクソンに言いたいのは、あまり「眠くなる」とか言っていると、俺との試合中にチョークで眠ることになるぜってことだな。だいたいジャクソンが闘ってきた相手はみんな寝技が下手な連中ばかりじゃないか。唯一、寝技が上手い相手はサクラバで、そのサクラバにはチョークを極められてしまった。これで寝技が上手い人間とジャクソンが闘ったらどうなるかわかるだろう？

——う〜ん、ごもっともって感じですね。では、ジャクソンのテクニックで注意すべき点は何かありますか？

アローナ　彼は凄く練習しているみたいだし、ボクシングもある程度うまいし、力も強い。でも、それといってスペシャルなものを持っているとは思わない。ヤツも普通の選手だよ。

——また普通ですか（笑）。では次に、ＵＦＣからチャック・リデルが参戦しますけど、彼はブラジリアン・トップチームのムリーロ・ブスタマンチをＫＯで破っています。アローナ選手ならこの相手をどう攻略しますか？

アローナ　チャックはムリーロさんを完璧な戦略でＫＯしたわけだけど、その試合のビデオを何度も何度も研究して、実際に闘ったムリーロさんの助言ももらって、最高の戦略で勝負したいと思う。

——チャック・リデルは、タックルを切るのが凄く上手いですけど、彼からテイクダウンを奪う自信はありますか？

アローナ　闘ってみなければわからないけど、もし彼がよいディフェンスをしているなら、俺はそれ以上のテクニックで倒すだけさ。大丈夫、心配してないよ。俺はダン・ヘンダーソンだって何度もテイクダウンした男だからね。

——ＵＦＣ社長のダナ・ホワイトは「今回、チャック・リデルを『ＰＲＩＤＥ』に出すんだから、『ＰＲＩＤＥ』の選手もＵＦＣに出てくるべきだ」と言ってるんですけど、アローナ選手は

ジャクソン、アリスターらによる“アローナ批判”を聞き露骨に不機嫌になるアローナ。その実力は誰もが認めるだけに、今大会の闘いぶりは正念場だ。

“真・寝技最強の男”その恐るべき戦歴 ARONA's BOUT HISTORY

00年３月１〜３日■『アブダビ』に初出場したアローナは、金原弘光、ティト・オーティズ、ジェフ・モンソンらビッグネームを次々と破り見事優勝。写真のバルカロフ戦では、乱闘騒ぎになりながらも一歩も引かない気の強さも見せた。

00年12月22日、大阪■リングス第２回『ＫＯＫ』１回戦で、今をときめくＥ・ヒョードルと対戦。本戦はポジショニングでやや優位に立つも、延長戦ではスタミナ切れでヒョードルの打撃の餌食となり判定負け。これがプロ唯一の敗戦だ。

01年４月11〜13日■２度目の出場となった『アブダビ』で大活躍。サウロ・ヒベイロ、ビクトー・ベウフォート、ジアン・マチャド、ジョン・ユラフ・エイネモ、ヒカルド・アルメイダらを全て破り、２階級制覇の偉業を成し遂げた。

UFCに出る気はありませんか？

アローナ　出てみたい気持ちはあるよ。ちゃんと交渉の席を設けてくれて、公式なオファーをもらえたら可能性がないことはない。ただ、俺は『PRIDE』が気に入ってるから、『PRIDE』が出場を許せばの話だけどね。

――アローナ選手は押さえ込みが上手いんで、もしかしたらリングでの闘いよりオクタゴンの方が向いてる気もするんですけど。

アローナ　どちらが向いているかはわからないけど、オクタゴンに対する不安はないよ。どちらにしても今は『PRIDEミドル級GP』で頭がいっぱいだから、それが終わってからの話だね。

――わかりました。続いて吉田秀彦選手についてですが、やはり柔術家として、柔道金メダリストである吉田選手を意識する部分はありますか？

アローナ　柔術vs柔道みたいな対抗意識は俺にはないよ。でも、自分のプライドに賭けて闘う気持ちは十分ある。

――ホイス・グレイシーがああいう結果になってしまいましたけど、アローナ選手が闘った場合、吉田選手の道衣は不利になりますか、有利になりますか？

アローナ　オレ自身は道衣を着てバーリ・トゥードを闘うというのは自分が不利になると思う。でもヨシダは道衣を着ることで、自分の得意な技を仕掛けられるようだから、彼が着たければ着ればいいいんじゃないか。ただし、ブラジリアン・トップチームの選手相手に道衣を着てバーリ・トゥードに挑むのは自殺行為であるということは忠告しておくよ。

――おぉ～、自信満々ですねぇ。では、最後にチャンピオンのヴァンダレイ・シウバ。今回のトーナメントは、これまでなかなか実現しなかったシウバ戦が実現するチャンスだと思いますけど、やっぱりシウバというのは意識する相手ですか？

昔は桜庭と闘うのが目標だったが
もう興味はない。今は吉田だ！

アローナ　ヤツとは以前、個人的な問題があったんだが、それ以来一切話もしていないし、別に友達でもない。でも、リングに立つからにはお互いプロだから、そういった個人的な問題は、リング上で解決するのが一番いいだろう。ヴァンダレイはもう逃げられないよ。

――やはりそうなると、一番闘いたいのはシウバになりますか？

アローナ　いや、もちろんヴァンダレイとも闘いたいけど、日本人と闘ってみたいんだ。俺は日本でずいぶんたくさん試合をしてきたけど、日本人と闘ったのはリングスでカネハラと闘った1回だけだからね。もちろん『PRIDE』では一度もない。

――日本人と言うと、桜庭選手、吉田選手、田村選手がいますけど、誰と一番闘ってみたいですか？

アローナ　昔はサクラバと闘うことが目標だったんだ。でも、ここ1～2年、彼はあまりいい結果が出てないから、いまはもうあまり興味がないね。その代わり、サクラバに対して持っていた興味をいまはヨシダに持っている。だからぜひヨシダと闘ってみたいよ。そして次にヴァンダレイと闘ってヤツのベルトを奪いたい。そのあと決勝で、グランプリのベルトを勝ち取れたら最高だね。

――そんな皮算用まで出来ていますか（笑）。では、優勝するのに最も強敵となりそうなのは誰ですか？

アローナ　今回のトーナメントで、誰がチャンピオンになるのかを予想するのは凄く難しい。ほとんどの選手が同じように高いレベルに達しているからね。ただ、それだけにもの凄いモチベーションになっているよ。とにかく厳しいトレーニングを積んで、グランプリの栄冠を勝ち取りたいね。

――最後に、これはファンの望みでもあるんですけど、アローナ選手の寝技の実力は十分わかっているからこそ、勝つだけでなく一本勝ちを狙ってほしいんですよ。ノゲイラ選手との人気の差はそこだと思います。

アローナ　ファンが一本勝ちを望んでいるのは俺もわかっているよ。でも、これだけは理解してほしい。いままで俺は『PRIDE』で実績を作らなければならない立場だった。ダン・ヘンダーソンやムリーロ・ニンジャといった実力者を相手にしても決して負けることは許されなかったんだ。だからああいった闘い方になったけれど、もう俺は自分の実力を証明する段階じゃない。そしていまは練習内容も、とにかく一本を極めにいく内容に変えたので、グランプリでは生まれ変わった俺の姿を楽しみにしていてくれ！

【03年6月26日／都内・某ホテルにて収録】

Ricardo Arona■1978年7月17日、ブラジル、リオ出身。『アブダビ・コンバット』では、2000年に98kg以下級、2001年には98kg以下級と無差別級で優勝。2003年はスーパーファイトでの勝利を飾った、"リアル寝技世界一"。2001年にはリングス世界ミドル級王者となり、『PRIDE』参戦後は、メッツアー、ニンジャ、ヘンダーソンという実力派相手に3連勝。リングス時代にあのヒョードルに判定負けを喫した以外はプロ全勝を誇る。今回の『PRIDEミドル級GP』でも、アローナの優勝を推す関係者は多い。180cm、92kg。

02年11月24日『PRIDE.23』■因縁のシュートボクセと遂に激突。異常な体力を誇り、ある意味シウバより厄介な相手であるムリーロ・ニンジャ相手に消耗戦を挑んでの判定勝ち。しかし、地味な内容にドームは静まりかえった。

02年4月28日『PRIDE.20』■五輪レスラーであるヘンダーソンを何度もテイクダウンに成功し、『PRIDE』屈指の技術戦を制す。しかし、実力者同士が故の地味な攻防に終始したため、客席は盛り上がらず。

01年9月24日『PRIDE.16』■リングス世界ミドル級王者となった翌月、『PRIDE』に電撃参戦。難攻不落と呼ばれるガイ・メッツアーの守りの堅さに大苦戦を強いられるも、20分間攻め続け判定勝ち。

01年8月11日、有明■リングス世界ミドル級王座決定トーナメントに参加し、金原弘光、ジェレミー・ホーン、グスタボ・シムを破り優勝。

ALISTAIR OVEREEM

チャック・リデル？ UFCと「PRIDE」、どっちが強いか見せつけてやるよ

聞き手／松澤チョロ　撮影／松本崇　designed by hisa (Two Three)

現在10連勝中のオランダの若き荒くれ者が『PRIDEミドル級GP』に登場！ 他の選手と比べると知名度では若干落ちるものの、その勢いと実力は本物。 オランダの〝男の中の男〟がトレードマークのハンマー片手にズバリ優勝宣言!!

アリスター　（取材場所へトレードマークの大きなハンマーを持って登場）今日はよろしく！

――こちらこそ、よろしくお願いします。早速ですが、昨日の『PRIDE』の会見や、その後の『DEEP』の会場へも、ハンマーを持ってきてましたけど、やっぱり、それはイメージ作りというか、プロ意識からなんですか？

アリスター　もちろんさ（ニコッ）。どこへ行くにも、常に肌身離さず持っていってるんだ。

――どこへ行くにもですか？（笑）。

アリスター　YES！　買い物に行くときもレストランに行くときも常に持っているよ。

――デ、デートしてるときもですか？（笑）。

アリスター　そうだよ。まあ、そういうときはポケットにしまっておくけどね（笑）。

――小さくもなるんですか（笑）。

アリスター　そう。ときどき縮むんだよ（笑）。

――この間、『PRIDE26』の試合後には、ちっちゃいハンマーを滑川選手にプレゼントしてましたけど、あれはたくさんあるんですか？

アリスター　YES！　今度から、あのミニハンマーを売り出そうと思ってるんだ。ファンのみんなもハンマーを持って応援してほしいね。

――ちなみに、そのハンマーにはどんな意味があるんですか？

アリスター　このハンマーには、相手をペッシャンコに叩き潰すっていう意味があるんだ。それも10分、20分かけて試合をするんじゃなくて、短時間で相手を叩き潰すってこと。

――常に秒殺を狙っていると？

アリスター　そうだね。速攻で勝つっていうのは力と勢いがないとできないからね。このハンマーと同じようにオレは力強いってことだよ。言ってみれば、オレの守り神みたいなもんさ。

――そうですか。でも、なんかで読んだ記憶があるんですけど、一回アリスターさんが過剰防衛とかで捕まったときに刑務所に入れられて、それに頭にきて刑務所をブチ壊すって意味で、そのハンマーを持ってるんじゃないかって（笑）。

アリスター　ハッハッハッ！　それもいいけど、ちょっと違うね。大体、刑務所で、こんなハンマー持ってたら、すぐ没収されちゃうよ（笑）。

――そりゃそうですよね（笑）。

アリスター　もうひとつ言えば、このハンマーは『PRIDE』への道を切り開くためでもあるんだ。まず、このハンマーを使って『PRIDE』ミドル級のチャンピオンへの道を切り開き、その後は『PRIDE』でヘビー級への道を切り開き、さらには、ヘビー級でもチャンピオンへの道を切り開きたいと思ってるんだ。

――『PRIDE』ヘビー級チャンピオン!? すでにそこまで考えてるんですか（笑）。

アリスター　そう！　まあ、そこまでたどり着けたら、あとは、おとなしく寝るだけだよ（笑）。グ～グ～グ～（と、突然寝たふりを始める）。

――お、起きてください！（笑）。

アリスター　オッケーオッケー（笑）。でも、ホントにそれが自分の目標なんだ。そのためには、

6月25日に開催された『PRIDEミドル級GP』会見終了後、出場メンバーは後楽園ホールで行われていた『DEEP』を観戦。アリスターは会場にハンマーを持って登場！

連戦連勝のダッチサイクロンがリデルを飲み込むのか!?

高田統括本部長認定
「お前は男だ」
FILE 4

AO

アリスター・オーフレイム

［ゴールデン・グローリー］

オランダの若き荒くれ者が
ミドル級GP、全試合KO宣言!!

とにかく全ての試合で短時間でのノックアウトを狙っていくよ！

まず今度のトーナメントで優勝しないと。

――自信は、かなりあるんですね？

アリスター　ＹＥＳ！　とにかく全ての試合で短時間でのノックアウトを狙っていくよ。

――全試合ノックアウト！　ちなみにトーナメント参戦選手の中で一番意識するのは誰ですか？

アリスター　（『紙プロＮＯ63』のトーナメント参戦予定選手を見ながら）そうだなぁ……別に相手は誰でもかまわないんだけど、あえて誰か選ばないといけないとしたら、コイツだね（と言ってチャック・リデルの写真を指さす）。

――リデルですか!?　それはなにか理由でもあるんですか？

アリスター　リデルはＵＦＣからやってきたということで大口を叩いてるみたいなんで、ブッ潰してやろうと思ってるんだ。『ＰＲＩＤＥ』のリングは、そんなに甘くないってことを証明したいね。

――アリスターさんは、やっぱり『ＰＲＩＤＥ』に対するこだわりは、かなり強いんですか？

アリスター　そうだね。あくまでも『ＰＲＩＤＥ』で闘うということが重要なんだ。対戦相手には別にこだわりはないけど、『ＰＲＩＤＥ』を制することが一番重要だと思っているから。

――リデル選手とはスタイル的には割と近いと思うんですが、実際闘うことを想定しても負ける要素は何一つないと？

アリスター　ないね！（キッパリ）。短時間でノックアウトできると思うよ。ＵＦＣと『ＰＲＩＤＥ』どっちが強いかを見せつけてやりたいね。

――自信満々ですね。では、前回の『ＰＲＩＤＥ26』で対戦が流れてしまったアローナ選手に対しては、どういった印象をお持ちですか？

アリスター　アローナ？　サブミッションで一本勝ちを狙うだけさ。

――えっ、アローナ選手にサブミッションで一本を狙うんですか？

アリスター　もちろん、ノックアウトを狙いたいところだけど、サブミッションでも勝てると思ってるよ。

――ホント、凄い自信ですね！

アリスター　前回試合が流れたのはオレのことを、怖がっていたところがあったと思ってるしね。今回は、どうなるかわからないけど、もし一回戦でオレとの試合が組まれたら、試合直前にブラジルから電話があるんじゃない？（笑）。

――その電話は、どういった内容なんですかね？

アリスター　「また病気になったんで出れない」って。ハッハッハッハッ！

――アハハハハ！　そういえば、ランペイジ選手は「アローナの試合は見てると眠くなる」って言ってましたけど（笑）。

アリスター　（ハンマーで床を叩き）全く同感だね！（笑）。

――同感ですか（笑）。

アリスター　たしかにアローナは強い選手だとは思うけど、オレも試合自体はつまらないと思うからね。だってテイクダウンするのはいいけど、上になってもたいした動きも見せないでジーッとしてる試合が多いだろ？　そりゃ眠くなるのも無理ないよ（笑）。

――そうですか（笑）。

アリスター　ランペイジやオレみたいに、スラムしたりパンチやグラウンドでもアグレッシブな試合をする方が『ＰＲＩＤＥ』のファンは面白いと思うんじゃない？

――そうかもしれません。アリスターさんは、いまはどういった選手と練習しているんですか？

アリスター　ゴールデン・グローリーのメンバーとは誰とでもやっているよ。セーム・シュルト、ギルバート・アイブル、ヒース・ヒーリング、それとアニキ（ヴァレンタイン・オーフレイム）、打撃系ではＫ―１に出てるステファン・レコ、あとはロシアやブラジルから来てるファイターもいるしね。

――蒼々たるメンバーですねぇ。

アリスター　このメンバーと毎日ハードなトレーニングをして強くならない方がおかしいよ（笑）。

――それはそうですよね（笑）。

マーク（ゴールデン・グローリートレーナー）　ウチには様々なタイプのファイターが揃っているからね。そういったファイターたちとトレーニングをすることによって、いろんなスキルを身に付けることができるんだ。いまはミドル級ＧＰに出場が決まったアリスターをよりコンプリートなファイターにするために、総合はもちろん、打撃系、寝技系のトップクラスのファイターとハードなトレーニングをさせているんだ。

――ここ最近は、お兄さんのヴァレンタイン選手は敗戦が続いてますけど、アリスター選手との違いはどういうところになるんですかね？

アリスター　いや、アニキが結果を出せていないのは、プライベートでやることが多すぎるのが原因だと思うよ。

――それは、どういうことですか？

アリスター　ここ最近、家を建てたり、子供のことでいろいろあったり、他にもプライベートでやらなきゃいけないことがたくさんあって凄く忙しいんだよ。でも自分の経験上、アニキのアドバイスはオレにとって凄く役に立ってるんだ。

左がゴールデン・グローリー、トレーナーのマークさん。マークさんによると、日本へは、ご無沙汰気味のギルバート・アイブルは、現在、首と足首を負傷中とのことだが、復活に向け熱心に柔術特訓を積んでいる最中だという。

“デモリッションマン”の破竹の勢いを見よ!! ALISTAIR's BOUT HISTORY

99年10月28日、代々木第二■リングスマットに初来日となったアリスターは、後に『PRIDE』に参戦するコーチキン・ユーリーと対戦。まだ10代だったアリスターは判定で敗戦、翌年5月にロシアで再戦するも、この時も判定で敗れている。

00年6月15日、代々木第二■当初、ヨープ・カステルvsボビー・ホフマン戦の予定が、カステルがリングス・オランダ大会で負傷したため、急遽出場。体重差をもろともせず攻め込んだアリスターだったが、最後はホフマンの右フックでKO負け!

01年2月24日、両国国技館■リングス初出場のシドニーオリンピック銅メダルリストのボクサー、ウラジミール・チャントゥーリア相手に、アリスターはパンチを一発も出させず、タックルからグラウンドに持ち込むと、あっさり裸絞めで秒殺!!

第二■順番
ーチキン戦
ったアリス
で秒殺!!

将来的にはヘビー級で闘うつもりさ。その前にミドル級GPをいただくよ！

マーク　ヴァレンタインについて、ちょっといいかな？

――はい。

マーク　どんなファイターにもスランプというのは必ずやってくると思う。それで闘いをやめてしまうファイターも多いんだけど、ただヴァレンタインは絶対に諦めずに、とにかく闘い続けたいっていうファイターなんだ。ヴァレンタインは世界での経験も豊富だし、寝技にしても立ち技にしても爆発的な力を持ったファイターなんで、もう少し時間をかけて、精神的にも元に戻りさえすれば、『ＰＲＩＤＥ』でも充分活躍できるファイターだし、ゆくゆくは『ＰＲＩＤＥ』を制する日も来るってことを約束するよ。それまで、もう少しだけ待ってほしいね。

――わかりました。オランダの選手というとバウンサーとかやってる選手が多いって聞きますけど、アリスター選手は現在はファイトマネーだけで生活ができているんですか？

マーク　バウンサーって例えば誰のことを言ってるんだい？

――リングスで活躍していたディック・フライとかハンス・ナイマンはそうでしたよね。

マーク　彼らはオールドファイターだろ（苦笑）。ゴールデン・グローリーには24歳～26歳ぐらいの若い選手しかいないし、本当に強いファイターを育てるには兼業なんて以ての外さ。フルタイムで練習しないと強いファイターにはなれないから、ウチでは絶対に兼業はさせてないよ。

アリスター　いまはファイターとして問題もなく生活できてるよ。でもオレも18歳の頃、生活のためにバウンサーをやったことはあるんだ。割のいい仕事だったから始めたんだけど、ハッキリ言って最悪だったね。

――最悪でしたか（笑）。何か嫌な思い出でもあるんですか？

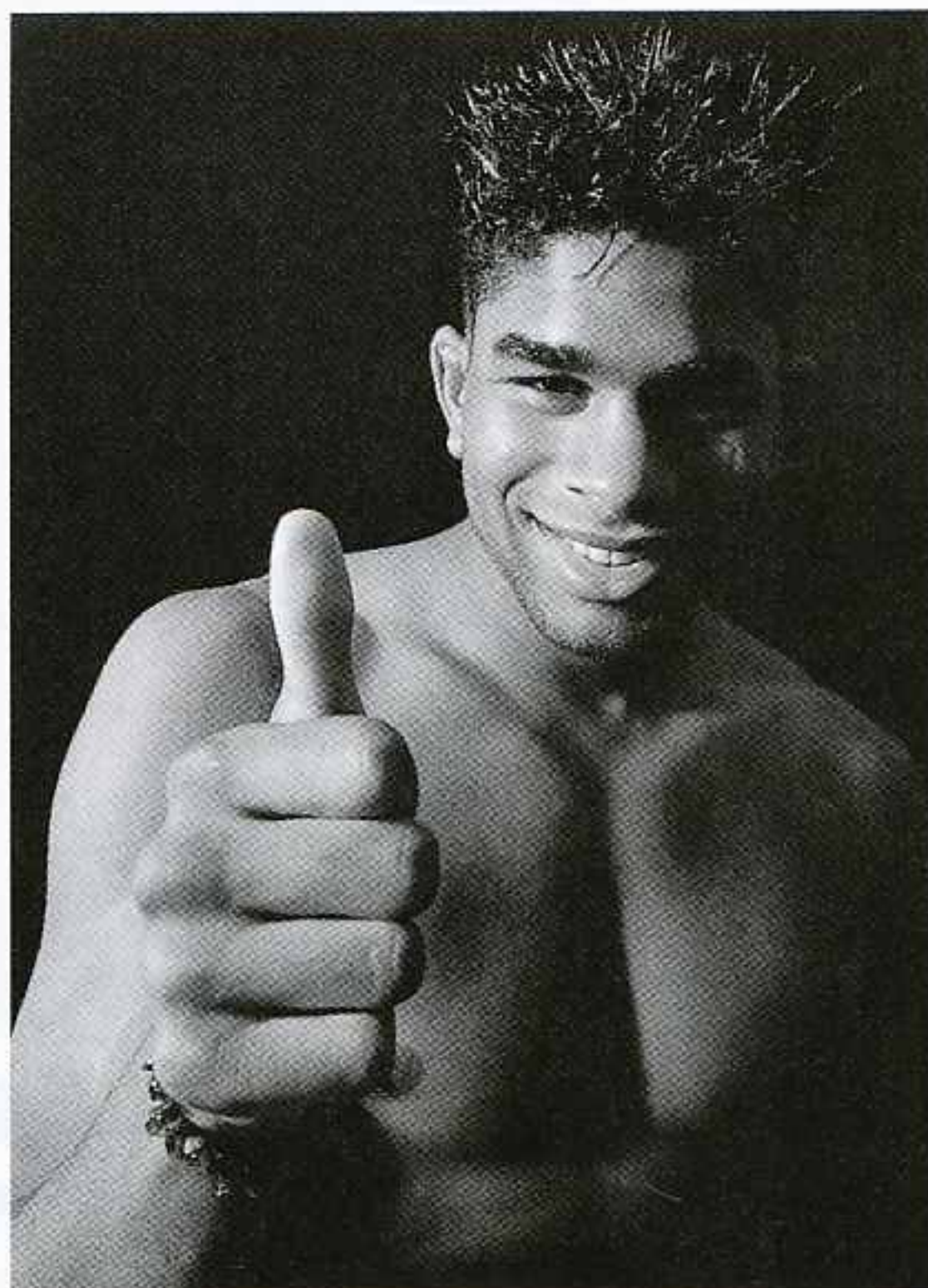
アリスター　嫌な思い出っていうか、バウンサーっていうのは夜中から朝まで仕事をしなきゃいけないんでプロとしてのトレーニングのサイクルが狂ってしまうんだよ。

マーク　それはそうと、残りのＸは誰になりそうなんだ？（ちなみに取材時には田村の出場は、まだ発表されていない）

――田村選手かハイアン選手の可能性が高いって言われてますけど。

マーク　私の予想はハイアンだね。

――それは何か理由があるんですか？

マーク　なぜタムラじゃないかっていうと、日本及び『ＰＲＩＤＥ』を代表するファイターとして、すでにサクラバとヨシダの出場が決まっているからだよ。この2人はタカダさんが言ってるとおり「真の男」であり「真の戦士」だとオレも思うからね（笑）。

Alistair Overeem■1980年5月17日、オランダ・ユトレヒト出身。日本ではリングスでデビューしたヴァレンタイン・オーフレイムの実弟。ここ数年はオランダ、日本をまたに掛け破竹の10連勝中！ もちろん『PRIDE』でも負けなしでミドル級GPに挑む。195cm、95kg。

――アハハハ！　アリスターさんはどうなんでしょうか？

マーク　アリスターも間違いなく「男の中の男」だよ（笑）。たしかにタムラはいいファイターだけど、サクラバとヨシダの2人で十分、日本の強さは伝わると思うからね。

――日本人選手2人の評価は高いんですね。

マーク　その2人に限らずゴールデン・グローリーではタムラや、もちろんタカダさんもそうだけど、日本のファイターの予期せぬ動きや闘いからインスピレーションを感じたり感銘を受けることが多いんだよ。

――そうでしたか。では最後に、あらためて優勝宣言でもしてもらいましょうか！

マーク　もう一言いいかな？

――はい、なんでしょうか？（笑）。

マーク　今回、アリスターは体重をコントロールしなくていいので、とにかくテクニックを中心にトレーニングできているし、エントリーされたファイターの中で最も背が高いし、リーチも長い。それになにより一番若いから（笑）。客観的に見ても一番有利だと思うよ。

――たしかに一番勢いを感じますよ。先ほども言ってましたけど、ミドル級を制したら、その後はヘビー級王者を目指していくわけですね。

マーク　いままでヘビー級で闘ってきて、今回初めて彼本来の階級でやれるってだけで、ヘビー級で闘うことに関しては何も問題はないよ。

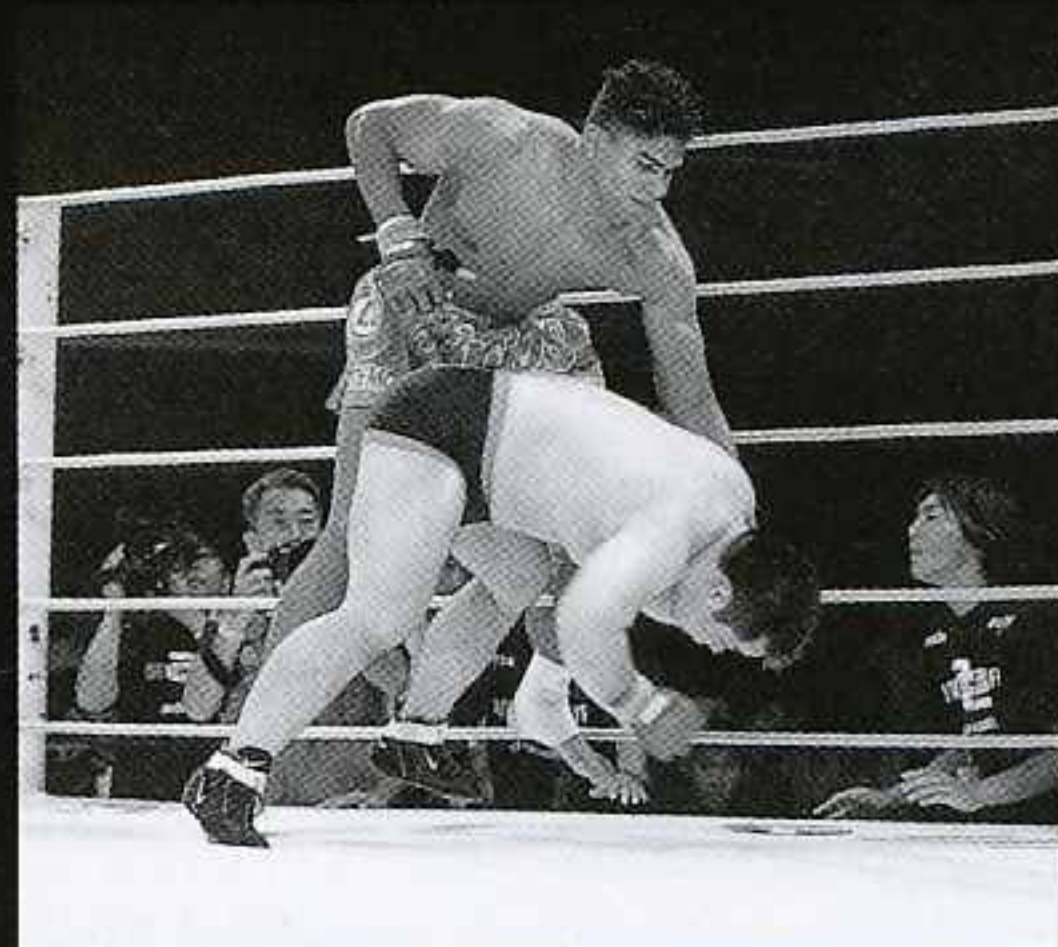
アリスター　そういうことさ！　まずはその前に、ミドル級のＧＰをいただくよ。ブンッ!!（突然ハンマーを振り下ろす）

――うわっ！　他の選手をペッシャンコにして優勝狙ってください！

アリスター　（日本語で）アリガトゴザイマス！　ガンバリマ～ス!!

【03年6月26日／都内・某ホテルにて収録】

03年6月8日、横浜アリーナ■『PRIDE.26』では当初、ヒカルド・アローナとの対戦が決まっていたが、風邪のためアローナは欠場となり、代わってミルコの鬼教官マイク“バットマン”ベンチッチと対戦。アリスターは危なげなく打撃でKO!!

02年12月23日、マリンメッセ福岡■念願の『PRIDE』マット初参戦となったアリスター。同じく『PRIDE』初参戦のヴォルク・ハンの愛弟子ヴォルク・アターエフをパンチとヒザ蹴りで追い込みTKO勝利!!

02年7月20日、ディファ有明■久々の日本登場となったアリスターが『PRIDE』の登竜門的大会『THE BEST』に出場。高田道場の今村雄介と対戦したアリスターは試合開始早々から打撃の猛攻を浴びせ44秒でKO勝ち!!

00年4月20日、代々木第二■順番が前後してしまうが、コーチキン戦に続きリングス参戦となったアリスターは滑川康仁を腕十字で秒殺!!

髙田統括本部長認定
「お前は男だ」
FILE 5

チャック・リデル

［ピット・ファイト・チーム］

ティト・オーティスが恐れる
UFC NO.1ストライカー

オクタゴンからの刺客が『PRIDEミドル級GP』に送り込まれた！ UFCライトヘビー級の猛者、チャック・リデルの登場である。リデルは先日、ランディ・クゥートアーに敗れはしたが、その実力は一級品！ インタビューでは、圧倒的な自信が豪快な言葉となって吐き出された!!

――今日はUFCの代表として『PRIDE』ミドル級GPに出場されるリデルさんに、トーナメントに向けての意気込みを伺いに来ました！

リデル　うむ。よろしくお願いするよ。

ダナ・ホワイトUFC代表　私も同席させてもらおう。チャックは寡黙な男だから、私の方からいろいろ補足した方が都合が良いだろう。

――パコージン（ロシアン・トップチーム総監督）みたいなこと言いますね（笑）。とりあえず、リデルさんにトーナメントにエントリーされた感想をお聞きしたいのですが。

リデル　とても光栄なことだよ。なんといってもこのウエイトクラスで一番強いことを証明する絶好のチャンスだからな。ワクワクして試合が待ちきれないぜ！

――すでにアドレナリンが出まくりですか！

ダナ　いや、私も興奮してるよ！

――あ、代表もですか（笑）。

ダナ　それはそうだよ。リングのファイトはチャックに任せるが、私はリングサイドで榊原サン（DSE代表取締役）とビックマネーを賭けての勝負をするのだからね。

――それって代表がアメリカのラジオで「リデルvsシウバをやるとしたら、私はリデルの勝ちに500万ドルを賭ける！」と宣言していた賭けのことですか？

ダナ　ザッツ・ライト!!　とってもエキサイティングなアイデアだろ？

――いや、冗談にしか聞こえないですよ！

ダナ　まぁ、賭け金は500万ドルじゃなくて、25万ドルにしようと思ってるんだけどね（笑）。

――それでも十分信じがたい話です（笑）。

ダナ　いいや、必ずや実現するよ！　榊原サンともちゃんと約束したしね（キッパリ）。

――え〜っ、本当ですか!?　ズバリ言って、まったく信用できないんですけど（笑）。

ダナ　本当のことさ。8月10日にお互いが25万ドルずつ持ち寄って、勝者が50万ドル持ち帰る。カードはバツ。キャッシュで25万ドルだ！

――本当かどうかはともかく、そこまで言うんだから、代表はリデルさんの実力にかなり自信があるんですよね？

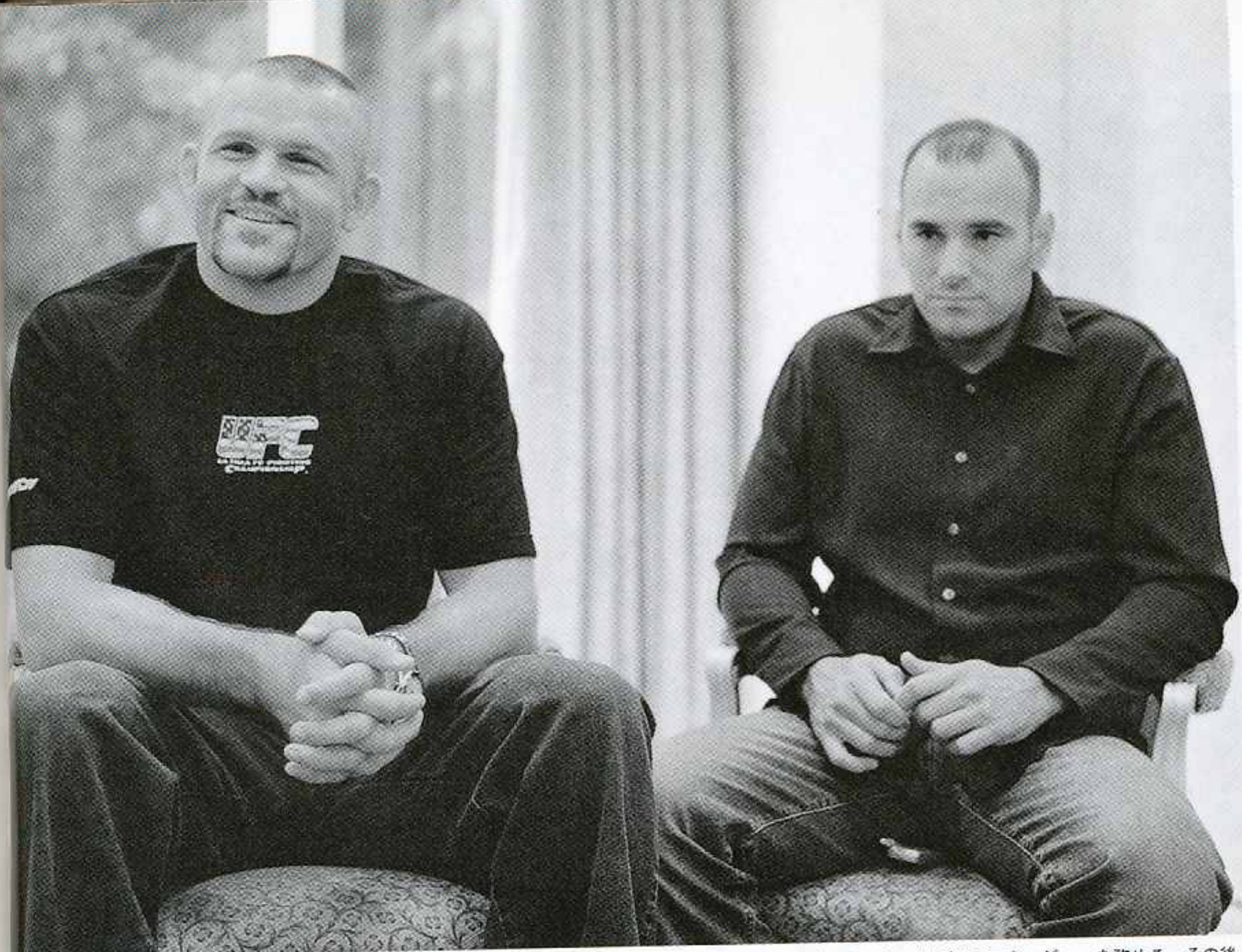
ダナ　私はチャックの勝利を信じて疑わないよ。チャックとシウバが闘ったら、リングにキスするの

リデルの『PRIDE』参戦は、01年5月27日『PRIDE.14』ガイ・メッツアー戦以来で約2年振りになる。前回は豪快なKO勝利を奪っているが、今回はどうなる!?

CHUCK LIDDEL

マイナー(PRIDE)リーガーがメジャー(UFC)リーガーに勝てるわけがない

［ダナ・ホワイト・UFC代表］

一回戦はアリスターと激突!!
ハイスパートな打撃戦は必至だ!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／松本崇　designed by hisa（Two Three）

タフな相手を揃ったが、UFCの方がハイレベルだ!!［リデル］

はシウバの方だ。

――リデルさんはどう思ってるんですか？

リデル　シウバはタフなファイターだが、勝つのは俺だ。まったく問題ないね。

――6・6UFCではランディ・クゥートアーにKOされちゃいましたけど、コンディションに問題はないんですか？

リデル　極めて良好だ。ランディの試合のあとも、オフも取らずにトレーニングしていたぐらいだからな。

――一回戦の組み合わせはまだ発表されてないですけど（後日、アリスター戦決定）、一番闘いたいのはシウバになるんですか？

リデル　いや、誰でもいいけど、グレイシー枠からヘンゾとハイアンが出るらしいじゃないか？

――グレイシーの枠自体がなくなる可能性もありますけど、有力候補になってますね。

リデル　グレイシーが出るのであれば、ぜひ闘いたい。ただ、俺はヘンゾを友達として大好きなんだ。ヘンゾはナイスガイだからな。

――ヘンゾを悪く言う関係者はいないですよ。アブダビ王子もお気に入りですし。

リデル　逆にハイアンは口の減らないクレイジーベイビーだろ？

――ハイアンは良く言う関係者はいないですよ。イズマイウも嫌ってますし（笑）。

リデル　やるんだったらハイアンだ。あの生意気な口を俺のパンチで黙らせる！

――なるほど（笑）。他のエントリーメンバーの印象はありますか？

リデル　タフなファイターを揃えたことは認める。しかし、だ。すべてにおいてUFCファイターの方がハイレベルだな。

――でも、『PRIDE』のファイターはリデルさんとは逆のことを言ってますよ。「UFCより『PRIDE』の方が上だ」って。

ダナ　（鼻で笑って）チャックがガイ・メッツアーと闘った『PRIDE．14』のときも、同じようなことを言われたもんだよ。「メッツアーの方がリデルより強い」と。なぁ、チャック？

リデル　ああ、そうだったな。

ダナ　だが、結果はチャックがメッツアーをノックアウトした。きたる一回戦の8月10日、そして決勝戦の11月9日も、『PRIDE．14』と同じ歴史を繰り返すことになる。つまり、チャックからすれば、今回のミドル級GPはガイ・メッツアーだらけってことだ。そうだろ、チャック？（笑）。

リデル　ガハハハ！　メッツアーだらけだ！

――いやぁ、言いますねぇ（笑）。アリスターなんかは「大口を叩いてる」と言ってますよ。

リデル　それこそ大口だぜ！

ダナ　そこまで私が言い切れるのは、チャックがUFCで一番信頼できるファイターだからなんだよ。チャックはいつ何時、誰とでも闘うし、ポテンシャル以外の面でも優秀なファイターなんだ。私はMMA（総合格闘技）のビジネスを始めて4年が経つが、「俺こそが真のファイターだ！」と訴える選手は腐るほどいたよ。しかし、裏の動機は「有名になりたい」「映画俳優になりたい」「金が欲しい」とか、純粋な動機が存在しないことに気付いたんだ。

――大抵のファイターはそんな目標が最終設定になっちゃいますよね。

ダナ　しかし、このチャック・リデルは違う。チャックはファイトすることが純粋に好きだし、たとえファイトマネーがなくても、強い選手がいれば自宅の裏庭でファイトすることができる。彼ほどメンタリティが強い男は見たことがないんだ。チャックこそが「男の中の男」なんだよ！

――リデルさんを始め、UFCのファイターの実力は我々も理解していますけど、興行の成熟度はどうでしょうか？　イベントのクオリティも『PRIDE』より上ですか？

ダナ　当たり前じゃないか！　ベースボールを比喩に使うなら、UFCはメジャーリーグ。『PRIDE』は残念ながら……マイナーリーグなんだよなぁ。

――あ、『PRIDE』はマイナーリーグでしたか（笑）。

左がパコージンばりに口を挟むダナ・ホワイト代表。ボクシングビジネスに携わったのち、ティト、リデルのマネージャーを務める。その後、UFCを買収。ズッファ社の代表となる。

鉄壁のメッツアーを葬った脅威の打撃!! LIDDEL's BOUT REVIEW

PRIDE.14　○チャック・リデル［2R 21秒 KO］ガイ・メッツアー●

会場＆映像でご覧になられた読者も多いと思うが、とにかくショッキングだったKOシーン!!　倒れ込んだメッツアーの足が不自然な角度で折り曲がったのだ。ミドルGPで、『PRIDE』ファイターたちはメッツアーの二の舞になるのか……!?

テイクダウンされない強みを持つリデルは、VTでは理想的なストライカーといえる。ランディには敗れたが、ババル、ランデルマン、ビクトーを敗った能力は伊達じゃないのだ

“膠着大王”から脱却しつつあったメッツアーと休む間もない殴り合い!! テクニックではメッツアーに分があったが、破壊力ではリデルがリード。リデルの重い打撃がメッツアーに襲いかかったのだ

UFCが挑戦するんじゃない 我々が受けてやるんだよ［ダナ］

ダナ　知らなかったのかい？　だったら、もう一度、言おう！　残念だけど、『PRIDE』はマイナーリーグ!!　マイナーリーガーがメジャーリーガーに勝てるわけがない！　本当に残念な話なんだけどねぇ。

――いや、まったく残念そうに聞こえませんけど（笑）。

ダナ　メジャーリーグに昇格するために、なにやら一生懸命やってるなぁとは思うけどね（笑）。きっと榊原サンはメジャーリーグへの憧れがあるから宣戦布告したり、ファイターたちもジェラシーがあるから悪口言ってるんだろうな。チャック、キミもそう思うだろ？（笑）。

リデル　ガハハハ！　嫉妬してるに違いない！

――気持ちいいほど強気ですね（笑）。もちろんUFCは『PRIDE』と絡むことによって、ビジネス面の発展やMMAの拡がりを目論んでることもあるんですよね？

ダナ　いや、ビジネス的なプランなどは、私の頭にまったくないよ。ただ、『PRIDE』もアメリカに進出する機会があることだし、UFCと対抗戦を繰り広げることによって、日本やアメリカでMMAが認知されれば幸いだとは思ってるがね。先ほどから、『PRIDE』に対して失礼なことを言ってるかもしれないけど。

――「言ってるかも」どころか、思い切り失礼なこと言ってますよ（笑）。

ダナ　いや、最初に挑発してきたのは榊原サンだよ！　我々は受けて立っただけ。いいかい？ここが重要！　UFCが受けて立つんであって、挑戦するんじゃない。マイナーとメジャーの違いはあるとはいえ同じ競技をやってるから受けてやるんだよ。OK？

――選手の実力はともかく、たとえば、UFCを離れたムリーロ・ブスタマンチのように「UFCはアメリカ人ばかり優遇する」という批判的な意見がありますよね？

ダナ　いやいや、そんなことはないよ。私は須藤サンや宇野サンといった日本のファイターの大ファンだし、別にアメリカ人をヒイキしようなんて思ってないよ。

――でも、須藤元気選手がドゥエイン・ラドウィックと闘った試合では、須藤選手が明らかに攻勢だったのに判定負けしましたよね。あの露骨な判定に日本のファンはかなり不満を持ってるんですよ。

ダナ　それは声を大にして、誤解だって言いたいね。というのは、UFCは、試合を管轄するアスレチック・コミッションをコントロールする権限は持っていないんだ。

――つまり、判定に口出しすることはできないんですね。

ダナ　個人的な判断で言えば、私は元気サンが勝ったと思ったし、ビデオを見直して余計に確信した。だからこそ、コミッションに「ドクターやレフェリーのチェックが入った後は、元のポジションからスタートするようにしよう！」と駆け寄ったんだよ。

――ラドウィックが不利なポジションのときにドクターのチェックを受けたのに、リスタートは中央のスタンドポジションからでしたね。

ダナ　そのルールを変えようと動いたんだよ、私は。アメリカ人をヒイキしようなんてとんでもない！　すべては誤解だってことを伝えてくれ！

――わかりました。その部分はしっかり伝えておきます！　ところで、かつてのオクタゴンヒーローだったティトがWWEに出るって噂も流れてますけど、今後の登場はあるんですか？（インタビュー後、クートゥアー戦決定）。

ダナ　いや、彼はまだUFCのファイターだよ。UFCとしてはチャックとの試合を組みたいんだが、やりたがらないのがネックになってるんだ。

――ティトは「友人であるリデルとは闘いたくない」って言ってますよね。

リデル　ティトが俺を避ける理由は、俺と闘えばKOされることをわかっているからだよ。ティトは俺とオクタゴンに入るのを怖がってるだけなんだ。

ダナ　だからこそ、ティトが恐れるチャックと「闘う」とコメントしているヴァンダレイやランペイジはリスペクトできる。私は彼らを高く評価している！　それでも、UFCのファイターよりは劣るがね。そうだろ、チャック？

リデル　ガハハハ！　間違いなく劣る！　とりあえず、必ず一回戦を勝って、UFCの強さを証明してやるよ。

――わかりました！　8月10日は素晴らしいファイトを期待しています！

ダナ　私と榊原サンのマネーファイトも期待していてくれ！

――（無視して）リデルさん、今日はありがとうございましたっ！

【6月26日／都内某ホテルにて収録】

Chuck Liddel■1969年アメリカ出身、188センチ、90キロ。12歳のころから、空手、キック、レスリング、柔術と、様々な競技を習得した格闘技マシーン。UFCライト級王者のティト・オーティスが対戦を拒むオクタゴンの裏番である

ビクトー、ブスタマンチ、ランデルマンを撃沈!!
チャック・リデル戦績

03.6.6	UFC43	●vsランディ・クートゥアー	3R2分40秒 TKO
02.11.22	UFC40	○vsレナード・ババル	1R 2分59秒 KO
02.6.22	UFC37.5	○vsビクトー・ベウフォート	3R 判定
02.1.11	UFC35	○vsアマール・スロエフ	3R 判定
01.9.28	UFC33	○vsムリーロ・ブスタマンチ	3R 判定
01.5.27	PRIDE.14	○vsガイ・メッツアー	2R 21秒 KO
01.5.4	UFC31	○vsケビン・ランデルマン	1R 1分13秒TKO
00.12.16	UFC-J	○vsジェフ・モンソン	3R 判定
99.9.24	UFC22	○vsポール・ジョーンズ	1R 3分37秒 TKO
99.3.5	UFC19	●vsジェレミー・ホーン	12分00秒 TKO
98.8.23	IVC6	○vsペレ	30分判定
98.5.15	UFC17	○vsノイ・ヘルナンデス	12分判定3-0

オクタゴンの最強は!?
ティトvsランディ、頂上対決実現!!
9・26『UFC 44』「Undisputed」

［UFCライトヘビー級タイトルマッチ 5分5R］
ティト・オーティス（王者）vs
ランディ・クートゥアー（暫定王者）

［UFCヘビー級タイトルマッチ 5分5R］
ティム・シルビア（王者）vs
ガン・マギー（挑戦者）

"宿敵"アルバート・クラウスを遂にKO!
「魔裟斗物語」クライマックスに到達!!

7.5 さいたまスーパーアリーナ
K-1 WORLDMAX 2003
～世界最強決定トーナメント～

マット界に初代タイガーマスク以来の
"ジャンル"を超えたスター誕生!!

魔裟斗が"K-1"を超えた!!

文/堀江ガンツ
撮影/乾晋也
designed by さおとめの事務所

武田幸三、アンディ・サワー "本命"が一回戦敗退!!

下馬評ではファン、関係者から本命視されていた武田幸三とアンディ・サワーは、どちらもいいところなく1回戦敗退。2人が揃ってKO負けするとは信じられない光景だった。

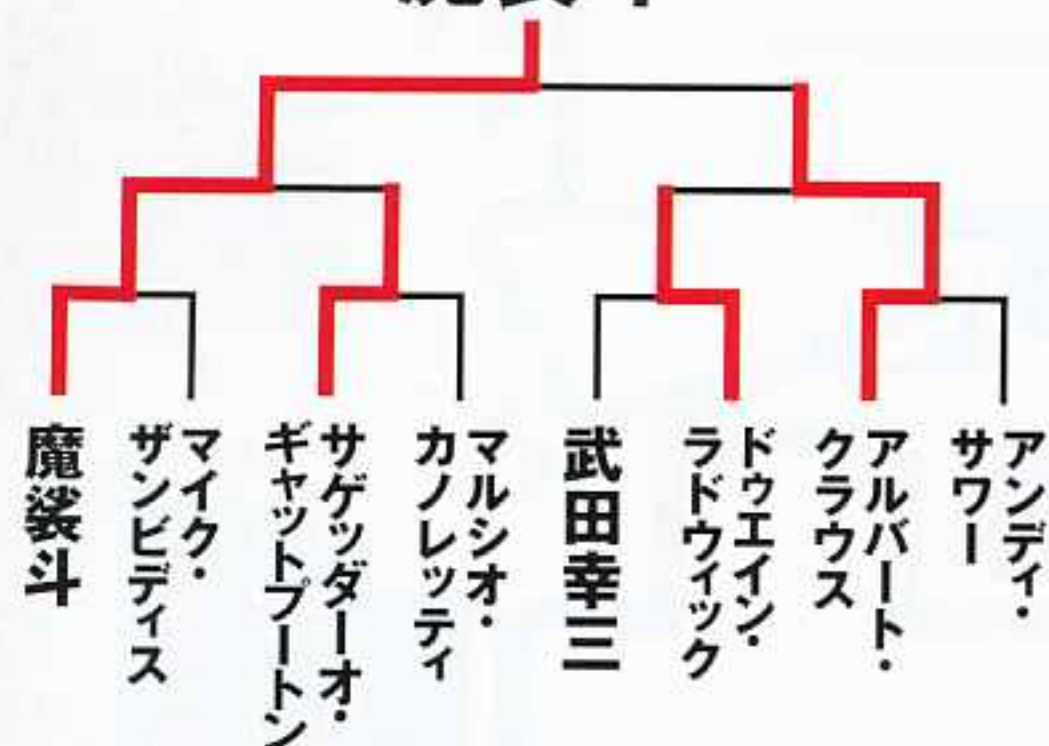
パンチ、キック両方で勝負できるのが魔裟斗の強み。クラウスとの決勝戦では序盤、徹底したローキック攻めを行い、これが結果的に左フックでの勝利を呼び込んだ。

昨年一敗地まみれたクラウスを世界大会決勝という最高の舞台でリベンジに成功。しかもKO勝ち！このドラマチックすぎる星の巡り合わせこそ、スーパースターの証だ。

まさにパーフェクト！ 魔裟斗、文句ナシの世界一!!

K-1 WORLD MAX 2003
〜世界一決定トーナメント〜

魔裟斗

魔裟斗
マイク・ザンビディス
サゲッダーオ・ギャットプートン
マルシオ・カノレッティ
武田幸三
ドゥエイン・ラドウィック
アルバート・クラウス
アンディ・サワー

魔裟斗が最も苦しめられたのが1回戦のザンビディス戦。破壊力バツグンの"タイソンフック"に大苦戦したが、一瞬の隙を見逃さず、跳びヒザでダウンを奪い、僅差の判定勝ち。

準決勝では長きに渡って"立ち技最強"と呼び続けられたムエタイの王者であるサゲッターオをパンチで圧倒し完勝。この勝利がすでに偉業に見えないところが凄い。

いや、参った。ホントに参りました。降参です！

7月5日、『K—1 WORLD MAX2003』を見終えた後の感想は、「参りました」まさにこれにつきる。誰に参ったかと言えば、もちろん魔裟斗にである。

遂に、本当に『K—1 WORLD MAX』で優勝してしまった。しかも、ただの優勝じゃない。過去2度グローブを交えながら勝つことが出来なかった最大のライバル、アルバート・クラウスを、決勝戦という舞台で、しかもノックアウトで下しての優勝である。そのあまりにもドラマチックな星の下に生まれた魔裟斗という存在に対して参ったのだ。

『K—1 WORLD MAX』とはそもそも、別の言い方をすれば「魔裟斗物語」であり、主役はもちろん魔裟斗。しかし、その物語の〝主役〟を演じきるのがどれだけ凄いことか、彼のこれまでの歩みを振り返ってみるとよくわかる。

まず、02年2月11日『K—1 WORLD MAX〜日本代表決定トーナメント』で、当時ライバルと言われた小比類巻貴之を始めとする団体の垣根を超えたメンバーを次々と下して、文字通り中量級日本一に輝くも、3ヶ月後の5月11日、世界一決定トーナメントでは、準決勝でアルバート・クラウスに敗れ3位。初の挫折。

それでも翌年3月1日の日本代表決定トーナメントでは、〝最後の大物〟武田幸三を破り再び日本一に。

そして03年7月5日。背水の陣で挑んだ「世界一決定トーナメント」。1回戦で、アルバート・クラウスを3ヶ月前にKOしたマイク・ザンビディスを判定で退け、続く準決勝では、武田幸三をKOしたムエタイ王者サゲッターオをKO。そして、決勝では「魔裟斗物語」最大のライバル、アルバート・クラウスをKOしての優勝だ。

小比類巻貴之、村浜武洋、須藤元気、アルバート・クラウス、そして武田幸三。それぞれが、それぞれのドラマを持っている。それは間違いない。しかし、そのドラマも『K—1 WORLD MAX』という大きな物語の中では〝外伝〟でしかなく、蒼々たるメンバーである彼らも、すべて魔裟斗という星（スター）をより光り輝く存在にするための名脇役のようにさえ思える。しかし、ジャンルを背負うスターが存在するというのは、そういうことなのだ。

かつて、こういった飛び抜けたスターが物語を紡ぎ出すのは、プロレス界の専売特許であった。力道山、ジャイアント馬場、アントニオ猪木、タイガーマスク……。日本マット界の歴史というのは、極論すれば、すべてこの4人の物語だった。そういう意味では、広くマット界という括りにしても、魔裟斗は初代タイガーマスク以来、20年ぶりに現れたジャンル自体の主役を張れるスターだと言える。

それに対して、スター不在が叫ばれて久しいプロレス界。魔裟斗を見て改めてわかったことは、複数スター制という主役の持ち回りはもういらないということだ。いや、今やその時期もすぎてスターが一人もいない〝群像〟になってしまっているのが現状だろう。

プロレス界にもジャンルの〝主役〟を張れる「魔裟斗」が再び現れるのはいつの日か……。それとも、「魔裟斗」を〝作り出す〟という発想すら忘れてしまったのだろうか？

2003・6.29 さいたまスーパーアリーナ

K-1 BEAST Ⅱ

中西学、TOAに98秒轟沈！ そしてすかさずIWGP奪取宣言!!

バカ負け

マット界に激震!?

「足の甲の骨がズレてました」「高山、俺に獲られるまでベルトしっかり巻いとけよ！」（中西学・談）

文／中村カタブツ君

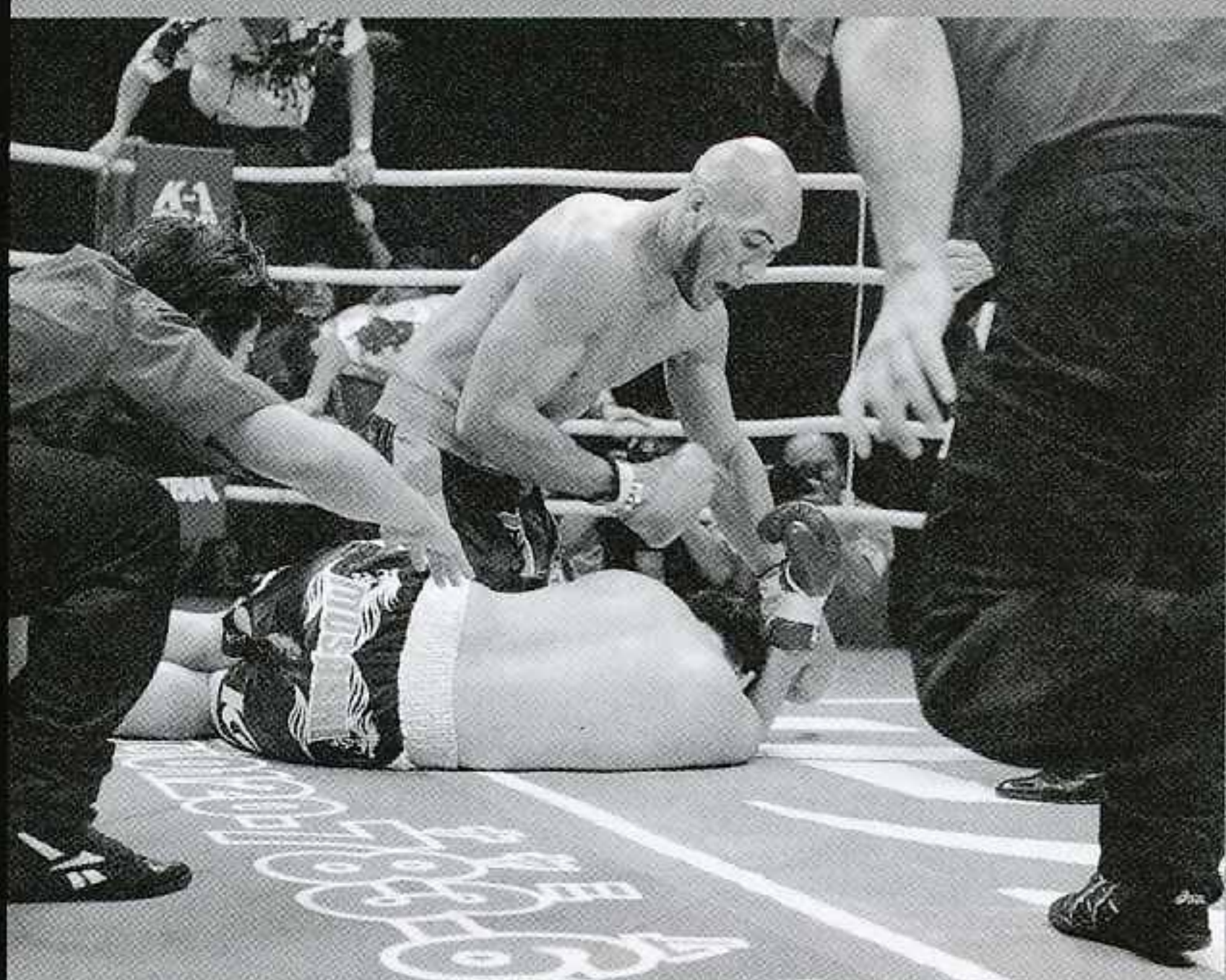
Design／さおとめの事務所

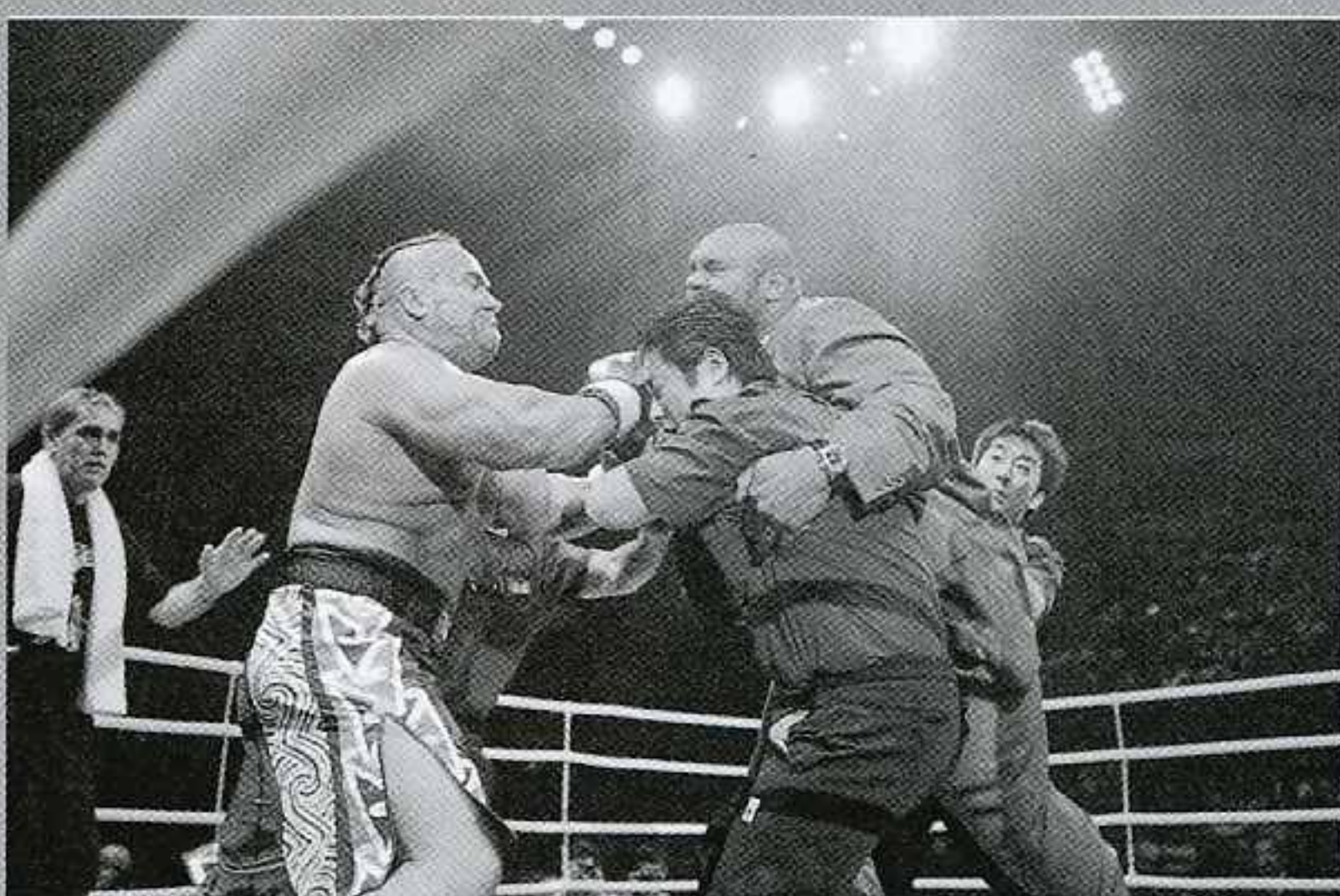
6・29K―1ジャパンでの中西敗戦は「まあ、この結果はしょうがないだろう」というのがごく普通の感覚だと思うのだが、中西学の馬鹿力の前には試合に勝とうが負けようがそんなことは一切関係ないとつくづく思い知らされたのである。

週プロが〝中西よ、新日本よ、この現実を直視せよ！〟と表紙に打つのは佐藤編集長自身が馬鹿力の持ち主だから仕方ないとしても、東スポまでもが『プロレス最強伝説崩壊』と題した緊急連載を開始。「何をいまさら」と思うのだが、原稿を読むと緊急のわりには熱がなく、記事を書いてる高木記者の困惑ぶりだけが伝わってくる内容で、どうやら桜井康夫さん（東スポ編集局長）が中西の敗戦に激怒して始まったということらしい。つまり、プロレスマスコミの重鎮・桜井さんの地場までも狂わせたのが中西だったのだ。

そんな周囲の狼狽ぶりを知ってか知らずか、中西自身は7月4日の新日後楽園大会の休憩明けに登場し、開口一番「元気ですかー！」と言い放ち、トップロープに登って「ホー！」と、右手を高々と突き上げたのであった。ホント、凄い人である。お前が一番元気！

それだけじゃない。週明けの7日には記者会見を開き、実はTOA戦前に「足の甲の骨がズレてしまいまして」と語り始め、「それでも相手を蹴りまくった。かなり腫れてましたし、ズレてました。膝、足首、足の甲。それを今、元の位置に戻してもらってる」と、わずか3日前にトップロープへ登ったことをすっかり忘れている様子。

だが、一度スタートしてしまった中西劇場は止まりゃしない。高山善廣が高山なりに気を使って言った〝高山プロデュース興行（7・4後楽園）の第1試合に出ろ〟発言に対して、「お前にそんなことを言われる覚えはない」といきなり却下し、「足を引きずってる人間を第1試合に出して何になるんだ」とミもフタもないことを言い出す。さらに、

Ｋ－１迷走を如実に物語る、大巨人モンターニャの突然の大暴走。その後、モンターニャ追放を宣言したはずなのに、アマゾンファイト出場案、オーバー200開催案と、まったく追放の意志がない姿勢に、これまた馬鹿負け。

“新日本プロレスvsマオリ族”という、往年の『水曜スペシャル』チックな対立構造。この写真を一枚見ただけで、通常のＫ－１とは違うことがわかる。っていうか、中西とマオリ族がＫ－１で闘う意味ってあるの？

ＴＯＡが中西をがアッサリＫＯすると、やっぱり始まりました。Ｋ－１ＪＡＰＡＮシリーズ名物、サップの大乱闘！　この“プロレスチック”な展開をリングサイドにズラリと並んで眺めていた新日勢は一体何を思う？

「Ｋ－１のＫは喧嘩のＫだろ！」という勝手な解釈で、魔界倶楽部・星野総裁と共にＫ－１に喧嘩を売った柴田勝頼。しかし、あまりに無名なため館内は無反応！　しかも、ＴＶでは全面カット！　どこまでコケにされるのか……。

「高山、お互いケガしないようによ、注意して試合しようぜ」中西健在！

「ハッキリ言ってね、足を引きずってでも死ぬ気でやればお前なんか倒せるよ。だけどね、俺は万全の態勢でお前と闘いたいんだって」とＴＯＡ戦を万全の態勢で闘わなかった男とは思えないようなことを言い、最後に「高山よ、テメエと闘うまでにそんなに試合もしないと思うよ、俺は。だけどよ、本当思い切りいくからよ、手加減なんか絶対にしないから。お前も身体を鍛えとけよ。お互いにケガしないようによ、注意して試合しようぜ。口ばっかじゃなくてさ」なのだ。〝お互いにケガしないように注意して試合しようぜ〟ってどういう意味だよ。

ホント、面白い。こういうのをバカ負けというのだが、ここまで言ってくれれば気持ちいい。中西になんの心配もいらないと心底思えるでしょ？　週プロと東スポの提言がムダだったことがよく分かるわけである。

ただ、問題なのは現在の新日本に喧嘩のやり方が見えてないということなのではないだろうか。６・29の翌日、恒例の成田会見を行った猪木さんは、「中西の敗戦を新日の選手、関係者がリングサイドで観戦していたが」という質問に対して、こう言っている。

「バカだね。中西の敗戦よりそっちの方が無様だよ。プロが並んで負けを見て、何のカッコが付くんだ。プロなんだからお客さんの前にいる限りどう対応するか、分かっていない。俺は何を教えてきたんだと思うよ！」

さすが、当日になって行くのをキャンセルした猪木さんである。喧嘩のコツがよく分かっているのだ。その場にいないであとから問題点を指摘するというのは非常に卑怯なやり口だが、社会を勝ち抜く上ではとても重要なこと。その一方でドラゴン。蝶野、永田の場内紹介コールがありながら、ドラゴンだけはなしということで、ある意味、いなかったことになっているのだから、それはそれで行かなかったことと同じ……かな？

ともかく、外に討って出ることはスポーツライクでは済まない一面が確実にあるということだ。その辺りのことがどうにも呑気に構えるドラゴン・イズムだから、現在の新日は負けっぱなしのイメージがついてしまう。一歩踏み出すことは確かに素晴らしいが、踏み出したことに対する後処理が悪すぎるのだ。

実社会に出れば、才能がある人間が勝ち組になるとは限らない。邪悪な執念を持ち続けた人間が勝利を掴むことは社会人ならたびたび目にすることだろう。そんなことがなぜ分からないのか理解できない。そもそも今の新日の社長は藤波であり、普通に考えれば明らかに勝ち組。でも、ドラゴンなんだよ。そんな目の前の有様をよく見れば勝ち方にも色々あるって分かるのに。

大事なのは一癖も二癖もある人間性だ。かつてのプロレスは一般社会では通用しない人たちがリング上で闘っていたからリアリティーがあった。だが、現在はアマチュアスポーツ選手がそのままプロになった感が否めない。藤波、蝶野、永田というあの日リングサイドにいた3人には悪そうなイメージがちっともない。逆にちゃんとした人（除く藤波）に見えるから舐められる。ということで新日よ、もっとタチが悪くなれと言いたいのである。

今日はアメリカ・ボクシング界伝説のス

この夏
マット界に
デブブーム到来!!

6.29K-1 BEAST Ⅱ

瞬間最高視聴率17.3%達成!

REAL AMERICAN!!

肥満大国アメリカから
“豚のように舞い、豚のように刺す”男がやってきた!!

Butter BEAN
バター・ビーン

ボブ・サップとタッグを組んでガファリ兄弟を倒してやる!

ガファリ兄弟、Ｚ－ton、アダモ、ダバダ……クソ暑い中、デブブーム到来中の日本に、米ボクシング界からも超人気デブが来襲！　６・29さいたまでＫ－１初登場をはたしたバタービーンは、その人気とデブブームを証明するかのように、なんとテレビ瞬間最高視聴率17・３%を達成してしまった！　そんな超人気デブを本誌は大会２日前にキャッチ。格闘技雑誌がやらない独占インタビューをお届けします！

聞き手／堀江ガンツ
撮影&通訳／黒田史夫
試合撮影／乾晋也
協力／“ブッカーK”川崎浩市
Design／さおとめの事務所

6・29K－1BEAST II で藤本祐介を秒殺KO!!

――今日はアメリカ・ボクシング界伝説のスーパースター、バタービーン選手にお会いできて実に光栄です！（笑）。

バター　オー、サンキュー。日本に来たのは初めてだから、ボクも凄く興奮しているよ！

――初めて日本に来てみて、率直な感想はいかがですか？

バター　いや～素晴らしいよ！　日本の人たちも思ったよりフレンドリーでいい人たちだと思ったよ。

――もっと暗い国民だと思ってましたか？（笑）。

バター　ノーノー！　そうじゃない。例えば、日本だったら道を歩いていて人に声を掛けたら向こうも挨拶を仕返してくれるじゃないか。でも、アメリカなら「お前誰だ！　お前なんか知らない！」って言われるのがオチだからね（笑）。そういった意味で日本人はフレンドリーだと思ったんだ。

――でも、日本の夏は湿気が多くて嫌じゃないですか？

バター　デブにはつらい国だと言いたいのかい？（笑）。確かに蒸し暑いけど、ボクが住んでるアラバマも南部の方なんで同じくらい蒸し暑いから全然大丈夫だよ。

――日本の食べ物はどうですか？

バター　ベリーグッド！　スシは大好きだよ。でも、昨日初めてホテルで食べてみた、ジャパニーズスタイルのブレックファーストはダメだったな（苦笑）。

――まぁ、海苔、生卵、ひじきの煮付けとか、まずアメリカ人が食べられなさそうなものばかりですからね（笑）。

バター　それにだいたい量が少なすぎるよ！

――ガハハハ！　少なすぎますか（笑）。普段はどのくらい食べるんですか？

バター　いや、みんなが思ってるほどは食べてないよ。みんなデブはもの凄くたくさん食べると思っているけど、そんなことないんだ。ボクはヘビー級のボクサーで、練習さえしていれば体重を気にする必要はないから、食べ

たいだけ食べてるのは確かだけどね。それでも、時々しかたくさん食べたりしないよ。

——じゃあ、その立派なボディはどうやって作り上げたんですか？

バター　たぶん遺伝だよ。ボクの家族は親戚も含めてみんな縦横どっちかがデカイんだ。ボクの叔父さんなんて、身長が7フィート（約2メートル13センチ）以上あるんだから！

——7フィート以上！

バター　みんな凄く背が高いノッポか凄いデブかどっちかなんだよ。ボクのお姉さんだって6フィート（約180センチ）以上あるんだよ。ボクと違って細いけどね。

——バタービーンさんは10歳の時にすでに350ポンド（約160キロ）あったってホントですか？

バター　うん、あったよ（アッサリ）。

——もちろん身長はいまより全然低いわけですよね？

バター　そうそう。だから遠くから見たらホントに球体みたいだったんだ（笑）。いまはこう見えてもずいぶんスマートになったんだから！

——ス、スマートですか！（笑）。少年時代はスポーツもやらなかったんですか？

バター　アメフトをやっていたよ。

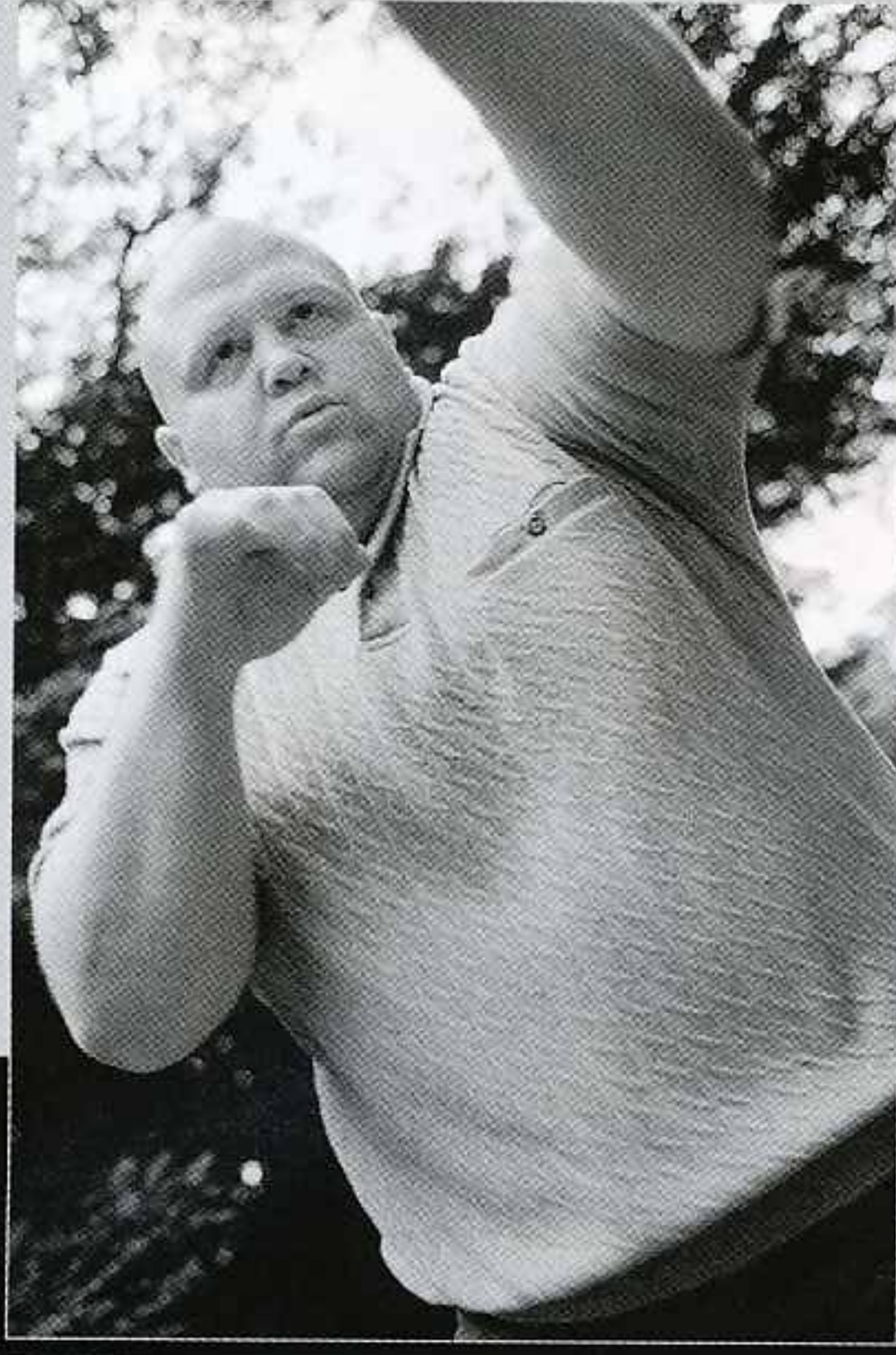
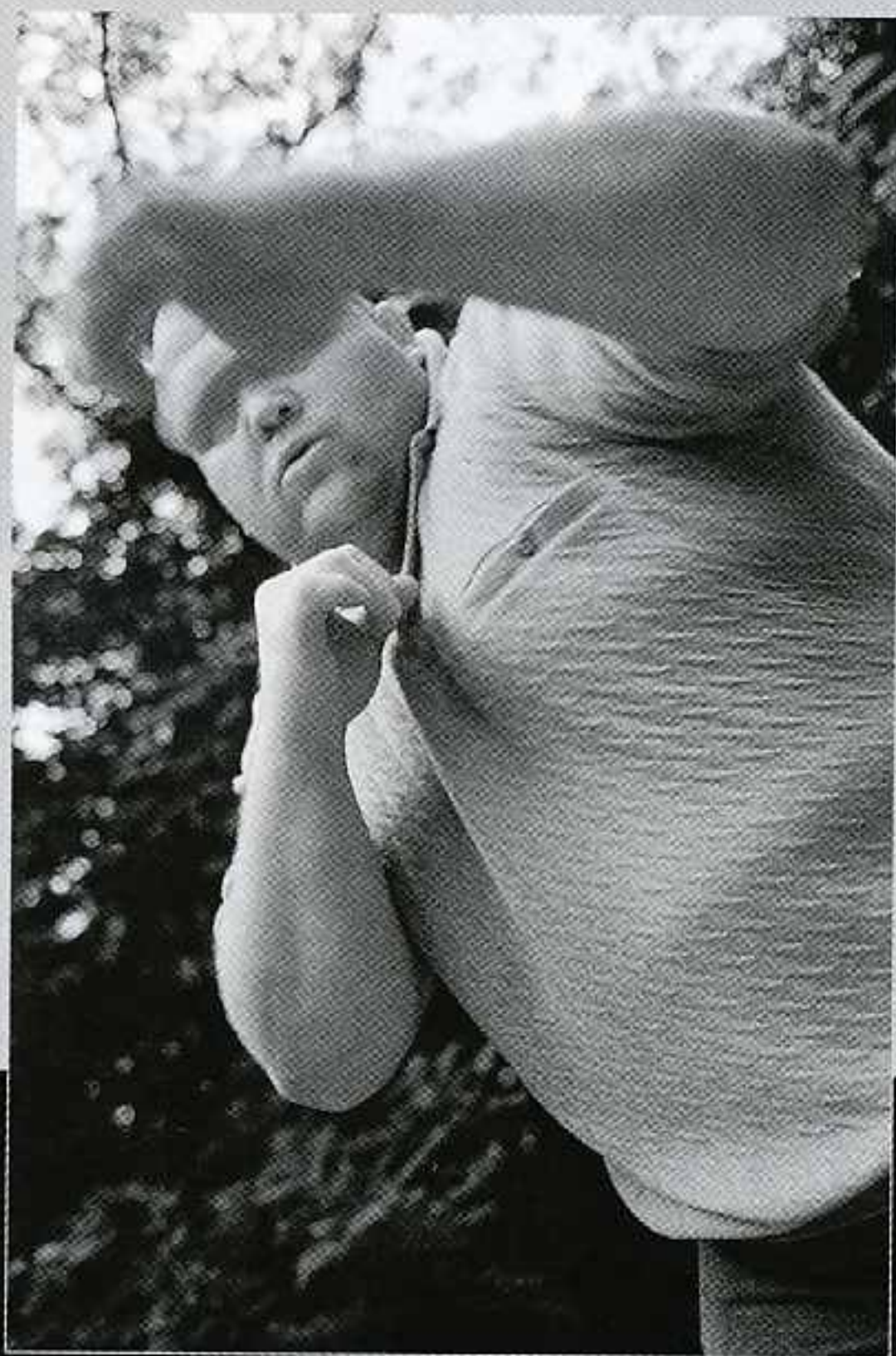
——アメフトですか!?　アメフトって足が速くないといけないと思うんですけど……。

バター　なに言ってるんだ、ボクは足は速かったんだよ！　……ま、もちろん短距離だけの話だけどね。長距離はいっつもビリだったから（笑）。

——でしょうね（笑）。

バター　それにボクはフロントラインの選手だったんで、そんなに走る必要もないし、フットボールは短い距離しか走らないから、ぜ〜んぜん問題ないよ。

——フットボール以外には特にやってないんですか？

バター　他には特にやってないね。みんなカレッジとかでスポーツをやるんだろうけど、ボクは17歳で結婚したから、ハイスクールを卒業してすぐに仕事をして、家族を養わなければならなかったから、そんな暇はなかったんだ。

——そんな若いうちに結婚してたんですか。

バター　もう結婚して19年になるよ。アメリカじゃあ、ボクと同じくらいの年齢だと3、4回結婚してるのが普通だけど、ボクはとてもいい奥さんをもらったから一度も離婚を経験してないんだ。これはボクの自慢だよ（ニッコリ）。

——そんないい奥さんと結婚できたということは、ずいぶんモテたんですか？

バター　そうでもないよ。ワイフとは幼なじみなんだ。12歳のころから知っていて、ずっと一緒にいる。もうつき合いは長いよ。

——へ〜、じゃあ『タフマン』に初めて出るときは、奥さんが心配して、反対したりしなかったんですか？

バター　最初はもの凄く反対されたよ。でも、初めて優勝して賞金を持って帰ってきたその日から、「どんどん出なさい！」って180度変わっちゃったんだ（笑）。

——ガハハ！　いい奥さんですね（笑）。

バター　ホントだよ！　最初は凄い心配してくれてたのに、それ以降はボクが今回はやめておこうかなと思ってても「出ろ、出ろ」だからね（笑）。

——それにしても、格闘技経験のないバタービーンさんが、なぜ『タフマン』に出ようと思ったんですか？

バター　質問とは逆の答えになるけど、格闘技経験がないからこそ出たんだよ。

——ないからこそ、ですか？

バター　そうさ。だって『タフマン』ってやつは、例えば「K—1グランプリ」のように、プロのK—1ファイターの中でナンバー1を決めるようなものではなくて、「素人の中で誰が一番強いか」を決める大会なんだから、素人の俺が出ても不思議じゃないだろう？　逆にボクサーが出たりしたら、それは反則ってもんさ。

——腕っ節にはもともと自信があったんですか？

バター　力はある方だとは思っていたし、この体重だからね（笑）、思い切り殴ったら凄いだろうなとは思ってたよ。テクニックでは到底敵わないけど、パンチが強いから当たればプロのボクサーだって倒せる自信はあったよ。K—1のボブ・サップだってそうだろ？　パンチ力だけのサップがK—1王者のアーネスト・ホーストをKOしたんだから。300ポンド以上ある人間が思いっきり殴ったらどうなるか、あれが答えだよ。

——なるほど。『タフマン』以外に、ノールールの素人大会みたいなものでも優勝したことがあると聞いたんですけど、それはホントですか？

バター　いや、それはちょっと違うな。ノールールと言っても、UFCみたいなものじゃないんだ。『タフマン』は基本的には殴り合いなんだけど、トーナメントによっては、蹴ったり、頭突きをしたりしてもいい大会があって、そういうルールの大会でも優勝しているということさ。

——じゃあ、UFCに興味を持ったりすることはなかったわけですか？

バター　まったく興味はなかったね。だってUFCの人気があったころは「優勝したら6万ドルもらえる」というのが売り文句だったけど、そのころボクはもうボクシングの試合で1試合6万ドル近くもらっていたから、わざわざそんな大会に出ようとは思いようがないさ。でも、いまはちょっと総合格闘技をやってみたい気もするよ。

——MMAで知ってる選手はいますか？

バター　あんまり知らないなぁ……。

——例えばアメリカ人だとマーク・コールマンなんかも知りませんか？

バター　あ、マーク・コールマンは知ってるよ。それからゲーリー・グッドリッジ、ダン・スバーン、ケン・シャムロック……あ、結構知ってるなぁ（笑）。別に試合を見ていたわけじゃないけど、友達関係だったりして、そういう繋がりがある選手は結構いるよ。

——ボブ・サップのことは日本に来る前から知ってましたか？

バター トレーナーから話は聞いてたよ。実はボブも昔、『タフマン』に出たことがあって、そのときのレフェリーをボクのトレーナーがやっていたらしいんだ。ボブ・サップが出ていたころはもうボクはプロボクサーになっていたんで、直接の接点はないけどね。

——へ〜、そうだったんですか。ちなみに、バタービーンさんの『タフマン』での戦績はどうだったんですか?

バター 69勝52KOだよ!

——69勝! そんなに出てるんですか!?

バター 『タフマン』っていうのは、だいたい30何人か参加して、勝ち上がると一晩で4試合ぐらいするんだ。大会にも20回ぐらい出

6・29『K—1BEAST II』でK—1初出場を果たしたバタービーンは、日本屈指の怪力を誇る藤本祐介と対戦。藤本のハイキックをダッキングでかわし、わずか1R1分2秒、左フックでKO勝ち!

ウチの家系は全員デブかノッポ ボクは10歳ですでに350ポンドあった。

Butter BEAN

たから、そのくらいの数になるね。

——そんなに出てたっていうことは、その頃はもう他の仕事は辞めて『タフマン』一本で生活してたんですか?

バター いや、そんなことはない。ちゃんと自動車工場で働いてたよ。だから『タフマン』に出るときは、昼間働いて、夕方家に帰って着替えて、夜は闘いに行ってたんだ。

——カッコイイですねぇ(笑)。それからプロのボクサーになったのは、どんなきっかけがあったんですか?

バター 『タフマン』で勝ってお金をもらえるようになって、「もしかしたら、プロでもやっていけるんじゃないか」と思って、ある人に相談したんだ。そしてボクが幸運だったのは、デビューから間もなくして『ジェイ・レノショー』というアメリカの有名なトーク番組に出演できて名前が知られたことだね。それがプロとしてやっていける大きな要因となったよ。

——キャラクターを見込まれたんですか?

バター それもあるけど、ボクは一度、ボクシングの試合中に割って入ったレフェリーをぶん殴ってノックアウトしちゃったことがあるんだよ(笑)。そしたら、そのシーンを偶然テレビで見ていたジェイ・レノが番組のゲストに招待してくれて、それから一気に有名になったんだ。

——バタービーンブレイクのきっかけはレフェリー暴行でしたか(笑)。

バター だから、日本でも有名になるためにK—1の試合中にレフェリーをぶん殴るかもしれないよ(笑)。

——ガハハハ! それはいい! K—1の島田レフェリーをKOしたら、絶対人気出ますよ(笑)。

バター 「シマダ」だな。よし、OK! KOしてやる!(笑)。

——楽しみにしてます!(笑)。レフェリー暴行はともかく、K—1というルールの違う競技に出る不安はないですか?

バター 不安なんてないよ。誰かボクにキックを当てられるK—1ファイターがいるのかい? その前にボーンボーンでノックアウトだよ!

——蹴られる前にKOする、と(笑)。

バター これはジョークで言ってるんじゃないよ。ボクも今回K—1に出るにあたって何本かビデオを見たけど、とにかくみんな「動きがスローすぎる」と思ったんだ。チョコチョコとキックを出しあってまた離れて、その連続じゃあつまらない。もっと素早く懐に入ってババババーン! ってパンチを打ってノックアウトした方が面白いじゃないか。

——確かにそうですね。

バター ただ、3分3ラウンドという形式はエキサイティングだと思う。もし、つまらないヤツの試合でも9分間我慢すればいいから、観客にとってもいいことだろうしね(笑)。ご存じのとおりボクシングっていうのは、凄く制約が多いんだけど、K—1は非常に自由なルールだから、よりボクの力を発揮できる気がするよ。

——K—1用の特別な練習はしていないんですか?

バター 特別な練習ではないけど、ボクシングの試合に出るときと同じように厳しいトレーニングを積んできたよ。強いていつもと違うことと言えば、1ラウンドKOで勝ちたいから、ビッグパンチの練習を増やしてきた。やっぱりファンがみたいのは、大男が殴られて倒れる所だからね。その期待に応えないと。

——バタービーンさんは、リアル・ファイトにおいても、やっぱりファンを楽しませたいという気持ちは強いですか?

バター 当たり前じゃないか。プロの世界というのは、観客がボスであり、王様なんだからね。それなのに、ほとんどのファイターは自分が負けたくないというだけで、観客のことを気にしていない。それじゃダメさ。みんなお金を払って見に来てくれてるんだから、ファンが満足してくれなかったら、ボクも満

ロックやセイブルとは友達なんだ。アングルと試合をする話もあるよ

Butter BEAN

足できないよ。それに彼らの声援が自分にもっとハードな試合をさせてくれるんだ。

――ボブ・サップはファイターであり、エンターテイナーだから人気がでましたけど、バタービーンさんも同じわけですね。

バター 同じだよ。エンターテイナーなだけでもダメだけど、ファイターなだけでもダメだ。その両方が揃ったときに初めてプロとしての価値がでるんだ。

――そんなバタービーンさんのエンターテインメント性が評価されたのか、WWF（当時）からも話が来て出場したことがあったらしいですね？

バター ああ。WWFには『レッスル・マニア15』を初めとして、3回出たよ。マーク・メロとボクシングスタイルのプロレスをやって、マークのワイフであるセイブルをボクが奪ったりしたんだ（笑）。

――あのナイス・バディを自分のモノにしましたか（笑）。

バター そ～うだよ！　でも、リング上だけの話だけどね（笑）。

――バート・ガン（マイク・バートン）とボクシングマッチもやってるんですよね？

バター YES。バート・ガンとやったのが、『レッスル・マニア15』だよ。この試合はエンターテインメントじゃない、リアル・ファイトだったんだ。バート・ガンって日本でも知られてるのかい？

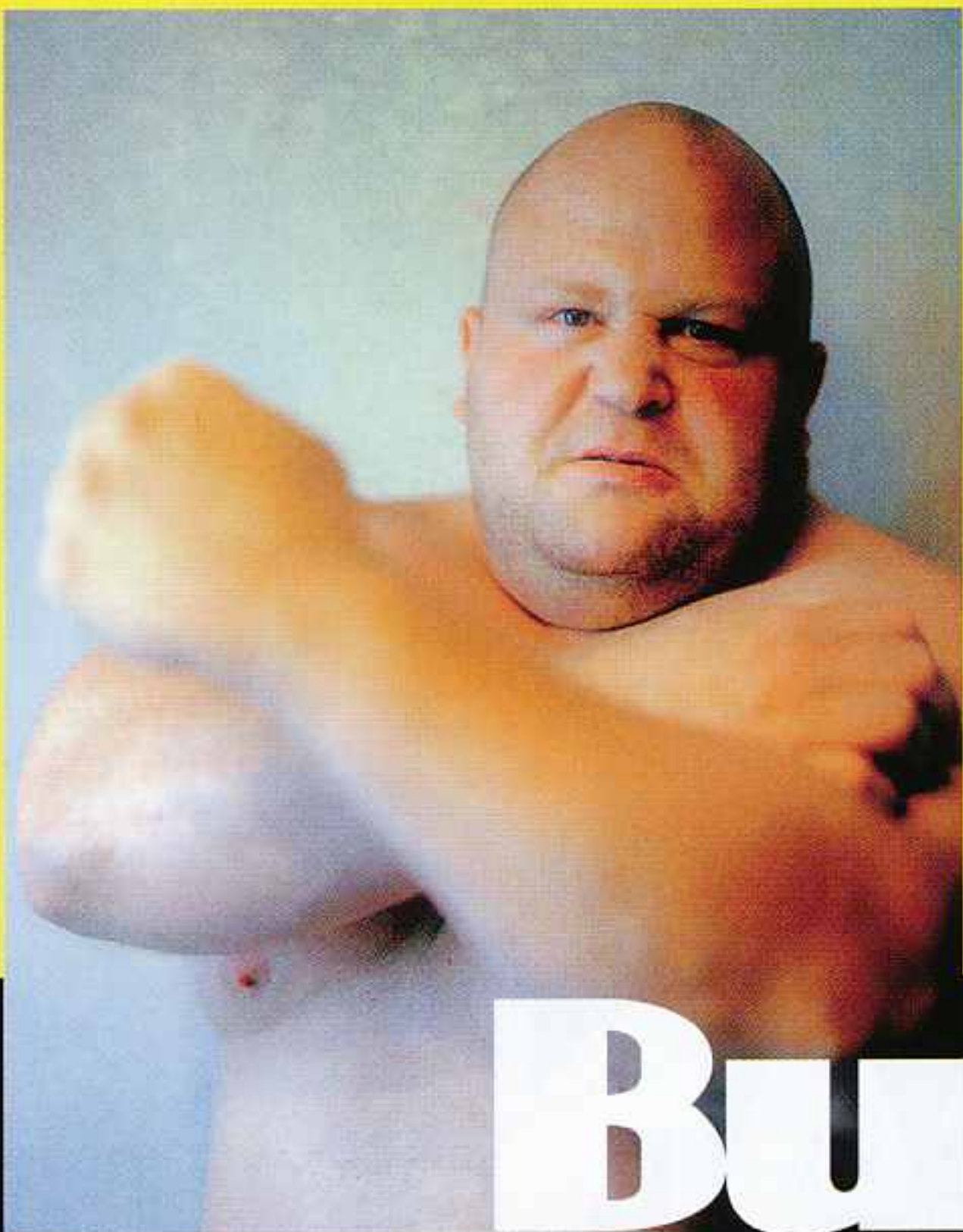
――日本ではプロレスラーとして有名ですよ。

バター そうか。ボクはそのバート・ガンを完全ノックアウトしたよ（ニッコリ）。右フックがモロに入って、大木が倒れるようにバーンってね。

――WWFにはどんな関係で出るようになったんですか？

バター WWFからアプローチしてきたんだ。『レッスル・マニア』でリアルファイトをやるから出て欲しいってね。それ以外のショーにも出演できて、凄くエキサイティングだったし、楽しかったよ。やっぱりプロレスラーみたいな大きいヤツを倒すのは楽しいね（笑）。

――ちょうど、その頃からWWFの人気が凄く上がってきたと思いますけど、プロレスやってみたいとか思いませんでしたか？

バター それはあまり考えなかったな。プロレスは凄く楽しいけど、やっぱりWWFと契約すると、年間を通してサーキットに出なくてはならなくて、家をたくさん空けることになる。それはボクには出来ないよ。だから、スポットで出してくれるなら大歓迎だけど、フルタイムでは無理だね。

Butter Bean■本名エリック・エッシュ。1968年8月3日、アメリカ出身。米ボクシング界で「史上最強の4回戦ボーイ」の異名を持つ超人気ボクサー。バタービーンというリングネームは、ボクサーになる前、タフマンコンテストに出場するために、インゲン豆だけを食べて減量したことに由来する。WWF『レッスルマニア15』にも出場し、バート・ガンとボクシングマッチを行い、1ラウンドKOで勝利している。戦績＝74戦65勝（50KO）3敗4分2無効試合。180cm、160kg。

――スポット参戦だったら、日本でプロレスをやってみる気はありますか？

バター 日本だろうがアメリカだろうが、スポットで出れるなら大歓迎だよ。そうだなぁ、年間30試合ぐらいまでならやりたいよ。

――日本にはZERO―ONEというバタービーンさんにピッタリの団体があるんですよ。（笑）。

バター ZERO―ONEについては聞いたよ。ボスがファットマンで、「オーバー130ポンド」なんてトーナメントをやっているんだろ？　ボクのためにあるような大会じゃないか（笑）。

――ホントにそうですよ！（『紙プロ』63号を見せて）このガファリ・ブラザースとやってほしいですね（笑）。

バター OK！　彼らとやるなら、ボクにもパートナーが必要だな。……そうだ、ボブ・サップと組もう！　これは面白いんじゃじゃないか？

――凄くいいですよ！　ゼヒ、上がってほしいな（笑）。

バター 日本でプロレスのリングに上がることは、ゼヒ近いうちに実現させたいよ。

――バタービーンさんは、普段プロレスは見たりするんですか？

バター ときどき見るよ。

――誰かお気に入りの選手はいますか？

バター （即座に）ザ・ロック！　ロックは友達なんだよ。ボクの自伝があるんだけど、その本の中でもロックのことは書いているくらいね。

――ロックとはWWFに出たときに友達になったんですか？

バター そうだね。あとマーク・メロ、セイブル夫妻も、そのとき以来いい友達で月に1度くらい電話で話をするよ。それからカート・アングルとも仲がいい。実はアングルと試合をしないかという話がもちあがってるんだ。だから、もしかしたらカート・アングルとの試合が実現するかもしれないね。

――へ～、そんな話もあるんですか。バタービーンさんは、もう35歳ということですけど、今後のプランはどんなことを考えているんですか？

バター とにかく闘いや人生を楽しみたいね。K―1にチャレンジすることもそのひとつさ。ボクシングはもう80戦以上やっているから、同じ事の繰り返しになってしまって、4回戦の試合でノックアウトしても、お客さんもあんまり喜ばなくなってきちゃってるんだ。でも、こうやってWWFのリングでノックアウトしたら、こんな大観衆が喜んでくれる。それと同じで、K―1でもノックアウトすることで、お客さんも喜ばせることができて、自分も凄く楽しむことができると思うんだ。

――じゃあ、これからよりK―1の比重を増やしていく気はあるんですか？

バター そのつもりだよ。今回は「チーム・ボブ・サップ（ビースト）」としての参戦だけど、これからは「チーム・バタービーン」としてもっともっと暴れるから！（笑）。K―1だけじゃなく、プロレスだって、『PRIDE』だっていい。

――『PRIDE』でもいいんですか？

バター ああ、いいとも。この俺の首を見ろ！　この首にチョークをできる奴がどこにいるんだ！（笑）。

――確かに！（笑）。では、最後に日本での目標を聞いて終わりにしましょう。

バター そうだなぁ、とりあえず「みんなに愛される」ということが自分にとって凄く大事なことなんだ。愛されれば自分も幸せだし、よりファンを幸せにすることができる。だから、より多くのファンを楽しませ、愛してもらうためにも、どんどん新しいチャレンジしていきたいよ。そうすれば、いまは日本じゃみんな「ボブ・サップ、ボブ・サップ」って言ってるけど、半年もしたらみんな「バタービーン、バタービーン」って言うことになるさ（笑）。

――では、これからの活躍期待してます！

【03年6月27日／都内・某ホテルにて収録】

流星仮面

猪木
覆面
大巨

“高橋本”の衝撃、再び!?

『ワールドプロレスリング』を作った男がプロレス本出版!!

ミスター高橋の盟友が放つ

猪木の裏側

元テレビ朝日プロデューサー

栗山満男

mitsuo kuriyama

“マット界のアンタッチャブル”ミスター高橋推薦図書!!　テレビ朝日『ワールドプロレスリング』の元プロデューサーであった栗山光男氏が、マット界の伏魔殿ぶりを綴るプロレス本を出版。「誰も知らない事実」を書き残すため、人工透析の治療を受けながらの苦心の執筆となった。今回の独占取材では、いまにも消え入るような小声で“猪木の裏側”を暴露。本誌的には「さすが猪木!」という本性をじっくり語ってくれたのだ。やっぱりアントンは凄い!

聞き手／吉田豪　構成／ジャン斉藤　designed by Tani-Yan（Two three）

――今回、栗山さんはテレビ朝日『ワールドプロレスリング』の元プロデューサーの視点から『プロレスを創った男たち』という本を書かれたわけですけど、一般誌ではかなりの反響を呼んでますね！

栗山　北朝鮮（『平和の祭典』）の裏話ばっか取り上げられてますけどねえ（笑）。

――時節柄、喰い付くのはそこになっちゃいますよね（笑）。ウチは専門誌なので、栗山さんとプロレス界の関係をたっぷり伺いたい思います！

栗山　いやあ、緊張しますねえ……。いくつか取材を受けましたけど、プロレス専門誌は今回が初めてなんですよ。

――専門誌が栗山さんを扱わないのは、ミスター高橋さんサイドの人間って認識があるからでしょうね。

栗山　……え？　どういうことですか？

――いや、出版された本の帯文を高橋さんが書いてるし、高橋本の第2弾『マッチメイカー』と同じ版元じゃないですか？　業界では高橋さんのことには触れないことになってますからね。

栗山　ああ、なるほど。ボクは彼とは古くから交友があるんですけどね。今朝も電話があったんですよ。

――ボクにも高橋さんから「栗山さんを取材してくれ」って電話があったんですよ（笑）。

栗山　ああ、そうなんですか。（本誌最新号を指差し）これ、私がプロレスに関わっていたころにあったのか憶えがないんですが……。

――90年創刊なので記憶にないのは当然ですね（笑）。

栗山　ああ、そうですよね。お話はよく聞いてるんですよ。プロレス知ってる人に「『紙のプロレス』から取材を受ける」って教えたら、みんなに「それは楽しみだ！」って口を揃えて言われたりして。吉田さんの名前もよくお伺いしますよ。新間さんとかターザンとお知り合いですよね？　ボクはターザンがファイトの記者をやってるころから知ってるんですけどね。

――山本さんに原稿を送ったこともあるんですよね。

栗山　オールスター戦の裏側を書いたときに「文章的にどうだろう？」って送ったんですよ。そしたら彼、「原稿をなくしちゃった」って言うんだよ（笑）。

――ダハハハ！　それって手書きの原稿ですか？

ターザンを相談役にして、高橋とプロレス団体を創ろうとしたんですよ

栗山　手書きですよ。400字詰めで15枚ぐらいかな。

――それは災難でしたね（笑）。山本さんには、高橋さんと2人でプロレス本出版の相談もされたこともあるって聞きましたよ。山本さん曰く、「プロレス本は売れないというレクチャーをしたから、ミスター高橋があういう本を出した。要は俺のおかげですよォ！」って話でしたけど（笑）。

栗山　いやいやぁ、ターザンに相談したのは他の件です。

――あ、そうなんですか？　山本さんは「仲間だと思っていたミスター高橋だけが本をバカ売れさせたから、俺は便乗商法で叩く本を出したんですよォ！」って怒ってましたけど（笑）。

栗山　いやあ、まったく違う話ですよ（笑）。……いいのかな、言っちゃって（口を濁しながら）。

――言っちゃいましょうか！

栗山　わかりました（笑）。つまりね、新しいプロレス団体。中国を視野に入れた新団体を創ろうと思って相談したんですよ。

――新団体！　山本さんが「闘龍門を見に行け！」ってアドバイスしたことは聞いてましたけど、そんなビックプロジェクトの相談だったんですね。

栗山　はい（笑）。闘龍門には日曜のお昼に行ったんですけど、女の子が多くて席も全部埋まってたんでビックリしましたよ。

――いま後楽園を満員にできるのは闘龍門ぐらいですからね。

栗山　確かに、ファンの話を聞くと「新日本なんか目じゃない」って言う声が多いんですよ。トークもしっかりしてるし、動きもメキシコのプロレスで。

――その闘龍門を参考にして、高橋さんと中国もターゲットにしたプロレスを創ろうと思ったわけですね（笑）。

栗山　スポンサーもありましたから、ターザンを相談役にしていろいろ考えていたんですよ。高橋も高橋で、プロレスは中途半端じゃなくて振り切って方がいいという考えがありましたから。

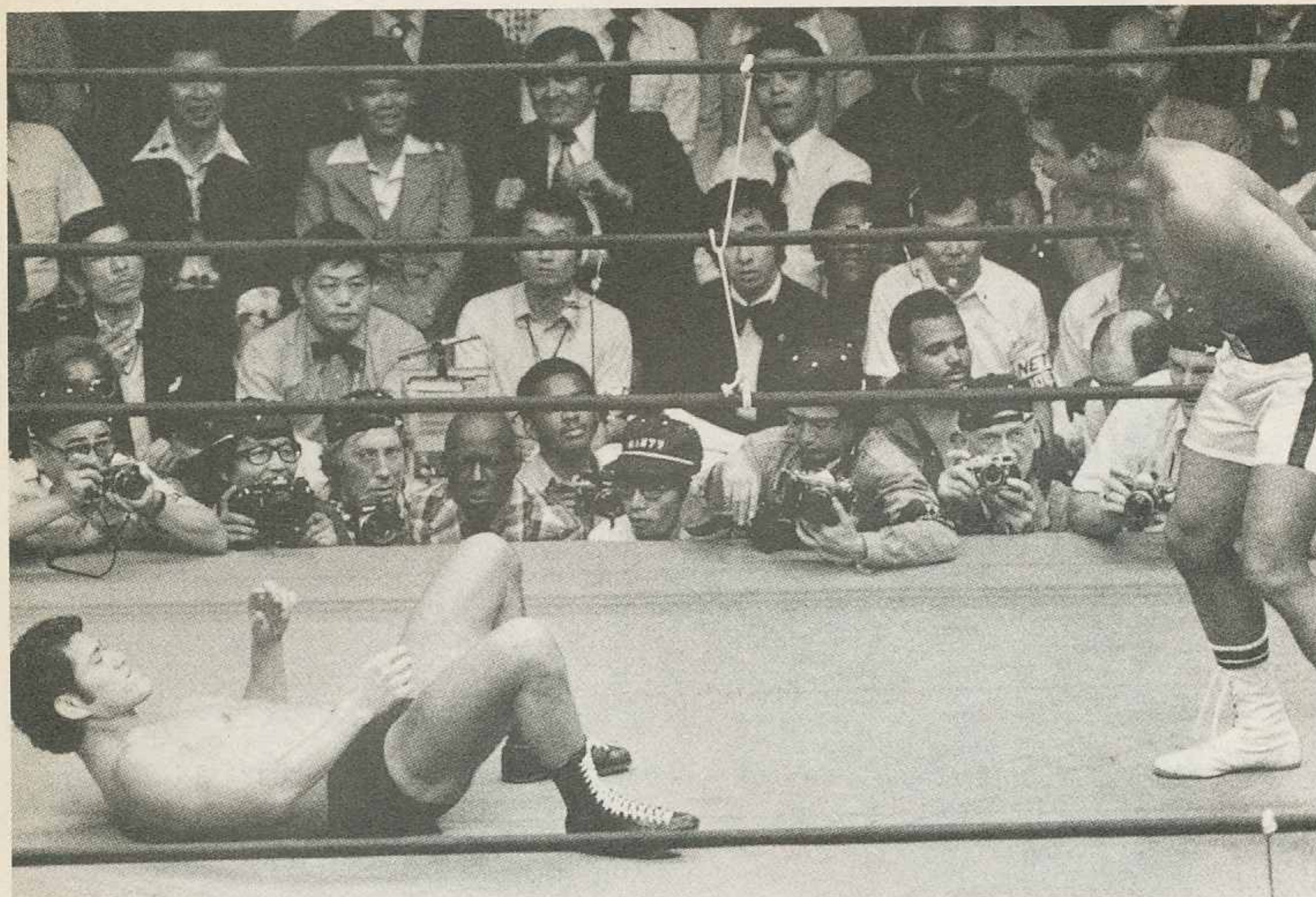
――つまり、エンターテインメントにした方がいいってわけですね。

栗山　ただ、高橋はああいう書き方をしちゃいましたよね。俺も知らないとは言わないけれど、ああいう内容を書くつもりはなかったんですよ。

――あくまで一線を越えるつもりはなかった、と。それでも「プロレスにはストーリーがある」「NWFのベルトを金で買った」とか、栗山さんもそれなりに踏み込んではいますよね。

栗山　それはボクが絡んだことだから、知ってることは書けますよ。藤波が獲ったWWFジュニアのベルトは、実際には存在しなかったこととかもね。

――ベルトを作ってMSGで戴冠させちゃうのは、本当にすごいですよ（笑）。

栗山　ボクもビックリしました（笑）。見て見ぬ振りをした部分もあるけど、猪木・新間

プロレスを創った男たち
～あるTVプロデューサーの告白～
元テレビ朝日プロデューサー
栗山満男 著
あのミスター高橋絶賛!!
「この本には私でさえ知らなかった事実が書かれてある」

『プロレスを創った男たち～あるTVプロデューサーの告白～』ゼニスプラニング刊／¥1500
高橋本第2弾『マッチメイカー』と同じ版元からの出版となったが、ゼニスプラニング社と栗山氏は昔から深い関係がある。第2弾も思案中という栗山氏は、発巻が途絶えた伝説の猪木本『闘魂の完全記録』も「書きたい」と口にした。

流星仮面の

ラインがプロレスを創っていましたよね。でも、テレビあってこそのプロレスだったじゃないですか？

――当時はテレビとの二人三脚で創ってましたよね。

栗山　ボクだって、猪木と馬場がタッグを組んだ夢のオールスター戦の舞台裏でいろいろ苦労したし、馬場さんに猪木戦の交渉もしましたからね。そういう高橋さんが知らないことを書いておこうと思ったんですよ。

――それが「私でさえ知らなかった事実が書かれてある」という高橋さんの帯文に繋がるんですね。電話で高橋さんは「帯には『知らない』と書いたけど、俺は全部知ってるんだけどね」って言ってましたけど（笑）。

栗山　いや、知らないこともあったと思いますよ。特に馬場さんとの試合を進めていた話やジャンボ鶴田の引き抜きの件は、高橋さんもよくわからなかったみたいです。

――引き抜きを画策するほど、猪木さんは鶴田さんのことを好きだったんですか？

栗山　あれだけの身体なのに練習もしないから、猪木はもったいないと思ったんじゃないですかね。

――練習しないであのレベルなんだから、最高の素材でしたよね（笑）。ユセフ・トルコさんも「鶴田に二代目・力道山を襲名させる」って言っていたことがありますけど、その時期の話になるんですか？

栗山　いや、それとは違いますね。ユセフ・トルコさんってのは……何て言ったらいいんだろうねえ。難しい（笑）。

――まあ、ユニークな人ってしか言えないですよね（笑）。

栗山　言い難いですよね。あの人に限らずレスラーというのは人間的に……ねぇ（笑）。

――変わった人が多いですよね（笑）。

栗山　変わってますよね（笑）。猪木にしても、誰しもが彼のことを決まって言うことがあるでしょ？

――裏と表の顔があるってことですよね（笑）。栗山さんも猪木さんに対しては、本の中でもかなり裏面を暴いてますけど。

栗山　それは皆さん御存知のことだから、ズラズラ書くつもりはなかったんだけどね。あまりにもヒドイから、猪木は。

――そんなにヒドイですか（笑）。

栗山　うん。よく言われるけど、ヒールとベビーフェイスでは、ヒールの方が人間ができてるんだよね。ジェット・シンやブラッシーもそうだったけど。で、ベビーフェイスは外面は良いんだけど、人間的にはまったくダメなんじゃないかなって思うんですよ。

――その最たるものが猪木さんだ、と（笑）。

栗山　そういうことです。お相撲さんじゃないけど、タニマチさんに恩を受けたら心に残るじゃないですか？　そういうのを平気で捨てていける人なんですよ（キッパリ）。

――どんな恩を受けても平気でバッサリ斬り捨てますよね。ただ、その代わりどんなに揉めた人とでも、いつでも平気で和解できるじゃないですか。

栗山　うん。それもおかしいでしょ。新間さんだって猪木にあんだけやっつけられたのに、またくっつくからね。これで何回目かわからないけど。

――東京プロレスの崩壊、アントンハイセル絡みのクーデター、スポーツ平和党スキャンダルと、3回は喧嘩別れしてますからね（笑）。

栗山　新間さんは「今回は絶対に仲直りしない！」と言っていたんですよ。

――「もし会ったら、ウチの息子が猪木を刺し殺す！」ぐらいの物騒なこと言ってましたよね（笑）。

栗山　それは（ジョージ）土門さんも一緒でしたよ。

――猪木さん絡みの拳銃密輸容疑で捕まった格闘家の方ですよね。

栗山　土門さんもかなり怒ってたし、新間さんも「猪木はとことん許せない」って言ってたんですよ。それが『東スポ』読んだらさ、あんなことになってねえ……。

――『東スポ』の櫻井康夫さんの仲介で和解して、裏一面を飾っちゃいましたからね（笑）。

栗山　新間さんに「どういうことよ!?」って電話したら、「いやいやいや、和解したんだよ」って（笑）。

――いや、でも和解して良かったと思いますよ。新間さんの猪木批判って、結局は猪木さんへのラブレターみたいなものだったじゃないですか。捨てられた女の恨み節みたいなもんで、ずっとヨリを戻したかったんだと思いますよ。

栗山　ああ、そうかもしれないね。

――栗山さんが本を書いたとき新間さんに相談されたみたいですけど、猪木さん絡みの記述に対して何か言われませんでした？

栗山　いや、「栗ちゃん、ドンドン書けよ！」って（笑）。

――思いっ切り奨励されたんですか！

栗山　いや、新間さんが猪木と和解する前の話ですよ。ほら、徳間（書店）から本（『アン

レスラーとしての猪木は本当に凄かった！
猪木のあの目、あの顔をボクは信じたんですけどねえ

トニオ猪木という名の伏魔殿』）を出したころかな？

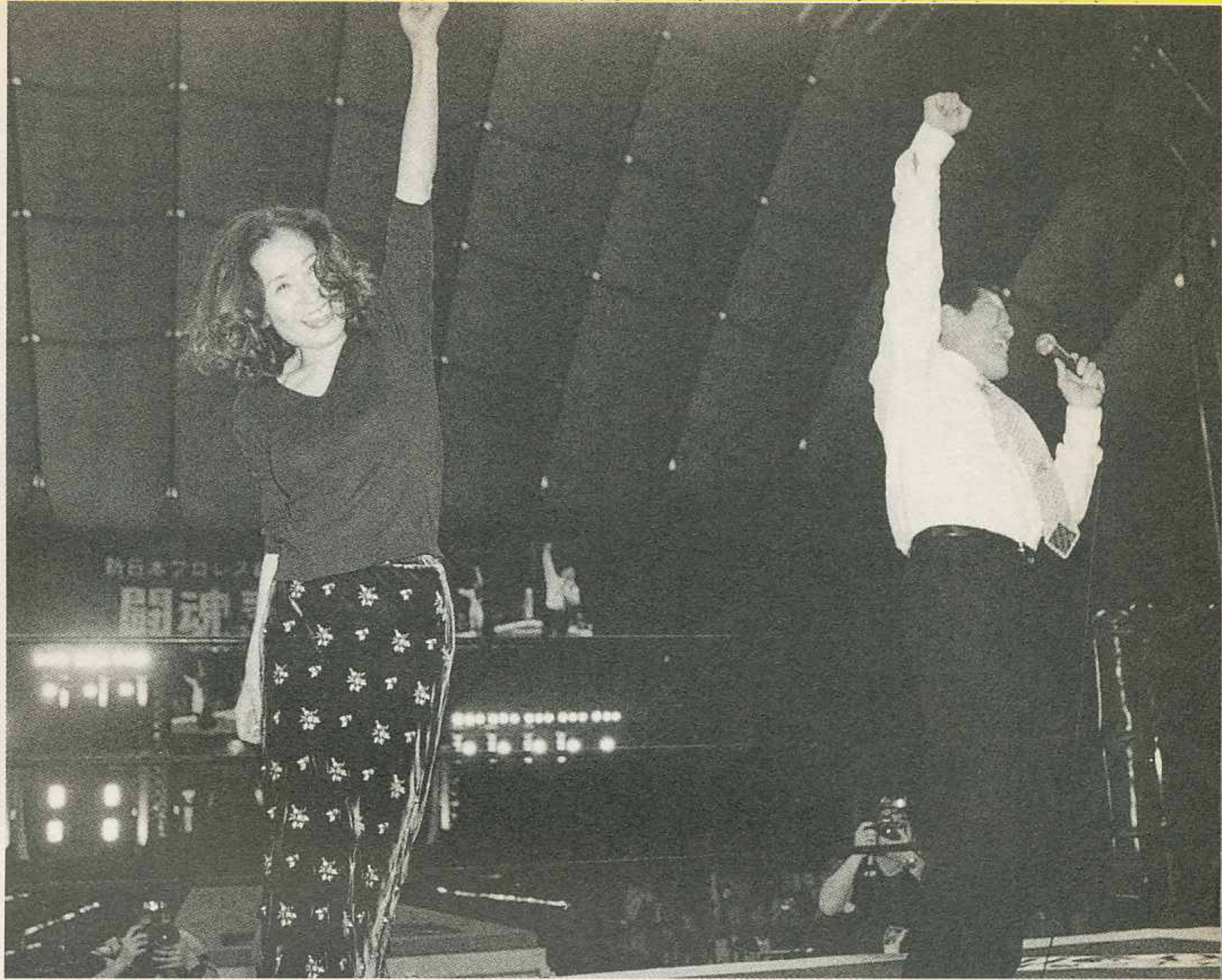
―でも、新間さんは猪木さんと復縁したこともあってか、『SRS・DX』という雑誌では栗山さんのこう書いててるんですよ（『SRS・DX』を渡す）。

栗山　（『SRS・DX』を読みながら）あ、ターザンと出てるんですね。

―内容的には「猪木さんに金を騙されたと言っているがギャンブルで借金をつくった」「貧すれば鈍」とか、かなり手厳しいことを言ってるわけですけど。

栗山　……いや、たしかに株で1億5千万ぐらい損してますけど、それは（猪木との関係が）終わったあとの話ですからね。猪木に金を貸したのは事実ですよ！

―栗山さんのお父さんが猪木さんにお金を貸したらしいですね。

栗山　昭和56年のころの話でね。猪木と新間が「お父さんに会わせてくれ」って頼んできたんで会わせたら、「お父さんをアントン・トレーディングの顧問にするから金を貸してくれ」って土下座するんですよ。もう両親がビックリしちゃってね（笑）。そこまでされたんで、ボクも貸すように言ったんです。そしたら、いつになっても返さないわけですよ。

猪木と美津子さん、ボクの3人で、プロレス番組の絵づくりの話をよくしましたたよ

―非常に猪木さんらしい話ですよね（笑）。

栗山　あんときは新間に電話しても「猪木と話してくれ！」って隠れちゃうし、最終的には返済してくれましたけど「ありがとう」の一言も言ってくれないわけ。

―猪木さんは借金しても「なんで俺が返さないいけないんだ？」って考えるような人ですからね（笑）。

栗山　（『SRS・DX』を読みながら）新間にしてもねえ……こんなこと言うなんて。本で良く書きすぎちゃったな、新間のことは。

―猪木さんが凄すぎるから、新間さんのことは仕掛け人として良く書かれてますよね。

栗山　俺は新間のお寺の檀家だけど……こんなこと言うんだったらやめたっていいんだよな……この2人は今度、アマゾンで興行やるんでしょ？　お金なんてどうするのかわからないし、また犠牲者が出てくるんじゃないかって心配ですよ。

―『ジャングルファイト』は新間さんとのタッグだし、期待してるんですけどねえ（笑）。

栗山　俺はそう思わんですよ。だってねえ、アナタ。中西のK-1を見ました？　プロレスがあんなことになってるのに、猪木はアマゾンとかやってるわけでしょ。何をやってるんだと思いますよ。

―栗山さんは新日本がガチンコをやり始めたことをどう思いますか？

栗山　どうって……意味がわかりませんよ。

―ダハハハ！　まあ、そうですよね（笑）。

栗山　やるならやるでいいとは思うけど、中西みたいなことになってもね……。勝ち負けはともかく一番求めたいのは内容なんですけど、あんなやられ方したら先に繋がらないじゃないですか。

―猪木さんに限らず、新日本のフロント陣も先のことを深く考えてないと思うんですよ（笑）。中でも誰よりも考えていないと思われる藤波社長について、栗山さんはどのような印象がありますか？

栗山　藤波はどこが良かったわけじゃないけど、ずっと上手い具合に流れてるんですよ。別にボクはどうでも良かったんだけど、猪木や新間が押してましたし、じゃあ売り出すかと。

―栗山さんはそれほどの乗り気じゃなかったんですね（笑）。

栗山　藤波は、ハッキリ言ってイエスマンもいいとこでしたから。

―いいとこですよね（笑）。

栗山　それにしてもね、あんなに選手が付いてこないというのは、どういうわけですか？

―クーデターのときに寝返ったコンニャク事件が尾を引いてるんでしょうけど、社長なのにあの人望のなさは凄いですよね（笑）。

栗山　結局、新日本は猪木が院政をやってるんでしょ。新日本の中に入ると縛られちゃうから、裏で好き勝手言ってるわけですよ。

―外にいるからこそ、エゲツない『テレ朝』批判もできるんですよね（笑）。

栗山　あれは猪木の議員スキャンダルのときに、プロレスも含めて猪木が画面上からカットされたからなんですよ、『テレ朝』から。

―ああ、『引退カウントダウン』の試合すら放映されなかったですからね（笑）。

栗山　そんときのことを根に持ってるんですよ、猪木は。『テレ朝』がなんで俺を守ってくれないんだって。

―それで、いまは『猪木祭り』をTBSで放送したりしてるんですね。

栗山　日テレでも『LEGEND』をやってますよね。「タイソンが来る」とか騒いでましたけど、許せないですよ、あんなこと！

―タイソンが来なかった理由にしてもいい加減でしたからね。「アメリカで暴れたから来ない」って事件を報じた新聞を証拠として見せたんですけど、日付があからさまに古いんですよ（笑）。

栗山　……恥ずかしいですよねえ。あんなときも新間がいたら、ホントに引っ張ってくるぐらいしてますよ！

―新間さんだったら、もっとリアリティのあることやってるはずですよ。来ないにしろ、タイソンからメッセージを取ったりして。

栗山　猪木は本当に何をやりたいのか、意味

猪木と
覆面烈
大巨人

流星仮面の

がわからない。アマゾンとかそういうくだらないことばっかやってるから、プロレスがこうなっちゃうんですよ。

――猪木さんの野心は、いま完全に電機とか事業方面に向いてますからね（笑）。

栗山　猪木には（アントン）ハイセルもあったでしょ？

――さらに杜撰なプロジェクトがありましたね（笑）。

栗山　佐山（タイガーマスク）が全盛で辞めたのだって、ギャランティで頭にきたんでしょ。猪木の会社や別の会社に流れたんでしょうから。

――タイガーマスクの権利料もろくに払わないから、梶原一騎先生も怒ったし。

栗山　あのころは『テレ朝』だって、お金はかなりフォローしてたんだよ。レギュラー枠の放映権料や特別試合料で、1ヶ月5000万円ぐらい払ってましたよ。

――当時だと相当な金額じゃないですか！　だからバックランドとかアンドレとか、WWFのトップクラスをバンバン呼べたんですね。

栗山　そういうガイジンが来ると、華々しく京王プラザでレセプションをやるんですよ。その費用もウチが半分持ちましたから。

――そこまで二人三脚だったんですね（笑）。

栗山　アリ戦の借金だって、『水曜スペシャル』でやった異種格闘技戦シリーズで返したんですから。ウイリー（・ウイリアム）戦の放送権料だけが7000万で、他は一律5000万。新日本には当時で2億5000万の借金があったんですけど、ギリギリで返せたと思いますよ。

――ミスターXにもそれだけの大金をつぎ込んでいたんですか（笑）。

栗山　ミスターXなんかヒドすぎて、憶えてもないですよ（笑）。ミスターXは例外として、モンスターマンや『ロッキー』のモデルになった（チャック・）ウエップナーとか、雰囲気があって良かったよねえ……。

――いま見ても、十分面白いんですよ！

栗山　アリ戦なんかも、いまだビデオになってないでしょ。レセプションから調印式、公開スパーリングなんてのが一本のビデオになれば、相当面白いんだけどね。

――前夜祭も最高に面白かったですよ！

栗山　ぜひビデオ化したいんですけど、映像の権利はアリ側が持ってるから。新間がアリ側に話を持っていったら「まだ金になるのか？」って言われて、10万ドル要求されたらしいよ（笑）。

――足元見られちゃったらしいですね（笑）。

栗山　新間は「夢のオールスター戦」のビデオ化でも、いろいろ動いていたんですよ。「馬場さんの奥さん、吉原さんの奥さんと新日本、主催者の『東スポ』から了解を取った。6月1日発売する」って言ってたんだけど……出てこないじゃない（笑）。

――栗山さんは、その夢のオールスター戦の後で猪木vs馬場実現に向けて奔走されたんですよね。

栗山　猪木から「栗さん、この一戦にいくら出せる？」って聞かれたんです。会社と協議して「1億円まで用意できます」って言ったら、「それを全部、馬場さんにあげるから、実現に動いてくれ」って。それで馬場さんと交渉したら、その条件で応じてくれてね。

――そのとき馬場さんはお金に困っていたんですか？

栗山　いや、困っちゃないと思いますよ。ただ、「1億円を貰ってしまったら、税金で大変なことになるから、『テレ朝』から貸したことにしてくれ」って言うんですよ。馬場さんはハワイに別荘を持ってましたよね。日本よりハワイの銀行の方が利息が高いから、あっちで貯金しようとしてたんですよ（笑）。

――頭いいですねえ（笑）。

栗山　猪木みたいに、その金をなんかで増やそうという人じゃないから（笑）。結局、試合は実現しませんでしたけど猪木は馬場さんの引退の花道をつくろうとしてたんですよ。

――その頃は猪木さんとの二人三脚もかなり順調だったんですね。

栗山　ボクなんか気になることがあると、猪木の代官山のマンションに行ってましたからね。中継の仕方とかいろいろ話し合って、猪木からいろいろ注文されましたよ。「CM明けのオープニングは観客の大歓声からスタートしたい」「照明の当たり具合を考えてくれ」とかね。猪木はそこまで気を使っていたんですよ。奥さんも映画スターだから、影響を受けたんじゃないですか。

――猪木さんがスターになれたのには、倍賞さんの力も大きいと思うんですよね。結婚してから猪木さんの表現力って明らかに向上したじゃないですか。

栗山　ボクも美津子さんには影響されましたよ。猪木は大抵、先に寝ちゃうけど、美津子さんと飲みながら絵づくりの話をしたからね。たまに（倍賞）智恵子さんも来たりして、2人から「栗ちゃんの絵はどうのこうの」とか言われましたよ（笑）。

――倍賞姉妹から指導されてましたか（笑）。

栗山　そんなこともありましたねえ……。だから、まさかあの2人が別れるとは夢にも思わなかったですよ。美津子さんは猪木に本当に尽くしてましたから。

――ホント、憧れの夫婦でしたよね。

『夢のオールスター戦』中継の舞台裏、そして、幻の「猪木vs馬場」戦の実現のために奔走した栗山氏。一度は馬場が猪木との対戦を決意した真意は？　結局、回避したのはなぜか？　試合の結末は――。その真実は永遠に謎である。

北朝鮮の『平和の祭典』があった流れから長州と永島はWJをつくったんですよ

栗山　本にも書いたけど、美津子さんが猪木と付き人の3人でラーメン屋に入ったとき、財布に1000円しかないのに気付いたんですよ。それで美津子さんだけ「お腹が痛くなった」とか嘘をついて、食べなかったんですよね。

――あれは「一杯のかけそば」に匹敵する美談ですよ！

栗山　美津子さんが「あの男さぁ～」とか言いながら、そんな話をボクに話するんですよ。「俺もアントンの目に惚れちゃったんだよね」とか頷きながら聞いてさ（笑）。

――猪木さんに惚れた同士なわけですね（笑）。

栗山　ボクは猪木のあの顔、あの目をボクは信じたんだけどねえ……。

――やっぱり栗山さんも、選手としてのアントニオ猪木は大好きだったんですね。

栗山　凄いレスラーでしたよ、猪木は！　練習もちゃんとやってましたし、鏡の前で険しい目つきしてよく身構えたりしてましたよ。

――つまり、表情の練習もしてたんですね。

栗山　そう。猪木はいっつもダラーっとしてた坂口とか、馬場ちゃんのプロレスが嫌いだったんですよ

95年4月28＆29日■見てみ、この観衆！　このマスゲーム！　北朝鮮・平壌で開催された『平和の祭典』は、両日で38万人を集める地球規模のイベントとなった。ツアーにはモハメド・アリも参加しており、最終日のメインとなった猪木vsフレアーは屈指の名勝負を展開!!　猪木の実質的な引退試合といわれている。

――闘う姿勢が見えないとダメだ、と。ただ、闘う姿勢が見えた山本小鉄さんに対して、栗山さんは批判的でしたよね。

栗山　それは本にも書いたけど、小鉄ちゃんはレスラーとして限界だったわけじゃなくて、センスの問題でしたからね。

――プッシュするべきガイジンを平気で潰したりするから駄目だって話でしたけど。

栗山　あの人はキレれちゃうことがあるから。ストーリーをつくって、最終戦でガイジンと猪木がタイトルマッチをやるわけじゃない。小鉄ちゃんがそんなことやったらサマになんないよ（笑）。そもそも小鉄ちゃんは自分でマッチメイクもやっていたし、その辺が猪木と新間の逆鱗に触れたんだろうね。

――それが後のクーデターに繋がったりしてるんですね。

栗山　でも、小鉄ちゃんはゴールデンタイムで引退試合やって、そのままTV解説者になったでしょ。あんなことやってもらったレスラーなんて他にいないですよ。坂口なんかも久留米で引退試合やったけど、深夜の放送でしたからね。

――なんでそこまで破格の扱いだったんですか？

栗山　結局、猪木からすれば小鉄ちゃんをスパンと斬るわけにはいかないんですよ。小鉄ちゃんは日本プロレス時代から猪木の金のやり方を全部見てるから。だから、猪木と新間はTV解説者だった遠藤（光吉）さんを降板させて、小鉄ちゃんを起用するように言ってきたんですよ

――栗山さんはその要望を受け入れたんですよね。

栗山　ボクとすればどっちでも良かったからね。ただ、「小鉄ちゃんの引退後の生活が困るから」って新間に言われたんだけど、なんで『テレ朝』が払わないといけないのって感じでしたよね（笑）。

――そんなプロレス界がおかしいと気付いたのは、いつごろだったんですか？

栗山　プロレスと関わってるころは別に思わなかったんですけど……あれは新日本が最初のドーム興行をやったときかなあ？　ボクは佐山が全盛のころにプロレスから離れて別の部署に行ってたんですけど、坂口が「栗さん、切符を買ってくれ」ってやって来たんですよ。

――最初のドーム大会は全然チケットが売れなかったみたいですよね。

栗山　しょうがないから、一緒に電通とかいろいろ回って5枚づつ買ってもらってね。そんときは寿司も奢ったんですけど、普通は逆じゃない？　「何なの？」って思いましたよ。

――そこでおかしいと思ったわけですか（笑）。

栗山　さっきも言ったけど、猪木に貸した金が返ってこなかったり、挙げ句には猪木の選挙応援にも駆り出されたでしょ。結局、猪木は落ちたんだけど、そのときボクに「一緒にハダカになろう！」って言ってきたんですよ。

――いい台詞ですよねえ（笑）。

栗山　良い言葉でしょ？　それで俺も馬鹿だから、ついつい『テレ朝』をやめちゃってさ（笑）。猪木と「ケイインターナショナル」という会社を興したんですよ。彼はまったく資本金を出さなかったけどねえ（笑）。

――ダハハハ！　栗山さんが全額出したんですか？

栗山　いや、川村さん（UFO社長）が10分の1出してくれたんですよ。だから、「ケイインターナショナル」のケイは、川村さんのKと栗山のK、寛至のKなんです。

――その会社では、どういう事業をやる予定だったんですか？

栗山　パンフ・グッズの製作とか、興行のプロモートですよ。猪木から、新日本プロレス関係の仕事を任せる契約書をもらったんだけど、坂口と会ったら「いまはどこの業者ともうまくいってるから携わらないでくれ」って言われてね（笑）。

――それも坂口さんらしいですよねえ（笑）。

栗山　もうね、猪木はな～んにもしてくれませんでしたよ。

――それでも、UFO自主興行のパンフは作ったって聞いてますけど。

栗山　いや、UFOには散々な目に遭いましたよ（笑）。

——そんなヒドイ目に遭いましたか！

栗山　UFOの一回目（両国国技館）は佐山の繋がりでTBSで放送したり、そこそこ客は入ったんですよ。でも、俺に振られたのは大阪の興行ですから。

——大阪大会はホント、入らなかったですよね（笑）。

栗山　寂しかったですよねえ……（しみじみと）。もうね、全然お客が並んでないから、大会開始前に佐川急便に頼んで東京にパンフを送り返しましたから。

——売れるわけがない、と（笑）。

栗山　100部も売れたかな？　大損ですよ、カラーで5000部刷りましたから。

——うわっ、それはいくらなんでもムチャですよ！

栗山　いやね、佐山が「5000部刷ってくれ。自分でリスクを背負う」って言い張るんですよ。関係者が「絶対に売れないから、それはやめよう」って説得しようとしたら、佐山の頬がピクピクし始めて、いきなり「俺の仕事を邪魔するのか!?」って殴りかかろうとしてね。

——ダハハハ！　キレましたか（笑）。

栗山　永島と一緒に必死に押さえたんですけど、もう大変でしたよ！　そんな事態になったから、ボクも思わず5000部も刷ったんですけどね（笑）。

——そういう裏事情があったんですね（笑）。

栗山　その関係者と佐山とは真樹先生が仲裁に入ったみたいですよ。その仲裁場所っていうのが……。

——もしかして、SMクラブですか？

栗山　そうらしいですね（笑）。

——ダハハハ！　やっぱり（笑）。

栗山　真樹先生が2人を握手させて「今日は良い日だぁ！」って、たいそう喜んでたみたいですよ。

——真樹先生らしいなあ（笑）。

栗山　でも、佐山は結局、猪木さんとは喧嘩別れしちゃったでしょ。

——UFO興行の打ち上げパーティーで、佐山さんが猪木さんにフォークを突き付けたん

みんなが『ジャングルファイト』に走るので 本誌は〝電機〟を独占します!!

鈴木みのるまでもが参戦表明を口にした、9月14日アマゾン決戦『ジャングルファイト』がもう大変！　なぜか『格闘技通信』にアントン総帥＆イズマイウのインタビューが載ったり、『ジャングルファイト』のサポートを活動する「闘魂アマゾン探検隊」が新日本の会場内で募金活動を予定したり、我らがドラゴンが『開運！なんでも鑑定団』に呑気に出演して茶碗を出品したり（これは関係ないか）、本誌読者的にはたまらないシーンが展開されている。いまだのその全貌は見えてこないが、『ジャングルファイト』周辺は、思わず頬をつねりたくなるスケールで動いている！

すでに詳報されているように、『ジャングルファイト』は観戦チケットは無料だが、100万円から始まる個人協賛金、冠スポンサーは2億円が必要。テレビ中継もプランに挙がっているが、実現に向けて奔走するのはミスター・ガチンコの某社長と、伝説テイストがバッチリ注入！　そして、夏のビックマッチに向けて四苦八苦する各団体に、当たり前のように選手の貸し出しを要請する強引さ、「正式ではないが、高山も『出たい』と言ってきた」と、高山の（たぶん）社交辞令をフライングするアントン総帥はさすがの一言。さらに、「環境問題」をやけに前面に打ち出した『ジャングルファイト』記事を書くC・W・ニコルチックなヤスカクなど、『ジャングルファイト』は決戦前にお腹いっぱい！

ですけれども！　アントン世界戦略といえば、一つ、大事なのを忘れちゃいませんかぁ!?（高田劇場調）。

前号の本誌でも報道したが「次に帰ってきたときは右手を挙げて報告できることがあります！」と言い残し、アメリカに飛び立ったアントン総帥。もちろん「報告できること」とは電機のことなのだが、6月25日に帰国したアントン総帥は到着ゲートに姿を現すなり、右手をダーッと突き上げた!!　やった！

世界戦略に待ったなし！　どうにも止まらないアントン総帥は、アマゾンに続いて、ハリウッドやアテネでも開催を計画中。一緒にハダカになりますかー!?

永久電機、遂に遂に完成！　バンザ〜イ!!　バンザ〜イ!!

思い起こせば、起動失敗に終わり「ボルトをギュッと締めれば問題ねえです！」と、アントン総帥がンムフフ釈明した御披露目会見から1年半の月日が経っている。ボルトを締めることだけに、これほど時間を擁したのはなぜか？　電機の存在を信じる電気科卒の自分は事情を考えた。強引に考えた。無理矢理結びつけた。思いついたのは、後進国でも大量生産できる低コスト化プロジェクト故に慎重を期したこと。そして一番考えられるのは、世紀の大発明を発表する舞台を選出していたのではないか——？

昨年の『猪木祭り』、5・1『猪木フェスティバル』などでの発表の噂はあった。しかし、『ジャングルファイト』がその大舞台に一番相応しい！　なぜなら、永久電機は原子力、水力、火力などを使わず、自然を破壊せずに電気を発生させる大発明。「環境問題」をテーマに掲げる『ジャングルファイト』においてこそ、発表するに相応しい！　起動確認した人間が誰もいないのが、ものすご〜く不安だが、9月14日が「電機の日」になる可能性は高いのだ。

世界戦略に「もう、ここまで来たら乗っからないと損だよ」と自信満々のアントン総帥！　この言葉に騙されたと思って、9月14日は一緒にハダカになろうではないか！

（ジャン）

新間とくっついたことをきっかけに
アントニオ猪木の原点に戻ってほしいですね

ですよね。

栗山　よく知ってますねえ（笑）。もともとUFOができたのは、佐山が『闘魂伝説の完全記録』って本の企画で、猪木としばらく振りに会ったのがきっかけだったんですけどね。

——ああ、2巻から5巻まで出版されただけで刊行がストップした幻の本ですよね。

栗山　知ってます？　あれ、ボクも企画に携わってるんですよ。

——そうだったんですか！　10巻まで出る予定が出版元の有朋堂が倒産しちゃって、なぜか第1巻が出ないまま終わった不思議なシリーズでしたよね（笑）。

栗山　いや、第1巻はね、猪木の全対戦記録を載せるはずだったんですけど、大変な作業になるでしょ？　だから後回しにしたんですよ。あれを出してたパラスって会社の社長が、いまはボクの本も出したゼニスプランニングにいるわけなんですよ。

——やっと謎が解けましたよ（笑）。他に猪木さんとは一緒にロスでの平和の祭典を企画したこともあったみたいですね。

栗山　あれには途中まで絡んでるんですけど、全然宣伝しないから客が入らなくてね。後楽園ホールでやれば良かったって話ですよ（笑）。

——猪木さんがダン・スパーンと組んで藤原喜明＆オレッグ・タクタロフと闘ったものの、客入りは相当悪かったらしいですね（笑）。

栗山　あんだけロスに日本人がいるのに大会があるのを誰も知らないんですよ。そのときロスでマラソンがあったんですけど、猪木はアリと一緒にスタートマンをやってるのに、それすら誰も知らない。

——そんなプロモーションの仕方なら、入るわけないですよ（笑）。

栗山　しかもね、試合の模様を撮影してるのに映像の権利を払うお金がないからビデオ化できないっていうんだよ。オールスタッフで行ってるにのさ（笑）。

——北朝鮮でやった平和の祭典の裏側も、実はドロドロしてたらしいですね。長州さんを保証人に現在WJ社長の福田社長から資金を借りたけど、長州さんは猪木さんが当てにならないからUインターとの対抗戦を実現させて返済したりで（笑）。

栗山　そういう流れがあるから、長州や永島はWJをつくったんですよ。

——永島さんとはブル中野引退興行をやる話もあったみたいですね。

栗山　ああ、そんなことも知ってるんですか（笑）。両国か後楽園2連戦でやろうって話だったんだよ。でも、本人がやらないって言われてね（笑）。

——ブルさんは引退興行もやらないまま普通に引退しちゃいましたよ（笑）。

栗山　あとボクは大仁田のディナショーもやってるんですよ。

——ディナーショーって、大仁田さんが歌を歌うんですか？

栗山　いや、喋るだけです（笑）。それも客が全然入らなくてね……。あげくに小切手700万ぐらい持ち逃げされちゃったんですよ。

——そこでも騙されましたか（笑）。

栗山　大仁田にはちゃんとギャラを払いましたけど、一銭もまけてくれなかったです（笑）。

——一体、栗山さんはマット界でいくらぐらい損したんですか？

栗山　いや、損ばかりじゃないし、そんなのは自分の商売だからいいんですよ。でも、猪木は「一緒にハダカになろう」と言っておいて、なんで知らん顔なのって言いたいですね。

——いまは1人だけ洋服着ちゃってますからね（笑）。

栗山　自分一人だけ儲けて、あれだけ人気があったプロレスがこんなに下り坂になってるわけですよ。昔の姿勢を思い出してプロレスに取り組んでもらいたいですね。

——アマゾンで興行やってる場合じゃないだろう、と。

栗山　だって、猪木は黙っていれば、コミッショナーになれる人ですよ。それぐらいのことをやってきてるわけですよ。でも、いまの猪木に各団体が判を押せますか？　新間とまたくっついたことをきっかけに、アントニオ猪木の原点に戻ってほしいですね。またプロレスの素晴らしさを復活させてほしい。そう思いますよ

——しかし話を聞いていてわかるのは、どうこう言っても栗山さんがアントニオ猪木の大ファンだってことなんですよね。

栗山　困ったことに、そうなんだよねえ（笑）。

——ダハハハ！　栗山さんが、また猪木さんと復縁する日を待ってます！

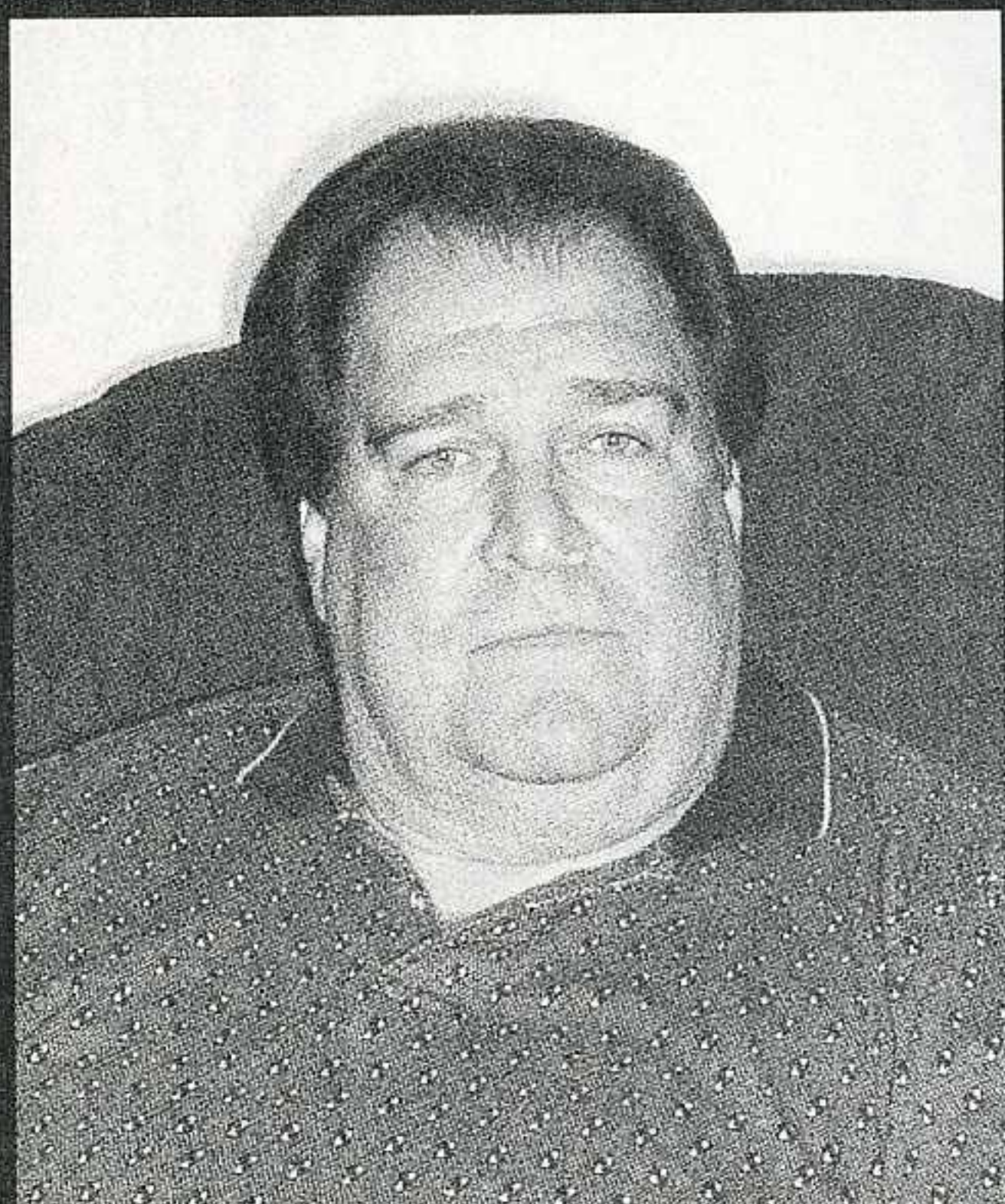
【03年7月9日／都内某所にて収録】

□Profile

【くりやま・みつお】
昭和16年東京出身。武蔵大学経済学部卒業後、NET（現・テレビ朝日）に入社。プロデューサーとして、『ワールドプロレスリング』や『水曜スペシャル』などの人気番組を手掛けた。退社後は、猪木と共に会社を設立している。

流星仮面の告白

猪木との「賞金3万ドル」の真実
覆面剥ぎマッチ&
大巨人アンドレの正体

Masked Super Star
マスクド・スーパースター

昭和を代表する大型実力派マスクマンが最後に流れついた場所は少年更正施設の校長だった

いまではアックス・デモリッションとして通りがいいかもしれないが、
やはりマスクド・スーパースターを抜きにして彼のレスラー人生は語れない。
日本マット黄金時代の凋落と共に流れ去っていった流星仮面の輝きは
ファンの脳裏にしっかりと刻み込まれているのだ。
流星仮面を追い求め、フロリダを訪れた我々に
あの覆面に込められた熱きプライドを静かに語ってくれた。

取材/コーチャン氏　特別協力/タダシ☆タナカ　構成/ジャン斉藤

designed by Bun-Chan (Two Three)

猪木との覆面剥ぎマッチはやりたくなかった
流星仮面を失うのがイヤだったんだよ

Masked Super Star

昭和のプロレスファンの間で、少し前まで超レア・アイテムとして高値で取引されたTシャツがあった。それが"流星仮面"ことマクスド・スーパースターの絵柄である。

日本マットでは新日本プロレス一筋に滅私奉公した流星仮面は、リング上では散々に悪役振ったが、一旦リングを降りれば礼儀正しく物静かでスマートな男として知られている。大学院出身のインテリであり、現在はたまに試合をこなしながら高校の体育教師を務めるなど、WWFで変身した怪奇派のアックス・デモリッションからは想像も付かない姿がリング外にあるのだ。

本名はビル・イーディ。アンドレとマシン軍団に扮するなど、様々な顔を使いわけ暴れ回った彼の全盛期は、金曜夜8時からのゴールデンタイムで放送された『ワールド・プロレスリング』中継の黄金時代とピタリと重なる。

そんな日本マット黄金時代の生き証人が、自分の歴史を少しだけ語ってくれた。

――先生！　まず初歩的な質問になりますが……。

マスクド　（いきなり遮って）初歩的な質問？　おいおい、年齢だけは勘弁してくれよ。私は昔から「年齢不詳」「正体不明」を通してきたんだからね（微笑）。

――いやぁ、怪奇派プロレスラーの鑑ですね！　でも、年齢不詳はともかく、正体不明はちょっと無理がありますよ（笑）。

マスクド　フフフフ。まぁ、今日はお手柔らかにお願いするよ！

――こちらこそ、よろしくお願いします!!

マスクド　ところで、君たちは日本から来たらしいが、「ブシドウTV」を知ってるかい？

――ぶ、武士道TV？　それってサムライTVのことですか？

マスクド　そんな名前だったかな？　以前、そこのTVクルーがジョージアの自宅まで二日間も取材に来てくれたんだよ。過去のレスラーを訪ねる企画だったみたいで、日本からの取材はそれ以来だね。ようこそ、日本の諸君たち！（ニッコリ）。

素顔の"ビリー・クラッシャー"誕生秘話

――現在のお住まいはジョージアということですけど、生まれはペンシルバニア州のピッツバークなんですよね。

マスクド　そう。ピッツバークからはブルーノ・サンマルチノという偉大なチャンピオンを輩出してるけど、私はミルウォーキーから来たクラッシャー・リソワスキーに憧れたんだよ。

――ディック・ブルーザーとのブルクラコンビがアイドルでしたか！　もしかして、一時期素顔の「ビリー・クラッシャー」を名乗っていたのは、リソワスキーの影響があったりしたんですか？

マスクド　そういうこと。あの暴れっぷりは凄かったからね。私もああいうタイプを目指したわけだよ。

――レスラーのなろうとした、そもそもきっかけはあるんですか？

マスクド　私はカレッジでフットボールをやっていたんだが、フットボール仲間とたまたまプロレス会場に行ったんだよ。そのときプロモーターから「お前たち、やけに身体がデカイがレスラーかい？」って聞かれたんだ。

――先生は、190センチ、130キロオーバーの巨体ですからねぇ。レスラーに間違われるのは無理もないですね。

マスクド　あの一言をきっかけに、この身体をプロレスで生かそうと思ったんだよ。そんなモンさ。

――デビュー戦は覚えていますか？

マスクド　もちろん覚えてるよ。相手はエリック・レッドというレスラーなんだけど、当初の予定ではゴリラ・モンスーンとレッドの試合だったんだ。ところが飛行機のトラブルでモンスーンが来れなくなってしまって、プロモーターから「お前がやれ！」ということで試合することになったのさ。

――かなり慌ただしいデビュー戦だったんですね（笑）。

マスクド　傑作なくらいにグリーンだったよ。何をやったのかまったく覚えてない。だから先ほどの「もちろん覚えてる」という発言は訂正させていただくよ（笑）。

――わかりました（笑）。先生はそのグリーン時代を経て、AWA、NWA、WWF（現・WWE）と、かつての全米三大テリトリーを体験された貴重な存在の一人になるわけですが、それぞれのプロモーションの違いとか、居心地のようなものはどうだったんでしょうか？

マスクド　居心地が良かったのはNWAだよ。でもそれは、自宅がジョージア州アトランタだったからだな。シャーロッテなどのノースカロライナ州はジム・クロケット・プロモーション、ジョージア州はジム・バーネットのプロモーションが仕切っていたけど、それらのテリトリーは自宅から車で行けたからなぁ。それがNWAが好きだった理由だよ。

――近所だから好きだった、と（笑）。

マスクド　そういうことだね（笑）。AWAってのはやっぱり飛行機で行かねばならないからな。で、WWF。これはねぇ、もうずっ～とツアーに拘束されてしまって、家族が犠牲になってしまったな。あのころは、とってもハードな生活だったよ。

――WWFの過酷なサーキットのために離婚したり、家庭崩壊を招いたケースはよく聞きますよね。

マスクド　タイタン（WWFの親会社）はお金はいいんだよ、お金は。私が体験したプロモーションの中では、待遇面は1、2を争う良さだったからね。でも、あのツアースケジュールに

は参ってしまったな。

——ちょっと答えづらい質問なんですけど、WWFのステロイド疑惑が新聞に出て、世間をも揺るがすスキャンダルに発展しましたよね。その影響で大型選手が皆クビにされて……。

マスクド　（遮って）私を除いて、だろ（笑）。まぁ、ステロイド疑惑の件に関しては、私が語ることは何もないよ。ただ、青少年を育成する体育教師の身から言わせてもらうと、あの〝魔法の薬〟からは手を引いた方がいい。これは日本のレスラーにもぜひ伝えておいてくれ！

狂声を放つマネージャー若松と、正体は一目瞭然のジャイアント・マシン、流星仮面が扮するスーパーマシンだ!!　次々と増殖する怪覆面、指揮者の濃厚なキャラ、巨人戦士登場など、マシン軍団は魔界倶楽部のモチーフとなっている

流星仮面のプライド

——WWFでは、顔にピエロチックなペインティングをしたアックス・デモリッションに変身して、人気を博しましたよね。

マスクド　スマッシュ（ザ・ラシアンズの片割れクラッシャー・クルスチェフ）とのデモリッションズだね。途中で新日本プロレス道場出身のブライアン・アダムスがクラッシュ（・デモリッション）となって加入して、3名のチームになったりしたけど、ピークはタッグチャンプになったコンビ時代だろうな。

——デモリッションズは、アンドレ＆キング・ハク（プリンス・トンガ）や、LOD（リージョン・オブ・ドゥーム＝ロード・ウォリアーズ）、パワーズ・オブ・ペイン（ウォーロード＆コンガ・ザ・バーバリアン）と抗争をしてましたけど、大型選手のドッタンバッタンの攻防は、プロレスの醍醐味が十分伝わってきましたよ！

マスクド　そう言ってくれるのは嬉しいけど……ハッキリ言えば、デモリッションズはギミック主体だったから、個人的にはそれほど思い入れはないんだよ。

——思い入れなしですか（笑）。でも、いまでもアックス・デモリッションとしてファイトしてるんですよね。

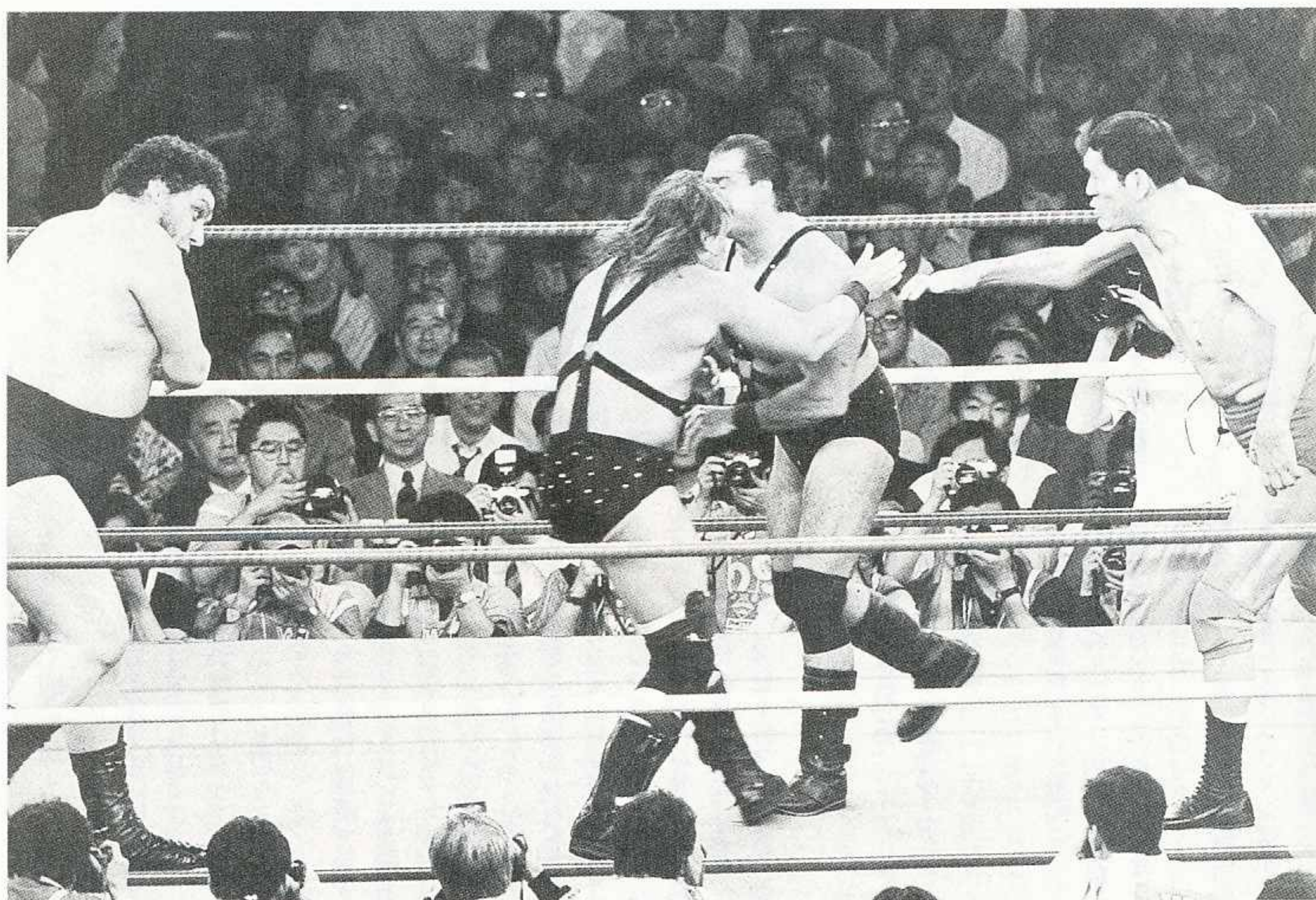
マスクド　いや、それはアメリカでマスクド・スーパースターより名が通ってるからだよ。興行の宣伝として効果的だから使ってるだけであって、それこそギミックというわけだ（笑）。

——ロード・ウォリアーズがWWFで使ったリングネームのLODじゃないと、アメリカじゃ通用しないのと同じなんですね。

マスクド　それだけタイタンのプロモーションが絶大だった現れだな。結局、デモリッションズは、スマッシュとファイトマネーのことで大喧嘩になってね。それでジ・エンドさ。アイツとはもう10年以上も一言も口を聞いてないなぁ。何をしてるのかも知らないし、まぁ知りたくもないけど（冷たく）。

——そんな結末もあったからこそ、思い入れも薄いわけですか。

マスクド　いや、尽きるのは、さっきも言ったようにあれはギミックだったからね。マスクド・スーパースターこそが本当の私の姿だったんだよ。

——仮面を被ったあのキャラこそ本当の姿だった、と。

90年4月13日の金曜日、WWF＆新日本＆全日本が東京ドームで奇跡の合同興行を開催!!　天龍vsサベージの屈指の名勝負が生まれ、倉持アナの「イカ天とは〝イカス天龍〟のことであります!!」の名フレーズも飛び出した！　デモリッションズは、初結成となった馬場＆アンドレの摩天楼タッグと激突している

マスクド　そう。流星仮面はちゃんとしたレスリングができるキャラクターだったし、私の本当にやりたいことを表現できたと思ってる。本当のプロレスラーだったんだよ（キッパリ）。

――当時、実力派マスクマンの第一人者でしたもんね。

マスクド　それは日本のプロレスの土壌が良質だったことも、流星仮面がオーバーした要因として大きいんだ。これはリップサービスでもなんでもなく、私は日本のプロレスが一番大好きだったよ。なぜなら日本のファンはとてもプロレスをよく知ってるだろ。アメリカだと、TVのアナウンサーが「Ｇｏｏｄ！」って言ったから、ファンも「この選手はＧｏｏｄなんだ」と思ってしまうというか……要は主体性がないんだよね。でも日本は、悪役だろうが善玉だろうが、いい試合をしたらちゃんとお客さんがわかってくれる。そこが私には嬉しかった！

――先生は日本でいい試合をたくさんしてましたけど、テレビの特番でやった超近代競技大会でもキッチリとプロレスラーの凄さを見せつけてましたよね。氷上綱引きなんかではファイティング原田、荒勢、（ディック・）マードックと並み居る強豪を撃破して優勝したり（笑）。

マスクド　ああ、ディッキーと決勝をやったんだっけかな（笑）。まぁ、ああいう勝負になったら我々レスラーが勝つのは当然も当然の話だよ（キッパリ）。

――頼もしいお言葉ですね（笑）。

猪木との「賞金3万ドル＆覆面剥ぎマッチ」

――日本では猪木さんと「賞金3万ドル＆覆面剥ぎマッチ」もやりましたけど、先生が勝ったら賞金3万ドルを貰えて、負けたら覆面を剥ぐという珍しい形式の試合でしたね。

マスクド　あの覆面剥ぎマッチは本当はやりたくなかったんだよ！

――あ、そうだったんですか！

マスクド　負けて素顔をさらすことは何とも思わなかったけど、流星仮面というレスラーを失うのがイヤでイヤでしょうがなくてね。

――そういう思いがあったからこそ、負けてマスクを剥がされたときに逃げるように控室に引き揚げたんですね。

マスクド　そうだ。新日本プロレス側には「負けて覆面を脱いでも大丈夫。逆に素顔の方がオーバーする」って言われていたんだけどね。自分でも言うのもなんだけど、どうやら私は「顔が良い」らしいよ（笑）。

――先生は十分、ハンサムですよ（笑）。それにしても、そんな先を見据えたプランだったんですね。

マスクド　でも、そのあと何回か素顔のビル・イーディーとしてファイトしたけど、それほど話題にはならなくて、また流星仮面に戻っただろ。それは私の顔が悪かったのか？　それとも、ファンはやっぱり流星仮面を求めていたのか……？　その判断は諸君らに任せるよ（笑）。

――もちろん、後者に決まってますよ！（笑）。ちなみに猪木さんを始め新日本のプロレスラーの印象って何かあります？

マスクド　イノキサンは、カリスマ・リーダーとして、いつも決然たる態度を取ってたよね。フジナミサンは、とにかくクイック！　動きが速かった！

――昔のドラゴンの動きはホントに凄いですよね！

マスクド　フジナミサンのすばしっこい動きでやられたことが何度もあったな。それからサカグチサン。さすが柔道日本一だけあって、とにかくタフでリストの力が物凄かったし……一番強かったのは、実はサカグチサンだと思うんだよ。

――昔のガイジンレスラーは、みんな口を揃えて言いますね。「最強はビック・サカだ!!」って。

マスクド　あと日本で心残りがあるとすれば、ババサンと対戦できなかったことかな。

――あれ？　90年のＷＷＦ、新日本、全日本の合同興行『日米レスリング・サミット』で、デモリッションズとして馬場＆アンドレと対戦してますけど。

マスクド　いや、マスクド・スーパースターとして、偉大なレスラーとシングルマッチで闘いたかったんだよ。私のフェバリット・ホールドであるフライング・クローズラインはババサンの影響だったりするしね。

――日本での呼称はジャンピング・ネックブリーカー・ドロップのことですね。

マスクド　あれはね、当時マネージャーだったボリス・マレンコが持ち帰った全日本プロレスのビデオでババサンがやっていて、マレンコが「図体の大きい君がやるべきだ！」って提案してくれたのがきっかけだったんだ。

――先生のジャンピング・ネックブリーカー・ドロップはド迫力でしたよ！

マスクド　いや、ババサンよりはダイナミックさには欠けるな。まぁ、私のはもう少しスピーディーにやれるけどさ（笑）。

いま明かされる、アンドレ・ザ・ジャイアント衝撃の実像

――アンドレがマシン軍団ギミックでジャイアント・マシンになったとき、先生はスーパー・マシンに変身しましたよね。

マスクド　やったやった。私はともかく、アンドレのマスクマンはインパクトあったんじゃないか（笑）。

——正体が一目瞭然なのが最高でしたよ！　それなのに実況が「一体、誰でありましょうか!?」って叫んだりするのも良かったですし（笑）。これってミスター高橋さんのアイディアだったんですよね？

マスクド　それは忘れてしまったけど、ピーター（高橋の愛称）は我々ガイジンの世話役だったから良く覚えているよ。ピーターは元気なのかい？

——はい。いろんな意味で元気いっぱいですね（笑）。

マスクド　そうか。昔の知り合いは次々と亡くなっているからね。マードック祭り、アンドレ祭り……。寂しい話だよ（しんみりと）。

——アンドレとは、新日本やWWFなど同じリングで闘う機会が多かったですけど、仲は良かったんですか？

マスクド　仲が良いも何も、アンドレと私は大の親友だったんだよ。アンドレは誤解されてるけど、実は頭の切れるとってもいい奴だったんだ。彼はよくプレスやファンに「出て行け!!」と怒鳴っていただろ？

——気難しいレスラーとして有名でしたね。

マスクド　親友だった私が証言するが、それは本当の彼ではない（キッパリ）。いいかい？　賢者は愚者を演じることができるけど、愚者は賢者にはなれないんだよ。アンドレはいつも「イエス」か「ノー」か、「白」か「黒」かを迫っていたし、灰色の答えを良しとしなかった。それはね、彼の生きる知恵でもあったんだな。ほら、やっぱり彼は自分が長くは生きられないことを知ってたんだよ。

——あれだけの巨体ですから、どこかしらの内臓に異常を来していたんでしょうね。それにアルコールの摂取量もハンパじゃなかったみたいですから。

マスクド　だからこそ、時々バカを演じて、本当の友を見分けていたのさ。残された時間を、本当の友と有意義に過ごすことを考えていたんじゃないかな、アンドレは……（しみじみと）。

——いやぁ〜、深いお話が聞けて嬉しいです！

Masked Super Star

デモリッションはギミック主体で思い入れはない 流星仮面こそ、本当の“プロレスラー”だった

198センチ、132キロ（当時）。ボロ・モンゴル、ビリー・クラッシャー、スーパー・マシン、マスクド・スーパースター、アックス・デモリッション、本名のビル・イーディーとあらゆるリングネームを駆使。看護婦である2人の娘が「私より稼いでいる」とボヤく年齢不詳の怪奇派レスラーである。

流星仮面が流れ着いた場所

——先生の最後の来日は91年の新日本プロレスのリングですから、10年以上も経ってますね。

マスクド　いや、昨年、来日する機会があったんだよ。トロントのタイガー・ジェット・シンから電話があって、新日本プロレスの『30周年記念』に呼ばれたんだけど、ちょうど都合が悪くてねぇ。

——シンがチャイナと絡んだ、5・2の東京ドームに招待されてたんですか。

マスクド　行きたかったなぁ（悔しそうに）。35周年記念大会があるなら、ぜひ呼ばれたいな！

——こないだは新日本OBバトルロイヤルがあったんですけど、流星仮面が登場したら面白いでしょうね！

マスクド　いまは月に2回くらい今日のような地元の大会に出ているから、体調的には問題ないよ。それとサイン会とかもやってるんだけど、私の孫をそのサイン会に連れて行ったら、「ボクもプロレスラーになりたい！」って言うんだよ（嬉しそうに）。

——あ、お爺ちゃんになってましたか（笑）。先生はお孫さんがレスラーになるのは賛成ですか？

マスクド　「最初にカレッジに行きなさい。それからプロレスラーになるんだったらOKだ！」って答えたよ。やっぱり、レスラーという職業はいずれ終わりが来るからね。第二の人生の準備をしておくのは大事なことなんだよ。たしかにリングに一生を捧げることも素晴らしいことだけど、カレッジで学んでいればアクシデントでリタイアしたときに別の道に進むことも可能だからね。

——先生もウェスト・バージニア州立大学を卒業してるんですよね。

マスクド　大学院のマスター（修士号）も持ってるよ。私はいまはね、高校でフットボールとかを教えているんだが、少年犯罪更生施設の校長免許を取るために勉強をしているんだよ。

——流星仮面が更正施設の校長ですか!!　誰も逆らいそうにないし、アッという間に更正しそうですね（笑）。

マスクド　まだ先の話だけどな（笑）。免許を取るのにあと一年くらいかかって、それで校長になったら5年の任期はやるつもりさ。それまでは、リングでファイトするつもりだよ。

——まだまだリタイアは考えないんですね。

マスクド　私がリタイアしても、孫が代わりに暴れてくれるんじゃないかな？もし、とってもヤングなマスクド・スーパースターが日本に現れたら、私の孫と思ってくれて結構。孫をよろしくお願いするよ（笑）。

——先生の流星仮面としての来日も心待ちにしています！　今日はありがとうございました！

【5月某日／ニューヨークにて収録】

リング内・リング外の情報を読者にお届けする RADICAL情報局

>>>8・31パンクラス両国大会、みのるvs飯塚、國奥vsグレイシー決定!!

「パンクラスvs新日本プロレス」と「パンクラス vs 世界のトップ・バーリトゥーダー」戦の２大対抗戦を主軸に行われる、パンクラス９年ぶりの両国大会。６・13新日本武道館大会で、自称・新日本の門番、成瀬昌由を秒殺した鈴木は「最近、プロレスラーがVTに参戦することが多くなっているけど、あとからルールがどうとか言う奴が多い。今回は、あとから文句を言われないようにあえて、相手の土俵である"レスリング"で勝負をしたいと思って、このルールにしました」と、"キャッチレスリングルール"で行われる理由を説明し「１Ｒ以内に、ギブアップで極めてやる」と、堂々と宣言した。

國奥と対戦するグレイシー柔術黒帯のクラウスレイ・グレイシーは、世界の格闘技界にそこそこ精通した事情通（本人談）・ブッカーKによると「ホドリゴ・グレイシーの純血のいとこで、今回が初VT」だという。180センチ、81.9キロの体格もさることながら「顔もハンサム」という大きなセールスポイントを持つ23歳だ。
なお、前回の日本テレビ放送で、試合をカットされていた郷野は「前回カットされてたからって、やり方変えるんじゃなく、"カット上等"の精神で今回も試合をしたいと思います！」とブチあげていた。今大会は、５月の横浜大会に続き日本テレビ系列で、９月４日（木）、25：33から55分枠の放送が決定している。

Sammy Presents PANCRASE 2003 HYBRID TOUR

◆東京・両国国技館　8月31日（日）試合開始 16:00
【決定対戦カード】
★鈴木みのる X 飯塚高史　※キャッチレスリングルール
★國奥麒樹真 X クラウスレイ・グレイシー　※パンクラスオフィシャル・ルール
【出場予定選手】
菊田早苗・近藤有己・郷野聡寛・三崎和雄。（他、新日本選手が参戦予定）
◆入場料金：VIP（最前列のみ、パンフレット付き）30000円／SS席10000円／A席8000円／B席6000円／2F-A席7500円／2F-B席5500円
※当日券は上記の券種すべて500円増し。一般発売は7月27日（日）から発売中。
◆問：パンクラス 03-5792-0815

>>>『TOURYUMON・X ～逆上陸 第一戦～』開催決定!!

闘龍門JAPAN、闘龍門2000プロジェクト（Ｔ２Ｐ）に続く第３の闘龍門、『TOURYUMON・X』がいよいよ日本に逆上陸する! 2001年11月、六角形のリングとルチャリブレ・クラシカで観客の度肝を抜いたＴ２Ｐ。『WRESTLE－1』で衝撃のデビューを飾った石森太二（※全日本の石狩太一とは無関係）率いる『TOURYUMON・X』は、いったいどんな姿で日本に現れるのか!?待望のミニC－MAXも登場するぞ!!

『TOURYUMON・X ～逆上陸第一戦～』

◆東京・ディファ有明　8月22日（金）　試合開始 18:30
◆チケット：特別リングサイド6000円／リングサイド5000円／指定席A 4000円／指定席B3000円／立見（当日のみ）3000円
※7月21日（月）より、チケットぴあ、ディファ有明、後楽園ホール、チャンピオン、大山アメリカン、チケット&トラベルT-1で発売中。
◆問：TOURYUMON.S.A.de C.V.　078-747-3410
【出場者】石森太二、佐藤秀、佐藤恵、ミニC-MAX、新井小一郎　ほか

>>>衝撃!! 闘魂三銃士がディナー&トークショー開催!!

衝撃!!　橋本真也（ZERO－ONE）、武藤敬司（全日本プロレス）、蝶野正洋（新日本プロレス）が揃い踏み!!　かつて「闘魂三銃士」と呼ばれた男たちが一堂に会する歴史的なディナー＆トークショーが開催される。この3人が集まってプロレスの将来を真面目に語り合うとも思えないので、他では聞けないバカ話が繰り広げられるのは必至!!　ディナーショーといえば歌が付き物なだけに破壊王の破壊的な歌声が炸裂するかも!?　ステキな真夏の夜の夢が見られそうだ。

◆日時：8月20日（水）18:30～21:00
◆場所：兵庫・新神戸オリエンタルホテル10F 大宴会場「真珠の間」
（※新幹線・神戸市営地下鉄・北神急行「新神戸」駅と直結）
◆料金：SS席25000円／S席20000円／A席15000円
（※料金にはトークライブ、料理、飲み物、サービス料、税金が含まれる。健康増進法の施行に伴い、本イベントは全席禁煙となる）
◆出演：橋本真也、武藤敬司、蝶野正洋　◆司会：三田佐代子
◆チケット購入方法：プロレス&格闘技のポータルサイト『六本木アリーナ』（http://www.rokuari.com）にて販売中!!
◆問：六本木アリーナ（メール） info@rokuari.com

情報ページ担当のささきぃです。いよいよ夏到来です（あんまり暑くないけど）。夏休みがある方もない方も、このページを参考に夏休みの予定をたてて下さい。大会もイベントも本気で見逃せないものばかりです。みんなで会場にノリ込め～。ではでは、よろしくです。

ブッコミ ノリノリ★NEWS

■この夏グッドシェイプしたいあなたへ! 第1回「武藤塾」開催!!

この夏、キレイへの足固め! 武藤敬司が、キレイになりたい女性向けセミナー「武藤塾」を開催! 当日はトレーニング方法やサプリメント指導のほか、レッグロックグッズの販売も行われる。
日時:8月3日(日)13:00~
(入場受付開始12:00より)
【受講内容】
◆13:00~/スタジオにて座学&その場で出来る器具を使わないトレーニング&質疑応答
◆15:00~/ジムにて各自器具を使ってのトレーニング
◆16:00~/スタジオに集合後解散。解散後シャワー・サウナ。
★場所:ゴールドジム フィットネス&オーシャンスパ幕張千葉
(千葉県千葉市美浜区中瀬2-6World Business GardenビルWEST34-35F TEL:043-299-2711)
★塾長:武藤敬司
★講師:桑原弘樹(江崎グリコ株式会社・武藤敬司コンディショニングトレーナー)
★アシスタント:カズ・ハヤシ&河野真幸
★料金:15000円(税込)
※武藤塾特製Tシャツ・パワープロダクションHCAタブレット(40日分)付
★定員:100名
★問&申込:LEG LOCK
03-3234-0969(平日10:00~19:00)
HP:http://leglock.nifty.com/index.htm

■WJプロレス、夏休み特別企画!

WJが、中学生以下を対象に特別価格を設定! 対象になる大会は、8月13日(水)の後楽園ホール大会。各シート限定50席で全席一律1000円という仰天価格! このチケットはWJプロレス事務所のみの取り扱いとなる。夏休みの思い出に、ど真ん中プロレスを見に行こう!
【通常価格】
WJスペシャルシート8000円/特別リングサイド6000円/指定席5000円
★問&電話予約:WJプロレス
03-5428-5915

■親子でパンクラス! KID's LAB 一日体験入門!

親子でP's LABを体験! 対象は、来春小学校に入学する年齢~小学校6年生の子供とその父母。鈴木みのる・國奥麒樹真・渋谷修身・佐藤光留の4選手(予定)を講師に迎え、親子で出来るレスリング基礎講座、親子で出来る基礎トレーニングを学ぼう!
第2回『親子でパンクラス』
★日時:8月24日(日)
13:30受付開始 14:00授業開始
15:30授業終了 16:00解散
★場所:P's LAB東京
(東京都港区南麻布4-2-25 営団地下鉄日比谷線「広尾」駅1、2番出口より徒歩5分)
★料金:5000円(親子1人ずつ2名分の料金。大人1人追加=+3000円、子供1人追加=+2000円)
★申込み方法:下記へ電話で申し込むこと。〆切は8月15日(金)。
★申込&問:P's LAB 03-5792-7079

■YOSSINOが、スポーツカード・イベントにゲスト参加!

闘龍門のYOSSINOが、この夏に開催されるスポーツカード・イベントのサイン会にゲスト参加する。
『格闘技カードフェスタ2003Summer~YOSSINOサイン会』
★日時:8月2日(土) 13:00~
(イベント開始は10:00~)
★会場:岡田屋モアーズ9F特設会場
(JR・京急・横浜市営地下鉄「横浜」駅西口徒歩1分)
★参加資格:同点5F・カードショップ「ミント」で、3000円以上商品を購入した人に参加整理券を配布。
★問:カードショップ・ミント TEL 045-316-1710
★HP:http://www.mint-web.co.jp

■ターザン&吉田豪イベント開催!

「ターザン山本と吉田豪の格闘二人祭10回記念スペシャル!!」
"格闘技トーク最強タッグ"ターザン山本&吉田豪が、毎回乱入のマル秘豪華ゲストと激突する大人気トークライブが、遂に10回目を迎える!! 初の週末(金曜日)開催となる今回、ゲストはいったい誰なのか!? もしかしたら驚愕の超・超豪華ゲストが現れる……かもしれない!!
『ターザン山本と吉田豪の格闘二人祭vol.10!!』
★日時:8月8日(金)
18:30開場 19:30開始
★場所:ロフトプラスワン
(JR新宿駅東口下車、徒歩5分)
★チャージ料金:1800円
★問:ロフトプラスワン
TEL:03-3205-6864

■ボブ・サップと携帯でガチンコバトル!

J-SKYjavaアプリ専用コンテンツ「スポーツマニア」に、あの"プライドの怪人"百瀬博教先生を監修に迎えた新しいコンテンツ「ボブ・サップファイティング」が追加された。簡単操作でタイミングよくパンチを撃っていくことにより、携帯でボブ・サップと対決できるこのコンテンツ。最初は手加減していたサップも、プレイヤーが勝つとだんだん本気になってくるぞ。キミは最大パワーのボブ・サップを倒すことが出来るか!?
「スポーツマニア」は、スポーツゲーム専用サイト。今後も新しい種目を続々配信する予定だ。
★料金:1スポーツのダウンロードにつき200円
★対応機種:J-SKY端末(Java対応機種)
★アドレス:メインメニュー→Javaアプリ→ゲーム→スポーツ・レーシング→スポーツマニア ※最新情報は元気(株)HPで見ることが出来る。
★HP:http://www.genki.co.jp

■ボブ・サップ、ピザーラCMに登場!

エビフリッターを特製オーロラソースで仕立てた、シーフードマヨネーズ系ピザ「ピザーラ エビマヨ」のテレビCMに、ボブ・サップが登場。7月5日からオンエア開始ずみのこのCMでは、サップが子供たちと一緒に「エビマヨダンス」を披露している。「ピザーラ エビマヨ」は9月15日までの期間限定商品、全国の「PIZZA-LA」店舗で発売中。

■お船ちゃん、CDデビュー!

KAIENTAI-DOJO所属のお船ちゃんが、なんとCDデビュー! タイトルは『200%がっちょりお船宣言!!』。「ズッキュン!! 乙女宣言」「90%Angel」「妖怪ロックDEピョンっ!」の3曲と、各曲のカラオケが入った全6曲。すべてお船ちゃんの作詞だ。8月10日より、¥1500(税込)でNEXT STAGE JAPANより一般発売される。

■真樹道場主催オープントーナメント、出場者募集

実際に当てて倒すノックダウンルールで、実戦空手日本一を決定する真樹道場主催オープントーナメント・第4回が開催される。出場資格は、各流派・団体が認める代表選手であること。申込み方法については、下記真樹道場愛知本部まで問い合わせること。
『真樹道場主催 2003オープントーナメント 第4回 全日本空手道選手権大会』
★日程:9月14日(日)
★場所:愛知・豊田市体育館(愛知県豊田市八幡町2-20)
★試合形式:3階級ウエイト制(軽中量級62kg未満・重量級62kg以上~72kg未満 無差別72kg以上)
★申込&問:世界空手道連盟
真樹道場 愛知本部
〒471-0835 愛知県豊田市曙町5-45
TEL 0565-24-3861
FAX 0565-24-3668

大会★GUIDE

>>>今年の夏を制するのは誰だ!? 『G1 CLIMAX』公式戦カード発表!!

全出場選手決定、そして公式戦全カード発表!! 今年もG1の夏が来た!! 昨年の優勝者は蝶野正洋。NOAHから参戦の秋山準は、どんな形でG1を引っかき回すのか!? 残念ながらドラゴンは出場しないが、今年の夏を制する男は誰なのかを、じっくり見届けよう!!

『GI CLIMAX』参加選手

◆Aブロック		◆Bブロック	
蝶野正洋	13年連続13度目の出場	永田裕志	5年連続5度目の出場
天山広吉	9年連続9度目の出場	高山善廣(高山堂)	2年連続2度目の出場
西村 修	4年連続5度目の出場	吉江 豊	2年連続3度目の出場
棚橋弘至	2年連続2度目の出場	中邑真輔	初出場
~~ケン・シャムロック~~	~~初出場~~	安田忠夫	7年連続7度目の出場
秋山 準(NOAH)	初出場	柴田勝頼	初出場

※ケン・シャムロック選手が怪我のためG1出場が不可能となった。新たな選手は後日発表される。

『GI CLIMAX』公式リーグ戦 対戦日程

日時・会場	◆Aブロック	◆Bブロック
8/10(日) 試合開始 16:00 兵庫・神戸ワールド記念ホール	天山広吉 × 秋山 準 蝶野正洋 × 西村 修 棚橋弘至 × ~~ケン・シャムロック~~	高山善廣 × 安田忠夫 永田裕志 × 吉江 豊 中邑真輔 × 柴田勝頼
8/11(月) 試合開始 18:30 愛知・愛知県体育館	蝶野正洋 × ~~ケン・シャムロック~~ 西村 修 × 秋山 準 天山広吉 × 棚橋弘至	永田裕志 × 高山善廣 吉江 豊 × 中邑真輔 安田忠夫 × 柴田勝頼
8/12(火) 試合開始 18:30 静岡・グランシップ	天山広吉 × 西村 修 蝶野正洋 × 棚橋弘至 秋山 準 × ~~ケン・シャムロック~~	永田裕志 × 安田忠夫 高山善廣 × 中邑真輔 吉江 豊 × 柴田勝頼
8/14(木) 試合開始 18:30 宮城・宮城県スポーツセンター	蝶野正洋 × 天山広吉 棚橋弘至 × 秋山 準 西村 修 × ~~ケン・シャムロック~~	永田裕志 × 柴田勝頼 吉江 豊 × 高山善廣 安田忠夫 × 中邑真輔
8/15(金) 試合開始 18:00 東京・両国国技館	蝶野正洋 × 秋山 準 天山広吉 × ~~ケン・シャムロック~~ 西村 修 × 棚橋弘至	永田裕志 × 中邑真輔 高山善廣 × 柴田勝頼 安田忠夫 × 吉江 豊
8/16(土) 試合開始 18:00 東京・両国国技館	準決勝 Aブロック1位 × Bブロック2位 Aブロック2位 × Bブロック1位	
8/17(日) 試合開始 14:00 東京・両国国技館	優勝戦	

【優勝戦】リーグ戦=30分1本勝負/準決勝=60分1本勝負/優勝戦=時間無制限1本勝負
【得点】勝ち=2点 負け=0点 引分=1点 【優勝賞金】10,000,000円

★問:新日本プロレスリング(株) 03-5468-3111

イベント★GUIDE

>>>みのるvsライガー、トークバトル&握手会開催!!

昨年11月30日、パンクラスマットで「拳の再会」を果たした鈴木みのると獣神サンダーライガー。両者が、闘いの場を川崎競輪場(!)に移し、トークバトルという形で一戦交えることになった。入場は無料、行くしかない!!

◆日時:8月7日(木)トークライブ 18:45~19:10/握手会 19:20~19:45
※握手会は、競輪場開門時(14:30)より先着100名に整理券を配布。
◆場所:川崎競輪場 屋外ステージ(JR川崎駅・京急川崎駅徒歩15分)
※無料バス=川崎地下街17番出口13番乗り場(14:30~20:00)
◆参加費:無料(川崎競輪場への入場料100円は必要)
◆問:川崎競輪場 業務課 044-233-5501

本誌 Back Number

no.08 '94.01
特集 さらば新日本プロレス
仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！
700yen⇒350yen 50%OFF

no.16 '96.06
特集 新日本凸凹大学校
『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！ マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！ 糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！
780yen⇒390yen 50%OFF

'00.04
情念～夢一途なり～石川雄規
『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆十書き下ろし！ 情念とは何かがわかる一冊である。
2100yen（送料込み）

no.13 '95.03
特集 道場破りとは何か？
安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／「平成ファミコン・プロレス」馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦
780yen⇒390yen 50%OFF

no.17 '95.07
特集 実況パワフル北朝鮮
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松維視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」
780yen⇒390yen 50%OFF

極真魂溢れる16人を直撃！ 完売間近
極真とは何か？
松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏
1530yen⇒800yen 50%OFF

no.14 '95.04
特集 神秘とは何か？
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー
780yen⇒390yen 50%OFF

no.19 '95.09
特集 さようなら紙のプロレス
『紙プロ』を偲んで… ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ＆高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会
780yen⇒390yen 50%OFF

みんなで遊べる付録付き!! '01.04
さくぼん
サクのすべてがよくわかる桜庭和志発のインタビュー集！ 花くま先生の「サクラバの汁」、特製シールやサクマシン立体紙お面など付録がこれでもか！ とばかりに付いています！
総238ページ
1500yen（送料込み）

no.15 '95.05
特集 インディペンデントの逆襲
あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー
780yen⇒390yen 50%OFF

インタビューという名の鉄拳史 完売間近
紙の前田日明
『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！ 引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！
2000yen（税金・送料込み）

パンクラス公式読本 完売間近
［矛］・［盾］
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!! ターザンも炎上してますよぉぉ!!
各1260yen⇒630yen 50%OFF

---

no.47 表紙 ピンス・マクマホン '02.02/880yen
WWE日本侵攻5秒前!
●“天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場！
●噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る！
●第一次リングス閉幕特集
●プロレススーパースター列伝・ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03/880yen
見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
●奇跡のメガトン対談！ 小川直也vsノゲイラ＆スペーヒー
●和田最強伝説が遂に現実に！ 語り部・金原弘光
●伝説の男が笑撃の登場！ ジョー・サン
●WWEを知る男 ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ＆ヒクソン＆小川＆桜庭 '02.04/880yen
究極の格闘技大戦争勃発!! マット界灼熱の噂!
●和田さん快勝記念対談！ 高山＆金原＆和田
●アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?
●破壊王も火のヤリ特訓！ 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行！

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05/880yen
サクが笑えば、世界が笑う!!
●「地方初世界」開始！ 小川直也＆橋本真也
●リングスロシア軍団の軌跡
●パンクラス取材解禁！ 菊田、“尾崎の野郎”が登場！
●ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半！

no.51 表紙 橋本真也 '02.06/880yen
ZERO-ONEに願いを!
●両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也
●『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子
●天才が悩みに答える！ 武藤敬司人生相談
●新・超獣 ザ・プレデター

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08/880yen
不平等の時代を克服した英雄ノゲイラ!!
●“首の皮一枚” ホイス＆エリオグレイシー
●“青い目のケンシロウ” ジョシュ・バーネット
●純プロ頂上対談！ 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン

no.55 表紙 高田延彦×田村潔司 '02.09/880yen 完売間近
高田×田村!! 夢幻大の真剣勝負が実現!!
●「真剣勝負」発言から7年!! 田村潔司
●メガトン級の強さと面白さ!! ボブ・サップ
●靖国神社で興行開催!! 佐山聡
●コピィロフおじさん、『PRIDE』デビュー!!

no.56 表紙 Uインター '02.10/880yen
愛すべき若気の至り!! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!
●田村戦直前!! 高田の覚悟を読み解け！ 高田延彦
●蘇れ！Uインター伝説!! 安生＆金原＆高山
●高田×田村、観る側の覚悟!! 浅草キッド

no.57 表紙 高山善廣 '02.11/880yen
一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!
●サップと地峡規模のタイマン勝負!! 高山善廣
●新たなる“U”が始動!! 田村潔司
●悪魔の書、再び！ ミスター高橋×大槻ケンヂ
●“北尾戦・セメントマッチの真実” ジョン・テンタ

no.58 表紙 武藤＆船木 '03.01/880yen
新春特大号!!「明日、また生きるぞ!」な対談の大連発!!
●夢幻のファンタジー対談 武藤敬司×船木誠勝
●Uスタイル対談 田村潔司×高阪剛
●Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健
●カルガリー師弟対談 ハシフ・カーン×ミスター・ヒト

no.59 表紙 ヒョードル '03.02/880yen
吹けよ! 呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!
●いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル
●アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス
●爆発!! WJマグマ語録
●吉田道場の秘密兵器 中村和裕

no.60 表紙 ヒョードル '03.03/880yen
英雄、変貌好む!! 『PRIDE』RE・BORN!!
●ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル
●驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気
●あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし
●全日本中継の真実!! 倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04/880yen
5・2仁義ある闘い!! やっちゃうぞバカヤロー!!
●裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也
●1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
●プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光
●リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05/880yen
誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!
●ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介
●現役復帰間近!? 船木誠勝
●ホントに大爆発!! 橋本真也
●新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 ミルコ '03.06/880yen
吉田秀彦が大英断! ミドル級GP出陣!
●「お前は男だ」劇場炸裂！ 高田延彦
●『PRIDE』REBORNを大総括!!
●憂国の虎 THEマスク・オブ・タイガー
●芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

通販申し込み方法

●お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております。（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）。

【郵便振替】
00130-3-769154
(株) ダブルクロス
【現金書留】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ケ谷
3-11-3-702
(株) ダブルクロス

●郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。

※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

●送料
1冊＝310円、2冊＝380円
3冊～4冊＝450円
5冊＝520円、
6冊以上＝700円

※代引きを開始しました。詳しくはP170を参照してください。

紙のプロレス 常備店

■アイドール新宿店
■新宿ファイター
■大山アメリカン
■プロレスマニア館
■チャンピオン
■リングスパレス
■バディスラム
■タコシェ
■レッスル渋谷
■レッスル池袋
■書泉ブックマート
■書泉ブックタワー
■書泉グランデ
■グレートアントニオ
■東京イサミ
■ワールドスポーツプラザKINGS
・池袋 ・渋谷WEST ・新宿 ・名古屋 ・大阪 ・札幌 ・福岡

今年は『OH祭り』の怪勃発!!

夏には伝説が舞い降りる!!

昨年の伝説を検証!! 『LEGEND』とは何か?

ミスターガチンコ川村社長

no.52 '02.07/880yen

決戦直前 『LEGEND』な出来事

- 「すべてガチンコでいきます」 川村社長が衝撃連発発言!!
- 小川直也出陣問題噴出!! あのマット・ガファリ上陸5秒前!!
- 「俺は触ってねえですから」 アントン総帥が投げた!
- 『W—1』真っ青! 準備期間1ヶ月の東京ドーム興行!!
- 藤田、激怒!? カードは一週間前に決定!!

no.53 '02.08/880yen

大会敢行! 『LEGEND』な出来事を大総括!

- ビバ! ファンの心を鷲掴み! 川村社長のガチンコ語録!!
- アントン「誰が得する」 『LEGEND』語録
- 元チャイナ、ヒクソンも登場! タイソン来日騒動も勃発!
- 『LEGEND』の素晴らしさを語る座談会
- ガファリ、コンタクトが外れて敗戦!!

no.05 表紙 高田延彦 '97.08/680yen

すべてはここから始まった!! 高田、ヒクソン戦へ……

- ドン荒川vs藤原喜明"昭和新日対談"
- 前田日明の大好評人生相談 『人生は語らず』
- 世界格闘技連盟とは何か!? 佐山聡
- 長与千種&ライオネス飛鳥

no.15 表紙 小川直也 '99.02/780yen

リアル・アルティメット・クラッシュ!! 小川vs橋本"1・4事変"勃発!!

- あの"1・4事変"を徹底大検証!!
- "前田日明・最後の相手" アレキサンダー・カレリン
- 引退記念雑談会 「語ろうマサ・サイトー!」
- 『S多重アリバイ』/佐野雄飛・編

no.16 表紙 エンセン井上 '99.03/780yen

格闘ノストラダムス!! エンセン表紙初奪取号!!

- 環境問題を『紙プロ』で語る!! アントニオ猪木
- 完全無欠の怪物!! 語ろうジャンボ鶴田
- 相撲多重アリバイ 石川孝志
- マーク・コールマン

no.24 表紙 アレク '00.02/840yen

完売間近

ノゲイラ、ダンヘン、田村、コピィロフが登場!!

- リングスロシア幻想を掘り起こせ!!
- 『紙プロ』的視点から送る 「語ろう船木vsヒクソン!」
- 驚ガクのUFO対談/サスケ×矢追純一
- ターザンが 有刺鉄線デスマッチを敢行!?

no.29 表紙 秋山準 '00.07/840yen

「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア勢フルメンバーで登場!!

- 三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
- プロレススーパースター列伝・ 仲野信市
- 本誌独占 ジャンボ鶴田夫人 真実を語る!!
- TKおかん

no.31 表紙 アントン総帥 '00.09/840yen

完売間近

真のストロングスタイルは『PRIDE』にあり!!

- 桜庭和志×高阪剛 レフェリーは浅草キッドだ!!
- ボヤキ漫談 川田利明語録
- プロレスという物語について ダン・スバーン
- プロレススーパースター列伝 永源遥

no.32 表紙 小川直也 '00.10/840yen

針はどちらに向くのか!? 新プロレスvs純プロレス開戦!

- 田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ
- ドラゴンの大爆笑10 藤波語録
- プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村
- "和製カレリン"本田多聞

no.34 表紙 小川直也 '01.01/880yen

『猪木祭り』開幕ーッ!! プロレスは「闘い」を忘れたときに老いていく!

- UFCミドル級王者 ティト・オーティズ
- プロレススーパースター列伝 ミスターヒト
- 修斗から『猪木祭り』へ! 宇野薫
- ボブチャンチン&オバチャンチン

no.35 表紙 サクマシン(イラスト) '01.02/840yen

徹底検証号

「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施!

- ZERO-ONE本格始動 橋本真也
- プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
- "ノアの怪物"杉浦貴
- UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也(イラスト) '01.02/840yen

完売間近

新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!

- ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!
- ヴォルク・ハン—ノゲイラに狼の伝言
- W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
- 吉田豪に "ドラゴンの呪い"が襲う!!

no.37 表紙 小川直也(イラスト) '01.04/840yen

完売間近

小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻

- 安田忠夫が借金から 自殺未遂まですべてを語る!
- アブダビコンバット2001—大探検記!
- シュート活字×ファンタジー活字
- 他に比類なきプロレスが WWFにはある!

no.38 表紙 高田延彦(イラスト) '01.05/840yen

完売間近

小川と長州、どちらが孤独だったのか!?

- 忘れ物の正体は—。高田延彦
- ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル
- プロレススーパースター列伝・ 阿修羅原
- 死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明 '01.06/840yen

どうなるんだ、リングス! 前田isデッド!?

- 前田道場新エース・金原弘光
- 怪物か!? それとも……藤田和之座談会
- 壮絶なる格闘人生・藤原敏男
- プロレススーパースター列伝・ 田上明

no.40 表紙 アントン総帥 '01.07/880yen

猪木軍vsK—1に見たいものは"地上最強のプロレス"

- 蘇れ! Uインター&キングダム 伝説! 高山善廣×金原弘光
- 熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎
- プロレススーパースター列伝・ グラン浜田
- グラバカの核弾頭 郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン '01.08/880yen

Can you カミングアウト? "最後の黒船"WWF襲来!

- リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る
- 真樹日佐夫×三池崇史巨頭 対談が実現!
- W☆INGの真実・茨城清志
- 毒舌知能犯 秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09/880yen

猪木なら何をやっても許されるのか!?

- ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- "ヒャッホーの真実"辻よしなり
- 蘇れ! UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- 誇り高きルチャ戦士 ルチャカト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭和志 '01.08/880yen

サクと『PRIDE』のケツに火がついた!!

- ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー
- 大谷晋二郎の「俺をしんじろう!」 人生相談
- 金原弘光×サスケの新日本プロレス 学校同窓会

no.44 表紙 桜庭&シウバ '01.11/880yen

サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?

- その修羅場の数々! シーザー武志
- 怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴
- ハンス・ナイマン&ディック・フライ
- 闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥 '01.12/880yen

「K—1vs猪木軍」命懸けのエンターテイメント!!

- 悪魔の書、現る! ミスター高橋
- ジェラルド・ゴルドー人生相談
- プロレススパースター列伝・ グレート小鹿
- 語録で振り返るマット界2001

no.46 表紙 田村潔司 '02.01/880yen

完売間近

『PRIDE』LOVEをブチ壊す男、田村潔司!!

- さらばリングス!! 浅草キッド
- "蒙古の怪人"キラー・カン
- "スーパー・フライ"ジミー・スヌーカ
- エル・カネック、バードで快勝!!

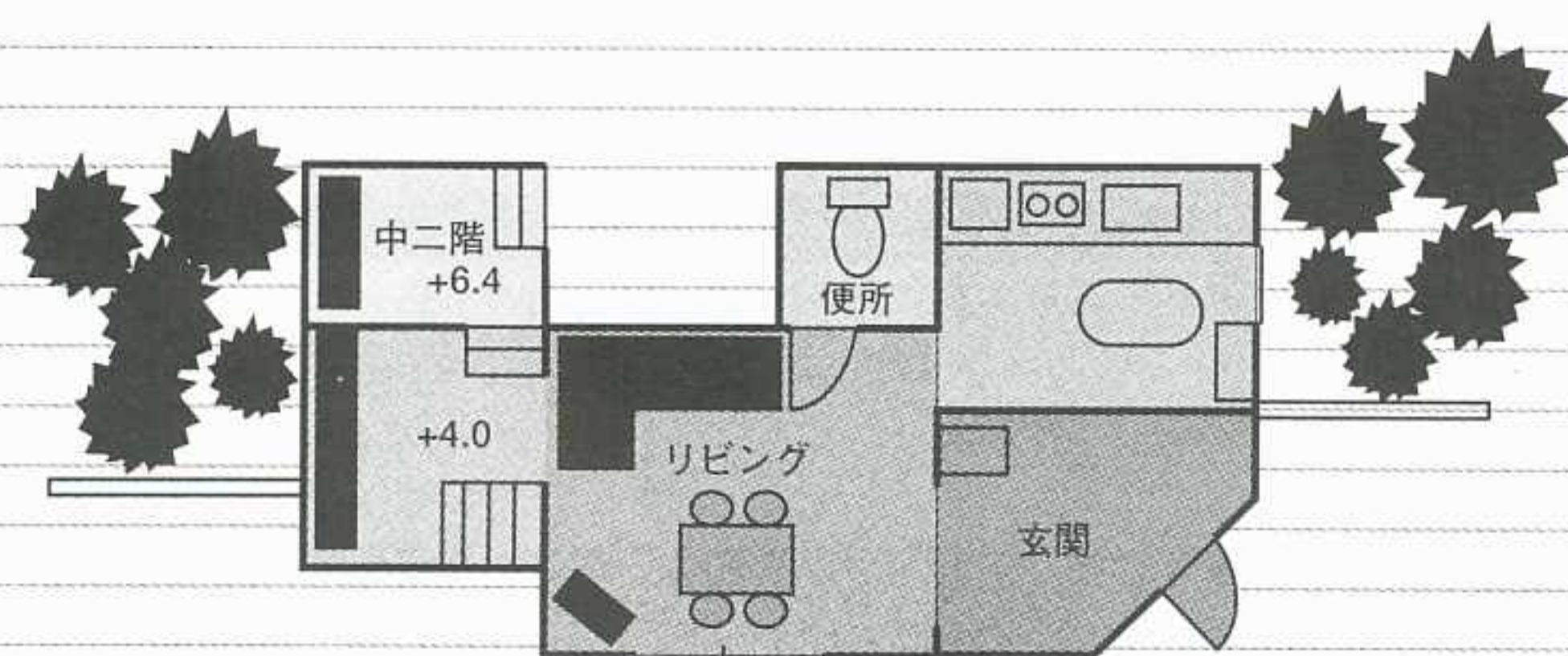
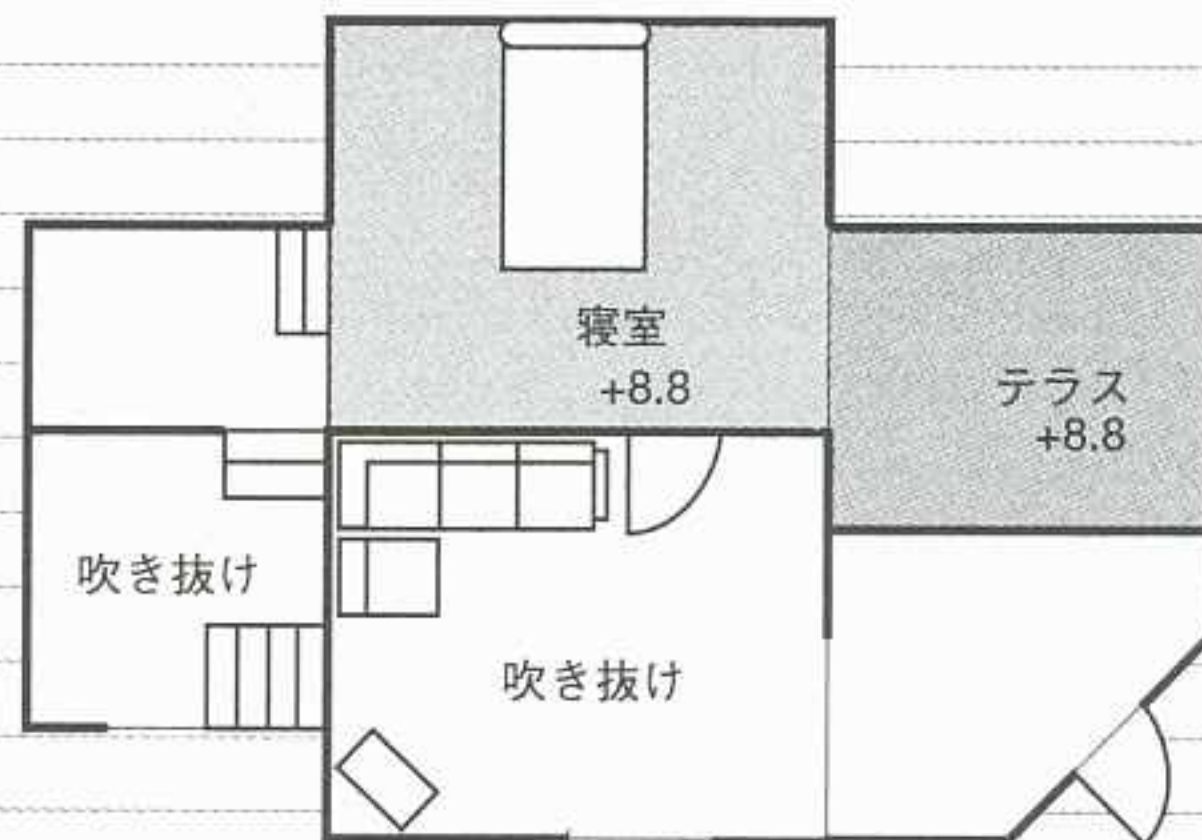
なんと総工費3000万!!

前代未聞! 後楽園(ホール)に家(グレート小鹿邸)が建つ!!

中二階 +6.4
便所
+4.0
リビング
玄関
一階平面図

寝室 +8.8
テラス +8.8
吹き抜け
吹き抜け
二階平面図

1坪 (2畳)
リビングサイズ

壊せるもんなら壊してみい!!

お披露目、即破壊! これが小鹿邸完成予想図だ!!

"一軒家プロレス"開催!! がなり率いるO(オン)・D(デマンド)だ!!

※現時点で、わかっているのは、8月21日にグレート小鹿邸が後楽園ホールに建つということだけ!!
そこでは一体何が行われるのか？　この大会を観戦した人からのレポートをお待ちしております。
抽選でビッグなプレゼントを差し上げます!!　宛先はP175の読プレページ参照!!

report!!

★name

★telephone

★address

キリトリ

突然ですが……

「俺、プロレス界から抹殺されたらしいよ」とお嘆きの"悲しき天才"からセッド・ジニアスグッズプレゼント!!

◆Tシャツ（黒&白）
サイズL

セットで3名様

◆スポーツタオル（水色）

ジニアスグッズが欲しい方は、175ページ読プレ内の宛先参照!　さらに、どうしても欲しいという方には通信販売も行っています!　下記参照!!
■セッド・ジニアスグッズ・セット　6,000円（Tシャツ×1枚、バスタオル×1枚、スポーツタオル×1枚、カッティングシール×1枚）※Tシャツボディカラー（黒・白とカッティングシールカラー（赤・水色）は選ぶことができません。ご購入ご希望の方はセット代金（6,000円）に送料（525円）をプラスした代金（合計6.525円）を現金書留にて郵送して下さい。
〒160-0007　東京都新宿区荒木町13-9　サンワールド2階
株式会社ケイセンス「セッド・ジニアス・セット係」宛
【お問い合せ先】株式会社ケイセンス TEL.03-5919-2313（平日AM11:00〜PM6:00）

8・21、リアル

仕掛人は

高橋

ソフト

S・

美濃輪育久がブラジリアン・トップチームへ武者修行へ!!

「キン肉マンのように火事場のクソ力を身につけ、スーパーサイヤ人に変身して戻ってきます！」

7月20日、午前10時半から、パンクラスを退団しフリーとなった美濃輪育久が全女大会前の後楽園ホールで会見を行い、7月24日に武者修行のためブラジルへ出発することを明らかにした。

美濃輪の修行先は本人の希望もありブラジリアン・トップチームに決定。修行期間は、とりあえず1年以上ということで、その先については「満足できるまで日本に帰って来るつもりはない。憧れのキン肉マンのように究極の火事場のクソ力を身に付け、スーパーサイヤ人に変身して戻ってきます!!」と熱く語った。

ブラジリアン・トップチームを選んだ理由については「ブラジルは格闘技王国だし、日本人が忘れているものを持っているような気がする。それにボクは最短距離で強くなりたいんで。言葉も環境も精神的にも日本にいるよりは何倍も強くなれると信じています。それにボク自身、柔術はほとんどわからないんですけど、柔術を取り入れるというより、美濃輪流の柔術を使えるようになれればと思ってます。その結果、どんな土俵でも対応できるような本物のリアル・プロレスラーになりたい」。

さらに、パンクラスを辞めた理由について質問が飛ぶと「プロレスラーだったら何年かしたら海外修行があるもんだと思ってたんですけど、ないみたいなんで、自分でやるしかないと思って」と苦笑いを浮かべた美濃輪。

ちなみに会見場となった後楽園ホールは、ちょうど6年前の同日、美濃輪がデビュー戦を行った会場だという。

「今日で、ちょうどデビュー6年目です。ボクにとって海外に修行に行くということは幕末で言ったら脱藩だと思ってるんで。憧れの坂本龍馬のように帰ってきたら日本を変えてみせます。ボクが革命を起こします!!」と美濃輪節全開!!

言葉の意味はわからんが、とにかく凄い自信を身に付けた美濃輪育久が日本に帰ってくる日を楽しみに待とう!!

右は井上貴子と美濃輪の2ショット。2人は先頃、韓国で初のVT大会が行われた際、UWFルールでの女子プロレス提供マッチに出場した貴子のセコンドに美濃輪が付くなど接点がある。左の写真はポーズを決める美濃輪の後ろでダンスの練習をしている元川恵美改めさくらえみとチビッ子たち。会見は全女の試合前の後楽園で行われた。

PART 1

私はターザン山本ではない
自画自賛キャラじゃないのである
ただ、北米プロレス雑誌の栄枯盛衰の歴史を
観察してきた者として思うことは、
私を使わない雑誌は、現在の業界における
激しい厳しい時代の波に取り残されていくのである

——（タダシ☆タナカ最近の主張より）

タダシ☆タナカのシュート活字劇場

北米の星座

『紙プロ』読者の皆様、今月の『書評の星座』は残念ながら、吉田豪の超殺人的スケジュールの影響により休載となります。「俺は吉田豪の原稿が読みたい!」という読者の方は、『ゴング格闘技』や『TVブロス』など、他誌を読まれて来月号をお待ちください。そういうわけで今月は、編集部に勝手に送りつけてきて、片隅に忘れ去られていたタダシ☆タナカ先生の原稿を採用。タナカ先生、助かりました!!　シュート活字、オマエも男だよ!

『プロレスを創った男たち
～あるTVプロデューサーの告白～』
（栗山満男／ゼニスプラニング／1500円）

ミスター高橋の『流血の魔術　最強の演技』が十万部の大ヒットとなり、その企画に噛んでいた元テレビ朝日プロデューサーの処女作。ただし高橋本の第二弾を発売したゼニスプランニングからの出版で、〝昭和のプロレス〟の舞台裏事情に関心ある層に向けた体裁になる。

第一章は「テレビとプロレスの夜明け」で、プロレスに縁がなくともメディア関係者にとって面白い内容になるかと期待したが、団体とソフトを中継する側の情けない信頼関係が再確認できるだけ。WWEの昨年から三度目になる日本上陸興行の成功を見るまでもなく、「プロレスはショー」だとカミングアウトして開き直って運営するほうが大衆に受け入れられる時代に、「騙しのビジネスモデル」に固執して真剣勝負幻想のままなのがわが国の実情だ。章を締めくくる小見出し項「**テレビ局スタッフも慌てたタイガー・ジェット・シンのアングル**」で、当時のテレビ屋にはプロレスの台本進行が一切知らされてなかったことを告白している。

80年代の世界のマット界の中心軸は新日本プロレスだった。その黄金時代の『ワールドプロレスリング』担当だったというだけで、栗山は恵まれた境遇にあり、だから本まで出版できた。しかし、いざ何を書くかとなって、猪木の悪口がセールスポイントというのでは弱すぎる。

団体がテレビ中継機能や編集スタジオを所有するアメリカン・プロレスと、台本（アングル）の存在を身内であるハズのテレビ局にさえ教えようとしない古い体質の日本が、90年代に入って巨大なビジネス上の逆転劇を体験するのは、必然だったことがよくわかる。

現場を指揮していた新間寿営業本部長らの考え方では、テレビ屋には何も教えないことこそ、そのハプニング性を画面に出せて番組がリアルになる、というものであった。エンタテインメント産業のソフトを扱うにも関わらず、プロレスの仕組みを正式に教えられたことは一度もなかった（**あうんの呼吸のみ**）というのは、果たして『告白』に値することか、それとも昭和のテレビマンの笑悲劇として記録されることなのか？

読者の側の期待は新事実の暴露にあるのだが、この点でも本作は期待に答えてはくれない。たとえば79年の『夢のオールスター戦』に関する「八年振りのBI砲復活がTV放送無しの真相」は、すでに既報の日本テレビとテレビ朝日の確執を紹介した上で、「**馬場も他界し、日本テレビも全日本プロレス中継を打ち切った現在、この貴重なビデオが一日も早く世に出てくれるのを願うばかり**」と結ぶだけ。馬場がフォールする役だったのを、猪木が裏切ってシンから3カウントを奪った裏話には触れられていない。

またウィリアム・ルスカ戦に関しては、「**ルールに縛られた柔道家の技が通用するほど総合格闘技の集大成ともいうべきプロレスは甘くはなかった**」などと〝活字プロレス〟式に書いてしまうのはどうしたものか？　その数行後に「**この試合にももちろんストーリーはあったようだが、そうだとしても二人の実力は文句のつけようが無く……**」とフォローはされているが、高橋本の成功以降、もはやタブーのなくなった読者市場に向けての内幕物としては、これでは説得力が乏しい。

アリ戦の項に至ってはがっかりである。新間寿が暴露本で「ルールでがんじがらめにされた伝説はプロレス・マスコミに協力してもらっただけで、そのような事実はなかった」ことまで公表されているのに、トーンは専門誌紙のまま。すべては栗山の当時の上司だったNET永里運動部長のみが真実を知っているという逃げの姿勢で書いてしまっている。これではマニアが期待する「誰も知らなかった真相」ではなく、むしろ時代に逆行した美談話でしかない。

それ以降の〝異種格闘技戦〟も記述されているが、**放送権料が通常の中継（最高時一千百万円）と違って破格の5千万円（その半分をアリ戦借金返済に充当）**だったという数字くらいしか、当事者本ならではの発見がない。「**なまじ私が真実を知っていることを私自身が私自身に対して認めてしまっていたら、あのような迫力ある画面は作れなかったはずである**」の記述が、栗山のプロレス担当としての本音のすべてなのだろう。

昭和のプロレス中継と何も知らされてなかったテレビ屋

WWFの企画ビデオのなかには、担当ディレクターがいかに「プロレス芸術を深く理解していて、選手が次にどのようなスポットをやるかまで三手先を正確に予想してカメラ切り替えの指示を出しているか」を自慢させている潜入ルポまで存在する。それを団体側が商品化しているのだから、台本を教えられないままのプロデューサーの裏話に、何か新しいネタを期待するほうが間違っているのかもわからない。『紙のプロレス』インタビューの倉持アナウンサーの方が笑っていただけた分だけよかったのではなかろうか？

最後の第七章は「**猪木よ、目を覚ませ!!　もう人を裏切るな!!**」と詐欺師の実像を告発しているが、これもすでにアチコチで出尽くした話題だ。オビには〝ミスター高橋絶賛!!〟ということで「**この本には私でさえ知らなかった事実が書かれてある**」とのタタキ文句が目を惹くが、〝**猪木、新間の仕掛けに何も知らない素振りで全面協力してきた**〟立場のテレビマンなので、マニアが望むような仰天情報は何も書かれてはいない。「猪木vs馬場戦は1億円で実現寸前だった」エピソードを、貴重な証言だと思う読者が大勢いるとは思えない点が、フジテレビの『スマックダウン』中継を、単純に娯楽番組として楽しんでいる21世紀のテレビ事情なのではないだろうか？

もっとも俳優の坂口憲二がプロレスラーの父や家庭を仕切る母親について語るたびに、「**坂口夫人と馬場元子との間に女の戦いがあった。だから坂口は日本プロレスを裏切り新日本プロレスに合流した**」の部分に大笑いしたのは筆者だけではないだろう。ともあれ、業界内にいた者の勇気ある告白は取り上げておく必要がある。

プロレスを創った男たち
～あるTVプロデューサーの告白～
元テレビ朝日プロデューサー
栗山満男 著

馬場VS猪木戦は1億円で実現寸前だった!!
猪木はジャンボ鶴田を新日本に引き抜こうとしていた!!
元テレビ朝日超大物プロデューサーがついに告白
これでもうプロレス界の真実はすべて語られた…
あのミスター高橋絶賛!!
「この本には私でさえ知らなかった
事実が書かれてある」

桜庭和志勝利を願う読者ページ

紙プロ元気大学

元気ですかーッ!!　読者ページ担当のささきぃです。本業は電気部です。あいかわらずダイエットに悩んでいます。ニコニコ顔で腹を叩くマット・ガファリを見ていると、自分の悩みがちっぽけに思えますが『オーバー300』を目指すふんぎりはつかないので、何らかの努力をしていこうと思います。去年の今頃はガファリの事なんて知らなかったのに、1年って早い。それでは、はじまりはじまり。

KAZUSHI-SAKURABA 桜庭和志
ニッコリ
SAKU WILL BE BACK!!

(山梨県・貝戸夏也)
➡今号はステキイラストがたくさん届いたので、どれをこのスペースに載せようか大変迷いました。ですが、やっぱり3度目のリベンジに望むこの人を大きく扱わずにはいられませんでした。8・10は取材ながら、涙が出そうな気分でこの試合を見守ると思います。勝て、桜庭和志!!

内回校巡

『紙プロ』63号　面白かった記事

【ダチョウ倶楽部インタビュー】
★お笑いウルトラクイズ、もう一回見たい。ビデオを持っている人、ダビングさせて下さい。送料当方負担。週プロビデオとの交換可。
(千葉県・内野さとし・36歳・世捨て人)

⬇ここはそういうコーナーじゃないですが、特別に掲載。なぜかと言うと私が見たいからです。他にも「川田利明の意外な面を知れて良かった」**(滋賀県・林克也)**「ジモンさんのナチュラルな面が共鳴できる」**(石川県・浅井すず)**などの意見が届いたダチョウ倶楽部インタビューが前号の第一位でした。グァーッ(天龍風)。以下、順不同でお送りします。

【月刊Y2談】
★バカらしいから。
(東京都・多賀宣子・28歳・主婦)
⬇一刀両断。ていうか、面白い記事でいいんですよね?

【佐山聡インタビュー】
★私も先日、靖國に行ってまいりました。ストラップも買いました。
(福島県・もりたく・37歳・会社員)
⬇それはそれは。このインタビューも反響爆裂でした。マスク・オブ・タイガー復活の日が待ち遠しいです。

(愛知県・前島行晴)　➡前々号のアンケートに描かれていたイラストです。坊主の吉田秀彦?と思ったのですが、好きな選手・佐山聡とある下に描かれているので、佐山でしょうか。日の丸もあるし。

【『PRIDE』ミドル級GPの記事】
★チャック・リデルが、ひさびさに出る事をしったから。
(東京都・進藤央司・11歳・小学6年生)
⬇ものしり小学生ですね。それとも、最近の小学生はみんなチャック・リデルのことくらい知っているんでしょうか。今月のインタビューの感想が気になります。

『紙プロ』63号　つまらなかった記事

【TOAインタビュー】
★僕の住んでる徳島にまではテレパシーが届かなかったから。
(徳島県・北島昌信・37歳・会社員)
⬇海を越えることは出来なかったようで、残念です。本州で止まってしまったんでしょうか。

【OH砲と闘わせたいタッグチーム列伝】
★つまらなかったわけではないのですが、企画として、ちょっと唐突な気がしたので。あと、「ミスタープロレス」に関して私的には同感ですが……また怒られませんか?
(大阪府・上田ダイゴ・34歳・コント師)
⬇蒸し返さなければ大丈夫です。だったら載せなきゃいいじゃん(セルフツッコミ)。上田さんは、ハガキを送ってくるヒマがあるなら、HUE、defier他の活動頑張ってください。

紙プロHand投稿

ここからは携帯サイト『紙のプロレスHand』に届いたおたよりです。ユーザーの皆さん、毎日ろくでもないメールをありがとう(ほめ言葉)。ちゃんと全部読んでいます。

★三島☆ド根性の助選手は野沢直子のダンナにそっくりだと思う。
(名前記入なし)
⬇そういうこと気がつくと、とりあえず誰かに言いたくなるものですよね。確かに、あんな感じだったような気がしないでもない。

★K-1中量級テレビ観戦中、隣で酔っ払った親父が解説を始めたので、私が専門用語を並べ先手を打ち解説すると、黙り込んでしまう。魔沙斗が優勝し、大喜びしていたら「もうええやろ」と親父がチャンネルを問答無用に変える。一気に冷めてしまった。最悪だった。
(猫川コウ)
⬇勝利の余韻も何もない家庭の雰囲気がよく出ています。でも、このお父さんはなんとかして子供に歩み寄ろうとしているようにも感じますね。うっかり泣いたりすると「お前、泣いてるのか」と、顔をのぞきこまれたりするんで注意しましょう。

★紙プロ部数倍増計画　その1　女子格選手の水着グラビア。しかもテキトーなタンキニやワンピとかでなくハジケたビキニを希望!　このグラビアを見終わったらもう夏休みはおわっていい……。
(森上路太郎)
⬇タレコミ部の森上さんでしょうか?　タイムリーなメールをありがとうございました。例としてあがっていた希望の選手ではないですが、今月号は部数倍増ですね。信じます。

★黒田哲広にとってかなり分が悪い、『火祭り』の小島聡戦。普通の反則くらいでは到底通じないと思うので、是非小島の弱点と言われる"セミの死骸"を使った攻撃を。奇跡の番狂わせを期待します。
(アウトバッカー)
⬇新日時代、破壊王が小島の部屋に推定300匹のセミを放ったという伝説があります(スポニチより)。数字が圧倒的なところがスゴイ。この号が出る翌日、7・31大阪でセミおよびその死骸が乱れ飛ぶのでしょうか。見てみたいけど、さすがにそれはどうかという気もします。

(静岡県・目ガ覚メタロウ)
➡前号募集した辻ちゃんマスク当てクイズの正解は「ウルティモ・ドラゴン」でした。ヒントを読めばバレバレでしたね。当選者発表は次号行います。というわけで、これはハズレの1枚。面白いので、さらし者にします。

(愛媛県・鈴木ユージ)　⬇もうだいぶ印象がうすれてきてしまったLYOTO。次に登場するのは、やっぱりジャングルファイトでしょうか。凱旋試合扱い?

(岩手県・こみきらほがな)　⬇ちょっとお久しぶりになってしまったこみきらほがなさん。こんにちは。なんか悪だくみしてそうな須藤元気ですね。

(東京都・張替英行)　➡はじめまして(の、はず)。カチッとした線で描かれたゴールドバーグ。次の『W-1』にも登場するんでしょうか。全日本初登場の時は格好良かったなぁ。

今月の 紙プロ元気大学調べ 好きなレスラー人気ランキング!!

1位　桜庭和志
2位　小川直也
3位　エメリヤーエンコ・ヒョードル
4位　田村潔司
5位　橋本真也

『PRIDE』ミドル級GPを前にして、桜庭和志が堂々の1位。2位に小川直也、『PRIDE.26』後の評が集まったヒョードルが3位に。4位は田村潔司、5位には破壊王がランクイン。6位以降、ベスト5に迫る勢いでなんとあのイズマイウが登場しています。多分、こんな結果になるのは世界でも『紙プロ』だけでしょう。ちなみに『紙プロHand』7月度は、闘龍門の名バイプレイヤー、横須賀享が1位です。うーむ、スゴイ。嫌いな選手は前号と同じ某議員。タイトルマッチの後だったせいか、チェキっ娘を奪われたせいか、菊田早苗がベスト5に登場。ZERO-ONEマットに登場したアレクサンダー大塚への投票も増えてました。(6/11〜7/15到着分調べ)

紙プロ63号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位　ダチョウ倶楽部インタビュー
2位　THE マスク・オブ・タイガーインタビュー
3位　金村キンタローインタビュー・後編
4位　高田延彦インタビュー
5位　鈴木健想インタビュー・前編
　　　月刊Y2談

1位は、川田エピソード満載&寺門ジモン幻想爆発のダチョウ倶楽部インタビュー。続いては新マスクも披露!　マスク・オブ・タイガー登場!　敬礼ッ!!　そして、前編に続いて大好評の金村キンタローインタビュー。ZERO-ONE後楽園で来ていたジャイアンTシャツはどんな意味があったのでしょうか。4位はアグレッシブな高田統括本部長インタビュー。5位は『紙プロ』登場を喜んでくれた鈴木健想インタビュー、熱風吹き荒れる(?)Y2談が並びました。

中川画伯

（埼玉県・中川雅博）「後楽園ホールでの試合後、控室へ帰っていくロンドン選手に拍手をしたら、高田統括本部長のようなマイケル・モデストのような素敵なポーズ＆笑顔をしてくれました。格好良い！」➡世界一のシューティング・スタープレスの使い手、ポール・ロンドン。めでたくWWE行き決定です。……。前号の『紙プロ』表紙を描いてくれた中川画伯。空港でガイジンの皆さんに見せたところ、ザ・プレデターも喜んでました。トム・ハワード先生は、すみずみまで中身をチェック、読者ページを見て「Oh、アンダーソン！」と笑ってらっしゃいました。嬉しかったですが、そんなところまで見られるとうかつな事できないな、と少し怖くなりました。いや、何も見られて困るようなことはしてないつもりですけども。

（大阪府・英加直純）➡もはやおなじみの英加画伯。切り絵ですよ切り絵！　中央のあたりとか、はがれそうでちょっとビクビクしました。新日本の象徴・ライオンマークと化した高山善廣。特徴つかみすぎ!!

ほんとにジョーク？

（愛知県・たっつぁん）⬇2枚とも『ほんとにジョーク』に届いたおハガキです。ドラゴンは似てるし、一本気な健介のむっちりした感じがとてもカワイイしで、計3枚掲載のたっつぁんさん。トークライブ（情報ページ参照）で、中身が健介だったらステキだなぁ。全部こっちのページに持って行くのも気がひけるので、ちゃんと本家『ほんとにジョーク』にも渡してあります（当然のことをえらそうに言う）。その証拠は……今すぐ『ほんとにジョーク』をチェック!!

青木雄大

（住所不明・青木雄大）⬇いつも封書で届いていた投稿が、今回はハガキになった、あいかわらず住所不明の青木雄大画伯。内容から察するに、一応テレビが見られる、もしくは会場観戦に行ける環境にはいらっしゃるようです。無事ならいいですが、イラストは欠かさないでください（非情？）。

（東京都・いしどやしじゅん）⬇本田多聞ですね。うちにNOAH選手のイラストが来るのは珍しい。ちょっと前の話ですが、GHCタッグ選手権での試合中の顔はあまりに凄かったので、深夜とはいえテレビで流していいんだろうかと思いました。

（東京都・ピータン）⬇はじめましてではないピータンさん。NWA管理委員長菅谷アナもちゃんといますね。

（埼玉県・宮田浩司）➡毎号同じトーンのイラストを送ってくれる宮田さん。対象となる選手が微妙に全日寄りであることに最近気が付きました。

衣料部・Tシャツ自慢コーナー

（静岡県・目ガ覚メタロウ）「鮮やかなオレンジのボディが目に眩しいゴルドー師範Tシャツ、中川画伯からいただきました。しかも缶バッチまで！　目ン玉が飛び出る程、感激致しました。押忍！」➡62号『ほんとにジョーク』で採用された目ガ覚メタロウさんからのTシャツ自慢です。毎回、顔を隠すのにも工夫がみられますね。いつも言っていることですが、他の採用者さんも応募よろしくです。久々にゴルドー師範の試合見たいなー。ちなみに缶バッチは、採用された人だけでなく、応募者さんの中から抽選で5名にプレゼントされます。『紙プロ元気大学』にハガキを奪われた人にも、チャンスはあるので心配しないように。みんなで投稿しましょう。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

（愛知県・たっつぁん）「こんにちわ!!　フジタが負けちゃってちょっとブルー。でもすばらしい闘いでした。みごと〝REBORN〟できたと思います。よってフジタに『ブルーリボーン賞』をさしあげます（弱火）」⬇おもしろい。前号の〆切直後に届いたおハガキです。どこに？　そりゃもちろん『ほんとにジョーク』にです。

先日、今はやりの断食を経験してきました。2泊3日で1日断食、2日目は回復食という軽いものだったんですが、2.6キロ体重が落ちました。嬉しかったですが、「普段何食べてるんですか」と施設の先生に言われました。普通はそんなに落ちないそうです。どうやら、激太りの理由は単なる食べ過ぎだったみたいです。そんな私ですが、来月には28歳になります。さて、『紙プロ元気大学』では、みなさんのお便りを募集しております。『紙プロ』を読んで感じたこと、ご意見、大会の感想、お便りの他、イラスト、その他すべての宛先は

メールは radical@kamipro.com

〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702（株）ダブルクロス

紙のプロレスRADICAL編集部　紙プロ元気大学「ネタ切れ」係まで。

★☆★携帯サイト『紙プロHand』からの投稿も出来ます！★☆★

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！　プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです。

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第25回

こんな会社

辞めてやらない

社長だもの

たつみた

今月イチバンおもしろかった作品とその作者

愛知県春日井市　たっつあん

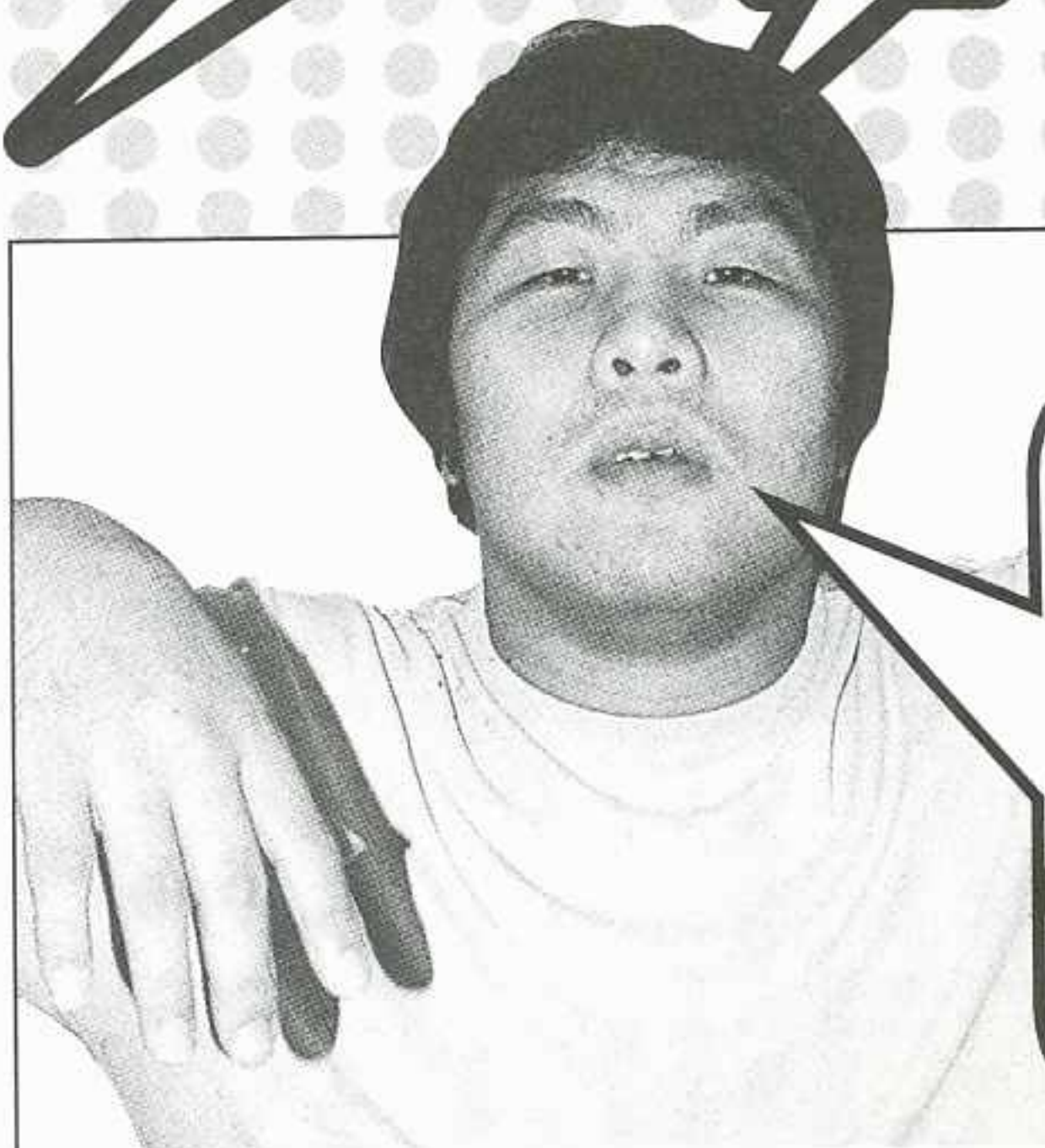
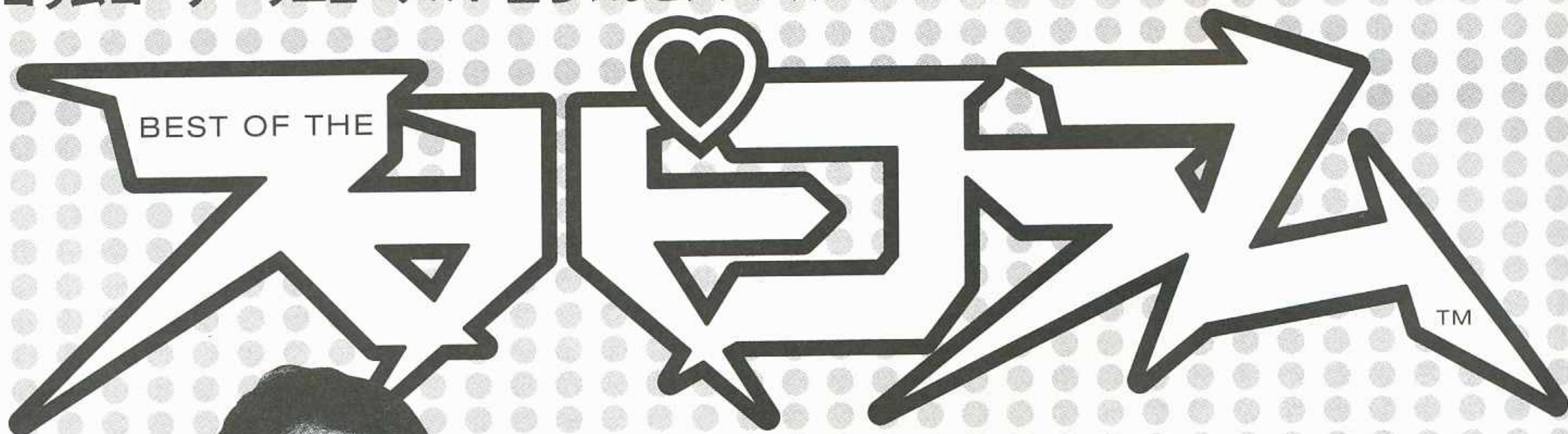
★たっつあんさんオメデトー!!　です。「スキンヘッドのダイナマイト・キッド」Tシャツ（L）、お楽しみに!!
★『桜庭和志イラストTシャツ』を着て、さいたまアリーナへ行こう!　http://www.takada-dojo.com
★プロレスに関係無いけど雑誌『ヤフー・インターネット・ガイド9月号』にイラスト描きました。雑誌『iしてケータイサイトの歩き方』にも描いています。これはプロレスのイラストです。良かったら是非!!
★毎日ヒマなので愛犬達（16才10カ月&4カ月）と必要以上にベタベタしている中川画伯のコーナー、『ほんとにジョーク』にハガキを書こう!!　抽選で5名様に「手づくり缶バッヂ」、採用された方には「Tシャツ」をプレゼント!!　皆さん、ハガキをバシバシ送ってください。自分はハガキと日本犬が心の支えです。

➡前号のTシャツ
辻結花 VS ヴァンダレイ・シウバ

応募方法

プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。
毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。
原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ（S・M・L・XL）をハガキに書いて下さい。　〈例〉桜庭和志のXL

コラムコーナーリニューアル！ 金ちゃんとタダシ☆タナカ、原タコヤキ君が新連載スタート!!

BEST OF THE スタ♥コラム™

金ちゃんのMONTHLY BOYA-KING COLUMN

なんでそ～なるの!?

第1回 右ヒザ手術で入院。そしてチ○コに管入れられた！ の巻

『紙プロ』読者のみなさん、こんにちは。しばらく試合に出てないので、みんなに忘れられてないか心配な金原弘光です。

知らない人もいると思うんで、最初に説明しとくけど、4月21日に膝の手術をして、1ヶ月くらい入院してました。

去年の11月『PRIDE23』でやったシウバ戦の直前に右ヒザの靱帯を怪我したのがそもそもの原因なんだけど、その後も騙し騙し練習してたんだよね。でも、グレコローマンとかボクシングとか、立ち技の練習してるとすぐヒザが外れて肉離れみたいになるからさ、「おかしいな」と思って、医者に診てもらったら「前十字靱帯ないですよ」って言われちゃってさぁ。手術しちゃうと1年間は試合に出れないから、生活もあるし、悩んだんだけど、まだ現役で続けたいからね。しょうがなく手術することにしたんだよ。

で、手術するにあたって一番心配だったのは、『紙プロ』の対談でエンセンに「下半身麻酔はチ○コに管を入れるヨ。カワイソ～」って言われたことなんだよね。それでビビッちゃってさぁ。チ○コに管を入れるなんて、想像するだけで嫌じゃん。痛そうだし、恥ずかしいし。だから入院する際の説明で俺が看護婦さんに真っ先に聞いたのは、「管入れるんですか？」だったからね（笑）。

そしたら「去年までは尿道に管を入れてたんですけど、皆さん嫌がるんで、いまはやってませんよ」って言われて、凄いほっとしたんだよ。でも、手術する前の注意書きに「手術1日前から食事と水分は一切取らないでください」って書いてあって。俺は「下半身麻酔なんだから食事も水分も関係ないじゃん」と思ってさ、メシは食わなかったけど、手術当日の朝も飲み物飲んじゃったんだよ。ところが、それが大きな落とし穴だったんだよね。

手術は無事終わったんだけど、その後オシッコしたくてしょうがなくなってさぁ。でも、麻酔が効いてるからオシッコは自分の力じゃできないのよ。下半身麻酔ってことは、オシッコをする筋肉も麻酔が効いて麻痺してるってことだからね。オシッコが凄くしたいのに漏らすことすらできない。これはつらいよ～。

それで、手術から1時間くらい経ってようやく先生が来たから、すぐ「オシッコしたいです！」言ったんだよ。そしたら

「じゃ、管入れますか」だって。

もう、目の前が真っ暗になってさぁ、「手術前に水分取らないで下さい」っていうのは、オシッコしたくならないようにするためだったんだ。「あ～、そういうことか！」って、そこでようやく気付いたよ（苦笑）。

ホント管入れるのは嫌だったんだけど、もう我慢できなかったからさ、「一番細いヤツにしてください」なんて情けないお願いして、看護婦さんにやってもらいましたよ。麻酔が効いてるから心配してた痛みはなかったんだけど、後で看護婦さんに年齢聞いたら24歳だって言うから恥ずかしくなったけどね（笑）。

まぁ、そんなこんなで、いまはもう退院して、リハビリしながら簡単なトレーニングも始めてるんだけど、『PRIDEミドル級グランプリ』のメンバーなんかを見ると、「俺も出たかったなぁ」って思うよね。

組み合わせも凄いじゃない。あの中で、桜庭が本来の調子を取り戻してるかどうか気になるけど、やっぱり一番驚いたのは田村さんと吉田さんが1回戦で当たることだよね。

俺も今回ばかりは田村さんに勝ってほしいよ。柔道金メダルっていうのはもの凄いことだけど、総合格闘技ではまだ1年でしょ？ やっぱり田村さんは、10年以上U系の道場で総合格闘技の練習をしてきた、ある意味俺たちの代表だからね。俺は田村さんが勝てるって信じてるし、絶対勝ってほしい。たまには、エールを送るのもいいでしょ？（笑）。

と、こんなところで第1回は終了です。これからもおつき合いよろしくお願いします！

これが手術後、入院中のときの姿。手術してからしばらくは、まったく動いちゃいけなくて、寝返り打ってもいけないって言われてたから辛かったな～。お見舞いに来てくれたたくさんのみなさん、ありがとうございました。

かねはら・ひろみつ

ただいまリハビリ真っ最中！ 不眠症に苦しむ金ちゃんに励ましのメールを。下記のURLまでいますぐアクセス！

金原弘光オフィシャルHP http://www.hiromitsu-kanehara.com/

TAISHOおめでとう!!

花くまゆうさく

リングの汁 RADICAL

私の中で今年いちばんのベスト本は、カミオン増刊『トラック野郎特集号』が独走していたが、こないだついに浅草キッド著『お笑い男の星座2』が出たので、この2冊がトップを爆走中。速読のスキルもないのに速読できちゃう(したくなる?)本ばかりの今、キッドのこの本は速読無用! というか速読不可能な重厚で濃い一冊。夏休みの読書感想文の宿題がある人には、この2冊と手前ミソですが私の絵本『ムンバ星人いただきます』をひっそりおすすめしたい。

そんで、この夏の映画は、ブラジル産の『シティ オブ ゴッド』をおすすめ。六本木ヒルズに行く人生とは無縁だと思っていたが、この映画を見るために2回も行ってしまった。いま私の頭の中は、日に何度も「カンフーファイティング」が流れている。いい奴だったなあ、ベネ。

そしておもしろかったといえば、中西vsTOA。おもしろすぎるので、DVDにダビングして永久保存しとこう。「同じ素人なので、デブのTOAなら中西勝てるかも! K-1ルールで勝つなんておいしすぎる!」といった思惑で、ミエミエで新日総出でやってきて、あの結果。試合後の蝶野&永田の顔が最高。「仮に負けても、ガンガン打ち合って高山みたいな位置に上がればOK」な思惑も、木っ端微塵!

これじゃマズいと思ったのか、新日は数日後に「実はケガしていた」とアピール! けど、さすがにこれには、いつもかばってくれるプロレスマスコミもあまり大々的にひろってくれず、新日轟沈。やっぱ新日はガタガタのときが面白い。ガタガタの歴史を今後もくり返し見せてください。

蝶野も永田も人ごとのように振るまう中、出てきたのは我らがポーゴ!!『東スポ』にひっそりと、「やいK-1」とポーゴのK-1へ宣戦布告記事があるではないですか! 「やいK-1」てのがいいね。そして「当然、俺様が出るからには、クサリ鎌と火炎殺法は認めろ!」更に「プロレスラーの権威を回復するのは俺様しかいない。中西の敵討ちは俺がやってやる!」と、永田&蝶野の口からまったく出る気配のない言葉がポーゴの口から出ましたよ! いま、コツコツと少しずつDVDにビデオテープダビングして整理してるんだけど、『週刊TVプロレス ミスター・ポーゴ特集』は当然、高画質永久保存版にしますよ、ポーゴ様!

7月13日の修斗後楽園大会は、格闘結社田中塾の選手の応援に、KID応援団や古くは体術連盟応援の人たち以来になる見た目ガラの悪い人たちが会場を占拠したり、中尾vs菊池がとても見たくなったりといろいろありましたが、恐い植松復活がなによりうれ

男道コーチ屋稼業・掟ポルシェ(ロマンポルシェ。)の

業☆勝ちます

『ポーゴの呪い(微弱)』の巻

未だヨタ物マニアの間で重宝され続けているW★INGTシャツ。数ある中で、当時俺はミスター・ポーゴTシャツを購入した。シックな黒の綿生地を惜しげもなく使用した一品だけに冠婚葬祭にもピッタリだと思い、バアちゃんの葬式に是非着ていこうとハリキっていたが、よく考えたらその時点で父方母方のジジババ全員とっくに死んでいたため、着る機会がないことが発覚。かといって、この気品に溢れたポーゴの増殖っぷりを眺めるに、なんか普段着にして着潰すにはもったいない気がして、ここ一番の一張羅として盆と正月およびススキノのソープへ行く時以外は袖を通さなかったのである。

しかしある時、意気揚々とポーゴTシャツを着ているときに限って、なんと~かマヌケな事件に巻き込まれがちなことに気付いたのだ。ポーゴTでバッチリ正装して新春ソープへ行ったときのこと。さすがに正月だけあって出勤しているのは人間のオンナ一名、タヌキとキツネ各一匹ずつというドラゴン・ヘッドな状況。死ぬほど帰りたくなったが、入浴料を先払いしてしまったのでなんとしてでもドッピュingしなければならない。しかも、俺は友達のマコちゃんと一緒に来たため、どちらか一人は動物くん相手にニセ子孫繁栄行為にスコスコ励まねばならんのだ。真剣すぎるジャンケンの結果、見事、俺がタヌキとキツネの二択権を獲得。「溺死と銃殺どっちの死に方がいい?」と聞かれているような目の前の現実に、いきり立つヘソ下三寸のオットセイが瞬時になめくじサイズにしぼんで行くのを感じた……。仕方ない。もうどうにでもなれとポラを見てマシそうなキツネを選択。だが実際には、ポンプの打ちすぎでガリガリに痩せ全身の細胞

いまもWWS興行の売店でチラホラ見かけるポーゴT。見つけたら即買いだ!!

しい。ルミナもライトに来たし（ルミナvs門脇、ルミナvs戸井田が見た～い）。これで、がぜんライト級戦線がおもしろくなってきた。植松vsＫ－Ｄ、植松vs小ノゲイラを見れる日は来るのかしら。ＺＳＴのライト級トーナメントのメンツとも絡めたら最高なカードいっぱいなんだけどなあ。特に植松vs今成なんて黄金カードだ。コンテンダーズでなら実現可能だと思うので、宇野さんへ念力を送ろう。

この日は修斗見た後、ＤＥＥＰ大阪大会のＰＰＶ再放送。注目の三島vs今成は、階級差を痛感させる非情な試合となり、やはりミスマッチだったのかしら。次のアブダビは遂に日本開催のようだから、二人とも出てほしいな。

８月はプライドと修斗横浜大会がまた同じ日か？　大変だな。片方の結果知らずに無事家路につき、何も知らない状態で録画したビデオ見れるのかな？　得意げに結果言ってる人の声が聞こえてくるんだよな、みんな気をつけて帰りましょう。

はなくま・ゆうさく

田村が足関取りそうな気が、少しする。

が所々壊死したキュラソ星人みたいなのが平気な顔で出てきやがった。ポラ写真と実物の差はＪＡＲＯが動き出すのに十分なレベルだったと言えるが、「大丈夫、俺はまだまだ酒に酔っている」とヤケクソ自己催眠をかけ、コトに及ぶべく入浴した。

「ヤダ！　ちょっとアンタお酒飲んできたでしょ！　ゲロ吐くなら便所でやってよね！昨日来た客がさァ～、いきなりマットプレイの最中ブロロォゴボバッ！っとゲロ吐いちゃって！　スッパ～イ臭いが充満しちゃってェ、私も思わずもらいゲロ！　勘弁して欲しいわよまったく！」……勘弁して欲しいのはこっちだっての！　服を脱ぐなりゲロゲロ連呼しやがって、おまえは青空球児か！　「アラお客さん元気ないわね～」って、冗談顔だけにしろよアーノルド坊や！　まだギリギリ息のあるカッパのミイラみたいな物体がゲロの話してんのを聞いて勃起出来るヤツがどこの世界にいるんだバカヤロー！そこから後は己との闘い念力でチンポに芯を通し、なんとかシャブガッパの生殖器に闘魂棒注入。「流れるな涙、心で止まれ」と自分に言い聞かせたが、上に乗った宇宙生物は一突き毎に「ゲッ、ゲッ、ゲッ」と毒蛙のような鳴き声を上げるのである。俺のサイコキネシス勃起は特殊ヨガリ声によって脆くも破れ、結局ホルモン未放出のままガックリと肩を落として店を後にしたのである。その後犬のウンコも踏んだ。死にたかった。

また、ある時はデートにも着ていった。しかもポーゴＴに加えてナパーム・デスのメッシュキャップも追加し、彼女を自転車のケツに乗せて二人乗りしていた。我ながら頭が悪いと思う。中野ブロードウェイの横の道を時速二キロぐらいで安全運転していたところ、前方から中学生とヤクザの丁度中間のようなちんぴらリトルリーグが肩で風を切ってズチャラズチャラと歩いてくるのが見えた。人が余裕ですれ違える道幅があったのでそのまま走っていったら、すれ違いざまマイチャリのペダルにわざと足を引っかけて来やがった。俺の肩をドーンと張り飛ばし「おーう！　テメェどこに目ェつけてんだ！事務所来いコラァ！」と因縁をつけるチャイルド極道。事務所という言葉もそいつの口から出ると東俳とかの子役事務所のことにしか聞こえない。デート中に子供からケンカを売られるのはとにかくみっともないことこの上ない。ガキに「こいつは格下」と思われてる時点で恥なのに、本気で応戦するのも大人げないし、かといって無視すればガキにさえビビるチキンと受け取られかねない。しかし俺が「ガキ、家帰って寝ろ！」と言うのが早いか、子供やくざは「ちょっと来いコラ！」と言いつつキャップごと俺の頭を鷲掴みにしてきた。そっから後はブチギレた俺が大人の力で40キロ台そこそこのガキの胸ぐらを掴んでハンマー投げの要領でブン回し、地面に叩きつけて楽勝でマウント奪取。絶対殺してやろうと思ったが、ふと彼女の顔を見ると、子供相手に何やってんのとドン引きしているのがわかる。マズイ。通りすがりの酔っぱらいに「な、兄ちゃん、ここは俺の顔に免じて許してやってーな」と制止され「俺の顔って言うけど、そういうお前は誰なんだ？」とも思ったが、とにかく助かった。その晩デート後恒例のお●こタイムは当然なかった。また精子が溜まった……。

ポーゴＴシャツによる弱火な呪い例はまだまだあるが、大方セコイ話ばかりで書いてる方が気が滅入ってくるから以下割愛。ハァ……。

おきて・ぽるしぇ

ロマンポルシェ。がサマーソニック2003出演決定！
■８・２（土）幕張メッセ・パフォーマンスステージ／14時頃～
■８・３（日）千葉マリンスタジアム／朝10時頃～
問 03・5774・5509 ミュージックマイン

原タコヤキ君の

大阪プロレスファン通信

ナニワの中のナニワな人たちがお送りするダイナマイトな関西コラム

1st. GUEST

ケンドーコバヤシ■吉本興業所属。若手芸人グループ"ベース"のリーダー的存在。最近、天龍源一郎とテレビで共演する機会があったが、あまりに聞き取りにくい天龍ボイスに、命がけで耳を澄ましたという。

まいどー！　かつては西からプロレスフィーバーを巻き起こした大阪も、今ではすっかり不毛の地。それじゃアカン！　ということで「蘇れ！　関西プロレス黄金時代!!」を合言葉に、関西のプロレス好きの芸人、タレントたちが立ち上がります！　ほな行くで～！

――まず、なんでケンドーなの？

ケンドー　これには諸説ありまして、古くはケンドー・ナガサキ、最近ではケンドーカシンから取ったなんて言われてるんですが、ホンマは違うんですよ。芸名を考える時、今までしたことない名前にしようと思ったんですが、僕、結構色んなことやってたんですよ。で、やってないことで残ったのが、結婚、離婚、アナルセックス、剣道の4つやったんですよ。ほんで、前の3つはこれから可能性あるやろうと。でも剣道はもうやる機会はないやろうということで、ケンドーにしました。

――はいはい（笑）。で、プロレスを観るようになったきっかけは？

ケンドー　本格的に観るようになったのは、タイガーマスクからですね。タイガーマスクは刺客がたくさんいたのがいいですよね。僕はその中でもレス・ソントンが一番好きやったんです。

――なんでレス・ソントンやねん！　ブラック・タイガーとかダイナマイト・キッドとか他にもおるやんか（笑）。そのへんがケンドー君やなあ。

ケンドー　だからみんなブラック・タイガーの役とか取り合いやったんですけど、レス・ソントンはいつも空いてました（笑）。

――子供の時は、「プロレスってホンマに真剣勝負やろか？」って考えるじゃないですか？　ケンドー君は自分の中でどうやって折り合いつけてたの？

ケンドー　僕自身は「ちょっと違うやろなあ」とは思っとったんですけど、プロレスをバカにするヤツからは、プロレスを守ってましたよ。だから自分で技をかけて、「見てみぃ！　プロレス技は痛いやろ！」と思い知らせていました。しかもスピニング・トー・ホールドみたいな、プロレスファンでも「あれはちょっと……」というような技で（笑）。

――闘ってるなあ（笑）。

ケンドー　これは芸人になってからなんですけど、僕、プロレスを守るために彼女と別れましたからね。一緒にテレビでプロレス観てたら、やっぱり言うんですよ。「これ、痛いの？」って。ほんで「お前、ちょっとこっち来い！」いうて膝十字を極めたんですよ。

――なんでやねん（笑）。

ケンドー　ところが僕、女の人の関節があんなに柔らかいって知らんかったんですよ。全然極まらなくて。まさにモンキー・ジョイントですわ。猪木さんと対戦した相手は、みんなこんな気持ちになるんやろうなあと思って。

――知らんがな（笑）。

ケンドー　ほんで僕、ブリッジするくらいのけぞって極めたんですよ。ほんなら彼女、靭帯痛めて病院行きですわ。

――彼女を病院送り！

ケンドー　病院で何回も謝ったんですけど許してくれなくて……。ほんで別れたんですわ（しみじみ）。

――壮絶やなあ（笑）。

ケンドー　僕、プロレスを守るとともに、今でもそうなんですけど、やっぱりプロレスを広めたいって気持ちがどっかにあるんですよね。

――ピュアやねえ、意外と。まあ、お笑いトーナメント中継とかでも、一番大事なところで越中詩郎のモノマネで押し切ったもんな（笑）。結果、優勝できたからよかったけど。

ケンドー　僕、学生の頃、生徒会長に立候補した時、坂口征二って名前で出馬しましたからね。

――なんでビッグ・サカやねん（笑）。

ケンドー　演説の時、柱にジャンピング・ニーして痛がりながら入場しました（笑）。

――誰もわからんやろ（笑）。そんだけプロレスが好きやったら、プロレスラーになろうと思わんかったん？

ケンドー　実は僕の親父が頭おかしくて、僕をプロレスラーにしたかったらしく、裏庭にロープ張って、その上を歩く練習とかさせられましたよ。

――虎の穴やないんやから（笑）。

ケンドー　ホンマ、虎の穴ですよ、あれ！　鍋に熱した小石を入れて手刀の練習させられそうになったし。

――ケンドー君、嘘つきキャラやからなあ（笑）。

ケンドー　ホンマですって！　ただ、UWFが出てきた時、親父は「あんなプロレスはアカン！」いうて、プロレス熱が冷めたので、僕はプロレスラーになることはなかったんですけど。

――まともに聞いておれんわ（笑）。これからケンドー君がマット界に望むことは？

ケンドー　う～ん、これは僕を含めなんですけど、周りの雑音なんか聞かんといてほしいですね。

――今日はどうもありがとうございました！　ほな、さいなら～。

ケンドーコバヤシが選ぶ
普通の私が憧れる狂気を持つ男 最強ベスト3！

1位 佐山サトル
この人には憧れるが
不思議に近寄りたくない

2位 バズ・ソイヤー
1番好きなレスラー
この人のヨダレを浴びたい

3位 LYOTO
陽気な狂気は初めて
出会いました。

タコヤキ日記

7.1 元ダブルクロス、現エンターブレインの松林貴さんより宮戸本が届く。『紙プロ』時代は「スパイだ」、「泥棒だ」と言われ続けていた松林さんだが、今では、やり手編集マン。元『紙プロ』勢もみんな頑張っているのだ。

7.5 夜、K-1MAXテレビ観戦（9・7％）。僕の会社はテレビの制作会社なのだけど、何度か武田幸三の番組を作ったことがあり、意外にもキックとは関係が深い。が、武田は1回戦でKO負け。みんな口々に悔しがっていた。

7.10 今日から二日間ファスティング開始。

7.11 ファスティング終了。おでんの夢を見る。体重微減。

7.12 大阪でも『破壊王プロレスZ-1』中継開始（3・4％）。録画に失敗して観てません。

7.13 初のDEEP生観戦。会場のグランキューブ大阪の立派さに驚く。全体としてはホンマ、インディーみたいやな。帰宅後、K-1福岡テレビ観戦（16・5％）。フィリオはだいぶとハゲとるなあ。僕と同い年やのに頼むで。深夜、新日本とノアの中継（新日2・6％／ノア1・4％）が完全に被っていた。

7.15 夜、MBS（TBS系）で闘龍門中継観戦（1・0％）。これとは別に闘龍門は関西テレビ（フジテレビ系）でも中継をやっていて、いよいよブレイク間近か？　眠たくなったので観てません。

7.18 関西テレビで『紙プロ』でもおなじみ浅草キッドのお二人にご挨拶へ。夜は尼崎のOH祭り生観戦。

7.19 スモーノブの計らいでWWE神戸大会生観戦。"ナニワのスーパースター"井上さんも観戦してたぞ。

7.20 以前、吉岡美穂の番組を制作した際、出演してくれた大阪プロレスのえべっさんにご挨拶のためデルアリへ。満員でした。

※（ ）内の数字は関西地区平均視聴率

WWEのTシャツに身をまとい、意外にハジける井上さんとテレる僕。平成のデルフィン度100％の会場前で「猪木は殺気が違うんだよ！」と一人で炎上してました。

原タコヤキ君■ちっちゃい頃の『紙プロ』編集者。前田日明デコピン事件やダミー編集長就任が有名（？）。現在は地元大阪でテレビの制作会社に勤務。引退した後でも『紙プロ』編集部に影響力を持ちたがる。

“歌うシュート活字王”狂気の新連載!!

タダシ☆タナカの『シュート活字劇場』

マット界舞台裏の裏（ウラ）

第1回

アングルの裏にある女子プロの真実

5・11全日本女子プロレス創立35周年記念大会（横浜アリーナ）は、エース中西百重が浜田文子に赤いベルトを明け渡しただけでなく、堀田祐美子と高橋奈苗が離脱を表明して大激震に見舞われ、まるで全女の終焉興行になってしまったかのようだった。高橋はその後に翻意してとりあえず残留しているが、7・6川崎では中西が遂に退団。中国に渡りレスラーの卵を指導中の伊藤薫もすでに退社しており、女子マットが混乱状態に陥っていることは誰の目にも明らかだ。

そして6月24日、全女を離脱した堀田が社長を務める新団体〝メジャー女子プロレス　AtoZ〟の旗揚げが発表された。これまでの離合集散劇の流れから、またひとつ有象無象の新団体ができたように思われがちではあるが、アルシオンが乗っ取られるような形で始まったこのAtoZは、かつてない爆弾を抱えた船出であり、この流れは女子プロレス界全体に影響を及ぼしている。

最初の不穏の兆候はLLPWが十周年にして風間ルミから神取忍に社長交替したときだ。東京プロレスが安生を社長にしたときや、吉田専務がFMWの社長になった歴史を覚えている読者もおられると思うが、唐突な社長交代劇の裏には、なんらかの理由があると思ってしかるべきだ。もっとも東プロやFMWの場合、経営危機とはいえアングル色が濃かったが、こちらのピンチは深刻。ビジネスの観点からもプロレスを楽しんでいるマニアなら、神取名義にしないと資金援助が受けられない苦しい台所事情が伺えるだろう。

通常マット界では団体が弱ってくると、それがリング上のアングルに化けてしまう悲しい習性がある。そういった意味で、6・26代々木大会で起こった風間－神取の不信任劇と辞表提出は、どうみても半分以上マジである。実際、リングサイドのイーグル沢井が泣いていた姿の方が大人のファンには遥かに衝撃的だった。

神取は40歳を期に都議会議員に立候補して、念願の政界に転出するようだ。いよいよ計画倒産が始まったと考えても不思議ではない。7月13日の横浜文化体育館では、会社の解散がメインカード神取vs風間戦の勝敗に賭けられ、風間が勝利するも強制引退をつきつけられた物語展開となっている。舞台裏を推理するほうが、試合の興奮より面白いのは困ったことだ。新団体が神取と絆の深い堀田を社長にしたことで、LLPWの選手を引き取る目論見もあるのだろうか？

老舗の名門である全女に関しては、97年10月に2度目の手形不渡りを出して一度倒産してから自転車操業のまま。それでも興行が回っているのは、松永高司会長の個人の付き合いで財務が処理されてきたからだ。その会長が重病という噂が伝わり、債権者との調整役だったやり手の弁護士が降りると、資金繰りはさらに悪化して崩壊のカウントダウンが始まったという。ただ「スターという金鉱を掘り当てれば宝の山」という神話にすがりついている以上、ギブアップしないしぶとさには定評がある。JWPやNEOのようにスリム化を繰り返して潰れない道を模索するようだ。

もっともJWPなどは「収益性の少なさ」（リリースより）を理由に、7・20ディファ有明大会のシャーク土屋vs春山香代子戦にJWP解散を賭ける旨のFAXが興行を取り仕切る（株）アカデミー・プロモーション名義で各マスコミに送られる等、LLPW同様興行不振そのものがアングルに使われており、その延命策もいよいよ尽きてきた感が否めない。

そして問題のアルシオンである。旗揚げ当初からファイティング・プロデューサーとして現場を仕切っていたアジャ・コングが職場放棄し、団体をあげて売り出していた生え抜きサラブレッド浜田文子にも逃げられてしまい目玉を失った。さらに今年初め、チャンピオンの大向美智子も離脱。この辺りから団体内に何が起こっているのかファンにも気付かれてしまう。

実際大向は試合の記録では最多勝率賞にまで登りつめていた以上、自身がブッカー（現場監督）を務めた者はもう後戻りができない。降格して一選手になっても、お仕事役をふっていた対戦相手としこりが残る。長州力と同じく次は出て行くしかなかったのだ。それで女子プロ界ではなく、新日本プロレスなどに照準を絞ったのは極めて正しい判断だったといえるだろう。

そのアルシオンを吸収する形で始まったAtoZに、現在のところアルシオン社長であったロッシー小川の姿はない。しかし、これは計画的に自己破産を申告したため、本人は表舞台に出るに出られないだけというのが関係者の一致した見方だ。アルシオンの事務所や道場を引き継ぐことからも、新団体をロッシーが指揮していることは間違いない。むしろ業界ではグッズ販売委託業者の関与がささやかれながら、実際にお金を出しているスポンサー筋が表になってないことのほうが不気味である。タニマチは下田美馬の後援者説もあり、設立会見でも用意されたロッシー文体の資料を棒読みしていただけの堀田が、社長業を務められるのか疑問は残っている。

ちなみに新団体とアルシオンの関係だが、もとから女子プロレスで何かをやりたいと考えていたグループにとっては、道場を持ってる団体が資金面で行き詰ってくれたという形になった。都合よくかっこうの受け皿があった、と考えるほうがわかりやすい。ロッシーは借金のカタにいわば人柱にされた格好なのだろう。だからフロントとそのバックの正体がはっきりしないマイナス面だけでなく、若手が将来を担うことを設立主旨に掲げながらも、肝心の西尾美香や阿部幸江の表情がヒール面のままで、なにかグレーな旗揚げの印象がぬぐえないのも気になっている。結果としてロッシーは団体と選手を売り飛ばしたわけで、選手は今さら辞めるに辞められない状態で大変困惑しているようだ。

一方、業界の覇者GAEAではアジャ・コングが若手世代に対して、「お前らの時代なんかこない。女子プロに未来なんかない」発言が刺激的だった。これを裏返して読むなら、むしろGAEAはこの混乱を利用して、若手を結集させて取り込むチャンスだとハッスルしているようだ。実際BPM（ブラット・パック・マッチ）実行委員会主催興行の名目で、平成世代が提唱した大会を7月5日に成功させている。「将来を担う才能」を名称に込めて、さっそく納見佳容や高橋奈苗を使っていた。すでに飽和状態の選手数を抱えているので、単純に所属選手にするよりは、こうした実験興行で取り込んでいく既成事実を作る方針なのだろう。

このままGAEAの独り勝ちが続くのか、それとも新団体〝AtoZ〟の目標が、前途多難の全女やLLPWの選手までを集めることで、いずれ二強体制になることを目指したものなのか？〝メジャー女子プロレス〟という名称の由来が「混迷する女子マット界のメジャーを目指し、すべてを包括する」という意味らしいので、その動向からは目が離せない。

注目は「しばらく休養」を発表した中西百重の動向だが、こちらは現在中国にいる師匠の伊藤薫が鍵を握っている。未確定なアイデアも多いので、とりあえずは、秋にも女子プロレス界がさらなる激震に見舞われることを予告するにとどめておく。

メジャー女子プロレス AtoZ 設立会見

7・25川崎市体育館で旗揚げ戦を行った“メジャ女”。9月13日には、筆者が上半期のMVPと断言する下田美馬の引退記念興行として、なんと有明コロシアム進出が決定している。

ザ・検証

グッズもド真ん中なＷＪから『長州力のド真ん中目覚まし時計』が発売された。「ケタ外れのベル音が君の本能まで目覚ます!?」「止めても止めてもあなたを起こすスヌーズ機能」等の宣伝文句に揺さぶられ買おうかどうか真剣に悩んだ。しかし、定価を見ると、なんと6000円！　財布を覗いてみると……非常ベルがガンガン鳴っていたので諦めました。

今月の検証 by せき詩郎

天山の悩みとは何か？

両手首を交互に触りながら時を待つ。やがて大音量で流れ出す「パワーホール」。同時に長州がゆっくりと走り出す。やや前傾気味の独特の姿勢で、時々トレードマークである長髪のサイドを手グシで整えている。わざと視線をそらしているかのように下方を見ながら、何かと距離を測っているかのようにじりじりと動いている。そして突然のダッシュ。その勢いのまま己の、そして相手の闘志にも火をつけるような激しいストンピング。かと思えば足首の古傷を少し気にしながらスローダウン。再びゆっくりとぐるぐる走り出す。鳴り止まないパワーホール。腕をぐるぐると回しながら何かを狙っているようだ。日焼けした体。サイパンで焼かなければこの色にはならない。

次の瞬間、パワーホールが突然止まった！　同時に長州は再びダッシュする。持ち前の革命心に火がついたのか、それともお得意の下克上、噛み付く相手を見つけたのか？　ターゲットへたどり着くや否や、サソリががっちりと決まった時のように素早く深く腰を下ろす。これは自分のものだと言わんばかりに、周りを指差して威嚇し、近寄れないようにする長州……。

以上、この夏に行われるかもしれない『ＷＪ夏のキャンプ大会』でのゲームお楽しみ会のプログラムのひとつ「椅子とりゲーム」について書いてみた。

椅子とりゲームで軽く汗を流した後は、キャンプファイヤーを囲んでの親睦会だ。乾杯と食事の後はお待ちかねのかくし芸大会。ここでも注目はやはりＷＪのリーダー長州だ。

いまや長髪と同じくらいお馴染みとなった頭にタオルを巻いた姿。この状態で登場し何をするかと思えばおもむろに腕を組み、なにやら話し始めた。頭のタオルをバンダナにみたて立川談志のモノマネだ！

続いてはまたしても手首を触りながら独特の前傾姿勢で構える。いつもの険しい表情。しばしの沈黙。参加者達は何が起こるのか固唾をのんで見ている。この〝間〟がたまらない。やがて腕をぐるぐる回し、その腕を高々と上げた！　同時に「はーい！」と叫ぶ！　なんとアダモちゃんのモノマネではないか！　これには選手一同大ウケ。長州にも笑顔が浮かぶ。さすがの長州も大ウケにはしかったようだ。長州にこんな幸せな日があっても良いのではないだろうか。

どうだろうか？『ＷＪ夏のキャンプ大会』がとてつもなく楽しいものに思えてきたのではないだろうか。考えただけでウキウキしてくるから不思議だ。それはＷＪという団体が持つ魅力のせいなのか。それとも夏のせいなのか？　普段できないようなモノマネも夏ならできる。頬をすり抜ける潮風が心をソーダ水のように弾けさせる。そんな夏のせい？　まるで夏というのはマジシャンのようだ。身も心も大胆にさせてしまう。

などと今月は夏について検証するわけではない。そんな浮かれ気分の私たちとは正反対に、落ちこんでいる男がいる。天山だ。テンコジのテンの方だ。ちなみにコジはコジン・カーンかそれ以外だ。コンビニの雑誌売り場でチラッとみた『ゴング』の表紙に天山が悩んでいるようなことが書いてあったのだ。ほんの数秒しか見ていないが写真の天山は確かに苦悩の表情であった。

しかし、あの陽気な天山が、あの元気な、いや元気印な天山が、いつも私たちに元気をくれた天山が悩んでいるというのだ。これはほっとくことなどできない。今度は私たちが天山を元気付けてあげる番ではないだろうか。と、ここで持ち前の必要ない使命感の出番。今月は天山の悩みを検証し、解決していきたい。

だがここでひとつ問題なのが、天山は何を悩んでいるのかが不明ということ。コンビニで『ゴング』を見かけたあの時、少しでもページを開き、斜め読みでも天山の苦悩を知ってあげればよかったのだが、それより早くお菓子を買って家へ帰り、買ったばかりのビーバップハイスクールのＤＶＤを見たかったのだ。なので『ゴング』を読む暇がなかった。もしもあの時立ち読みでもしていれば。もしもあの時天山のＳＯＳに気づいてあげていたなら……。

これが問題の天山の表紙の『週刊ゴング』（NO.976）。頑張れ!!

だが過去のことに「もしも」は禁物。もしも本能寺の変がなかったら!?　もしも光秀が本能寺へ行った時に信長が留守だったら!?　信長のお母さんしかいなくて「あがって信長が帰ってくるのを待ってなさい」とすすめられたら!?　もしも光秀が本能寺のドアを開けた瞬間「光秀誕生日おめでとう！」と驚かされたら!?　なんていうことを考えればキリがない。天山の場合も同じだ。過ぎ去ってしまったことは仕方がない。あの時『ゴング』を読んでいればと考える暇があるなら、今はなぜ天山が悩んでいるのかその原因を解明することが先決であろう。

若い天山が悩んでいる。やはりそれは恋の悩みか？　いや確か最近結婚したばかりだ。ならば部活？　進学？　それとも性の悩み？　天山は中学生や高校生ではない。部活もやっていなければ進学も関係ない。またスポーツで発散しているはずだから性の悩みということも考えられない。

となると考えられる悩みはひとつ。「ピラミッドはどうやって、何のためにつくられたのだろうか？」という疑問しかないだろう。ピラミッドの石は約1トン半から2トンくらい。その重い石を2百万個近く使い積み上げられ作られているのだ。もしかしたら宇宙人の仕業かも!?　そんな考えさえ浮かんでくる。これなら天山が悩むのは無理もない。なんともスケールの大きな悩みではないか。さすが天山！

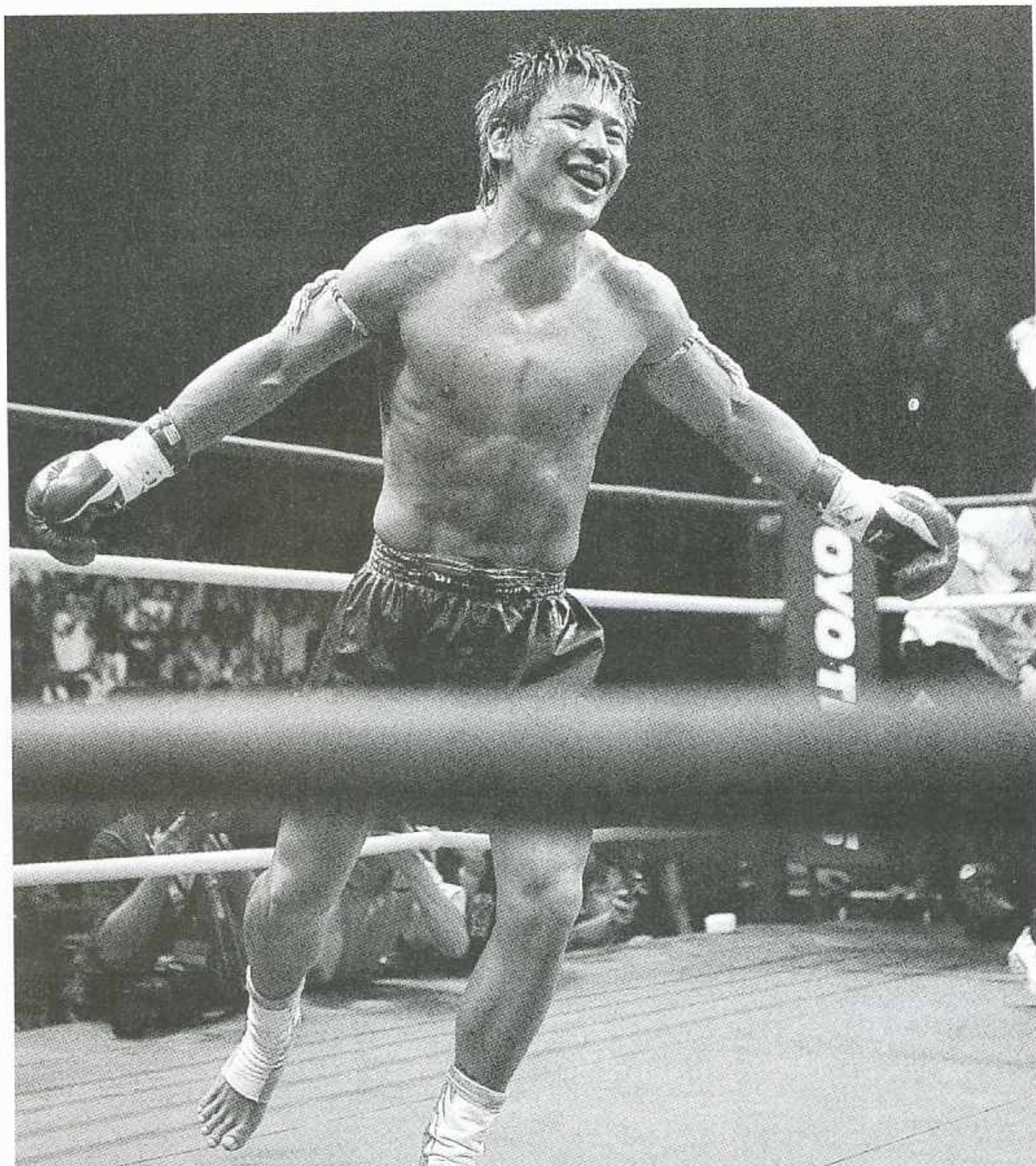
しかし残念なことにピラミッドに関しては、いまだ多くの謎が解明されていないらしい。本当に宇宙人が作ったのかもしれないし、ただ外観が派手なラブホテルなのかもしれない。なので私たちは天山の悩みを解決したりアドバイスを送ることはできない。

「それならば自分で調べよう」そう思ったのか、7月17日、髪の一部をピンク色に染めた天山がエジプトへと渡った……（本当はカナダ）。

頑張れ、天山！（以上すべてキャイーン天野の「あまざん」に対して）

今月の検証 by 椎名基樹

ちょっと梅雨って長過ぎじゃないですか?

猪木よりすごい男
「いつ何時、誰の、どんな挑戦も受ける!」
と、思いついたので、冒頭ギャグを入れてみたのだが、いかがであっただろうか? 「ツカミはOK!」だっただろうか?
ぼんち魔裟斗
という、セカンドギャグも書いてみたが、さらに、どうだろうか? それにしても、K-1ワールド・マックスの魔裟斗選手はすごかった。カッコ良かった。羨ましかった。妬ましかった。代わって欲しかった。ゴールデンタイムの主役を張り、その大役を見事果たしている男は、今の格闘技界では、魔裟斗ひとりだ。平成の沢村忠誕生か?(←表現古い?)。すごいスターになってしまうかもしれない。
それから、アルバート・クラウスvsアンディー・サワーの同門対決、素晴らしかった。ソーゼツだった。二人ともお前達は男だ! 特に、アンディー・サワーは、SBのスパッツを履いて闘ってくれたところが、嬉しいじゃないですか。外国人のああいう態度は嬉しいネ。
特に、熱心なSBファンというワケではないが、SBってつい応援したくなってしまう。その理由は、シーザー会長のキャラ(白の学ラン)、コツコツと頑張っている所など上げられるが、「やはりUの血を引く団体である」というのが、大きな理由である(←Uキチ○イ)。
現存する「Uの血を引く団体」は、修斗(シューティングと表記したいところだが)、パンクラス、バトラーツ(まだある?)、高田道場という意味でならプライド、UファイルのU-STYLE、イベントであるがZST、さらに興行はしていないがスネークピット、山崎治療院、キングダム・エルガイツはDNA鑑定の結果、血縁関係が認められず、といったところであろう。
SBが「Uの血を引く」というと、異論がある方もあるかもしれない。確かに新日道場運動(上野毛ルネッサンス)がUWFの根本だとすれば、SBは別物だというべきかもしれない。しかし、第一次UWFの打撃はSBの打撃であり、それを考えるとSBはUのかなり深いところに関わっており、個人的には「Uの血を引く団体」だと言いたくなるのだ。第一、あのスパッツは修斗、否、シューティングの、今はほとんど見られなくなった正装であり、あの姿を見るだけで、何だかグッとくるネ。とにかく、Uキチとは、夜寝る前にそんなことを考えながら「そうだ、SBは修斗とならんで、Uサイコ、否、最古の団体の一つなんだ」などと一人ごちながら、やっと眠りにつき、朝は「勝った、勝ったぞ! ヒクソンに勝ったぞ~い!」という自分の寝言で目を覚まし「なんだ、また夢か……」とガッカリして起きる、悲しい生き物なのである。

椎名さんも絶賛の魔裟斗。『格通』(NO.331)の表紙も「男なら、魔裟斗を目指せ!」だってさ。みんなで目指そう!

つまらん! お前の話はつまらん!(大滝秀司が宮戸本に向かって)。
これは、サードギャグです。Uの話ついでに書いてみました。宮戸優光氏の本、期待していただけに、肩すかしだった。全てが「つまらん!」というワケではないが、初めて聞く話は、サムライTV!の浅草キッドの番組でほとんど聞いたものであったし、その生真面目さからか、読んでいて学校の体育の教師に説教されているような気分になるのだった。そもそも今更、高田を褒めちぎられても、読者は困るだけだ。俺自身を含め、確実にその層ができていると思われる「プロレス本(活字漫画)」を読むことを趣味にしている人たち」の厳しい目には、物足りない内容だったであろう。宮戸氏はプロレス、料理とも「プロ」であることにこだわった人なのだから、執筆もプロとしてのぞむ、つまり読者を喜ばすことを、もう少し考えて欲しかった。と、そこまで書くほどのことじゃなかったんですが、楽しみにしてた本だったもんで、ごめんなちゃい。
そして、さらに話は飛ぶが、遅ればせながら、我が尊敬のザ・グレート・サスケのマスク問題について、一言、いわせてもらいたい。この問題で思ったことは、田代まさし氏の事件の時にも感じたが「世間は生け贄を必要としているんだな」ということだ。どーでもいいことを真面目な顔を装って、騒ぎ立てたいのだ。この場合、長崎の12歳の少年のような、恐怖を感じるようなパブリック・エナミーでは不適合で、もっとマヌケな事件を起こしたヤツを嘲笑したいという欲が、世間に潜在的にあるように感じる。そもそも一人の人間が隠しているものを、よってたかって「晒せ」と言っているワケで、これほどの暴力もない。「チンコだせ」と言っているのと同じだ。そういう人たちに言いたいことは、もし、サスケ師匠が「はい、わかりました」といってマスクを取ってMASAみちのくが目の前に現れた時、きっと全員が感じるであろう「あ~悪いことをしちゃったな」という自己嫌悪に陥ってからじゃ遅いぞということだ。中から出てくる顔がキムタクだったら、そもそもマスクなんて被っているワケがないのである。

PS 『DEEP』の前座の試合はいつもながらシドイね。入場見ているだけで頭痛がしてきた。後で闘う選手が可哀想だよ。あの入場が「プロ意識」ってんならトンデモネー! あの選手たちはあの舞台に上がるのがすでにゴールって感じだ。バカ騒ぎの大学生ノリ、何をやっても自由って意味で、正に「スーフリ」?

RADICAL CALENDAR

7 July

30 WED.
WJ■山梨・アイメッセ山梨（18:30）
みちのく■ 秋田・本荘市民体育館（18:30）

31 THU.
WJ■千葉・船橋市総合体育館（18:30）
K-DOJO■千葉・Blue Field（19:00）
みちのく■岩手県・湯田町農業者トレーニングセンター（18:30）

8 August

1 FRI.
WJ■埼玉・熊谷市民体育館（18:30）
みちのく■岩手・二戸ショッピングセンター
「ニコア」屋上特設リング（18:00）
ノア■東京・ディファ有明（18:30）
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール（18:30）

2 SAT.
闘龍門■神奈川・相模原市立総合体育館（18:30）
みちのく■山形・立川町ベガ月山（19:00）
WMF■徳島・徳島市立体育館（18:00）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
K-DOJO■千葉・Blue Field（19:00）

3 SUN.
WJ■東京・駒沢オリンピック公園体育館（15:00）
WMF■熊本・熊本木材八代支店倉庫（15:00）
みちのく■宮城・古川市総合体育館（14:00）
大日本■神奈川・葉山町大浜海岸（13:00）
NEO■東京・板橋区産文ホール（15:00）
FUCK!■大阪・玉屋町栄光モータープール特設会場（13:00）
WWS■群馬・館市民体育館（15:00）
LLPW■東京・後楽園ホール（18:30）
全女■東京・後楽園ホール（12:00）
GAEA■埼玉・本川越ぺぺホール（17:00）
K-DOJO■千葉・Blue Field（14:00）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）

4 MON.
WMF■熊本・熊本興南会館庫（18:30）
DDT■東京・渋谷Club ATOM（19:00）

5 TUE.
ZERO-ONE■長野・長野運動公園総合体育館（18:30）
WMF■長崎・NCCスタジオ（18:30）

6 WED.
闘龍門■北海道・帯広市総合体育館（18:30）
ZERO-ONE■富山・高岡テクノドーム（18:30）
華☆激■福岡・さざんぴあ博多2F多目的ホール（19:00）
スマックガール■東京・六本木ベルファーレ（00:00）

7 THU.
闘龍門■北海道・北見東スポーツセンター（18:30）
K-DOJO■千葉・Blue Field（14:00）

8 FRI.
闘龍門■北海道・釧路鳥取ドーム（18:30）
ZERO-ONE■長野・伊那市勤労福祉センター体育館（18:30）
全女■東京・駒沢公園屋内球技場（18:30）

9 SAT.
みちのく■福島・福島市国体記念体育館サブアリーナ（18:30）
闘龍門■北海道・札幌テイセンホール（18:00）
NEO■東京・板橋区産文ホール（19:00）
ZERO-ONE■静岡・川根町町民センター前特設リング（18:00）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
全女■茨城・笠間市民体育館（18:00）

10 SUN.
『PRIDEミドルGP』■埼玉・さいたまスーパーアリーナ（15:00）
新日本■兵庫・神戸ワールド記念ホール（16:00）
修斗■神奈川・横浜文化体育館（16:00）
みちのく■青森・青森産業会館（15:00）
闘龍門■北海道・札幌テイセンホール（13:00）
大日本■東京・後楽園ホール（18:30）
ZERO-ONE■愛知・愛知県体育館（16:00）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
全女■東京・全女事務所ガレージマッチ（12:00）
JWP■新潟・長岡市厚生会館（18:00）
JD■東京・後楽園ホール（12:00）
AtoZ■東京・東大和駅前広場（18:30）

11 MON.
新日本■愛知・愛知県体育館（18:30）
闘龍門■北海道・旭川市大成市民センター（18:30）
大日本■新潟・上越市立厚生南会館（18:30）

12 TUE.
新日本■大阪・グランシップ大ホール海（18:30）
みちのく■ 岩手・花泉町民体育館（18:30）
闘龍門■北海道・函館市民体育館（18:30）
大日本■大阪・鶴見緑地公園花博広場水の館特設（18:30）
DDT■東京・渋谷Club ATOM（19:00）
AtoZ■千葉・市川市スポーツセンター（18:30）

13 WED.
WJ■東京・後楽園ホール（18:30）
みちのく■山形・鶴岡市体育館（18:30）
闘龍門■北海道・滝川市民青年体育センター（18:00）
大阪■大阪・IPMホール（18:00）
AtoZ■東京・亀戸サンストリートマーケット広場（19:00）

14 THU.
新日本■宮城・宮城県スポーツセンター（18:30）
みちのく■新潟・新潟フェイズ（19:00）
闘龍門■北海道・恵庭島松体育館（18:30）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（15:00）
K-DOJO■千葉・Blue Field（15:00）
AtoZ■千葉・一宮町GSSセンター（18:30）

15 FRI.
新日本■東京・両国国技館（18:00）
みちのく■山形・高畠町営体育館（16:00）
ノア■秋田・皆瀬村とことん山キャンプ場（18:30）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（15:00）
K-DOJO■東京・亀戸サンストリートマーケット広場（19:00）
AtoZ■茨城・神栖町民体育館（18:30）

16 SAT.
新日本■東京・両国国技館（18:00）
みちのく■ 秋田市立茨島体育館（18:30）
闘龍門■愛知・名古屋市千種スポーツセンター第1競技場（17:30）
ノア■宮城・大河原町はねっこアリーナ（17:00）
大阪■京都・向日向町競輪場（10:00）
全女■岡山・岡山武道館（時間未定）
K-DOJO■千葉・Blue Field（19:00）
JWP■東京・板橋産文ホール（18:30）

17 SUN.
新日本■東京・両国国技館（18:00）
みちのく■福島・白河市中央体育館（15:00）
大日本■青森・八戸市体育館（13:00）
大阪■兵庫・高砂市運動公園総合体育館（15:00）
IWA■神奈川・大津スイミングクラブ（15:00）
全女■全女・大阪府立体育館（15:00）
LLPW■山口・海峡メッセ下関（17:00）
GAEA■東京・後楽園ホール（12:00）
JWP■福島サンシャイン浪江（17:00）
JD■千葉・柏パワーステーション（17:00）
UBJ■東京・国立ニューシティホール（13:00）

18 MON.
闘龍門■ 富山・イベントプラザ富山（18:30）
全女■広島・呉市公園特設リング（時間未定）

19 TUE.
全日本■東京・後楽園ホール（18:30）
みちのく■青森・むつ市民体育館（18:30）
大日本■山形・鶴岡市体育館（18:30）

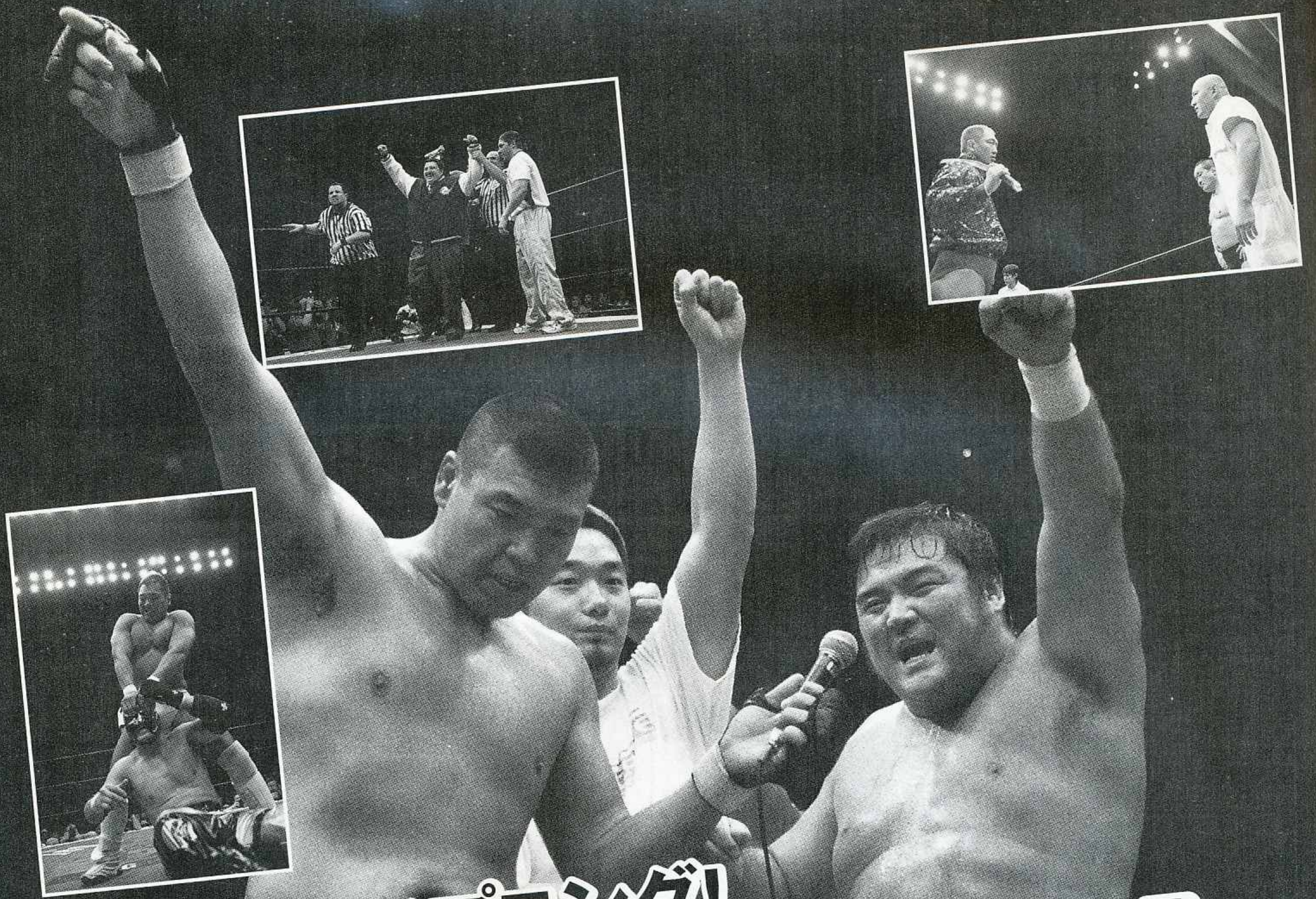
20 WED.
みちのく■青森・河西体育センター（18:30）
大日本■福島・川内村村民体育センター（18:30）

21 THU.
みちのく■秋田・大曲市民体育館（18:30）
WJ■大阪・大阪府立体育館（18:00）
K-DOJO■千葉・Blue Field（19:00）

22 FRI.
みちのく■岩手・釜石市民体育館（18:30）
全日本■北海道・旭川大成市民センター体育館（18:00）
闘龍門X■東京・ディファ有明（18:30）

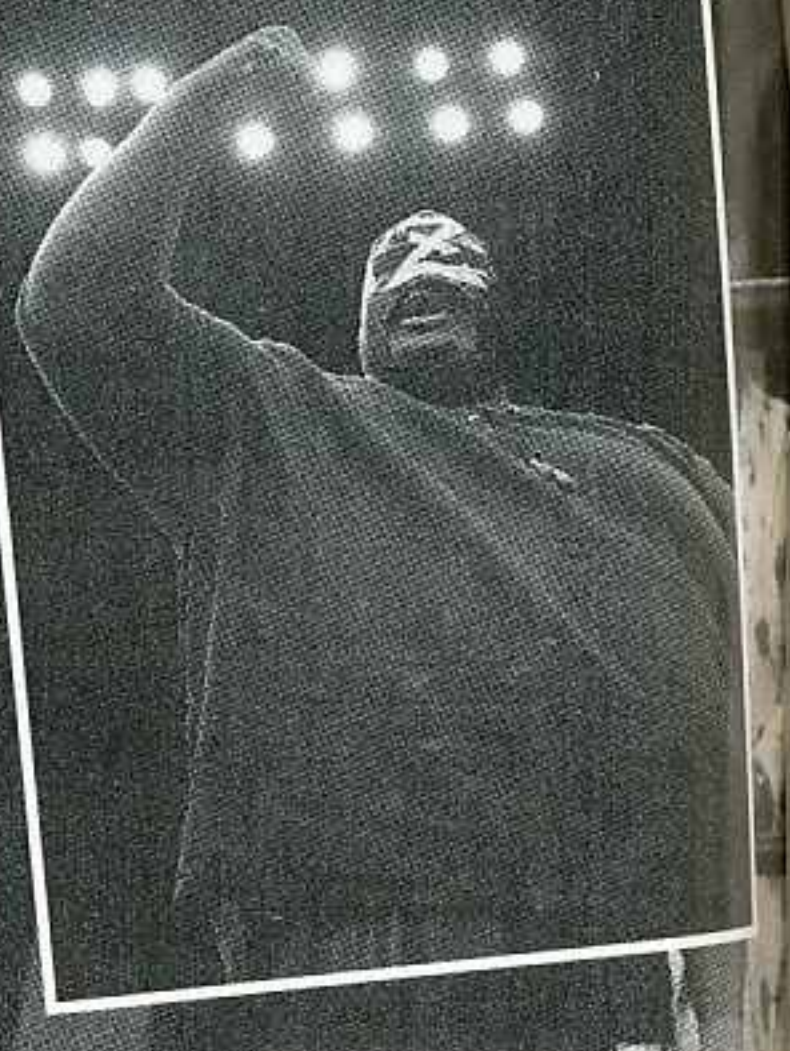
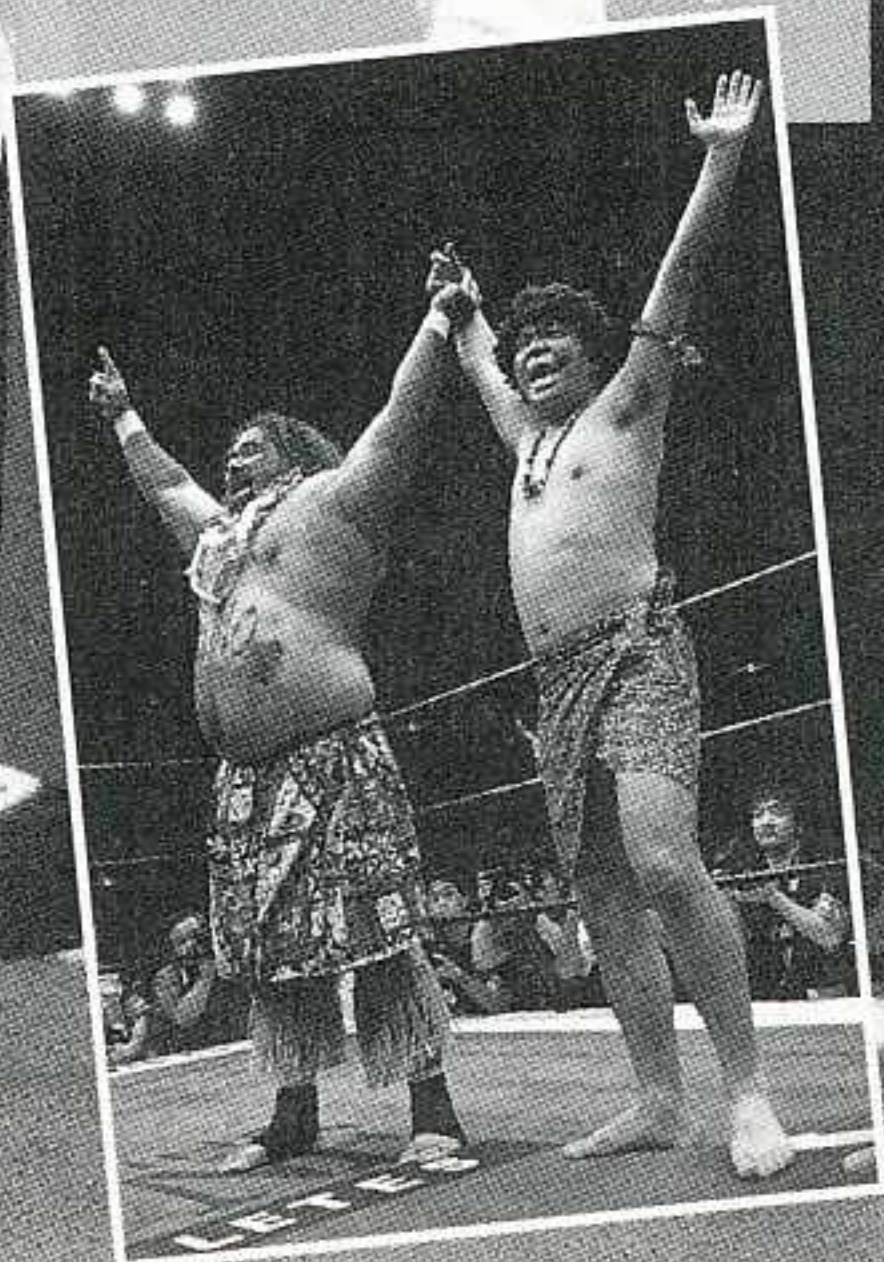
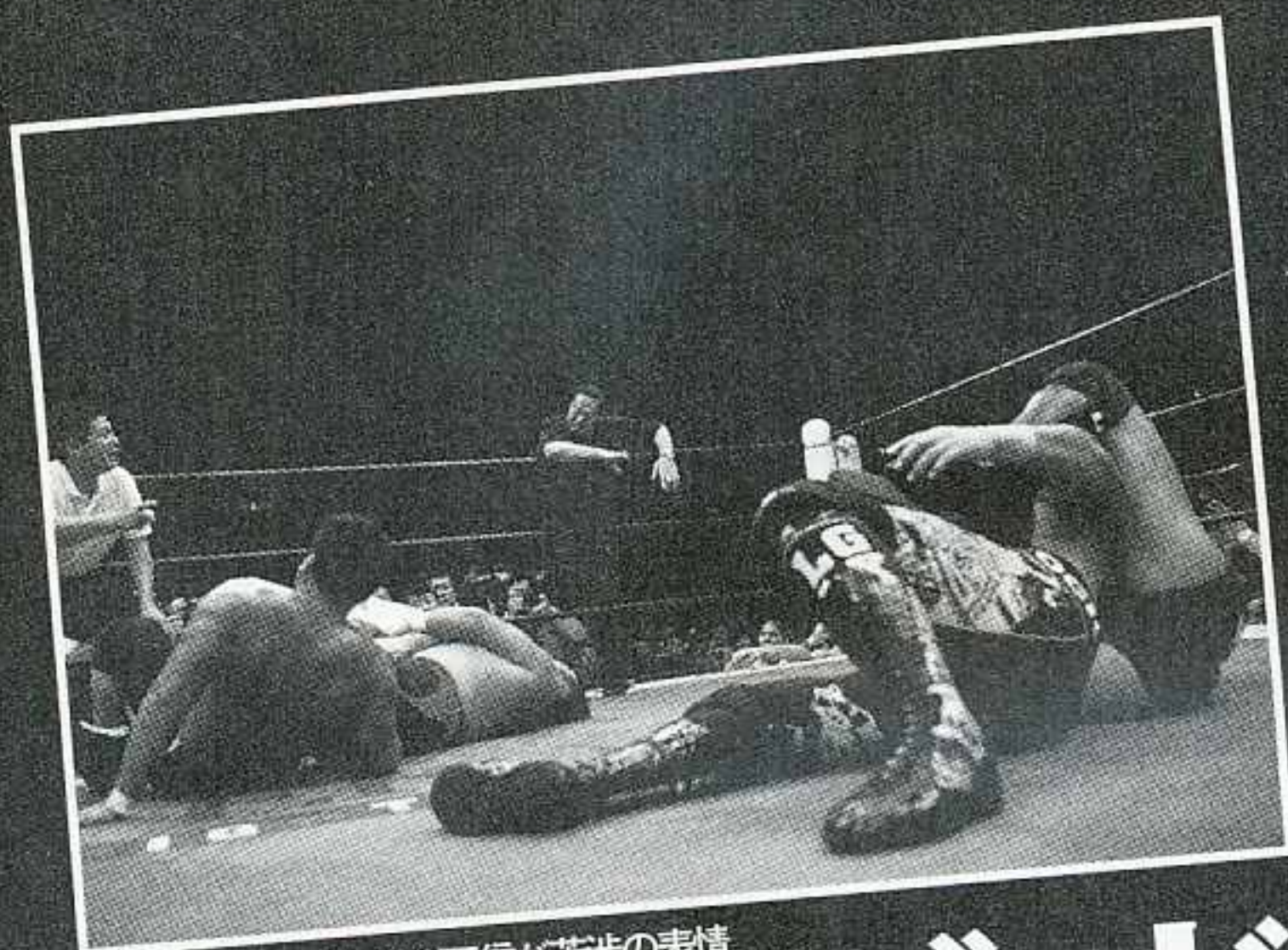
23 SAT.
闘龍門■千葉・千葉ポートアリーナ（18:00）
みちのく■山形・ウェルサンピア山形（18:30）
NEO■東京・板橋区産文ホール（18:30）
全日本■北海道・紋別市スポーツセンター（18:00）
ノア■東京・後楽園ホール（18:30）
ZERO-ONE■広島・広島グリーンアリーナ（18:30）
WJ■福岡・博多スターレーン（18:30）
DDT■千葉・ららぽーとWEST5F屋上特設スペース（19:00）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
全女■静岡・アクトシティ浜松（時間未定）
GAEA■大阪・大阪ドームスカイホール（18:00）
NEO■東京・板橋区立産文ホール（18:30）

24 SUN.
新日本■東京・後楽園ホール（12:00）
全日本■北海道・北見市体育センター（18:00）
みちのく■宮城・サンフェスタ（15:00）
闘龍門■千葉・木更津倉形スポーツガーデン（15:00）
大日本■神奈川・横浜文化体育館（17:00）
NEO■東京・板橋区産文ホール（19:00）
ノア■静岡・ツインメッセ静岡（17:00）
AtoZ■東京・後楽園ホール（18:30）
GAEA■愛知・昭和スポーツセンター（13:30）
JD■東京・新宿大東亜会館屋上（12:30）
ナイトメア■埼玉・桂スタジオ（14:00）
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（13:15）
ZERO-ONE■大分・荷揚町体育館（17:00）

25 MON.
全日本■北海道・釧路市鳥取ドーム（18:30）
WJ■長崎・西海町スポーツガーデン（18:30）
冬木軍■東京・後楽園ホール（19:00）

一寸先はハプニング！

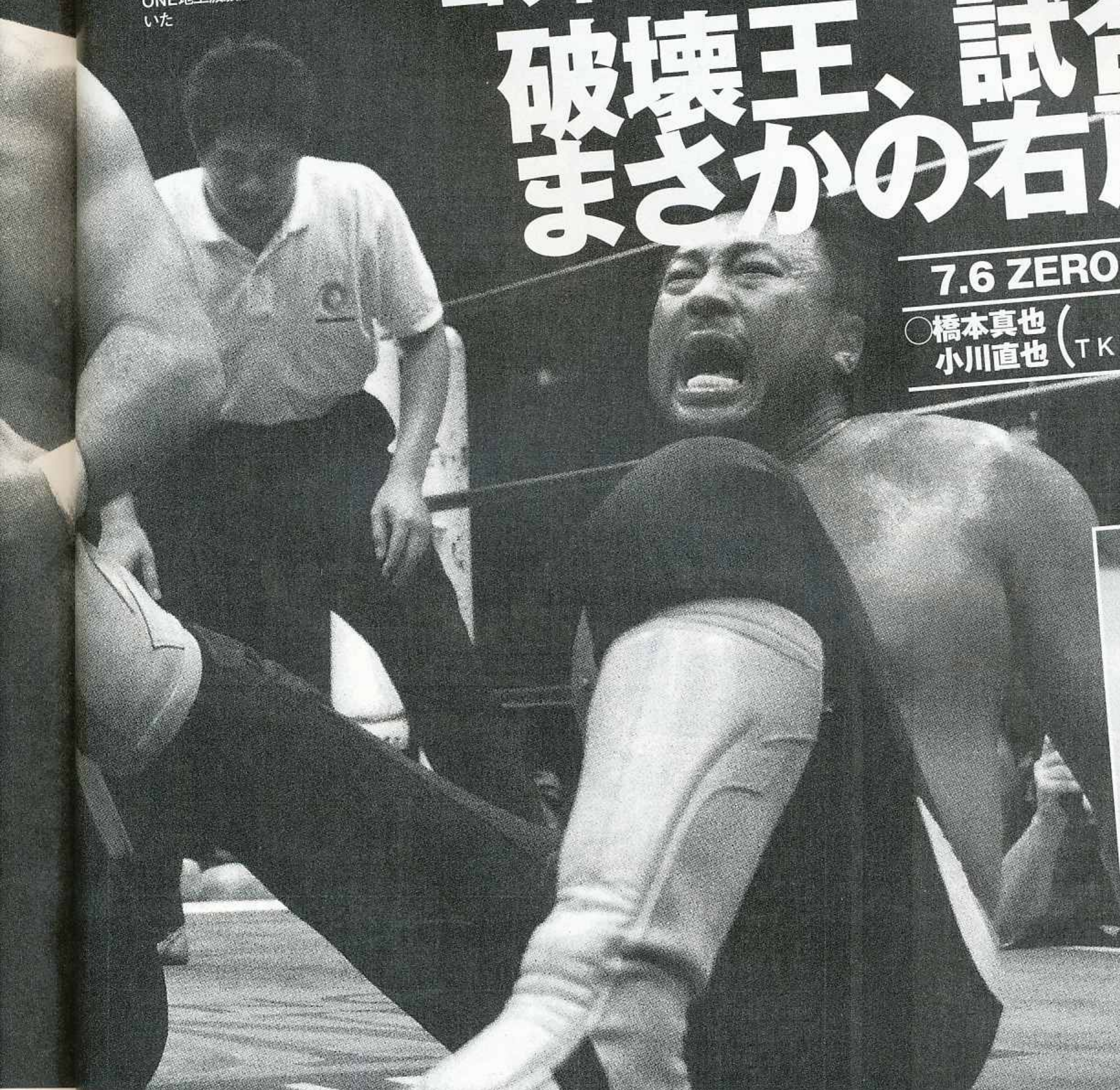
ドラマチック ZERO-ONE

何が起こるかわからない。一寸先はハプニング！　その言葉は今、ZERO－ONEのためにある！　アメリカが悪の帝国ぶりを見せつければ、時を超えて“土曜夜８時のスター”アダモちゃんが登場。そして、破壊王が劇的な負傷＆勝利！　いつ何時でもZERO－ONEは見逃せないのだ！

ドラマチック
ZERO-ONE

エプロンに上がった渕正信が苦渋の表情を浮かべてタオルを投入。ZERO—ONE地上波放送でもその表情は光っていた

ゴッドアングル降臨！
破壊王、試合中にまさかの右肩脱臼!!

7.6 ZERO-ONE 両国国技館

○橋本真也 小川直也（19分45 TKO※タオル投入）**武藤敬司 川田利明×**

試合終了数時間後、破壊王は右肩をガッチリ固められ、小川らに守られて車イスで会場を去る。わずかな段差にも悲鳴をあげるほどの重傷だった

破壊王、激勝！　右ヒザ骨折のケガを押して出場した破壊王・橋本真也。いまだ足のつけない状態でありながら、小川直也のサポートを受けて大奮闘。川田の右ヒザを破壊し、見事勝利をもぎ取った。

敵方ながら、両国の観客に拍手で迎え入れられた武藤敬司＆川田利明。「鬼になる」という言葉通り、冷酷に破壊王の右ヒザを狙いにいく両者。破壊王は、ケガのためキックが打てない。まして、ジャーマンにかつぎあげることも出来ない。ＯＨ砲の合体技は封じられた状態だ。

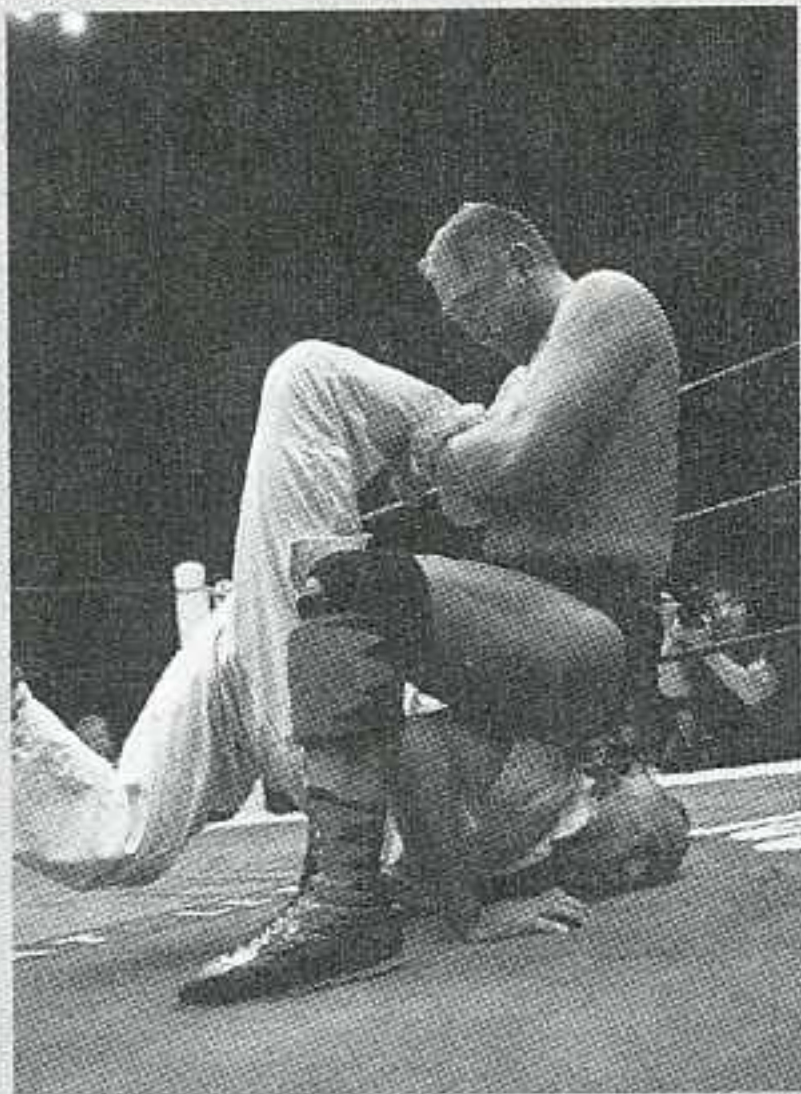
それでも腕があるとばかりに、破壊王は川田のキックをケサ斬りチョップで撃ち落とす。そのままヒザ十字に取り、小川はすかさず武藤をスリーパーで捉える。古傷を痛めつけられる川田を見て、セコンドの渕正信が、苦渋の表情でタオルを投入した。

痛むヒザと、右肩をかばいながら、破壊王が笑顔を見せた。「ありがとう！　カッコ悪いけど、なんとか勝ったぞ!!」。そして、お約束の「オー、エイチ、ホー!!」＆「スリー、トゥー、ワン、ゼロ、ワーン!!」の二段ジメ。

しかし、笑顔はこの瞬間までだった。袈裟切りチョップの衝撃で、破壊王は右肩を脱臼。勝利の代償は、あまりに大きすぎた。

「今日は奇跡がおきた。最後はハートの強さで勝った。リングにあがれるのが奇跡なのに、最後は肩まで外して、奇跡としか言いようがない。橋本がリングにあがっただけで涙がでる思いだった」。小川は、かすれた声でひとり、そう語った。右足を負傷してからずっと、松葉杖で歩き回っていたことが、破壊王の右肩を痛めつけつづけていた。『ＯＨ祭り』をひかえた中、

アレク、炎武連夢の"みそぎ"を受けて『火祭り』参戦決定!!

アレクサンダー大塚が、藤原喜明とのタッグで登場！ 試合中アレクひとりに、ブーイング&帰れコール、厳しいヤジが飛ぶ中、アレクはさかんに前に出て、大谷&田中のキツイ当たりを全身で受けていく。ボコボコにされながらも立ち上がったアレクに大谷のスワンダイブがヒット、続けざま逆片エビを極められてしまい、レフェリーストップ。試合後も、向かっていこうとするアレクを大谷は「やる気だけが空回りしてんな」と評したが、「『火祭り』に名のりをあげることを許してやる」と、断固として認めなかった参戦表明を受け入れる構えを見せた。

強烈な逆片エビで絞り上げられるアレク。ギブアップは断固拒否したが、白目をむいている様を見て、レフェリーが試合を止めた

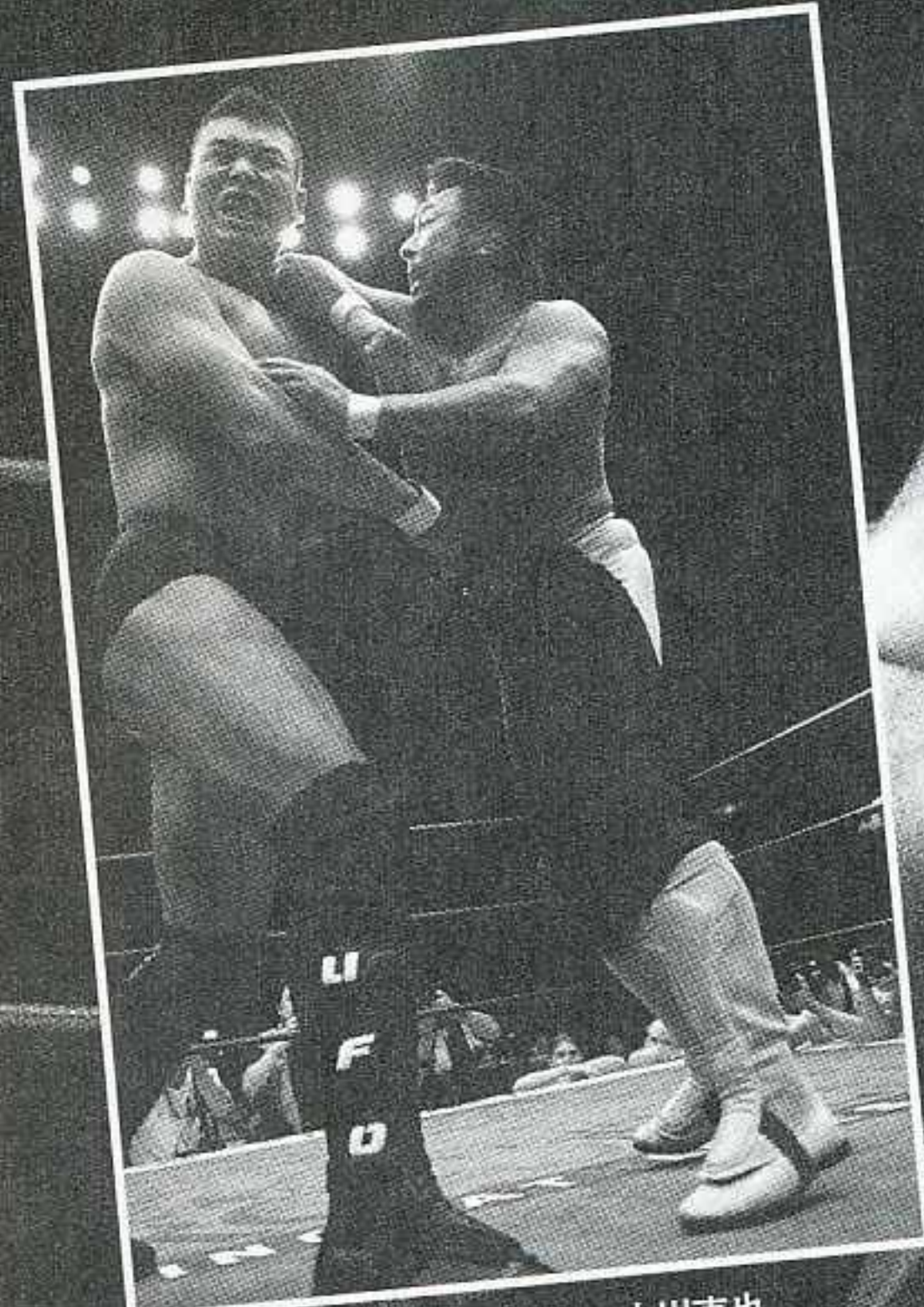
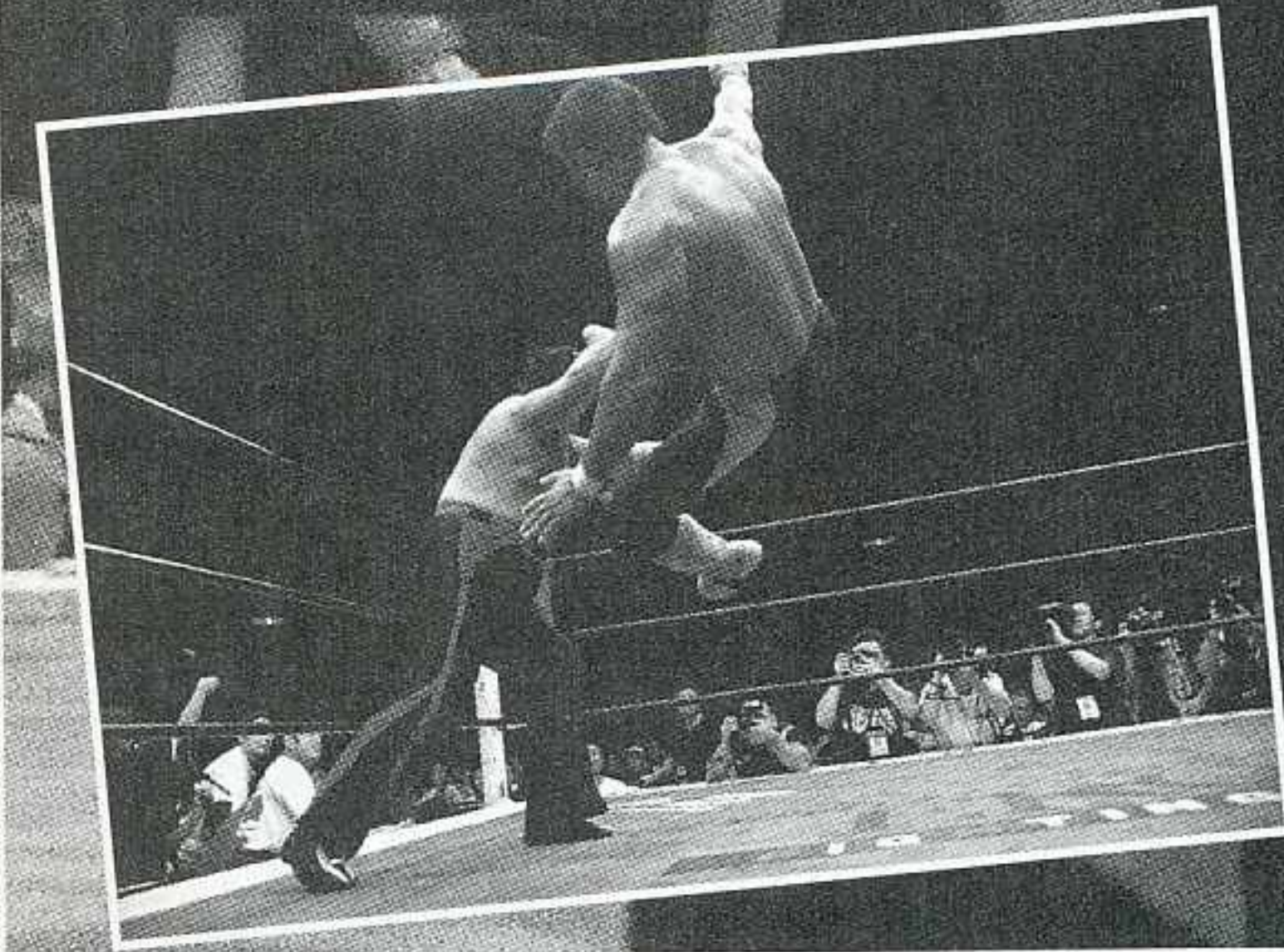
大谷のスキをついてジャーマン、続いて掟破りのドラゴンスープレックスを放つアレクに、会場の一部から「アレク」コールが起きる

ケンドー・カシン、坂田亘と初激突! いきなり爆発寸前!!

試合前、葛西純から天下一Jr.ベルトをはぎ取り、本来の持ち主である坂田に差し出したカシン。坂田が手を出すと、カシンはベルトを放り投げる！ 怒りの坂田が飛びかかり、試合がスタート。試合は、両者のパートナーである小島聡、高岩竜一が力強いせめぎあいを見せ、坂田がキックを叩き込み、カシンが狼藉を働くという目の離せない展開に。最後は場外のカシンに気をとられていた坂田が、サポーターをはずした小島のラリアットをモロにくらってしまい、3カウントを奪われてしまった。カシンvs坂田物語は、全日本武道館に続く!!

カシンのマスクに手をかける坂田！ 場内騒然!! 試合後、坂田は「あれが噂のケンドー・カシンか。負けて言うのも何だけど、屁でもねぇよ！」とコメント

試合後「どう責任とるの。全日本も、週刊文春に書かれて浮かれている場合じゃない。タイトルマッチ組むの、組まないの!」と、青木取締役に詰め寄るカシン

冷酷に破壊王のヒザを攻め、十字に持ち込む武藤敬司。破壊王のヒザが狙われるたびに、観客が悲鳴をあげた

「黒いヤツ」こと川田利明と、小川直也の初遭遇。川田は、小川にも遠慮なくエゲツない攻めを見せ、デンジャラスKぶりを発揮

川田の放った延髄切りを、破壊王がケサ斬りで撃ち落とす！ 川田はヒザを押さえて悶絶。破壊王も右肩を押さえてうずくまった

痛すぎる破壊王のケガ。

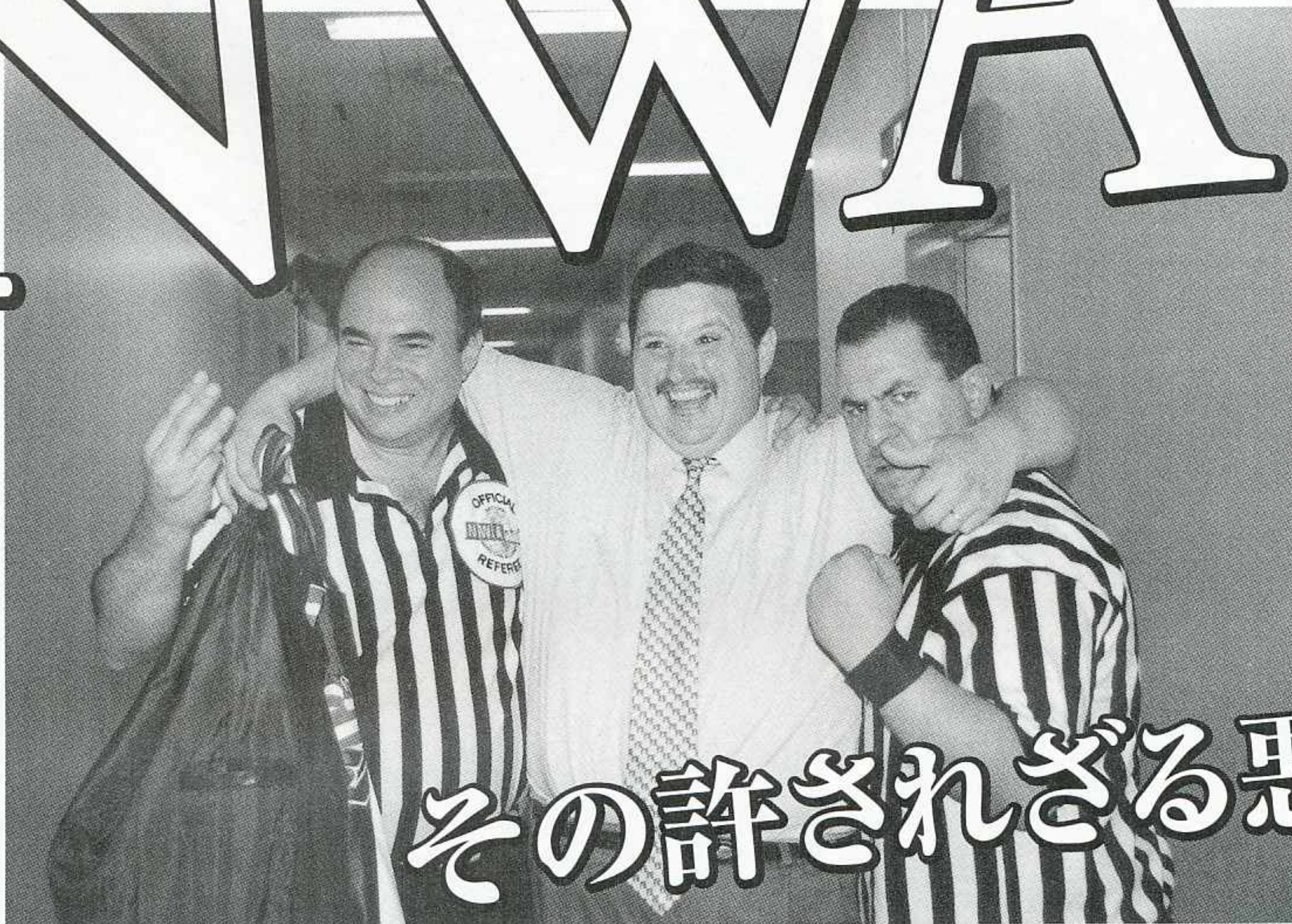
しかし、全日本とZERO－ONEのトップ対決、しかもクライマックスの場面にその瞬間が来たという、破壊王の持つ奇跡的な〝運〟については、本当に感心させられてしまう。いつその瞬間が来てもおかしくなかったのに、試合のもっと早い瞬間ではなく、かといって控室に戻った後でもない。その上で勝利し、結果として小川直也を全日本マットに登場させ、「新しい図式」を作り上げた。もちろん、とっさに左手のみでヒザ十字を仕掛けた破壊王の機転、『OH祭り』をひとりで闘い抜いた暴走王の粘りがあってこその〝ゴッド・アングル〟だ。

破壊王は、後に藤井克久を指して「人間って窮地に追い込まれたときに力が出る。こういうものをチャンスに代えてやれるのがプロレスだと思う」と語っている。それは、藤井はもとより、OH砲自身が体現させてきたことだった。神は、超えられる者にしか試練を与えない。そんな言葉をリアルに感じさせるプロレスだった。

緊急告発リポート

“堕ちた帝国”アメリカの象徴 NWA その許されざる悪事

ドラマチック ZERO-ONE

構成／ささきぃ
designed by さおとめの事務所

もう黙ってはいられない！

橋本真也・小川直也の熱い友情物語に支えられ、その名の通り日本列島を嵐のごとく駆け抜けていった、ZERO—ONE6月〜7月シリーズ『01 Storm』。

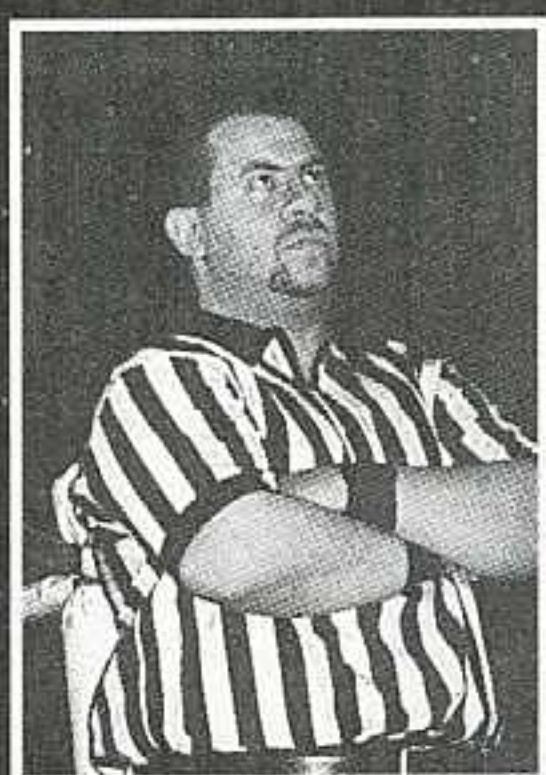
熱く、楽しいプロレスを見せてくれたこのシリーズで、実は密かに、っていうか堂々と〝アメリカの悪の象徴〟NWAが謀略の限りをつくしていたことを、読者の皆さんはご存じだろうか。

ZERO—ONEマットを我が物顔で占領するNWA勢の悪行の数々を、本誌は勇気をもって告発する。かつて、NWA前会長ジム・ミラーが初来日した昨年の3月9日、疑惑のスリーカウントでベルトを奪われた橋本真也は「いつまでやってんだこんなことォォォ!! 生かして返さないゾ!!」と叫んだ。一年を超える時が経過し、会長が新しいクソデブに交代しても、そしてZERO—ONE中村部長が必死のパトロールを強行しても、NWAの悪行ぶりはおさまるどころか、一層加熱するばかりだ。ホントにいつまでやってんだこんなことォ！

5月2日、後楽園ホールでは、〝NWAルール〟を強引に適用し、OH砲からタッグベルトを奪回したNWA軍団。権威あるベルトを手にして、ますます調子に乗る彼らの、日本全国各地で行われてきた許されざる悪事の数々を、ここに一挙公開する。今こそ我々は橋本の「日本がナメられたら終わりだゾ!!」という言葉を思い

これがNWA悪のビッグ3だ！

NWA公認レフェリー
ドナルド・マック

『ZERO—ONE U$A』ではマネージャーとして帯同していたはずの男が、なぜかNWA公認レフェリーとして再来日。試合への露骨な介入、他のレフェリーへの暴行など、悪行ぶりはフレッドを上回る要注意人物だ

NWAエグゼクティブレフェリー
ミスター・フレッド

技術は確かだが、五十肩などを理由にカウントを遅らせたりと、徹底してアメリカびいきを行う悪のレフェリー。NWA影のボスはこの男だという説もある。カウント“トゥ——!!”のアクションは名物と化している

NWA会長
リチャード・アルピン

前会長ジム・ミラーと同じ“クソデブ”アルピン。以前は200キロあったというから恐ろしい。会長となった今でも、現役復帰を虎視眈々と狙っており、中村部長に見せた“アルピン・プレス”は必殺技のひとつらしい

これがアメリカのやり方かぁ！ NWA謀略FILE

6/30 長崎・佐世保市体育文化館

高速3カウントに藤井散る！ 田中、怒りのストンピング炸裂!!

キング・ダバダ＆キング・アダモ組と、高岩竜一＆藤井克久組が激突。異色対決も、外国人びいきを堂々と行うマックのために台無しに。巨漢ダバダの攻撃＆悪徳レフェリングぶりに大苦戦する藤井を前に、高岩がツッコミ大王と化すも、マックは「ダイジョ～ブ」と受け流すばかり。最後は高速3カウントでダバダが勝ち逃げ、日本人チームをあざ笑うかのように「シャバダバ、シャバダバ……」と「11PM」のテーマが会場に鳴り響いた。
正義感の強い田中将斗は、CWアンダーソンに「ハゲ坊主」と叫んで弾丸エルボー。マックにも文句のつけられない低速カウントで勝利。他の選手に代わって、怒りのストンピングをマックに叩き込み、溜飲を下げた

デューク佐渡レフェリーが偏ったレフェリングぶりに抗議するも、マックは反省の色なし。逆に公認レフェリーはオレだと開き直った

7/4 新潟・新潟市体育館

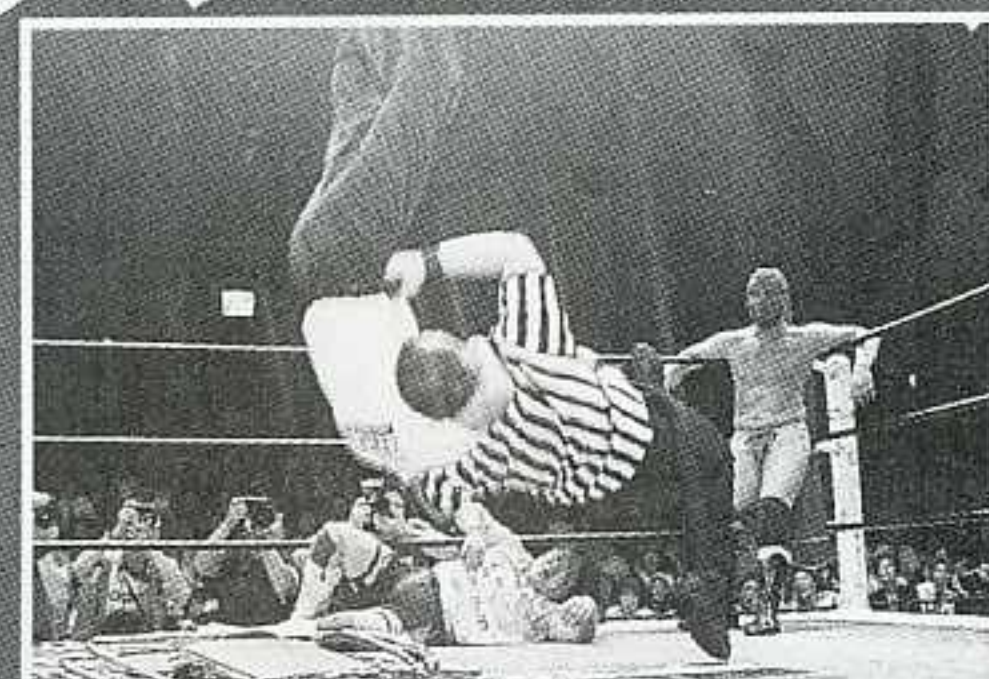
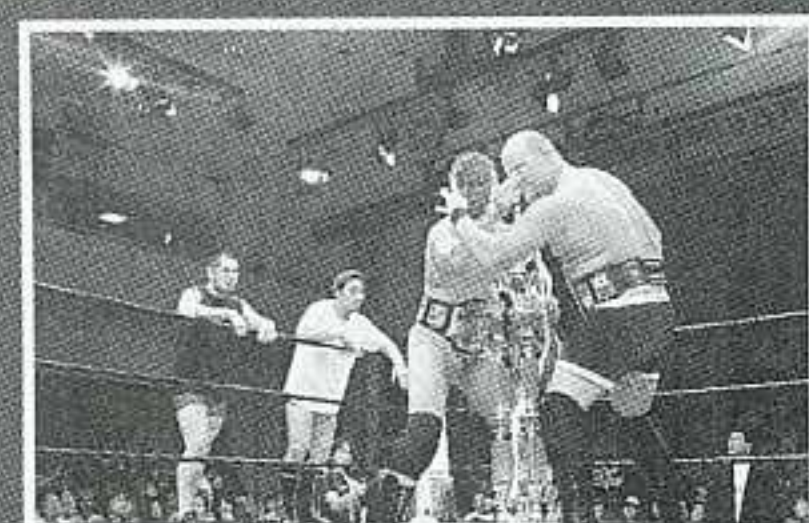
Mr.フレッド＆アルビン登場!! マックは金的まで披露!!

両国大会を前に、Mr.フレッド＆NWA会長リチャード・アルビンが来日!! 仲間を得てさらに増長したマックは、CWアンダーソンをかついだ佐々木義人に金的攻撃。ムリヤリ技を解かせるという、明らかな試合介入まで行った。勢いづいたNWA勢は、スティーブ・コリノのUSヘビー級ベルト防衛戦にもこの手を使おうと策略をめぐらせるが、超獣ザ・プレデターには通用せず。コリノのセコンドについたアンダーソン、マックの小賢しい手段をけちらし、正々堂々とベルトを奪うことに成功。NWAにさんざん苦しまされてきた中村部長は、アルビンの抗議にゆっくりとカウント3の仕草を取り「ゴーホーム！」と笑顔で言い捨てた。正義は勝つ!!

選手権前の国家斉唱で胸に手を当てるフレッド＆アルビン。彼らの胸に神はいるのか。意外にもプレデターはこれが初の戴冠となる

6/27 東京・後楽園ホール

D・マック大暴れ!! 前代未聞のブレーンバスター披露!!

開幕戦から、NWA公認レフェリーが大暴れ!! 金村キンタロー＆黒田哲広が、スティーブ・コリノ＆CWアンダーソンの持つNWAインターコンチネンタルタッグに挑んだこの日、いきなりドナルド・マックが悪行三昧を披露!! Mr.フレッドばりの超低速＆超高速カウントだけでなく、クレームをつけた村山大値レフェリーに暴行!! 殴って場外に転落させてしまう。
怒りの金村に殴られ、場外でしばし失神させられたマック。代役のデューク佐渡（NWA非公認レフェリー）では役不足とばかりに、イスをリングに投げ入れてブレーンバスターを決行!! デュークはこれで失神。レフェリーがレフェリーを投げるという、ありえない光景に場内が騒然とする中、超高速カウントを決めて王者組が防衛を果たした。怒りのROWDYが乱入し「汚いことばっかりするんじゃねぇ」と、両国でのベルト奪還を宣言。ZERO―ONE所属レフェリーの強靭さが見えた一戦でもあった。

積み上げたイスの上に、見事なフォームでブレーンバスターをきめるマック。とっさの出来事ながらデュークの受け身も見事である

額から大流血したコリノだが、見事防衛に成功。笑顔の王者組＆マックに、ROWDYが正義の怒りを見せてつっかかっていった

6/29 山口・海峡メッセ下関

当然のように 高速3カウント炸裂！ 横井激怒!!

タッグ選手権の前哨戦として、アンダーソンにシングルで対決した横井。足関節、パンチの連打で攻め込むも、マックの超低速カウント＆ギブアップ無視で勝利を掴めず。最後は超高速カウントで試合を終わらせ、激怒する横井をよそに控室へ逃げ去る始末。炎武連夢・影の総帥（別名・大谷パパ）が最前列で目を光らせていた今大会だが、NWA勢はおかまいなしの傍若無人ぶりだった。

試合前、ROWDY・横井の口の中まで入念にチェックするD・マック。これに対しアンダーソンはほとんどノーチェックだった

7/6 東京・両国国技館

フレッドが正義のレフェリーに!? と思ったら、やっぱりワナだった！

メインレフェリーにMr.フレッド、サブレフェリーはD・マック。誰もが“NWA・悪行三昧”の展開を予想した、コリノ＆アンダーソンvsROWDYの一戦。しかし、フレッドはコリノ＆アンダーソンのダブル攻撃を厳しく注意、カウントも公平という、見事な“NWA公認レフェリー”ぶりを披露。アルビン、マックが抗議するも、フレッドは断固としてその姿勢を変えず。観客がとまどいながらも拍手を送るが、すべてはNWAの巧妙な罠にすぎなかった……。
横井がジャーマンから3カウントを取ろうとすると、場外のマックが介入、抗議に入った中村部長を殴打！ 目をはなしたスキにコリノがロープに足をかけて耕平を押さえにかかった。ここでフレッドがすかさず高速カウント！ 試合終了、アルビン、マックと喜びあうフレッド。すべては油断させるための作戦だったのだ。
猛抗議する中村部長には、マックが金的攻撃。押さえつけた上にアルビン・プレスが炸裂！ 耕平＆横井が追いかけるも、逃げ足の早いNWA軍団はつかまらず。もはや手のつけられないNWAの暴挙ぶり。この抗争はいったいいつまで続くのか!?

ベルト防衛を喜ぶNWA三悪＆王者組。激怒した中村部長が猛抗議を行うも、これがさらなる暴挙のきっかけとなってしまう

「おまえは母国を愛しているのか」とばかりに、フレッドに抗議するアルビンとマック。フレッドは耳を貸さないが、これは罠だった……

マックが中村部長へ金的攻撃、ボディスラム。さらにアルビンの巨体が飛ぶ！ 中村部長はこれで肋骨を骨折、入院。まさに“闘うフロント”だ

総体重650キロ!!
この熱苦しさ、カラーでお伝えできない!!

世界最強のデブを決めるのは
もう少し待ってくれないか？

ドラマチック ZERO-ONE

噂のゼットン、殴り込み！
ガファリがやられた！

構成／ジャン斉藤

「ジャイアント」と呼ぶには格好良すぎる。「大男」ではイメージに乏しい。「NWAスーパーヘビー級初代王者決定戦OVER―300（ポンド）」という試合タイトルなんて、仰々しいにも程があるよ！　要はデブですよ、デブたちの闘い。「デブ世界最強」を決定する肉塊バトルロイヤルが、相撲の殿堂・両国国技館で行われたのだ！

面子はマット・ガファリにザ・プレデター。全日本から嵐が呼ばれて、キング・ダバダが初来日。この4デブが、動けば踊る大脂肪の文字通り肉弾相打つファイトを展開。リングはもちろん、国技館だって大揺れも大揺れ！　一番最初の敗北したのは、共闘していた嵐に裏切られたプレデター。嵐のダブルクロスに、裏切る人間というのは「まずね、体脂肪が凄いついてる奴。デブですよ、要するに。お相撲さんじゃないですよ」という、『PRIDE』の怪人の言葉を思い浮かべた方も多いだろう。嵐は元相撲マンだし。

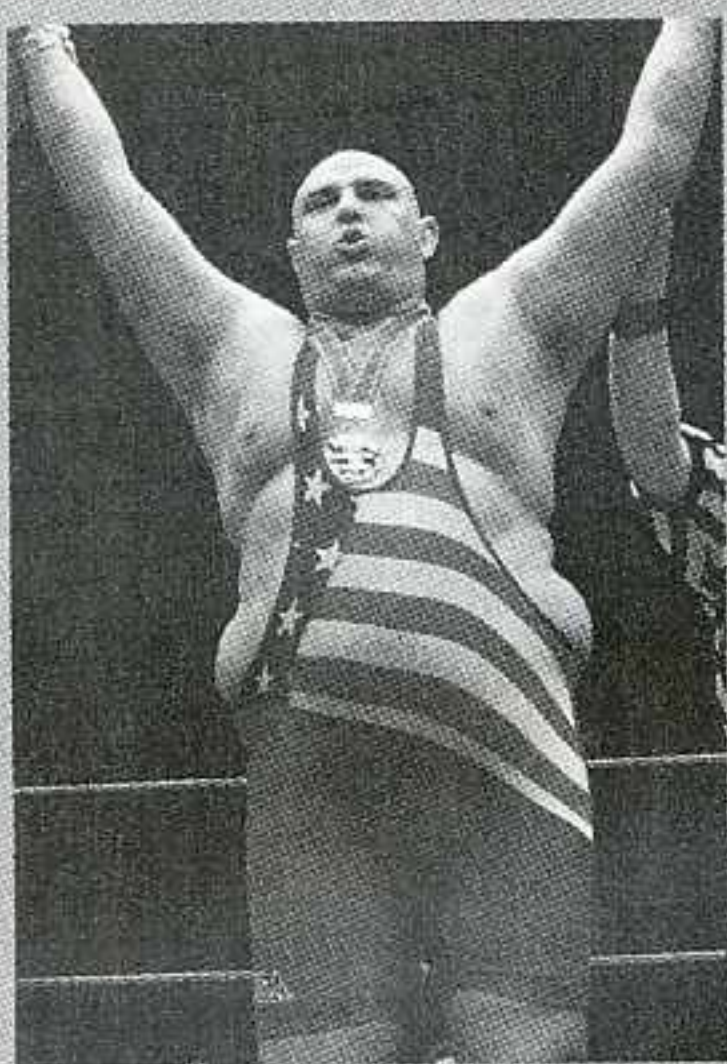
その嵐も、最後はガファリの肉弾プレス2連発に沈み、デブ世界最強の称号は、ガファリが強奪！　もちろん、ベルトなんて巻ける腹の持ち主は参加してるはずもないのでメダルが贈呈された。そのメダルを首にブラ下げて、歓喜の浸るガファリの背後に、謎の覆面デブが忍び寄ったんだが、それがまたノロい！　誰もが「ガファリ、後ろ！後ろ！」と100回以上は叫べるほどの時間を擁して、乱入なのに若手にロープを空けてもらってゆっくりとリングインした覆面デブ。ガファリの振り向きざまに強烈な一撃！　身体がデブすぎて、何をどうしてどこに当てたんだかよくわからんが、とにかく何かやったよ！

突然の肉塊攻撃を受けたガファリは、リング上で大の字。覆面デブは「俺がナンバーワン（のデブ）だ！」とマイクアピール。しかし、そのあとは何をするわけでもなくリング中央に佇む。……なんだ、この間は？　息を呑んで見守っていると、再びマイクを握り「俺が……ゼットンだ！」って、オイ！　名前を言うのを忘れていたのかよ！

実はゼットン、「OVER―300」に乱入予告をしていた噂の男。名前はウルトラマンを倒したゼットン星人の名にあやかり、ケムール人ならぬブッカーKに連れられてやってきた317キロのモンスターは、熱心なる格闘技ファンには正体はバレバレかもしれないが、いまは世界最強のデブの座を狙うフトッチョに過ぎない。過去より未来を見てくれ！

「OVER―300」のキャストは揃いすぎるほど揃っているZERO―ONEだが、ゼットンの登場で、ますます息苦しくなってきた。『肥祭り』の開催も時間の問題だ！

ZERO-ONE デブ名鑑

破壊王！キング・アダモ！この闘いに上がってこいや!!

現在世界最強のデブはこの人です！　NWAスーパーヘビー級初代王者に輝いたマット・ガファリさん。喜びも束の間、ゼットンの襲撃の前に醜態を晒してしまったが、必殺の腹芸で復讐を誓う170キロ

デブと呼ぶには大変、失礼！　150キロの体重を誇るプレデターだが、ガファリやダバダと比べると、まだ肉体は引き締まっている。デブ最強を決めるバトルロイヤルで一番目の落伍者となったのは当然なのかも

日本を代表して、世界の肉壁に挑んだ嵐。最後までメダルを争うも、ガファリの腹芸に敢えなくゴウ沈！　それにしても、145キロの嵐がやけにスマートに見えてしまうのはまったく異常な光景だ！

もはやここまでくると反則！　ゼットンの体重はなんと317キロだ!!　ガファリから金メダルを奪っても、はたして首に回るのか疑問だが、闘いはすでに始まっている。痛くもない巨腹を探られる必要はないのだ

ウルトラシリーズのMATやTACが出動するときに流れるテーマ曲「ワンダバダ・ワンダバダ」に乗って登場したキング・ダバダ。「スシ、テンプラ、ヤキニク……何がきてもノープロブレム！」と唸る185キロ！

「ホデマカセ、ホデマカ!!」リアル・アダモちゃん見参!!　ペイッ！

「グレイト！　ヒー・イズ、マイ・ヒーロー!!」キング・アダモが島崎俊郎が扮する“本家”とアダモコンビを結成!!　『オレたちひょうきん族』のオープニングテーマ「ウィリアム・テル序曲」が館内に鳴り響き、爆笑が巻き起こる中、「ホッデマテ、ホデマカ、ペイッ!!」と揃い踏み!!

リング上で「アダモちゃ～ん!」「ハ～イ!!」と、おなじみのアダモパフォーマンスを繰り広げたが、対戦相手の小笠原先生が登場すると、そそくさとエプロンに逃亡！　しかし、アダモ語で（たぶん）挑発！

小笠原先生はアダモコンビの「ふざけた態度」に大激怒！　ノド元に手刀を落として勝負を決めたが、「ふざけやがって。八つ裂きにしてやる!」と試合後も怒りは収まらず。チェストーッ！

敗れたキング・アダモに「ホデマカセ、ホデマカ！アダモちゃん、カタナキャダメ！ペイッ!!」と御立腹のリアル・アダモちゃん。キング・アダモは正座の姿勢で聞き入れる。素晴らしい師弟愛ですよ！

今年も熱い季節がやってきた!!

大谷晋二郎のV3を阻む男は誰か!?
『火祭り'03』絶賛開催中!!

ドラマチック ZERO-ONE

構成／ささきぃ
designed by さおとめの事務所

今年も『火祭り』の季節がやってきた!! 第3回目を迎える〝熱い男決定リーグ〟『火祭り』。今年は、昨年より一層豪華なメンバーが、各団体のワクを超えて集結した。リーグ戦を制し、優勝賞品の〝火祭り刀〟と賞金三百万円を奪うのは誰か!?

もちろん、大本命は一昨年、昨年と2年連続で優勝している大谷晋二郎。一年中熱い男・大谷は、己のトレードマークと化した火祭り刀をそうやすやすと譲り渡しはしないだろう。しかし、大谷と同じAブロックにはスーパーヘビー級の全日本・嵐をはじめ、一筋縄ではいかないメンバーが待ちかまえている。そしてBブロックには、最強のパートナー田中将斗、全日本・小島聡、そして「お前らの熱さを全部消してやる」と宣言したアレクサンダー大塚が参戦決定!! この号が出るころには、すでにクライマックスを迎えている『火祭り'03』。はたして、〝今年最も熱い男〟の栄光を掴むのは誰なのか!?

Aブロック

大谷晋二郎
嵐
金村キンタロー
横井秀考
藤原喜明

Aリーグ対戦表	大谷	嵐	金村	横井	藤原
大谷		7.30 後楽園	7.31 大阪	8.01 後楽園	7.25 沼津
嵐			7.27 金沢	7.25 沼津	7.31 大阪
金村				7.30 後楽園	8.01 後楽園
横井					7.27 金沢
藤原					

もちろんこちらの本命は大谷晋二郎。その“大谷狩り”を誰が果たすのかが焦点となるAブロック。「刀はいらないけど、賞金は欲しい」と語る元力士・嵐、アジアタッグ＆フックンシュート王者・横井、そして元祖テロリスト藤原組長。いったい誰が大谷に土をつけるのか？ しかし一番注目すべきなのは、昨年大谷に3秒で敗れた男・金村の試合タイムかもしれない

Bブロック

田中将斗
小島聡
黒田哲広
佐藤耕平
アレクサンダー大塚

Bリーグ対戦表	田中	小島	黒田	佐藤	アレク
田中		7.30 後楽園	7.27 金沢	7.25 沼津	7.31 大阪
小島			7.31 大阪	8.01 後楽園	7.25 沼津
黒田				7.30 後楽園	8.01 後楽園
佐藤					7.27 金沢
アレク					

Bブロック本命は全日本・小島聡と、大谷の頼れるパートナー、田中将斗が双璧だが、一昨年『火祭り』準優勝者の耕平と、昨年の準優勝者・黒田哲広の存在も大きい。特に小島にとってはこのブロックの誰もが初対決となるだけに、まさかの番狂わせもありえる。そして自分の現状が“火祭り”のアレクが、どこまで“REBORN”することが出来るかがポイントだ

『火祭り'03』

7月30日(水) 試合開始18:30 東京・後楽園ホール
7月31日(木) 試合開始18:30 大阪・大阪府立体育館第2競技場
8月1日(金) 試合開始18:30 東京・後楽園ホール【決勝戦】

破壊王は8月5日より復帰を宣言!! 大丈夫なのか!?

お待たせ！ Lowkiが参戦するぞ!!

『STILL BURNING』
8月5日(火) 試合開始 18:30 長野運動公園総合体育館（小川直也参戦！）
8月6日(水) 試合開始 18:30 高岡テクノドーム
8月8日(金) 試合開始 18:30 伊那市勤労者福祉センター体育館（小川直也参戦！）
8月9日(土) 試合開始 18:00 川根町町民センター前特設リング（小川直也参戦！）

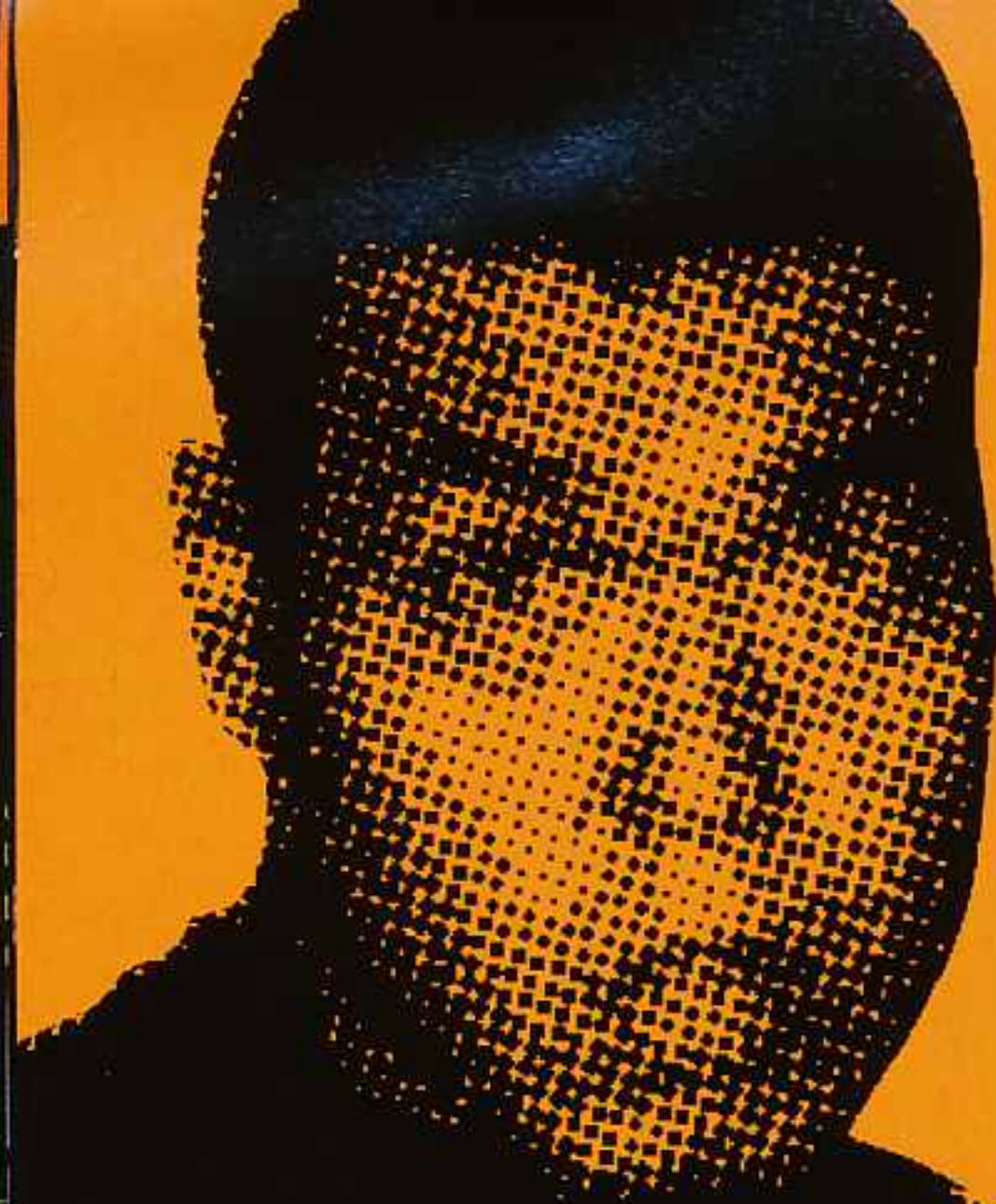
『01 World in Nagoya』
8月10日(日) 試合開始 16:00 愛知・愛知県体育館（小川直也・全日本参戦！）
ジミー・スヌーカ親子の参戦決定!! 名古屋生まれのドラゴンズファン・ルチャドール（中日スポーツより）“ファイアー・ザ・ドラゴン”も初来日!! グレート・ムタに代わって黒師無双＆緑一色参戦!! ハシフ・カーン、もしくはSHOGUNも参戦するゾ!!

『夏祭り'03』『火祭り』後も、まだまだ祭りは終わらない!

8月23日(土)『Hiroshima Typhoon』
広島・広島グリーンアリーナ（小川直也参戦！） 試合開始 18:30
8月24日(日)『NIAGE DE WASSHO1 in O1TA』
大分・大分県立荷揚町体育館（小川直也参戦！） 試合開始 17:00
8月26日(火)『AUSSIE FESTA』
三重・四日市オーストラリア記念館 試合開始 18:30
8月27日(水)『ゼロ中祭りⅢ』東京・後楽園ホール 試合開始 18:30
8月29日(金)『豊作祭り』新潟・長岡市厚生会館 試合開始 18:30
8月31日(日)『01 Summer Gift』※全国テレビ中継！
岐阜・岐阜産業会館（小川直也参戦！）試合開始 18:30

怒濤のZERO-ONE9月シリーズ『Regeneration』

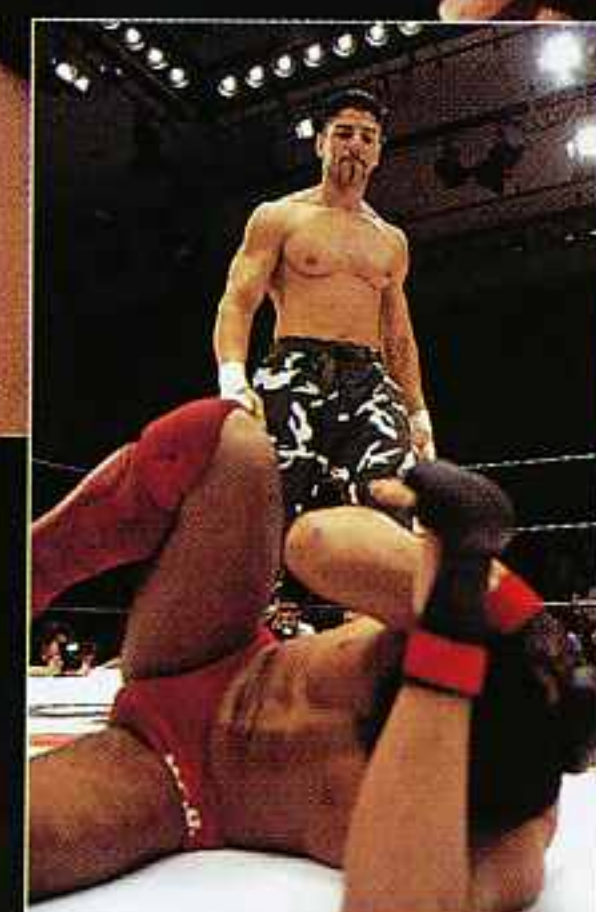
9月9日(火) 試合開始 18:30 新潟・上越市厚生南会館
9月11日(木) 試合開始 18:30 山形・山形市総合スポーツセンター
9月12日(金) 試合開始 18:30 青森・青森産業会館
9月13日(土) 試合開始 18:30 北海道・札幌テイセンホール
9月14日(日) 試合開始 15:00 北海道・札幌テイセンホール
9月15日(月) 試合開始 16:00 釧路・鳥取ドーム
9月16日(火) 試合開始 18:30 北海道・北見市立体育センター
9月17日(水) 試合開始 18:30 北海道・帯広市総合体育館
9月19日(金) 試合開始 18:30 東京・後楽園ホール
9月20日(土) 試合開始 18:30 静岡・ツインメッセ静岡
9月21日(日) 試合開始 15:00 東京・池袋サンシャインシティ文化会館4F展示ホールB

問：ZERO―ONE 03-5730-3401

『OH祭り』は夏の幻じゃない！

波乱につぐ波乱を乗り越え

小川完走

『OH祭り』全戦追っかけ完全リポート

（写真大）メイン終了後、破壊王がリング上から欠場を詫び、小川にすべてを託した。（右２枚）藤井をいいように弄んだ謎の仏軍特殊部隊・ジョージK。見よ、この異様なたたずまい！　しかし、小川は孤軍奮闘して米仏軍の同士討ちを誘い、激勝！（一番上）ランデルマンの驚異の跳躍力は健在！（真ん中）純血師弟タッグも絶妙な関節技で切り返すがパワーに屈した。（一番下）ドスJr.絶好調!! フライング・クロスチョップも華麗に決まった。

『OH祭り〜ワールド・タッグトーナメント第１戦』　7月11日 後楽園ホール　888人

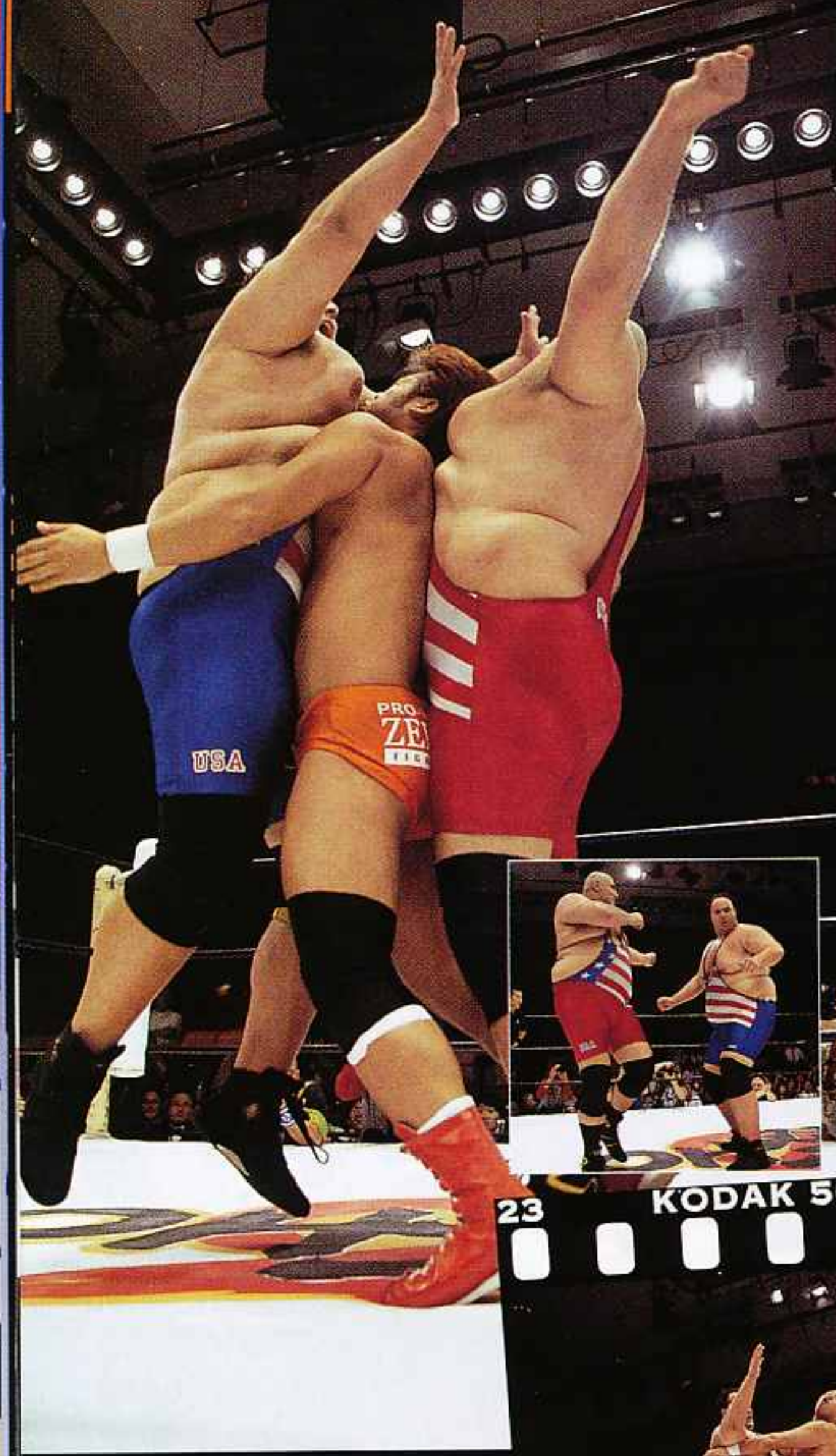
破壊王、満身創痍で無念の欠場!!『OH祭り』を一人で背負い込んだ小川に世界中の強豪が襲いかかる!!

文＆撮影／スモーノブ

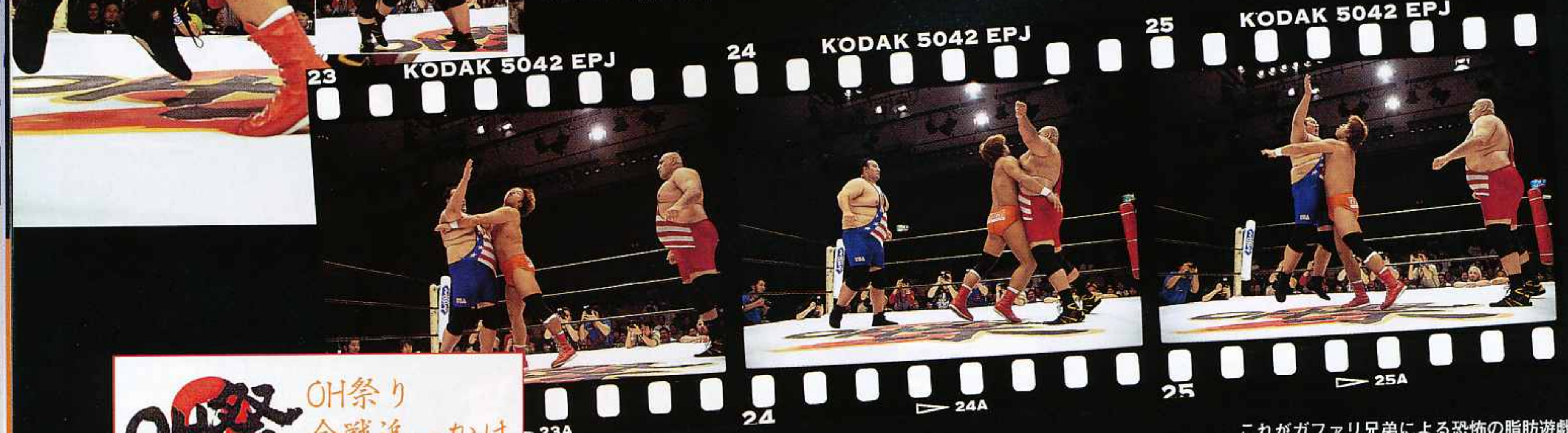
19日に三冠防衛戦を控えた破壊王は、「こんな身体で三冠戦を闘っていいのか?」と王座返上も視野に入れつつ、苦悩のコメントを残した。

「這ってでも出る」と言い張っていた破壊王だが、小川の説得で欠場。最後はリングに上がりＯＨＦで「オー、エイチ、ホーッ！」

開会式にはコリノのパートナー「Ｘ」を除く全選手が参加。代表して挨拶した小川はOH祭りの開会を力強く宣言した。

ダイナマイトの黒マスクを奪い炎武連夢はやりたい放題。おサルよろしく真珠湾ダイブ！

この日、公式戦のないコリノは葛西純と対戦。双方とも技とパフォーマンスを最大限に繰り出した好試合だった。

窮地に陥ったジェイソンズはチェーンソーをブン回して反則負け！

往復ガファリの後は「ガファリ・サンド」が炸裂。兄・弟・兄のガファリ・プレス3連発で試合を決めると、新テーマ曲バナナ・ラマ「ヴィーナス」で勝利のダンス！　強すぎる！

これがガファリ兄弟による恐怖の脂肪遊戯「往復ガファリ」だ！　互いの巨腹で高橋冬樹をキャッチボールするというプロレス史上に残るおぞましい合体殺法である。

OH祭
OH祭り
全戦追っかけ
徹底リポート

開幕を目前に控えた7月9日、ZERO－ONEの道場で小川直也が会見を開いた。珍しくスーツにネクタイという姿で神妙な顔つきの小川は「橋本のOH祭り欠場」と「富士急ハイランド大会開催中止」という2つのバッド・ニュースを発表。富士急ハイランド大会の中止はスポンサー・サイドのトラブルによるもので不可抗力としか言いようがない。「這ってでも出る」と豪語していた橋本も、足を骨折している上、慣れない松葉杖で巨体を支えたため肩にダメージを与え、そのまま試合に臨み亜脱臼と腱板断裂に見舞われるという踏んだり蹴ったりの状態で、結局、見かねた小川が出場をやめさせた。相次ぐトラブルに見舞われて、かつてない大ピンチに立たされた小川は「俺一人でもやってやる」と『OH祭り』開催への執念を燃やしたが、その心中は決して穏やかではなかったはず。ともかく、盟友・破壊王の戦線離脱で小川は孤独な闘いを強いられることになった。

そして迎えた開幕戦。事前の宣伝も少なく、シリーズの概要自体も最後まで二転三転し、1週間後にビッグマッチが集中していることもあり、結果的に888人（主催者発表）と観客動員は伸び悩んだ。

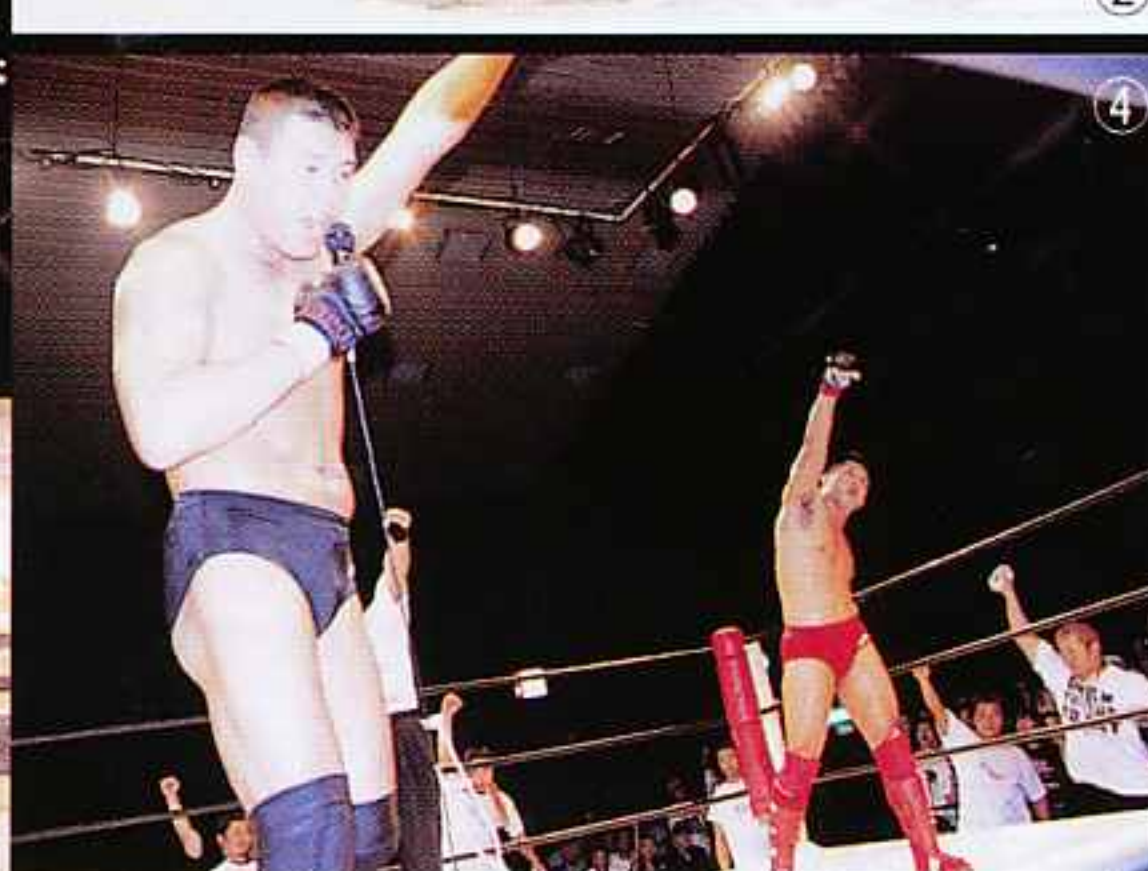
そんな閑散とした後楽園ホールに世界中から集まった強豪タッグ・チームが次々と登場する。ドス・カラスJr.&リスマルクJr.は見事な空中殺法と絶妙な連係プレーで佐藤耕平&横井宏考を下した。ガファリ兄弟は恐怖の死亡……いや、脂肪遊戯で臼田勝美&高橋冬樹を粉砕！　しかも、初来日の弟・シブは兄以上の巨腹の持ち主で、その三段腹は常に波打っている！　すべてが謎のベールに包まれていたジェイソンズは反則暴走で炎武連夢に負けたが、とにかく手に負えない暴れっぷり。〝リアル・ドンキーコングス〟ことザ・プレデター&ケビン・ランデルマンは、野生のパワーで藤原喜明&石川雄規を寄せ付けずトーナメント2回戦へと駒を進めた。

どのチームも開幕前にさんざん膨らみまくった幻想のさらに上を行く強さと面白さで、次第に客席もヒートアップしていく。これだけのメンバーが集まれば「とんだ一杯食わせモノ」が一人ぐらいいても良さそうなものだが、外人選手に関してはハズレなし。

これだけ豪華なメンバーがOH砲を倒すために世界中から集まったのだ、小川としても負けるわけにはいかない。そして、UFOの後輩・藤井克久を従えた小川は、メインイベントでトム・ハワード&ジョージKの米仏特殊部隊コンビと激突した。ここでも観客の期待は、いい意味で裏切られる。実力者トム・ハワードが連れてきた、謎の男・ジョージKは故アンディ・フグ然とした風貌から合気道のような謎の武術を駆使して藤井を圧倒！微妙なインチキ臭さも漂わせながら飄々と闘う姿に、後楽園ホールに集まった888人は大熱狂、「ジョージ」コールが爆発する異常事態となった。

しかし、意地でも負けられない小川はジョージKを捕まえると、キックとパンチでボコボコにして（意外と打たれ弱かった）、最後はSTOで豪快に3カウントを奪取！　辛くも2回戦に駒を進めた。

試合後、マイクを掴んだ小川は「一人忘れてるんじゃないか？」と、OH砲の「H」橋本をリングに呼び込んだ。右肩は三角巾で吊り、松葉杖を突いてリングに現れた橋本は、うっすら涙を浮かべながら「いろんな障害が降りかかりますけど絶対に負けない！　ありがとう、小川！」と盟友との絆を再確認。最後は小川が「オー、エイチ、ホーッ！」で締めくくった。

控室に戻った小川は安堵の表情を浮かべ、藤井の健闘を称える。孤独な闘いを強いられることになった小川だが、振り返ればそこには破壊王がいる。OH砲としてのトーナメント出場はかなわなかったが、離れていても心はひとつ！　OH砲の絆の強さを改めて再確認出来たシリーズ開幕戦だった。

①小川とドスJr.という、まさにOH祭りならではの異色の好カード。シングルでも見てみたい。　②小川がドスJr.＆リスJr.の編隊飛行の餌食に！　③そうかと思えば、ドスJr.はマルコ・ファス仕込みのサブミッションも駆使して藤井を攻めたてる。　④苦戦したものの、最後はＳＴＯボンバーで小川がリスJr.からピンを奪取。しかし、やや唐突だったため爆発的な声援は得られず。それでも破壊王を交えてのオー、エイチ、ホー！　によって最後に会場が再びひとつとなった。

『OH祭り〜ワールド・タッグトーナメント第2戦』　7月13日 徳島市立体育館 2000人

"X"カシンの登場で徳島爆発！ しかし、メインは盛り上がらず…… 小川よ、この試練を乗り越えろ！

文＆撮影／堀江ガンツ

米仏特殊部隊コンビが匍匐前進の競演！　この後、藤原組長も味方の石川に裏アキレスをかけさせ匍匐前進を披露した。

この日から突如参戦してきたジョージ・シウバ。レガースにグローブという格闘技仕様だったが、見るからにインチキ臭い。

ただでさえ悪条件が重なる中、天候にもめぐまれず、観客動員が心配されたが、雨の中多くのファンが体育館の軒下に並んでいた。

ジェイソンズの攻撃を受けるたびに「あ〜〜！」と泣き顔で悲鳴を上げるシブ・ガファリ。映画「13日の金曜日」なら、真っ先に殺されるタイプだ（上）。今日も炸裂した巨腹兄弟の肉弾サンドイッチ！　伝説の荒技バーミアン・スタンプの次に喰らいたくない技だ（左）。

コリノのパートナー“X”はカシン。日米愉快犯コンビらしく、入場するといきなり、この日の対戦相手である炎武連夢ポーズをかましてくれた(上)。最近、モノマネに凝ってるコリノは「プロレスLOVE」ポーズから4の字固め。他に“ホーガンポーズをする小川”なども披露（右上）。顔面ウォッシュを最初に仕掛けたのもカシン。しかし、大谷も本家・顔面ウォッシュでたっぷりとお返し。最後は田中のエルボーで炎武連夢が勝利。

OH祭り
全戦追っかけ
徹底リポート

もろもろのトラブルが重なりに重なって、会場の盛り上がりや、観客の満足度は高いものの、観客動員数が壊滅的な不入り記録更新を続ける『OH祭り』。

人が集まらなきゃ、それは〝祭り〟じゃない。ここ徳島も数え上げれば一冊の本になるほど興行的な悪条件が重なり、開催前はどうなることかと思われていたが、〝徳島に福田あり〟と言われる『フクタレコード』の福田専務を始めとする地元協力者たちの尽力と、四国のZERO—ONE熱の高さによって、雨にも関わらず大勢の観客が詰めかけ、ようやく〝祭り〟と呼ぶに相応しい入りとなった。

会場は、試合前から地方巡業初体験のランデルマンが、ファン、さらには隣の第2体育室で行われていたママさんバレーの奥様方らとも交流を深めるなど実にいい雰囲気。

そうなると会場の熱に応えるのがプロレスラー。前座から好ファイトが続出した。

まず、藤原組長、ハワードという日米の仕事師が興行の序盤をビシッと締め、中盤は、プレデター&ランデルマンvs耕平&横井、ガファリ兄弟vsジェイソンズなど、まさに今大会ならでは、もう2度と見られないんじゃないかという異色の好カードが館内をプロレス空間へと誘っていく。

この中で見逃してはならないのは、ガファリとジェイソン・ザ・レジェンドの絡み。ジェイソンのマスクの下を考えると、まさに『LEGEND』だ。また、この試合では攻撃を受けるたびに、サンボ浅子ばりに「あぁ〜〜」と甲高い声で悲鳴を上げるシブ・ガファリの人気が爆発！　兄以上にたわわに実ったマッチョバディといい、奇跡とも言えるこのキャラ立ちっぷり。ガファリ兄弟は今後、ZERO—ONE名物として、日本各地を沸かすことになるだろう。

珍味をたっぷり味わった後は、この日徳島のファンへの最大のプレゼントであるセミファイナル炎武連夢vsコリノ&X組のトーナメント1回戦。コリノのパートナー「X」は、開幕戦の後楽園ホールにも姿を現さなかっただけに、大物選手なのか、コリノらしく一杯食わせ者を連れてくるのか注目が高まっていたが、先に入場したコリノの呼び出しによって登場したのは、なんとケンドー・カシン！

「全日本はいつ潰れるかわからない。いま稼がないで、いつ稼ぐんだ！」というバッグンのカシン節とともに、3時から開催されていた全日本・大阪大会で試合を終え、その足で駆けつけたのだ。もちろん館内は大歓声！

このおいしいシチュエーションに炎武連夢も燃えないわけがなく、この日一番の盛り上がりに。最後は田中のエルボーにコリノが沈み、1回戦で姿を消した日米愉快犯コンビだが、ゼヒこれからも見たいタッグチームだ。

そして、セミの盛り上がりによって、最高の雰囲気で迎えたメインは、小川&藤井vsドスカラスJr.&リスマルクJr.の超異次元対決。

小川のルチャ初遭遇ということで期待と不安が入り交じったこの一戦だったが、残念ながらまったく噛み合わず、最後に来て盛り上がりに欠ける内容に。トラブル続きの中、孤独に闘う小川には酷な話になるが、破壊王とのタッグで「プロレス開眼」して以来、日本全国各地をOH砲として沸かせてきた小川も、破壊王抜きではまだまだメインイベンターとしての努めを完璧に全うすることはできないことを露呈する格好となってしまった。

試合後「藤井にとっては辛い」と漏らした小川だったが、俺にとってはチャンスだけど、この試練は、藤井よりむしろ小川にとってこそ大きなチャンスだと思ってもらいたい。

本当の意味でプロレスを背負うには、自分の力で観客を満足させて帰路につかせることが絶対条件。小川がその力を身につけるための試練と思えば、『OH祭り』をやった意味があるというものだ。そして、小川がこの試練を乗り越えた時こそ、OH砲は真の意味で天下を取るタッグチームとなるだろう。

では、ご唱和ください！　オー、エイチ、ホー！

試合前とは言え、見てみぃこの広さ、この客入り!! 客席数は約5000席。右の写真は第5試合中の様子。まさにレジェンド級だ

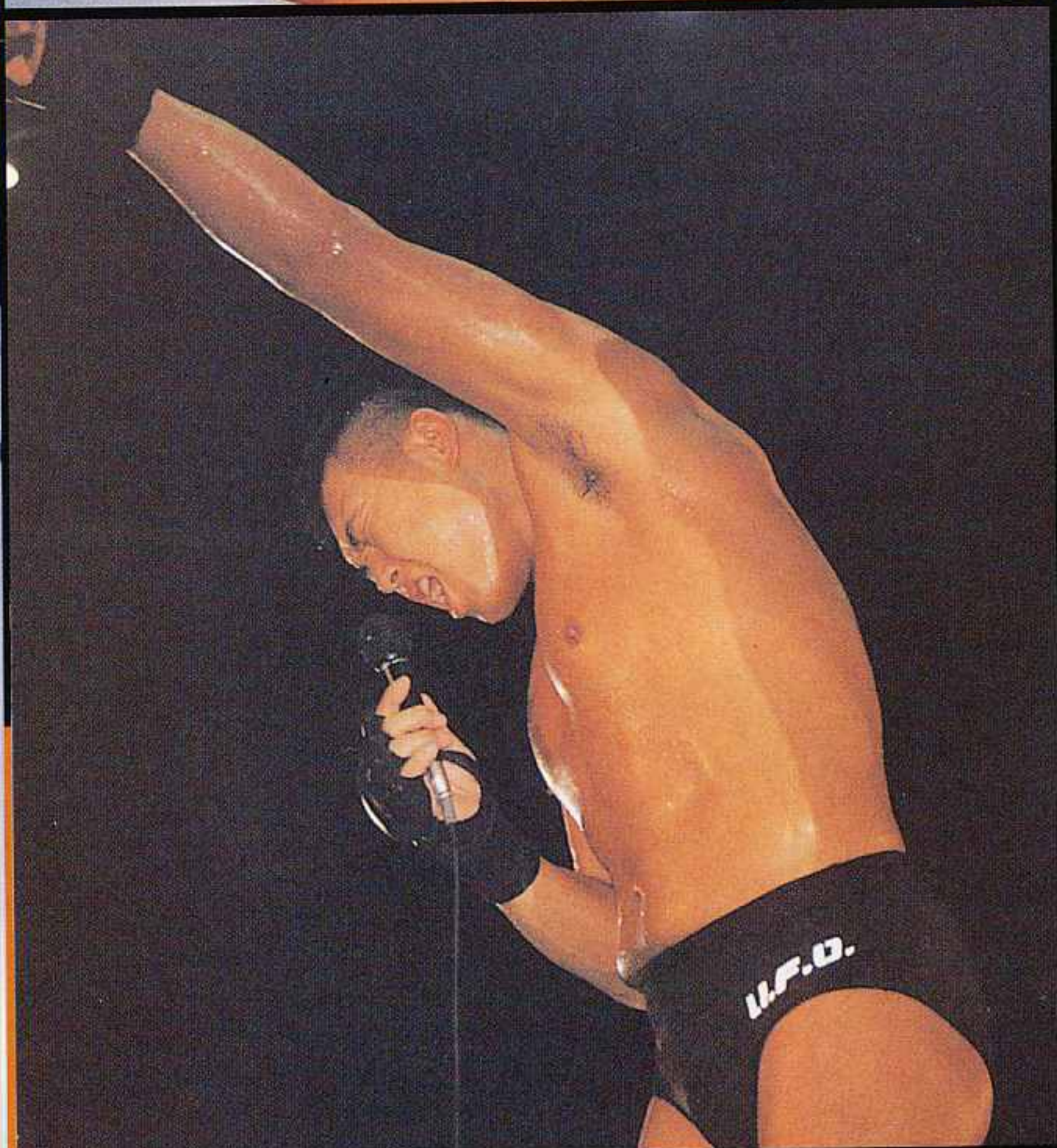
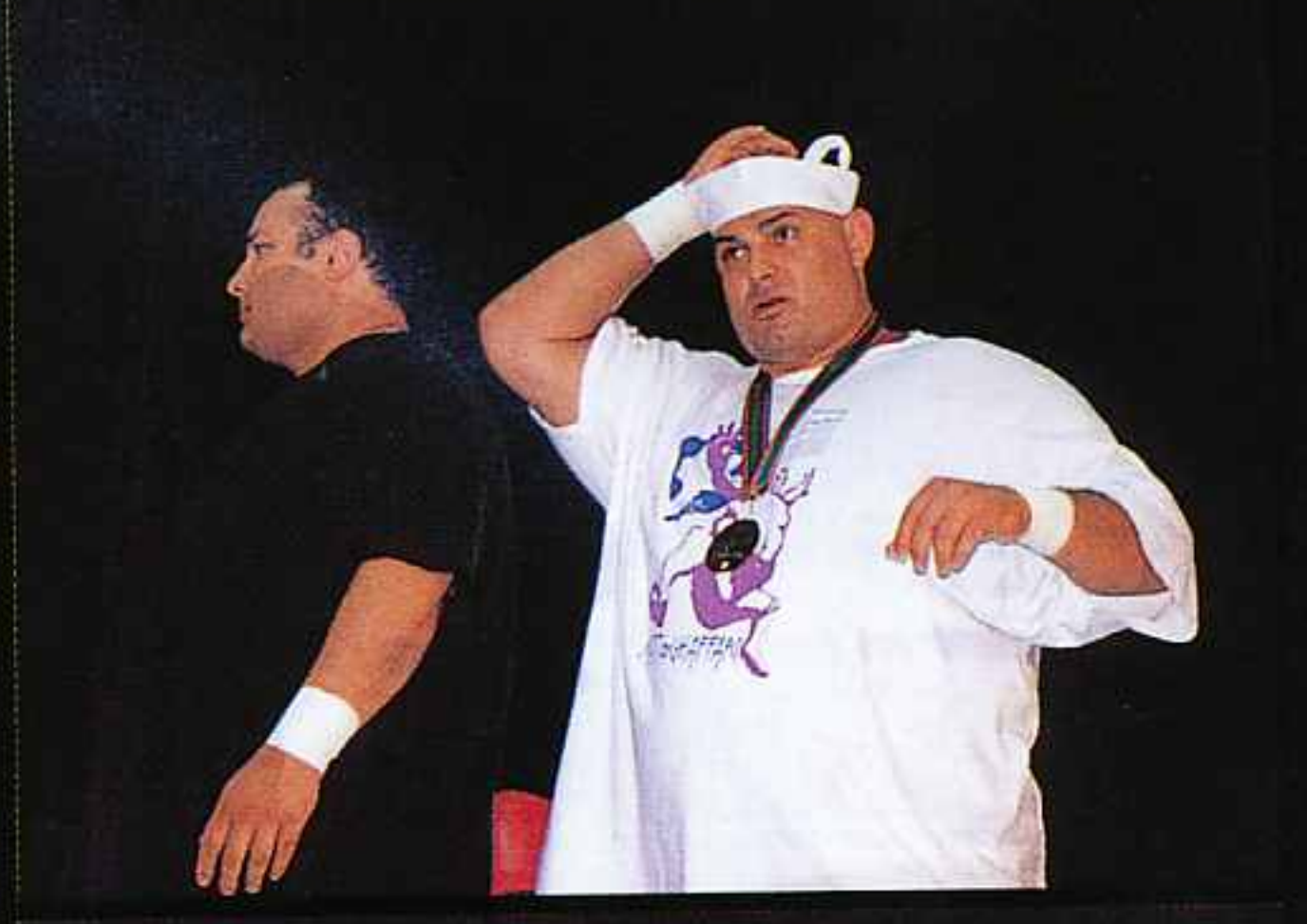
『OH祭り〜ワールド・タッグトーナメント第3戦』 7月16日 名古屋・ポートメッセなごや 観衆2800人

まさに伝説級空前の不入り!
この緊急事態にガファリも決起
ハチャメチャな面白さ爆発!!

文&撮影／ささきぃ

大谷の顔面ウオッシュならぬ、マスクウォッシュがレジェンド・ザ・ダイナマイッに炸裂！この後、大谷はマスクを剥いでしまう!!

「キング・オブ・ザ・ケイジ」のグローブ（芸が細かい）をはめた手で、素顔を隠すダイナマイッ。その後ろから大谷が襲いかかる！

ダイナマイッのマスクを奪った2人。マスクがきつくて被りきれず!! 中途半端ながら、大谷と田中が通常と逆の位置でポーズ

（右側3枚・上から）ガファリTシャツ（もちろんサイズは特注）に身を包み、頭にハチマキをまいて登場するガファリ。アマレス対決では、井口レフェリーが冷静にポイントを宣言、その様を見守る佐藤耕平。そして、この日の“ガファリ・サンド”犠牲者はケンドー・カシン!! 肉弾兄弟の脂肪に、またひとつ歴史が刻まれていく
（上中央&左）プレデターのセコンドについていたランデルマンが、チェーンを手に試合に乱入!! 藤原組長らがリングに突入、収拾のつかなくなった状況に破壊王が松葉杖姿で救出に入った。相当なダメージを受けて起きあがれない小川に、破壊王が語りかける
（左）最後はもちろん「オー、エイチ、オー!!」の大合唱！ この後、破壊王の三冠戦出場中止を発表。破壊王は涙を流しながら「頼んだゾ小川ッ!!」と、暴走王にすべてを託した!!

OH祭 OH祭り 全戦追っかけ徹底リポート

まずは隣ページの写真を見て欲しい。……ガラガラじゃねぇかよ!! どうなってんだよ、OH祭り!! 会場となったポートメッセなごやは、JR名古屋駅から電車とバスで1時間。しかも平日の18時試合開始。悪条件が重なったそのままの結果がそこにあった。主催者側は、どんな客層を狙ってこの時間・この会場に決定したのだろう。

興行の手腕うんぬんを問うよりもまず、広すぎる空間は、そこに居る人を居心地悪い思いにさせる。集まったお客さんと関係者が落ち着かない面持ちで見守る中、試合が進んでいく。第3試合、入場してきたジェイソン・ザ・レジェンドが客席内を暴れ回ることで、「席移動OK」の雰囲気を作り、なんとなくお客さんが中央に集まり始める。

続く第4試合では、マット・ガファリが、「『OH祭り』は自分が守る」という心意気を見せて（なぜ？）頭にハチマキをまいて入場。ケンドー・カシンの申し出により（？）なぜか、アマレス対決が何の説明もなく始まる。ドスカラスJr.とマット・ガファリの差し合いでスタートする6人タッグ。どんな試合だよ。

この試合を裁いていたのが、よりによってアマレス社会人トーナメント優勝経験もある井口摂レフェリー。銀メダリストであるガファリ兄はもちろん、オリンピック出場を逃したドスJr.にも負けられないという意地がある。リスJr.がどこまで状況を理解しているのか不明だが、カシンのアマレスに対するこだわりは言うまでもないし、ガファリ弟もアマレス経験者だ。リング上、何気に高い緊張感が漂う。唯一柔道出身である佐藤耕平の心情がしのばれる中、試合はいつの間にか普通にプロレスへ。カシン自身は試合後「俺必要ないだろ」と語っていたが、この展開を作り上げただけでも、カシンが同日の全日本大会を捨てて参戦した意味はあった。たぶん。

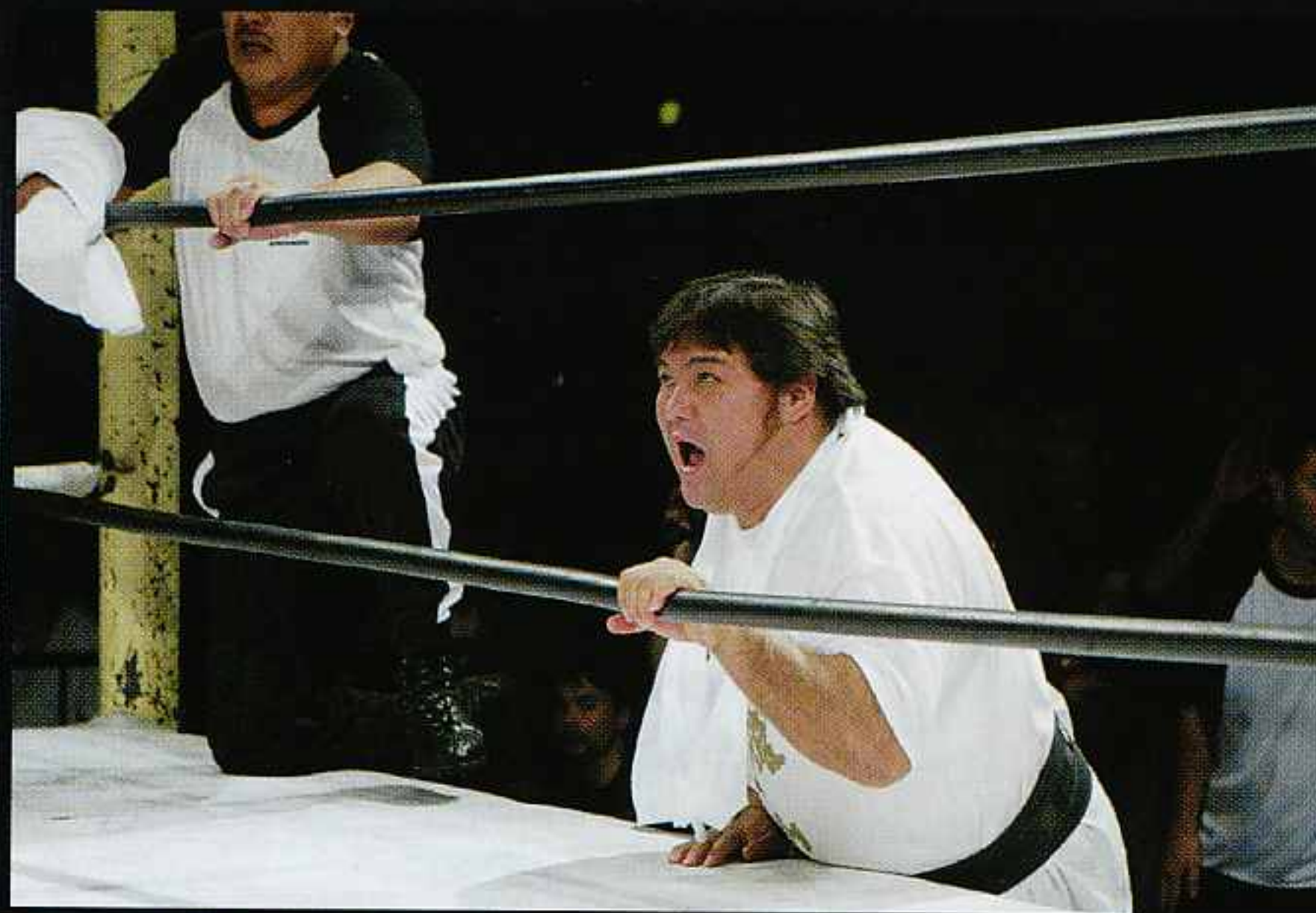
大谷がジェイソン・ザ・ん〜っ、ダイナマイッ！（オッキーはシリーズ中ずっと、こうコールしていた。山口日昇の指示という説もあるが）の仮面を剥いだ上に、スワンダイブをぶちかます。バードでは『OH祭り』有数の実力を持つ男・ダイナマイッに対する、プロレスラー大谷晋二郎の強烈な一撃。ダイナマイッはタオルで顔を隠して退場する。

試合後、大谷は「よそから来たヤツが、簡単にトップに立てるほどプロレスは甘いもんじゃねぇ」と一喝。さっきまで、チェーンソーを振り回す男が登場したり、銀メダリストとルチャドールがアマレスの差し合いをしていたリングが、今度はプロレスの厳しさを突きつけてくる。

メインでは、小川直也が宿敵ザ・プレデターと激突。試合中、ケビン・ランデルマンがチェーンを持って乱入、そこへ「小川のピンチは俺が救う」とばかりに破壊王が登場!! 松葉杖を振り回して大暴れした。驚くほど王道の友情物語。

小川の「どんなことがあっても、俺は、やるぞ!!」という宣言が、ガラガラの会場に響いた。「どんなこと」とは何をさすのか。ランデルマンの乱入だけではないだろう。会場も、出場メンバーも、開催直前まで流れた大会中止の噂も、試合内容も「なんか、不思議なことが起きている」と思わせた。

「裏で何が起こっていようとも、自分たちは、試合で魅せる」という選手の思いが絡まった試合は、どれもこれもヤケに面白かった。訪れたお客さんは満足しているだろうし、会場の入りも含めて“LEGEND”となりえる大会だったことは間違いない。

トラブルの数々に、選手のビッグネームぶりと“全試合スペシャルマッチ”という条件が遠心力をつけ、OH祭り名古屋大会という球は、会場であるポートメッセなごやの天井なみに広く高く、長い飛距離の弧を描いて飛んでいった。その様は圧倒的で、見る者の心を掴んだ。まぁ、残念だったのはお客さんが入らなかったということで、その球がファールに終わったことである。

（上）リアル・ドンキーコングスによる猛攻で藤井が戦闘不能状態に陥り、1vs2となった小川は半ばリンチの如く防戦一方の大ピンチ！　これを見るにみかねた藤原組長がタオルを手にするも、破壊王がこれを制し、必死の檄を送った。（中）友とファンの熱い声援に小川は起死回生のスリーパー！小川の必死の表情を見よ。そして遂に超獣がギブアップ！これは小川のvs外国人ベストバウトか？（下）苦しみの中から立ち上がり優勝した小川をＺＥＲＯ−ＯＮＥ勢が胴上げ。藤井はちゃんと落とされるのもＺＥＲＯ−ＯＮＥ流だ。

『OH祭り〜ワールド・タッグトーナメント最終戦』　7月18日 尼崎市記念公園総合体育館 3500人

OF砲が苦難を乗り越え優勝！
友情・努力・勝利
これがOH流"王道プロレス"だ!!

文／ささきぃ
撮影／乾晋也

炎武連夢はプレデター組に敗れ準決勝敗退。しかし、鶴龍コンビvs超獣コンビを思わせるW岩石落としを見舞うなど大いに盛り上げた。

ハッピーエンドで終わったところを、「オレンジ」こと小島が乱入し小川を急襲！「オー、エイチ、アホー！」と翌日に向け宣戦布告。

富士急大会中止で急遽最終戦となったこの日も、ご覧のような『LEGEND』ぶり。しかし、館内のボルテージは超満員並だった！

（上）〝新超獣コンビ〟プレデター＆ランデルマン組は今大会が初タッグとは思えぬほどの連携を次々と披露。ランデルマンがワンハンドバックブリーカーに抱えたところを、プレデターがコーナーからギロチンを落とすこの連携は特にド迫力！　その強さは〝本家〟ブロディ＆スヌーカ以上か⁉　（下）プレデターの成長ぶりは目を見張るものがある。このキングコング・ニーの高さを見よ！　いまや日本マット界最高最強の外人レスラーだ。

（上）ＯＦ砲は準決勝でも、１年前『LEGEND』での雪辱に燃える（？）ガファリ兄弟に大苦戦。小川は巨腹親子亀攻撃に圧迫死寸前！（右）シブは秘密兵器“シブズ・リフト”まで繰り出す。（左）そしてやっぱり肉弾サンド。しかし、最後は小川が逆転ＴＫＯ勝利。

OH祭
OH祭り
全戦追っかけ
徹底リポート

名古屋大会に続き、またも伝説級の客入りとなった最終戦。これだけのメンバーを集めたタッグトーナメントの最終戦に、これだけの観客（写真参照）しか集まらなかったというのは、本当にもったいない話である。

破壊王という、何があっても頼れるパートナー不在の中、自分と藤井が優勝するしかないという、とてつもないプレッシャーを抱えた小川に、翌日の全日本は『ＯＨ祭り』優勝チームへ、全日本武道館出場をつきつけてきた。破壊王を休ませるためには、その条件を受け入れるしかない。

リング外のトラブルは深刻だが、リング内で待ちかまえているのは巨腹兄弟という、ありえないシチュエーションに立たされた小川直也。準決勝、この試合をリードしているのはマット・ガファリ。シブ・ガファリの肉弾ロケットを受ける藤井克久。

ひとつ間違えれば、すべてが台無しになる。すべてが、小川直也にかかっている。ガファリ兄弟vs川田＆小島組の対戦をどこかで期待しつつも結果は、巴投げを披露した小川がキック10連発をガファリ弟に叩き込み、突然の幕切れ。ちょっと「あれ？」と思いつつも勝利に安心する。

しかし、この一戦で体力を大いに消耗した小川＆藤井組。決勝の相手は、炎武連夢組を倒してなお、パワーが有り余っているザ・プレデター＆ケビン・ランデルマンの〝リアル・ドンキーコングス〟組。客席のビールをひっくり返しながら登場する超獣と、ジャンプしまくりで登場する野獣。

『ＰＲＩＤＥ』戦士ランデルマンと小川の、グラウンド状態でのせめぎあいという、興味深いシーンも見られたが、超獣＆野獣の連係は、藤井を容赦なく追いつめ、消耗させていく。ランデルマンにキックを放てば、蹴り足をつかまれ、突き飛ばされる。渾身のパンチは、プレデターのキックで返される。散々２人からやられまくった上、場外に落とされてしまう藤井。

次はお前だとばかりに、ドンキーコングスの攻めは小川ひとりに集中。プレデターのチェーンラリアット、ランデルマンのダイビングエルボー、続けざまにプレデターがキングコングニー。そしてアルゼンチンに抱え上げられてと、攻められまくる小川の姿に、会場がオガワ・コールを送る。リングサイドでは「ビッグネームの皆さん」に、つねに冷たく接してきた大谷晋二郎＆田中将斗も声をあげて応援している。

やられ放題の小川を見ていられないとばかりに、セコンドの藤原組長が（７・６の渕正信ばりに）タオルを握りしめる。いまにも投げようとしたその手を押しとどめたのは、他ならぬ破壊王だった‼

破壊王は、負傷している右腕の三角巾が外れるのも構わず「オガワーーーッ‼」と、ゲキを飛ばす。破壊王のゲキを受け、暴走王がプレデターをスリーパーにとらえ、渾身の力で締め付ける‼

藤井が必死にランデルマンを押しとどめている間に、レフェリーがプレデターの様子を確認し、試合を止めた。ＯＦ砲、優勝‼

判定に不服と暴れ回るドンキーコングスをよそに、破壊王と藤井が小川のもとへ駆け寄る。立ち上がらせ、破壊王が２人にトロフィーを手渡す。小川がマイクを持つ。

「アリガトーッ‼　今日はどうも、ありがとう‼　『ＯＨ祭り』来てくれて、本当にありがとう。どんなことがあっても、何でも、やり遂げるぞオラーッ‼」。

リング外のトラブルや仲間の負傷。多くの困難が降り注ぐ中、友とファンに支えられて掴んだ優勝。そこには日本の男の子（女の子も）が愛してやまない〝友情・努力・勝利〟という、少年漫画の〝王道〟的な、ベタだが胸が熱くなる感動が立ちのぼっていた。

これこそ、日本の男の子の代表であるＯＨ砲がめざすプロレス。小川はこのＯＨ流〝王道プロレス〟を胸に、翌日、全日本プロレスの日本武道館に乗り込んでいったのだ。

小川に破壊王以来の“宿敵”現る！

全日本プロレス『サマー・アクション・シリーズ最終戦』　7月19日 日本武道館 15,800人

暴走王、全日本初上陸 OH祭り覇者敗れるも 小川に“狂気”が蘇った！

文／堀江ガンツ

カシンを襲撃した坂田は、全日本のアイドル青木取締役を捕まえて「組むの組まないの？」とカシン戦を迫った。近日いよいよ実現か!?

元・修斗の耕平と元リングスの横井が、まさかアジアタッグを巻く日が来るとは……。横井はHcS南東部ライトヘビーに次いで2冠王だ。

ZERO—ONEとの対抗戦が中心となったこの日、武藤はムタに変身しギガンテスと対戦。意図的に対抗戦をさけたようにも思えるが……。

その後のOH祭りリポート

（写真・左）川田の右ストレートが小川に炸裂！ しかし、これによって“なんちゃってバード”風にならないのは、川田のパンチを出すタイミングが絶妙だからに他ならない。打撃中心ながらプロレスがメチャクチャ巧い川田は、小川にとって理想的な対戦相手か？（上）事実上、勝負を決めたのはエプロン沿いで放った川田のこのハイキック。藤井はこれによってリングアウト負けを喫したが、全体を通して見ると藤井の良さも光った。（下）“目ヲ覚マシテクダサイ”フェイスで川田を挑発する小川。遂に川田戦へ本気になった！

破壊王の負傷欠場により三冠戦開催が不可能となり、急遽『OH祭り』優勝チームが川田&小島組と対戦することが決定するなど、『OH祭り』と密接な関係を持っていた、この日の日本武道館大会。

戦前は、観客動員数まで『OH祭り』を引きずって武道館最低記録を更新するのではないかと危ぶまれていたが、蓋を開けてみれば1万5800人（満員＝もちろん主催者発表）という予想を遥かに上回る観衆が集まった。

この原動力となったのは、全日本ファンによる今こそ全日本を救え、という防衛本能が働いたという点も当然あるだろうが、やはり小川直也が全日本プロレスの、それも総本山である日本武道館上がるということが大きかったのは言うまでもないだろう。

メインに小川が登場するからというわけでもないだろうが、この日の武道館は、全日本の興行というより、ZERO—ONEの流れを汲んだカードが数多く並んだ。

まずZERO—ONEの準構成員的存在である金村キンタロー&黒田哲広が、武道館がひとつになるほど前半戦を大いに盛り上げ、「アジアタッグ王座決定リーグ戦」の同点決勝では、佐藤耕平&横井宏考の〝ROWDY〟が、ターメリック（本間朋晃&宮本和志）を破り、アッと驚くアジアタッグ奪取。そして、ケンドー・カシンvs土方隆司の世界ジュニア戦では、防衛したカシンを坂田亘が襲撃。さらにどさくさに紛れて葛西純がベルトを盗んで「俺っちが世界ジュニア王者」宣言をするなど、全日本の興行なんだか、ZERO—ONEの興行なんだかわからないほど。

これは武藤敬司がグレート・ムタ（『W—1』Vr.）に変身し、〝姿を消した〟ことも大きいだろう。ZERO—ONEに浸食されつつある全日本を見て、武藤は今何を思う。

そして迎えたメインイベント。川田利明&小島聡vs小川直也&藤井克久。

このカードが発表された時点では、「武藤&川田vs橋本&小川が2週間前に実現しているのに、このカードはないだろう」という声も聞かれたが、いざ始まってみると、全日本の武道館に小川登場というインパクトはやはり絶大。そして何より、お互い〝大将同士〟として相対した小川と川田の絡みが実に刺激的だった！

前日まで開催されていた『OH祭り』では、苦しみながら孤独に闘うエースだった小川が、ここ全日本のリングで川田を前にすると、暴走柔道王に変身！ イッちゃった目で体全体を使って相手をおちょくる、あの〝狂気〟がついに小川に蘇ったのだ！

OH砲として純プロレスに没頭する小川直也もいい。しかし、やっぱり我々が見たいのは、新日本プロレスに得も言われぬ恐怖を植え付けた、あの〝オーちゃん〟の姿なのだ。

それを呼び起こした川田との攻防は、睨み合いやバックの取り合いだけで緊張感バツグン。その一挙手一投足が大歓声に包まれた。

そして、この日改めて痛感させられたのが、一見不器用そうに見える川田の試合巧者ぶり。とにかく試合の緩急のつけかたと、技を出すタイミングが抜群。これによって川田は、小川だけでなく、『OH祭り』で成長した藤井の力まで引き出していたのは驚きだった。

試合は乱戦模様の中、藤井が花道でグロッギーとなり全日組のリングアウト勝ち。そして試合後はZERO—ONE名物大乱闘が展開され、最後までZERO—ONE色に塗りつぶされた全日本の武道館だったが、それだけ対抗戦が佳境を迎えた証拠だと思えば決して悪いことではない。それよりも、いよいよ川田vs小川の対戦機運が盛り上がってきたことの方が遥かに大きい。

これはOH砲結成後、決して相手に恵まれたとは言い難い小川にとっても同様。この日を見る限り、川田は小川にとって破壊王以来の好敵手になる可能性は十分だ。

全日本の次回武道館大会は9月6日。ここで再び〝暴走王〟小川直也の姿が見たい！

本家ブロディ＆スヌーカを超える超・名タッグの予感！

ザ・プレデター＆ケビン・ランデルマン

とにかく急増コンビとはとても思えない、素晴らしすぎる闘いぶりだった新・超獣コンビ。特にランデルマンの美しいドロップキックを見てほしい。格闘家のやる技じゃないよ！　この男、天才だ。ゼヒ、このままＺＥＲＯ－ＯＮＥマットでも暴れてほしい！

キャラ立ちすぎ！　巨腹兄弟人気やっぱり爆発!!

シブ・ガファリ＆マット・ガファリ

あのマット・ガファリに弟がいる。しかも、兄以上の巨腹の持ち主……。そんな冗談みたいなことがホントだった巨腹兄弟。技という技、コンビネーションというコンビネーションすべてが「腹」にまつわるものというのも、このチームぐらいのものであろう。

“夏にやってくる男”襲名！

ドスカラスJr.＆リスマルクJr.

かつて“夏にやってくる男”と呼ばれ、夏休みのチビッ子ファン（山口昇君含む）を熱狂させたミル・マスカラス。そしていま、彼の甥であるドスJr.が今夏メヒコから飛来。全４戦、すべてコスチュームを変える彼らのプロ根性には改めて感心させられた。

空前のハチャメチャ豪華メンバー

OH祭『OH祭り』に参加した

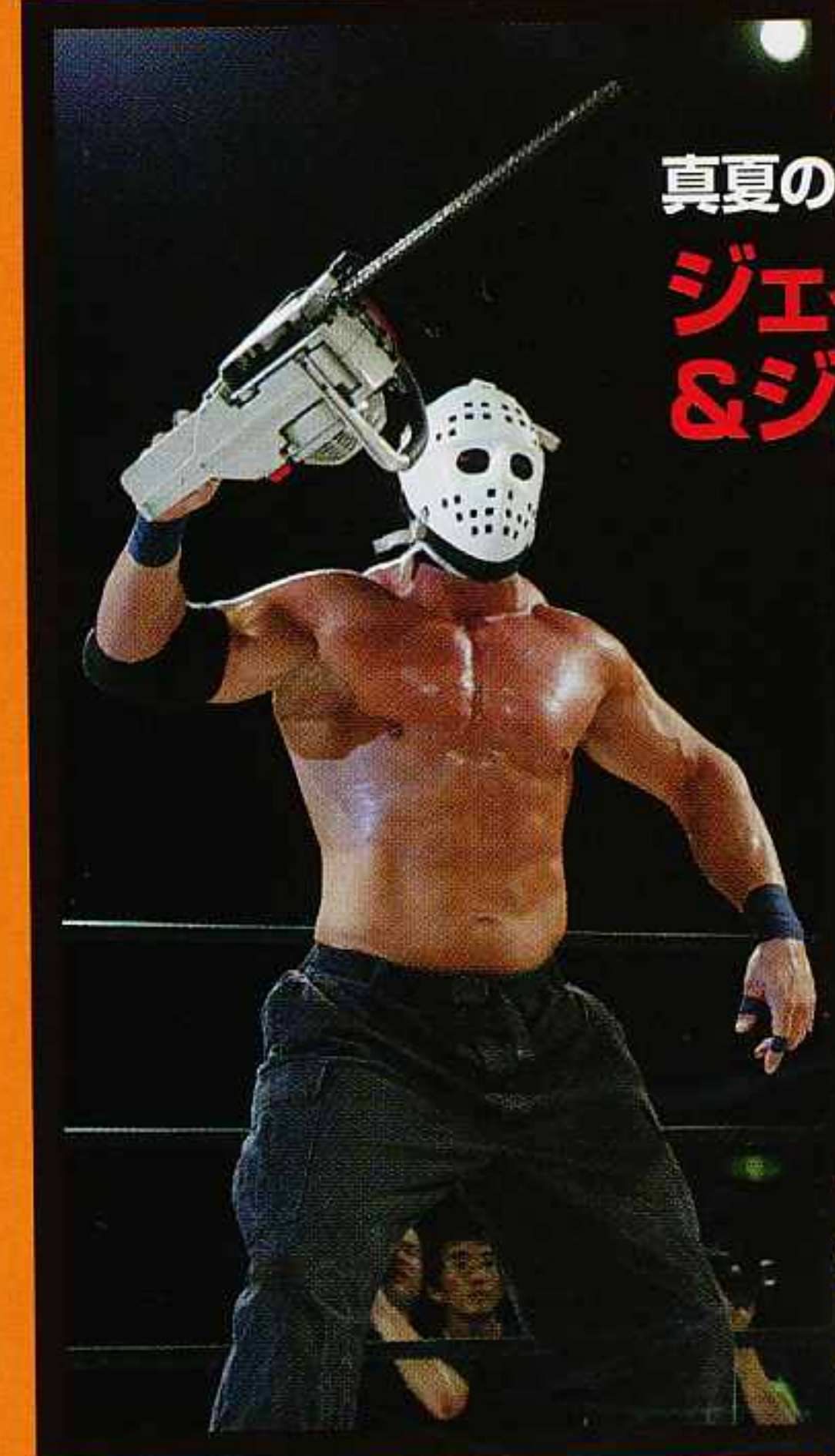
個性豊かなリングガイ達

その観客動員数からは反比例するような、素晴らしくバラエティに富んだメンバーが揃った『OH祭り』。ここでしか見れないタッグも含まれており、やはり多くの人に見てもらえなかったのが残念な限り。というわけで、ここでは愉快な参加メンバーを紹介していこう。

日米愉快犯コンビ、さらなるイタズラに期待
スティーブ・コリノ&ケンドー・カシン

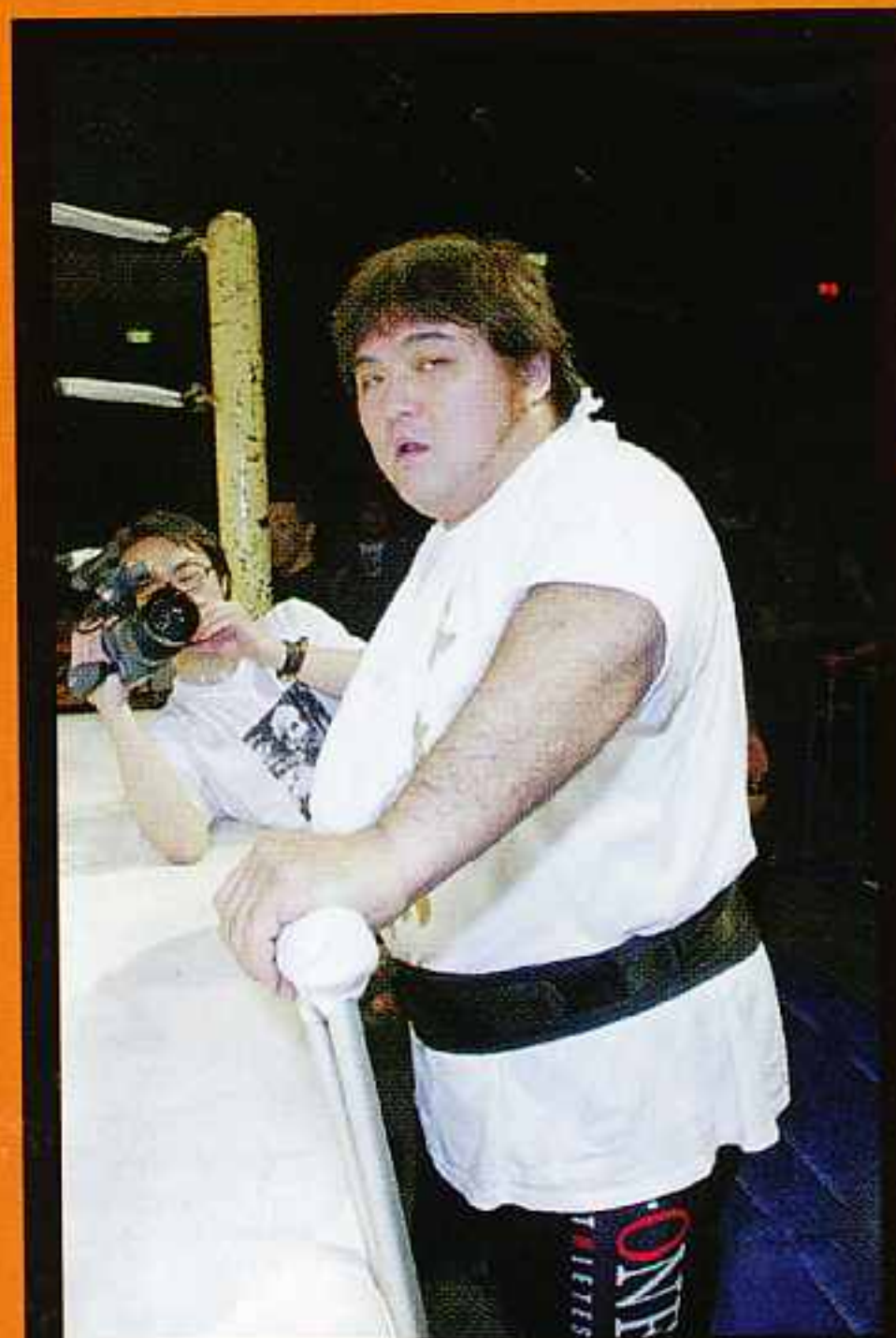
キャラ的に相性バッチリな日米愉快犯タッグ。カシンのイタズラ好きは有名だが、このところ「ハシモト、バカー」（インチキＤＤＴ）や、「オガワ、モットバカー」（インチキＳＴＯ）などインチキ殺法に磨きをかけるコリノだけに、さらなるイタズラを期待したい。

謎の押し掛け格闘家
お前は一体何者なんだ？
ジョージ・シウバ

『OH祭り』第２戦から、なんの説明もなしに登場したシウバ。リングネームも試合当日の夕方決まったというぐらい、なぜ参戦しているのか、誰が連れてきたのか、さらに、はたしてホントにプロレスラーなのか誰も知らない、知ろうともしない不思議な人。

真夏の格闘コンビ、その正体は……？
ジェイソン・ザ・レジェンド
&ジェイソン・ザ・ダイナマイト

“真夏の格闘コンビ”と呼ばれ、その正体は著名なＶＴ戦士では、と噂されるジェイソンズ。特にん～、ダイナマイッ！の方は『紙プロHand』で某金網ＶＴ王者と書いたところ、ビクトー・ベウフォートでは？と話題沸騰。でも、このグローブは……。

ニセ・アンディ・フグの妙な味を味わいな！
トム・ハワード&ジョージK

『ＯＨ祭り』に「ゴーメンクダサーイ」とばかりに初参戦してきた、ニセ・アンディ・フグことジョージＫ。開幕戦の後楽園では、その微妙にインチキ臭の漂う合気道風（あくまで・風）の動きにミョーな人気が爆発！それにしても、どこから見つけてくるんだ、こんなヤツ？

破壊王がモロボシダン
になっちゃった！
橋本真也

右ヒザと右肩の負傷により欠場を余儀なくされたが、全会場でラストに登場するなど、おいしい登場の仕方をしていた破壊王。しかし、本人はこのウルトラマンレオにおけるセブンに変身できないダンみたいな状況は苦痛以外の何ものでもなかっただろう。祈・復帰！

急な大役に悪戦苦闘
しかし確かな成長が見られた
藤井克久

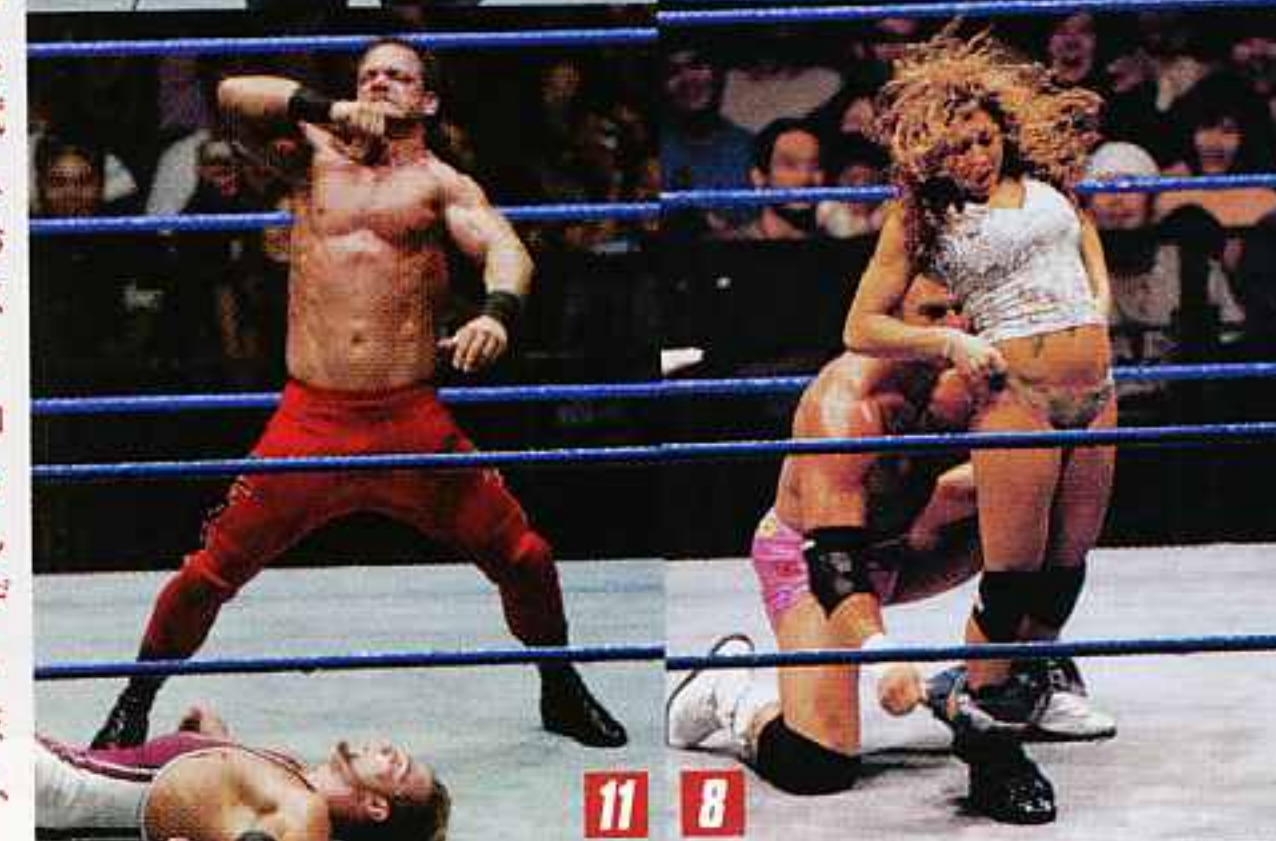
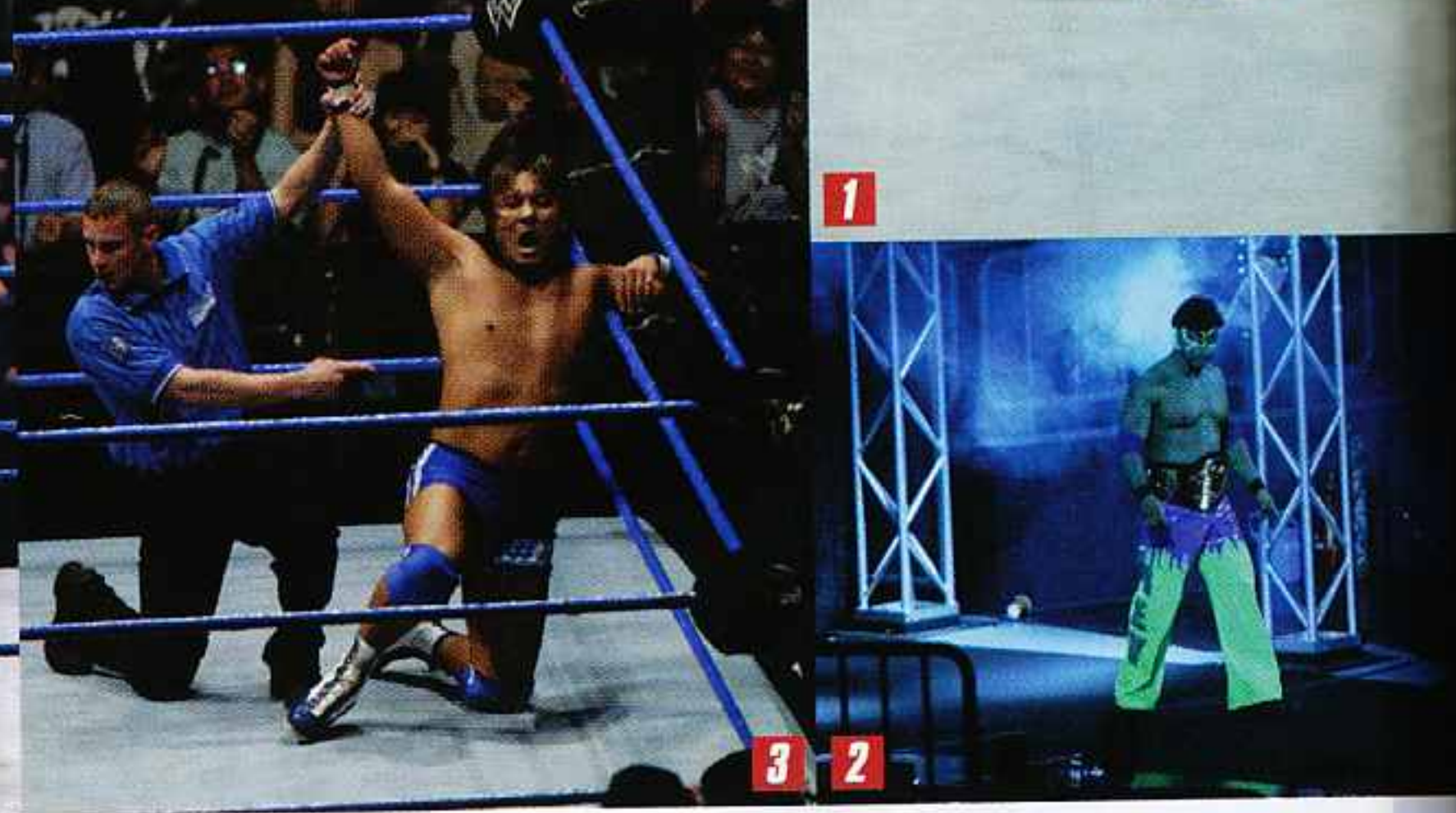
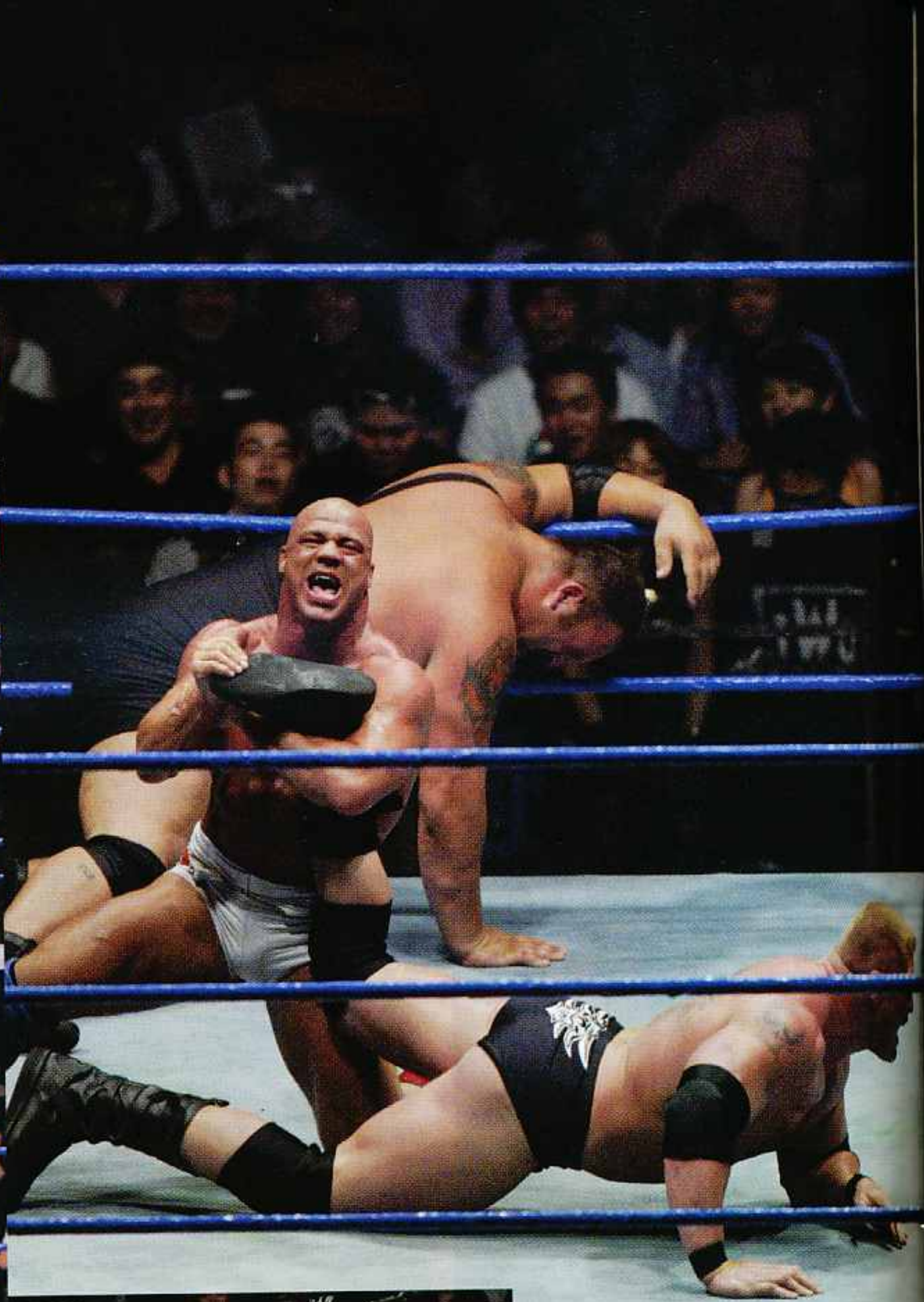
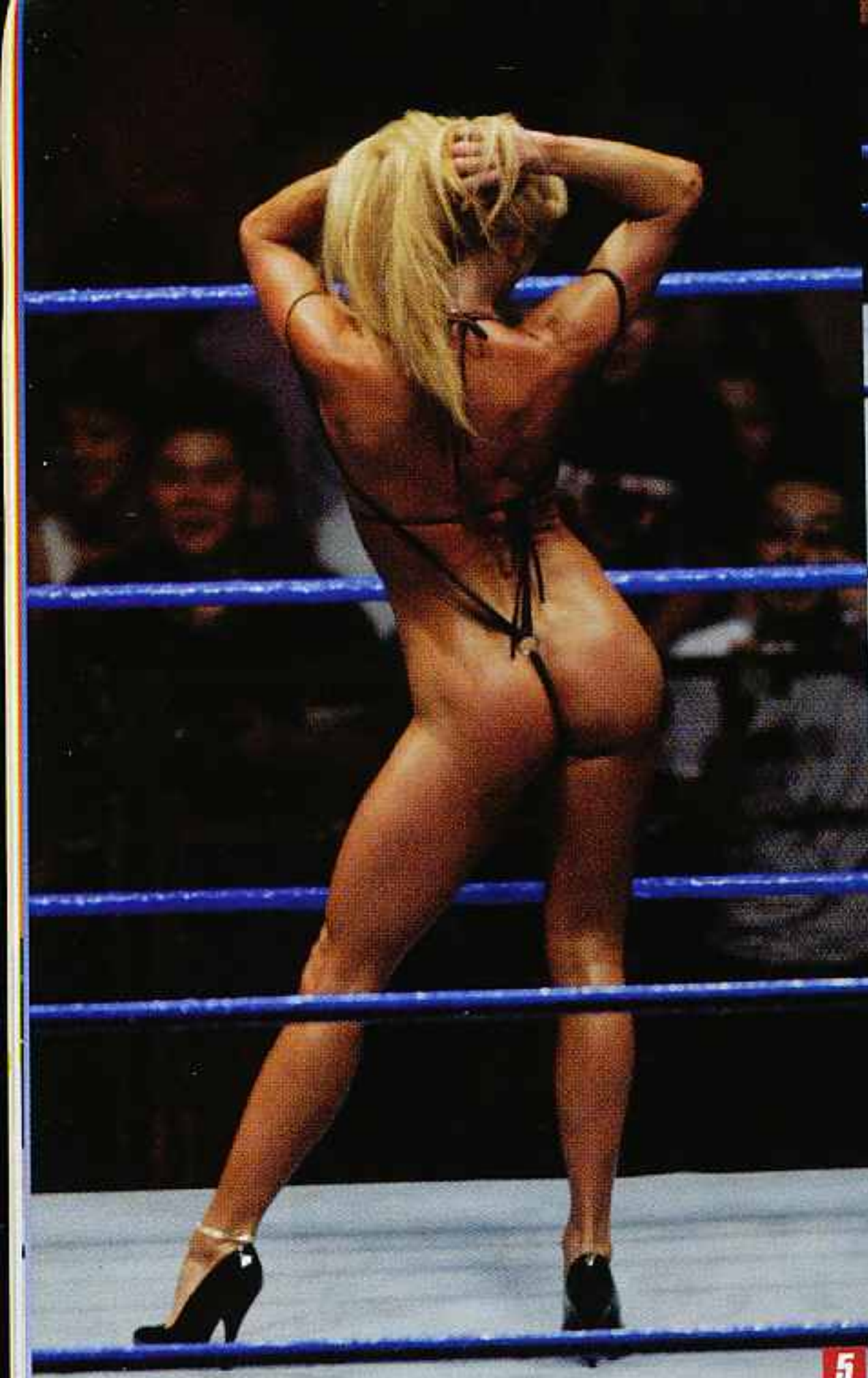
破壊王の欠場により、優勝が義務づけられた小川のパートナーというキツイ役回りが急に回ってきてしまった藤井。シリーズ前半はやはり荷が重いように感じられたが、努力の甲斐あり尻上がりによくなっていき、全日武道館のメインまで立派に努める成長ぶりを見せた。

アンタらホントに最高だ!!

YOU SUCK!!

7/17.18.19 WWE『SMACK DOWN! presents UNLEASHED IN THE EAST』

WWE『SMACKDOWN!』がやってきた!!　約半年ぶりのWWE日本大会は
横浜アリーナ2連戦と神戸ワールド記念ホールを超満員にして、
相変わらずの観客動員力とクオリティの高さを証明してみせた。
本誌も熱狂しながら観察した3日間の模様を大総括!!
坂井澄江選手のアメリカ通信連載も始まって、さらにパワーアップ!!
It's true,It's damn true!!

構成／スモーノブ
撮影／乾晋也（17日）、吉澤晃（18日）
designed by matsu（Two three）

①初日のメインイベント、レスナーvsアングルvsビッグ・ショーは動きが全く止まらない超絶ハイスパート！　②映画『ハルク』のコスプレで現れた初日のミステリオ。マスクから髪まで生えてる！　③大「フナキ」コールを受け、2日目はAトレイン、3日目はマット・マーディーに連夜の大逆転勝利！　④初日のタジリは、「神の領域」とまで絶賛するエディ・ゲレロとシングルで激突！　敗れはしたがプロレスの神髄を見せ付けた。　⑤観客“総立ち”のビキニコンテストはセイブル激勝！　受付でプレス用に配られた手書きの対戦カード表には全試合にどちらが勝つか書き込んであったのだが、ビキニコンテストだけは勝敗が書き込まれておらず。「ビキニだけはガチ」ってこと？　⑥レスナー、おなじみのポーズで大人気！　⑦ビッグ・ショーのデカさには驚愕！　⑧2日目のひとコマ。ニディアのパンツをズリ下ろしたMr.ASS　⑨タッグ王者ハース＆ベンジャミンは新人らしからぬ風格が漂っている　⑩シナ、日本をディスりまくり！　3日目の神戸では「ハンシン・タイガース、サックス！」「スシ・メイク・ミー・シック！」と超危険なラップ！　⑪ベノワ、気合入りまくり！

圧倒的なクオリティと集客力で日本を制圧！日本のプロレスはヒモ・ビキニ以下なのか？

VIVA！　WWE！　WWEの日本ツアー『SMACKDOWN！ presents UNLEASHED IN THE EAST』は3日間で35358人を動員して大成功に終わった。

まず初日の会場に入って驚いたのは若干だが空席があったこと。3連戦の初戦で平日の夕方開催という事情を考えれば仕方ないのかもしれないが、開演前の客席の温度はかつてなく低かった。しかし、第2試合のビキニ・コンテストが始まると同時に観客は〝総立ち〟！　特にセイブルのヒモ・ビキニは、フレッド・ブラッシーの噛み付き攻撃に匹敵するショッキングなシーンとして後世語り継がれるべきだろう。前から13列目で観戦していて心臓が止まりかかったが、あれがゴールデンタイムでTV放送されていたら、お茶の間では老人が何人かショック死していたに違いない。

観客のボルテージが一気に上がると、選手のテンションも急上昇!!　上の写真を見てもらえば分かると思うが、次から次へと畳み掛けるようなスポットの連続で会場をあっという間に大爆発させてしまった。

ハウス・ショーのあるべき姿が、そこにあった。TVで見たまんまの技に、TVで見たまんまのリアクションで返す。それが最高に幸せな空間を生み出している。英語が通じない日本の観客とコミュニケーションを取るには〝肉体言語〟が一番手っ取り早い。

2日目は会場も文句なしの超満員で3日間を通じて最高の盛り上がりとなった。メインイベントでは前日に因縁が生まれたレスナーとビッグ・ショーが壮絶な試合を繰り広げ、最後は必殺技F5でレスナーが勝利！　この試合も見どころ満載だったが、特にビッグ・ショーはアンドレ級の肉体を持ちながら受身をバンバン取り、それでいてアンドレ以上に動けているのだから恐れ入る。奇跡と言ってもいいだろう（実際、アンドレは「世界8番目の奇跡」と呼ばれていた）。そんな怪物を真正面から受け止めて、ヒョイと持ち上げて投げ切ってしまうレスナーの底力は圧巻の一言！　もう誰も「レスナーじゃ王者は役不足」なんてことは言えないはず。最後はアングルまで出てきて、意表をついてビッグ・ショーにディープ・キスをかまし、おなじみの「It's true!! It's damn true!!」で大会を締めくくった。ボーナス・トラックも大満足！

3日目の神戸大会は、関西地区初のWWE開催ということもあって会場の盛り上がりがハンパじゃない。会場の規模は横浜アリーナよりも一回り小さかったが、テンションの高さは2日目に勝るとも劣らず。最後はレスナーが珍しくマイクを持ち「ドーモ、アリガトーッ!!」と絶叫して、WWEの日本ツアーは幕を閉じた。

WWEについて「こんなものはプロレスじゃない」と言う人がいる。「日本の団体とは資金も規模も違う」と言う人もいる。じゃあ、大した演出も何もない3日間のハウス・ショーでWWEが見せたものは何だったのか？　プロレスしかない。見る者すべてをハッピーにする、それでいて高いクオリティのプロレスだ。観客を手玉に取って期待に応えてみたり、時には裏切ってみたりと、WWEはあらゆる角度から心の琴線に触れてくるので、観客もオープンハートで観戦することが出来る。相乗効果で会場はヒートアップした。これが「プロ」のレベルなんだと思うと、日本のほとんどの団体が「アマチュア」に思えてしまう。

改めて、今回のツアーで日本のプロレスが世界一だった時代はとっくに終わっていることがハッキリしたと思う。プロレス界における日本とアメリカの関係は、フレッド・ブラッシーの噛み付き攻撃でお茶の間が衝撃を受けていた頃に逆戻りしたのだ。このページの編集作業中にセイブルのヒモ・ビキニ写真を見ながら、そんなことを感じた。彼らは観客のハートを掴むためなら、彼らはどんなことでもやる。それこそヒモ・ビキニだって履くのだ。

「裸一貫で出直す」という言葉もあるが、日本のプロレスも裸一貫、いやヒモ・ビキニから出直す時期にさしかかっている。

（文／スモーノブ）

ネタバレ通信 Vol.6

何時男、叙似井&派乱暴のF.B.I. Presents

スーパースターの「コンフィデンシャル」

何時男　いやぁ、今回の日本大会は面白かったですねぇ。

叙似井　やっぱりハウス・ショーで楽しむなら『RAW』より、断然『SMACKDOWN!』（以下『SD!』）の方が面白いですね。単純に動ける選手が多いから試合内容も充実してましたよ。あとはテイカーが来れば最高だったんですけど。今回は、別に犯罪歴で引っかかったわけじゃないんですよね？

派乱暴　親族が病気だったらしいです。さらに残念だったのは、初日のファンクラブ限定サイン会をビリー・ガンがドタキャンしたことですよ。

叙似井　僕的にもt.A.T.u.のドタキャンより事件でしたよ！

派乱暴　今回、WWEの選手はチャーター機でタイから来たんですけど、到着が結構遅れたんですよね。

何時男　おかげで、お台場のWWEショップでもサイン会が、いきなりキャンセルになったという（笑）。

叙似井　ま、あれは翌日に延期でしたからね。ちなみに、そのサイン会に現れたレスナーが、ボブ・サップのTシャツを着てるファンを見つけた途端に自分のTシャツを脱いで投げつけて、「そんなTシャツを着るんだったら、俺のTシャツを着ろ！　サップじゃなくて、オレのTシャツを買え！」って（笑）。

何時男　マジですか!?（笑）。カッコいいなぁ。

叙似井　しかも、売り場に積んであった自分のTシャツを集まったファンに投げまくってたらしいですよ。

何時男　でも、自分の懐が痛むわけじゃないでしょうからね。結局、お店側の持ち出しだろうし。

叙似井　さすが"苦痛を呼ぶ男"ですね（笑）。で、何の話でしたっけ？

何時男　ビリー・ガンのサイン会キャンセルの話です。

派乱暴　そうそう、カートとウルティモさんは会場に来たんですけどね。ある関係者の話によるとビリー・ガンだけジムに行きたいって駄々こねてたらしいです。もともとイベントの前に行くつもりが飛行機が遅れて、その時間がなくなってしまったんです。ビリーは試合前にウォームアップしないと駄目だと言っちゃなんですけど、あのクラスの選手だから許される行為ですよ。

派乱暴　ジムで尻の筋肉でも鍛えてたんですかね？

何時男　さすが「Mr. ASS」（笑）。今回のツアーは横浜宿泊ってこともあって、スーパースターズも夜は六本木に繰り出さずに近場で遊んでたみたいですね。

叙似井　『RAW』ブランドの選手が夜の六本木で大騒ぎするのはイメージ通りなんですけど、『SD!』の選手は、あんまりそういうことしなそうですよね。

何時男　でも、いろいろと夜の「コンフィデンシャル」も耳に入ってきますよね。某スーパースターが女とラブホテルに消えてったとか。

叙似井　僕の知り合いの人妻が、あるスーパースターにナンパされて手を握られたんですけど、近くに居た夫の存在を知ったら、途端にそっけなくなったみたいです（笑）。某外国人スタッフも日本人女性と『スマックダウンホテルにチェック・イン』したらしいです（笑）。

何時男　スタッフまで!?　でも、そういう話を聞くと急に親近感が沸きますよね。日本のプロレス団体か……。

何時男　まあ、過密スケジュールで、時差ボケもあるだろうから、その気持ちも分からないでもないですけどねぇ。

叙似井　でも、カートは絶対そんなこと言わないだろうしなぁ。こう

初日の休憩時間、突如リングに登場したフジテレビの千野志麻アナには観客席のWWEファンから情け容赦のないブーイングの嵐が発生!!

SMACK DOWN! PRESENTS UNLEASHED IN THE EAST

とはスケールが違っても、やることは同じだよなぁって。

派乱暴 それも、どうかと思いますけどね（笑）。全員がそういうことをやってるわけじゃないでしょうし。

叙似井 「とにかく移動が大変だった」って、神戸大会の翌日にあったフジテレビ「スマックダウン！」の公開収録でタジリ選手も言ってましたじゃないですか。

何時男 もの凄く過酷なスケジュールでしたからね、ちょっとぐらい息抜きは必要でしょう。

日本ツアーで印象に残ったのは？

何時男 リング外の話はひとまず置いといて、試合も凄かったですね。特に初日と2日目のメイン！

叙似井 良かったですねぇ。初日のメインは、次回PPV『VENGEANCE』のメインイベントと同じカードだったんですけど、よく練られてましたね。

何時男 最初から最後までハイスパートで6分そこそこで駆け抜けちゃって（笑）。でも、どのシーンも記憶に残ってるから見せ方も上手いなぁ。今回は記者席がかなり前の方だったんですけど、至近距離で見るとビッグ・ショーのデカさには度肝を抜かれましたね！

派乱暴 しかも、それを軽々持ち上げるレスナーも素晴らしいです。

何時男 あと、ビキニ・コンテストに震えましたね（笑）。

叙似井 最近はハウス・ショーでもビキニ・コンテストをガンガンやってるんですよ。アメリカでもハウス・ショーの動員が、最近はかなり落ち込んでて打開策として『RAW』ではクリス・ジェリコのハイライト・リールをやって、『SD!』ではビキニ・コンテストを毎回盛り込んでるみたいです。

派乱暴 本来ならTVマッチ限定の企画だったんですけどね。

叙似井 僕は3日目の神戸も良かったと思います。関西で初めての大会だから、凄く盛り上がってたし。

何時男 誰が印象に残りましたか？

叙似井 スーパースターズじゃないんですけど、僕は神戸で見た外人集団（笑）。「フナキバカ！」、「タジリダメ！」ってヘインズのシャツに汚い字でデカデカと書いてあったんですよ（笑）。ああいうノリって本国のまんまでよかったなぁ。あと、神戸大会のジェイミー・ノーブル。ミステリオ相手に改めて巧いなぁって思いましたよ。あとはスパンキー！ 何気にZERO－ONE時代のポーズをしてましたね。

派乱暴 あの3日目の阪神ネタとか寿司ネタはウルティモ校長がシナに教えたみたいですよ。

何時男 トップを張ってる選手はもちろんなんですけど、引き立てる側の選手のレベルがハンパじゃないなって思いましたよ。特にAトレインなんて、あんな凄いガタイしてるんだから、日本だったらトップに立っててもおかしくないじゃないですか？

叙似井 それが、なぜか「Shave your back！（背毛を剃れ）」とか言われてますからね（笑）。

何時男 それって凄い贅沢なことでしょ？

叙似井 いまはヒールでやってますけど、背毛を剃ったらフェイスになれるんですかね？

派乱暴 でも、乳首にピアスしてたらフェイスは難しいでしょう（笑）。

千野アナに大ブーイング!! フジテレビ問題を考える

叙似井 で、今回の日本大会で最大のヒールと言えば、フジテレビの千野アナですよ（笑）。もう、ブーイングと「帰れ！」コールの嵐で3日間を通じて一番ヒートを買ってましたから。

派乱暴 あの時ばかりは、お客さんが本気で嫌がってるブーイングを浴びせてましたよね。

何時男 僕は会場にいながら、そのシーンを見られなかったんですけど、そんな凄かったんですか？

叙似井 ホントにかわいそうになるぐらいでしたよ（笑）。マイクでしゃべってるにもかかわらず、その声が思いっきりかき消されてましたから。そのまま泣き出すんじゃないか

まずはじめに、このページはネタバレ情報が満載であることを宣言します。現地の最新情報から、眉唾モンの噂話まで扱っているのでネタバレOKな人は必読！ ジャマール退団に伴い「3P警告隊」から「F.B.I.」に改名だ！ 今月も極上のネタバレを密売！

F.B.I.とは？■「踏み込んだところまで・バラしちゃって・いいかな？（いいとも！）」の略。『SMACKDOWN!』のマフィア系3人組「F.B.I.」（フル・ブラッド・イタリアンズ）にあやかって命名。プロレス業界に潜伏する何時男（なんじお）、桁違いのパワーで情報をかき集める叙似井（じょにー）、裏方さんの派乱暴（パランボ）の3人組だ。

見てみぃ、この飛行姿勢の美しさ！ この後、キッドマンの肩に乗ったミステリオのハリケーン・ラナが炸裂！

「帰国は早かった」とサイン会でも語っていたウルティモ校長。アサイ・ムーンサルトも飛び出したが、エンジン全開までには時間が必要ということか？

Mr.ASSこと"尻見せ男"ビリー・ガンのマネージャー、トーリーも毎試合尻を振りまくった。

と思うくらいに！　昨年3月大会で、シェイン・マクマホンの通訳として登場したウォーリー山口がリングに上がって大ブーイングを浴びたじゃないですか？「WWEのリングに余計なものを持ち込むな！」って。ああいう類の感じでしたよね。あれ、放送できないんじゃないですか？

何時男　あとは、相変わらずマニア層に評判が悪いフジテレビ「スマックダウン！」へのブーイングでもあったんでしょうけど。

叙似井　ただ、入ってくる噂を聞くとフジも結構かわいそうな立場ですよ。あのアピールはWWEから30分前に依頼されたらしいですね。

派乱暴　ブーイングもある程度は来るだろうと予測してたらしいんですけど、あまりに凄かったんでプロデューサーは「出すんじゃなかった」って思いっきり後悔してたみたいですから。

何時男　でもなぁ……。ある程度、読めそうなもんですけどね。いまの「スマックダウン！」の評判と、昨年3月のウォーリーに対するブーイングから考えてみれば。

叙似井　さすがにWWEからの要請じゃ断れなかったんでしょう。2日目もやってくれって話は来たみたいなんですけど、それは断ったらしいですよ。

派乱暴　WWEとビジネスしようと思うと、ホントに大変らしいですよ。何一つ主導権は取らせてもらえないみたいですからね。間にクッションがいくつもあるみたいだし。しがらみだらけなんじゃないですか？

何時男　ま、そういう事情とは別に、あの番組のWWEに対する根本的なスタンスの問題でもあると思うんですけどね。

叙似井　じつはフジで大規模な人事異動があって、以前「スマックダウン！」のトップでやってた担当者が外れたらしいんですよ。これで番組内容が同じだったらマズいと思うんですけど、いろいろと内部から変えていこうという意思は感じますね。

何時男　じゃあ僕らも、もう少し「フジテレビ『スマックダウン！』を見守る会」を続けてみますか？　実際、フジは頑張ってザック・ゴーウェンの義足と片足状態でのムーンサルト・プレスをモザイクなしで放送してましたしね。

叙似井　すばらしい！　前号でモザイク問題についていろいろ言った甲斐がありましたよ。制約が多い地上波放送の中で、かなり健闘してました。

派乱暴　Jスカイスポーツも「原作のオリジナリティを尊重して放送しました」ってテロップを入れて、カットはしてなかったですね。もはやカット出来ないところまでザックがストーリーに食い込んでたから、あれはそのまま流す以外に方法はなかったと思いますよ。

何時男　「一般層を取り込むために」ってことで、フジの「スマックダウン！」はああいう内容になってるわけでしょう？　でも、そんな要素はWWEの中にゴロゴロ転がってるわけじゃないですか。ザックの活躍は一般層にも届きやすいと思うから、伝え方はいろいろあると思うんですよ。決して、いまのフォーマットがベストではないと思うし。

叙似井　何度も言いますけど、僕らはフジテレビには凄く期待してますからね。WWEの新たなファンを切り拓いてもらいたいです。

何時男　そして、『ゴング』（8月7日号）の表紙にもデカデカと出てましたけど「ゆくゆくはドームでWWEの日本大会を開催する」と。

叙似井　う～ん（笑）。それだけは勘弁して欲しいですよね。決してプロレス向きの会場じゃないですから。

派乱暴　代々木第一競技場だって「天井が高くて歓声が全部抜けちゃうから」って、わざわざ横浜アリーナに戻してるのに、なぜいまさらドームなんだって感じはしますね。

何時男　お客さんが入らないってことはないと思いますけど、冷えた空間になる危険性は十分ありますよ。毎年、独自のPPV番組をやってるオーストラリアやイギリスぐらい盛り上がってれば話は別ですけど。「ドーム＝プロレス会場の頂点」って考え方も、そろそろ変えた方がいいですよね。もっとファンのことをデリケートに考えてほしいなぁ。

叙似井　アメリカでもスタジアム・クラスでやってるのは年1回『Wr

連日メインイベントに登場したブロック・レスナー、カート・アングル、ビッグ・ショーの身体能力は驚異的!　友情を見せたレスナーとアングルだが、アメリカでは早くも険悪なムード。7·27『Vengeance』の結果はいかに!?

ハーディーズの自伝本白夜書房より発売中！3名様にプレゼント！

WWEの歴史にその名を残す偉大なるタッグ・チーム、ハーディー・ボーイズの自伝が日本でも遂に発売された。リタも含めたチーム・エクストリームは、ティーン・エイジャーに絶大なる人気を誇っていたのと同時に、スーサイダルなダイブの数々で、「Holy sit!!」（超スゲエ！）とマニアからも絶賛される珍しいタッグで、当然日本にも多くのファンがいる。実際、TLCマッチ（テーブル・ラダー・チェアを公認凶器して使用可能な試合形式）では、ダッドリー・ボーズ、エッジ&クリスチャンとタッグ史に残る名勝負を繰り広げて一気にブレイクした。

しかし、2リーグ分割によって兄・マットは『SMACKDOWN！』へ、弟・ジェフは『RAW』へ配属されてチームは解消。野心家の兄は『SMACKDOWN！』でも独自のポジションを確立するが、芸術家肌の弟は一人で苦悩を抱え切れずに、今年5月にはとうとうWWEを離脱してしまう。

プロレス版トキワ荘のようなインディー時代のマヌケなエピソードも面白すぎるが、休みなく世界中を旅する過酷な巡業、舞台裏で繰り広げられる試合のスポットをめぐって言い争い、マットとリタの微妙な関係、ジェフの音楽にかける情熱など、自伝にはあらゆる葛藤が詰め込まれており、決して彼らの試合のようにスカッとした内容ではない。

しかし、ハシゴの上や2階席から机に向かってダイブする彼らの試合に一度でも熱狂した者ならば、この本を読む義務がある。彼らが一体、どんな肉体的、精神的な代償を払ってきたのか知っておくべきだ。これを読めば、次に彼らの試合を見る時、いままで以上に声を張り上げて声援を送りたくなるはずだから。

（文・スモーノブ）

定価¥3800（税抜）で白夜書房より絶賛発売中！　全WWEファン必読！

estleMania』だけですからね。新日本が年3回も寒い興行をやってる会場で、いまさらWWEをやる理由が分からないです。

何時男　ドーム大会がコケたら表紙に打つんじゃないですか？　「WWEが新日本と並んだ！」って（笑）。

叙似井　『ファイト』も一面に「WWE、日本進攻に陰り」って書きそうだなぁ（笑）。勘弁してほしいですよ、ホント。でも、『ファイト』（7月17日号）の「元チャイナが島谷ひとみの『亜麻色の髪の乙女』を聞いて歌手転向を決意」って記事は最高でしたよ（笑）。WWEファンは『ファイト』を要チェックですね。

ホーガン来日!? 真相はいかに!?

何時男　さて、ここからはアメリカの先取り情報の話題に移りたいと思いますけど、Mr.アメリカが突如、離脱しちゃいましたね。

叙似井　ホント、いきなりでしたよね。MSG大会でビッグ・ショーにフォール負けしたことが気に食わないみたいで、もっとキャラクターを自分の思い通りにしたって要求してビンスと衝突したみたいです。それでアメリカのラジオに出演して、いろいろ不満をブチまけたらしいんですが、日本のことをヨイショしてましたね。「俺をよく扱ってくれる」とか「ギャラが凄くいい」とか、そんな話ばっかりだったみたいですけど。

何時男　ターザン山本じゃないんですから（笑）。でも、いきなり新日本行きを熱望しているという記事が『日刊スポーツ』（7月12日付）に載ってましたよ。

叙似井　デーブ・レイブル通信員の記事ですね。上井取締役も「話が来たら、ぜひ前向きに聞いてみたい」って言ってるとか。

何時男　こないだまで「プロレスラーはVTをやらなきゃダメだ」とか言ってた人が、舌の根も乾かないうちにホーガン歓迎してるんですか？　節操ないよなぁ（笑）。

叙似井　ま、ビジネスだからしょうがないと思いますけど、あまり現在の新日本の方向性にはそぐわないと思いますよ。むしろホーガンはZERO―ONEに上がってくれた方がしっくり来ます。

何時男　『OH祭り』を欠場した破壊王の代わりに出てきてくれたら最高だったんですけどね。ちょうど頭文字も「H」だし（笑）。これなら爆発してたと思うんですけどねぇ。

派乱暴　でも、しばらく経ったら、またWWEに戻ってくるんじゃないですか？　離脱した選手、たとえばジェフ・ハーディーなんかの場合はWWEのホームページからはすぐに削除されるんですけど、Mr.アメリカはしばらく残ってたし。

叙似井　いまだにSHOP　ZONEではTシャツも売ってますから（笑）。WWEに〝絶対〟はないですよ！　アメリカのマニアがやってるサイトでも、ホーガンの離脱は半信半疑ですよね。「どうせ、また戻ってくるんだろ？」って。僕もしばらくしたら戻ってくると思いますからね。

何時男　ま、確かにビッグ・ショーに負けた試合は、あそこにMr.アメリカがいる必要はほとんどなかったと思いますからね。そうやって自分のキャラクターを蔑ろにされることには徹底的に反発してきたからこそ、ホーガンはあの地位まで上り詰めたんでしょうし。

叙似井　ビンスとホーガンの闘いは、いまだに続いてるってことですよね。そのビンスは、『SUMMERSLAM』でレスナーとシングル対決が決まったみたいですよ。

何時男　マジですかっ!?　それは楽しみだなぁ。トリプルHvsゴールドバーグの試合もあるんですよね？

叙似井　その試合は、相変わらずアメリカのサイトは「HBKvsヒットマンの再現になるんじゃないか」って噂で持ちきりですよ。

何時男　ああ、この大会は生で観たいなぁ。

叙似井　僕は行きますけど、しっかりお土産買ってきますから。楽しみにしててくださいよ。

何時男　僕らにはいいんで読者にプレゼントを買ってきてあげてください！

【7月某日、都内某所にて収録】

SMACK DOWN! PRESENTS UNLEASHED IN THE EAST

噂FILE

●ビンス・マクマホンがついにブレット・ハートと会談！　RAW登場へ！

あまりにも突然ながらビンスが昨年の年末にブレットと握手をしていたことが判明！　1997年のモントリオール事件以来、ブレットはビンスに関して語るのも嫌がるほどの憎悪をたっぷりためておきながらWWEがハウス・ショーでカルガリーへ訪れた際に現地ホテルにて会談を行ったとのこと。基本的には近況報告とビンスからの謝罪で終始し、最後は握手で別れたらしい。それがここにきてブレットによる最後のRAW出演を依頼するという形で再びコンタクト を取っている。先日の『RAW』でHBKがブレット批判をカマしたことによりブレット自身のホームページでは「HBKにいかなる謝罪を受けたこともないし、受けるつもりもない」というコメントが掲載されている。まだ障害も多いが、是非とも実現してもらいたい。

●アーン・アンダーソン復帰の真相

数ヶ月の間「個人的な事情」によりWWEエージェントとして休養をとっていたアンダーソンが7月22日より現場に復帰。元々、血の気が多く、トラブルを起こしていたアンダーソン。その本当の復帰理由は「先週、テリー・テイラーがWWEをクビになったからだよ」とバッサリ。実はストリート・ファイトで相当な実力者と言われているアンダーソンだったが、WCW時代にテイラーを半殺し(顔をボコボコ、奥歯が飛ぶという傷害事件)にした事件が今となって思い出される。

●その後のジェフ・ハーディー、幻の日本来日計画!?

7月21日に「ノー・ホールズ・バード・ラジオ」というラジオ番組に出演したジェフ。WWE退団後、「Ring of honers」というインディー団体で試合をしたが、その経過の説明途中に「本当は日本のZERO-ONEという団体からもオファーがあったんだ。どうしてもレスリングがしたかったので受けようと思ったが、タイミング悪くOmega(自身のバンド)がリリースするデビュー作と時期が重なったから 断念したよ」と幻のZERO-ONE来日予定を明らかに！　WWEについて質問されると「たまにテレビで見てるけどRAWはクソだよ。ふざけてる。SMACK DOWN!の方が完成度が高い」とのこと。さらに「WWEを辞めた途端に自伝のロイヤリティーがこなくなったんだ！　チキショー!」と炎上。番組終盤、「今後WWEへの復帰を望んでるか?」という質問に対して「音楽活動に満足がいったらね」と答えた。早速Omegaのウェブサイトでデビュー曲を視聴したところ、WWEへの復帰はまだまだ遠いんだと思ったワケで……。

●エミネム、遂にWWE登場!?

超人気ラッパーで、映画『8MILES』でスクリーン・デビューも果たしたエミネムが、アメリカ「マッチ・ミュージックTV」に出演。その際、唐突に「WWEへ出演する可能性は?」というインタビュアーの問いに対し、「最近、RAWへの出演依頼をミスター・マクマホン直々から受けたよ。是非とも出演したいね。」と回答!

●WCWが復活!? 2004年1月にWCWサンダー収録の謎。

7月中旬頃、アメリカの大手チケット販売会社"チケット・マスター"にて「2004年1月「WCWサンダー」近日発売。」という告知が踊り出た。過去にビンスが息子のシェインにWCWの権利を譲り、経営させるという噂があったが……?　しかし、その真相はチケット・マスターの掲載ミス。ちなみにそのチケットマスターでは『RAW』大晦日大会のチケットが売り出されている。こちらは、果たして?

●WWE退団後のホーガン

突然の試合ボイコットによりホーガンがWWE退団となったのは記憶に新しい。次の日、ホーガンはラジオ番組に出演し(ホストはホーガンの親友として自伝にも登場しているDJババ) ひたすら「俺は日本に行くぜ。ブラザー!」と連呼していた。その際、新団体設立にも言及しており、来日よりこちらの方が急ピッチに進んでいる模様。ソウルフレンドと称するジミー・ハートと手を組み、設立する団体の名は「XWF」！　とにかく、現在のホーガンは「XWF」設立に帆走しているという話だ、ブラザー!

●2003年サマースラムの決定カード、予定カード

現在のところ、正式に発表されているのはトリプルHvsゴールドバーグによる世界王座戦のみ。7月21日のRAWハウス・ショーで初対決を行った両者は、エボリューションの乱入によりゴールドバーグWWE初の黒星!　メインで予定されているのはブロック・レスナーvs　カート．アングル、もしくはビンス・マクマホン!　本来はレスナーvsアングルで確実視されていたが、予想以上にヴェンジャンスのチケット&PPVの売れ行きが悪いために急遽、変更される可能性がでてきた。レスナーvsビンスは元々8月5日の『SMACK-DOWN!』で予定されていたが、まだ流動的だとか。他にはHBKvsランディー・オートン、ミステリオvsウルティモ、ケインvsシェイン・マクマホン（！）が予定されている。

“獣人”

RHYNO

ライノ

日本のプロレスがアメリカで放送されないのは本当に残念だ。すごくいいのに……。

ECW末期、彗星の如く登場したライノは、現在WWEでもクリス・ベノワとのコンビで大暴れ中！　ワイルドな風貌から“獣人”と呼ばれるライノだが、素顔の獣人は意外にも日本のプロレス通だった!?　わずか15分しか時間はなかったものの、本誌はライノとある約束を交わすことに成功した！

聞き手／阿部タケシ　撮影／斉藤ユーリ

―アメリカでTVショーをやって、すぐにタイへ飛んで試合をして、休む暇もなく日本にいらっしゃったわけですけど、いまの体調はいかがですか？

ライノ　グッドだ。飛行機の中で寝られたからね。

―日本に来たのは？

ライノ　初めてだよ。

―日本の印象はいかがですか？

ライノ　ベリー・ナイス！　会場も雰囲気が良かったね。俺は日本のプロレスのビデオをいっぱい見てるんだけど、観客がレスラーに対して敬意を抱いてくれてるよな。俺たちがやってることに対して、感謝と熱意と誠意を感じる。プロレスラーは命懸けで試合をやってる、それを温かく受け入れてくれるから本当に嬉しいね。その温かさはアメリカより、日本の方が感じることが出来た。それが日本のレスリング文化なんだろうな。

―日本の団体はご覧になったことはありますか？

ライノ　90年代前半は全日本プロレスのビデオは観てたよ。最近は新日本プロレスやZERO－ONEのビデオもよく見ているよ。

―日本のレスラーで好きな方は？

ライノ　オールタイム・フェイバリットはミサワ！

―おお、獣人のお気に入りは三沢（光晴）選手でしたか!!

ライノ　（真面目な顔で）お前らも好きだろ？

―そ、そりゃ、もちろんです！

ライノ　そうだよな。これでお前らのケツを蹴らないで済むよ（笑）。

―アハハハ！　でも、川田（利明）選手や小橋（建太）選手じゃなくて、なぜ三沢選手だったんですか？

ライノ　彼の試合スタイルが好きなんだ。今まで観た中で一番試合内容が印象に残ってるよ。

―三沢選手のスタイルは華麗で優雅な印象で、ライノさんの荒々しいスタイルとはかけ離れてるような気がしないでもないんですけど（笑）。

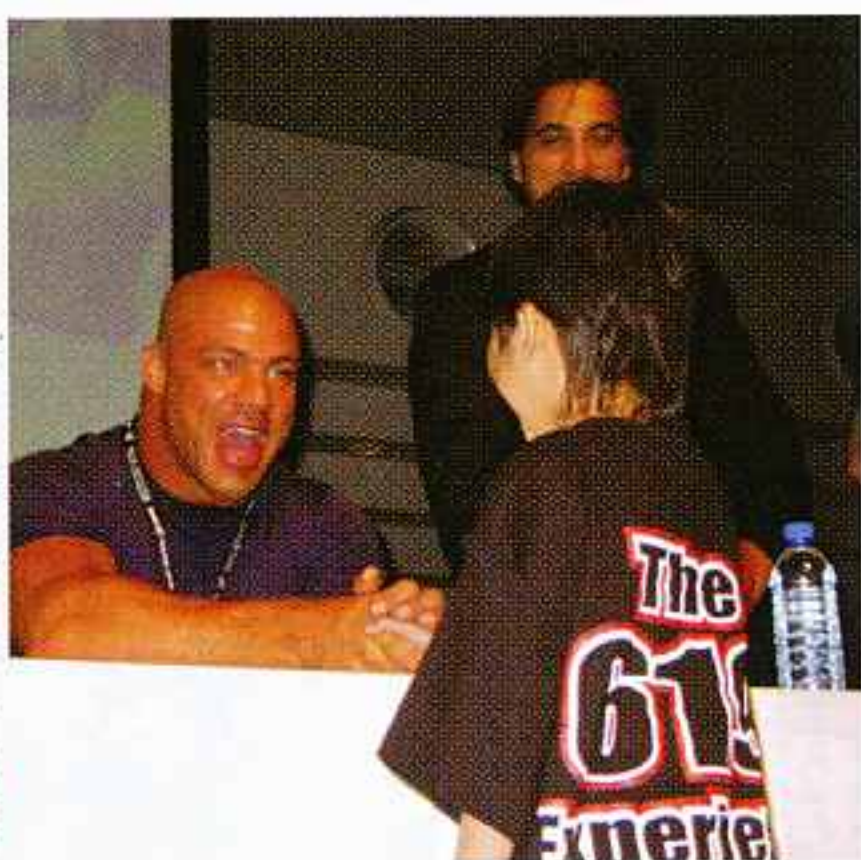
ライノ　彼と俺とはレスリング・スタイルは違うよ。ただ、俺はアグレッシブでフィジカルなファイトが好きなんだよ。

―今でも日本のプロレスはご覧になってますか？

ライノ　アメリカではWWEが全国ネットで放送されてるけど、日本のプロレスがアメリカで放映されないのは残念だよ。すごくいいプロレスをやっているのに。アメリカでもハードコアなファンはインターネットを通じて日本のプロレスビデオを買ったりしてるけど、もう少しアメリカで露出されてもいいんじゃないかと思うよ。

―そんなに日本のプロレスを熱心にご覧になってるなら、今日はビデオを持ってくれば良かったなぁ。僕、来月の特番『サマースラム』を観に行くんで、その時にビデ

会員限定のサイン会など特典満載の公式ファンクラブに入ってみよう！

WWEファンクラブには、もう入ってますか？　本誌前号でもプレゼントした『RAW MAGAZINE』が年6回発行されるだけではなく、さまざまな特典がついてきます。特に、日本大会開催時のサイン会！　今回は、初日にはカート・アングルとウルティモ・ドラゴンが参加。なんとカートの口からは、「マーク・ケアーやマーク・コールマン、ランディ・クートゥアーとは何度も闘っているからね。五輪に出てた頃から興味はあるよ」と『PRIDE』参戦に前向きな発言までも飛び出し、会場のファンが大いにどよめいたのは言うまでもないでしょう。神戸ではチャーリー・ハース＆シェルトン・ベンジャミンのWWEタッグ王者コンビがベルト持参で来場、さらにシークレット・ゲストとしてウルティモ・ドラゴン校長も登場して集まったファンは大喜び！　こんな風に身近でスーパースターと触れ合いたいならWWEファンクラブに入会すべし！　詳しくはhttp://www.wwe-fanclub.ne.jpか、WWEファンクラブ事務局（TEL．03－5738－5722）まで！

五輪ヒーローは子供にも優しい。ちなみに、神戸のサイン会はライター・阿部タケシ氏と本誌・スモーノフのコンビで司会をさせて頂きました。

オ持って行きますよ。

ライノ　ＯＫ！　プリーズ！　マジかよ！

――ここに僕のメールアドレスが書いてあるんで連絡を下さい（と名刺を渡す）。

ライノ　……。ごめん、自分のメールアドレスを知らないんだ。マイ・ワイフがメール・アドレスを変えちゃったからさ。俺はデトロイトに住んでるからさ、良かったら電話をくれよ。これが電話番号だ（と言って渡した名刺に自分の電話番号を書き始める）。国際電話をかける時は、最初に００４１をつけて、国番号1をつけて……。

――ご丁寧に電話の掛け方まで（笑）。必ずビデオを持っていきますので、お忙しいとは思いますが、暇なときに見てください。

ライノ　自分の家のトレーニング・ルームでウェイト・トレーニングをする時に見るよ。

――オフの日でもプロレス漬けの生活なんですねぇ。やはり小さい頃からプロレスはお好きだったんですか？

ライノ　イエス。8～9歳頃から見てるよ。プロレスラーになろうと思ったのは18歳の頃だけど。

――プロレスにはまったキッカケって何だったんですか？

ライノ　ハルク・ホーガンだ。『レッスルマニア3』の対アンドレ・ザ・ジャイアント戦でハルクが負けるかと思ったんだよ。でも、勝ったんだよな！

――ボディ・スラムでアンドレを投げる名シーンも生まれましたね。

ライノ　そうそう。俺の地元のデトロイトにあるポンティアック・シルバードームに、約９３，１７３人も集まったんだ。

――実際にＷＷＥに入ってハルク・ホーガンと対面してみて、いかがでしたか？

ライノ　子供の頃に会ってたらビックリして大喜びしたと思うよ。ただ、大人になり業界に入ってからは意識も変わったからね。ただ、ホーガンに会えて、一緒に仕事が出来たことは良かったと思ってる。

――憧れてたけれど、今はファミリーみたいな感じになったと？

ライノ　そうだね（笑）

――僕はライノさんがＥＣＷにいた頃から好きだったんですけど、ＴＶ王者、ヘビー級チャンピオンにもなりましたよね。

ライノ　ヘビー級のベルトは、まだ俺が持ってるんだ（笑）。金庫に入れるように、俺がずっと保持していたいと思ってるよ。

――タイトルマッチが組まれない限り、ライノさんがずっとチャンピオンじゃないですか（笑）。

（※ここでスタッフから「あと1問にしてください」の声）

ライノ　（小声で）構うことはないよ、あと2～3問は聞きたいだろ？

――おおっ、ありがとうございます！　じゃあ、さっそくなんですけど、ライノというリングネームは本人が付けたのですか？

ライノ　ディーロゥ・ブラウン（元ＷＷＥ）が名付けてくれたんだ。

――そうだったんですか？

ライノ　デトロイトの会場で行なわれたネズミが走ってるよう小さい場所だったな。その日は会場が停電しちゃって真っ暗だったんだけど、その真っ暗な控室にディーロゥが来て、僕をのファイトスタイルや体型を見て「名前はライノ（サイ）にしたらどうだ？」って言ってくれてね。それは今でも覚えてるよ。

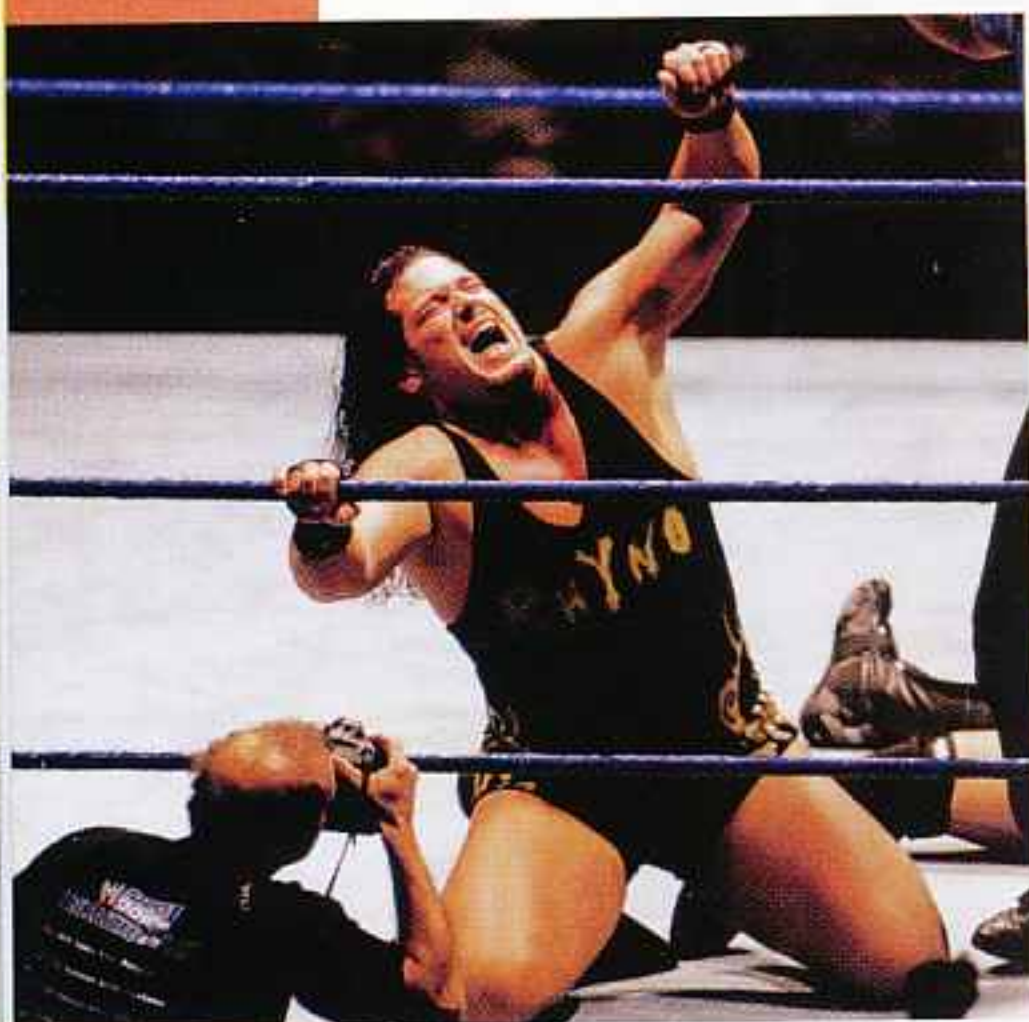
――意外な方が名付け親だったんですねぇ。それではそろそろ時間なんで最後の質問にします。ＷＷＥで活躍するにあたって、一番大切にしている部分って何ですか？

ライノ　それは与えられたチャンスを全部活かすことさ。もしかしたら10日後に引退するかもしれないし、10年後に引退するかもしれない。とにかく一瞬一瞬にベストを尽くして楽しんで生きたいね。

――わかりました。今日は忙しい中、ありがとうございました。

ライノ　ビデオ頼んだぜ（笑）

――もちろんです！

【7月18日、横浜市内のホテルにて収録】

ライノ■１７８㎝、１２５㎏とガッシリした体格から繰り出す必殺技「ゴア」で対戦相手を次々となぎ倒してきた。首の故障で16ヶ月の戦線離脱を余儀なくされたが、いまや完全復活！　今後の活躍に期待大！

坂井澄江のUSA冒険記

アメリカに定住した女子プロレスラーの新連載第1回!!

みなさん、こんにちは！　女子プロレスラーの坂井澄江です！　私は、いまアメリカでプロレスをやってます！　なぜかといえば去年アメリカでプロレスをするという夢が叶ったのですが、アメリカの女子選手と試合をするたびに、日本とあまりにもいろんなことが違うので、ただただ毎日落ち込んだんです。でも逆に『私がアメリカの女子プロレスを変えてやる～！』と思いはじめ……、そして今また6月12日からアメリカに来ています！

私がやりたいことはいろいろあるんですが、実行できそうになったら最初にここで発表できればと思います！

こちらに着いてからというもの、まずは自分で部屋を探して、家具とか生活用品も人からもらったりして、生活する準備から始まりました。ボストン・レッドソックスの球場近くにあるちょっと怪しいアパートなんですよ。こないだなんか自転車を盗まれたんですが、自転車をひっかけてたでかいポールまで切り倒されてましたから。それを見て「やっぱりアメリカだぁ」と、ただ感心してしまいました！

練習環境は恵まれてます！　試合が重ならなければ週に4回は去年もお世話になったキラー・コワルスキー道場に行き、週に1回はスティーブ・ブラッドリー道場に行くという感じです。コワルスキー道場と言えばトリプルH、チャイナを輩出したことで有名ですが私にとってはやっぱりコワルスキーさんが一番凄いんです！　とにかく毎回練習には来てて、いろいろと指導してくれます。暗くなると電気をつけてくれて、扇風機の向きも変えてくれたりして、周りにも凄く気がつく方だなーって。とにかく私はここが大好きなんです！　でも8月いっぱいで新日本プロレスの藤波選手も来たことのあるこの道場も壊されるんです……。別の場所に移転するらしいんですけど、寂しいです……。

あと大事なとこなんですが、私は全く英語が話せないんです。この間たぶんS.A.Tの誰かから電話があったと思うんですが仕事の大事な話しだったんですけど、あまりよく分からなくって……、しかもS.A.Tじゃないかもしれないし……（泣）。練習とかのプロレスのことに関しては、言葉なんてそんなにいらないし、逆に私が全くしゃべれないのを面白がってみんなにスラングばっかり教えられて遊ばれてます。たぶん私は変な言葉ばかりから話せる様になること間違いなし！

試合も週に1、2回あったりするのですが、なにせアメリカは広いので移動が大変で……。一応、国際免許は持ってるんですが、みんな私になぜか運転は代わってくれないのでいつもずっと寝てます。この間、日本でも活躍しているアメリカ人選手がたくさん出ているＲＯＨの大会に出ました。ここで去年、試合をしたときも、お客さんが最高に良くって楽しみにしてたんです！　よく日本からＷＷＥ観戦ツアーとかありますが、私はぜひＲＯＨツアーもやってもらいたいもんだって思います。それと私の大好きなＬｏｗｋｉとも久しぶりに会えました！　今はまだ欠場中なのですが、早くアメリカでも試合を観たいです！　ＲＯＨの1興行の試合数は15試合くらいあるんですが、休憩後の試合はまたレベルも凄くって、本当にアメリカの男子プロレスは凄いです！　これから、このコラムでＷＷＥだけじゃなくていろんな事をみなさんにお伝えしていきたいと思います！　私は『紙プロ』ファンだったので（ＺＥＲＯ―ＯＮＥ盛りだくさんだし！）こういう風に自分で書いたりできるのはとても嬉しいし楽しいです！　またみなさんから希望とか要望があればメールください！（fctokyo_14@yahoo.co.jp）。

次はもっとアメリカの試合情報、選手情報したいと思いますをお伝えしたいと思います！

ジリスマックだ!!!

騒ぎ特別企画!

K GIRL ☺ in 一色海岸

YOKO YAMADA

ERI ISHIYAMA

HISAE WATANABE

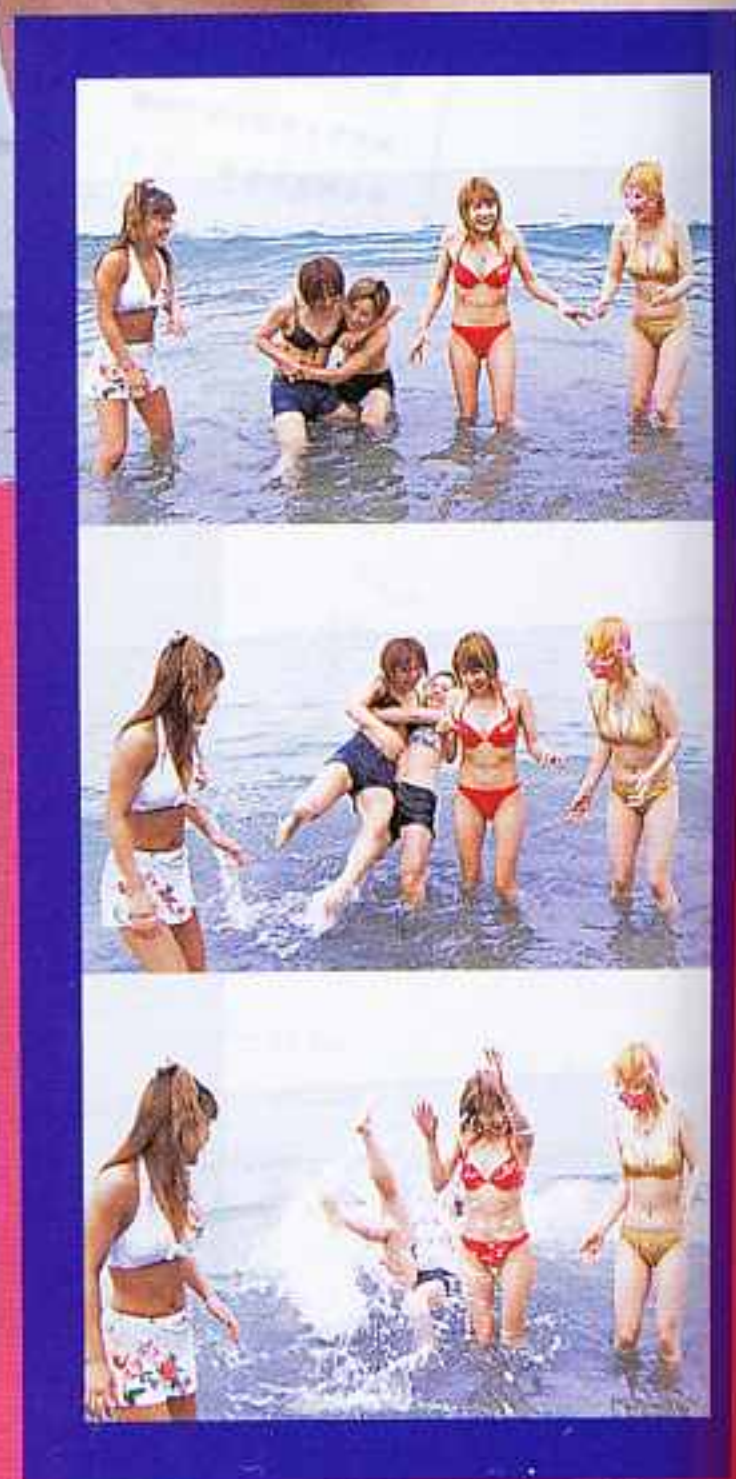
NAOKO SAKAMOTO

ICHIGO

水着に着替えたら

夏だ! ビキニだ!

真夏の胸騒ぎ

SMACK

彼女が

「夏だ！　ビキニだ!!　スマックだ!!」——。というわけで、できれば毎年恒例の企画にしたい女子格闘家の水着グラビア！　記念すべき第1回目はスマックガール8月大会へ出場の可能性の高い女の子の中から、“強くて”“凄くて”“可愛い”選手をセレクトしてみました。この中で気に入った女の子がいたら、六本木ヴェルファーレへGO!!

構成／松澤チョロ　撮影／丸山剛史

HISAE WATANABE

格闘技ジャンヌダルク

渡邊久江

TEAM LIMIT

★名前 渡邊久江
★生年月日 1980.10.21. ★出身地 栃木県 ★血液型 O type
★身長 160cm ★体重 49kg
★スポーツ&格闘技歴 キック1年9か月/総合1年4か月/ボクシング10か月
★得意技 飛びヒザ（推定約7cm）
★家族構成（ペット含む） お父さん お母さん お兄ちゃん
★チャームポイント 耳。
★尊敬する人 ベジータと悟空
★好きな格闘家&プロレスラー
★好きなタレント とくにいない
★あなたの宝物 ない。
★趣味・特技 テトリス
★愛読書
★好きなテレビ番組
★座右の銘
★好きな食べ物 さいきんケンタッキー ★嫌いな食べ物 内臓
★好きな男性のタイプ さいきんわかんない。
★嫌いな男性のタイプ フツーな人です。
★いま一番欲しいもの 猫が飼える家ー。
★スマックガールでの夢 年内チャンピオン
★5年後の自分 かわいい
★10年後の自分 キレイ
★読者へメッセージ スマックをメジャーにするために

お気に入りの選手のサインをもらおう

ERI ISHIYAMA

お気に入りの選手のサインをもらおう

渡邊の年上の妹分

石山絵理

TEAM LIMIT

★名前 石山絵理
★生年月日 S51 8.2
★身長 160cm ★出身地 神奈川県
★体重 49kg
★スポーツ＆格闘技歴 7ヵ月 ★血液型 A型
★得意技 とりもち
★家族構成（ペット含む） 父 母
★チャームポイント 歯子
★尊敬する人 渡邉大江
★好きな格闘家＆プロレスラー 渡邉大江
★好きなタレント Drew Barrymore
★あなたの宝物 とくになし
★趣味・特技 映画鑑賞 食べる 寝る
★愛読書 はじめの一歩 YAWARA! など
★好きなテレビ番組 最近テレビをあまり見てないので判かりません
★座右の銘 食う 寝る 遊ぶ
★好きな食べ物 全部 ★嫌いな食べ物 なし
★好きな男性のタイプ とくにいない
★嫌いな男性のタイプ 乗りない人
★いま一番欲しいもの 家
★スマックガールでの夢 トーナメントで渡邉大江選手と戦う事
★5年後の自分 横浜アリーナ試合前日
★10年後の自分 TEAM LIMIT ジムのトレーナー
★読者へメッセージ
見かけたら気軽に声をかけて下さい!

YOKO YAMADA

お気に入りの選手のサインをもらおう

剛腕

山田よう子

日本アームレスリング連盟

★名前 山田よう子
★生年月日 S54.5.25
★身長 156cm
★体重 45kg
★出身地 東京
★スポーツ&格闘技歴 バドミントン、アームレスリング
★血液型 Aがた
★得意技
★家族構成(ペット含む)
★チャームポイント 目
★尊敬する人
★好きな格闘家&プロレスラー
★好きなタレント
★あなたの宝物
★趣味・特技 ペットの散歩、アームレスリング
★愛読書 読書はあまりしません
★好きなテレビ番組
★座右の銘
★好きな食べ物 にんにく、納豆
★嫌いな食べ物 なし
★好きな男性のタイプ
★嫌いな男性のタイプ
★いま一番欲しいもの パワーといろいろな技
★スマックガールでの夢 あえて目標はつくりません
★5年後の自分
★10年後の自分 ん…わかりません。
★読者へメッセージ はじめまして!山田よう子デス。

ICHIGO

それ逝け!
ヴェロニカマン
逝けばわかるさ
http://veronicaman.tripod.co.jp

15
プレゼント

ヴェロニカマンが歌う15のテーマ曲「いちごちゃんのテーマ」が入ったCD＆15のプリクラ3種類セットを3名様にプレゼント！
宛先はＰ175参照!!

★名前 15
★出身地 不明
★血液型
★生年月日
★体重
★身長 163cm
★スポーツ＆格闘技歴
★得意技
★家族構成（ペット含む）
★チャームポイント
★尊敬する人
★好きな格闘家＆プロレスラー
★好きなタレント
★あなたの宝物
★趣味・特技
★愛読書
★好きなテレビ番組
★座右の銘
★嫌いな食べ物
★好きな食べ物
★好きな男性のタイプ
★嫌いな男性のタイプ
★いま一番欲しいもの
★スマックガールでの夢
★5年後の自分
★10年後の自分
★読者へメッセージ

格闘天使
15（いちご）
不明

お気に入りの選手のサインをもらおう

「オマエらも女だ!!」(当たり前)

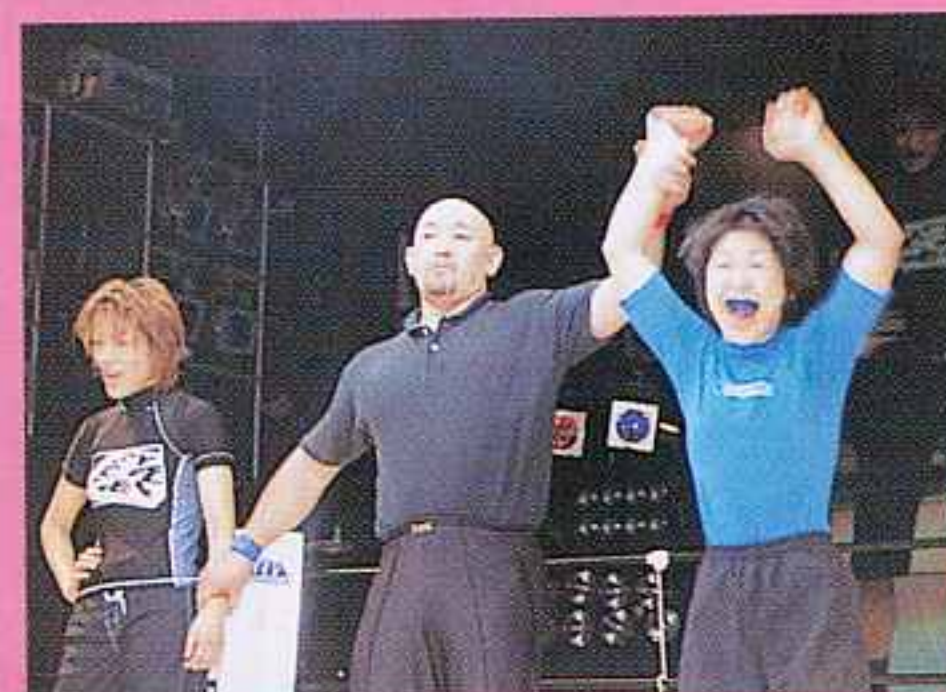
7・6スマックガールBoutReview

しなしさとこ26歳B型、今日も全力で闘います!!

辻結花が星野育蒔相手にデビューを飾った『ＡＸ』旗揚げ戦で対戦している、ジェット・イズミと金子真理。その時は強烈なヒザ蹴りが金子に決まりジェットがKO勝利。リベンジを狙う金子だったが、得意のキックだけではなくグラウンドでもジェットが圧倒し勝利。試合後、ジェットは辻へ対戦表明!!

第３試合では、玉井敬子から改名した、たま☆ちゃんがスマック初参戦の菊川夏子と対戦。どちらも天然系のキャラの持ち主で、試合も嚙み合うかと思われたが、思ったよりスイングせず判定に。結果はグラウンドでポイントを稼いだ、たま☆ちゃんの勝利。破れた菊川はリング上で号泣。また次、頑張れ！

入場セレモニーでは選手を代表して、しなしが挨拶。「しなしさとこ、26歳。Ｂ型。今日も全力で闘います！」。全然選手を代表していないマイクだが、ま、いっか。試合は腕十字を取られかける場面も見られたが、なんとか危機を脱したしなしが瀧本美咲を投げると、すぐさま腕十字を取り返し勝利！

ピュアブレッド京都から“大和撫子”松本裕美がスマック初参戦。同じく仙台のドラゴンジムからスマック初参戦の女子高生キックボクサーCHIHIROに何もさせずに秒殺！　試合後、松本はライト級戦線に殴り込み宣言！　しなしとの一戦が見たいぞ！

今大会は２部構成で行われ１部ではグラップリングルールによるライト級１DAYトーナメントを開催。４選手がエントリーしたトーナメント、決勝はパレストラの今澤利恵がストライブルの茂木康子を判定で下し優勝。今澤は今後、総合ルールへも挑戦か？

ジョジョジョ、ジョシカクNEWS

藪下、世界マスターズ柔道で金メダル獲得!!

６月26日、東京・講道館で開催された第５回世界マスターズ柔道大会で藪下めぐみが金メダルを獲得!!　藪下は30歳〜34歳、体重57キロ〜63キロ未満の部に出場。一回戦から決勝までの全４試合を藪下は、いずれも一本勝ちでブッチ切りの優勝を決めた。

“女の中の女”はどっちだ!?

8・6スマックでフジメグvs美少女グレイシー実現!!

藤井恵
（AACC）

VS

キーラ・グレイシー
（バッハ・グレイシー）

スマック８月大会に、いよいよキーラ・グレイシーがやってくる！　締切の時点ではキーラの相手は正式発表されていないが、相手は藤井恵で交渉中とのこと。ルールはグラップリングマッチになるという。今号に続き次号でキーラの水着グラビアなんてどうでしょう？

前のページの皆さん!!
色気ばっかじゃなくて
中身も磨きなさい!!

中身も充実 RADICAL PRESENT

OH CARNIVAL

ジェイソンズ（ダイナマイト&レジェンド）
某プロレス専門誌編集長の趣味が爆発したとしか思えない怪奇派コンビ!!

炎武連夢（大谷晋二朗&田中将斗）
『OH祭り』にビシッと一本筋が入った!! マット界きってのタッグ屋も参加!!

ガファリ・ブラザーズ（マット&シブ）
兄に劣らない弟シブのデブっぷり! 兄弟というのはもはやギャグだ。

米仏特殊部隊（トム・ハワード&ジョージK）
ミステリアスなムーブに爆笑!! 開幕戦一番人気だったのはジョージKだ!

『OH祭り』選手タスキを手に入れろ!!
各1名様

ドス・カラスJr&リスマルクJr
参加チームで一番、華を漂わせるルチャコンビ!! ドスは総合だけじゃないぜ!

スティーブ・コリノ&ミスターX
ミスターXはカシンでした。ちなみに背を向けているのはブッカーKです。

純血師弟コンビ（藤原喜明&石川雄規）
この師弟が復活結成するのも『OH祭り』ならではのこと! ナーシャ!!

『OF砲』（小川直也&藤井克久）
優勝オメデトーッ! 『OH祭り』を制したのは、オー、エフ、ホーッなこのコンビ!!

リアル・ドンキーコングス（プレデター&ランデルマン）
六本木方面でも大活躍したらしいランデルマン!! 夜ももちろん、野獣なのだ!!（妄想）

BAMBAM BIGELOW

男だったらマサを着たい!! 被りたい!! おなじみBAMBAM BIGELOWがお送りするMASA SAITOオフィシャルシリーズ「MASA SUNGLASSE S」!! ゴー・フォー・ブロックな逸品だ!!【BAMBAM BIGELOW提供】
お問い合わせ◎BAMBAM BIGELOW TOKYO【TEL】03-3460-1145【URL】http://www.bambam88.com

MASA SUNGLASSE STシャツ①（¥3900）
MASA SUNGLASSE STシャツ②（¥3900）
MASA CAP①（¥2900）
MASA CAP②（¥2900）
各1名様

CHARACTER PRODUCT

5名様

ジャイアント馬場フィギュア（¥2000＋税）
フィギュアの王道・キャラプロから、王道16文な新作が出た!! ガウンバージョンの馬場さんフィギュアは、プロレスファンならマストアイテムだ!　【キャラプロ提供】
お問い合わせ◎キャラプロ【TEL】03-5917-6210

KICK

本誌スーパーバイザー・吉田豪が、オーちゃん、永田、魔裟斗、武田幸三からも信頼が厚い伊原会長からTシャツを頂いた!! 伊原会長の凄さは吉田豪がインタビューした某『ゴング格闘技』最新号を立ち読みしよう!!【吉田豪提供】

各1名様

KICK Tシャツ①
KICK Tシャツ②
KICK Tシャツ③
KICK Tシャツ④

BACK BACK BACK BACK

KARATE

2名様

小笠原和彦レッスンチケット（11回分）
1万円分のレッスンチケットをプレゼント 小笠原先生の直接指導を受けて、キミも足技の魔術師になろう! チェストーッ!!　【MID BREATH提供】
お問い合わせ◎MID BREATH【TEL】03-3375-3917

『PRIDE』

5名様

Suhickプロテクター3Dダイアセット

シウバ&コールマン出演CM「キレてな〜い」でおなじみSuhickセットをプレゼントだ！　ポスターに2人のサインも入っている!!　キレてな〜いですよぉ（佐山聡調）【DSE提供】

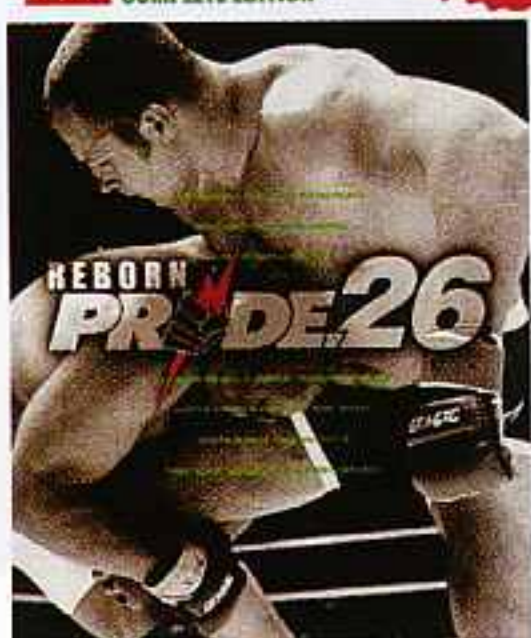
UFC

各1名様

UFC Tシャツ（チャック・リデルサイン入り）

「チャックといえば、ウイルソンにあらずリデルなの！」そんな心粋な方に送ります！　バックにリデルのサイン入りだ！
【ダナ・ホワイト提供】

DVD

1名様

『PRIDE.26REBORN』DVD

マタドールの様にヒーリングを翻弄したミルコ、背筋が凍る強さで藤田を仕留めたヒョードル！　REBORNした『PRIDE』、ファイターたちをDVDで再確認だ！
【メディアファクトリー提供】

お問い合わせ◎【TEL】メディアファクトリーカスタマーサポートセンター03-5469-4880（月〜金　10:00〜18:00）

POWERPOINT

3名様

レッシュ・パワーポイント

スポーツ選手の間で人気急上昇中の「レッシュ・パワーポイント」！　炭化セラミックスと呼ばれる材質を使っており、肌に張ることにより、健康回復&運動能力向上を可能にする。廣戸総一氏も大推薦するサポートグッズだ！
【(株)しんけん提供】
¥1850　お問い合わせ◎【TEL】(株)しんけん
06-6625-5411

HAOMING

IWAが公認なのよ!!　HAOMINGより初のライセンスシリーズだ！　ジェット・シン&カブキとプロレス者の心をくすぐるラインナップ!!　HPで新作も欠かさずチェックしよう!!
【HAOMING提供】　お問い合わせ◎【URL】http://www.haoming.jp

各2名様

カブキTシャツ

タイガー・ジェット・シンCAP①

タイガー・ジェット・シンCAP②

BOOK's

3名様

『お笑い男の星座2　私情最強編』

早くも増刷が決定した浅草キッドの好評シリーズ第2弾!!　美白の女王から江頭2:50、『PRIDE』の怪人まで登場する奇跡の書だ！　ターザンは出てないんですよォォォ!!　【浅草キッド提供】
文藝春秋・刊　¥1500

5名様

『ジョシカク　SMACKなカノジョたち』

ジョシカクのグラビア&インタビュー本が出た!!　辻ちゃん、しなしさとこ、渡邊久江、久保田有希らが登場し、ターザンが監修！　SMACKな出来栄えですよォォォ!!　【新紀元社提供】
新紀元社・刊　¥1400＋税

5名様

『We loveボブ・サップ』緊急出版　ボブ・サップ復活を応援する本

親が死んでもボブ・サップなマニアにはたまらない！　We loveサップなビスート本!!（妖怪王風）。キモ戦までこれを読んで大復活を待とう！
【宝島社提供】　宝島社・刊　¥800円＋税

3名様

ZERO-ONEパンフレット

カバーはシンプルだが中身は『東スポ』風味!!　派手なキャッチとブッ飛んだ構成で話題沸騰のZERO-ONEパンフだ！　スリー、ツー、ワン、ゼロワンッとばかりに応募しよう！
【ZERO-ONE提供】

3名様

7・21WJ両国大会パンフレット

WJ最強トーナメントの出場選手を「怒・勇・覇・元・殺」なる闘いの五気で評価した画期的なパンフレット!!　ちなみに越中の「覇気」は90点!!　満点ならず……覇ッ!!
【WJ提供】

応募要項

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦好きな選手&嫌いな選手

応募券

【宛　先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
「紙プロRADICAL」編集部
「8月10日イズマイウはどこに」係まで
※締切は2003年8月25日（月）当日消印有効

PAMPHLET

5名様

『OH祭り』パンフレット

迫力満点のカバー、嬉しいシール付き、凝ったデザイン、サル・ザ・マンこと葛西純やキャプテン名倉のマンガも掲載！　ターザンばりに自画自賛してならない当社制作の『OH祭り』贅沢パンフ!!　手にはいるのは、もはやこの読プレだけ？　【編集部提供】

ロシアン・トップチーム総監督
パコージンさん

ヒョードルたちは口下手だから
私の方から説明しよう!
ロシアン・トップチームのニューグッズはとても素晴らしい!!

ヒョードル&ロシアン・トップチーム新作Tシャツ、キーホルダーは8・10『PRIDEミドル級GP』でも買えます!!

商品	価格	サイズ
ロシア『RTT』Tシャツ〈グレー〉	¥3,800	S or M or L or XL
ヒョードル『ラスト・エンペラー』Tシャツ〈ホワイト〉	¥3,800	S or M or L or XL
『ヒョードル』キーホルダー	¥1,200	[限定250個]
ロシア『RTT』Tシャツ〈ホワイト〉	¥3,800	S or M or L or XL
ヒョードル『ラスト・エンペラー』Tシャツ〈ブラック〉	¥3,800	S or M or L or XL
『ロシアン・トップチーム』キーホルダー	¥1,200	[限定250個]

『紙プロ』通販方法

★TPOにあわせて選べる通販方法
★消費税サービス
★全国どこでも送料一律500円（離島、山間部は除く）
★代引御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

代引 郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
まで送り下さい。
申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料一律¥500(何枚でも可。離島、山間部は除く)代引手数料約¥315がかかります。(代引金額によって異なります)。)御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

現金書留 希望商品の代金+送料一律¥500(何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く)を現金書留で
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
まで送り下さい。郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

郵便振替 希望商品の代金+送料一律¥500(何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く)を郵便振替で送り下さい。
郵便振替の宛先は
00130-3-769154
(株)ダブルクロス
郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

●電話注文もできます!! 平日PM3:00〜10:00●
(株)ダブルクロス 03-3403-5142

紙のプロレス RADICAL
No.64
2003年8月25日発行
No.65は8月下旬発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎（ベルトの輸送上のトラブルにより非番）
見習い
斉野政智
スーパーバイザー
吉田豪
助っ人
片山ボン
ジャイ子
電気部
ささきぃ
スモーノブ
アートディレクター
出田さん(TwoThree)
デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
タニやん
ブンちゃん(以上TwoThree)
トメさん
はなえちゃん(以上さおとめの事務所)
海老沢勇
古賀ゆきえ(以上Zero graphics)
カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島俊彦
緒方秀美
試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃
お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝
出前
出前持ち入江(TwoThree)
フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
ゼロ・グラフィックス
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元　株式会社ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地　TEL.03-3357-2911(販売・営業)
発行元　株式会社ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　TEL.03-3403-5188(編集・制作)
 編集内容等に関するお問い合せは(株)ダブルクロスにぶつけろ!

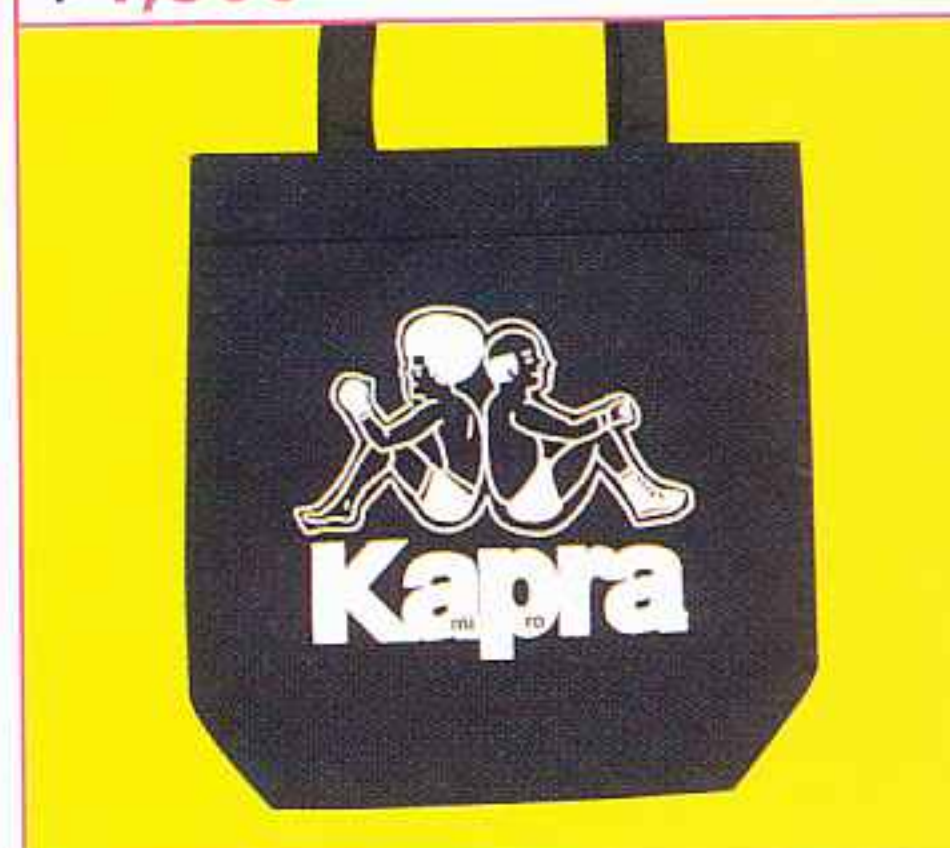
世界最重量のTシャツあります

マット・ガファリTシャツ堂々の新発売!!

本人が新作Tシャツを着ていないのは3XLがなかったためではありません

商品	価格・サイズ
ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉	¥3,000 XS or S or M or L or XL
マット・ガファリTシャツ〈キナリ〉	¥3,500 S or M or L or XL

ZERO-ONE、『紙プロ』グッズも、もちろんあります

商品	価格・サイズ
ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈イエロー〉	¥3,800 SOLD OUT or M or L or SOLD OUT
ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈ホワイト〉	¥3,800 SOLD OUT or M or L or SOLD OUT
『紙のプロレス』・紙Tシャツ〈ネイビー〉	¥~~3,000~~→¥1,500 SOLD OUT or M or L or SOLD OUT
『紙のプロレス』・紙Tシャツ〈ホワイト〉	¥~~3,000~~→¥1,500 SOLD OUT or M or L or SOLD OUT
Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈カーキ〉	¥3,800 SOLD OUT or M or L or SOLD OUT
Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈ベージュ〉	¥3,800 SOLD OUT or M or L or SOLD OUT
Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈ネイビー〉	¥3,800 SOLD OUT or M or L or SOLD OUT
紙プロネックピース	¥~~1,200~~→大特価¥600
トートバック〈ブラック〉	¥1,500
トートバック〈ネイビー〉	¥1,500
リング・アフロラグラン半袖Tシャツ〈黒×グレー〉	¥~~3,800~~→¥1,800 S or M or SOLD OUT（残りわずか!）
リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉	¥4,500 S or M or L

通販完売商品は直販店にある!?

【『紙プロ』ウェア常備ショップ】★チャンピオン（TEL.03-3221-6237） ★東京イサミ（TEL.03-3352-4083） ★リングソウルZ神戸（TEL.078-393-3514）
★宮城・スクワット（TEL.022-264-8160） ★大阪・少年ジェッター（TEL.06-6541-3551） ★グレート・アントニオ（TEL.03-3219-9550）
★三恵格闘技SHOP長崎（TEL.095-824-8658） ★三恵格闘技SHOP諫早（TEL.0957-22-4646） ★浜松市・Buddy（TEL.053-450-7888）

紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZIN MOOK230 2003 NO.64
桜庭！田村！ 決勝ラウンドまで上がってこいや!!
平成15年8月30日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社 定価：本体857円+税

9784898297100
ISBN4-89829-710-2
C9476 ¥857E
1929476008572
雑誌 69860—30

印刷：図書印刷株式会社